

危険物に係る事故事例（令和4年）流出編

消
防
庁

危険物に係る事故事例

（令和4年）

流 出 編

消 防 庁

これは、令和4年1月1日から令和4年12月31日までの間に全国で発生した危険物に係る事故について、各都道府県から報告された「危険物に係る事故報告」を基に取りまとめたものである。

目 次

I 令和4年中の危険物に係る事故の概要	1
1 概 況	3
2 火災事故	7
(1) 火災事故の発生及び被害の状況	7
(2) 出火の原因に関係した物質	7
(3) 火災事故の発生原因及び着火原因	8
3 流出事故	19
(1) 流出事故の発生及び被害の状況	19
(2) 流出した危険物	20
(3) 流出事故の発生原因	20
4 コンタミ事故	30
5 令和4年中に発生した重大事故	31
(1) 火災事故	31
(2) 流出事故	33
附属資料	35
II 令和4年中の危険物に係る事故	37
流出事故	41
1. 製造所	43
2. 屋外タンク貯蔵所	137
3. 屋内タンク貯蔵所	295
4. 地下タンク貯蔵所	311
5. 移動タンク貯蔵所	385
6. 給油取扱所	497
7. 移送取扱所	625
8. 一般取扱所	645
9. 無許可施設	889
10. 危険物運搬中	895

I 令和4年中の危険物に係る事故の概要

1 概況

危険物施設における火災事故及び流出事故の件数は平成6年の287件（火災事故113件、流出事故174件）から増加に転じ、平成19年以降は、高い水準で横ばいの状況が続いている。（第1図、第2図、第3図参照）

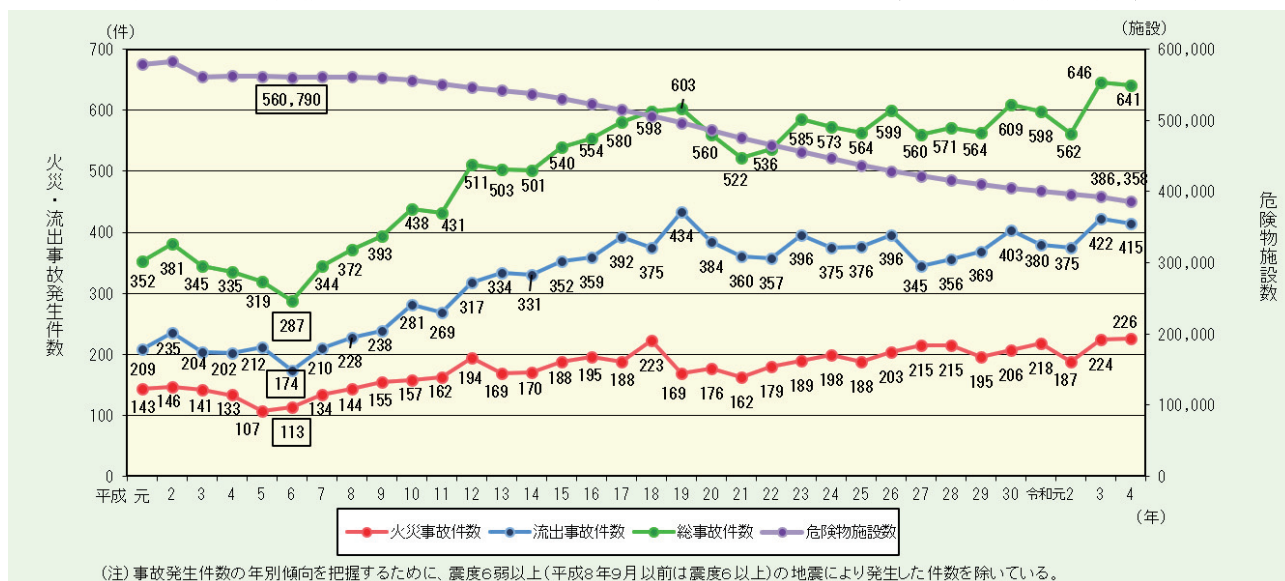
令和4年中（令和4年1月1日～令和4年12月31日）の事故件数については、火災事故が226件（前年224件）、流出事故が415件（前年422件）となっており、重大事故については、火災事故が10件（前年12件）、流出事故が11件（前年8件）となっている。（第1表、第4図、第5図参照）

また、無許可施設、危険物運搬中等の危険物施設以外での事故は19件（前年21件）であり、その内訳は、火災事故が6件（前年8件）、流出事故が13件（前年13件）となっている。（第1表参照）

火災事故による被害は、死者2人（前年0人）、負傷者39人（前年39人）、損害額32億7,153万円（前年71億0,747万円）となっており、流出事故による被害は、死者0人（前年1人）、負傷者20人（前年32人）、損害額5億6,731万円（前年4億7,712万円）となっている。（第2表参照）

なお、本概要においては、被害場所地点における震度6弱以上の地震による被害（事故件数、死傷者数、損害額等全て）を除外している。

第1図 危険物施設における火災事故・流出事故の発生件数及び危険物施設数の推移



- ・ 損害額等については、調査中のものがあり、変動することがある。
- ・ 合計欄の値が四捨五入により各値の合計と一致しない場合がある。

第1表 令和4年中に発生した危険物に係る事故の概要

区分	事故の態様 発生件数等	火災及び 流出事故 発生件数 (A)+(B)	火災事故			流出事故				
			発生件数 (A)	被害			発生件数 (B)	被害		
				死者数	負傷者数	損害額 (万円)		死者数	負傷者数	損害額 (万円)
危険物施設		641	226 (10)	2	36	275,094.0	415 (11)	0	18	56,638.0
危険物施設 以外	無許可施設	7	5	0	3	51,518.0	2	0	1	1.0
	危険物運搬中	12	1	0	0	541.0	11	0	1	92.0
	仮貯蔵・仮取扱い	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
	小計	19	6	0	3	52,059.0	13	0	2	93.0
合計		660	232	2	39	327,153.0	428	0	20	56,731.0

(注) 1 () 内の数値は重大事故の件数を示す。

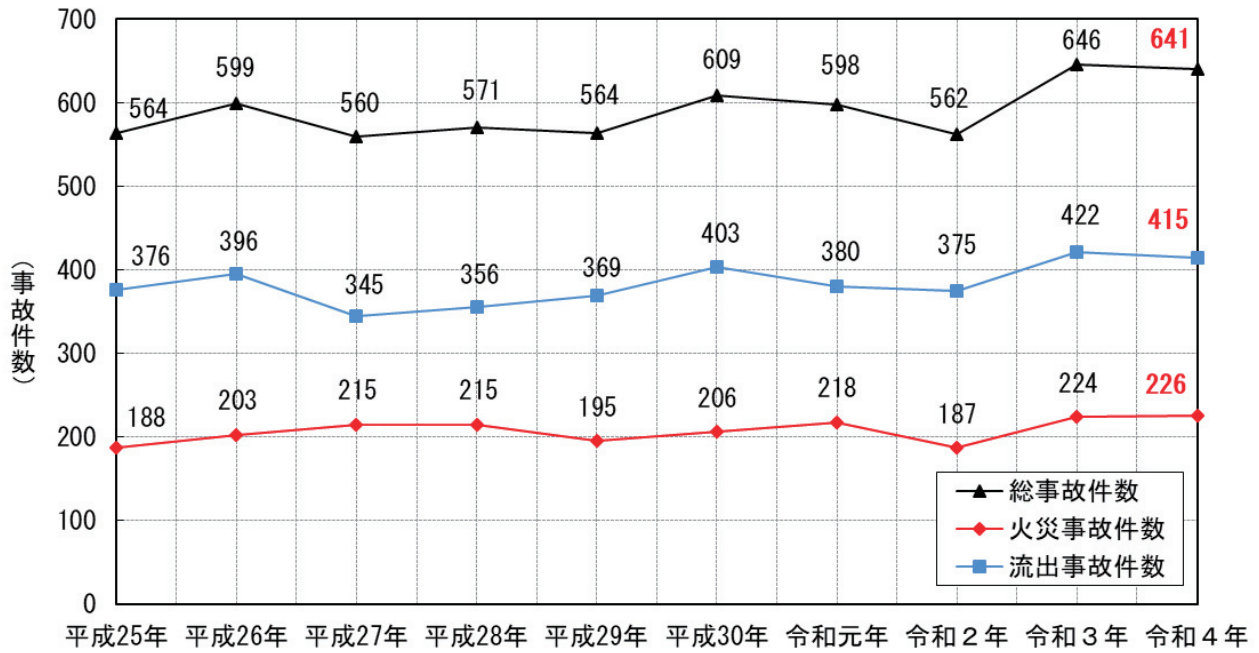
2 火災事故に係る重大事故は、危険物施設で発生した火災事故のうち、①死者が発生した事故（人的被害指標）、②事業所外に物的被害が発生した事故（影響範囲指標）、③収束時間（事故発生から鎮圧までの時間）が4時間以上要した事故（収束時間指標）のいずれかに該当する事故をいう。また、流出事故に係る重大事故は、危険物施設で発生した流出事故のうち、①死者が発生した事故（人的被害指標）、②河川や海域など事業所外へ広範囲に流出し、かつ、流出した危険物量が指定数量の1倍以上の事故（流出被害指標）、③事業所周辺のみ流出し、かつ、流出した危険物量が指定数量の10倍以上の事故（流出被害指標）のいずれかに該当する事故をいう（「危険物施設における火災・流出事故に係る深刻度評価指標の一部改正について」（令和2年12月7日付け消防危第287号））。

第2表 危険物に係る事故の発生件数等の推移（最近の10年間）

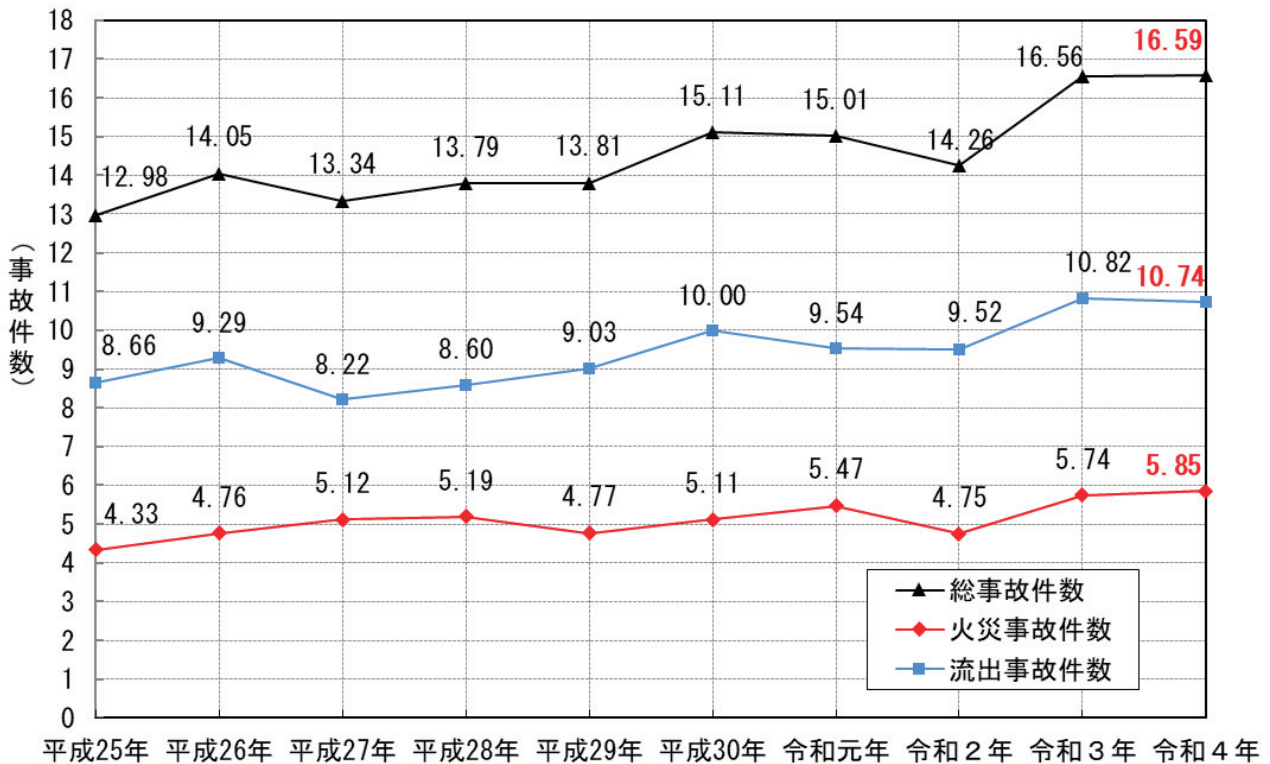
年	事故の態様 発生件数等	火災及び 流出事故 発生件数 (A)+(B)	火災事故			流出事故				
			発生件数 (A)	被害			発生件数 (B)	被害		
				死者数	負傷者数	損害額 (万円)		死者数	負傷者数	損害額 (万円)
平成25年		594	198	10	60	441,150.0	396	0	18	44,132.0
平成26年		621	209	2	69	218,622.0	412	0	30	42,421.0
平成27年		589	226	2	45	813,688.0	363	2	11	38,624.0
平成28年		598	225	2	57	130,682.0	373	0	30	28,308.0
平成29年		582	197	2	51	267,320.0	385	0	34	44,247.0
平成30年		633	211	2	122	247,860.0	422	0	28	49,482.0
令和元年		619	222	4	40	561,299.0	397	0	27	105,756.0
令和2年		576	190	2	35	113,090.0	386	0	23	23,036.0
令和3年		667	232	0	39	710,747.0	435	1	32	47,712.0
令和4年		660	232	2	39	327,153.0	428	0	20	56,731.0

(注) 危険物施設、無許可施設、危険物運搬中及び仮貯蔵・仮取扱い中の火災事故及び流出事故について掲載した。

第2図 危険物施設における火災事故及び流出事故の件数の推移（最近の10年間）

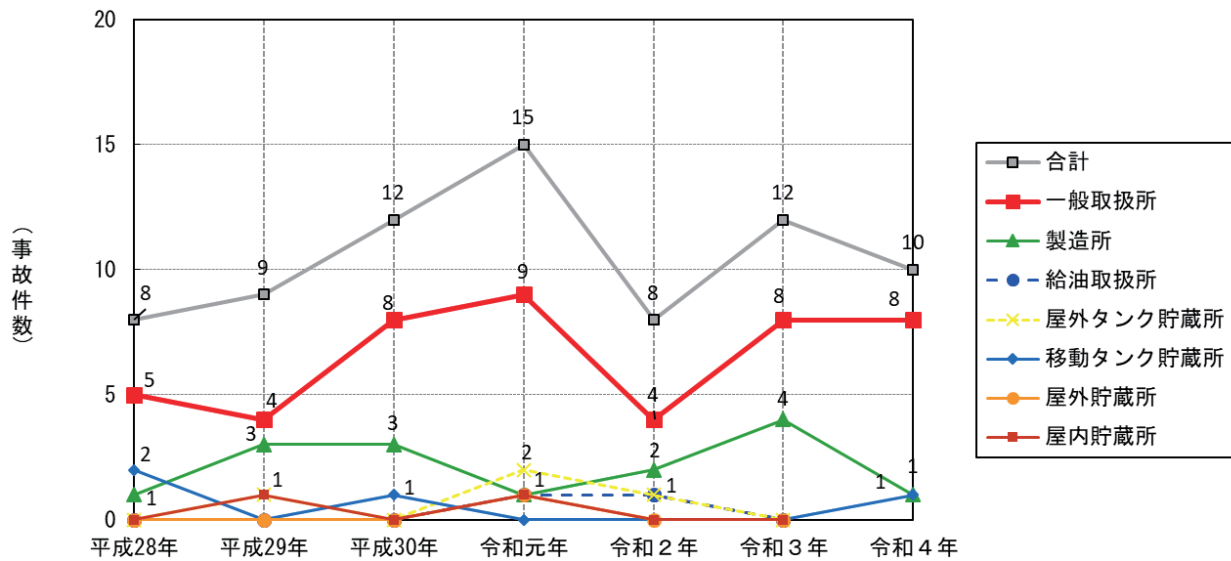


第3図 危険物施設1万施設当たりの火災事故及び流出事故の件数の推移（最近の10年間）



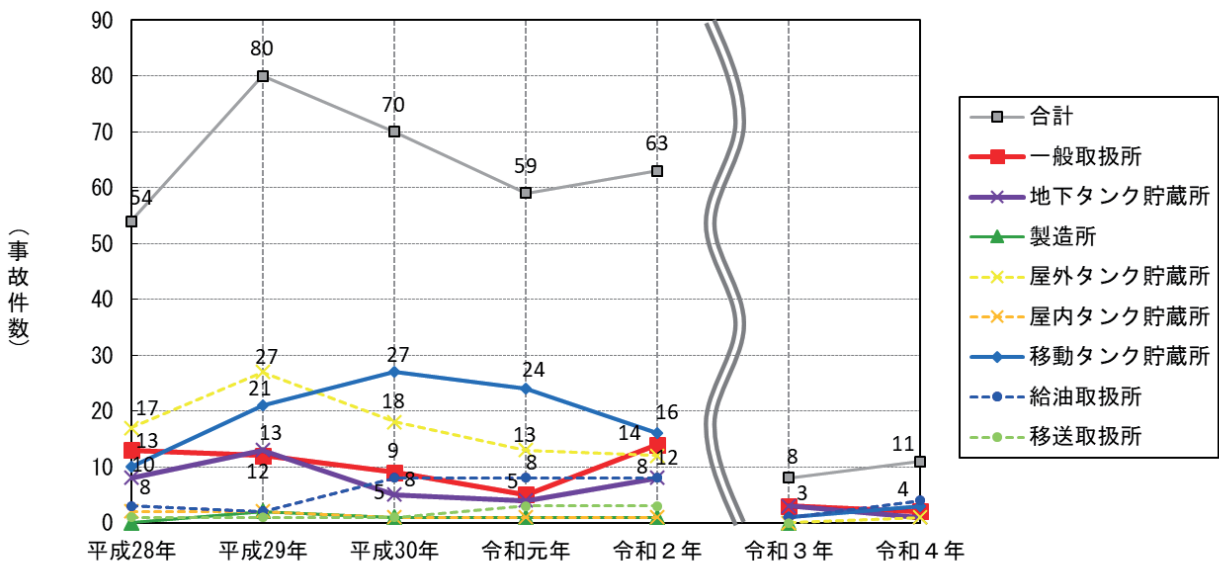
(注) 1万施設当たりの発生件数における施設数は各年3月31日現在の完成検査済証交付施設数を用いた。

第4図 危険物施設における火災事故に係る重大事故の件数の推移（最近の7年間）



- (注) 1 過去5年間の件数は第5表を参照。
 2 屋内タンク貯蔵所、地下タンク貯蔵所、簡易タンク貯蔵所、第一種販売取扱所、第二種販売取扱所及び移送取扱所の火災による重大事故は統計をとり始めてからの7年間発生していない。
 3 重大事故の件数については、第1表(注)2による。

第5図 危険物施設における流出事故に係る重大事故の件数の推移（最近の7年間）



- (注) 1 過去5年間の件数は第16表を参照。
 2 屋内貯蔵所、簡易タンク貯蔵所、屋外貯蔵所、第一種販売取扱所及び第二種販売取扱所の流出による重大事故は統計をとり始めてからの7年間発生していない。
 3 令和2年以前の重大事故の件数については、①死者が発生した事故（人的評価指標）、②河川や海域など事業所外へ広範囲に流出した事故（流出範囲指標）、③流出した危険物量が指定数量の10倍以上の事故（流出量指標）のいずれかに該当するもの（「危険物施設における火災・流出事故に係る深刻度評価指標について」（平成28年11月2日付け消防危第203号））を計上している。
 4 令和3年以降の重大事故の件数については、第1表(注)2による。

2 火災事故

(1) 火災事故の発生及び被害の状況

令和4年中に発生した危険物に係る火災事故232件の内訳は、危険物施設におけるものが226件、無許可施設におけるものが5件、危険物運搬中のものが1件、仮貯蔵・仮取扱い中のものが0件となっており、それぞれの状況は次のとおりである。(第1表参照)

ア 令和4年中に危険物施設において発生した火災事故の件数は、226件(前年224件)であり、その被害は、死者2人(前年0人)、負傷者36人(前年36人)、損害額27億5,094万円(前年70億4,692万円)となっている。前年に比べ、火災事故の件数は2件増加、死者は2人増加、負傷者は前年同数、損害額は42億9,598万円減少している。(第3表参照)

また、火災事故1件当たりの損害額は1,217万円であった。(第3表参照)

これを製造所等の別にみると、火災事故の件数は、一般取扱所で発生したものが152件で最も多く、次いで、給油取扱所で31件、製造所で29件となっており、1件当たりの損害額は、一般取扱所に係るものが1,531万円で最も高く、次いで、製造所に係るものが1,301万円となっている。(第4-1表参照)

危険物施設1万施設当たりの火災事故の件数は、危険物施設全体では5.85件となっている。(第4-1表参照)

危険物施設における火災事故のうち、重大事故は10件(前年12件)発生しており、その被害は、死者2人(前年0人)、負傷者7人(前年5人)、損害額は1億5,013万円(前年1億4,734万円)となっている。前年に比べ、重大事故の件数は2件減少、死者は2人増加、負傷者は2人増加、損害額は279万円増加している。(第4-2表参照)

また、重大事故1件当たりの損害額は1,501万円であった。(第4-2表参照)

これを製造所等の別にみると、重大事故の件数は、一般取扱所で発生したものが8件で最も多く、次いで、製造所で1件、移動タンク貯蔵所で1件となっており、1件当たりの損害額は、一般取扱所に係るものが1,867万円で最も高く、次いで、製造所に係るものが40万円、移動タンク貯蔵所に係るものが38万円となっている。(第4-2表参照)

危険物施設における火災事故の件数の推移を製造所等の別にみると、一般取扱所、製造所、給油取扱所におけるものが上位を占める状況が続いている。(第5表、第7図参照)

イ 令和4年中の無許可施設における火災事故は5件(前年7件)発生しており、その被害は死者0人(前年0人)、負傷者3人(前年3人)、損害額は5億1,518万円(前年5,472万円)となっている。前年に比べ、火災事故の件数は2件減少、死者及び負傷者は前年同数、損害額は4億6,046万円増加している。(第6表参照)

ウ 令和4年中の危険物運搬中の火災事故は1件(前年1件)となっている。(第7表参照)

エ 令和4年中の仮貯蔵・仮取扱い中の火災事故は0件(前年0件)となっている。(第9表参照)

(2) 出火原因に関係した物質

ア 令和4年中に発生した危険物施設における火災事故の出火原因に関係した物質(以下「出火原因物質」という。)についてみると、226件の火災事故のうち、危険物が出火原因物質となるものが104件(46.0%)発生している。また、このうち93件(89.4%)が第4類の危険物が出火原因物質となるもので占められている。さらに、第4類の危険物について品名別にみると、第1石油類が出火原因物質となるものが40件(43.0%)で最も多く、次いで、第3石油類が出火

原因物質となるものが23件（24.7%）、第4石油類が出火原因物質となるものが13件（14.0%）、第2石油類が出火原因物質となるものが11件（11.8%）となっている。（第8表、第8図参照）

イ 令和4年中に発生した無許可施設、危険物運搬中等の危険物施設以外の場所における火災事故は6件発生しており、その内訳は、第4類第1石油類が出火原因物質となるものが3件（50.0%）、第2石油類、第3石油類及び第4石油類が出火原因物質となるものがそれぞれ1件（16.7%）となっている。（第9表参照）

(3) 火災事故の発生原因及び着火原因

ア 令和4年中に発生した危険物施設における火災事故の発生原因を、人的要因、物的要因及びその他の要因に区分してみると、人的要因が117件（51.8%）で最も高く、次いで、物的要因が82件（36.3%）、その他の要因（不明及び調査中を含む。）が27件（11.9%）となっている。人的要因では、維持管理不十分の47件（20.8%）、操作確認不十分の26件（11.5%）、物的要因では、腐食疲労等劣化の23件（10.2%）が高い数値となっている。（第10表、第9図、第10図参照）

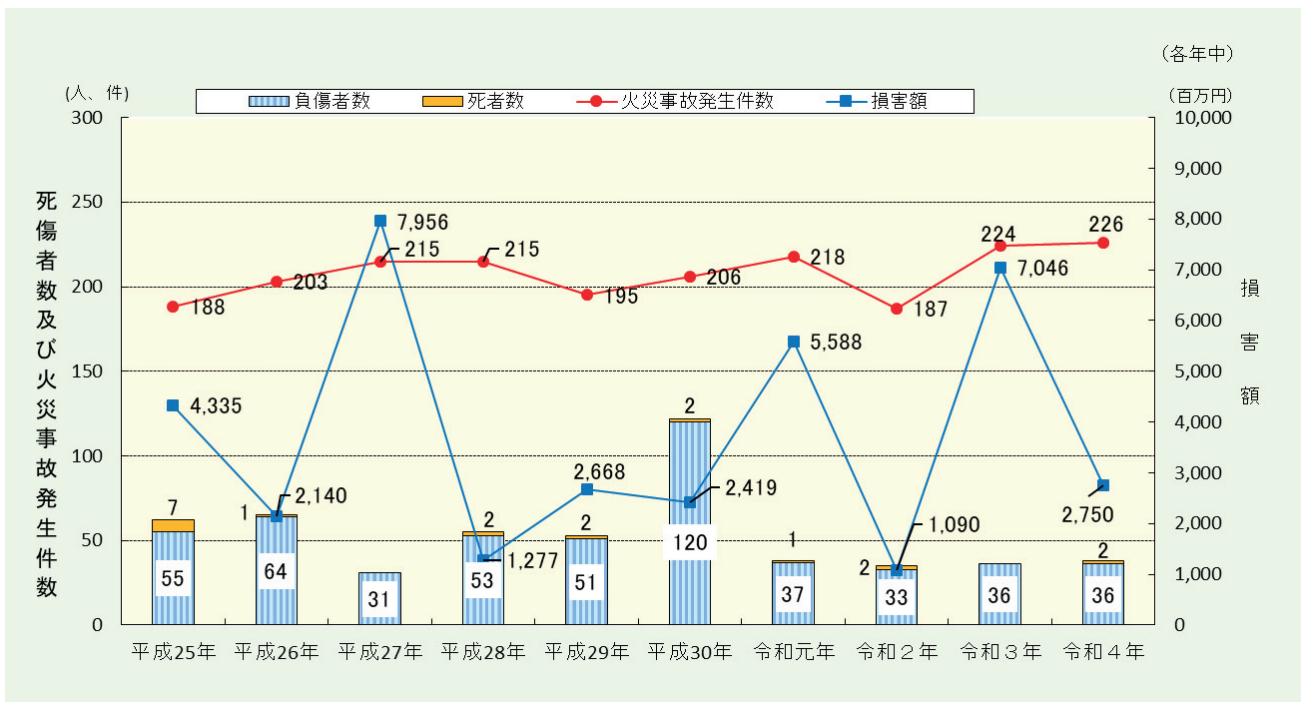
また、主な着火原因は、高温表面熱が42件（18.6%）で最も高く、次いで、静電気火花が38件（16.8%）、過熱着火が24件（10.6%）、電気火花が18件（8.0%）となっている。（第11表参照）

イ 令和4年中に発生した無許可施設、危険物運搬中等の危険物施設以外の場所における火災事故の発生原因は第12表、火災事故の着火原因は第13表のとおりとなっている。

第3表 危険物施設における火災事故の発生件数と被害状況の推移（最近の10年間）

年	発生件数等 発生件数 (ア)	被害			
		死者数	負傷者数	損害額 (イ) (万円)	1件当たりの損害額 (イ)/(ア) (万円)
平成25年	188	7	55	433,482.0	2,306
平成26年	203	1	64	214,007.0	1,054
平成27年	215	0	31	795,606.0	3,700
平成28年	215	2	53	127,662.0	594
平成29年	195	2	51	266,780.0	1,368
平成30年	206	2	120	241,852.0	1,174
令和元年	218	1	37	558,763.0	2,563
令和2年	187	2	33	109,035.0	583
令和3年	224	0	36	704,692.0	3,146
令和4年	226	2	36	275,094.0	1,217

第6図 危険物施設における火災事故の発生件数と被害状況（最近の10年間）



第4-1表 危険物施設における火災事故の概要（令和4年中）

製造所等の別	発生件数等		被害				被害の状況				
	発生件数 (ア)	1万施設 当たりの 発生件数	死者数	負傷者数	損害額 (イ) (万円)	1件当たり の損害額 (イ)/(ア) (万円)	A	B	C	D	
製造所	29	58.00	0	5	37,729.0	1,301	29	0	0	0	
貯蔵所	屋内貯蔵所	2	0.41	0	0	21.0	11	2	0	0	0
	屋外タンク貯蔵所	4	0.70	0	0	3,990.0	998	4	0	0	0
	屋内タンク貯蔵所	0	0.00	0	0	0.0	0	0	0	0	0
	地下タンク貯蔵所	0	0.00	0	0	0.0	0	0	0	0	0
	簡易タンク貯蔵所	0	0.00	0	0	0.0	0	0	0	0	0
	移動タンク貯蔵所	6	0.93	1	0	405.0	68	6	0	0	0
	屋外貯蔵所	1	1.06	0	0	0.0	0	1	0	0	0
	小計	13	0.49	1	0	4,416.0	340	13	0	0	0
取扱所	給油取扱所	31	5.47	0	3	277.0	9	31	0	0	0
	第一種販売取扱所	0	0.00	0	0	0.0	0	0	0	0	0
	第二種販売取扱所	0	0.00	0	0	0.0	0	0	0	0	0
	移送取扱所	1	9.68	0	0	0.0	0	1	0	0	0
	一般取扱所	152	26.05	1	28	232,672.0	1,531	149	0	3	0
	小計	184	15.66	1	31	232,949.0	1,266	181	0	3	0
合計/平均	226	5.85	2	36	275,094.0	1,217	223	0	3	0	

(注) 1 被害の状況は、危険物施設から出火し、当該危険物施設の火災でとどまったものを「A」、他の施設からの類焼により危険物施設が火災となったものを「B」、当該危険物施設の火災により他の施設にまで延焼したものを「C」、危険物の流出に起因して施設外から火災となったものを「D」とした。

なお、「B」には、危険物施設又は無許可施設の火災からの類焼は含まない。

2 1万施設当たりの発生件数における施設数は、令和4年3月31日現在の完成検査済証交付施設数を用いた。

第4-2表 危険物施設における火災事故に係る重大事故の概要（令和4年中）

製造所等の別	発生件数等		重大事故の内訳			被害				
	重大事故 発生件数 (ア)		人的被害 指標	影響範囲 指標	収束時間 指標	1万施設 当たりの 重大事故 発生件数	死者数	負傷者数	損害額 (イ) (万円)	1件当たり の損害額 (イ)/(ア) (万円)
製造所	1		0	0	1	2.00	0	0	40.0	40
貯蔵所	屋内貯蔵所	0	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	屋外タンク貯蔵所	0	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	屋内タンク貯蔵所	0	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	地下タンク貯蔵所	0	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	簡易タンク貯蔵所	0	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	移動タンク貯蔵所	1	1	0	0	0.16	1	0	38.0	38
	屋外貯蔵所	0	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	小計	1	1	0	0	0.04	1	0	38.0	38
取扱所	給油取扱所	0	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	第一種販売取扱所	0	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	第二種販売取扱所	0	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	移送取扱所	0	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	一般取扱所	8	1	1	7	1.37	1	7	14,935.0	1,867
	小計	8	1	1	7	0.68	1	7	14,935.0	1,867
合計/平均	10	2	1	8	0.26	2	7	15,013.0	1,501	

(注) 1 1万施設当たりの発生件数における施設数は、令和4年3月31日現在の完成検査済証交付施設数を用いた。

2 「重大事故の内訳」欄は、第1表(注)2の各指標に係る事故件数を計上しており、合計値が「重大事故発生件数」欄の数値と一致しない場合がある。

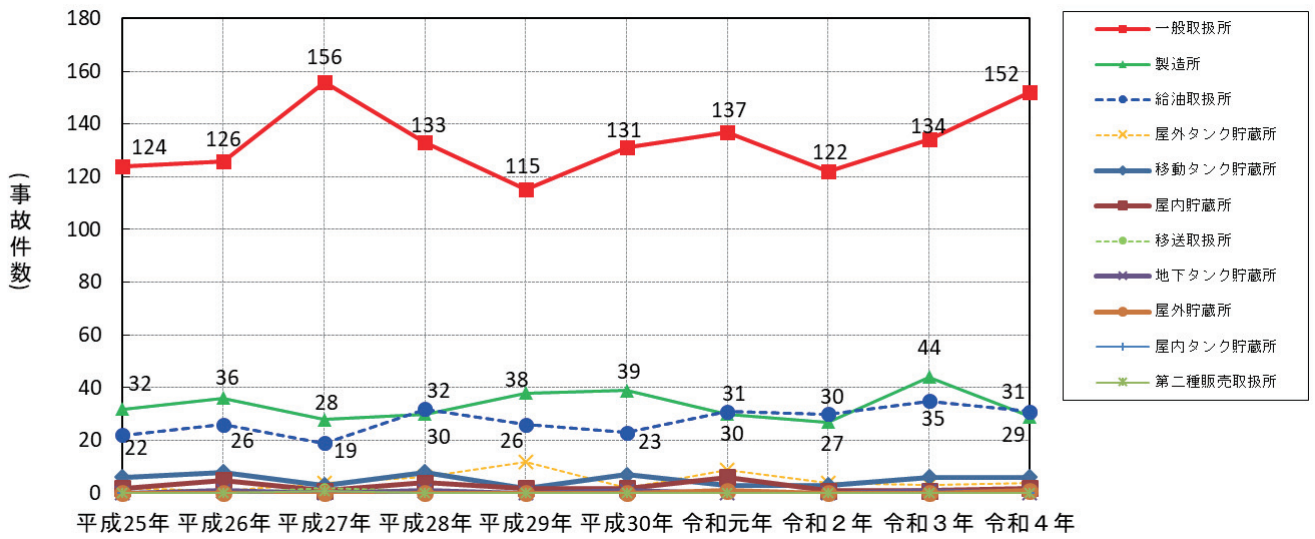
第5表 危険物施設における火災事故の危険性の推移（最近の5年間）

発生件数等		平成30年		令和元年		令和2年		令和3年		令和4年	
		件数	1万施設 当たりの 発生件数	件数	1万施設 当たりの 発生件数	件数	1万施設 当たりの 発生件数	件数	1万施設 当たりの 発生件数	件数	1万施設 当たりの 発生件数
製造所等の別											
製造所		39 (3)	77.33 (5.94)	30 (1)	59.48 (1.98)	27 (2)	53.70 (3.98)	44 (4)	88.14 (8.01)	29 (1)	58.00 (2.00)
貯蔵所	屋内貯蔵所	2	0.40	6 (1)	1.22 (0.20)	1	0.20	1	0.20	2	0.41
	屋外タンク貯蔵所	2	0.33	9 (2)	1.52 (0.34)	4 (1)	0.68 (0.17)	3	0.52	4	0.70
	屋内タンク貯蔵所	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	地下タンク貯蔵所	1	0.13	0	0.00	0	0.00	1	0.13	0	0.00
	簡易タンク貯蔵所	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	移動タンク貯蔵所	7 (1)	1.07 (0.15)	3	0.46	3	0.46	6	0.93	6 (1)	0.93 (0.16)
	屋外貯蔵所	0	0.00	1 (1)	1.04 (1.04)	0	0.00	0	0.00	1	1.06
	小計	12 (1)	0.44 (0.04)	19 (4)	0.70 (0.15)	8 (1)	0.30 (0.04)	11	0.41	13 (1)	0.49 (0.04)
取扱所	給油取扱所	23	3.86	31 (1)	5.29 (0.17)	30 (1)	5.18 (0.17)	35	6.11	31	5.47
	第一種販売取扱所	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	第二種販売取扱所	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	移送取扱所	1	9.25	1	9.30	0	0.00	0	0.00	1	9.68
	一般取扱所	131 (8)	21.72 (1.31)	137 (9)	22.90 (1.50)	122 (4)	20.56 (0.67)	134 (8)	22.78 (1.36)	152 (8)	26.05 (1.37)
	小計	155 (8)	12.65 (0.65)	169 (10)	13.96 (0.83)	152 (5)	12.68 (0.42)	169 (8)	14.25 (0.67)	184 (8)	15.66 (0.68)
合計／平均		206 (12)	5.11 (0.29)	218 (15)	5.47 (0.38)	187 (8)	4.75 (0.20)	224 (12)	5.74 (0.31)	226 (10)	5.85 (0.26)

(注) 1 1万施設当たりの発生件数における施設数は、各年3月31日現在の完成検査済証交付施設数を用いた。

2 ()内の数値は重大事故に係る数値を示す。

第7図 危険物施設における火災事故の発生件数の推移（最近の10年間）



(注) 1 過去5年間の件数は第5表を参照。

2 簡易タンク貯蔵所、第一種販売取扱所の火災事故は過去10年間発生していない。

第6表 無許可施設における火災事故の概要（最近の5年間）

年	発生件数等 発生件数 (ア)	被 害				被害の状況			
		死者数	負傷者数	損害額 (イ) (万円)	1件当たりの 損害額 (イ)/(ア) (万円)	A	B	C	D
平成30年	2	0	1	5,936.0	2,968	2	0	0	0
令和元年	4	3	3	2,536.0	634	3	0	1	0
令和2年	3	0	2	4,055.0	1,352	3	0	0	0
令和3年	7	0	3	5,472.0	782	5	0	2	0
令和4年	5	0	3	51,518.0	10,304	2	0	3	0

(注) 被害の状況は第4-1表の(注)1による。

第7表 危険物運搬中における火災事故の概要（最近の5年間）

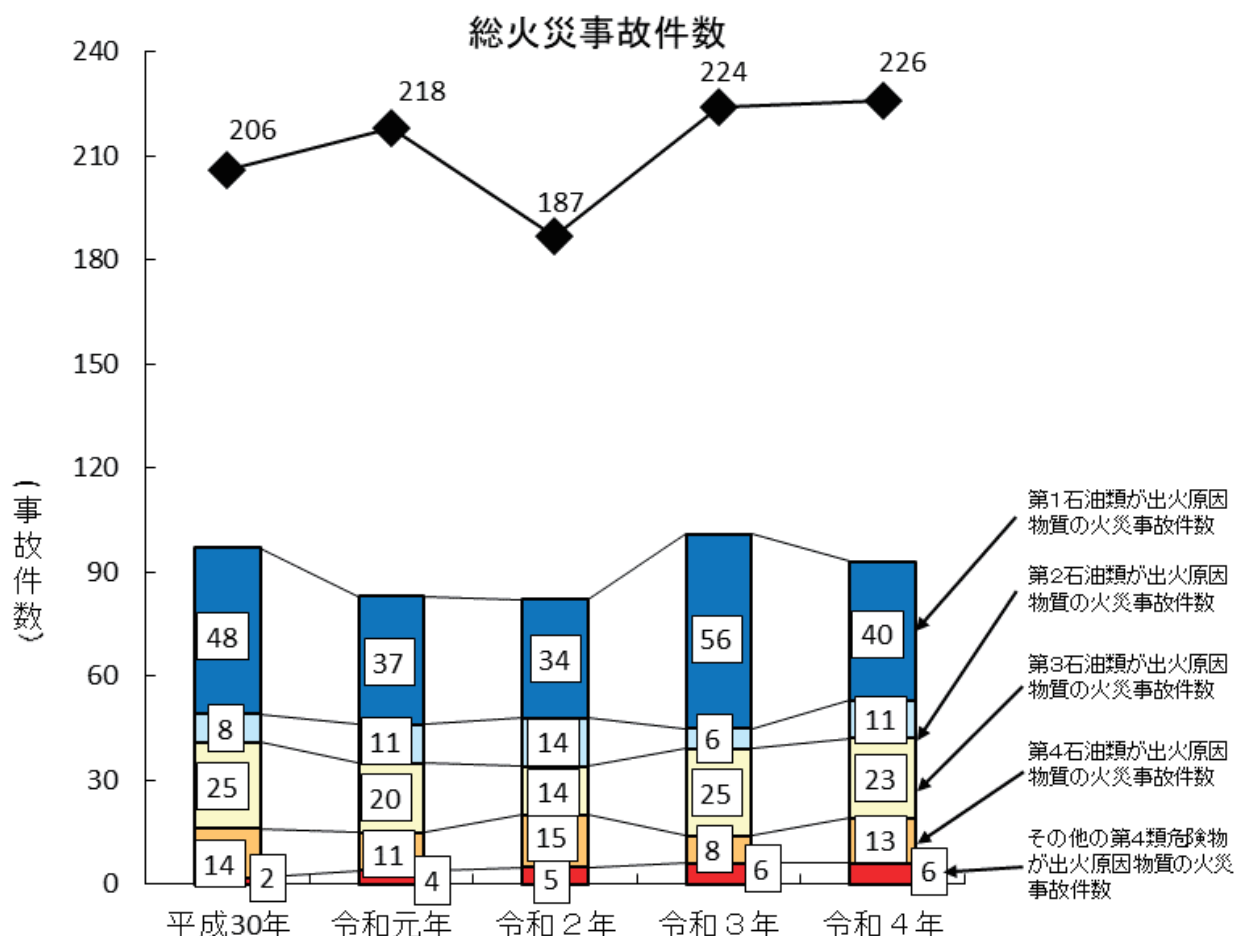
年	発生件数等 発生件数 (ア)	被 害			
		死者数	負傷者数	損害額 (イ) (万円)	1件当たりの 損害額 (イ)/(ア) (万円)
平成30年	2	0	0	72.0	36
令和元年	0	0	0	0.0	0
令和2年	0	0	0	0.0	0
令和3年	1	0	0	583.0	583
令和4年	1	0	0	541.0	541

第8表 危険物施設における火災事故の出火原因物質及び推移（最近の5年間）

出火原因物質等	年・施設区分	令和4年																	計																	
		平成30年				令和元年				令和2年				令和3年				製造所		貯蔵所											取扱所					計
		平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	製造所	屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計	給油取扱所	第一種販売取扱所	第二種販売取扱所			移送取扱所	一般取扱所	小計														
危険物																																				
第1類	酸化性固体	亜塩素酸塩類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0															
第1類	酸化性固体	硝酸塩類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1															
第1類	酸化性固体	その他のもので政令で定めるもの	0	1 (1)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0															
第2類	可燃性固体	赤りん	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0															
第2類	可燃性固体	硫黄	0	3 (1)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0															
第2類	可燃性固体	金属粉	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3															
第2類	可燃性固体	引火性固体	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1															
第2類	可燃性固体	鉄粉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0															
第2類	可燃性固体	マグネシウム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0															
第2類	可燃性固体	その他のもので政令で定めるもの	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1															
第3類	自然発火性物質及び禁水性物質	ナトリウム	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0															
第3類	自然発火性物質及び禁水性物質	アルキルアルミニウム	0	2 (1)	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0															
第3類	自然発火性物質及び禁水性物質	アルキルリチウム	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0															
第3類	自然発火性物質及び禁水性物質	黄りん	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2															
第3類	自然発火性物質及び禁水性物質	76が金属（カウム及びナトリウムを除く。）及び77が土類金属	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0															
第3類	自然発火性物質及び禁水性物質	有機金属化合物（76が76が金属及び77が77が金属を除く。）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0															
第3類	自然発火性物質及び禁水性物質	金属の水素化合物	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0															
第3類	自然発火性物質及び禁水性物質	カルシウム又はアルミニウムの炭化物	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0															
第3類	自然発火性物質及び禁水性物質	その他のもので政令で定めるもの（塩素化けい素化合物）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0															
第3類	自然発火性物質及び禁水性物質	前各号に掲げるもののいずれかを含有するもの	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0															
第4類	引火性液体	特殊引火物	2	0	3 (1)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1															
第4類	引火性液体	第1石油類	48 (1)	37 (2)	34 (1)	56 (1)	6 (1)	0	1	0	0	0	2 (1)	0	3 (1)	16	0	0	0	15 (1)	31 (1)	40 (3)														
第4類	引火性液体	アルコール類	0	4	2	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	5															
第4類	引火性液体	第2石油類	8	11 (1)	14	6	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6	11															
第4類	引火性液体	第3石油類	25	20 (3)	14	25 (2)	1	1	1	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	19	19	23														
第4類	引火性液体	第4石油類	14 (1)	11	15	8	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	11	13															
第5類	自己反応性物質	有機過酸化物	2	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1															
第5類	自己反応性物質	硝酸エステル類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0															
第5類	自己反応性物質	ニトロ化合物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1															
第5類	自己反応性物質	その他のもので政令で定めるもの	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0															
第6類	酸化性液体	過酸化水素	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1															
危険物 類別小計																																				
第1類			0	1 (1)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1															
第2類			0	6 (1)	1	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	5															
第3類			3	6 (1)	4	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2															
第4類			97 (3)	83 (6)	82 (2)	101 (3)	16 (1)	1	2	0	0	0	2 (1)	1	6 (1)	16	0	0	0	55 (1)	71 (1)	93 (3)														
第5類			2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2															
第6類			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1															
小計			102 (3)	97 (9)	88 (2)	110 (3)	19 (1)	1	2	0	0	0	2 (1)	1	6 (1)	16	0	0	0	63 (1)	79 (1)	104 (3)														
その他																																				
		危険物以外の物品	17 (2)	16 (2)	18 (2)	27 (1)	5	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	11 (2)	13 (2)	18 (2)															
		類焼によるもの	4 (2)	11 (1)	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0															
		その他	83 (5)	94 (3)	74 (4)	87 (8)	5	1	2	0	0	0	4	0	7	14	0	0	0	78 (5)	92 (5)	104 (5)														
		小計	104 (9)	121 (6)	99 (6)	114 (9)	10	1	2	0	0	0	4	0	7	15	0	0	1	89 (7)	105 (7)	122 (7)														
		合計	206 (12)	218 (15)	187 (8)	224 (12)	29 (1)	2	4	0	0	0	6 (1)	1	13 (1)	31	0	0	1	152 (8)	184 (8)	226 (10)														

(注) () 内の数値は重大事故件数を示す。

第8図 危険物施設における火災事故の出火原因物質（第4類危険物）の推移（最近の5年間）



第9表 危険物施設以外の場所における火災事故の出火原因物質（令和4年中）

出火原因物質等		区分	区分			計
			無許可施設	危険物運搬中	仮貯蔵・仮取扱い	
第4類	引火性液体	第1石油類	3	0	0	3
		第2石油類	1	0	0	1
		第3石油類	1	0	0	1
		第4石油類	0	1	0	1
合計			5	1	0	6

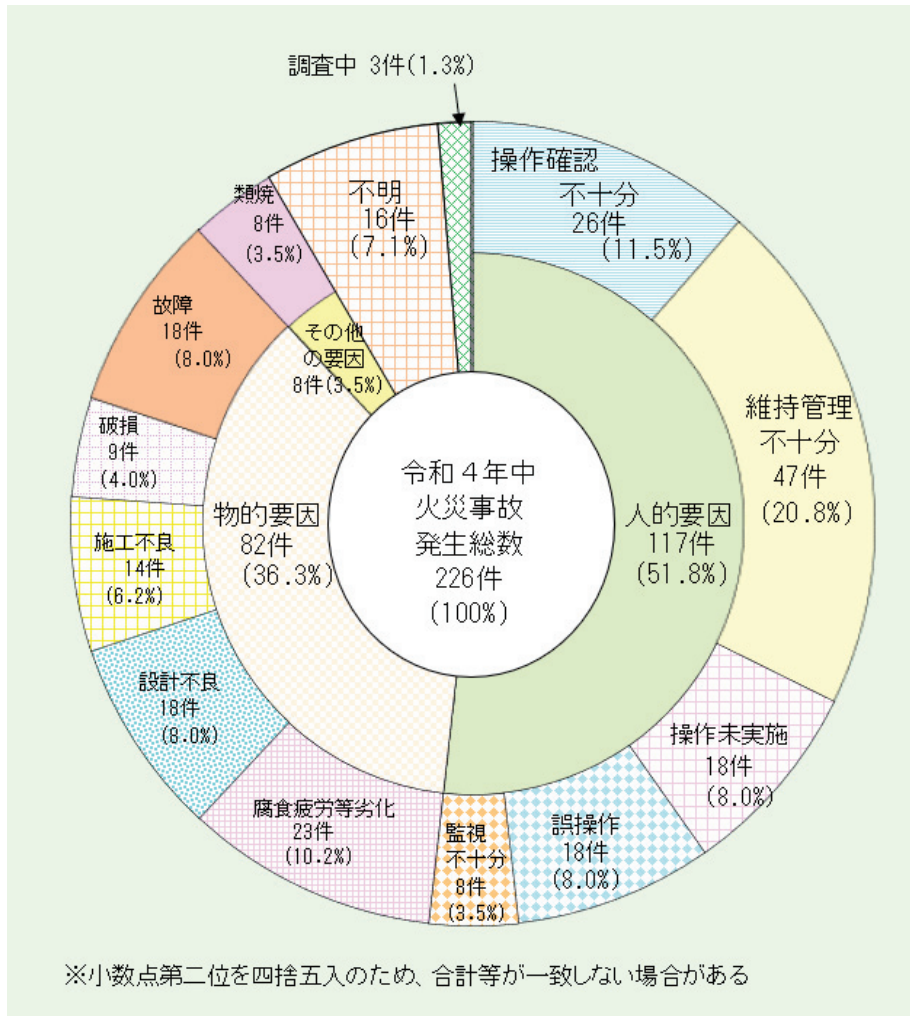
(注) 出火原因物質等が複数ある事例については、より危険性の高い物質にて計上した。

第10表 危険物施設における火災事故の発生原因（令和4年中）

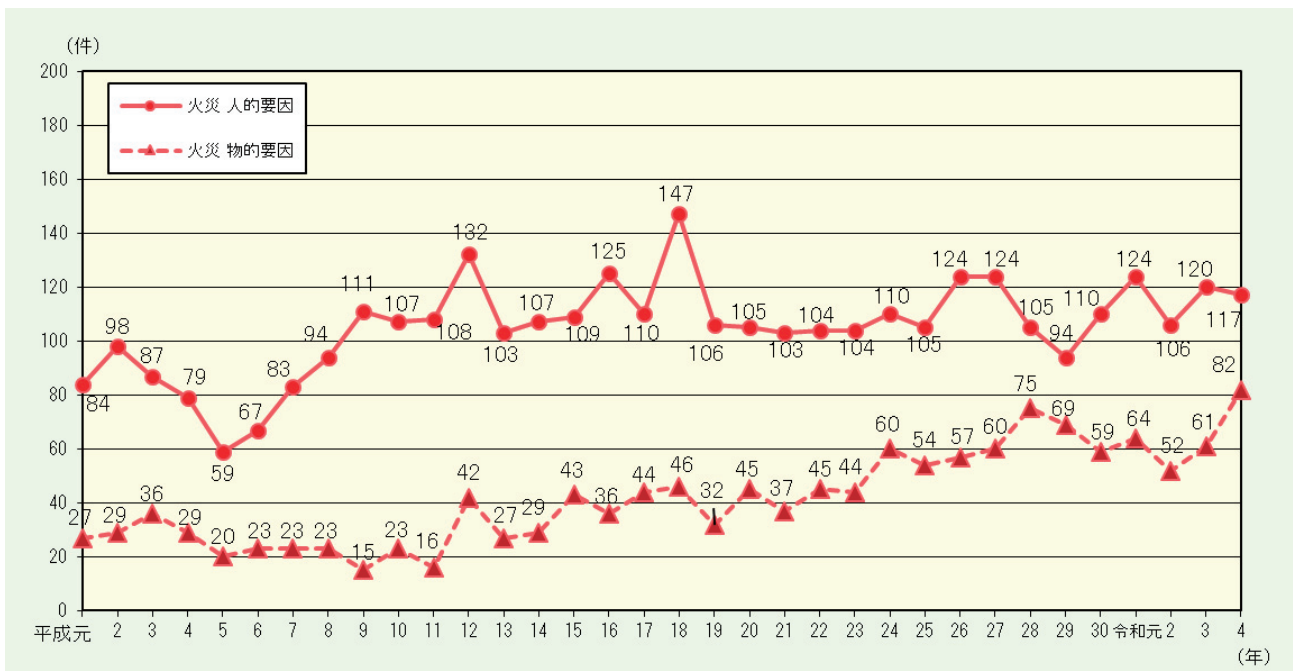
発生原因	製造所等の別 製造所	貯蔵所							取扱所						計	比率 (%)	令和3年			
		屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計	給油取扱所	第一種販売取扱所	第二種販売取扱所	移送取扱所	一般取扱所			小計	件数	比率 (%)	
人的要因	維持管理不十分	4	1	0	0	0	0	1	0	2	2	0	0	1	38	41	47	20.8	41	18.3
	誤操作	2	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	12	16	18	8.0	19	8.5	
	操作確認不十分	5	1	2	0	0	0	1	0	4	2	0	0	0	15	17	26	11.5	38	17.0
	操作未実施	2	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	11	16	18	8.0	13	5.8	
	監視不十分	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	5	8	8	3.5	9	4.0	
	小計	13	2	2	0	0	0	2	0	6	16	0	0	1	81	98	117	51.8	120	53.6
物的要因	腐食疲労等劣化	6	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	14	16	23	10.2	25	11.2	
	設計不良	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	14	18	8.0	12	5.4	
	故障	2	0	0	0	0	0	2	0	3	0	0	0	11	14	18	8.0	6	2.7	
	施工不良	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	11	14	6.2	15	6.7	
	破損	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	7	7	9	4.0	3	1.3	
	小計	15	0	1	0	0	0	3	1	5	5	0	0	0	57	62	82	36.3	61	27.2
その他の要因	放火等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	1	0.4
	交通事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	1	0.4
	類焼	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	1	8	8	3.5	19	8.5	
	風水害等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	5	2.2
	悪戯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0.0
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	1	8	8	3.5	26	11.6	
不明	1	0	1	0	0	0	1	0	2	3	0	0	0	10	13	16	7.1	15	6.7	
調査中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3	1.3	2	0.9	
合計	29	2	4	0	0	0	6	1	13	31	0	0	1	152	184	226	100.0	224	100.0	

- (注) 1 調査中とは、令和5年4月1日現在において、未だ調査中のものをいう。
 2 参考のため、右欄に前年の件数と比率を掲載した。
 3 ()内の数値は重大事故に係る数値を示す。

第9図 令和4年中の危険物施設における火災事故の発生要因



第10図 危険物施設における火災事故の要因別の発生件数の推移



第11表 危険物施設における火災事故の着火原因（令和4年中）

製造所等の別 着火原因	製造所	貯蔵所							取扱所						計	比率 (%)	令和3年		
		屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計	給油取扱所	第一種販売取扱所	第二種販売取扱所	移送取扱所	一般取扱所			小計	計	比率 (%)
裸火	1 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	8	10	11 (1)	4.9 (10.0)	13	5.8
高温表面熱	4	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	36 (1)	36 (1)	42 (1)	18.6 (10.0)	23	10.3
溶接・溶断等火花	1	0	1	0	0	0	1 (1)	0	2 (1)	0	0	0	1	6 (1)	7 (1)	10 (2)	4.4 (20.0)	12	5.4
静電気火花	11	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	17	27	38	16.8	50 (1)	22.3 (8.3)
電気火花	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	15	17	18	8.0	23	10.3
衝撃火花	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	8 (1)	9 (1)	9 (1)	4.0 (10.0)	8 (3)	3.6 (25.0)
自然発熱	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	7	3.1	10 (4)	4.5 (33.3)
化学反応熱	3	1	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	7 (1)	7 (1)	12 (1)	5.3 (10.0)	7	3.1
摩擦熱	1	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	8	8	11	4.9	8	3.6
過熱着火	1	1	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	20 (1)	21 (1)	24 (1)	10.6 (10.0)	26 (2)	11.6 (16.7)
放射熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0.9	5	2.2
その他	3	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	7	16	19	8.4	23 (1)	10.3 (8.3)
不明	0	0	1	0	0	0	1	0	2	4	0	0	0	10 (3)	14 (3)	16 (3)	7.1 (30.0)	14 (1)	6.3 (8.3)
調査中	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3	5	7	3.1	2	0.9
合計	29 (1)	2	4	0	0	0	6 (1)	1	13 (1)	31	0	0	1	152 (8)	184 (8)	226 (10)	100.0 (100.0)	224 (12)	100.0 (100.0)

- (注) 1 着火原因の分類は、推定によるものを含む。
 2 調査中とは、令和5年4月1日現在において、未だ調査中のものをいう。
 3 参考のため、右欄に前年の件数と比率を掲載した。
 4 ()内の数値は重大事故に係る数値を示す。

第12表 危険物施設以外の場所における火災事故の発生原因（令和4年中）

発生原因		製造所等の別			計
		無許可施設	危険物運搬中	仮貯蔵・仮取扱い	
人的要因	維持管理不十分	2	0	0	2
物的要因	施工不良	1	0	0	1
その他の要因	類焼	0	1	0	1
不明		2	0	0	2
合計		5	1	0	6

第13表 危険物施設以外の場所における火災事故の着火原因（令和4年中）

着火原因	区分				計
	無許可施設	危険物運搬中	仮貯蔵・仮取扱い		
裸火	0	1	0		1
静電気火花	1	0	0		1
衝撃火花	1	0	0		1
不明	2	0	0		2
調査中	1	0	0		1
合計	5	1	0		6

(注) 着火原因の分類は、推定によるものを含む。

3 流出事故

(1) 流出事故の発生及び被害の状況

令和4年中に発生した危険物に係る流出事故428件の内訳は、危険物施設におけるものが415件、無許可施設におけるものが2件、危険物運搬中のものが11件、仮貯蔵・仮取扱い中のものが0件となっており、それぞれの状況は次のとおりである。(第1表参照)

ア 令和4年中に危険物施設において発生した流出事故の件数は、415件(前年422件)であり、その被害は、死者0人(前年1人)、負傷者18人(前年28人)、損害額5億6,638万円(前年4億7,673万円)となっている。前年に比べ、流出事故の件数は7件減少、死者は1人減少、負傷者は10人減少、損害額は8,965万円増加している。(第14表参照)

また、流出事故1件当たりの損害額は136万円であった。(第14表参照)

これを製造所等の別にみると、流出事故の件数は、一般取扱所で発生したものが121件で最も多く、次いで、屋外タンク貯蔵所で78件、給油取扱所で63件、移動タンク貯蔵所で55件となっており、1件当たりの損害額は、製造所に係るものが456万円で最も高く、次いで、屋外タンク貯蔵所に係るものが250万円、移動タンク貯蔵所に係るものが117万円となっている。(第15-1表参照)

危険物施設1万施設当たりの流出事故の件数は、危険物施設全体では10.74件となっている。(第15-1表参照)

危険物施設における流出事故のうち重大事故は11件(前年8件)発生しており、その被害は、死者0人(前年0人)、負傷者0人(前年0人)、損害額は4,407万円(前年7,352万円)となっている。前年に比べ、重大事故の件数は3件増加、死者及び負傷者は前年同数、損害額は2,945万円減少している。(第15-2表参照)

また、重大事故1件当たりの損害額は401万円であった。(第15-2表参照)

これを製造所等の別にみると、重大事故の件数は、給油取扱所で発生したものが4件で最も多く、次いで、移動タンク貯蔵所で3件、一般取扱所で2件となっており、1件当たりの損害額は、移動タンク貯蔵所に係るものが1,052万円で最も高く、次いで、地下タンク貯蔵所に係るものが939万円、屋外タンク貯蔵所に係るものが150万円となっている。(第15-2表参照)

危険物施設における流出事故の発生件数の推移を製造所等の別にみると、一般取扱所、屋外タンク貯蔵所、給油取扱所、移動タンク貯蔵所におけるものが上位を占める状況が続いている。(第16表、第12図参照)

イ 令和4年中の、無許可施設における流出事故は2件(前年7件)発生しており、その被害は死傷者1人(前年2人)、損害額は1万円(前年33万円)となっている。前年に比べ、流出事故の発生件数は5件減少、死傷者は1人減少、損害額は32万円減少している。(第17表参照)

ウ 令和4年中の、危険物運搬中の流出事故は11件(前年6件)発生し、その被害は死傷者1人(前年2人)、損害額は92万円(前年6万円)となっている。前年に比べ、流出事故の発生件数は5件増加、死傷者は1人減少、損害額は86万円増加している。(第17表参照)

エ 令和4年中の、仮貯蔵・仮取扱い中の流出事故は0件(前年0件)となっている。(第17表参照)

(2) 流出した危険物

ア 令和4年中に発生した危険物施設における流出事故で流出した危険物をみると、多くが第4類の危険物であり、その事故件数は404件（97.3%）となっている。また、第4類の危険物について品名別にみると、第2石油類に係るものが147件（36.4%）で最も多く、次いで、第3石油類に係るものが125件（30.9%）、第1石油類に係るものが95件（23.5%）となっている。（第18表、第13図参照）

イ 令和4年中に発生した無許可施設、危険物運搬中等の危険物施設以外の場所における流出事故は13件発生しており、その内訳は、第4類第2石油類に係るものが6件（46.2%）で最も多く、次いで、第3石油類に係るものが4件（30.1%）、第4石油類に係るものが3件（23.1%）となっている。（第19表参照）

(3) 流出事故の発生原因

ア 令和4年中に発生した危険物施設における流出事故の発生原因を、人的要因、物的要因及びその他の要因に区別してみると、物的要因が232件（55.9%）で最も高く、次いで、人的要因が138件（33.3%）、その他の要因（不明及び調査中を含む。）が45件（10.8%）となっている。物的要因では、腐食疲労等劣化の127件（30.6%）、破損の46件（11.1%）、人的要因では、操作確認不十分の57件（13.7%）が高い数値となっている。（第20表、第14図、第15図参照）

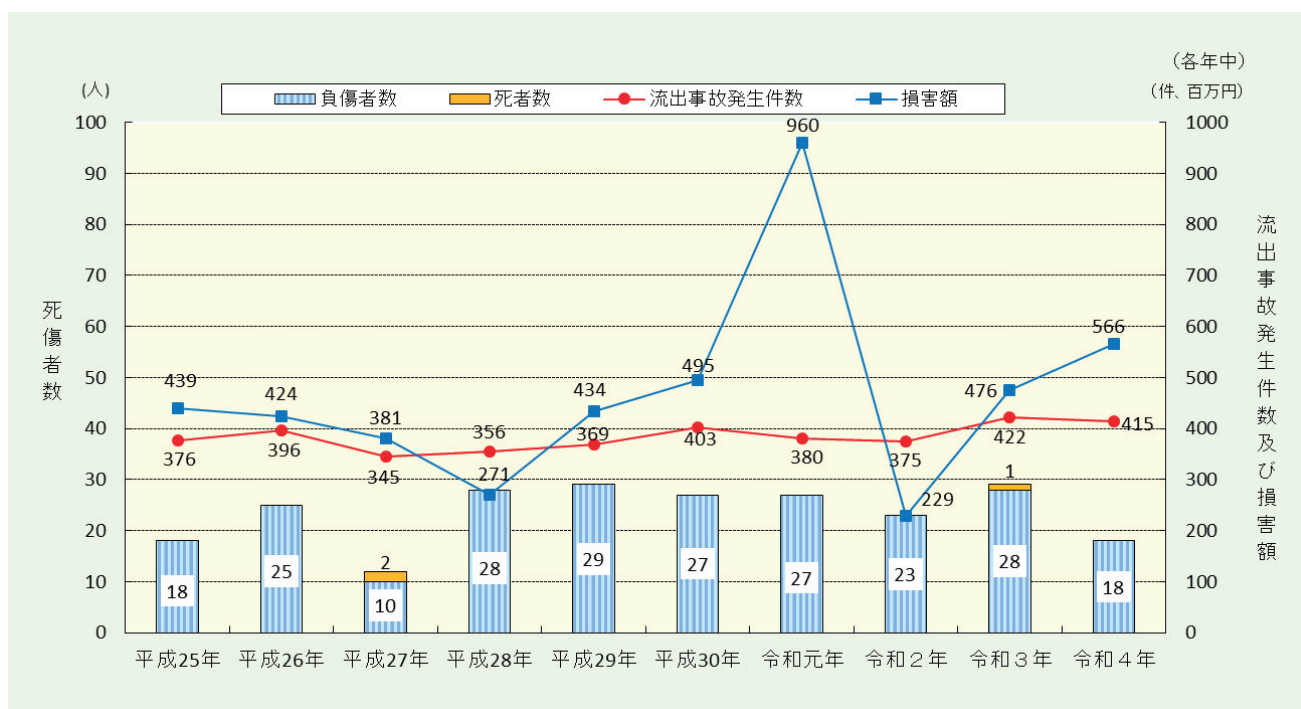
イ 無許可施設、危険物運搬中等の危険物施設以外の場所における流出事故の発生原因は、第21表のとおりとなっている。

第14表 危険物施設における流出事故の発生件数と被害状況の推移(最近の10年間)

年	発生件数等 発生件数 (ア)	被害			
		死者数	負傷者数	損害額 (イ) (万円)	1件当たりの損害額 (イ)/(ア) (万円)
平成25年	376	0	18	43,949.5	117
平成26年	396	0	25	42,391.0	107
平成27年	345	2	10	38,127.0	111
平成28年	356	0	28	27,140.0	76
平成29年	369	0	29	43,403.0	118
平成30年	403	0	27	49,462.0	123
令和元年	380	0	27	96,039.0	253
令和2年	375	0	23	22,886.0	61
令和3年	422	1	28	47,673.0	113
令和4年	415	0	18	56,638.0	136

(注) 発生件数には、製造所等に配管で接続された少量危険物施設等において、指定数量以上の危険物が流出したものの件数を含む。

第11図 危険物施設における流出事故の発生件数と被害状況(最近の10年間)



第15-1表 危険物施設における流出事故の概要(令和4年中)

発生件数等 製造所等の別		発生件数 (ア)	1万施設 当たりの 発生件数	被 害			
				死者数	負傷者数	損害額 (イ) (万円)	1件当たり の損害額 (イ)/(ア) (万円)
製 造 所		46	92.00	0	2	20,958.0	456
貯 蔵 所	屋内貯蔵所	0	0.00	0	0	0.0	0
	屋外タンク貯蔵所	78	13.62	0	3	19,521.0	250
	屋内タンク貯蔵所	7	7.28	0	0	93.0	13
	地下タンク貯蔵所	36	4.92	0	0	2,450.0	68
	簡易タンク貯蔵所	0	0.00	0	0	0.0	0
	移動タンク貯蔵所	55	8.54	0	2	6,461.0	117
	屋外貯蔵所	0	0.00	0	0	0.0	0
小 計		176	6.67	0	5	28,525.0	162
取 扱 所	給油取扱所	63	11.13	0	4	4,043.0	64
	第一種販売取扱所	0	0.00	0	0	0.0	0
	第二種販売取扱所	0	0.00	0	0	0.0	0
	移送取扱所	9	87.12	0	0	376.0	42
	一般取扱所	121	20.74	0	7	2,736.0	23
	小 計		193	16.43	0	11	7,155.0
合 計/平 均		415	10.74	0	18	56,638.0	136

- (注) 1 発生件数には、製造所等に配管で接続された少量危険物施設等において、指定数量以上の危険物が流出したものの件数を含む。
- 2 1万施設当たりの発生件数における施設数は令和4年3月31日現在の完成検査済証交付施設数を用いた。

第15-2表 危険物施設における流出事故に係る重大事故の概要(令和4年中)

発生件数等 製造所等の別		重大事故 発生件数 (ア)	重大事故の内訳		1万施設 当たりの 重大事故 発生件数	被 害			
			人的被害 指標	流出被害 指標		死者数	負傷者数	損害額 (イ) (万円)	1件当たり の損害額 (イ)/(ア) (万円)
製 造 所		0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
貯 蔵 所	屋内貯蔵所	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	屋外タンク貯蔵所	1	0	1	0.17	0	0	150.0	150
	屋内タンク貯蔵所	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	地下タンク貯蔵所	1	0	1	0.14	0	0	939.0	939
	簡易タンク貯蔵所	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	移動タンク貯蔵所	3	0	3	0.47	0	0	3,156.0	1,052
	屋外貯蔵所	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
小 計		5	0	5	0.19	0	0	4,245.0	849
取 扱 所	給油取扱所	4	0	4	0.71	0	0	99.0	25
	第一種販売取扱所	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	第二種販売取扱所	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	移送取扱所	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	一般取扱所	2	0	2	0.34	0	0	63.0	32
	小 計		6	0	6	0.51	0	0	162.0
合 計/平 均		11	0	11	0.28	0	0	4,407.0	401

- (注) 1 1万施設当たりの発生件数における施設数は令和4年3月31日現在の完成検査済証交付施設数を用いた。
- 2 「重大事故の内訳」欄は、第1表(注)2の各指標に係る事故件数を計上しており、合計値が「重大事故発生件数」欄の数値と一致しない場合がある。

第16表 危険物施設における流出事故の危険性の推移（最近の5年間）

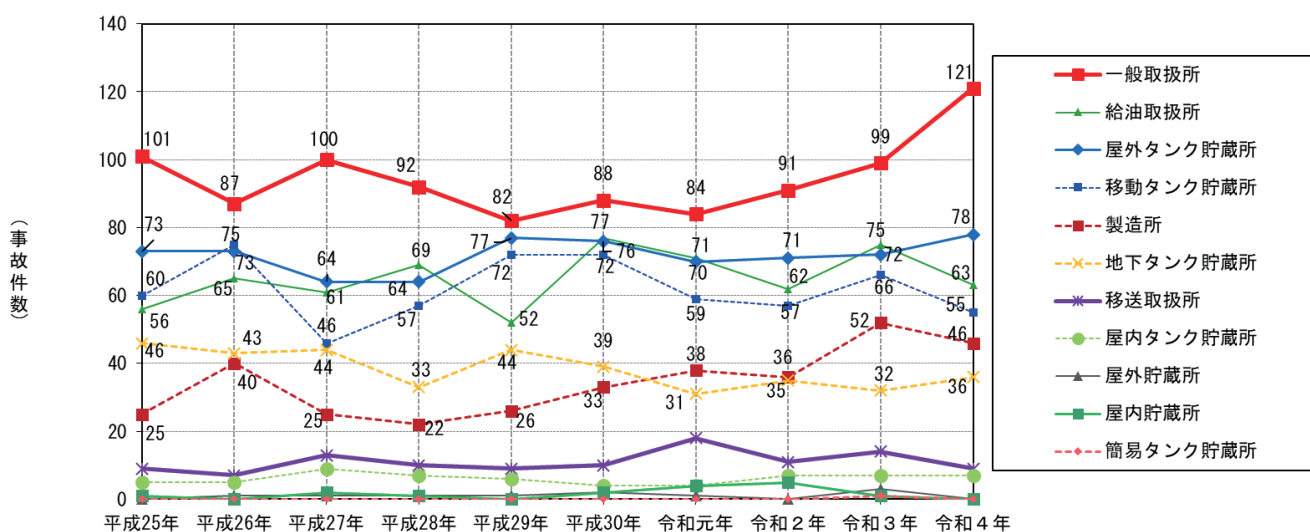
発生件数等 製造所等の別		平成30年		令和元年		令和2年		令和3年		令和4年	
		件数	1万施設 当たりの 発生件数	件数	1万施設 当たりの 発生件数	件数	1万施設 当たりの 発生件数	件数	1万施設 当たりの 発生件数	件数	1万施設 当たりの 発生件数
製造所		33 (1)	65.44 (1.98)	38 (1)	75.34 (1.98)	36 (1)	71.60 (1.99)	52	104.17	46	92.00
貯蔵所	屋内貯蔵所	2	0.40	4	0.81	5	1.02	1	0.20	0	0.00
	屋外タンク貯蔵所	76 (18)	12.65 (3.00)	70 (13)	11.79 (2.19)	71 (12)	12.10 (2.04)	72	12.44	78 (1)	13.62 (0.17)
	屋内タンク貯蔵所	4 (1)	3.87 (0.97)	4 (1)	3.95 (0.99)	7 (1)	7.06 (1.01)	7	7.16	7	7.28
	地下タンク貯蔵所	39 (5)	4.92 (0.63)	31 (4)	4.00 (0.52)	35 (8)	4.61 (1.05)	32 (3)	4.30 (0.40)	36 (1)	4.92 (0.14)
	簡易タンク貯蔵所	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	11.11	0	0.00
	移動タンク貯蔵所	72 (27)	10.98 (4.12)	59 (24)	9.05 (3.68)	57 (16)	8.79 (2.47)	66 (1)	10.21 (0.15)	55 (3)	8.54 (0.47)
	屋外貯蔵所	2	2.05	1	1.04	0	0.00	3	3.14	0	0.00
	小計	195 (51)	7.08 (1.85)	169 (42)	6.21 (1.54)	175 (37)	6.50 (1.37)	182 (4)	6.83 (0.15)	176 (5)	6.67 (0.19)
取扱所	給油取扱所	77 (8)	12.94 (1.34)	71 (8)	12.11 (1.36)	62 (8)	10.70 (1.38)	75 (1)	13.09 (0.17)	63 (4)	11.13 (0.71)
	第一種販売取扱所	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	第二種販売取扱所	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	移送取扱所	10 (1)	92.51 (9.25)	18 (3)	167.44 (27.91)	11 (3)	104.07 (28.38)	14	134.10	9	87.12
	一般取扱所	88 (9)	14.59 (1.49)	84 (5)	14.04 (0.84)	91 (14)	15.34 (2.36)	99 (3)	16.83 (0.51)	121 (2)	20.74 (0.34)
	小計	175 (18)	14.29 (1.47)	173 (16)	14.29 (1.32)	164 (25)	13.68 (2.09)	188 (4)	15.85 (0.34)	193 (6)	16.43 (0.51)
合計／平均		403 (70)	10.00 (1.74)	380 (59)	9.54 (1.48)	375 (63)	9.52 (1.60)	422 (8)	10.82 (0.21)	415 (11)	10.74 (0.28)

(注) 1 発生件数には、製造所等に配管で接続された少量危険物施設等において、指定数量以上の危険物が流出したものの件数を含む。

2 危険性：危険物施設1万施設当たりの流出事故の発生件数（危険物施設数は各年3月31日現在の完成検査済証交付施設数を用いた。）

3 () 内の数値は重大事故に係る数値を示す。

第12図 危険物施設における流出事故の発生件数の推移（最近の10年間）



- (注) 1 過去5年間の件数は第16表を参照。
 2 第一種販売取扱所及び第二種販売取扱所の流出事故は過去10年間発生していない。

第17表 危険物施設以外の場所における流出事故の概要（令和4年中）

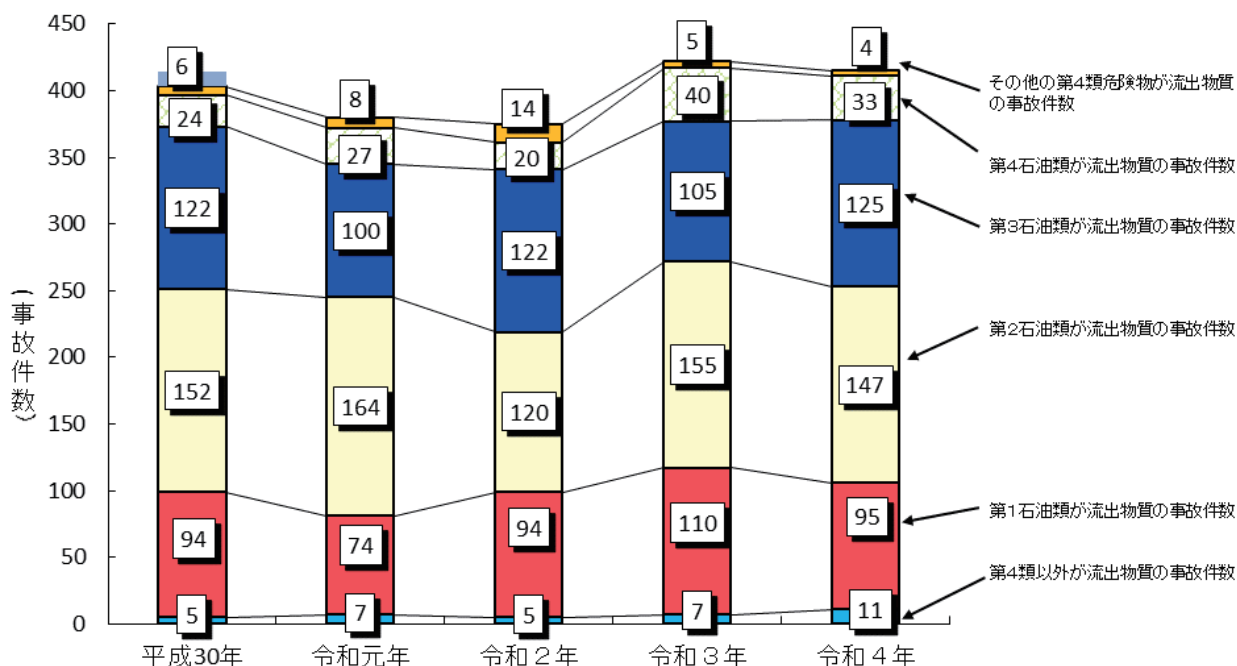
発生件数等 区分	発生件数 (ア)	被 害			
		死者数	負傷者数	損害額 (イ) (万円)	1件当たりの 損害額 (イ)/(ア) (万円)
無許可施設	2	0	1	1	0.5
危険物運搬中	11	0	1	92	8.4
仮貯蔵・仮取扱い	0	0	0	0	0.0

第18表 危険物施設における流出した危険物別の件数及び推移（最近の5年間）

流出物質等	年・施設区分	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年														計		
						貯蔵所								取扱所								
						製造所	屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計	給油取扱所	第一種販売取扱所	第二種販売取扱所	移送取扱所	一般取扱所		小計	
危険物																						
第1類	酸性固体	塩素酸塩類	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第1類	酸性固体	硝酸塩類	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
第2類	可燃性固体	硫黄	4 (1)	3	3	7	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	3	6
第2類	可燃性固体	金属粉	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第2類	可燃性固体	引火性固体	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第3類	自然発火性物質及び禁水性物質	塩化ケイ素化合物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
第4類	引火性液体	特殊引火物	2 (1)	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第4類	引火性液体	第1石油類	94 (8)	74 (6)	94 (9)	110 (2)	12	0	29	1	0	0	4	0	34	32 (1)	0	0	2	15	49 (1)	95 (1)
第4類	引火性液体	アルコール類	4	8 (1)	11 (2)	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	4
第4類	引火性液体	第2石油類	152 (25)	164 (33)	120 (26)	155 (4)	15	0	21	2	9	0	37 (3)	0	69 (3)	29 (2)	0	0	1	33 (2)	63 (4)	147 (7)
第4類	引火性液体	第3石油類	122 (32)	100 (17)	122 (24)	105 (2)	13	0	26 (1)	4	27 (1)	0	13	0	70 (2)	1 (1)	0	0	3	38 (1)	42 (3)	125 (3)
第4類	引火性液体	第4石油類	24 (3)	27 (1)	20 (2)	40	2	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	29	30	33
第4類	引火性液体	動植物油類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第5類	自己反応性物質	有機過酸化物	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
第5類	自己反応性物質	ニトロ化合物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第5類	自己反応性物質	アゾ化合物	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第6類	酸性液体	過酸化水素	0	1 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
第6類	酸性液体	硝酸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
危険物類別小計																						
第1類			1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
第2類			4 (1)	5	3	7	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	3	6
第3類			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
第4類			398 (69)	373 (58)	370 (63)	415 (8)	42	0	77 (1)	7	36 (1)	0	54 (3)	0	174 (5)	63 (4)	0	0	6	119 (2)	188 (6)	404 (11)
第5類			0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
第6類			0	1 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	2
合計			403 (70)	380 (59)	375 (63)	422 (8)	45	0	78 (1)	7	36 (1)	0	55 (3)	0	176 (5)	63 (4)	0	0	9	121 (2)	193 (6)	415 (11)

(注) () 内の数値は重大事故件数を示す。

第13図 危険物施設における流出した第4類危険物別の件数の推移（最近の5年間）



第19表 危険物施設以外の場所における流出した危険物別の件数（令和4年中）

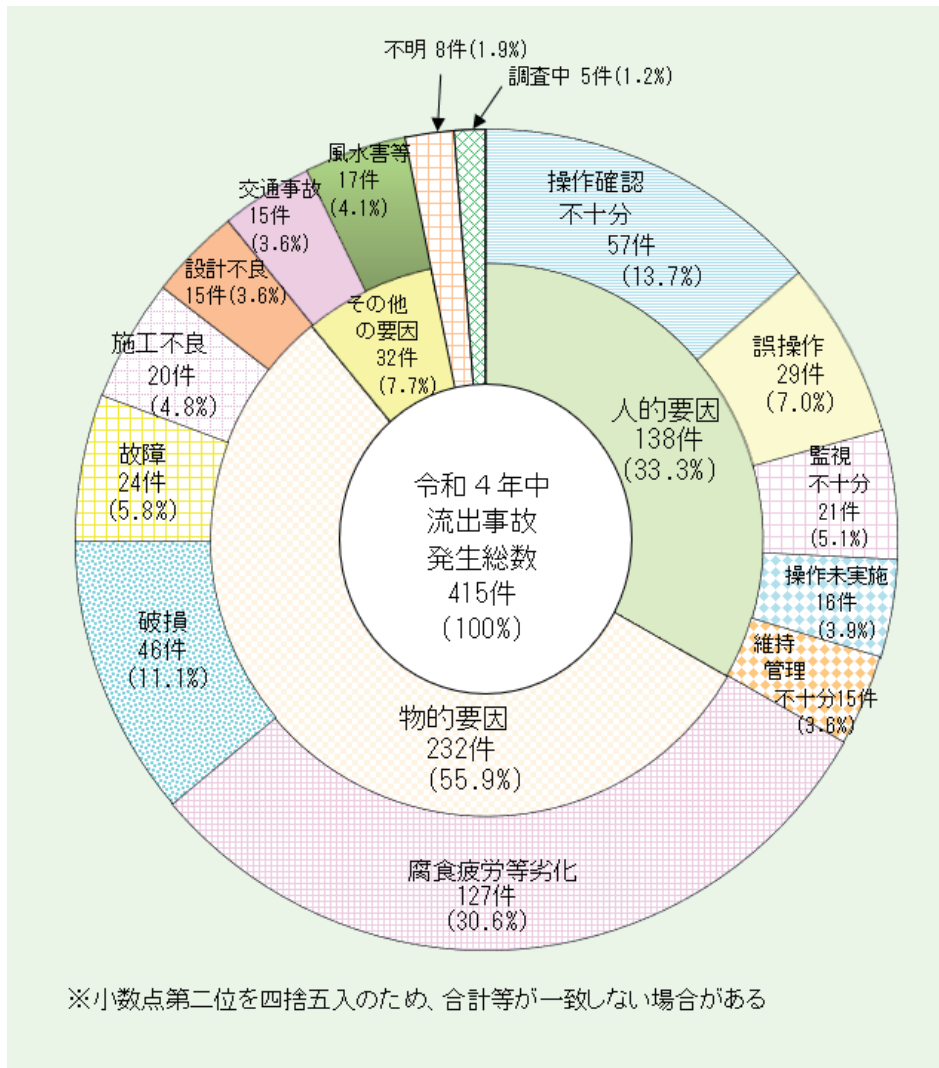
区分			流出危険物			
			無許可施設	危険物運搬中	仮貯蔵・仮取扱い	計
第4類	引火性液体	第1石油類	0	0	0	0
第4類	引火性液体	第2石油類	0	6	0	6
第4類	引火性液体	第3石油類	2	2	0	4
第4類	引火性液体	第4石油類	0	3	0	3
合計			2	11	0	13

第20表 危険物施設における流出事故の発生原因（令和4年中）

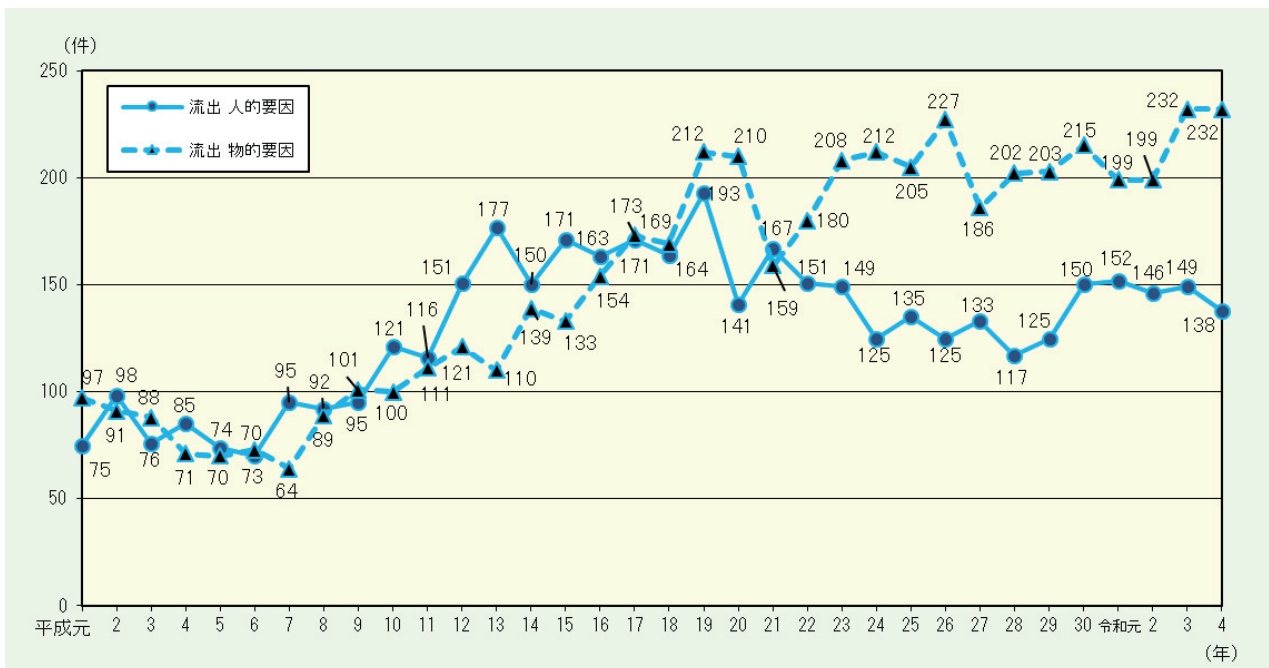
発生原因	製造所等の別		貯蔵所							取扱所					計	比率 (%)	令和3年			
	製造所	屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計	給油取扱所	第一種販売取扱所	第二種販売取扱所	移送取扱所	一般取扱所			小計	件数	比率 (%)	
人的要因	維持管理不十分	1	0	2	0	1	0	3	0	6	0	0	0	0	8	8	15	3.6	15	3.6
	誤操作	5	0	1	0	1	0	6	0	8	8	0	0	0	8	16	29	7.0	19	4.5
	操作確認不十分	9	0	5	1	3	0	18	0	27	7	0	0	1	13	21	57	13.7	69 (2)	16.4 (25.0)
	操作未実施	1	0	1	0	0	0	5	0	6	0	0	0	0	9	9	16	3.9	19	4.5
	監視不十分	0	0	1	0	1	0	3	0	5	8 (1)	0	0	0	8 (1)	16 (2)	21 (2)	5.1 (18.2)	27	6.4
	小計	16	0	10	1	6	0	35	0	52	23 (1)	0	0	1	46 (1)	70 (2)	138 (2)	33.3 (18.2)	149 (2)	35.3 (25.0)
物的要因	腐食疲労等劣化	18	0	33	4	18	0	2	0	57	13 (1)	0	0	3	36	52 (1)	127 (1)	30.6 (9.1)	151 (3)	35.8 (37.5)
	設計不良	1	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	11	12	15	3.6	7	1.7
	故障	5	0	0	1	4	0	1	0	6	4	0	0	0	9	13	24	5.8	20 (1)	4.7 (12.5)
	施工不良	4	0	9	0	0	0	1	0	10	0	0	0	0	6	6	20	4.8	24	5.7
	破損	1	0	5	1	6 (1)	0	3	0	15 (1)	16 (1)	0	0	4	10 (1)	30 (2)	46 (3)	11.1 (27.3)	30 (1)	7.1 (12.5)
	小計	29	0	49	6	28 (1)	0	7	0	90 (1)	33 (2)	0	0	8	72 (1)	113 (3)	232 (4)	55.9 (36.4)	232 (5)	55.0 (62.5)
その他の要因	放火等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0.0
	交通事故	0	0	0	0	0	0	12 (3)	0	12 (3)	3	0	0	0	0	3	15 (3)	3.6 (27.3)	14	3.3
	類焼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0.0
	風水害等	1	0	14	0	0	0	0	0	14	1	0	0	0	1	2	17	4.1	12	2.8
	悪戯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	1	0.2
	小計	1	0	14	0	0	0	12 (3)	0	26 (3)	4	0	0	0	1	5	32 (3)	7.7 (27.3)	27	6.4
不明	0	0	3 (1)	0	2	0	1	0	6 (1)	2	0	0	0	0	2	8 (1)	1.9 (9.1)	11 (1)	2.6 (12.5)	
調査中	0	0	2	0	0	0	0	0	2	1 (1)	0	0	0	2	3 (1)	5 (1)	1.2 (9.1)	3	0.7	
合計	46	0	78 (1)	7	36 (1)	0	55 (3)	0	176 (5)	63 (4)	0	0	9	121 (2)	193 (6)	415 (11)	100.0 (100.0)	422 (8)	100.0 (100.0)	

- (注) 1 調査中とは、令和5年4月1日現在において、いまだ調査中のものをいう。
 2 参考のため、右欄に前年の件数と比率を掲載した。
 3 ()内の数値は重大事故件数を示す。

第14図 令和4年中の危険物施設における流出事故の発生要因



第15図 危険物施設における流出事故の要因別の発生件数の推移



第21表 危険物施設以外の場所における流出事故の発生原因（令和4年中）

発生原因		製造所等の別	無許可施設	危険物運搬中	仮貯蔵・仮取扱い	計
人的要因	維持管理不十分		1	3	0	4
	操作確認不十分		0	3	0	3
	操作未実施		0	2	0	2
	小計		1	8	0	9
物的要因	腐食疲労等劣化		1	0	0	1
	破損		0	1	0	1
	小計		1	1	0	2
その他の要因	交通事故		0	2	0	2
	小計		0	2	0	2
合計			2	11	0	13

4 コンタミ事故

令和4年中に発生したコンタミ事故は第22表のとおり。

第22表 危険物施設におけるコンタミ事故の発生原因と危険物取扱者の立会いの有無
(令和4年中)

製造所等の別		貯蔵所			取扱所			計		
		地下タンク貯蔵所			給油取扱所					
		立会 あり	立会 なし		立会 あり	立会 なし		立会 あり	立会 なし	
人的 要因	維持管理不十分	0	0	0	1	1	0	1	1	0
	誤操作	0	0	0	7	1	6	7	1	6
	操作確認不十分	1	0	1	8	7	1	9	7	2
	監視不十分	1	0	1	2	0	2	3	0	3
	小計	2	0	2	18	9	9	20	9	11
物的 要因	施工不良	0	0	0	1	1	0	1	1	0
	小計	0	0	0	1	1	0	1	1	0
不明		0	0	0	2	2	0	2	2	0
合計		2	0	2	21	12	9	23	12	11

(注) コンタミとは、製造所等の危険物タンクで油種が異なるものが混ざった場合をいう。

5 令和4年中に発生した重大事故

(1) 火災事故

令和4年中に発生した火災事故における重大事故は次のとおり。

令和4年中に発生した火災事故における重大事故（10件）

覚知月	都道府県	製造所等の別	死傷者数及び 損害見積額	重大事故の内訳*			概要・原因・被害状況等
				人的被害指標	影響範囲指標	収束時間指標	
1月	東京都	一般取扱所	死者 0名 負傷者 0名 1,452万円			○	廃棄物処理施設の用に供する一般取扱所において、ボイラー内の水管が破損し、漏えいした水が気化したことでボイラー内の圧力が上昇、ボイラー内を負圧に保つための誘因通風機が過負荷のため停止、高温の未燃性ガスが給じん装置へ逆流し、給じん装置内の空気と混合されて、出火したもの。経年劣化により減肉した水管を補修した際に、不純物を含み溶接したため、高温にさらされている当該箇所ピンホールが発生し、そこから噴き出した蒸気が隣接水管に吹き付けられ、隣接水管が減肉し、破損したもの。
3月	宮崎県	一般取扱所	死者 1名 負傷者 7名 調査中	○	○		産業用火薬を製造する一般取扱所において、定常作業中に何らかの原因で爆発したもの。作業員1名が死亡、7名が負傷し、事業所内外の複数建物等が被災したもの。
4月	千葉県	一般取扱所	死者 0名 負傷者 0名 40万円			○	製油所の用に供する一般取扱所において、常圧蒸留装置/減圧蒸留装置のスタートアップ中に加熱炉内にて加熱炉チューブから原油漏れによる炉内火災が発生したもの。本来使用すべきチューブをCr含有の無い（あるいは少ない）チューブに取り付けたことにより、高温での硫化水素環境において耐食性が低下し、経年的な腐食によるチューブ内面の減肉が進行、開孔・火災に至ったと推定される。
6月	宮城県	移動タンク 貯蔵所	死者 1名 負傷者 0名 38万円	○			車検整備中の移動タンク貯蔵所において、第6室の上部の歩廊に生じた亀裂部分の修理のためアーク溶接をしたところ、アーク放電がタンク室内及びその付近に残存していたガソリン蒸気に引火し、第6室が爆発したもの。爆発により吹き飛ばされた作業員1名が死亡。
7月	栃木県	一般取扱所	死者 0名 負傷者 0名 2,400万円			○	一般取扱所において、粉塵の清掃作業が不十分であったため、誘導炉ダライホッパーの補修時に、ハンドグラインダーから飛散した火花が周辺に堆積したアルミ粉塵に着火し、周辺設備、電気ケーブル等に延焼したもの。

8月	新潟県	一般取扱所	死者 0名 負傷者 0名 1,897万円			○	一般取扱所において、建物の外壁内部の発泡ウレタン製断熱材等が焼損したものの。焼けの状況から外壁内部の断熱材部分から出火したものと推測され、出火箇所の状況から漏電による火災が強く疑われるが、漏電箇所が明らかではないため出火原因は不明とされた。
8月	岐阜県	一般取扱所	死者 0名 負傷者 0名 1,000万円			○	アスファルトリサイクルプラントの用に供する一般取扱所において、バグフィルターの入口付近の温度が上昇し、冷氣吸入ダンパーから出火したものの。定期的に清掃されていたものの、想定以上のアスファルトダストが排気ダクトに堆積し過熱着火したものの。
9月	宮崎県	一般取扱所	死者 0名 負傷者 0名 740万円			○	ポリマーを製造する一般取扱所において、乾燥工程である流動乾燥機から出火し、その本体が焼損したものの。1室に滞留したポリマーが長時間熱風にさらされたことで、ポリマーの脱塩酸が進行、何らかの原因により滞留したポリマーが蓄熱、添加剤の発火点以上に達し、発火したものの。その後ポリマーが炭化、赤熱し、流動乾燥機内で伝播したものと推定される。
11月	広島県	一般取扱所	死者 0名 負傷者 0名 7,446万円			○	ボイラー施設の用に供する一般取扱所において、バケットエレベーターのケーシングの補修作業のため、グラインダーを使用するとともにTIG溶接を行っていたところ、当該バケットエレベーター内から出火したものの。溶接前の散水が実施されなかったことにより、溶接熱によりケーシング内に付着した石炭粉に着火し、延焼したものの。
12月	福岡県	一般取扱所	死者 0名 負傷者 0名 1万円未満			○	ごみ処理施設の用に供する一般取扱所において、ピット内のごみを攪拌し焼却炉へ投入する作業中に、ピット内に混在していた金属製のごみとクレーンが接触した際に火花が発生し、周囲のゴミに燃え広がったものの。

* 「重大事故の内訳」は、第1表(注)2を参照

(2) 流出事故

令和4年中に発生した流出事故における重大事故は次のとおり。

令和4年中に発生した流出事故における重大事故 (11 件)

覚知月	都道府県	製造所等の別	死傷者数及び 損害見積額	重大事故の内訳*		概要・原因・被害状況
				人的被害 指標	流出被害 指標	
1月	愛知県	地下タンク 貯蔵所	死者 0名 負傷者 0名 939万円		○	ボイラー施設へ燃料を供給する地下タンク貯蔵所において、配管経路の途中にあるバルブ付近が破損し、重油約3,500リットルが約10キロメートル離れたダムまで流出したもの。バルブ上方にあるサービスタンク内に結露が生じ、結露水が配管内を通過して下方にあるバルブへ移動、バルブに溜まった結露水が気温低下により凍結し、膨張したことでバルブが破損したものと推定される。
3月	北海道	一般取扱所	死者 0名 負傷者 0名 33万円		○	共同住宅等の燃料供給用に供する一般取扱所において、大雪による積雪により、屋上にある中継タンク2次側の配管のフランジ接続部に亀裂が生じ、灯油2,978リットルが流出したもの。流出した灯油は排水溝から下水管へと流出し、約5キロメートル離れた下水処理場まで達した。
6月	京都府	一般取扱所	死者 0名 負傷者 0名 30万円		○	一般取扱所内において、移動タンク貯蔵所に灯油を注油中、危険物取扱者がその場を離れたため、移動タンク貯蔵所から約3,300リットルの灯油があふれ、一般取扱所の敷地外に流出した。処理しきれなかった灯油は事業所外の側溝に流れ込み、約350メートル先の海上まで流出したもの。
7月	北海道	給油取扱所	死者 0名 負傷者 0名 99万円		○	給油ノズルの変形及びホースの破断により休止していた自家用給油取扱所において、固定給油設備の電源が何らかの要因で稼働し、破断したホースから地下貯蔵タンクに残っていた灯油約1,000リットルが約150メートル離れた海岸まで流出したもの。
7月	北海道	給油取扱所	死者 0名 負傷者 0名 調査中		○	給油取扱所において、地下埋設配管からガソリン約2,100リットルが地中に流出したもの。埋設配管を掘り起こしていないため原因は調査中であるが、腐食による穿孔が原因と推察される。事業者は漏えい検査管による検査を怠り、給油中にエアが混入する事象が起こった際も、すぐに使用停止せず、数日使用を継続していたため、消防機関への通報が遅れた。

8月	岡山県	給油取扱所	死者 0名 負傷者 0名 1万円未満		○	自家用給油取扱所において、ノズルをラッチにより開放状態に固定して移動タンク貯蔵所へ注油中、その場を離れている間、ノズルから軽油が出続け、注入口から溢れた軽油約 1,600 リットルが防護枠の水抜き管を通して敷地及び少なくとも 1 キロメートル離れた河川まで流出したものの。
9月	山形県	移動タンク貯蔵所	死者 0名 負傷者 0名 16万円		○	移動タンク貯蔵所がアンダーパス付近の交差点で左折しようとしたところ、後方から来たトラックがタンク後方に追突し、タンクに亀裂が入り灯油約 1,950 リットルが周囲 300 メートルに流出したものの。
10月	和歌山県	給油取扱所	死者 0名 負傷者 0名 1万円未満		○	給油取扱所において、固定給油設備に接続されている地下埋設配管から重油約 2,000 リットルが地中に漏れ、岸壁地盤から海面約 190 メートルに流出したものの。地下埋設配管のネジエルボ部分に直径約 1 センチメートルの穿孔が空いており、塩害による腐食と推定される。
11月	北海道	移動タンク貯蔵所	死者 0名 負傷者 0名 調査中		○	移動タンク貯蔵所が配送ルートを誤り、幅員約 4 メートルの砂利道を走行中、路肩に寄りすぎたためハンドルをとられ、法面を下り、農業用水路へ転覆したものの。転覆の際にマンホールが土壌との接触又は衝撃により開放されて灯油 1,600 リットルが農業用水路から約 160 メートル下流の河川へ流出したものの。
11月	愛知県	屋外タンク貯蔵所	死者 0名 負傷者 0名 150万円		○	屋外タンク貯蔵所において、屋外タンクの側板の下部から重油約 19 キロリットルが流出し、事業所の排水路から河川の排水機場まで約 1 キロメートルにわたり拡散し、排水機場の手前に約 800 メートルにわたり滞留したものの。原因は不明であるが、屋外タンク貯蔵所の側板の下部に穿孔があり、そこから流出したものの。
12月	北海道	移動タンク貯蔵所	死者 0名 負傷者 0名 3,140万円		○	移動タンク貯蔵所が配送のため峠を下っている最中、路面の凍結によりジャックナイフ現象が発生し操縦不能となり、車両前部が反対車線側の路外に逸脱、横転したものの。タンクが破損し、灯油約 4,000 リットルが道路の側溝上を約 400 メートルの範囲で流出したものの。

* 「重大事故の内訳」は、第 1 表（注） 2 を参照

附 属 資 料

危険物施設について

危険物施設は次表の区分に分けられ、それぞれの施設数（各年における3月31日現在の完成検査済交付施設数）は次のとおりとなっている。

製造所等の別		年				
		平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
製 造 所		5,043	5,044	5,028	4,992	5,000
貯 蔵 所	屋 内 貯 蔵 所	49,455	49,372	49,255	49,199	49,106
	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	60,063	59,368	58,689	57,868	57,252
	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	10,331	10,116	9,918	9,771	9,609
	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	79,305	77,522	75,940	74,487	73,151
	簡 易 タ ン ク 貯 蔵 所	955	931	926	900	889
	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	65,591	65,196	64,880	64,667	64,434
	屋 外 貯 蔵 所	9,776	9,650	9,563	9,547	9,457
	小 計	275,476	272,155	269,171	266,439	263,898
取 扱 所	給 油 取 扱 所	59,513	58,646	57,934	57,283	56,623
	販 売 取 扱 所	1,594	1,556	1,518	1,490	1,456
	移 送 取 扱 所	1,081	1,075	1,057	1,044	1,033
	一 般 取 扱 所	60,312	59,813	59,335	58,821	58,348
	小 計	123,923	122,500	121,090	118,638	117,460
合 計		404,442	399,699	395,289	390,069	386,358

Ⅱ 令和4年中の危険物に係る事故 (流出事故)

凡 例

- 1 危険物に係る事故は、火災、流出事故及びその他の事故に区分し掲載した。
- 2 火災及び流出事故は、原則として、すべての調査項目を掲載したが、軽度のものは、調査項目のうちの一部のみを掲載した。
- 3 その他の事故は、火災又は流出を伴わない危険物施設の破損等の事故について、その内容を分類し、簡単に紹介した。
- 4 調査表の記載は次によった。

(1) 事業所の種別

特別防災区域内－石油コンビナート等災害防止法第2条第2号に規定する区分

- 1 種－同法第2条第4号に規定する第一種事業所
- 2 種－同法同条第5号に規定する第二種事業所

(2) 貯蔵・取扱い・運搬の別

危険物施設にあっては、その区分及び設置の完成検査年月日、危険物の仮貯蔵又は仮取扱いにあっては、仮貯蔵・仮取扱いの別及びその承認に依る貯蔵又は取扱いの開始日、危険物の運搬又は無許可施設にあってはその別

(3) 取扱者の概要

人的要因に基づく事故の場合、災害の原因となる危険物を実際取り扱った者の年齢・当該取扱行為の経験年月

(4) 人的被害

当 事 者	発災事業所の従業員をいい、協力事業所、下請け等の従業員を含むものとする。
防災活動従事者	当事者を除く。
第 三 者	上記を除く者
死 亡 者 数	当該事故による死亡者及び当該事故により負傷し、48時間以内に死亡した者

流 出 事 故

1 製造所

1 事故名	重油直接脱硫装置群 第2硫黄回収装置からの硫黄流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 8日 6時 23分 推定・ 確定	4 発 見	5月 8日 6時 23分		
5 覚 知	5月 8日 6時 23分	6 鎮 圧 応急処置完了	5月 8日 8時 53分		
7 鎮火・処理完了	5月 8日 9時 52分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：西 風速：4m/s 気温：13℃ 湿度：48%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製)、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 仙台地区				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 438,000L 2,190倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 3,181,000L 3,181倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 添加剤 1,200L 0.6倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 5,599,000L 2,799.5倍 第4類第4石油類 潤滑油 30,000L 5倍 第2類硫黄 硫黄 450,000kg 4,500倍 倍数の合計： 12,676.1倍				
12 施 設 装 置	設置の完成：平成 7年 4月 25日 直近の完成：令和 3年 7月 15日				
名 称：重油直接脱硫装置 番 号 (2106)					
能 力：硫黄回収装置 450t/日					
13 機 器 等	温度圧力：163℃、0.34Mpa				
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)					
規 模：出口配管 6B 肉厚7.1mm STPG370					
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分				
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 高温) 分類： 第2類硫黄 名称： 硫黄(295.2L)				
材 質：鋼鉄					
15 発 生 時	18 取扱者の概要				
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
作 業 状 況：点検中 番 号 (5)	20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無				
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： 令和4年5月8日(日)6時23分頃、運転員が作業中に第2硫黄回収装置VE-07A及びVE-07B流出口(点検口)からの硫黄流失(溢流)を覚知した。 覚知する前に作業員が硫黄配管の詰まりを取り除こうと配管の貫通作業を行ったことから、配管内のスケールが一か所に堆積し配管を閉塞させたため、硫黄が逆流したものと推定。					
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 維持管理不十分		着火原因		番号 ()							
	関連原因											
	発生原因の状況： タンクの前回整備が2017年、硫黄配管については2013年と、それぞれ前回整備から5年間、9年間が経過していた。 そのため、硫黄配管には事故発生前から経年的なスケールの堆積により閉塞傾向にあったと推測される。 そのような状況下、上流配管の貫通作業によって流出したスケールが、硫黄配管集合部に持ち込まれ、閉塞傾向を更に悪化させた結果、行き場を失った液体硫黄が流出口(点検口)から流出(溢流)したと考えられる。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	設備		監理・保守		点検・整備		確認不足					
	設備		監理・保守		点検・整備		その他					
	関連原因の詳細											
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害						28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：				
区分								なし				
当 事 者		0	0	0	0							
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況：				
第 三 者		0	0	0	0			なし				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関		7 台	0 隻	0 機	23 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	82 人	物質の被害状況：	
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台	0 隻	0 機	4 人	硫黄 295.2L	
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関		8 台	0 隻	0 機	16 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 [1万円未満]、1万円以上 () 万円)	
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (99)						
情報集集活動実施						情報取集活動及び地域への広報活動実施						
31 防災活動上の問題点												
行政措置	32 施設名		製造所(重油直接脱硫装置群)				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止		年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和 3 年 4 月 15 日		平成 29 年 7 月 15 日	
	改善命令等		年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日	
	停止解除		年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項						34 当該施設に係る法令違反の有無		有・[無]			
その他		指導書(原因調査及び改善)		令和 4 年 5 月 9 日		年 月 日		内容：				
35 今後の対策や所見		4年に1度の定期修理工事時に硫黄配管のフランジ部などを開放し閉塞状況に応じた清掃を実施する。										

1 事故名	重油間接脱硫装置群の減圧軽油脱硫装置薬品注入ノズルフランジ溶接部から軽油流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 6日 22時 17分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	7月 6日 22時 17分	
5 覚 知	7月 6日 22時 25分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 7日 0時 57分	
7 鎮火・処理完了	7月 7日 1時 01分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東 風速：2m/s 気温：21.5℃ 湿度：97.4%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				11 発 生 場 所
					区 分：①. 事業所内 (<input checked="" type="checkbox"/> 製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 仙台地区
12 施 設 装 置	名 称：重油間接脱硫装置 番 号 (2107) 能 力：減圧軽油脱硫装置 40,000バレル/日				16 発生施設規制区分等
					施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 6,360,000L 6,360倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 添加剤 4,300L 4.3倍 第4類第2石油類(水溶性液体) 添加剤 1,000L 0.5倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 残渣油・添加剤 540,000L 4,770倍 第4類第4石油類 潤滑油 6,000L 1倍 倍数の合計： 11,135.8倍
13 機 器 等	温 度 圧 力：8.37Mpa				設置の完成：昭和48年 1月 27日 直近の完成：令和3年 7月 9日
	名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：口径1B 公称肉厚6.4mm				17 物 質 の 区 分
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質：鋼鉄				①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(45L)
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)				18 取扱者の概要
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： 令和4年7月6日(水)22時17分頃、B-5地区減圧軽油脱硫装置(MHC)薬品注入ノズルフランジ近傍にてガス(軽油を含む)の噴出を発見した もの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他					

25	主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因 設計不良					
原	発生原因の状況：					
	<p>【インナーノズル及びフランジの腐食原因】 インナーノズルが本管の中心部に設置された状態でプロセスガスが流れている場合には、注入された薬品は分散されるが、フランジ際で折損した場合、本管内と比べて注入された薬品の分散は著しく低くなる。 また、薬品には、水分(純水で四酸化ソダを希釈)が含まれており、プロセスガス中の腐食性物質(アンモニア・硫化水素)が水分に濃縮した結果、折損部下部に著しい腐食が進行したと推定する。 さらに、フランジ内に挿入されているバルブ内では、プロセスガスが流入し、水分に濃縮した腐食物質が付着し腐食が進行したものと推定する。</p> <p>【インナーノズル消失の原因】 インナーノズルの本管挿入部は、本管内のプロセスガスの流れによる応力が掛かっており、その応力はフランジ際に集中している、その結果、下面の溶接線の引っ張り応力によりインナーノズルが折損したと推定する。 なお、インナーノズル構造は、フランジ面から本管内に挿入されているが、サポート(ガセット)は設置されていない構造であった。(写真参照)</p>					
因	主要原因の詳細					
	第I層	第II層	第III層	第IV層		
	腐食	環境	工程の中で腐食環境の生成(塩素イオン、水素イオン、酸、硫化物等)			
	関連原因の詳細					
	設計不良	機能	その他	その他		
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から					
27	人的被害				28 物的被害	
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因
区分						職業又は職名
当 事 者		0	0	0	0	
防災活動従事者		0	0	0	0	
第 三 者		0	0	0	0	
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況					
消 防 機 関	10台	0隻	0機	38人	自 衛	0台 0隻 0機 30人
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	3台 0隻 0機 8人
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台 0隻 0機 0人
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台 0隻 0機 0人
	物質の被害状況： 軽油45L					
	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円					
30	実施した防災活動の状況					
公設消防機関：番号 (99)			自衛防災・消防組織等 番号 (99)			
情報収集活動実施			情報収集活動実施			
31	防災活動上の問題点					
32	施設名	重油直接脱硫装置群			33 定期点検等	消 防 法
政 行 措 置	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項	法第12条第1項、法第16条の3の2			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>
その他	予防査察結果通知書 令和4年7月8日			内容：		
35	今後の対策 や所見	漏えい箇所及び検査により減肉や折損が確認された範囲の取替及びインナーノズルとフランジ貫通部にサポート(ガセット)を設置した。 フランジ下流へのサポート設置目的はインナーノズルの折損対策であり、フランジ上流へのサポートは、地震への対応。設置したサポートの有効性は、運転開始後に状況確認のため放射線検査(点検頻度は検査結果により決定)を行い、次回定期修理工事となる2023年6月にフランジを開放しインナーノズルの健全性確認を実施する予定。 また、次回定期修理工事となる2023年6月までにインナーノズルの構造・材質変更及び薬品効果の検証を行い、必要に応じてインナーノズルなどの撤去を含め検討する。				

1 事故名	危険物を収納したドラム缶をフォークリフトにて搬送中にドラム缶1缶が落下しアロンマイティが流出した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 23日 15時 53分	推定・確定	4 発 見	8月 23日 15時 53分	
5 覚 知	8月 23日 16時 55分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 23日 15時 55分	
7 鎮火・処理完了	8月 23日 18時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南東 風速：2.5m/s 気温：30.8℃ 湿度：71.1%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 電子部品・デバイス製 番 号 (2919) 造業 電子部品・デバイス製造 業 その他の電子部品製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) アロンマイティ 11,599.3L 58倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) TD-1000 2,105.2L 10.53倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) メチルエチルケトン 1,490.6L 7.45倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン 1,385.6L 6.93倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 酢酸エチル 554.3L 2.77倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) SF-C-329 2,437.4L 12.19倍 第4類第1石油類(水溶性液体) SPハードナーB 123.2L 0.31倍 第4類第1石油類(水溶性液体) アセトン 25.2L 0.06倍 第4類第2石油類(水溶性液体) PGM 1,088.1L 0.54倍 第4類第3石油類(水溶性液体) Nメチルピロリドン 583.6L 0.15倍 第4類アルコール類 メタノール 378.7L 0.95倍 第4類アルコール類 イソプロピルアルコール 12.7L 0.03倍 第4類アルコール類 DMJ-119-T1 18.7L 0.05倍 倍数の合計： 99.96倍				
12 施 設 装 置	14 発 生 箇 所				
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	名 称： その他 番 号 (999)				
能 力：	材 質： その他				
13 機 器 等	15 発 生 時				
名 称： ドラム等容器 番 号 (201)	運 転 状 況： 運搬中 番 号 (11)				
規 模： 容量200L	作 業 状 況： その他 番 号 (99)				
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分				
名 称： その他 番 号 (999)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： アロンマイティ(160L)				
15 発 生 時	18 取 扱 者 の 概 要				
運 転 状 況： 運搬中 番 号 (11)	19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者				
作 業 状 況： その他 番 号 (99)	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要				
	20 危 険 物 保 安 監 督 者				
	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い				
	①. 有 2. 無				
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 製造所でアロンマイティと難燃剤を混練した危険物をドラム缶に収納したあと、屋外の屋内貯蔵所へフォークリフトにて2缶搬送中に、搬送治具から1缶が外れて地盤面に落下し、そのはずみで蓋が外れアスファルト上に約160Lが漏れたもの。					
24 緊 急 処 置 の 状 況 [有] 番 号 (10) 無 その他					

25	主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
原 因	関 連 原 因									
	発生原因の状況： フォークリフトに接続した搬送治具(カムオート)はドラム缶の蓋部分を挟んで吊り上げて同時に2缶搬送することができる。今回の事象は、2缶を搬送中に1缶が何らかの原因で外れて落下した。考えられる落下原因は、挟み込みが浅く落下した可能性がある。当時の取扱いは搬送前に定置にドラム缶を置き、2缶が正しく搬送治具に吊られているか確認してから搬送している。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		その他			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 液体漏えい対策キットを用いて速やかに処置し、流出範囲を抑えた。		
区分										
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 無し		
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： アロンマイティ(160L)
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
						損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text" value=""/> 万円)				
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
調査活動										
31 防災活動上の問題点 通報の遅れ。										
32 行 政 措 置	施設名					33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>		
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
35 今後の対策 や所見	搬送治具(カムオート)とドラム缶をラッシングバンドで巻き付け、挟み込みが外れてもドラム缶が落下しないようにする。また、固定した状態を2名以上の作業者で確認する。 搬送治具(カムオート)の挟み込み方式を変更する。(現状の蓋部分の挟み込みからドラムの胴体部分を挟み込む)									

1 事故名		重油直接脱硫装置群 第2硫黄回収装置からの硫黄流出事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		10月 6日 4時 40分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	10月 6日 4時 40分		
5 覚 知		10月 6日 5時 09分	6 鎮 圧		10月 6日 6時 21分		
7 鎮火・処理完了		10月 6日 6時 45分	6 応急処置完了				
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：曇		風向：北北西		風速：2m/s 気温：11℃ 湿度：74%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				区 分：①. 事業所内 (<input checked="" type="checkbox"/> 製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：仙台地区			
12 施 設 装 置				16 発生施設規制区分等			
名 称：重油直接脱硫装置 番 号 (2106)				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他			
能 力：硫黄回収装置 450t/日				貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所			
13 機 器 等				類・品名・名称・数量・倍数：			
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)				第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 438,000L 2,190倍			
規 模：出口配管 6B 肉厚7.1mm STPG370				第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 3,181,000L 3,181倍			
14 発 生 箇 所				第4類第3石油類(非水溶性液体) 添加剤 1,200L 0.6倍			
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)				第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 5,599,000L 2,799.5倍			
材 質：鋼鉄				第4類第4石油類 潤滑油 30,000L 5倍			
15 発 生 時				第2類硫黄 硫黄 450,000kg 4,500倍			
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)				設置の完成：平成 7年 4月 25日			
作 業 状 況：点検中 番 号 (5)				直近の完成：令和 3年 7月 15日			
19 危険物保安統括管理者				17 物 質 の 区 分			
①. 選任有 2. 選任無		20 危険物保安監督者		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
3. 不要				5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
				(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧)			
				(低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温)			
				分類：第2類硫黄 名称：硫黄(10L)			
				18 取扱者の概要			
21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有					
		2. 無					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有							
23 事 故 の 概 要： 令和4年10月6日(木)4時40分頃、パトロール中の職員が構内C-5地区重油脱硫装置群第2硫黄回収装置のサルファーシールポットから硫黄の流出(既に流出は停止)を発見したものを。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

原因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 事故発生時にサルファーシールボットから硫黄と共に蒸気のようなものの噴出が確認されていたこと、上流のサルファーコンデンサーで過去にプラグ打ち施工をしたチューブにおいてプラグ外れ及び開口が生じていたことから、サルファーコンデンサー内にリークした水分が硫黄と共にサルファーシールに持ち込まれ、サルファーシール内で突沸することによって硫黄が間欠的にサルファーシールボット外へ噴出したものと推定する。 サルファーコンデンサーの不具合原因については、過去の補修で、管端部が減肉したチューブに対してプラグ施工を実施したが、プラグ当り面の密着性が不足していたことによりプラグ保持力が低下し、プラグ外れに至ったものと推測する。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	施工不良		施工		取り付け不良					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： なし。 施設等の被害状況： なし。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	30 人	物質の被害状況： 硫黄 10L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	4 台	0 隻	0 機	4 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 情報収集活動実施。					自衛防災・消防組織等 番号 (99) 現地本部、非常時対応本部の設置。 情報収集活動実施。					
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名	重油直接脱硫装置群			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	関係条項	法12-1、法16の3-1、法16の3の2-2			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無				
その他	予防査察結果通知書 令和 4 年 10 月 7 日			内容：						
35 今後の対策 や所見	今回のプラグ不具合箇所及び同様の不具合リスクがあるチューブ(管端部が減肉したチューブにプラグ施工した箇所)に対して、既設チューブを抜管してダミーチューブを挿入したうえで両端プラグ施工を実施しシール性能を確保する。 プラグ施工時は、管端部の状況(凹凸、偏心、面粗さ)に合わせた補修方法を実施する。 なお、当該サルファーコンデンサーは2023年定期修理工事で一式更新予定。									

1 事故名	フランジ部のシートパッキンが劣化し破断したことによりスチレンが流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 16日 4時 17分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	7月 16日 5時 12分	
5 覚 知	7月 16日 5時 25分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 16日 7時 22分	
7 鎮火・処理完了	7月 16日 7時 22分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東 風速：2m/s 気温：24℃ 湿度：99%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 業 態：	区 分： 特別防災地区名：				
①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <input checked="" type="checkbox"/> 第2種、その他) 製造業 化学工業 有機化学 番号 (1735) 工業製品製造業 プラスチック製造業	①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 鹿島臨海地区				
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等				
名 称： 能 力：	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) SOL2 14,665L 73.33倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) WS1 283L 1.42倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) WS2 74L 0.37倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) WSF 14,763L 73.82倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 774トリチロリン 780L 3.9倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) エチルアミンニウム ⁺ クロライド ⁻ 100L 0.5倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) エチルクロロキシ 1,300L 6.5倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ジ ⁺ エチルアミンニウム ⁻ イオン 100L 0.5倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン 5,221L 26.11倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) アチルクロライド ⁺ 5,250L 26.25倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ヘキサン 700L 3.5倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 1,4-ジオキソリン 381L 1.91倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) DP2 13,908L 69.54倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) DP5 6,670L 33.35倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) SOL 10,270L 51.35倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) SOL2 32,390L 161.95倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) SOL4 125L 0.63倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) DIC-TBC 5L 0.03倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) スチレン 1,400L 1.4倍 第4類第2石油類(水溶性液体) N-ソ ⁺ ア ⁻ ピ ⁺ ピ ⁻ 6L 0倍				
13 機 器 等	温度圧力： 名 称： 規 模：				
温度圧力： 名 称： 規 模：	番号 (606) 配管(送油、注入管等) 径 25A				
14 発 生 箇 所	設置の完成： 直近の完成：				
名 称： 材 質：	番号 (213) パッキング その他				
15 発 生 時	17 物 質 の 区 分				
運 転 状 況： 作 業 状 況：	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：スチレン(1,172L)				
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者	18 取扱者の概要	
21 危険物取扱者 の取扱・立会い	1. 有 ②. 無		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 反応器でスチレンの反応工程中において、スチレン仕込み配管フランジ部からスチレンが流出したもの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()		
	関 連 原 因						
原	発生原因の状況： フランジパッキンはテフロン製であり、11年間使用されている。保冷材をはがして、確認するとフランジ部のパッキンが膨潤し、ちぎれた状態であった。経年劣化により、パッキンにスチレンが浸透して膨潤し、仕込みのたびに繰り返しポンプ吐出圧力が加わってパッキンが破断し、流出に至ったと判断したもの。						
	主原因の詳細						
因	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）		
関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害				28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	
区分						職業又は職名	
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
消 防 機 関	7 台	0 隻	0 機	23 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機 15 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
物質の被害状況： フランジパッキン1枚が破損、第4類第2石油類（非水溶性） スチレン 1,172L流出							
損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (24 万円)							
30 実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 (99) 情報収集を実施			自衛防災・消防組織等 番号 (3, 5) 拡散防止、回収、安全管理を実施				
31 防災活動上の問題点							
32	施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日		年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日		年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日		年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：	
その他	年 月 日		年 月 日				
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭					
35	今後の対策 や所見 ・テフロンシートを渦巻きガスケットに変更し、ガスケットの交換周期を明確化する。						

1 事故名	アロマ製造装置のキシレンリランカラム入口配管の流量計の清掃作業時にキシレン等の混合物が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 5日 15時 00分	推定・ 確定	4 発 見	8月 5日 15時 00分	
5 覚 知	8月 5日 15時 51分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 5日 16時 15分	
7 鎮火・処理完了	8月 5日 16時 34分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北東 風速：8.5m/s 気温：23℃ 湿度：90%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製)、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区				
	16 発生施設規制区分等				
施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類特殊引火物 C5(ペンタン)留分 570,000L 11,400倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 1,113,000L 5,565倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) リフォーム 843,000L 4,215倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 10,097,000L 50,485倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 脱着剤 1,029,000L 1029倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 添加剤 2,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 添加剤 2,900L 2.9倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 燃料油 384,000L 192倍 第4類第3石油類(水溶性液体) 溶剤 195,000L 48.75倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 添加剤 3,000L 15倍 倍数の合計： 72,962.65倍					
12 施 設 装 置	設置の完成：平成19年 9月 15日 直近の完成： 年 月 日				
名 称：減圧蒸留装置 番 号 (2102)	17 物 質 の 区 分				
能 力：	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：キシレン(0.4L)				
13 機 器 等	18 取扱者の概要				
温度圧力：66℃、1.2Mpa	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
名 称：蒸留、精留塔(スクリュー、ストリッパ) 番 号 (101)	20 危険物保安監督者				
規 模：全長 31,573mm全幅 9,500mm	21 危険物取扱者の取扱・立会い				
14 発 生 箇 所	①. 有 2. 無				
名 称：指示計器 番 号 (307)	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
材 質：鋼鉄	23 事 故 の 概 要： スタートアップ時において、アロマ製造装置のキシレンリランカラムの入口配管の流量計の導圧管に詰まりがあり、確認及び清掃作業のため、取り出し弁を微開にしたところ噴霧流体が流出したものの。作業員1名が被液したものの。				
15 発 生 時	24 緊急処置の状況 有 番号 () 無				
運 転 状 況：スタートアップ中 番 号 (2)					
作 業 状 況： 番 号 ()					

原因	25 主 原 因 故障		着火原因				番号 ()			
	関連原因									
	発生原因の状況： スタートアップ時において、アロマ製造装置のキシレンリランカラムの入口配管の流量計の指示に不調があった。発信器の点検を実施したところ、導圧管につまりがあることが判明し、液抜きプラグ及び受信機受圧部を取り外し、導圧管ノズル部の清掃を行い、取り出し弁を微開にしたところ内部流体のキシレン混合物が噴霧状に流出したものの。作業員1名が被液したものの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	故障		機能		機器の機能の停止					
	故障		機能		機器の異常動作					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： なし		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性) キシレン(アロマの混合物含む)0.4L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 情報収集、安全確認を実施						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 救急事案としての活動				
31 防災活動上の問題点										
32 施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	年 月 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無		
措 置	その他	年 月 日		年 月 日		内容：				
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭										
35 今後の対策や所見 詰まり時の対応としては、保全部門に補修依頼する(ルール化の徹底)										

1 事故名	屋外タンク貯蔵所から製造所への屋外配管腐食によるポリエーテルポリオール流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	9月 9日 12時 30分		
5 覚 知	9月 9日 15時 40分	6 鎮 圧 応急処置完了	9月 9日 17時 10分		
7 鎮火・処理完了	9月 9日 20時 10分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (消防より用件があり電話中覚知)				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東 風速：3m/s 気温：27℃ 湿度：75%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： ①特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 油脂加工 番 号 (1754) 製品・石けん・合成洗剤・界面活 性剤・塗料製造業 塗料製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) Pb-octoate24% 190L 0.19倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) エバコートZero-1S 26,925L 26.93倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) T-11硬化剤 28,080L 14.04倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) DSカ7-セロ主剤 18,000L 9倍 第4類第4石油類 DSカ7-主剤 18,000L 3倍 第4類第4石油類 T11主剤 12,040L 2.01倍 第4類第4石油類 エバコートZero-1Sプレポリマー 16,000L 2.67倍 倍数の合計： 57.84倍 設置の完成： 平成 6年 3月 15日 直近の完成： 令和 4年 8月 15日				
12 施 設 装 置	13 機 器 等				
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	温度圧力： 40℃、0.2Mpa				
能 力： 屋外配管	名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)				
13 機 器 等	規 模： 配管2インチ				
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分				
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第4石油類 名称： ポリエーテルポリオール(10L)				
材 質： その他	18 取扱者の概要				
15 発 生 時	19 危険物保安 統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物 保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無				
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
作 業 状 況： 番 号 ()	23 事 故 の 概 要： 屋外タンク貯蔵所から製造所に送る屋外配管からの流出。従業員がアスファルト上に危険物が垂れている(10L程度)を確認。配管のバルブを閉鎖し金属バテにて流出を防止。周辺施設、河川等への流出はない。				
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

原 因	主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 屋外配管には保温材及びカバーが取り付けられており、隙間より雨水が侵入し配管が腐食したもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 屋外配管の腐食により、危険物が保有空地内のアスファルトに幅1m、長さ2mにわたり漏えいした。		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 屋外配管の腐食により、危険物が保有空地内のアスファルトに幅1m、長さ2mにわたり漏えいした。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	1 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類(非水溶性)ポリエーテルポリオールが10L程度流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 危険物の流出は少量で、配管バルブを閉め、金属パテにて流出部を補修したとの情報であった為調査出場。流出状況及び流出部の確認を実施。						自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5) 配管のバルブの閉鎖。配管カバーを取外し漏えい箇所を金属パテにて閉鎖。吸着マットにて流出危険物を除去。				
31 防災活動上の問題点										
消防より用件があり電話したところ、危険物の流出が対応中との情報をえる。対応する者と消防機関への通報者を分け早期に通報を行う必要がある。屋外配管は車両が通れるよう地上10m程度の高さの位置にあり、専用の車両等がないと流出箇所特定が困難であった。										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検			令和 4 年 5 月 13 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等			年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査			年 月 日	年 月 日	
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="checkbox"/> 無		
そ の 他	年 月 日	年 月 日					内容：			
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策 や所見	今後全ての保温材を外し点検を実施する。保温材を外しての点検を何年かに1度実施することを計画中。									

1 事故名	移送配管の外表面腐食によりC9留分を主とした副生油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 16日 9時 30分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	9月 16日 9時 45分	
5 覚 知	9月 16日 10時 05分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 16日 20時 48分	
7 鎮火・処理完了	9月 17日 10時 30分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北 風速：4m/s 気温：25℃ 湿度：80%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 業 態：	①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 製造業 化学工業 有機化学 番号 (1731) 工業製品製造業 石油化学系 基礎製品製造業(一貫して生産 される誘導品を含む)		区 分： ①. 事業所内 (<input checked="" type="checkbox"/> 製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等				
名 称： 能 力：	その他【有機化学工業】 番号 (5999) 使用頻度:1回程度/年、処理能力:40t/日		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) C5重質分 12,000L 60倍 第4類第4石油類 潤滑油(VG46) 436L 0.07倍 第4類第4石油類 潤滑油(VG32) 325L 0.05倍 第4類第4石油類 冷凍機油 5,100L 0.85倍 第4類特殊引火物 C5留分 288,000L 5,760倍 第4類特殊引火物 C5留分 363,000L 7260倍		
13 機 器 等	温度圧力： 常温、1.07Mpa				
名 称： 規 模：	配管(送油、注入管等) 番号 (606) 1-1/2B		倍数の合計： 13,080.97倍		
14 発 生 箇 所	設置の完成： 昭和 44年 10月 24日 直近の完成： 年 月 日				
名 称： 材 質：	配管のボンディング、接地 番号 (215) 鋼鉄		17 物質の区分		
15 発 生 時	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： C9-HE(26L)				
運 転 状 況： 作 業 状 況：	停止中 番号 (5) 番号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 事業所共通配管帯の移送配管から危険物(第4類第2石油類)が漏えいしたもの。漏えい箇所をバンド巻き及びパテ補修にて漏えいを停止。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () <input checked="" type="checkbox"/> 無					

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()
原因	関 連 原 因		
	発生原因の状況： 外面(防食施工部)以外に顕著な腐食が見られなかったことから、配管梁接触部が腐食した状態で防食施工を行った可能性があり、その後、経年及びスチームトレースの温度の影響で防食施工部の末端処理(FRP)が劣化し、防食施工部に雨水が浸入、湿潤環境となり腐食を促進させたと推測する。		
	主原因の詳細		
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層
	腐食	環境	多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）
	関連原因の詳細		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から			
27 人的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症
当 事 者		0	0
防 災 活 動 従 事 者		0	0
第 三 者		0	0
28 物的被害			
被災影響範囲及び拡大の状況： オイルパンで油受設置し被害なし			
施設等の被害状況： 移送配管母管ピンホール			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況			
消 防 機 関	7 台 0 隻 0 機	22 人	自 衛
消 防 団	0 台 0 隻 0 機	0 人	共 同
海上保安部	0 台 0 隻 0 機	0 人	応 援
その他の機関	0 台 0 隻 0 機	0 人	その他
物質の被害状況： 危険物第4類第2石油類 C9-HE 26L流出			
損害額 1万円未満、 1万円以上 (2 万円)			
30 実施した防災活動の状況			
公設消防機関：番号 (99) 情報収集を実施		自衛防災・消防組織等 番号 (5) 情報収集、クランプ、回収、液抜き	
31 防災活動上の問題点			
行政措置	32 施設名		33 定期点検等
	使用停止	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日
	関係条項		34 当該施設に係る 法令違反の有無
その他	年 月 日	年 月 日	有・ 無 内容：
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭		
35 今後の対策 や所見	2025年予定の開放検査予定前に、防食施工部の取り外し点検を行い、外面腐食が認められる部位は更新を図る。なお、配管更新後に梁接触部の防食施工は行わない。		

1 事故名		配管の外表面腐食によりND/MODとNL/MOLの混合物が流出																																																																																					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()																																																																																					
3 発 生		12月 1日 6時 07分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	12月 1日 6時 30分																																																																																		
5 覚 知		12月 1日 6時 54分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 1日 8時 38分																																																																																		
7 鎮火・処理完了		12月 1日 16時 30分																																																																																					
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()																																																																																					
9 気 象 状 況		天気：雨		風向：北北東		風速：10m/s 気温：12℃ 湿度：79%																																																																																	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所																																																																																			
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学 番号 (1731) 工業製品製造業 石油化学系 基礎製品製造業(一貫して生産 される誘導品を含む)				区 分：①. 事業所内 (<input checked="" type="checkbox"/> 製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区																																																																																			
				16 発生施設規制区分等																																																																																			
				施設区分： 1 危険物 2 高圧ガス ③ 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数：																																																																																			
				<table border="0"> <tr> <td>第4類7Lコールド類</td> <td>メタノール</td> <td>124, 130L</td> <td>310. 33倍</td> </tr> <tr> <td>第4類第1石油類(非水溶性液体)</td> <td>酢酸ナトリウム</td> <td>434, 300L</td> <td>2, 171. 5倍</td> </tr> <tr> <td>第4類第1石油類(非水溶性液体)</td> <td>MPK</td> <td>63, 300L</td> <td>316. 5倍</td> </tr> <tr> <td>第4類第1石油類(非水溶性液体)</td> <td>MOA</td> <td>30, 000L</td> <td>150倍</td> </tr> <tr> <td>第4類第1石油類(非水溶性液体)</td> <td>ジブチルアルコールI</td> <td>154, 130L</td> <td>770. 65倍</td> </tr> <tr> <td>第4類第1石油類(非水溶性液体)</td> <td>ジブチルアルコール</td> <td>57, 680L</td> <td>288. 4倍</td> </tr> <tr> <td>第4類第1石油類(非水溶性液体)</td> <td>IPAL</td> <td>75, 680L</td> <td>378. 4倍</td> </tr> <tr> <td>第4類第1石油類(非水溶性液体)</td> <td>DHP</td> <td>63, 980L</td> <td>319. 9倍</td> </tr> <tr> <td>第4類第1石油類(非水溶性液体)</td> <td>MTHP</td> <td>114, 900L</td> <td>574. 5倍</td> </tr> <tr> <td>第4類第1石油類(非水溶性液体)</td> <td>MTHF</td> <td>64, 300L</td> <td>321. 5倍</td> </tr> <tr> <td>第4類第1石油類(水溶性液体)</td> <td>TBA</td> <td>209, 250L</td> <td>523. 13倍</td> </tr> <tr> <td>第4類第2石油類(非水溶性液体)</td> <td>IAA</td> <td>62, 970L</td> <td>62. 97倍</td> </tr> <tr> <td>第4類第2石油類(非水溶性液体)</td> <td>IPEA</td> <td>157, 420L</td> <td>157. 42倍</td> </tr> <tr> <td>第4類第2石油類(非水溶性液体)</td> <td>MPM</td> <td>32, 400L</td> <td>32. 4倍</td> </tr> <tr> <td>第4類第2石油類(非水溶性液体)</td> <td>PNA</td> <td>88, 000L</td> <td>88倍</td> </tr> <tr> <td>第4類第2石油類(非水溶性液体)</td> <td>エチルベンゼン</td> <td>272, 830L</td> <td>272. 83倍</td> </tr> <tr> <td>第4類第2石油類(非水溶性液体)</td> <td>SAL</td> <td>78, 105L</td> <td>78. 11倍</td> </tr> <tr> <td>第4類第2石油類(水溶性液体)</td> <td>FA</td> <td>30, 000L</td> <td>15倍</td> </tr> <tr> <td>第4類第2石油類(水溶性液体)</td> <td>C-MHF</td> <td>40, 320L</td> <td>20. 16倍</td> </tr> <tr> <td>第4類第3石油類(非水溶性液体)</td> <td>ジブチルアルコールII</td> <td>290, 510L</td> <td>145. 26倍</td> </tr> </table>				第4類7Lコールド類	メタノール	124, 130L	310. 33倍	第4類第1石油類(非水溶性液体)	酢酸ナトリウム	434, 300L	2, 171. 5倍	第4類第1石油類(非水溶性液体)	MPK	63, 300L	316. 5倍	第4類第1石油類(非水溶性液体)	MOA	30, 000L	150倍	第4類第1石油類(非水溶性液体)	ジブチルアルコールI	154, 130L	770. 65倍	第4類第1石油類(非水溶性液体)	ジブチルアルコール	57, 680L	288. 4倍	第4類第1石油類(非水溶性液体)	IPAL	75, 680L	378. 4倍	第4類第1石油類(非水溶性液体)	DHP	63, 980L	319. 9倍	第4類第1石油類(非水溶性液体)	MTHP	114, 900L	574. 5倍	第4類第1石油類(非水溶性液体)	MTHF	64, 300L	321. 5倍	第4類第1石油類(水溶性液体)	TBA	209, 250L	523. 13倍	第4類第2石油類(非水溶性液体)	IAA	62, 970L	62. 97倍	第4類第2石油類(非水溶性液体)	IPEA	157, 420L	157. 42倍	第4類第2石油類(非水溶性液体)	MPM	32, 400L	32. 4倍	第4類第2石油類(非水溶性液体)	PNA	88, 000L	88倍	第4類第2石油類(非水溶性液体)	エチルベンゼン	272, 830L	272. 83倍	第4類第2石油類(非水溶性液体)	SAL	78, 105L	78. 11倍	第4類第2石油類(水溶性液体)	FA	30, 000L	15倍	第4類第2石油類(水溶性液体)	C-MHF	40, 320L	20. 16倍	第4類第3石油類(非水溶性液体)	ジブチルアルコールII	290, 510L	145. 26倍
第4類7Lコールド類	メタノール	124, 130L	310. 33倍																																																																																				
第4類第1石油類(非水溶性液体)	酢酸ナトリウム	434, 300L	2, 171. 5倍																																																																																				
第4類第1石油類(非水溶性液体)	MPK	63, 300L	316. 5倍																																																																																				
第4類第1石油類(非水溶性液体)	MOA	30, 000L	150倍																																																																																				
第4類第1石油類(非水溶性液体)	ジブチルアルコールI	154, 130L	770. 65倍																																																																																				
第4類第1石油類(非水溶性液体)	ジブチルアルコール	57, 680L	288. 4倍																																																																																				
第4類第1石油類(非水溶性液体)	IPAL	75, 680L	378. 4倍																																																																																				
第4類第1石油類(非水溶性液体)	DHP	63, 980L	319. 9倍																																																																																				
第4類第1石油類(非水溶性液体)	MTHP	114, 900L	574. 5倍																																																																																				
第4類第1石油類(非水溶性液体)	MTHF	64, 300L	321. 5倍																																																																																				
第4類第1石油類(水溶性液体)	TBA	209, 250L	523. 13倍																																																																																				
第4類第2石油類(非水溶性液体)	IAA	62, 970L	62. 97倍																																																																																				
第4類第2石油類(非水溶性液体)	IPEA	157, 420L	157. 42倍																																																																																				
第4類第2石油類(非水溶性液体)	MPM	32, 400L	32. 4倍																																																																																				
第4類第2石油類(非水溶性液体)	PNA	88, 000L	88倍																																																																																				
第4類第2石油類(非水溶性液体)	エチルベンゼン	272, 830L	272. 83倍																																																																																				
第4類第2石油類(非水溶性液体)	SAL	78, 105L	78. 11倍																																																																																				
第4類第2石油類(水溶性液体)	FA	30, 000L	15倍																																																																																				
第4類第2石油類(水溶性液体)	C-MHF	40, 320L	20. 16倍																																																																																				
第4類第3石油類(非水溶性液体)	ジブチルアルコールII	290, 510L	145. 26倍																																																																																				
12 施 設 装 置				設置の完成： 昭和 50年 12月 26日 直近の完成： 年 月 日																																																																																			
名 称：その他【有機化学工業】 番号 (5999)				17 物 質 の 区 分																																																																																			
能 力：生産能力 3.5t/日				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶 名称： ND/MODとNL/MOLの混 性液体) 合物(630L)																																																																																			
13 機 器 等				18 取扱者の概要																																																																																			
温度圧力： 100℃、常圧				①. 選任有 2. 選任無 3. 不要																																																																																			
名 称：貯槽(タンク) 番号 (107)				21 危険物取扱者の の取扱・立会い																																																																																			
規 模：容量 20m ³				①. 有 2. 無																																																																																			
14 発 生 箇 所																																																																																							
名 称：その他 番号 (999)																																																																																							
材 質：鋼鉄																																																																																							
15 発 生 時																																																																																							
運 転 状 況：その他 番号 (99)																																																																																							
作 業 状 況： 番号 ()																																																																																							
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者																																																																																			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無																																																																																							
23 事 故 の 概 要： 原料送液タンクの配管からノナンジオール(ND/MOD)とノナンジアール(NL/MOL)の混合物(第4類第3石)が流出したもの。ポンプ停止後、配管内の残液を抜き取り処置完了。																																																																																							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止																																																																																							

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()				
	関連原因								
	発生原因の状況： 断熱材の劣化もあり、雨水が浸入し配管の外表面より腐食が進行し、流出に至ったもの。								
	主要原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）				
	関連原因の詳細								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害				28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 影響なし	
区分									
当 事 者		0	0	0	0				
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 当該配管の破損	
第 三 者		0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	7 台 0 隻 0 機	20 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機	15 人	物質の被害状況： ノナンジオール (ND/MOD) とノナンジアール (NL/MOL) の混合物 第4類第3石油類 630L 流出			
消 防 団	0 台 0 隻 0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機	0 人				
海上保安部	0 台 0 隻 0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機	0 人				
その他の機関	0 台 0 隻 0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (132 万円)			
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99) 情報収集を実施					自衛防災・消防組織等 番号 (99) 情報収集、排水処理				
31 防災活動上の問題点									
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日							
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭								
35 今後の対策 や所見	当該ラインの断熱材を取り外し、外面腐食の状況を確認し、配管の更新を行うこと。 点検等、安全管理に関する教育を再徹底するよう指導								

1 事故名		SWPアジテーター(J-204)メカニカルシールからのシールオイル漏えい									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		3月 11日 2時 30分 推定・ 確定			4 発 見		3月 11日 2時 30分				
5 覚 知		3月 11日 2時 40分			6 鎮 圧 応急処置完了		3月 11日 4時 23分				
7 鎮火・処理完了		3月 11日 5時 35分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：北		風速：1m/s		気温：6℃		湿度：97%	
10 発 生 事 業 所						11 発 生 場 所					
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学 番 号 (1731) 工業製品製造業 石油化学系 基礎製品製造業(一貫して生産 される誘導品を含む)						区 分：①. 事業所内 (製)、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区					
						16 発生施設規制区分等					
12 施 設 装 置						施設区分：1 危険物 2 高压ガス ③ 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第3類有機金属化合物(アルキルアルミニウム アルキルアルミニウム 5,250kg 525倍 及びアルキルリチウムを除く。)(第1種自然発火性物質及び禁水性物質) 第4類第1石油類(非水溶性液体) n-ヘキサン 575,000L 2,875倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 420L 0.42倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) CP-15N 4,600L 2.3倍 第4類第4石油類 EM-STB、潤滑油 1,100L 0.18倍					
						13 機 器 等					
名 称：その他の合成樹脂製造装置 番 号 (5959) 能 力：合成パルプ 13,000t/Y						温度 圧力：0.3Mpa					
14 発 生 箇 所						設置の完成：昭和 42年 4月 21日 直近の完成：令和 3年 6月 21日					
名 称：フレキシブル管継手(ダクトを含む) 番 号 (202) 材 質：鋼鉄						17 物 質 の 区 分					
15 発 生 時						①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：潤滑油(9L)					
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()						18 取扱者の概要					
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： シールオイルタンクレベル低下アラーム発報。運転員が現場確認を行ったところ、D-204アジテーター(J-204)メカニカルシールよりシールオイルの漏えいを確認した。直ちにプラントシャットダウン操作を行い、脱圧操作を行った。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原因	25 主 原 因 故障		着火原因				番号 ()			
	関連原因									
	発生原因の状況： D-204の上鏡やメカシール取付座の内側等にバルブの付着が認められたことから、バルブがフローティングシートと下部インサートのシール面に噛みこむことで、シール面の一部に集中荷重が発生、又は局部的に異常な温度上昇が起こり熱衝撃が発生のいずれかの原因により、下部インサート部が割れ、漏えいに至ったと推定する。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	故障		機能		周囲からの異物の作用による機器の動作不良					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 囲い内に、潤滑油が流出		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 設備被害は無し		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	8 台	0 隻	0 機	28 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	12 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類 ダフニーオイルCP-15N 9.0L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台	0 隻	0 機	7 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	2 台	0 隻	0 機	2 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 警戒・調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (4) 自衛消防車、大型化学消防車・大型化学高所放水車の2台、(手広め水)の警戒待機				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検			令和4年 2月 18日	令和4年 6月 21日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等			令和3年 8月 23日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保 安 検 査			令和3年 6月 11日	年 月 日	
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：		
そ の 他	年 月 日	年 月 日								
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策や所見	当該漏えいの主原因は、異物の噛みこみによる下部インサートが割れたことである。2023年5月(次回定修)までに、異物を噛みこんでも割れない材質等への変更を検討する。									

1 事故名	ベンゼン抽出装置 キシレン回収塔塔頂配管フランジからトルエン流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 20日 2時 29分	推定・ 確定	4 発 見	4月 20日 2時 29分	
5 覚 知	4月 20日 3時 01分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 20日 12時 05分	
7 鎮火・処理完了	4月 20日 12時 05分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北東 風速：2.7m/s 気温：14℃ 湿度：69%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	施設区分：1 危険物 2 高圧ガス ③ 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン(非) 3,520L 17.6倍 第4類第3石油類(水溶性液体) スルフォラン(水) 199L 0.05倍 第4類第3石油類(水溶性液体) アンチフォーム剤(非) 1.6L 0倍 第4類第4石油類 廃油 0.2L 0倍	
13 機 器 等	温度圧力：250℃、0.57Mpa		倍数の合計：17.65倍		
14 発 生 箇 所	名 称：ベンゼン・トルエン・キシレン(BTX)製造装置 番 号 (5401) 能 力：11,366,877.1Nm ³ /日		設置の完成：平成11年 6月 10日 直近の完成：令和3年 2月 2日		
15 発 生 時	名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：24B フランジ		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、常温[0-40℃]、 高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：トルエン(89L)		
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 4月20日2時29分頃、装置立上げ作業に従事している作業員が移動中に、ベンゼン抽出装置のポンプP4608東通路2m上部フランジより液体が漏れていることを発見した。直ちに計器室の班長に連絡、班長から直課長に連絡し現場確認を実施、漏えいを2時40分に覚知した。3時01分に消防機関へ通報、所内非常体制を発令した。					
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他					

25	主 原 因 操作確認不十分					着火原因	番号 ()	
原 因	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 23項:事故の概要と同様							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	設備	監理・保守		監理		その他		
	関連原因の詳細							
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27	人的被害					28 物的被害		
	被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	
	当 事 者	0	0	0	0		被災影響範囲及び拡大の状況： 流出範囲は、当該配管真下部分のみ。	
	防災活動従事者	0	0	0	0		施設等の被害状況： なし	
	第 三 者	0	0	0	0			
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
	消 防 機 関	8 台 0 隻 0 機	31 人	自 衛	2 台 0 隻 0 機	12 人	物質の被害状況： トルエン漏えい量：89L	
	消 防 団	0 台 0 隻 0 機	0 人	共 同	4 台 0 隻 0 機	14 人		
	海上保安部	0 台 0 隻 0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機	0 人		
	その他の機関	2 台 0 隻 0 機	2 人	その他	0 台 0 隻 0 機	0 人		
30	実施した防災活動の状況							
	公設消防機関：番号 () 火災発生に備え現場待機				自衛防災・消防組織等 番号 () 公設消防隊：消防車現場待機 自衛消防：大型化学消防車1台警戒体制：漏えい箇所へ冷却散水準備/手広め2線			
31	防災活動上の問題点							
政 策 措 置	32	施設名			33	定期点検等	消 防 法	そ の 他
		使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
		改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日
		停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日
		関係条項			34	当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無	内容：
		その他	年 月 日	年 月 日				
		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭					
35	今後の対策 や所見							

1 事故名	第2灯軽油水添脱硫装置 リアクターエフルエントクーラー (2DH-A2) 入口配管油及びガス漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 29日 14時 20分	推定・ 確定	4 発 見	9月 29日 14時 20分	
5 覚 知	9月 29日 14時 28分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 29日 17時 05分	
7 鎮火・処理完了	9月 29日 17時 05分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南西 風速：4.9m/s 気温：24℃ 湿度：59%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製)、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 5,357L 26.79倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油・軽油 7,500,000L 7,500倍 第4類第4石油類 潤滑油 500L 0.08倍 倍数の合計： 7,526.87倍				
12 施 設 装 置	14 発 生 箇 所				
名 称：水添脱硫装置 番 号 (2108)	名 称：管継手(ダクトを含む) 番 号 (201)				
能 力：	材 質：鋼鉄				
13 機 器 等	15 発 生 時				
温 度 圧 力：90℃、3.92Mpa	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)				
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	作 業 状 況： 番 号 ()				
規 模：10インチ(元厚:15.1mm)配管	17 物 質 の 区 分				
	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(1.2L)				
	18 取 扱 者 の 概 要				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 当所従業員が巡回中、2DH-A2の入口配管ダミーパイプサポート部の知らせ孔より、油及びガスが出ていることを発見した。所内一斉連絡及び消防共同指令センターへ通報を実施するとともに、同装置を緊急停止した。当該配管系の孤立・脱圧及び窒素ガスの導入により漏えいは停止した。					
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： ダミーパイプサポートの知らせ孔がシールされていなかったことにより、雨水・湿気が浸入し、プロセス配管が建設以来からの外面腐食の進展により開孔した。なお、当該部位を外面より肉厚測定した結果から、内面腐食はわずかであった。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： なし			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管の開孔			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	11 台	0 隻	0 機	26 人	自 衛	7 台	0 隻	0 機	40 人	物質の被害状況： 灯油1.2L 水素ガス 11L	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	1 隻	0 機	1 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	4 台	0 隻	0 機	6 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 情報収集						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 散水準備					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日				年 月 日		定期・自主点検		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日		気密試験等		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				年 月 日		保 安 検 査		年 月 日	
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/> 内容：	
その他	年 月 日				年 月 日						
35 今後の対策 や所見 ダミーサポートについては、架台接触部から離れた位置に知らせ孔を設置し、雨水侵入防止のためシール施工する。											

1 事故名		製造所の熱交換器本体下部の入口配管から混合ガスの流出事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		11月 22日 8時 50分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	11月 22日 8時 50分		
5 覚 知		11月 22日 9時 01分			6 鎮 圧 応急処置完了	11月 22日 10時 13分	
7 鎮火・処理完了		11月 22日 10時 29分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：北西		風速：4m/s 気温：15℃ 湿度：	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学 番 号 (1731) 工業製品製造業 石油化学系 基礎製品製造業(一貫して生産 される誘導品を含む)				区 分：①. 事業所内 (<input checked="" type="checkbox"/> 製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分：1 危険物 2 高圧ガス ③ 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) ノナノール 1,000L 0.5倍 可燃性ガス(水素)			
12 施 設 装 置							
名 称：高級アルコール製造装置 番 号 (5906)							
能 力：熱交換器(20-C3)本体下部入口配管:設計圧力:6.0MPa 運転圧力:5.85MPa設計温度:240℃運転温度:200℃							
13 機 器 等				温度圧力：200℃、5.85Mpa			
名 称：熱交換器 番 号 (301)							
規 模：直径76.3mm 長さ500mm 肉厚7.0mm							
14 発 生 箇 所				設置の完成：昭和40年 6月 30日 直近の完成：令和4年 10月 20日			
名 称：その他の機器等本体 番 号 (199)				17 物 質 の 区 分			
材 質：鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：ノナノール(0.3L)			
15 発 生 時				18 取扱者の概要			
運転状況：定常運転中 番 号 (1)							
作業状況： 番 号 ()							
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 20-C3(第3コンディショナー)本体下部入口配管溶接部から可燃性ガス(水素ガス)と危険物(ノナノール4-3)の混合物が漏えい(0.3L)したもの							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他							

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()					
原 因	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 漏えい部近傍において、減肉が認められたのは配管内面水平部の上側に集中していた。 液流れのない箇所、ギ酸を含むガスが滞留し、腐食によって開孔に至ったと断定した。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	腐食	環境	工程の中で腐食環境の生成（塩素イオン、水素イオン、酸、硫化物等）					
	関連原因の詳細							
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27	人的被害		28 物的被害					
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 20-C3の本体下部入口配管より漏えい。 施設外への流出なし
区分								
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 20-C3の本体下部入口配管より漏えい
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消防機関	9台 0隻 0機	29人	自 衛	1台 0隻 0機	5人	物質の被害状況： 可燃性ガス(H2)と危険物(ノナノール第4類第3石油類)の混合ガス漏えい(ミスト状)ガス検知器での検知無し ※推定漏えい量:0.3L		
消防団	0台 0隻 0機	0人	共 同	0台 0隻 0機	0人			
海上保安部	0台 0隻 0機	0人	応 援	0台 0隻 0機	0人			
その他の機関	3台 0隻 0機	6人	その他	0台 0隻 0機	0人			
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 調査活動				自衛防災・消防組織等 番号 (99) 現地指揮及び対策本部 災害情報等収集活動、近隣各社への環境影響及び人的被害の状況確認 自衛消防車両出動待機				
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日						
35	今後の対策 や所見 ・従業員等に対し、本事故の周知・教育							

1 事故名	コンプレッサーの潤滑油系統配管に設置されている圧力開放のプラグから潤滑油流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 26日 18時 00分	推定・確定	4 発 見	5月 26日 22時 40分	
5 覚 知	5月 26日 23時 47分		6 鎮 圧 応急処置完了	5月 27日 0時 20分	
7 鎮火・処理完了	5月 27日 0時 20分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南 風速：5.1m/s 気温：21.1℃ 湿度：85%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分：1 危険物 2 高圧ガス ③ 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフ 29,200L 146倍 第4類アルコール類 添加剤HL-44 300L 0.75倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) プターノル 4,000L 4倍 第4類第2石油類(水溶性液体) DMF 55,200L 27.6倍 第4類第4石油類 潤滑油 3,000L 0.5倍 倍数の合計： 178.85倍				
12 施 設 装 置	設置の完成：昭和43年3月5日 直近の完成：令和4年4月15日				
名 称：その他【有機化学工業】 番 号 (5999)	17 物 質 の 区 分				
能 力：	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第4石油類 名称：タービン油(520L)				
13 機 器 等	18 取扱者の概要				
温度圧力：0.22Mpa	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
名 称：圧縮機 番 号 (502)	20 危険物保安監督者				
規 模：680スタンダードm ³ /h	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
14 発 生 箇 所	21 危険物取扱者の取扱・立会い				
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)	①. 有 2. 無				
材 質：鋼鉄					
15 発 生 時					
運 転 状 況：スタートアップ中 番 号 (2)					
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)					
19 危険物保安統括管理者					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 令和4年4月30日から施設のスタートアップを開始し順次機器を稼働していた。発災当日の15時頃からコンプレッサー(C-1101C)の運転を開始していたところ、コンプレッサーの潤滑油系統配管に設置されている圧力計の上部にある圧力開放のプラグから潤滑油(危険物第4類第4石油類タービン油)が流出していることを発見し、圧力開放プラグを増し締めしたことにより流出は停止した。流出量は約520L。					
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()			
	関連原因							
	発生原因の状況： 圧力開放プラグの締め付けが甘く、コンプレッサー始動の振動により緩み流出したものの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	施工不良		施工		ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害						28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 製造所の囲い内に流出
区分								
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	4 台 0 隻 0 機	16 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機	6 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類タービン油520L流出		
消 防 団	0 台 0 隻 0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機	0 人			
海上保安部	0 台 0 隻 0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機	0 人			
その他の機関	0 台 0 隻 0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機	0 人			
						損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円		
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 (99)				
・情報収集 ・検知活動				・検知活動				
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和3年10月8日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	<input type="checkbox"/> 有・無 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反			
その他	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策 や所見		圧力開放プラグの緩みの確認が手順化され、適切な工具を使用して締め付けがなされるよう指導した。						

1 事故名	ドラムのベントからの原油流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	5月 28日 14時 30分	推定・確定	4 発 見
5 覚 知	5月 28日 16時 42分		6 鎮 圧
7 鎮火・処理完了	5月 28日 17時 28分		応急処置完了
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴	風向：南西	風速：4.2m/s 気温：24.8℃ 湿度：51.9%
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 12,720,000L 63,600倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 2,385,000L 11,925倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 廃油 87,270L 436.35倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 防蝕剤 6,887L 6.89倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 腐食防止剤 6,800L 6.8倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 32L 0.02倍 第4類第4石油類 潤滑油 200L 0.03倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 75,975.09倍		
名 称：常圧蒸留装置 番 号 (2101)	設置の完成：昭和 35年 10月 10日 直近の完成：令和 4年 6月 27日		
能 力：	17 物 質 の 区 分		
13 機 器 等 温度 圧 力：	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
名 称：その他の塔槽類 番 号 (199)	5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
規 模：内径1,849mm、高さ2,620mm	(固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温)		
14 発 生 箇 所	分 類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：原油 (50L)		
名 称：ベント管、ブロー管、放出管 番 号 (303)	18 取扱者の概要		
材 質：鋼鉄	経験年数29年		
15 発 生 時	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有		
運 転 状 況：停止中 番 号 (5)	3. 不要		
作 業 状 況：抜取中 番 号 (14)	2. 無		
19 危険物保安統括管理者	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
20 危険物保安監督者	23 事故の概要： 第1常圧蒸留装置は定期修理のため停止中で、熱交換器及び配管内に停滞している原油を抜取るため、スチームを用いてドラム708へ圧送していた。作業員は、ドラム708の液面高さが上昇していることを確認したため、スチームを停止するためにバルブを閉止したが、配管内に残存した圧力により原油が圧送され続けたため、ドラム708のベントラインから原油約50Lがオーバーフローした。ドラム708では回収した原油と水を分離し、蒸気はベントラインから大気へ放出、原油は仮設配管により製造所内の廃油タンクである地下貯蔵タンクへと払出していた。		
24 緊急処置の状況	24 緊急処置の状況 [有] 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送		

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 誤操作									
	発生原因の状況： ドラム708の底部に粘性の高い油が溜まっており、払出ノズルから製造所内の廃油タンクである地下貯蔵タンクへと払い出すことができていないなか、当該閉塞状況を確認しないまま、原油をスチームで圧送したもの。なお、ドラム708の液面上昇に気付き、スチームを停止するためにバルブを閉止したが、ドラム708の直近のバルブは閉止せず、配管内に残存した圧力により原油が圧送され続けたため、ドラム708のベントラインから原油約50Lがオーバーフローした。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
設備		監理・保守		点検・整備		確認不足				
因	関連原因の詳細									
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 製造所の囲い内に流出した。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	17 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	17 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)原油約50L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	7 台	0 隻	0 機	18 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) ・情報収集 ・検知活動					自衛防災・消防組織等 番号 (99) ・情報収集 ・検知活動					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反				
その他	年 月 日	年 月 日								
35 今後の対策 や所見	定期修理時の液抜き作業にドラム708を経由しない、既設配管を利用した回収を行うこととし、手順の見直しを指導した。									

1 事故名	ポンプのメカニカルシール部からキシレン流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 9日 15時 30分	推定・確定	4 発 見	6月 9日 15時 30分	
5 覚 知	6月 9日 16時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 9日 16時 59分	
7 鎮火・処理完了	6月 9日 16時 59分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東北東 風速：3.5m/s 気温：23.6℃ 湿度：59%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学 番号 (1731) 工業製品製造業 石油化学系 基礎製品製造業(一貫して生産 される誘導品を含む)	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 粗キシレン 183,500L 183.5倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 183.5倍				
名 称：精製装置 番号 (2103)	設置の完成：昭和 55年 3月 31日 直近の完成：令和 2年 2月 20日				
能 力：	17 物 質 の 区 分				
13 機 器 等	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：粗キシレン(49L)				
名 称：ポンプ 番号 (501)	18 取扱者の概要				
規 模：吐出圧 0.38Mpa	20 危険物 保安監督者				
14 発 生 箇 所	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
名 称：パッキング 番号 (213)	21 危険物取扱者 の取扱・立会い				
材 質：特殊合金	①. 有 2. 無				
15 発 生 時	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
運 転 状 況：定常運転中 番号 (1)	23 事 故 の 概 要： 当該施設は通常運転中であつた。15時23分頃、計器室において当該施設のポンプ(18G-103A)の流量低下を知らせるアラームが発報した。2分後の15時25分に現場を確認したところ、ポンプが停止していたため、バックアップ用のポンプ(18G-103B)に運転を切り替えた。切り替え後の15時30分、停止していたポンプ(18G-103A)のメカニカルシール部から、キシレン(第4類第2石油類)が漏れいしていることを発見したものを。				
作 業 状 況： 番号 ()	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1, 9) 無 装置の緊急停止、緊急排出、緊急移送				

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()								
	関 連 原 因 操作未実施												
	発生原因の状況： 潤滑油の劣化により、ポンプ軸受けが焼付き、ポンプが停止した。その後、予備ポンプに切り替える際に、メカニカルシールオイル線の縁切り操作を行わなかったため、予備ポンプ起動時に当該ポンプに対して急激な圧力変動が起き、ポンプ内のペローズが追従できずシール性が低下し、メカニカルシール部から配管内用液のキシレンが流出した。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層						
疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の摩耗（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の摩耗）									
因	関連原因の詳細												
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害						28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設のダイク内で収まった。					
区分													
当 事 者	0	0	0	0									
防災活動従事者	0	0	0	0									
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	18 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	3 人	物質の被害状況： キシレン49L程度流出			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人				
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)			
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 (5)								
<ul style="list-style-type: none"> ・警戒筒先配備 ・ガス検知活動 ・情報収集 													
31 防災活動上の問題点													
政 策 措 置	32 施 設 名		製造所(高沸点芳香族製造装置)			33 定 期 点 検 等		消 防 法		そ の 他			
	使用停止		令和 4 年 6 月 9 日			年 月 日		定期・自主点検		令和 3 年 8 月 21 日		年 月 日	
	改善命令等		年 月 日			年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日	
	停止解除		年 月 日			年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項		法第12条の3第1項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		<input checked="" type="checkbox"/> ・無 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反			
その他		年 月 日			年 月 日								
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭											
35 今後の対策や所見													
潤滑油劣化の原因となったクエンチングスチーム量については、バルブの定量的な開度を定め、適正量とした。また、ポンプ停止の際には、メカニカルシールオイル線の縁切り操作を行ってから、予備ポンプに切り替えるための手順を定めた。													

1 事故名	製造所における、圧力計パーズラインから軽油流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 20日 1時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	7月 20日 1時 00分	
5 覚 知	7月 20日 1時 13分	6 鎮 壓 応急処置完了	7月 20日 2時 04分		
7 鎮火・処理完了	7月 20日 2時 04分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北西 風速：1.1m/s 気温：26.8℃ 湿度：91%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： ①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他)	区 分： ①. 事業所内 (<input checked="" type="checkbox"/> 製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)				
業 態： 製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	特別防災地区名：京浜臨海地区				
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等				
名 称：分解装置 番 号 (2104)	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他				
能 力：	貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所				
13 機 器 等	類・品名・名称・数量・倍数：				
温度圧力：50℃、0.02Mpa	第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフ 8,783,000L 43,915倍				
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	第4類第2石油類(非水溶性液体) 腐食防止剤 27,000L 27倍				
規 模：STPT370S 1/2B Sch80	第4類第2石油類(非水溶性液体) AO-613 2,850L 2.85倍				
14 発 生 箇 所	第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 11,970L 11.97倍				
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)	第4類第3石油類(非水溶性液体) 重質油 361,000L 180.5倍				
材 質：鋼鉄	第4類第3石油類(非水溶性液体) クロップ MP-750 1,500L 0.75倍				
15 発 生 時	第4類第3石油類(非水溶性液体) 軽質油 4,923,000L 2,461.5倍				
運 転 状 況：スタートアップ中 番 号 (2)	第4類第3石油類(非水溶性液体) タール油 247,000L 123.5倍				
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)	第4類第3石油類(非水溶性液体) トランス油 18,090L 9.05倍				
	第4類第4石油類 潤滑油 24,380L 4.06倍				
	第4類第4石油類 消泡剤 60L 0.01倍				
	倍数の合計：46,736.19倍				
	設置の完成：昭和45年9月17日				
	直近の完成：令和4年7月13日				
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者	17 物 質 の 区 分	
				①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス	
				5. 毒物 6. 劇物 7. その他	
				(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧)	
				(低温、常温[0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温)	
				分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(50L)	
				18 取扱者の概要	
				経験年数26年	
				21 危険物取扱者 の取扱・立会い	
				①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要：	オンラインファイル無				
23 事 故 の 概 要：	定修後のスタートアップ作業として、加熱炉内に軽油を送液していたところ、加熱炉入口配管の附属圧力計パーズライン3系統から軽油が流出したものの。				
24 緊急処置の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止				

原因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： パージラインのバルブを閉め忘れたためパージラインから軽油が流出した。手順書にパージラインのバルブ閉止は記載されておらず、現場には開閉札が設置されていなかった。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		違反(故意)		怠慢			
	関連原因の詳細									
	制度		規則・手順		内容・周知		規則・手順の内容が不適切			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： パージラインの設置されているフロアに流出		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 無し		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	3 台	0 隻	0 機	16 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油50L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) ・情報収集 ・ガス検知活動					自衛防災・消防組織等 番号 (99) ・警戒筒先配備					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和 3 年 11 月 12 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無				
その他	年 月 日	年 月 日		内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反						
35	今後の対策や所見 手順書にパージラインの開閉に関する項目を追加するよう指導した。また、発災施設内のパージラインのバルブについて開閉札の取り付けを行った。									

1 事故名	製造所においてフォークリフトのアタッチメントの故障によりドラム缶が破損した流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 8日 9時 43分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	9月 8日 9時 43分	
5 覚 知	9月 8日 9時 57分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 8日 9時 55分	
7 鎮火・処理完了	9月 8日 11時 43分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：北 風速：4.1m/s 気温：24℃ 湿度：92%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 業 態：	①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 <input checked="" type="checkbox"/> 第1種、第2種、その他)		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)		
	製造業 石油製品・石炭製品製番 号 (1821) 造業 潤滑油・グリース製造業 (石油精製業によらないもの) 潤滑油製造業		特別防災地区名：京浜臨海地区		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等				
名 称：潤滑油製造装置 番 号 (2114) 能 力：16KL/1日	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他				
	貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所				
13 機 器 等	類・品名・名称・数量・倍数：				
名 称：その他の移送機器 番 号 (699) 規 模：全長:4,000mm 幅:1,250mm 高さ:2,200mm	第4類第2石油類(非水溶性液体) ヴルベント 45,000L 45倍				
	第4類第3石油類(非水溶性液体) ヴルベント 90,000L 45倍				
14 発 生 箇 所	第4類第3石油類(非水溶性液体) 特殊軽油 90,000L 45倍				
名 称：容器本体 番 号 (108) 材 質：鋼鉄	第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 400,000L 200倍				
	第4類第4石油類 潤滑油 3,646,000L 607.67倍				
15 発 生 時	設置の完成：昭和29年 8月 6日 直近の完成：令和4年 9月 7日				
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()	17 物 質 の 区 分				
	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：テトラヒド ^o ロフタリン(109L)				
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 協力会社社員は潤滑油製造の開始にあたり、製造所の屋外荷捌きエリアに置かれたドラムの天板に溜まった雨水を取り除くため、ドラムを反転させる作業を開始した。ドラムの反転には、1回4本のドラムを反転できるアタッチメントが付いたフォークリフトを使用した。数回反転作業を行った後、発災のときはドラムを3本アタッチメントでつかみ反転させた。反転させるとドラム3本のうち1本がアタッチメントから下方へずれた。協力会社社員は、ドラムの位置を修正するためアタッチメントを下方へ下げたところ、ずれたドラムは地面に接触した。ずれたドラムを押し込むため更に回転ボックスを下げたところ、異音が発生した。続いて液体が流れる音が聞こえてきたので、アタッチメント内を確認するためアタッチメントを回転させドラムを斜めの状態にした。その後フォークリフトから降りてアタッチメント内を確認したところ、ドラム胴板の亀裂と床面に飛散した潤滑油添加剤を発見した。直ちに無線で事務所へ連絡した後、ウェスを使い漏えいした潤滑油添加剤の拡散防止措置を行った。事務所で連絡を受けた他の協力会社社員は、事業所の環境安全グループへ連絡、環境安全グループが119番通報を行った。ドラムから潤滑油添加剤が製造所の屋外荷捌きエリアに109.66L漏えいした。現場到着した公設消防は調査活動を実施した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 故障		着火原因				番号 ()			
	関連原因									
	発生原因の状況： フォークリフトに取り付けられた回転アダプターは、油圧でパット4つをドラムに圧着させ固定する。バネは油圧を下げパットをドラムから緩めるときに作用し、パットを元の位置に戻す役目をする。1つのパットにバネは2本取り付けられている。前の回のドラムを圧着した後に劣化していたバネが1本破断したことで、油圧を下げたときにバネ1本だけの作用となり、パットが1枚正規の位置に戻らず傾いた。発災した回はパット1枚が傾いた状態でドラムを圧着したため、全体的に圧着力が足りず、ドラムが回転アダプターからずり落ちた。ずり落ちたときにパットの角の金属部分がドラムの胴板にあたり、その状態でずり落ちたドラムの位置を修正しようと回転アダプターを下げたため、パットがドラムの胴板を切り裂き、収納されていた潤滑油添加剤が漏えいしたものと推定。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	故障		機能		機器の機能の停止					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 製造所の屋外荷捌きエリア 1m×5mの範囲に流出			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： フォークリフトに取り付けられた回転アダプターの パット1枚、バネ1本破損			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	35 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類 テトラヒドロナフタリン 109.66L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	4 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (3、5)				
調査活動										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和4年8月2日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無			
その他	年	月	日	年	月	日	内容：			
35 今後の対策 や所見		パットに取り付けられたバネは破断毎に交換していたが、1年に1回を目途に全て交換することとする 回転アダプター付きフォークリフトの点検項目・箇所を増やし、安全面の強化を図る 通常でない現象が発生したときは、原因を確認してから対処を行う必要がある								

1 事故名		製造所において残油脱硫装置(リアクターフィードエフルエント熱交換器)から重油漏えい			
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()			
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	9月 26日 6時 10分	
5 覚 知		9月 26日 6時 42分	6 鎮 圧 応急処置完了	9月 26日 9時 45分	
7 鎮火・処理完了		9月 26日 9時 45分			
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()			
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：北 風速：1.5m/s 気温：20℃ 湿度：88%			
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所			
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<u>レイアウト</u>)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		区 分：①. 事業所内 (<u>製</u>)、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：根岸臨海地区			
12 施 設 装 置		16 発生施設規制区分等			
名 称：その他【分類なし】 番 号 (9999)		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第2類硫黄 硫黄 200,000kg 2,000倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフ 276,000L 1,380倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽質油廃油 1,600L 8倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 腐食防止剤 440L 0.44倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 汚れ防止剤 930L 0.93倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 腐食防止剤 200L 0.2倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重軽質油 1,587,000L 793.5倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油材 4,383,000L 2,191.5倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 洗浄油 1,750L 0.88倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重質油廃油 7,900L 3.95倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) カットパック 12,500L 6.25倍 第4類第4石油類 潤滑油 2,981L 0.5倍 第4類第4石油類 潤滑油 410L 0.07倍 第4類第4石油類 潤滑油 299L 0.05倍 第4類第4石油類 潤滑油 500L 0.08倍 第4類第4石油類 ケービング油 2,800L 0.47倍 倍数の合計： 6,386.82倍			
能 力：残油脱硫装置 処理量 230,616,158Nm ³ /日		設置の完成：平成 5年 9月 21日 直近の完成：令和 2年 4月 16日			
13 機 器 等		17 物質の区分			
名 称：その他 番 号 (999)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、常温 [0-40℃]、 <u>高温</u>) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(3.6L)			
規 模：直径:1,065mm 全長:8,092mm 容量:TUBE側(0.79m ³) SHELL側(1.76m ³)		18 取扱者の概要			
14 発 生 箇 所		20 危険物 保安監督者		21 危険物取扱者 の取扱・立会い	
名 称：その他 番 号 (999)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		①. 有 2. 無	
材 質：その他					
15 発 生 時					
運 転 状 況：シャットダウン中 番 号 (3)					
作 業 状 況： 番 号 ()					
19 危険物保安 統括管理者		20 危険物 保安監督者		21 危険物取扱者 の取扱・立会い	
①. 選任有 2. 選任無 3. 不要					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 製油所職員が定時巡回を実施した際に、残油脱硫装置付近を確認していたところ停止作業中の残油脱硫装置から油が漏えいしているのを発見。ただちに構内119番通報したのち、公設消防、海上保安庁へ通報。その後初期対応として、装置の停止、脱圧、漏えい箇所が疑われる装置のボルトの増し締め、窒素パージ作業を実施した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 施工不良	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因									
	発生原因の状況： ガasketの組込み不良のため装置停止し温度を下げた際にガasketリテーナーが緩み、漏えいに繋がったと推測する。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	施工不良	施工	取り付け不良							
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害			28 物的被害							
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 8HE-103B2(リアクターフィードエフルエント熱交換器)周囲 1.78×10 ⁶ mm ²			
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし。			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	75 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類非水溶性 重油3.6L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
							損害額 1万円未満、 1万円以上 (20 万円)			
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 装置停止、脱圧、増し締め、窒素バージ作業				
31 防災活動上の問題点										
32 政 措 置	施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日			年 月 日	定期・自主点検		年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日			年 月 日	気密試験等		年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日	保安検査		年 月 日	年 月 日	
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ 無		
その他	年 月 日			年 月 日			内容：			
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭										
35 今 後 の 対 策 や 所 見	寸法測定記録を確認し、組込みミスを防止することとする。									

1 事故名	製造所における、蒸留塔マンホールからの重質軽油流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 25日 10時 45分	推定・確定	4 発 見	11月 25日 10時 45分	
5 覚 知	11月 25日 10時 53分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 25日 11時 37分	
7 鎮火・処理完了	11月 25日 11時 37分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北東 風速：2.6m/s 気温：15.9℃ 湿度：46%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：1 危険物 2 高圧ガス ③ 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 廃油 87,270L 436.35倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 12,720,000L 63,600倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 2,385,000L 11,925倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 腐食防止剤 6,800L 6.8倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 防蝕剤 6,887L 6.89倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 32L 0.02倍 第4類第4石油類 潤滑油 200L 0.03倍 倍数の合計：75,975.09倍 設置の完成：昭和35年10月10日 直近の完成：令和4年7月11日				
12 施 設 装 置	名 称：常圧蒸留装置 番 号 (2101) 能 力：処理能力 65,000パーレル/日				
13 機 器 等	温 度 圧 力：340℃、0.16Mpa 名 称：蒸留、精留塔(スクリュー、ストリッパ) 番 号 (101) 規 模：直径1.3m 高さ5.2m				
14 発 生 箇 所	名 称：マンホール 番 号 (305) 材 質：鋼鉄				
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)				
17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分 類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：重質軽油(85L)				
18 取 扱 者 の 概 要	19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無				
22 設備・機器等の概要	オンラインファイル無				
23 事 故 の 概 要	定期巡回中に蒸留塔のマンホール部分から蒸気が若干上がっていることに気付き、近づいたところ、マンホールネックの下方にある保温材被覆部分に重質軽油が漏えいしていることを発見したものを。				
24 緊急処置の状況	有 番号 (1) 無 装置の緊急停止				

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 内容物に含まれる硫黄分が高温下で蒸留塔マンホール母材部と反応し、硫化鉄となり、腐食が進行したもの。また、過去に実施した肉厚測定の際、測定点の裏面に溶接線があったため、肉厚を過大評価してしまい、減肉していることを把握できなかった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		工程の中で腐食環境の生成（塩素イオン、水素イオン、酸、硫化物等）					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		点検内容が不適切			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： マンホール下部に重質軽油が流出			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 腐食が進行			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	6 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)重質軽油約85L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 (99)					
・情報収集活動 ・ガス検知活動 ・警戒筒先配備					・ガス検知活動					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	第1常圧蒸留装置及び付帯コンビネーション装置				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	令和 4 年 11 月 25 日				定期・自主点検	令和 3 年 10 月 21 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	令和 4 年 12 月 12 日				保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項	法第12条の3				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無			
その他	年 月 日		年 月 日		内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反					
35	肉厚測定の手順書に、裏面に溶接線がないのを確認することを記載し、事故事案と共に教育を行った。									
今後の対策や所見										

1 事故名	製造所において配管が外面腐食を形成し軽質油が漏えいしたもの		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	12月 25日 22時 45分
5 覚 知	12月 25日 23時 00分	6 鎮 圧 応急処置完了	12月 25日 23時 30分
7 鎮火・処理完了	12月 26日 10時 00分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴	風向：北	風速：1.5m/s 気温：6℃ 湿度：52%
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<u>レイアウト</u>)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (<u>製</u>)、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：根岸臨海地区		
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフ 350,000L 1,750倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 添加剤 430L 0.43倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重質軽油 4,800,000L 2,400倍 第4類第4石油類 潤滑油 9,190L 1.53倍 倍数の合計： 4,151.96倍		
12 施 設 装 置	14 発 生 箇 所		
名 称：水添脱硫装置 番 号 (2108)	名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)		
能 力：1日 32キロバレル	材 質：鋼鉄		
13 機 器 等 温 度 圧 力：250℃、0.98Mpa	15 発 生 時		
名 称：蒸留、精留塔(スクリュー、スリッパ) 番 号 (101)	運 転 状 況：スタートアップ中 番 号 (2)		
規 模：14,850mm	作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)		
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分		
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、常温 [0-40℃]、 <u>高温</u>) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：軽質油(13.6L)		
15 発 生 時	18 取 扱 者 の 概 要		
運 転 状 況：スタートアップ中 番 号 (2)	19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)	20 危 険 物 保 安 監 督 者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い ①. 有 2. 無		
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 定時巡回を実施していた製油所職員が油の漏えいを発見。直ちに手動によりバルブを閉止した。製油所職員は計器室へ無線にて連絡し、計器室から遠隔操作により蒸留塔、加熱炉に附属するバルブ閉止を実施した。計器室から当直へ構内通報による状況報告を実施し、当直から公設消防へ119番通報を実施した。公設消防到着後、調査活動を開始。製油所職員にあっては漏油除去及び配管内の滞油回収作業を実施。滞油回収により漏えいは停止した。			
24 緊 急 処 置 の 状 況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番 号 (10) 無 その他			

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()				
	関 連 原 因 腐食疲労等劣化								
	発生原因の状況： 当該事故発生箇所は、水添脱硫装置の熱交換に使用される重質油滞留防止として、スチーム圧送用に敷設された保温材を被った配管である。スチーム側のバルブは常閉であり、本来何も入っていない配管だが、操作性の便宜をはかり危険物配管よりも遠い位置に閉止バルブを取付けていることから、循環させている油が滞留する構造となっている。また、配管に巻かれている保温材は劣化により一部が外れており、内部には雨水等が侵入しやすい状況となっていた。本来内部流体が高温であれば侵入した雨水も蒸発するが、滞留は40度程度のため蒸発せずに湿潤環境を形成。配管が外面腐食を形成したことで漏えいしたものと推定する。								
	主原因の詳細								
第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
関連原因の詳細									
疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害						28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名		
区分									
当 事 者		0	0	0	0				
防災活動従事者		0	0	0	0				
第 三 者		0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						被災影響範囲及び拡大の状況： 機器周囲に6.8㎡の範囲に軽質油が漏えいした。			
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	9 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	41 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
						物質の被害状況： 第4類第3石油類非水溶性 軽質油 13.6L			
						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (90 万円)			
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 (3、5)					
調査活動									
31 防災活動上の問題点									
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和4年5月3日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <u>無</u>	
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：				
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策や所見		不要な保温は解体し撤去する							

1 事故名		製造所において保温材の被ったスロップ移送用の配管から油が漏えいしたもの						
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定			4 発 見		12月 28日 16時 35分	
5 覚 知		12月 28日 16時 44分			6 鎮 圧 応急処置完了		12月 28日 17時 20分	
7 鎮火・処理完了		12月 29日 9時 40分						
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：南南西		風速：1.8m/s 気温：12℃ 湿度：67%		
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：根岸臨海地区				
12 施 設 装 置				16 発生施設規制区分等				
名 称：常圧蒸留装置 番 号 (2101)				施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他				
能 力：1日最大処理能力 25,440KL				貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所				
13 機 器 等 温度 圧 力：				類・品名・名称・数量・倍数：				
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)				第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 25,440,000L 127,200倍				
規 模：10インチ				第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 2,544,000L 12,720倍				
14 発 生 箇 所				第4類第1石油類(非水溶性液体) 廃油 120,000L 600倍				
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)				第4類第2石油類(非水溶性液体) 腐食防止剤 1,300L 1.3倍				
材 質：鋼鉄				第4類第2石油類(非水溶性液体) 界面活性剤 11,000L 11倍				
15 発 生 時				第4類第2石油類(非水溶性液体) 酸化防止剤 800L 0.8倍				
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)				第4類第2石油類(非水溶性液体) 添加剤 395L 0.4倍				
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)				第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 1,590,00L 795倍				
				第4類第3石油類(非水溶性液体) 中和防食剤 950L 0.48倍				
				第4類第4石油類 潤滑油 1,690L 0.28倍				
				倍数の合計： 141,329.26倍				
				設置の完成：昭和 21年 12月 23日				
				直近の完成：昭和 22年 12月 3日				
19 危険物保安 統括管理者				①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無								
23 事 故 の 概 要： 製油所職員が関連施設のスタートアップに伴うパトロールを実施するため巡回をしていると、臭気を感じたため、付近を確認したところ、スロップ移送用の配管から油が漏えいしているのを発見。直ちに現場付近のバルブを手動閉止し、計器室へ連絡。計器室から構内通報を実施し、公設消防へ通報を実施した。公設消防現着後に現場確認を実施し、漏えいしている流体が霧状となっていたため、公設消防により散水作業を実施した。現場確認の結果、内部の滞油が抜き終わっておらず漏えい停止が現認できなかったため、漏えい箇所に関係する配管系統に対して使用制限命令を発令した。事業所側は遠隔にてバルブ操作により弁の閉止を実施。自衛防災組織はオイル受け及び土嚢を設置し漏えい箇所の拡大防止を実施した。								
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止								

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 配管内部に堆積物(スケール)が堆積したことで、内面腐食が進行し、配管が穿孔したと考えられる。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		工程の中で腐食環境の生成（塩素イオン、水素イオン、酸、硫化物等）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 地上部分に漏えい。範囲は不明。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管に5mmΦの穿孔。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	66 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類非水溶性 廃油 70L漏えい。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	5 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (30 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5)					自衛防災・消防組織等 番号 (3、5)					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	第4常圧蒸留装置附属配管			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	令和 4 年 12 月 28 日				年 月 日	令和 4 年 5 月 3 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				年 月 日	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	令和 4 年 12 月 29 日				年 月 日	年 月 日	年 月 日		
	関係条項	法第12条の3			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u>				
その他	使用制限 年 月 日			内容：						
35	今後の対策 や所見 現在調査中のため、原因究明でき次第今後の対応策を検討する。									

1 事故名	製造所のステンレス製配管がもらい錆で腐食したことによりメタノール混合液が流出した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 27日 15時 30分	推定・確定	4 発 見	10月 27日 15時 30分	
5 覚 知	10月 27日 15時 37分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 27日 15時 43分	
7 鎮火・処理完了	10月 27日 19時 50分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北西 風速：1.1m/s 気温：15℃ 湿度：54%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<u>レイアウト</u>)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学 番号 (1739) 工業製品製造業 その他の有 機化学工業製品製造業	区 分：①. 事業所内 (<u>製</u>)、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：新潟西港地区特別防災区域				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：1 危険物 2 高圧ガス ③ 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類アルコール類 メチルアルコール 168,000L 420倍 第4類特殊引火物 蟻酸メチル 20,000L 400倍 第4類第1石油類(水溶性液体) アセトン 138,000L 345倍 第4類第1石油類(水溶性液体) 廃液 63,000L 157.5倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) トリエチルアミン 2,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) メタキシレン 100L 0.1倍 第4類第4石油類 SKOIL 98,000L 16.33倍 倍数の合計： 1,348.93倍				
12 施 設 装 置	名 称：その他【分類なし】 番号 (9999) 能 力：メタクリル酸メチル製造施設:380.9KL/日				
13 機 器 等	温度圧力：0.4Mpa 名 称：抽出塔、槽 番号 (103) 規 模：定格容量22.4m ³ /h、全揚程47m、寸法 高さ663mm 長さ645mm 幅285mm				
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番号 (299) 材 質：ステンレス				
15 発 生 時	運 転 状 況：スタートアップ中 番号 (2) 作 業 状 況： 番号 ()				
17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第1石油類(非水溶 名称：危険物混合液(メタクリル酸メチル、メタノール、水) (1L) 性液体)				
18 取 扱 者 の 概 要	19 危険物保安 統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危険物 保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無				
22 設備・機器等の概要	オンラインファイル無				
23 事 故 の 概 要	製造所(メタクリル酸メチル)を定期修理からスタートアップしていた際、メタノール抽出塔へ供給するステンレス製配管母材部分の もらい錆による外部腐食によるピンホールから危険物混合液(メタクリル酸メチル、メタノール及び水)【第4類第1石油類(非水溶性)】 が約1L漏えいしていたのを作業員が発見したもので、当該配管の上流及び下流のバルブを閉止し漏えいは停止した。 なお、当該災害による死傷者は発生していない。				
24 緊急処置の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他				

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 硫酸供給配管はステンレス鋼管のため外面腐食防止塗装をしていなかった。 架構内の支柱等で発生した錆が落下し、配管に付着したことで錆が発生するもらい錆によって腐食が進行し、穿孔したものと推定される。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		デポジット腐食（堆積物下腐食、付着物下腐食）						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： メタノール抽出塔へ供給する配管から危険物混合液(メタクリル酸メチル、メタノール及び水)【第4類第1石油類(非水溶性)】が約1L漏えいしたが、施設外への流出はなし。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： ステンレス製配管外面に幅約1mmの穿孔発生			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	14 人	自 衛	3 台	0 隻	0 機	5 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性) メタクリル酸メチル 約1L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台	0 隻	0 機	5 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	6 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (99)					
・現場の安全管理 ・調査活動						被害状況の確認及び関係部署への連絡					
31 防災活動上の問題点											
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和4年5月31日	令和4年5月31日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無				
そ の 他	年	月	日	年	月	日	内容：				
35 今後の対策 や所見 当該配管はステンレス配管とはいえ製造から25年経過していることから、計画的に設備を更新する必要がある。 事業所による再発防止の対策としては、配管の点検及び交換周期について、ステンレス配管の目視検査の社内指針の改訂を行い、2023年6月末までの間に一斉点検を実施予定。 事故調査小委員会に今回の流出事故を加えて、多面的に議論し、再発防止の展開実施。また、教育面では外部腐食検査員制度オンデマンド講座を活用し、外部腐食点検の注意ポイントなどの再教育及び再確認を実施。											

1 事故名	製造所において原料移送時に配管内の圧力が上がり、視流器が破損した事故		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	6月 27日 17時 50分 推定・ 確定	4 発 見	6月 27日 17時 50分
5 覚 知	7月 8日 11時 00分	6 鎮 圧 応急処置完了	6月 27日 20時 00分
7 鎮火・処理完了	6月 28日 15時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南東 風速：2.4m/s 気温：27.6℃ 湿度：87.6%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 その他の番号 (1792) 化学工業 農薬製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第3類金属の水素化物(第3種自然発火 水素化ホ素トリウム 500kg 1.67倍 性物質及び禁水性物質) 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン 72,000L 360倍 第4類第1石油類(水溶性液体) アセトニトリル 20,000L 50倍 第4類アルコール類 メタノール 14,400L 36倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) クロロベンゼン 27,000L 27倍 第4類第2石油類(水溶性液体) ジメチルホルムアミド 15,000L 7.5倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) MIPA 2,800L 1.4倍 第4類第4石油類 Tween20 600L 0.1倍 第5類-トキ化合物(第2種自己反応性物質) NPA 2,200kg 22倍 倍数の合計： 505.67倍		
12 施 設 装 置	設置の完成： 昭和 57年 10月 9日 直近の完成： 令和 4年 5月 26日		
名 称： その他のタンク 番号 (1299)	17 物 質 の 区 分		
能 力： 10,000L	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： モノクロベンゼン(1L)		
13 機 器 等 温度 圧力：	18 取扱者の概要 経験年数9年		
名 称： 配管(送油、注入管等) 番号 (606)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 3. 不要 2. 無		
規 模： SUS製 口径50A	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者		
14 発 生 箇 所	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
名 称： 覗き窓 番号 (306)	23 事 故 の 概 要： 製造所において第4類第2石油類(非水溶性)モノクロベンゼンを移送する際、移送のためのポンプを稼働した状態でタンクの底弁を閉止したため、タンクとポンプ間の配管が陰圧状態となり、突沸現象が生じて配管内の圧力が高まり視流器が破損した。移送作業を行っていた作業員1人が、破損した視流器のガラス片及びガラス片に附着していた同危険物により受傷した。		
材 質： ガラス	24 緊急処置の状況 有 番号 () 無		
15 発 生 時			
運 転 状 況： 移送中 番号 (18)			
作 業 状 況： 抜取中 番号 (14)			

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()		
	関連原因						
	発生原因の状況： 当該操作に関する危険性の認識がなかったために、ポンプを稼働した状態での底弁の閉止操作を通常工程として行っていた。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		
	管理		リスクアセスメント		危険意識		
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害				28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設等の被害状況： 視流器1台が破損した。	
区分					死傷原因		職業又は職名
当 事 者	0	0	0	1	視流器破損によるガラス片等の飛散		
防災活動従事者	0	0	0	0			
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
消 防 機 関	0 台 0 隻 0 機 0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況：			
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	第4類第2石油類(非水溶性)モノクロロベンゼン1L			
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	流出			
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (20 万円)			
30 実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 ()			自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点 消防機関への通報が遅れたこと。							
32 行政措置	施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和4年4月25日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ <u>無</u>		
その他	年 月 日	年 月 日	内容：				
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策や所見	同施設の類似事故の再発防止策策定を指導するとともに、管内事業所に対し指導を行い事故防止に努める必要がある。						

1 事故名		大雨により製造所内のスロップピットがオーバーフローした事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		7月 12日 8時 35分	
5 覚 知		7月 12日 8時 40分		6 鎮 圧 応急処置完了		7月 12日 15時 00分	
7 鎮火・処理完了		7月 12日 15時 00分					
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：雨		風向：南南西		風速：1m/s 気温：25℃ 湿度：92%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：名古屋港臨海地区特別防災区域			
				16 発生施設規制区分等			
12 施 設 装 置				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他			
				貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所			
名 称：その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力：停止中施設				類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン等 34,781,777L 173,908.89倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油等 16,326,787L 16,326.79倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油等 7,430,497L 3,715.25倍 第4類第4石油類 潤滑油等 82,654L 13.78倍 第2類硫黄 硫黄 152,000kg 1520倍			
				倍数の合計： 195,484.71倍			
13 機 器 等				温度圧力：常温、常圧			
				名 称：その他 番 号 (999)			
規 模：3m×3m×3m 27m ³				設置の完成：昭和48年 8月 13日			
				直近の完成：令和4年 6月 24日			
14 発 生 箇 所				17 物 質 の 区 分			
名 称：その他 番 号 (999)				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
材 質：コンクリート				5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
15 発 生 時				(固相、液相、気相) (常圧、加圧)			
運 転 状 況：その他 番 号 (99)				(低温、常温 [0-40℃]、高温)			
作 業 状 況： 番 号 ()				分 類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：スロップ油(97L)			
18 取扱者の概要				21 危険物取扱者の の取扱・立会い			
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 減圧軽油水素化脱硫装置内のスロップドラムがオーバーフローし、スロップ油が施設のスピルウォール内に流出した事故。発災当時、大雨によりスピルウォール内に溜まった水が油回収用のファンネルに流れ込み、スロップドラムの許容量を超え、ファンネル数か所からオーバーフローしたと推定される。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他							

原因	25 主 原 因 風水害		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 発災当時、大雨によるスピルウォールの水は各装置内の集水桝よりオイリー排水(含油系)配管に集水されたが越流ピット(オイリー排水の流れ込み先)のレベルが高かったため流れず、装置内のスピルウォール内のレベルが上昇した。 それにより、スピルウォール内に溜まった水が油回収用のファンネルに流れ込み、流れ込んだ先のスロップドラムのレベルが上昇。レベル上昇に伴いスロップドラムのポンプは自動起動し、オフサイトのスロップタンクへ送液されたものの、ファンネルからの流入水がポンプ吐出量よりも多く、ドラム内が満量になり、装置内でつながっているファンネル数か所から油が排出されたと推定される。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： スロップ油が施設スピルウォール内約970㎡に約97L流出		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 施設等に破損等の被害なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	4 台	0 隻	0 機	106 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)スロップ油97L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動を実施。				自衛防災・消防組織等 番号 (5) 吸着マットによるスロップ油の回収。						
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和3年12月2日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
35 今後の対策 や所見	大雨でも越流ピットのレベルが高くなければ、装置集水桝からオイリー系へは問題なく流れる。そのためレベル上昇をさせないように越流ピットが上昇し始めたら状況を確認しつつ、速やかに放流を実施する。									

1 事故名		アセトン回収装置の熱交換器のベントノズルからアセトンが流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		2月 14日 9時 05分 推定・ 確定			4 発 見		2月 14日 9時 05分				
5 覚 知		2月 14日 9時 52分			6 鎮 圧 応急処置完了		2月 14日 9時 20分				
7 鎮火・処理完了		2月 14日 12時 00分									
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：曇		風向：東南東		風速：0.7m/s		気温：5.1℃		湿度：79%	
10 発 生 事 業 所						11 発 生 場 所					
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学 番 号 (1731) 工業製品製造業 石油化学系 基礎製品製造業(一貫して生産 される誘導品を含む)						区 分：①. 事業所内 (製)、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：四日市臨海地区					
12 施 設 装 置						16 発生施設規制区分等					
名 称：その他【有機化学工業】 番 号 (5999)						施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他					
能 力：31.2KL/日						貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所					
13 機 器 等						類・品名・名称・数量・倍数：					
名 称：熱交換器 番 号 (301)						第4類第1石油類(非水溶性液体) MIBK 31,200L 156倍					
規 模：高さ1.9m、幅0.6m						第4類第1石油類(非水溶性液体) 低沸分 2,000L 10倍					
14 発 生 箇 所						第4類第1石油類(水溶性液体) アセトン 97,000L 242.5倍					
名 称：ベント管、ブロー管、放出管 番 号 (303)						第4類第2石油類(非水溶性液体) ミチルオキサイト [®] 15,200L 15.2倍					
材 質：鋼鉄						第4類第2石油類(非水溶性液体) ジイソブチルケトン 91,800L 91.8倍					
15 発 生 時						第4類第2石油類(非水溶性液体) 高沸分 10,000L 10倍					
運 転 状 況：スタートアップ中 番 号 (2)						第4類第2石油類(水溶性液体) グイアセトンアルコール 20,000L 10倍					
作 業 状 況： 番 号 ()						第4類第3石油類(非水溶性液体) SKオイル 10,000L 5倍					
						第4類第4石油類 潤滑油 6,000L 1倍					
						倍数の合計： 541.5倍					
						設置の完成：昭和 38年 8月 19日					
						直近の完成：令和 4年 1月 21日					
19 危険物保安 統括管理者						①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要：						18 取扱者の概要					
オンラインファイル有						①. 選任有 2. 選任無 3. 不要					
23 事故の概要：						21 危険物取扱者 の取扱・立会い					
アセトンからMIBKを製造するプラント内にあるアセトン回収装置において定期修理後のスタートアップ作業で蒸留装置から還流タンクへアセトンを還流中、還流タンクが満杯となり、配管を経由して熱交換器に流れ込みそのベントノズルから漏えいしたものの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1、9、10) 無											
装置の緊急停止、緊急排出、緊急移送、その他											

原因	25 主 原 因 故障		着火原因				番号 ()	
	関連原因		監視不十分					
	発生原因の状況： 差圧式液面計の空電変換器が故障したことにより還流タンクの液面計が一定値を示したため、還流ポンプの起動が遅れ還流タンクが満杯となり、配管を経由して熱交換器に流れ込みそのペントノズルからアセトンが漏えいした。							
	主要原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	故障		機能		機器の機能の停止			
	関連原因の詳細							
	人		本人の意識		思慮		思い込み	
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害						28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	
区分								
当 事 者		0	0	0	0			
防災活動従事者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			
被災影響範囲及び拡大の状況： 製造所の範囲内								
施設等の被害状況： 差圧式液面計の空電変換器の故障								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関		2 台	0 隻	0 機	9 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機 30 人	
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
物質の被害状況： アセトンが約800L漏えい								
損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (8 万円)								
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 警戒筒先の配備				自衛防災・消防組織等 番号 (5、99) プラント内に漏えいしたアセトンの回収作業 還流タンク付近での消防車による警戒				
31 防災活動上の問題点								
32 行政措置	施設名				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	使用停止		年 月 日	年 月 日	定期・自主点検		令和 3 年 6 月 11 日	年 月 日
	改善命令等		年 月 日	年 月 日	気密試験等		年 月 日	年 月 日
	停止解除		年 月 日	年 月 日	保安検査		年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：	
その他		年 月 日	年 月 日					
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策や所見								
<ul style="list-style-type: none"> ・差圧式液面計の空電変換器の故障について、空電変換器を新品に交換する。 ・差圧式液面計本体の点検を実施し、差圧式液面計、空電変換機及びDCS計器の動作テストを実施する。 ・シャットダウンシーケンス(プラント停止の自動制御)に関係しないDCS計器IOPアラームが発生した場合、液面計数値を100%と表示することとした(異常状態の覚知方法として最も良いと判断される)。 ・シャットダウンシーケンスに関係するDCS計器IOPアラームが発生した場合、液面計数値を100%と表示することが異常状態の覚知方法として最も良いと判断されるも、液面計数値を100%と表示すると運転上問題が発生してしまうため、DCS計器の画面上に「IOP」の点滅表示をさせ、直近の液面計数値を継続表示させることとした。 ・以上の対策について、従業員へ周知徹底を実施した。 								

1 事故名	製造所において、混合槽洗浄のため高温の苛性ソーダ水溶液に酢酸エチルを投入したことによる水溶液の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 20日 13時 30分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	4月 20日 13時 30分	
5 覚 知	4月 20日 15時 15分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 20日 16時 15分	
7 鎮火・処理完了	4月 20日 16時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南西 風速：6.2m/s 気温：24℃ 湿度：21%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 その他の番号 (1794) 化学工業 ゼラチン・接着剤製 造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 酢酸エチル、トルエン、MEK、メチルイソブチ 11,690L 58.45倍 アクリル酸メチル、アクリル酸エチル、メタクリル酸メチル、酢酸ビニル アセトン、トールエン 2,700L 6.75倍 第4類アルコール類 メタノール、エタノール、イソプロパノール 400L 1倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) アクリル酸n-ブチル、メタクリル酸 1,300L 1.3倍 n-ブチルメタクリル酸n-ブチル 第4類第2石油類(非水溶性液体) アセチルアセトン 5,000L 5倍 第4類第2石油類(水溶性液体) アクリル酸 60L 0.03倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) アクリル酸2-エチルヘキシル、アクリル酸ブチル 2,600L 1.3倍 アクリル酸フェノキシエチル、メタクリル酸2-エチルヘキシル、メタクリル酸ブチル メタクリル酸、メタクリル酸2-ヒド'ロキシエチ 60L 0.02倍 アクリル酸4-ヒド'ロキシブチル、アクリル酸2-ヒド'ロキシエチル 第4類第3石油類(水溶性液体) アゾビスイソブチロニトリル、トールエン、n-ヘキシル、n-オ 100kg 1倍 トールエン、n-ヘキシル、n-オレフィン、n-ブチル、n-オレフィン-2-エチルヘキシル、n-オレ 100kg 1倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 混合して製造した危険物 4,940L 24.7倍 倍数の合計： 99.55倍 設置の完成： 昭和 49年 5月 23日 直近の完成： 昭和 49年 8月 28日				
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分				
名 称： その他の合成樹脂製造装置 番号 (5959)	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
能 力： 混合槽容量1m ³	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： 酢酸エチル(50L)				
13 機 器 等 温度圧力： 73℃	18 取扱者の概要 経験年数25年				
名 称： 反応塔、槽 番号 (102)	19 危険物保安 統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物 保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無				
規 模： 直径1,100mm高さ1,200mm容量1,000L	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
14 発 生 箇 所	23 事 故 の 概 要： 危険物製造所内において、作業員一人で混合槽を洗浄するため、槽内部に入っている73℃の苛性ソーダ水溶液(約900kg)に、ドラム缶から酢酸エチル約90Lを投入し攪拌したところ、投入口から混合槽内部の水溶液が噴出したもの。電動の攪拌機を動作させ攪拌作業開始した際、作業員は混合槽付近におり、水溶液の噴出はすぐに確認できた。噴出確認後攪拌機を停止、他の従業員に状況を周知し、吸着マット等で噴出した水溶液の吸着等の処理を行った。13時30分頃に発生し、流出危険物の吸着等応急処置完了後15時15分に会社の固定電話から従業員が加入電話で消防機関へ通報した。負傷者なし。				
15 発 生 時	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他				
運 転 状 況： 停止中 番号 (5)					
作 業 状 況： 洗浄中 番号 (11)					

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因 操作確認不十分										
	発生原因の状況： 洗浄作業を実施した作業員は、単独で当該洗浄作業を実施しているものの、当該作業を実施したことがなく、洗浄作業自体も試験段階であったにもかかわらず、73℃という高温から攪拌作業を実施しており、危険物の取扱いに関して未熟であった。 作業員は酢酸エチルの沸点が通常時は77℃であることは理解していたが、攪拌することで沸点が71℃まで下がることを知らなかった。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足				
	制度		教育・訓練		内容		教育・訓練がない/不足				
	管理		組織		人員配置(役割・責任)		人の配置が不適切				
	関連原因の詳細										
	人		本人の意識		思慮		過信				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名				
区分											
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 酢酸エチル50L(苛性ソーダとの混合液)が混合槽周囲の床面半径2mの範囲に流出した。				
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 危険物製造所約13㎡汚損				
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)酢酸エチル 50L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	3 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
30 実施した防災活動の状況										損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (3 万円)	
公設消防機関：番号 (99) 危険物流出等の事故調査を実施した。						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点											
行政措置	32 施設名	製造所				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <u>無</u>			
その他	査察結果通知書の交付 令和4年5月6日				①. 文書 ②. 口頭		1. 文書 2. 口頭		内容：		
35 今後の対策や所見		1 取扱いについて、以下のとおり実施 ・作業指示書を作成・発行 ・危険予知・リスクアセスメントを実施 ・危険物の性質・危険性の教育を実施 2 災害対応について以下のとおり実施 ・危険物の流出その他事故が発生した時は、直ちにその旨を消防署等に通報 ・予防規程を見直し変更									

1 事故名	フェノールプラント熱交換器入口側ドレンノズルからのアセトン混合物漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 11日 8時 26分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	1月 11日 8時 26分	
5 覚 知	1月 11日 8時 40分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 11日 10時 55分	
7 鎮火・処理完了	1月 11日 10時 55分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：北北東 風速：2.6m/s 気温：6.6℃ 湿度：				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学 番 号 (1731) 工業製品製造業 石油化学系 基礎製品製造業(一貫して生産 される誘導品を含む)		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (<input checked="" type="checkbox"/> 製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 堺・泉北臨海地区	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称：フェノール製造装置 番 号 (5402)			施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) クロ 3,470,000L 3,470倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) C9 76,000L 76倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) アセトフェノ 3,000L 1.5倍		
能 力：			設置の完成：昭和48年 7月 28日 直近の完成：令和2年 7月 6日 倍数の合計： 3,547.5倍		
13 機 器 等	温度圧力：100℃、0.5Mpa		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分 類： 第4類第1石油類(水溶性液体) 名称：アセトン等混合物(600L)		
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	規 模：1インチ				
14 発 生 箇 所	名 称：ドレンノズル 番 号 (208)		18 取扱者の概要 経験年数30年		
材 質：ステンレス	15 発 生 時				
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)		作 業 状 況：サンプリング中 番 号 (4)		19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要
		20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： フェノールプラントにおいて熱交換器のチューブ入口側でサンプリングのためバルブを少し開けるも液体が出なかったため、さらに開けたところ、勢いよく噴き出したため、バルブが閉められなくなり、治具を用いてバルブを閉めた。バルブ閉止までの間に、クメン10%、アセトン40%、フェノール40%、水10%の混合液(第4類第1石油類水溶性)が約600L漏えいした。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

25	主 原 因 操作確認不十分	着火原因	番号 ()							
原因	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 当該ドレングノズルは、通常運転時サンプリングを実施しておらず、本来ノズルの詰まりを想定した危険予知が必要であったが実施していなかった。今回運転条件を変えたため中間品の分析をしようと、数年に1回の頻度で実施する当該ノズルを用いたサンプリングを行ったところ固形物が詰まっておりノズル開放と同時に固形物と液体が噴出したもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	人	本人の意識	思慮	配慮不足						
	関連原因の詳細									
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
人的被害	27 人的被害						28 物的被害			
	被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： スビルウォール内に漏えい		
	当 事 者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし		
	防災活動従事者	0	0	0	0					
	第 三 者	0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	14 台	0 隻	0 機	25 人	自 衛	3 台	0 隻	0 機	25 人	物質の被害状況： アセトン混合物600L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況								損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (万円)		
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
警戒活動・ガス検知										
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日			年 月 日	定期・自主点検	令和4年 1月 5日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日			年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日			年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	年 月 日			年 月 日	内容： 					
1. 文書 2. 口頭										
1. 文書 2. 口頭										
35 今後の対策 や所見	<ul style="list-style-type: none"> ・当該箇所を含め使用頻度の少ないノズルを使用してのサンプリングを実施しない。 ・定期的にサンプリングを行う箇所以外では、詰まりを想定した危険予知実施後にサンプリングをする。 ・ノズルの詰まりが確認できる場合は、作業を一旦中止し関係者で協議したのち作業する。 									

1 事故名		ベンゼントルエン製造装置における蒸留塔塔頂部配管からの改質油流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		12月 15日 16時 00分	推定・確定	4 発 見		12月 15日 16時 00分	
5 覚 知		12月 15日 16時 15分		6 鎮 圧		12月 15日 17時 01分	
7 鎮火・処理完了		12月 15日 19時 07分		6 応急処置完了			
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：西 風速：3.7m/s 気温：7.9℃ 湿度：49.4%					
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：堺泉北臨海地域			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ベンゼン 144,000L 720倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) その他第1石油類 4,560,000L 22,800倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) シレン 720,000L 720倍			
12 施 設 装 置							
名 称：精製装置 番 号 (2103)							
能 力：ベンゼン87kt/年、トルエン212kt/年							
13 機 器 等							
温 度 圧 力：60℃、0.1Mpa							
名 称：蒸留、精留塔(スクリュー、スリッパ) 番 号 (101)							
規 模：内径2,440mm、高さ38,969mm				倍数の合計： 24,240倍			
14 発 生 箇 所				設置の完成：昭和49年 3月 22日 直近の完成：令和元年 7月 1日			
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)				17 物 質 の 区 分			
材 質：鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：改質油			
15 発 生 時				18 取扱者の概要			
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)							
作 業 状 況： 番 号 ()							
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 蒸留塔の塔頂部配管から改質油が流出しているのを、付近でアスベストの調査をしていた作業員が発見した。装置を停止し、ブロック後、脱圧作業を行い流出は停止した。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 配管サポートの当て板が断続溶接であったため、雨水が浸入し、外面腐食により開孔に至ったもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	腐食	環境	多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）							
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害			28 物的被害							
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 配管より微量流出し、揮発していた。			
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管が若干開孔したものを。			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	14 人	自 衛	4 台	0 隻	0 機	9 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)改質油 微量流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
							損害額 [1万円未満]、1万円以上 () 万円)			
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (4、99) 警戒活動				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 4 年 12 月 2 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・[無] 内容：			
そ の 他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭										
35	今後の対策 や所見	雨水が浸入しないように、当て板を全周溶接にて復旧								

1 事故名		酢酸製造プラント内の配管途中にあるバルブの本体ジョイント部から酢酸が流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		7月 14日 11時 30分	推定・確定	4 発 見	7月 14日 11時 32分						
5 覚 知		7月 14日 11時 48分			6 鎮 圧	7月 14日 13時 25分					
7 鎮火・処理完了		7月 14日 16時 20分			6 応急処置完了						
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：雨		風向：南南西		風速：1.5m/s		気温：27℃		湿度：76%	
10 発 生 事 業 所						11 発 生 場 所					
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学 番号 (1732) 工業製品製造業 脂肪族系中 間物製造業(脂肪族系溶剤を含 む)						区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：姫路臨海地区					
						16 発生施設規制区分等					
						施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類特殊引火物 アトアルデヒド 677L 13.54倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 酢酸メチル 59,000L 295倍 第4類アルコール類 メタノール 816L 2.04倍 第4類第2石油類(水溶性液体) プロピオン酸 1,200L 0.6倍 第4類第2石油類(水溶性液体) キ酸 60L 0.03倍 第4類第2石油類(水溶性液体) 酢酸 3,642,857L 1,821.43倍 第4類第4石油類 潤滑油 12,000L 2倍 倍数の合計： 2,134.64倍					
12 施 設 装 置											
名 称：酢酸、酢酸エチル、酢酸ブチル製造装置 番号 (5106)											
能 力：酢酸製造能力約1,320,000L/日											
13 機 器 等						温度圧力：90℃、7.8Mpa					
名 称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)											
規 模：酢酸製造能力約1,320,000L/日											
14 発 生 箇 所						設置の完成：昭和53年12月21日 直近の完成：令和4年6月27日					
名 称：開閉弁 番号 (204)						17 物 質 の 区 分					
材 質：ステンレス						①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(水溶性液体) 名称：酢酸(200L)					
15 発 生 時						18 取扱者の概要					
運 転 状 況：定常運転中 番号 (1)											
作 業 状 況： 番号 ()											
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： 酢酸製造プラントにおいて、定常作業中、配管途中のボールバルブ本体ジョイント部から酢酸が漏えいしているのを付近で作業していた従業員が臭気に気付き発見した。バルブ本体ジョイント部の増し締めを行ったが漏えいは収まらず、防災センターを通じて消防へ通報した。漏えい量は約200L。負傷者なし。											
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原因	25 主 原 因 設計不良		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 当該バルブは6Bサイズのボールバルブで2分割構造となっているが、同社製の他のサイズのもの比べると、バルブ本体フランジの締め付けボルト間隔が広いことが分かった。さらに硬くて潰れ代が小さいガスケットを使用していたことで、ガスケットの締め付け圧力が不均一な状態であったためシール性が弱く、漏えいに至ったものと推定する。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	設計不良		機能		必要とされる機能が備わっていない					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 発災施設以外への影響はなし。		
区分										
当事者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第三者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 被害なし。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消防機関	14台	0隻	0機	47人	自衛	1台	0隻	0機	7人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(水溶性)酢酸 約200L流出
消防団	2台	0隻	0機	7人	共同	0台	0隻	0機	0人	
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応援	0台	0隻	0機	0人	
その他の機関	10台	0隻	0機	15人	その他	0台	0隻	0機	0人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 出火に備え、筒先配備を行った。				自衛防災・消防組織等 番号 () 発見後、直ちに職場内通報を実施し、送液ポンプの停止を求めるとともに、漏えい箇所一次側直近の手動バルブを閉止し、漏えいが発生したバルブ本体ジョイント箇所のボルトを増し締めし、酢酸の噴出を抑制する措置を講じた。更に、施設内の工業用水ラインに金属製フレキシブルホースを接続し、漏えい箇所直下の床面に散水することで酢酸の希釈を行うとともに、当該フロアの屋外泡消火栓を延長し消火準備を行った。						
31 防災活動上の問題点 問題なし。										
32 施設名	使用停止	年 月 日		年 月 日		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日			定期・自主点検	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日			気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	関係条項						保安検査	年 月 日	年 月 日	
	その他	年 月 日		年 月 日		34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/> 内容：			
	1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策 や所見		漏えいしたバルブと同社製のバルブについて全数接合部分の点検を行い、接合が弱いものについてはガスケットの潰れ代が十分に確保できるものに交換後、耐圧・気密検査を実施し、問題がないことを確認した。今後は同社製のバルブ及び使用実績の少ないメーカーからバルブを納入する場合は全数点検した後に使用することを社内でマニュアル化した。								

1 事故名	製造所において熱交換器から化成器への配管の高温酸化腐食による熱媒体(ナイター)の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 26日 11時 21分	推定・ 確定	4 発 見	10月 26日 11時 23分	
5 覚 知	10月 26日 11時 35分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 26日 13時 00分	
7 鎮火・処理完了	10月 26日 13時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東北東 風速：3.9m/s 気温：18℃ 湿度：53%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学 番号 (1732) 工業製品製造業 脂肪族系中 間物製造業(脂肪族系溶剤を含 む)	区 分：①. 事業所内 (製)、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 姫路臨海地区				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第1類硝酸塩類(第1種酸化性固体) ナイター(硝酸カリウム 24,000kg 480倍 と亜硝酸トリウムの混合物) 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン 19,705L 98.53倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) ベンゾニトリル 87,565L 43.78倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 622.31倍				
名 称：その他の芳香族系化合物製造装置 番号 (5499)	設置の完成： 昭和 45年 12月 8日 直近の完成： 令和 4年 2月 2日				
能 力：ベンゾニトリル製造装置 10t/日	17 物 質 の 区 分				
13 機 器 等	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 高温) 分 類： 第1類硝酸塩類(第1種酸化性 名称： ナイター(硝酸カリウムと亜硝酸トリウムの混合物) (460L)				
名 称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)	18 取扱者の概要				
規 模：配管口径50A	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
14 発 生 箇 所	20 危 険 物 保 安 監 督 者				
名 称：その他の附属配管等 番号 (299)	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い				
材 質：鋼鉄	①. 有 2. 無				
15 発 生 時	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
運 転 状 況：スタートアップ中 番号 (2)	23 事 故 の 概 要： 危険物製造所の架台3階フロアにおいて、スタートアップ作業時に、現場近くにいる作業員が熱交換器から化成器に送液するナイター配管付近から温度約300℃で液状のナイターが漏えいしたことを発見したもの。漏えいしたナイターは当該フロアに飛散し、当該フロアの開口部から下のフロアにも漏えいが拡散した。漏えい範囲は施設内及び施設周囲の地盤面にも拡がっており、推定漏えい量は460Lであった、負傷者等は発生しなかった。なお、当該ナイターの用途は化成器の熱媒体であり、融点は約145℃であるため、配管系外に漏えいして温度が下がると白く固化することから、応急措置としては固化したナイターをドラム缶に回収するとともに、付着箇所の水洗を行った。				
作 業 状 況： 番号 ()	24 緊急処置の状況 有 番号 (1, 8) 無 装置の緊急停止、防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等				

原因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()										
	関連原因 監視不十分、腐食疲労等劣化														
	発生原因の状況： ナイター配管開口箇所周辺は電気ヒーターが過密に巻かれており、過加熱で配管が高温酸化により腐食し、送液ポンプ昇圧時の圧力で配管が開口したと推定する。当該開口箇所周辺の電気ヒーターについては、2017年2月に当該配管に設置してある調節弁の定期整備を行う際に電気ヒーターを取り外し、復旧する際に施工範囲を誤り、配管のみに過密に施工したため、配管耐熱温度を大きく上回っていたと推定される。														
	主原因の詳細														
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層								
	施工不良		施工		設置位置の問題										
	関連原因の詳細														
	設備		監視・保守		点検・整備		施工監理が不適切								
制度		規則・手順		内容・周知		規則・手順の内容が不適切									
腐食		環境		その他											
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から															
27 人的被害						28 物的被害									
被害内容等		死亡		重症		中等症		軽症		死傷原因		職業又は職名		被災影響範囲及び拡大の状況： 流出したナイターが当該製造所内床面及び一部施設外の地盤面にまで拡がった。	
区分															
当 事 者		0		0		0		0							
防災活動従事者		0		0		0		0						施設等の被害状況： 配管(STPA22:50A)約10mm×50mm開口	
第 三 者		0		0		0		0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況															
消 防 機 関		11 台 0 隻 0 機 41 人		自 衛		3 台 0 隻 0 機 163 人		物質の被害状況： 第1類 第1種硝酸塩類 ナイター 460L流出							
消 防 団		2 台 0 隻 0 機 8 人		共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人									
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人		応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人									
その他の機関		4 台 0 隻 0 機 6 人		その他		0 台 0 隻 0 機 0 人		損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (40 万円)							
30 実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (4)									
事業所構内到着時に災害実態及び人命危険、拡大危険、及び活動危険情報を聴取した後、現地指揮本部に移動し、事業所と協議の上で流出箇所の確認を目視及びドローンを活用して実施した。						事業所構内の排水経路を遮断し、海上に流出しないように措置を講じた。									
31 防災活動上の問題点															
事業所構内到着時の説明において、発災施設の場所が本来の場所と異なっていた。															
行政措置	32 施設名		ベンゾニトリル製造施設		33 定期点検等		消 防 法		そ の 他						
	使用停止		年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和 4 年 4 月 6 日		年 月 日				
	改善命令等		令和 4 年 10 月 27 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日				
	停止解除		年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日				
	関係条項		法第12条第2項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u>		内容：				
その他		年 月 日		年 月 日											
35 今後の対策 や所見		電気ヒーターの施工要領を見直し、手順を明確化するとともに、当該施工要領に関する教育を従業員及び協力会社に対して実施する。また、同種設備を持つ施設に対して水平展開を実施するよう指導を行った。この度の事案は施工管理不足により意図せず変更管理が必要な施工となっていたことが起因する。この度は幸いにも人的被害はなかったものの、十分重大事故に発展する可能性を含んだ事故であった。このように過去の施工管理不足により当初の設計条件を上回る状況となっている設備が他にもある可能性は十分あるため、そうしたリスクの抽出も合わせて指導する必要性を感じた。今後、管内の他の事業所に対しても指導を行い、同種事故の防止に努める必要がある。													

1 事故名		熱交換器のフランジ部からの重油漏えい					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		3月 17日 13時 45分	推定・確定	4 発 見		3月 17日 13時 45分	
5 覚 知		3月 17日 13時 49分	6 鎮 圧 応急処置完了		3月 17日 13時 47分		
7 鎮火・処理完了		3月 17日 15時 33分					
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：東		風速：2.9m/s 気温：20℃		湿度：35%	
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所					
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：水島臨海地区					
		16 発生施設規制区分等					
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類特殊引火物 フルベント 459,600L 9,192倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) LCO 153,500L 153.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) アンチフォーマー 4,100L 4.1倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) アンチフォーマー 9,300L 9.3倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) CLO/EXT 2,000L 1倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) ホットオイル 164,500L 82.25倍 第4類第4石油類 潤滑油 200L 0.03倍 倍数の合計： 9,442.18倍					
12 施 設 装 置							
名 称：その他【石油精製工業】 番 号 (2999)							
能 力：溶剤脱漉装置 138,165kg/h							
13 機 器 等		温度圧力：269℃、2.15Mpa					
名 称：熱交換器 番 号 (301)							
規 模：直径1,000mm、長さ7,774.5mm							
14 発 生 箇 所		設置の完成：平成26年 2月 18日 直近の完成：平成28年 3月 31日					
名 称：管継手(ダクトを含む) 番 号 (201)		17 物 質 の 区 分					
材 質：鋳鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分 類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(29L)					
15 発 生 時		18 取扱者の概要					
運 転 状 況：停止中 番 号 (5)							
作 業 状 況：その他 番 号 (99)							
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	
						①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 配管内の圧抜き作業実施中、配管内の圧力上昇により、ステーションリーフランジから装置内に重油が29L漏えいした。降圧作業を実施し、漏えいは停止した。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()							
	関連原因											
	発生原因の状況： 調整弁の圧抜き作業の際、通常と逆の流れ方向に圧抜きを実施したため、配管内の流量が低下。その後、調整弁内のスケールが沈降し調整弁を閉塞させたことにより一時的な液封状態を形成。他の弁との間で圧力が上昇し、さらに調整弁が閉止状態となったため液封状態となり、シェル側流体の熱源によりチューブ側内液の温度が上昇。それに伴う体積膨張により配管内が加圧状態になり、フランジ部から重油が漏えいしたものの。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足					
	制度		規則・手順		内容・周知		規則・手順の内容が不適切					
	関連原因の詳細											
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害				28 物的被害								
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：				
区分								なし				
当 事 者		0	0	0	0							
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況：				
第 三 者		0	0	0	0			なし				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関		5 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	5 台	0 隻	0 機	63 人	物質の被害状況：	
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	第4類第3石油類(非水溶性) 重油 29L漏えい	
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関		4 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)	
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (99、5)						
警戒待機及びガス検知						警戒待機、ガス検知及びオイルマットで重油回収						
31 防災活動上の問題点												
行政措置	32 施設名				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他			
	使用停止		年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日			
	改善命令等		年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日			
	停止解除		年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日			
	関係条項						34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>			
その他		年 月 日		年 月 日		内容：						
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭										
35 今後の対策や所見		<ul style="list-style-type: none"> ・漏えいした機器を含む加圧状態となった範囲の機器及び配管(フランジ含む)について、変形等の異常がないことを確認し、同範囲全てのガスケット交換を実施した。 ・運転停止手順書に「調整弁で圧抜きをするケースにおいては、操作用出力を50%以上とし、現場の調整弁開度表示で開いていることを目視確認する」旨を追記し、圧抜き時の調整弁開度設定に個人差が出ない表現に変更すると共に、係員全員に周知教育を行い理解度を確認した。 ・調整弁内に逆圧がかかることで、調整弁内弁の上部から閉方向へ圧がかかり調整弁を閉止させた今回の事象を係員全員に周知教育。また、調整弁内弁上部に調整弁駆動力以上の圧力が掛かった状態では、調整弁駆動力による開調整は不可能であることなど、調整弁の構造に関することについても周知教育した。 										

1 事故名	製造所の設備から油分を含む蒸気が、コンビナート地区内外の周辺地域へ漏えい(飛散)したもの																			
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()																			
3 発 生	8月 13日 22時 53分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	8月 13日 23時 40分																
5 覚 知	8月 16日 14時 10分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 16日 17時 52分																
7 鎮火・処理完了	8月 16日 17時 52分																			
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()																			
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西 風速：3m/s 気温：30℃ 湿度：73%																			
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所																			
種 別： 業 態：	①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他)		区 分： ①. 事業所内 (<input checked="" type="checkbox"/> 製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)																	
	製造業 石油製品・石炭製品製番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		特別防災地区名： 水島臨海地区																	
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等																			
名 称： 能 力：	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他																			
	貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所																			
13 機 器 等	類・品名・名称・数量・倍数：																			
	<table border="0"> <tr> <td>第4類特殊引火物</td> <td>その他</td> <td>324,500L</td> <td>6,490倍</td> </tr> <tr> <td>第4類第1石油類(非水溶性液体)</td> <td>ナフサ等</td> <td>1,883,100L</td> <td>9,415.5倍</td> </tr> <tr> <td>第4類第2石油類(非水溶性液体)</td> <td>軽油等</td> <td>105,161L</td> <td>105.16倍</td> </tr> <tr> <td>第4類第4石油類</td> <td>潤滑油</td> <td>3,770L</td> <td>0.63倍</td> </tr> </table>					第4類特殊引火物	その他	324,500L	6,490倍	第4類第1石油類(非水溶性液体)	ナフサ等	1,883,100L	9,415.5倍	第4類第2石油類(非水溶性液体)	軽油等	105,161L	105.16倍	第4類第4石油類	潤滑油	3,770L
第4類特殊引火物	その他	324,500L	6,490倍																	
第4類第1石油類(非水溶性液体)	ナフサ等	1,883,100L	9,415.5倍																	
第4類第2石油類(非水溶性液体)	軽油等	105,161L	105.16倍																	
第4類第4石油類	潤滑油	3,770L	0.63倍																	
名 称： 能 力：	番号 (2999) 第4類第1石油類処理量 1,833.1KL/日																			
14 発 生 箇 所	温度圧力：459℃、0.42Mpa																			
名 称： 規 模：	番号 (199) 26,670mm																			
	倍数の合計： 16,011.29倍																			
15 発 生 時	設置の完成：昭和44年6月16日 直近の完成：令和2年12月16日																			
名 称： 材 質：	17 物質の区分																			
	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、常温[0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：炭化水素 ^ヘ - ^ハ -(800kg)																			
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者	18 取扱者の概要																
			①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い															
					①. 有 2. 無															
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無																				
23 事故の概要： 8月13日22時53分、石油コークス製造装置のコークドラムを運転中に、ドラム上部の大気開放弁を誤開放し、内部の炭化水素ベーパーが大気に放出した。誤操作に気づきバルブを閉止したが、約90秒間放出された。製油所敷地内を確認し、構外には著しい飛散はないと事業所内で判断していたが、8月14日9時4分、市民から油の飛散があるとの119番通報を受け消防機関が調査するとともに、事業所内調査を実施し、8月16日16時30分、当該事象が油の飛散の原因であることが判明する。																				
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止																				

25	主 原 因 誤操作 関 連 原 因 操作確認不十分	着火原因	番号 ()								
原 因	発生原因の状況： コークドラム操作画面で、類似機器の操作スイッチが隣接して設けられていた。これによりマウスでスイッチをクリックする場所が少しづれるだけで目的の操作画面と似た画面へ移動してしまう状況となっていた。また、操作画面上でバルブ開閉操作を可能としていたため、誤操作を招きやすい状況にあった。さらに、操作するバルブの番号の確認を怠って安易に操作したため、誤操作をしていることに気づくことができなかった。 コークドラム操作インターロックについて、インターロックをバイパス操作することが常態化していた。また、インターロックの重要性やバイパス操作によってもたらされる危険性について教育できていなかった。その結果、バイパス操作に対して危険意識が低くなっていた。										
	主要原因の詳細										
	第I層	第II層	第III層	第IV層							
	人	本人の意識	思慮	取り違い							
	人	本人の意識	思慮	思い込み							
	人	本人の意識	違反(故意)	怠慢							
	関連原因の詳細										
	制度	規則・手順	内容・周知	規則・手順の内容が不適切							
	管理	リスクアセスメント	危険意識	危険性評価がない/不適切							
	26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27	人的被害		28 物的被害								
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： コークドラム上部の大気開放の誤開放により漏えいした油分は、漏えい当時の風に乗って、石油コークス製造装置から東方向約5km圏内に飛散			
	区分										
	当 事 者	0	0	0	0						
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 車両511台、家屋等80件、農作物25件、近隣コンビナート事業所2件			
	第 三 者	0	0	0	0						
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
	消 防 機 関	7 台	0 隻	0 機	14 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性) 炭化水素ベーパー 800kg流出(飛散)
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
	その他の機関	8 台	0 隻	0 機	16 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (20,006 万円)										
30	実施した防災活動の状況										
	公設消防機関：番号 (99) 飛散状況の現地確認、調査					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31	防災活動上の問題点										
32	施 設 名					33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査		年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
措 置	そ の 他	年 月 日	年 月 日								
	1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭										
35	今後の対策 や所見 ・基本操作の徹底 ・コークドラム操作画面の画面移動スイッチの位置の変更。 ・バルブリスト画面のバルブ開閉操作スイッチの無効化。 ・コークドラムのインターロックバイパススイッチの無効化。 ・コークドラムのインターロックバイパスの教育及び方法の変更。 ・コークドラムのインターロックの改造。 ・通報判断に関する再教育 ・リスクアセスメント教育及び訓練 ・社内全製油所への事故事例情報の展開										

1 事故名	製造所サンプリングノズルからの重油漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 31日 10時 10分	推定・確定	4 発 見	8月 31日 13時 45分	
5 覚 知	8月 31日 14時 05分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 31日 14時 32分	
7 鎮火・処理完了	8月 31日 14時 35分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西 風速：3.9m/s 気温：34℃ 湿度：61%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 業 態：	①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他)		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)		
	製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		特別防災地区名：水島臨海地区		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等				
名 称：常圧蒸留装置 番 号 (2101) 能 力：18,514L/日	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他				
	貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所				
13 機 器 等	類・品名・名称・数量・倍数：				
名 称：熱交換器 番 号 (301) 規 模：長さ25,400mm、内径6,506mm	第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油等 18,514,400L 92,572倍				
	第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油等 3,799,400L 3,799.4倍				
14 発 生 箇 所	第4類第3石油類(非水溶性液体) 添加剤 80L 0.04倍				
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質：鋼鉄	第4類第4石油類 潤滑油 1,820L 0.3倍				
	倍数の合計： 96,371.74倍				
15 発 生 時	設置の完成：昭和40年 8月 10日				
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)	直近の完成：平成29年 4月 18日				
	17 物質の区分				
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
	20 危険物 保安監督者				
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
	21 危険物取扱者 の取扱・立会い				
①. 有 2. 無					
23 事故の概要： 第2常圧蒸留装置の流量計の定期検査を終え、10時10分に装置の再稼働を行う。13時45分に現場巡回中の作業員が、第2常圧蒸留装置のサンプル採取場所周辺に重油の漏えいを発見する。統合計器室にて連絡を受けた班長が14時05分に119番通報を実施する。サンプル採取場所の重油サンプル弁が開放状態であったことから弁を直ちに閉止し、漏えいした重油を混油系ピットに導くよう水洗作業を行うとともに、油吸着マットにて重油の回収を実施する。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 誤操作 関 連 原 因 操作確認不十分	着火原因	番号 ()							
原因	発生原因の状況： 重油積算流量計復旧工事完了に伴い、工事用のラインセットから通常運転のラインセットへの戻し作業を実施する際、現場担当者が手順書に記載のない作業を実施する場合の、班長の承認を得ずにバルブを誤開放したことにより、サンプル油受けから重油が漏えいしたもの。また、通常、サンプル油受けからの油は、回収ラインを介し回収槽へ回収されるが、粘土の高い重油が流れたことで自重では排出しきれず、回収ラインが閉塞した状態となりサンプル油受けからの漏えいが発生した。 設備的原因として、誤認識を誘発させる配管先行表示と、不要な循環ラインが存在する配管レイアウトとなっていたことも起因となった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	人	本人の意識	思慮	思い込み						
	人	本人の意識	違反(故意)	怠慢						
	人	本人の意識	違反(故意)	問題意識の不足						
	関連原因の詳細									
	管理	リスクアセスメント	危険意識	安全装置・標示等が提供/使用されない/不適切						
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27	人的被害		28 物的被害							
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：		
区分								なし		
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況：		
第 三 者	0	0	0	0				なし		
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況：		
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	0 人	第4類第3石油類(非水溶性) 重油 1,000L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (4 万円)
30	実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99) 警戒待機					自衛防災・消防組織等 番号 (5) 流出した重油への水洗及び混油系ピットへ回収 油吸着マットによる重油回収 警戒待機					
31	防災活動上の問題点									
行政措置	32	施設名								
	使用停止		年 月 日		年 月 日	33	定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	改善命令等		年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日	
	停止解除		年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日	
	関係条項						保安検査		年 月 日	
						34	当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：		
35	今後の対策 や所見	・現場の行先表示について明確にする。また、不要なサンプル油受け行からの戻り配管について、本管との切り離しを行うため仕切板を挿入する。 ・ラインセットの認識不足及び手順書に記載のない作業をする時の手続きの徹底に関する再教育。 ・液圧上昇防止に関わるラインセットの考慮不足に対する手順書の修正。 ・事態の過小評価に対する再教育及び理解度チェック。 ・本事例類似箇所への所内水平展開及び本事例を社内全体へ通知。								

1 事故名	製造所の附属配管から混合油(メチルエチルケトン、トルエン及び潤滑油)の漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 7日 22時 50分	推定・確定	4 発 見	11月 7日 22時 50分	
5 覚 知	11月 7日 22時 56分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 7日 22時 55分	
7 鎮火・処理完了	11月 7日 22時 55分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北 風速：1.6m/s 気温：14℃ 湿度：72%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：水島臨海地区				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) スロップ 油他 563,260L 2,816.3倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 91,000L 91倍 第4類第2石油類(水溶性液体) フルブールスロップ 油他 256,714L 128.36倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油他 3,572,000L 1786倍 第4類第4石油類 潤滑油他 4,779,462L 796.58倍 倍数の合計： 5,618.24倍				
12 施 設 装 置	設置の完成：昭和47年10月9日 直近の完成：平成27年7月23日				
名 称：潤滑油製造装置 番 号 (2114)	17 物 質 の 区 分				
能 力：処理能力 第1石油類 563.26KL/日	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：混合油(メチルエチルケトン、トルエン及び潤滑油)(38L)				
13 機 器 等 温度 圧力：	18 取扱者の概要 経験年数44年				
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
規 模：内径440mm、高さ600mm、容量90L	20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
14 発 生 箇 所	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無				
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
材 質：鋼鉄	23 事 故 の 概 要： 脱ろうスロップタンク(VE-526)の払出し作業中に、回収ファンネルから混合油が38L漏えいしたものを。				
15 発 生 時	24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止				
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)					
作 業 状 況：その他 番 号 (99)					

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 回収ファンネルの下部にある弁を開放した状態で、HE-503Cの窒素供給による滞液払出し作業と、VE-526からVE-522への払出し作業を開始した結果、回収ファンネルに溜まった油が窒素の大気放出により飛沫同伴し漏えいしたものの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	管理		リスクアセスメント		危険意識		危険に対する認識がない/不足				
	管理		組織		コミュニケーション		伝達方法が不適切				
	制度		規則・手順		内容・周知		規則・手順がない/文書化されない				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいはピット内に収まり、被災影響及び拡大なし。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 施設の被害なし。			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						28 物的被害					
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	9 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	7 人	物質の被害状況： 混合油38L漏えい。	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 警戒待機及びガス検知						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 警戒待機					
31 防災活動上の問題点											
32 行政措置	施設名					33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	年	月	日	年	月	日	内容： 				
1. 文書				1. 文書							
2. 口頭				2. 口頭							
35 今後の対策や所見											
<ul style="list-style-type: none"> ・ファンネルの使用方法を手順書に記載する。また、現場作業観察で検証し、遵守事項の実施度を確認する。 ・回収ファンネル弁に表示札を設置する。 ・基本作業基準内のバルブ開閉操作後の確認事項に、情報共有事項を追加する。 ・ファンネルの使用方法的な教育資料を作成し、現場表示する。 ・所内同施設への水平展開を実施し、同様のトラブルが発生しないことを確認する。 											

1 事故名	危険物製造所の蒸留塔ボトム水配管のドレン抜きからメトキシブタノールが流出した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 4日 5時 50分	推定・確定	4 発 見	3月 4日 6時 19分	
5 覚 知	3月 4日 6時 52分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 4日 8時 27分	
7 鎮火・処理完了	3月 4日 9時 07分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東南東 風速：0.7m/s 気温：2.3℃ 湿度：40%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学 番号 (1732) 工業製品製造業 脂肪族系中 間物製造業(脂肪族系溶剤を含 む)	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：岩国・大竹				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類特殊引火物 アセトアルデヒド 121,000L 2,420倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) クロトンアルデヒド 17,000L 85倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 粗トリエチルアミン 20,000L 100倍 第4類アルコール類 メタノール 7,000L 17.5倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 2,622.5倍				
名 称：常圧蒸留装置 番号 (2101)	設置の完成：昭和 37年 8月 5日 直近の完成：令和 3年 11月 12日				
能 力：	17 物 質 の 区 分				
13 機 器 等	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
名 称：蒸留、精留塔(スクリュー、スリッパ) 番号 (101)	(固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温)				
規 模：高さ13m	分 類：第4類第2石油類(水溶性液体) 名称：メトキシブタノール(1,400L)				
14 発 生 箇 所	18 取扱者の概要 経験年数5年				
名 称：ドレンノズル 番号 (208)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の 材 質：その他 3. 不要 取扱・立会い ①. 有 2. 無				
15 発 生 時	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
運 転 状 況：定常運転中 番号 (1)	23 事 故 の 概 要： 危険物製造所に設置されている蒸留塔のボトム水配管のドレン抜きより、メトキシブタノールが施設周囲側溝まで流出した漏えい事故である。				
作 業 状 況：運転操作中 番号 (1)	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止				

25	主 原 因 誤操作	着火原因	番号 ()								
	関 連 原 因 操作未実施										
原 因	発生原因の状況： プラント操作室のTOC(全有機系炭素計)アラームが鳴動したため、作業員が現場確認に向かったところ、蒸留塔のボトム水配管のドレン抜きから、メトキシブタノールが漏えいしているのを発見したもの。事故原因については、作業員が凍結防止のため開放していたドレンバルブを閉め忘れ、それを知らないまま他の作業員が運転を開始したため、当該ドレンバルブからメトキシブタノールが漏えいしたものであり、作業員の操作確認不十分である。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層							
	人	本人の意識	違反(故意)	怠慢							
	関連原因の詳細										
	設備	監理・保守	点検・整備	点検していない/不足							
	制度	規則・手順	実用性	その他							
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27	人的被害		28 物的被害								
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 危険物施設周囲の側溝まで漏えい			
	区分										
	当 事 者	0	0	0	0						
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 無			
	第 三 者	0	0	0	0						
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
	消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	20 人	物質の被害状況： メトキシブタノールが1,400L漏えい
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
	その他の機関	2 台	0 隻	0 機	5 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満 、1万円以上 () 万円)
30	実施した防災活動の状況										
	公設消防機関：番号 (99) 警戒活動及び事故調査						自衛防災・消防組織等 番号 (4、5、9)				
31	防災活動上の問題点 情報収集及び整理ができていない。情報収集のあり方について企業側に指導。自衛消防隊の活動は、事案に応じて的確に活動されていた。										
政 策 措 置	32	施 設 名				33	定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他		
		使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和3年8月12日	年 月 日		
		改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日		
		停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日		
		関係条項					34	当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：		
	そ の 他	年 月 日	年 月 日	年 月 日							
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭							
35	今後の対策 や所見	<ol style="list-style-type: none"> 1 チェックリストのダブル・トリプルチェックを行う。 2 作業員に対する教育強化 3 従前の事故防止対策を継続して実践する。 4 現場作業は、チェックリストにて確認・記録し、それを班長が承認する。 5 凍結により危険物の漏えいリスクがある箇所の保温強化 6 水仕込み配管のルート変更 									

1 事故名	マグネットポンプ(テフロンライニング)の内部破損により危険物が流出した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 14日 19時 30分	推定・確定	4 発 見	9月 14日 19時 30分	
5 覚 知	9月 14日 20時 02分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 14日 19時 33分	
7 鎮火・処理完了	9月 14日 22時 17分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南西 風速：1.1m/s 気温：29.9℃ 湿度：51%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学 番号 (1732) 工業製品製造業 脂肪族系中 間物製造業(脂肪族系溶剤を含 む)	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：岩国・大竹				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 酢酸エチル 270,000L 1350倍 第4類第2石油類(水溶性液体) 酢酸 36,000L 18倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) シクロヘキサノールアセテート 11,500L 11.5倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 1,3-ブチレンジオキシラン 11,000L 5.5倍 コルジニアセテート 倍数の合計： 1,385倍				
12 施 設 装 置	設置の完成：昭和 39年 9月 19日 直近の完成：令和 4年 9月 22日				
名 称：その他のエチレン系製品製造装置 番号 (5199)					
能 力：20m ³					
13 機 器 等	温度圧力：0.3Mpa				
名 称：ポンプ 番号 (501)					
規 模：12m ³ /h					
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分				
名 称：その他の機器等本体 番号 (199)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(水溶性 名称：酢酸95%+無水酢酸 液体) 5%(159L)				
材 質：その他					
15 発 生 時	18 取扱者の概要				
運 転 状 況：定常運転中 番号 (1)	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
作 業 状 況：運転操作中 番号 (1)	20 危険物 保安監督者				
19 危険物保安 統括管理者	21 危険物取扱者 の取扱・立会い				
①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	①. 有 2. 無				
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 危険物製造所に設置されている酢酸回収塔の還流ポンプ(マグネットポンプ)のケーシングから、危険物(酢酸95%+無水酢酸5%の混合物)が施設内に漏えいしたもの。					
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1, 8) 無 装置の緊急停止、防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等					

原因	25 主 原 因 故障		着火原因				番号 ()			
	関連原因									
	発生原因の状況： 酢酸回収塔の還流ポンプのケーシング内にあるリアカラー・リアベアリングが破損。破損物がテフロンコーティング部の隙間に入り込み、回転による摩擦によってコーティング部に亀裂が入り、酢酸がマグネットを腐食・膨張させ、マグネット等の変形が発生。外れかけたマグネットがテフロンライニングを破損させ、気密が保てなくなり漏えいに至ったもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	故障		機能		機器の異常動作					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 危険物施設内			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 危険物施設内			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 危険物(酢酸95%+無水酢酸5%の混合物)159L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 警戒活動、情報収集及び調査						自衛防災・消防組織等 番号 (4、5)				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			保安検査	年 月 日	
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無
その他	年 月 日			年 月 日			内容：			
35 今後の対策 や所見	電流値や振動値などの運転データを解析するとともに、定期的にポンプ開放点検を行い、適切な点検周期を決定する。									

1 事故名	製造所においてサンプリング後にバルブを閉め忘れ加圧したことによるサンプリングポットからの危険物漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 3日 0時 12分	推定・確定	4 発 見	8月 3日 0時 12分	
5 覚 知	8月 3日 8時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 3日 0時 13分	
7 鎮火・処理完了	8月 3日 0時 13分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南 風速：0.9m/s 気温：31℃ 湿度：76%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<u>レイアウト</u>)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学 番号 (1732) 工業製品製造業 脂肪族系中間物製造業(脂肪族系溶剤を含む)	区 分：①. 事業所内 (<u>製</u>)、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：周南地区				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分：1 危険物 2 高圧ガス ③ 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類特殊引火物 酸化プロピレン 128,500L 2,570倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 酢酸エチル 10,000L 50倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) アクリロニトリル 3,700L 18.5倍 第4類アルコール類 メタノール等 15L 0.04倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) スチレン 4,210L 4.21倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) N,N-ジメチルクロロヘキシルアミン 350L 0.35倍 第4類第2石油類(水溶性液体) エチレンジアミン 8,400L 4.2倍 第4類第2石油類(水溶性液体) N-エチルモルホリン 50L 0.03倍 第4類第2石油類(水溶性液体) ボリエチルボリオール燐酸エステ 500L 0.25倍 第4類第2石油類(水溶性液体) オクチル酸カリウムメタノール溶液 80L 0.04倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) メチルセロソルブ 2L 0倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) ボリエステルボリオール等 15,660L 7.83倍 第4類第3石油類(水溶性液体) プロピレングリコール等 62,080L 15.52倍 第4類第4石油類 ボリエチル 96,700L 16.12倍 第4類第4石油類 ヒスパンタエリトリール [®] ホスファ等 2,987L 0.5倍 第5類 ^ア 化合物(第2種自己反応性物質) アゾビスイソブチロニトリル 170kg 1.7倍 倍数の合計： 2,689.29倍				
12 施 設 装 置	設置の完成：昭和39年11月8日 直近の完成：令和4年7月29日				
名 称：ポリエチレン製造装置 番号 (5102)	17 物 質 の 区 分				
能 力：163.8KL/Day	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、常温 [0-40℃]、 <u>高温</u>) 分類：第4類第3石油類(水溶性液体) 名称：グリセリン(3L)				
13 機 器 等	18 取扱者の概要				
温度圧力：110℃、0.35Mpa	経験年数5年				
名 称：貯槽(タンク) 番号 (107)	19 危険物保安統括管理者				
規 模：容量 20L	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
14 発 生 箇 所	20 危険物保安監督者				
名 称：その他の附属配管等 番号 (299)	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
材 質：ステンレス	21 危険物取扱者の取扱・立会い				
15 発 生 時	①. 有 2. 無				
運 転 状 況：定常運転中 番号 (1)	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
作 業 状 況：サンプリング中 番号 (4)	23 事故の概要： サンプリング後の液を脱水槽へ窒素にて圧送する際に、サンプリングタンク上部の弁を閉止していなかったため、加圧時に上部ノズルよりグリセリン混合液が噴出したもの				
24 緊急処置の状況	有 番号 () 無				

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： サンプリング後の液を脱水槽へ窒素にて圧送する際に、サンプリングタンク上部の弁を閉止していなかったため、加圧時に上部ノズルよりグリセリン混合液が噴出したもの										
	主要原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		違反(故意)		怠慢				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： グリセリン含有物が製造所内フロアに3L漏えい			
区分											
当 事 者	0	0	0	1	被液による薬傷						
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし			
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	0台	0隻	0機	0人	自 衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： 第4類第3石油類 非水溶性 グリセリン含有物 3L	
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人		
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人		
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人	損害額 [1万円未満]、1万円以上 () 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点 発生から消防機関への通報に約8時間を要している。											
政 策 措 置	32 施設名	製造所(PE工場)				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和3年8月26日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・[無] 内容：			
その他	事故の原因調査及び再発防止対策等を指示 令和4年8月10日 年 月 日 ①. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭										
35 今後の対策 や所見		・事故等が発生した際に速やかに関係機関へ通報する体制の再構築が必要である ・作業確認要領の見直し及び従業員に対する再教育が必要である									

1 事故名	製造所において、熱交換器のチューブ損傷による危険物の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 14日 1時 35分	推定・確定	4 発 見	8月 14日 1時 35分	
5 覚 知	8月 14日 3時 59分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 14日 3時 13分	
7 鎮火・処理完了	8月 15日 3時 13分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東 風速：1m/s 気温：27℃ 湿度：90%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：周南地区				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：1 危険物 2 高圧ガス ③ 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ベンゼン 1,300,000L 6,500倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) CD-9 100,000L 100倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) スチレンモノマー 1,000L 1倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) DNBP 3,000L 3倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 塗料用シンナー 100L 0.1倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) Thermino166 24,000L 12倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) CBO 50,000L 25倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 800L 0.4倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 塗料 80L 0.04倍 第4類第4石油類 潤滑油 11,100L 1.85倍 倍数の合計： 6,643.39倍				
12 施 設 装 置	名 称：スチレンモノマー製造装置 番 号 (5108) 能 力：				
13 機 器 等	温 度 圧 力：130℃、0.02Mpa 名 称：熱交換器 番 号 (301) 規 模：チューブ外径19mm、肉厚1.25mm、長さ3,500mm				
14 発 生 箇 所	名 称：その他の機器等本体 番 号 (199) 材 質：その他				
15 発 生 時	運 転 状 況：シャットダウン中 番 号 (3) 作 業 状 況： 番 号 ()				
17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：ポリエチルベンゼン(1.2L)				
18 取 扱 者 の 概 要					
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要：	オンラインファイル無				
23 事 故 の 概 要：	雨水排水系に設置されているガス検知器のアラームが発報したため原因調査を行った結果、停止操作中であった製造の熱交換器出口ベント配管で危険物が少量漏えいしているのを確認したもの				
24 緊 急 処 置 の 状 況	有 番 号 () 無				

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()										
原 因	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 熱交換器チューブに隙間腐食等が発生しチューブが損傷、開孔し危険物が漏えいした												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層									
	腐食	環境	塩分の影響										
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害			28 物的被害										
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設外の拡大なし						
当 事 者	0	0	0	0									
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 熱交換器のチューブ損傷						
第 三 者	0	0	0	0									
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	3 台	0 隻	0 機	53 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性) ポリエチルベンゼン 1. 2L流出			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人				
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人				
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()								
調査活動													
31 防災活動上の問題点 ガス検知器の発報により、設備が正常な状態ではないと判断するも、漏えい箇所の特定等に時間を要し通報の遅れが発生した。													
政 策 措 置	32 施設名	製造所(第2ステンモノマー装置)			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他				
	使用停止	年	月	日				年	月	日	定期・自主点検	令和4年 3月 31日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日				年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日				年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・無 内容：					
その他	事故の原因調査及び再発防止対策等を指示 令和4年 8月 22日			年 月 日									
①. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭												
35 今後の対策 や所見	再発防止対策の実施、通報体制の再確認を行うよう指示												

1 事故名	危険物製造所のボイラー燃料槽において、定量検知用フロートの作動不良によりエアークラップから重油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 30日 14時 35分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	8月 30日 14時 40分	
5 覚 知	8月 30日 14時 55分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 30日 15時 34分	
7 鎮火・処理完了	8月 30日 15時 37分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南東 風速：1.7m/s 気温：31℃ 湿度：57%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 <input checked="" type="checkbox"/> 第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				11 発 生 場 所
					区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 岩国・大竹
					16 発生施設規制区分等
					施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 250,000L 125倍
12 施 設 装 置					倍数の合計： 125倍
名 称：潤滑油製造装置	番 号 (2114)				
能 力：100KL/日					
13 機 器 等	温 度 圧 力：				
名 称：貯槽(タンク)	番 号 (107)				
規 模：直径1,000mm、高さ1,494mm、容量1KL					
14 発 生 箇 所	設置の完成： 昭和 36年 12月 25日 直近の完成： 令和 3年 8月 3日				
名 称：ベント管、ブロー管、放出管	番 号 (303)				
材 質：鋼鉄	17 物 質 の 区 分				
15 発 生 時	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油 (54L)				
運 転 状 況：定常運転中	番 号 (1)				
作 業 状 況：	番 号 ()				
	18 取 扱 者 の 概 要				
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	
				1. 有 ②. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： 危険物製造所において、小型貫流ボイラー燃料槽に設置されている定量検知用フロートの作動不良により、エアークラップから重油がオーバーフローしたものである。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 燃料槽上部に設置されている定量検知用フロートが腐食開孔し、内部に重油が浸入したため浮力を失い、定量検知せずエアベン トから重油がオーバーフローしたものである。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		デポジット腐食（堆積物下腐食、付着 物下腐食）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出は施設内に留まっており施設外への影響な し。		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 定量検知用フロートが腐食開孔(直径0.7mm)したもの。		
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	23 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油54L流出。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 警戒・調査						自衛防災・消防組織等 番号 (5、99) 警戒				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	危険物製造所				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	令和 4 年 8 月 30 日				年 月 日		定期・自主点検	令和 4 年 6 月 6 日	令和 4 年 8 月 29 日
	改善命令等	年 月 日				年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	令和 4 年 9 月 16 日				年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/> 内容：		
その他	年 月 日				年 月 日					
35 今後の対策 や所見		腐食開孔したフロートについては、更に耐腐食性の高い材質への変更を実施するとともに、今後3年周期の定期点検で 腐食状態を確認し、正規のインターバルを設定することとした。また、腐食開孔した定量検知用フロートの上に位置する 上限アラーム用フロートの作動信号からも受け入れ停止とするシーケンスに変更することとした。								

1 事故名	荷下ろし中における第5類有機過酸化物の容器からの流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	9月 8日 9時 30分 推定・ <u>確定</u>	4 発 見	9月 8日 9時 30分
5 覚 知	9月 8日 9時 45分	6 鎮 圧 応急処置完了	9月 8日 9時 35分
7 鎮火・処理完了	9月 8日 16時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：不明 風向：風向不明 風速： 気温： 湿度：		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 有機化学 番 号 (1739) 工業製品製造業 その他の有 機化学工業製品製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第5類有機過酸化物(第2種自己反応性物質) 有機過酸化物 935kg 9.35倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称： 貯蔵倉庫 番 号 (1302)	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能 力： 678.53m ²	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (<u>低温</u> 、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第5類有機過酸化物(第2 名称： トリコノックスA-W70(24kg) 種自己反応性物質)		
13 機 器 等 温度圧力：	倍数の合計： 9.35倍		
名 称： ドラム等容器 番 号 (201)	設置の完成： 昭和 57年 3月 26日 直近の完成： 年 月 日		
規 模： 容量1,000L	18 取扱者の概要 経験年数2年		
14 発 生 箇 所	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
名 称： 容器本体 番 号 (108)	20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
材 質： その他	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
15 発 生 時	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
運 転 状 況： 荷卸中 番 号 (13)	23 事 故 の 概 要： 有機過酸化物をフォークリフトで荷卸中に1m ³ プラスチックコンテナが転倒し、上部の圧抜口から有機過酸化物が屋内貯蔵所保有空地内に24kg流出した。		
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)	24 緊急処置の状況 有 番号 () <u>無</u>		

1 事故名	危険物製造所において、原料供給ポンプ出口のゴムフレキが破損し潤滑油と白土の混合物が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 3日 12時 00分	<input checked="" type="checkbox"/> 推定・確定	4 発 見	10月 3日 12時 05分	
5 覚 知	10月 3日 12時 28分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 3日 13時 13分	
7 鎮火・処理完了	10月 3日 13時 13分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東南東 風速：2.9m/s 気温：27℃ 湿度：62%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 <input checked="" type="checkbox"/> 第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				11 発 生 場 所
					区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 岩国・大竹
					16 発生施設規制区分等
					施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 75,000L 37.5倍
12 施 設 装 置					設置の完成： 昭和 40年 10月 12日 直近の完成： 令和 4年 1月 26日
名 称：潤滑油製造装置	番 号 (2114)				
能 力：35t/日					倍数の合計： 37.5倍
13 機 器 等	温 度 圧 力：60℃、0.4Mpa				
名 称：その他	番 号 (999)				
規 模：直径60.5mm、長さ110mm					
14 発 生 箇 所	名 称：フレキシブル管継手(ダクトを含む) 番 号 (202)				17 物 質 の 区 分
材 質：ゴム					①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 潤滑油と白土の混合物(61L)
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)				
	作 業 状 況： 番 号 ()				18 取 扱 者 の 概 要
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： 危険物製造所において、原料供給ポンプ出口に設置されたゴムフレキが破損し潤滑油と白土の混合物が約61L漏えいしたものである。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 破 損		着火原因		番号 ()				
	関 連 原 因								
	発生原因の状況： 原料ポンプ出口ゴムフレキの材質 (EPDM) は、耐熱、耐オゾン、耐候、耐薬品性に優れているが、金属や他のゴムとの接着性が悪く、耐油性は劣るものであったため、内面から溶かされ破損に至ったものである。なお、危険物配管は金属製が原則であるが、流体の性質からポンプがエア駆動であり、金属製のフレキ配管では振動に耐えられないため、ゴムフレキを使用しているものである。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	破損		材料		機器に使用している材料の不適による (設計不良、施工不良、腐食、疲労等を伴わない) 機器の破損				
	関連原因の詳細								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害						28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名		
区分									
当 事 者	0	0	0	0					
防災活動従事者	0	0	0	0					
第 三 者	0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	22 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
						物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)潤滑油と白土の混合物約61L流出。			
						損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text" value=""/> 万円)			
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99) 警戒・調査				自衛防災・消防組織等 番号 (5、99) 警戒					
31 防災活動上の問題点									
政 策 措 置	32 施設名	危険物製造所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	令和 4 年 10 月 3 日	年	月	日	定期・自主点検	令和 4 年 6 月 9 日	令和 4 年 10 月 3 日	
	改善命令等	年 月 日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	令和 4 年 10 月 18 日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
35 今後の対策 や所見	漏えい箇所のゴムフレキの材質を、耐熱、耐圧、耐薬品、耐油性に優れたPTFE(テフロン)へ取り替えるとともに、今後、材質選定を誤らないため、危険物配管に使用されるゴム製の継ぎ手等選定について、配管材料選定要領に追記することとした。また、危険物配管に使用されているゴムフレキについては、年一回の取り外し点検を実施することとした。								

1 事故名	受入れタンクの弁の誤操作及び危険物製造所の製品タンクのレベルセンサーの作動不良により潤滑油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 24日 10時 54分	推定・確定	4 発 見	10月 24日 10時 55分	
5 覚 知	10月 24日 11時 16分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 24日 12時 22分	
7 鎮火・処理完了	10月 24日 12時 35分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東南東 風速：2.2m/s 気温：18℃ 湿度：42%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 <u>第1種</u> 、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				11 発 生 場 所
					区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 岩国・大竹
			16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 75,000L 37.5倍	
12 施 設 装 置	名 称：潤滑油製造装置 番 号 (2114) 能 力：7,500L/日				倍数の合計： 37.5倍
13 機 器 等	温 度 圧 力：50℃ 名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模：直径2,000mm、高さ1,950mm、容量4,700L				
14 発 生 箇 所	名 称：通気管 番 号 (304) 材 質：鋼鉄				設置の完成：昭和40年10月12日 直近の完成：令和4年10月5日
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)				17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <u>高温</u>) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：潤滑油(530L)
19 危険物保安統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： 危険物製造所において、屋内の製品槽(20号タンク)の屋外へ延びた通気管から潤滑油がオーバーフローしたものである。漏えいした潤滑油は、オイルセパレーターへ繋がる側溝へ流れ込んだため、施設内のピットで回収するとともに、オイルセパレーターへ水押しを行い回収した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 施工不良									
	発生原因の状況： 危険物製造所の製品槽(20号タンク)から潤滑油を屋外タンク貯蔵所へ移送する作業において、屋外貯蔵タンク側の弁を誤って閉止したため移送ができず製品槽の液面が上昇、さらに製品槽のレベルセンサー不良により前工程が停止しなかったことで、製品槽の通気管からオーバーフローしたものである。レベルセンサーについては、設置前に作動試験を行ったものの、説明書には取り付け後にゼロ・スパン調整をするよう記載されており、設置後の調整ができていなかった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		不注意			
	関連原因の詳細									
	施工不良		施工		工事時の措置不良					
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 製造所内の側溝に流れ込んだため、施設外のオイルセパレーターへ流れて行ったもの。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 潤滑油流出による施設の被害なし。			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	34 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)潤滑油530L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (4 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 警戒・調査						自衛防災・消防組織等 番号 (5、99) 警戒				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	危険物製造所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	令和4年10月24日			年 月 日	定期・自主点検	令和4年6月6日	令和4年10月23日		
	改善命令等	年 月 日			年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	令和4年10月27日			年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	年 月 日			年 月 日						
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策 や所見	・同種レベルセンサーの調整を行い、シーケンス制御の確認を行った。・作業に追われての誤操作であったため、無理のない作業計画とするよう指導した。・短期間にタンクからのオーバーフローが2件発生したため、事業所全体で周知徹底し再発防止のための教育を実施するよう指導した。									

1 事故名	重油受入配管からの油漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 25日 9時 28分	推定・確定	4 発 見	8月 25日 9時 38分	
5 覚 知	8月 25日 9時 49分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 25日 10時 10分	
7 鎮火・処理完了	8月 25日 11時 32分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北西 風速：1.5m/s 気温：29.1℃ 湿度：71.9%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<u>レイアウト</u>)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、 <u>貯</u> 、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：大分地区石油コンビナート等特別防災区域	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称：重油直接脱硫装置	番 号 (2106)	能 力：33,000バレル/日	施設区分：1 危険物 2 高圧ガス ③ 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第2類硫黄 硫黄 220,000kg 2,200倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 23,055,000L 115,275倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 第2石油類非 5,262,057L 5,262.06倍 水溶性 第2石油類水溶性 805L 0.4倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 第3石油類非 18,126,070L 9,063.04倍 水溶性 第3石油類水溶性 880L 0.22倍 第4類第4石油類 潤滑油(4石) 18,440L 3.07倍 倍数の合計：131,803.79倍		
13 機 器 等	温度圧力：75℃、0.06Mpa		設置の完成：昭和47年 9月 16日	直近の完成：令和4年 3月 16日	
名 称：配管(送油、注入管等)	番 号 (606)	規 模：20B、肉厚9.5mm(加温有り・保温配管)	17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、常温 [0-40℃]、 <u>高温</u>) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(7,500L)	
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)		18 取扱者の概要		
材 質：鋼鉄	15 発 生 時		①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 3. 不要 3. 不要 2. 無		
運 転 状 況：定常運転中	番 号 (1)	作 業 状 況：運転操作中	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
23 事 故 の 概 要： 当所関係会社社員がオフサイトエリア(タンクエリア)点検中に、第3重質軽油脱硫装置で脱硫された重油の移送(受入)配管から地上へ油漏えいしていることを発見した。その後、防災活動と応急措置を施した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()									
	関 連 原 因 維持管理不十分													
	発生原因の状況： 当該漏えい箇所は配管径が10インチから20インチへ拡大した区間であり、拡大区間から液流の速度が下がり配管底部に水分とスケールが滞留したことで局部腐食が進行したと推定。また、同漏えい箇所上部にはスチームトレース貫通部があり保温板金脱落部から雨水が侵入し配管底部で局部的に外部腐食も進行したものの。													
	主原因の詳細													
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層							
腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）										
因	関連原因の詳細													
	設備		監理・保守		点検・整備		確認不足							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27 人的被害						28 物的被害								
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名							
区分														
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 漏油場所：幅15m×長さ10m×深さ0.05mの範囲に重油が漏油した。							
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 重油移送(受入)配管に20～30mmの開口部が認めれた。							
第 三 者	0	0	0	0										
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	20 人	自 衛	5 台	0 隻	0 機	20 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)：重油 約7,500Lが漏油				
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人					
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人					
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人					
30 実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (4)								
調査活動						バンド当て補修及び回収								
31 防災活動上の問題点														
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他						
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和4年4月30日	年	月	日		
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日	年	月	日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無							
その他	年	月	日	年	月		日	内容：						
35 今後の対策や所見														
対策：不具合部の配管取替済(約2m)。内部腐食については不具合部を肉厚測定対象部位として管理する。外面腐食についてはエリア点検による管理強化を継続する。所見：内部腐食は配管の一部が10インチから20インチへ変則的になり局部に水分等が滞留し腐食したことから類似配管を整理し点検方法を見直す必要がある。外部腐食は保温解体業者や目視検査の施工者等が異なり作業までに時間を要したことからスムーズな作業工程を見直す必要がある。														

1 事故名	アクリル酸精製工程の精留塔の缶拔出配管ガスケット破損による漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 11日 16時 17分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	9月 11日 16時 22分	
5 覚 知	9月 11日 16時 41分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 11日 19時 20分	
7 鎮火・処理完了	9月 11日 19時 20分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南東 風速：1.1m/s 気温：29.6℃ 湿度：66.3%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <input checked="" type="checkbox"/> 第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学 番 号 (1732) 工業製品製造業 脂肪族系中 間物製造業(脂肪族系溶剤を含 む)		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：大分地区石油コンビナート等特別防災区域	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称：アクリル酸エステル製造装置 番 号 (5210)	能 力：		施設区分：1 危険物 2 高圧ガス ③ 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ベンゼン、シクロヘキサン 86,500L 432.5倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 酢酸イソプロピル 178,000L 890倍 第4類第2石油類(水溶性液体) アクリル酸 403,000L 201.5倍 第4類第4石油類 潤滑油 2,630L 0.44倍	倍数の合計： 1,524.44倍	
13 機 器 等	温度圧力：100℃、0.6Mpa		設置の完成：平成 2年 12月 6日 直近の完成：令和 4年 4月 11日		
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	規 模：直径50mm 長さ約50m		17 物 質 の 区 分		
14 発 生 箇 所	名 称：パッキング 番 号 (213)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分類：第4類第2石油類(水溶性液体) 名称：アクリル酸(200L)		
15 発 生 時	材 質：合成樹脂		18 取扱者の概要 経験年数23年		
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)	作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)		19 危険物保安 統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物 保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： アクリル酸精製工程の精留塔(T-5104)の缶液拔出配管において、フランジ部のガスケット破損によりアクリル酸が約200L漏えいした もの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 漏えい箇所のガスケットを確認したところ、高温アクリル酸による劣化(破損)が見られた。過去の同様の漏えい事故を受け、定期交換を計画していたが、当該箇所は実施計画漏れがあり交換されず破損に至った。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化(腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化)					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいした配管は、製造所内防液堤内にあり、漏えいしたアクリル酸は回収。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 漏えい周辺部の塗装剥離			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(水溶性)約200L漏えい
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台	0 隻	0 機	10 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 拡散活動				
31 防災活動上の問題点										
32 行政措置	施設名					33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査		年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：		
その他	年 月 日	年 月 日								
35 今後の対策や所見 1. ガスケット交換必要箇所を明記した新管理アイソメ図を作成し運用実施。 2. 今回の漏えい配管箇所定期ガスケット交換未実施箇所の全数交換。										

1 事故名		ナフサ受入配管からの油漏えい			
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()			
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	9月 23日 15時 15分	
5 覚 知		9月 23日 15時 23分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 23日 15時 30分
7 鎮火・処理完了		9月 23日 21時 27分			
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()			
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：無風状態 風速：0.2m/s 気温：25.4℃ 湿度：92.4%			
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所			
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：大分地区石油コンビナート等特別防災区域			
		16 発生施設規制区分等			
		施設区分：1 危険物 2 高圧ガス ③ 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第2類硫黄 硫黄 220,000kg 2,200倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 23,055,000L 115,275倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 第2石油類非 5,262,057L 5,262.06倍 水溶性 第2石油類水溶性 805L 0.4倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 第3石油類非 18,126,070L 9,063.04倍 水溶性 第4類第3石油類(水溶性液体) 第3石油類水溶性 880L 0.22倍 第4類第4石油類 潤滑油(4石) 18,440L 3.07倍 倍数の合計： 131,803.79倍			
12 施 設 装 置		設置の完成：昭和 47年 9月 16日 直近の完成：令和 4年 3月 16日			
名 称：常圧蒸留装置 番 号 (2101)					
能 力：136,000バレル/日					
13 機 器 等		温度圧力：0.06Mpa			
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)					
規 模：サイズ8B、肉厚5.8					
14 発 生 箇 所		17 物 質 の 区 分			
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ナフサ(9cc)			
材 質：鋼鉄					
15 発 生 時		18 取扱者の概要			
運 転 状 況：移送中 番 号 (18)					
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)					
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い
		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 従業員がオフサイトエリア(タンクエリア)点検中に、第3常圧蒸留装置で精製されたナフサの移送(受入)配管から地上へ油漏えいしていることを発見した。その後、防災活動と応急処置を施した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 配管不具合部のサポート形状はパイプ型(コンクリート基礎にパイプを敷設したものでありサポートが経年的に腐食・座屈したことで当該配管と湿潤スケールとの接触面積が増加して外面腐食が進行し不具合に至ったと考える。									
	主原因の詳細									
因	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境(保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇)					
関連原因の詳細										
設備		監理・保守		点検・整備		確認不足				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 大雨により防油堤内に水溜りが発生し、水面上にナフサが漏油した。 施設等の被害状況： ナフサ移送(受入)配管に外面腐食と推測される開口部が認められた。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	3 台	0 隻	0 機	20 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ナフサ 漏えい量9cc
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (5 万円)				
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5) 漏えい部へバンド当て補修を施し、配管内の滞油回収及び大雨により発生した水溜りの水面上の漏えい油を回収した。				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和4年 4月 30日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u>				
その他	年 月 日	年 月 日		内容：						
35 今後の対策 や所見		対策:本不具合を受けナフサ配管及び同一防油堤内配管のサポート接触部に対し、エリア点検と同一手法(目視検査及び超音波肉厚測定)による水平展開検査を実施。水平展開結果を受け不具合部と取替基準以下を認めた箇所については配管取替を実施する。他のエリアのサポート接触部についてはエリア点検をすることで再発防止を図る。所見:サポートパイプの腐食によりサポートに接触していた配管も外部腐食したことから今後、点検時では重点項目の1つとして実施する必要がある。								

2 屋外タンク貯蔵所

1 事故名		無許可変更の屋外タンク貯蔵所配管からの危険物流出事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		2月 21日 15時 00分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	2月 21日 15時 00分		
5 覚 知		2月 21日 21時 04分			6 鎮 圧	2月 21日 23時 01分	
7 鎮火・処理完了		2月 21日 23時 01分			6 応急処置完了		
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：曇		風向：西		風速：8.2m/s 気温：2.8℃ 湿度：69%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：公務(他に分類されないもの) 番 号 (9531) 国家公務 行政機関 行政機 関				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍			
12 施 設 装 置							
名 称： 円筒横置型(地上)タンク 番 号 (1204)							
能 力： 10,000L							
13 機 器 等				温度圧力：			
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)							
規 模： 内径1,750mm、全長5,030mm、容量10,000L							
14 発 生 箇 所				設置の完成： 昭和 57年 4月 13日 直近の完成： 年 月 日			
名 称： 管継手(ダクトを含む) 番 号 (201)				17 物 質 の 区 分			
材 質： その他				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油(4,600L)			
15 発 生 時				18 取 扱 者 の 概 要			
運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号 (7)							
作 業 状 況： 番 号 ()							
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危 険 物 保 安 監 督 者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： ボイラー消費燃料の補給作業時、液面計が3,400KLの在庫量を示しており1日あたり最大燃料消費量が100L程度に対し前回令和4年2月18日15時に在庫量確認時、8,000Lであったことから異変を感じ屋外タンク周囲を確認したところ無許可で変更された配管からの危険物流出を確認した。流出範囲は敷地内で留まっており流出量はその後の調査で約4,600L。バルブを閉止し危険物流出が拡大しないよう応急措置とした。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

原 因	25 主 原 因 破 損		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 露出配管のネジ込み継手部分から危険物が流出していた。配管の継手部分を起点に屈折していることから配管に何らかの外力が加わり破損流出したものと推定する。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		定常運転時		その他					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 屋外タンク貯蔵所送油配管継手部分から灯油約4,600Lが流出し、敷地内側溝及び土壌に浸透した。浸透範囲は、屋外タンク貯蔵所付近10m四方、側溝は約200mの距離(一方向)で流出が確認された。敷地外への流出はなし。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 屋外タンク貯蔵所の配管破損		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)約4,600L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (38 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
調査活動										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法		そ の 他	
	使用停止	令和 4 年	3 月	14 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	令和 4 年	3 月	14 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
	関係条項	法第12条の2第1項第1号・法第12条第2項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容： 法第11条第1項 製造所等の無許可設置、位置・構造及び設備の無許可変更					
35 今後の対策 や所見	許可施設であることの認識及び今後の改修に向けての指導を行う。また立入検査等の機会を捉え、法令違反の把握に努める必要がある。									

1 事故名		屋外タンク貯蔵所の配管からの危険物流出事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定	4 発 見		12月 6日 6時 20分		
5 覚 知		12月 8日 9時 30分	6 鎮 圧 応急処置完了		12月 6日 8時 30分		
7 鎮火・処理完了		12月 7日 16時 30分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：曇		風向：南南西		風速：1m/s 気温：-3℃ 湿度：99%	
10 発 生 事 業 所			11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 その他の 番号 (1792) 化学工業 農薬製造業			区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
			16 発生施設規制区分等				
			施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(水溶性液体) 77トン 50,000L 125倍				
12 施 設 装 置			設置の完成： 令和 4年 4月 14日 直近の完成： 年 月 日				
名 称： 固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201) 能 力： 容量50,000L							
13 機 器 等			温度圧力：				
名 称： 貯槽(タンク) 番号 (107) 規 模： 内径2,900mm、胴長8,978mm、容量50,000L			倍数の合計： 125倍				
14 発 生 箇 所			17 物 質 の 区 分				
名 称： フレキシブル管継手(ダクトを含む) 番号 (202) 材 質： ステンレス			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： 酢酸エチル(10L) 第4類第3石油類(水溶性液体) ジメチルスルホキシド (10L)				
15 発 生 時			18 取 扱 者 の 概 要				
運 転 状 況： 定常運転中 番号 (1) 作 業 状 況： 番号 ()			①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者				
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 工場従業員が出勤した際に、一般取扱所から屋外タンク貯蔵所へ接続されているフレキシブル配管部分から危険物約30L流出しているのを発見したものを。 その後施設従業員によりポリバケツ及び吸着マットにて流出箇所の応急措置を実施。さらに雨水プールの手動閉止弁を閉じ、敷地外への流出を防いだ。 事故発生の2日後、当該配管の交換のため消防署へ届け出書類についての問い合わせがあり、事故が発覚したものを。 なお当該屋外タンク貯蔵所は、一般取扱所で発生した廃液を回収するための廃液タンクである。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()				
	関連原因								
	発生原因の状況： 配管内を酸性の危険物が通過することにより腐食したことが推定される。								
	主要原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	腐食		環境		工程の中で腐食環境の生成（塩素イオン、水素イオン、酸、硫化物等）				
	関連原因の詳細								
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害				28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名		
区分									
当 事 者		0	0	0	0				
防災活動従事者		0	0	0	0				
第 三 者		0	0	0	0				
被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した危険物は地下浸透はなく、排水路に流れたものについては施設が保有する工業用水処理施設の雨水プールに貯留し、敷地外への流出はなし。									
施設等の被害状況： 屋外タンク貯蔵所フレキシブル配管の腐食									
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)酢酸エチル約10L流出 第4類第3石油類(水溶性)ジメチルスルホキシド約10L流出 水約10L流出 流出物質及び流出量については聞き取り									
損害額 1万円未満、 <input checked="" type="checkbox"/> 1万円以上(30 万円)									
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動									
31 防災活動上の問題点									
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無 内容： 法第11条第1項 軽微な変更にあたるものであるが無許可変更及び設置者の氏名変更未届け 法第13条第1項 危険物保安監督者の選解任届出義務違反 法第16条の3第2項 製造所等における通報義務違反				
35 今後の対策 や所見	事故調査後、直ちに未届書類等が提出され改善された。通報義務の遅延について事故発生時は直ちに通報するよう担当課長に指導した。 また今回流出した原因は、廃液に含まれる酸性の危険物による腐食が考えられるとのことであり、操業から8か月あまりで発生したことから同様の事故が起こりうることを指摘し、設備等の改善も踏まえ様々な面から対策を検討し、事故防止を徹底するよう厳重に指導した。								

1 事故名	地震により座屈したT-123準特定屋外貯蔵タンクから重油流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 16日 23時 36分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 17日 5時 44分	
5 覚 知	3月 17日 5時 47分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 18日 15時 00分	
7 鎮火・処理完了	3月 22日 10時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：無風状態 風速：0m/s 気温：9.7℃ 湿度：44.5%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、 <input checked="" type="checkbox"/> 貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 仙台地区	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)	能 力：980KL		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 980,000L 490倍		
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 490倍		
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)	規 模：ID10.656m H12.115m		設置の完成：昭和46年 8月 5日 直近の完成：昭和46年 12月 23日		
14 発 生 箇 所	名 称：タンク底板 番 号 (102)		17 物 質 の 区 分		
材 質：鋼鉄			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(1,300L)		
15 発 生 時	運 転 状 況：貯蔵・保管中 番 号 (7)		18 取 扱 者 の 概 要		
作 業 状 況：	番 号 ()		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 令和4年3月16日23時36時頃に福島県沖を震源とする地震が発生。 地震発生後の点検中だった従業員が令和4年3月17日5時44分頃、当該タンクに次の異常を確認した。 1 側板1段目東北方向に座屈(傾斜あり) 2 雨水シールの破損 3 座屈により、東側ノズル付近及び西側ノズル付近から重油が流出					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因		その他の地震等災害				着火原因		番号 ()	
	関連原因									
	発生原因の状況： 地震動によるもの(震度5強)									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層	
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害							28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： T-123のタンク座屈及び防油堤内に重油約1.3KL流出。		
区分										
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： T-123準特定屋外タンク(容量980KL)の座屈		
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	9 台	0 隻	0 機	27 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	16 人	物質の被害状況： 重油1.3KL流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台	0 隻	0 機	4 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
							損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (7,620 万円)			
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 警戒筒先配備。 その他情報収集活動実施。					自衛防災・消防組織等 番号 (3、99) 警戒筒先配備					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査		年 月 日	年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
そ の 他	年 月 日	年 月 日		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭				
35	今後の対策 や所見 なし(施設は廃止する)									

1 事故名	地震による特定屋外タンク浮き屋根上への危険物流出(T-1)						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	3月 16日 23時 36分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 17日 7時 00分			
5 覚 知	3月 17日 7時 05分			6 鎮 圧 応急処置完了	3月 17日 10時 00分		
7 鎮火・処理完了	3月 17日 10時 00分						
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (他災害出場中に覚知したもの)						
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：無風状態 風速：0m/s 気温：9.7℃ 湿度：44.5%						
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、 <input checked="" type="checkbox"/> 貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)	
					特別防災地区名：仙台地区	16 発生施設規制区分等	
					施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 98,630,000L 493,150倍		
12 施 設 装 置	名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202) 能 力：98,630KL				設置の完成：昭和46年 8月 5日 直近の完成：昭和46年 12月 23日		
13 機 器 等							
	名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模：ID78,471mm H22,454mm				倍数の合計：493,150倍		
14 発 生 箇 所	名 称：タンク屋根板 番 号 (103) 材 質：鋼鉄						
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)				17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：原油(7.5L)		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者		18 取扱者の概要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 令和4年3月16日23時36分頃に福島県沖を震源とする地震が発生。 地震発生後の点検中だった従業員が令和4年3月17日7時頃、当該タンクの浮き屋根上に危険物(原油)を確認。 地震動によるスロッシングの影響で側板と浮き屋根のシールの隙間から原油の一部が吹き上がり、浮き屋根上に乗上げたもの。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他							

25	主 原 因 その他の地震等災害	着火原因	番号 ()
原 因	関 連 原 因		
	発生原因の状況： 地震動によるもの(震度5強)		
	主原因の詳細		
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層
	関連原因の詳細		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から			
27 人的被害			28 物的被害
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症
当 事 者	0	0	0
防災活動従事者	0	0	0
第 三 者	0	0	0
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況			被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内での流出(タンクルーフ上)
消 防 機 関	9 台 0 隻 0 機 27 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 16 人
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	2 台 0 隻 0 機 4 人
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
物質の被害状況： 原油7.5L流出			損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (万円)
30 実施した防災活動の状況			
公設消防機関：番号 (99) 情報収集活動実施		自衛防災・消防組織等 番号 (5)	
31 防災活動上の問題点			
政 策 措 置	32 施設名		33 定期点検等
	使用停止	年 月 日	消 防 法
	改善命令等	年 月 日	そ の 他
	停止解除	年 月 日	定期・自主点検
	関係条項		気密試験等
	そ の 他	年 月 日	保 安 検 査
1. 文書 2. 口頭		34 当該施設に係る 法令違反の有無	
1. 文書 2. 口頭		有・ <input type="text" value="無"/> 内容：	
35 今後の対策 や所見	なし		

1 事故名		地震による特定屋外タンク浮き屋根上への危険物流出(T-3)									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		3月 16日 23時 36分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定			4 発 見		3月 17日 7時 00分				
5 覚 知		3月 17日 7時 05分			6 鎮 圧 応急処置完了		3月 17日 10時 00分				
7 鎮火・処理完了		3月 17日 10時 00分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (他災害出場中に覚知)									
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：無風状態 風速：0m/s 気温：9.7℃ 湿度：44.5%									
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所							
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				区 分：①. 事業所内 (製、 <input checked="" type="checkbox"/> 貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：仙台地区							
				16 発生施設規制区分等							
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 98,240,000L 98,240倍							
12 施 設 装 置											
名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)											
能 力：98,240KL											
13 機 器 等				温度圧力：							
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)											
規 模：ID78,471mm H22,545mm											
14 発 生 箇 所				設置の完成：昭和48年9月11日 直近の完成：昭和49年4月23日							
名 称：タンク屋根板 番 号 (103)				17 物 質 の 区 分							
材 質：鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(31.5L)							
15 発 生 時				18 取扱者の概要							
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)											
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)											
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： 令和4年3月16日23時36分頃に福島県沖を震源とする地震が発生。 地震発生後の点検中だった従業員が令和4年3月17日7時頃、当該タンクの浮き屋根上に危険物(灯油)を確認。 地震動によるスロッシングの影響で側板と浮き屋根のシールの隙間から灯油の一部が吹き上がり、浮き屋根上に乗りに上げたもの。											
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他											

25	主 原 因 その他の地震等災害	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 地震動によるもの(震度5強)									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害			28 物的被害							
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内での流出(タンクルーフ上)			
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 原油7.5L流出			
消 防 機 関	9 台	0 隻	0 機	27 人	自 衛	0 台		0 隻	0 機	16 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台		0 隻	0 機	4 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台		0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台		0 隻	0 機	0 人
30 実施した防災活動の状況							損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (万円)			
公設消防機関：番号 (99) 情報収集活動実施				自衛防災・消防組織等 番号 (5)						
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保 安 検 査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/> 内容：				
そ の 他	年 月 日	年 月 日	年 月 日							
35 今後の対策 や所見		なし								

1 事故名	地震による特定屋外タンク浮き屋根上への危険物流出(T-6)						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	3月 16日 23時 36分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 17日 7時 00分			
5 覚 知	3月 17日 7時 05分			6 鎮 圧 応急処置完了	3月 17日 10時 00分		
7 鎮火・処理完了	3月 17日 10時 00分						
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (他災害出場中に覚知)						
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：無風状態 風速：0m/s 気温：9.7℃ 湿度：44.5%						
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業			11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、 <input checked="" type="checkbox"/> 貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：仙台地区		
12 施 設 装 置				16 発 生 施 設 規 制 区 分 等			
名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)	能 力：98,060KL			施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 98,060,000L 490,300倍			
13 機 器 等	温 度 圧 力：			倍数の合計： 490,300倍			
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)	規 模：ID78,471mm H22,545mm			設置の完成：昭和45年6月19日 直近の完成：昭和46年6月9日			
14 発 生 箇 所	名 称：タンク屋根板 番 号 (103)			17 物 質 の 区 分			
材 質：鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：原油(24.5L)			
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)			18 取 扱 者 の 概 要			
	作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)						
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 令和4年3月16日23時36時頃に福島県沖を震源とする地震が発生。 地震発生後の点検中だった従業員が令和4年3月17日7時頃、当該タンクの浮き屋根上に危険物(原油)を確認。 地震動によるスロッシングの影響で側板と浮き屋根のシールの隙間から原油の一部が吹き上がり、浮き屋根上に乗上げたもの。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他							

25	主 原 因 その他の地震等災害	着火原因	番号 ()		
原 因	関 連 原 因				
	発生原因の状況： 地震動によるもの(震度5強)				
	主原因の詳細				
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層		
	関連原因の詳細				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から					
27 人的被害			28 物的被害		
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症		
当 事 者	0	0	0		
防災活動従事者	0	0	0		
第 三 者	0	0	0		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況			被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内での流出(タンクルーフ上)		
消 防 機 関	9 台 0 隻 0 機 27 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 16 人		
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	2 台 0 隻 0 機 4 人		
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人		
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人		
物質の被害状況： 原油24.5L流出			損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (万円)		
30 実施した防災活動の状況					
公設消防機関：番号 (99)		自衛防災・消防組織等 番号 (5)			
情報収集活動実施					
31 防災活動上の問題点					
32 政 措 置	施設名		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定 期 ・ 自 主 点 検	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気 密 試 験 等	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保 安 検 査	年 月 日
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	
	そ の 他	年 月 日	年 月 日		
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭		内容：	
35 今後の対策や所見					
なし					

1 事故名	地震により特定屋外タンク内部浮き屋根上への危険物流出(T-103)				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 16日 23時 36分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 17日 7時 00分	
5 覚 知	3月 17日 7時 05分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 17日 10時 00分	
7 鎮火・処理完了	3月 17日 10時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (他災害出場中に覚知)				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：無風状態 風速：0m/s 気温：9.7℃ 湿度：44.5%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、 <input checked="" type="checkbox"/> 貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 仙台地区	
12 施 設 装 置	名 称：固定屋根付浮屋根(地上)タンク 番 号 (1203) 能 力：21,838KL		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 21,838,000L 21,838倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模：ID37,776mm H21,855mm		設置の完成：昭和45年6月19日 直近の完成：昭和46年3月22日	倍数の合計： 21,838倍	
14 発 生 箇 所	名 称：タンク屋根板 番 号 (103) 材 質：鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(1L)	
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)		18 取扱者の概要		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 令和4年3月16日23時36時頃に福島県沖を震源とする地震が発生。 地震発生後の点検中だった従業員が令和4年3月17日7時頃、当該タンクの内部浮き屋根上に危険物(灯油)を確認。 地震動によるスロッシングの影響で側板と浮き屋根のシールの隙間から原油の一部が吹き上がり、浮き屋根上に乗上げたもの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他					

25	主 原 因 その他の地震等災害	着火原因	番号 ()
原 因	関 連 原 因		
	発生原因の状況： 地震動によるもの(震度5強)		
	主原因の詳細		
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層
	関連原因の詳細		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から			
27 人的被害			28 物的被害
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症
当 事 者	0	0	0
防災活動従事者	0	0	0
第 三 者	0	0	0
			被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内での流出(内部浮き屋根上)
			施設等の被害状況： なし
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況			
消 防 機 関	9 台 0 隻 0 機 27 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 16 人
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	2 台 0 隻 0 機 4 人
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
			物質の被害状況： 灯油1L流出
			損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (万円)
30 実施した防災活動の状況			
公設消防機関：番号 (99)		自衛防災・消防組織等 番号 (5)	
情報収集活動実施			
31 防災活動上の問題点			
32 政 措 置	施設名		33 定期点検等
	使用停止	年 月 日	消 防 法
	改善命令等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日
	関係条項		そ の 他
	そ の 他	年 月 日	年 月 日
		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭
		有・ <input type="text" value="無"/>	内容：
34 当該施設に係る 法令違反の有無			
35 今後の対策 や所見			
なし			

1 事故名	地震により、屋外タンク浮き屋根ポンツーン内に危険物流出(T-108)				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 16日 23時 36分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 17日 7時 00分	
5 覚 知	3月 17日 7時 05分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 17日 10時 00分	
7 鎮火・処理完了	3月 17日 10時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (他災害出場中に覚知)				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：無風状態 風速：0m/s 気温：9.7℃ 湿度：44.5%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、 <input checked="" type="checkbox"/> 貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：仙台地区	
12 施 設 装 置	名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202) 能 力：5,540KL		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 5,540,000L 27,700倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模：ID23, 248mm H14, 595mm		倍数の合計： 27,700倍 設置の完成：昭和 45年 7月 9日 直近の完成：昭和 46年 6月 19日		
14 発 生 箇 所	名 称：ポンツーン 番 号 (104) 材 質：鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(1L)	
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)		18 取扱者の概要	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 令和4年3月16日23時36分頃に福島県沖を震源とする地震が発生。 地震発生後の点検中であった従業員が令和4年3月17日7時頃、当該タンクの浮き屋根ポンツーン内に危険物(ガソリン)のしみがあるのを確認。 地震動により、浮き屋根ポンツーンの外リムと側板が接触しポンツーン溶接部に亀裂が生じ、危険物しみ発生したものの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他					

原 因	25 主 原 因		その他の地震等災害				着火原因		番号 ()	
	関連原因									
	発生原因の状況： 地震動によるもの(震度5強)									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層	
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害							28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内の流出(浮き屋根タンクポンツーン内)		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： ポンツーン溶接部に亀裂発生		
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	9 台	0 隻	0 機	27 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	16 人	物質の被害状況： ガソリン約1L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台	0 隻	0 機	4 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
							損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)			
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 情報収集活動実施。					自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査		年 月 日	年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>			
	その他	年 月 日	年 月 日				内容：			
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭										
35 今後の対策や所見 具体的な対策はなし(ポンツーン溶接部の亀裂は補修する)										

1 事故名	地震による特定屋外タンク浮き屋根上への危険物流出(T-129)				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 16日 23時 36分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 17日 7時 00分	
5 覚 知	3月 17日 7時 05分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 17日 10時 00分	
7 鎮火・処理完了	3月 17日 10時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (他災害出場中に覚知)				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：無風状態 風速：0m/s 気温：9.7℃ 湿度：44.5%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、 <input checked="" type="checkbox"/> 貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 仙台地区	
12 施 設 装 置	名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202) 能 力：22,309KL		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 19,990,000L 99,950倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模：ID37,776mm H20,010mm		倍数の合計： 99,950倍 設置の完成：昭和46年10月26日 直近の完成：昭和47年8月15日		
14 発 生 箇 所	名 称：タンク屋根板 番 号 (103) 材 質：鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(1L)	
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)		18 取扱者の概要		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 令和4年3月16日23時36分頃に福島県沖を震源とする地震が発生。 地震発生後の点検中であった従業員が令和4年3月17日7時頃、当該タンクの浮き屋根上に危険物(ガソリン)を確認。 地震動によるスロッシングの影響で側板と浮き屋根のシールの隙間から危険物の一部が吹き上がり、浮き屋根上に乗上げたもの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他					

25	主 原 因 その他の地震等災害	着火原因	番号 ()
原 因	関 連 原 因		
	発生原因の状況： 地震動によるもの(震度5強)		
	主原因の詳細		
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層
	関連原因の詳細		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から			
27 人的被害			28 物的被害
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症
当 事 者	0	0	0
防災活動従事者	0	0	0
第 三 者	0	0	0
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況			被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内での流出(タンクルーフ上)
消 防 機 関	9 台 0 隻 0 機 27 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 16 人
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	2 台 0 隻 0 機 4 人
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
物質の被害状況： ガソリン約1L流出			損害額 1万円未満 、1万円以上 (万円)
30 実施した防災活動の状況			
公設消防機関：番号 (99) 情報収集活動実施		自衛防災・消防組織等 番号 (5)	
31 防災活動上の問題点			
政 策 措 置	32 施設名		33 定期点検等
	使用停止	年 月 日	消 防 法
	改善命令等	年 月 日	そ の 他
	停止解除	年 月 日	定期・自主点検
	関係条項		気密試験等
	その他	年 月 日	保 安 検 査
1. 文書 2. 口頭		34 当該施設に係る 法令違反の有無	
1. 文書 2. 口頭		有・ 無 内容：	
35 今後の対策 や所見	なし		

1 事故名	地震による特定屋外タンク浮き屋根上への危険物流出(T-224)				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 16日 23時 36分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 17日 7時 00分	
5 覚 知	3月 17日 7時 05分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 17日 10時 00分	
7 鎮火・処理完了	3月 17日 10時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (他災害出場中に覚知)				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：無風状態 風速：0m/s 気温：9.7℃ 湿度：44.5%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、 <input checked="" type="checkbox"/> 貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：仙台地区	
12 施 設 装 置	名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202) 能 力：22,040KL		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 22,040,000L 11,020倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力：47℃ 名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模：ID37,776mm H21,855mm		17 物質の区分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分 類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(1L)	
14 発 生 箇 所	名 称：タンク屋根板 番 号 (103) 材 質：鋼鉄		18 取扱者の概要	設置の完成：昭和55年 3月 19日 直近の完成：昭和56年 3月 31日	
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)		19 危険物保安統括管理者	20 危険物保安監督者	21 危険物取扱者の取扱・立会い
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要	オンラインファイル無				
23 事故の概要	令和4年3月16日23時36分頃に福島県沖を震源とする地震が発生。 地震発生後の点検中であった従業員が令和4年3月17日7時頃、当該タンクの浮き屋根上に危険物(重油)を確認。 地震動によるスロッシングの影響で側板と浮き屋根のシールの隙間から原油の一部が吹き上がり、浮き屋根上に乗りに上げたもの。				
24 緊急処置の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他				

原 因	25 主 原 因		その他の地震等災害				着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 地震動によるもの(震度5強)									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層	
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害							28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内での流出(タンクルーフ上)		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし		
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	9 台	0 隻	0 機	27 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	16 人	物質の被害状況： 重油約1L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台	0 隻	0 機	4 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
							損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)			
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
情報収集活動実施										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査		年 月 日	年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>			
	その他	年 月 日	年 月 日				内容：			
35 今後の対策 や所見										
なし										

1 事故名	特定屋外タンク貯蔵所(T-11)浮屋根上に原油が若干量(1L未満)溢流したもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 16日 23時 36分	推定・確定	4 発 見	3月 17日 7時 48分	
5 覚 知	3月 17日 8時 29分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 17日 10時 39分	
7 鎮火・処理完了	3月 17日 10時 45分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東 風速：2m/s 気温：4℃ 湿度：90%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 仙台地区石油コンビナート特別防災区域	
12 施 設 装 置	名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202) 能 力：特定屋外タンク貯蔵所65,700KL		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 65,700,000L 328,500倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模：内径 65,000mm 高さ 22,000mm		設置の完成： 昭和 54年 2月 20日 直近の完成： 令和 3年 7月 20日	倍数の合計： 328,500倍	
14 発 生 箇 所	名 称：タンク浮屋根シール 番 号 (314) 材 質：その他		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：原油(1L)	
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 令和4年3月16日に福島県沖を震源とする地震が発生し、管内にて震度5強の地震が観測された。地震が夜間であったため、翌日の早朝、点検作業を実施した際に、特定屋外タンク貯蔵所浮き屋根上に原油が若干量(1L未満)溢流したもの。人的被害はなし。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因		その他の地震等災害				着火原因				番号 ()	
	関連原因											
	発生原因の状況： 軽微なスロッシング及びスプラッシュによるものと推定。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層		
	関連原因の詳細											
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害							28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 特定屋外タンク貯蔵所の浮き屋根の範囲内				
区分												
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 特になし。				
防災活動従事者		0	0	0	0							
第 三 者		0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	11 台	0 隻	0 機	30 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	16 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)原油若干量(1L未満)。		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台	0 隻	0 機	8 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (1 万円)		
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 警戒筒先配備、調査活動						
31 防災活動上の問題点												
32 施設名 屋外タンク貯蔵所												
政 策 措 置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検		令和 3 年 9 月 7 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等		年 月 日	年 月 日	
	関係条項							保安検査		令和 3 年 7 月 20 日	年 月 日	
その他	被害状況の早期把握、原因究明及び再発防止策を指導 令和 4 年 3 月 17 日			年 月 日			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
①. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭											
35 今後の対策や所見 本件事故は、地震に起因するものであり、施設の点検を行い、不備等がある場合は改修するよう指導したもの。												

1 事故名	特定屋外タンク貯蔵所(T-12)の浮屋根上に原油が若干量(1L未満)溢流したもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 16日 23時 36分	推定・確定	4 発 見	3月 17日 7時 48分	
5 覚 知	3月 17日 8時 29分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 17日 10時 39分	
7 鎮火・処理完了	3月 17日 10時 45分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東 風速：2m/s 気温：4℃ 湿度：90%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 仙台地区石油コンビナート特別防災区域	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)	能 力：特定屋外タンク貯蔵所65,700KL		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 65,700,000L 328,500倍		
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 328,500倍		
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)	規 模：内径 65,000mm 高さ 22,000mm		設置の完成：昭和 54年 2月 20日 直近の完成：平成 30年 3月 12日		
14 発 生 箇 所	名 称：タンク浮屋根シール 番 号 (314)		17 物 質 の 区 分		
材 質：その他			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：原油(1L)		
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)		18 取 扱 者 の 概 要		
作 業 状 況：	番 号 ()		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 令和4年3月16日に福島県沖を震源とする地震が発生し、管内にて震度5強の地震が観測された。地震が夜間であったため、翌日の早朝、点検作業を実施した際に、特定屋外タンク貯蔵所浮き屋根上に原油が若干量(1L未満)溢流したもの。人的被害はなし。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因		その他の地震等災害		着火原因		番号 ()					
	関連原因											
	発生原因の状況： 軽微なスロッシング及びスプラッシュによるものと推定。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層		
	関連原因の詳細											
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害						28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 特定屋外タンク貯蔵所の浮き屋根の範囲内				
区分												
当 事 者		0	0	0	0							
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 特になし。				
第 三 者		0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	11 台	0 隻	0 機	30 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	16 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)原油若干量(1L未満)。		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台	0 隻	0 機	8 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人			
									損害額	1万円未満、 <u>1万円以上</u> () (1 万円)		
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 警戒筒先配備、調査活動						
31 防災活動上の問題点												
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和 3 年 9 月 7 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		平成 28 年 11 月 28 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：				
その他	被害状況の早期把握、原因究明及び再発防止策を指導 令和 4 年 3 月 17 日 年 月 日				①. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策や所見 本件事故は、地震に起因するものであり、施設の点検を行い、不備等がある場合は改修するよう指導したもの。												

1 事故名	特定屋外タンク貯蔵所(T-13)浮屋根上に原油約5.5L溢流及びポンツーン1室内に原油約570L漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 16日 23時 36分	推定・確定	4 発 見	3月 17日 7時 48分	
5 覚 知	3月 17日 8時 29分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 17日 10時 39分	
7 鎮火・処理完了	3月 17日 10時 45分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東 風速：2m/s 気温：4℃ 湿度：90%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： ①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 仙台地区石油コンビナート特別防災区域				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 65,700,000L 328,500倍				
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分				
名 称： 浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
能 力： 特定屋外タンク貯蔵所65,700KL	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： 原油(575.5L)				
13 機 器 等 温度圧力：	18 取扱者の概要				
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有				
規 模： 内径 65,000mm 高さ 22,000mm	3. 不要				
14 発 生 箇 所	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
名 称： タンク浮屋根シール 番 号 (314)	23 事故の概要： 令和4年3月16日に福島県沖を震源とする地震が発生し、管内にて震度5強の地震が観測された。地震が夜間であったため、翌日の早朝、点検作業を実施した際に、特定屋外タンク貯蔵所の浮き屋根上に原油約5.5L溢流及びポンツーン1室内に原油約570L漏えいしたものの。人的被害はなし。				
材 質： その他	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止				
15 発 生 時					
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)					
作 業 状 況： 番 号 ()					

25	主 原 因	その他の地震等災害	着火原因	番号 ()								
原 因	関 連 原 因											
	発生原因の状況： 浮き屋根上部への溢流については、軽微なスロッシングと及びスブラッシュによるものと推定。ボンツーン内への漏えいについては、地震動により緩衝板が側板に当たり、溶接部付け根部分に割れが生じ、割れた部分より漏えいしたものと推定。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層								
	関連原因の詳細											
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27	人的被害					28	物的被害					
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 特定屋外タンク貯蔵所の浮き屋根の範囲内				
	区分											
	当 事 者	0	0	0	0							
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： ボンツーン1室割れ又は穴(調査中)				
	第 三 者	0	0	0	0							
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
	消 防 機 関	11 台	0 隻	0 機	30 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	16 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)原油約5.5L(浮き屋根上)及び同物質約570L(ボンツーン内)。	
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台	0 隻	0 機	8 人		
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (185 万円)	
30	実施した防災活動の状況											
	公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 警戒筒先配備、調査活動					
31	防災活動上の問題点											
32	施設名	屋外タンク貯蔵所				33	定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年		月	日	定期・自主点検	令和3年9月7日	年 月 日	
	改善命令等	年	月	日	年		月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年		月	日	保安検査	平成31年1月29日	年 月 日	
	関係条項					34	当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	被害状況の早期把握、原因究明及び再発防止策を指導 令和4年3月17日 年 月 日 ①. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭											
35	今後の対策や所見 本件事故は、地震に起因するものであり、施設の点検を行い不備等がある場合は改修するよう指導したものの。											

1 事故名	特定屋外タンク貯蔵所(T-14)浮屋根上に原油約39.5Lの溢流、ローリングラダー脱輪、雨水シール及び犬走が破損したもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 16日 23時 36分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 17日 7時 48分	
5 覚 知	3月 17日 8時 29分	6 鎮 圧 応急処置完了	3月 17日 10時 39分		
7 鎮火・処理完了	3月 17日 10時 45分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東 風速：2m/s 気温：4℃ 湿度：90%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 業 態：	①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		区 分： ①. 事業所内 (製、 <input type="checkbox"/> 貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 仙台地区石油コンビナート特別防災区域		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等				
名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 65,700,000L 328,500倍				
能 力：特定屋外タンク貯蔵所65,700KL	設置の完成：昭和 54年 2月 20日 直近の完成：平成 27年 1月 26日				
13 機 器 等 温度 圧力：	17 物 質 の 区 分				
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input type="checkbox"/> 液相、気相) (<input type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：原油 (39.5L)				
規 模：内径 65,000mm 高さ 22,000mm	18 取扱者の概要				
14 発 生 箇 所	19 危険物保安 統括管理者				
名 称：タンク浮屋根シール 番 号 (314)	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		21 危険物取扱者 の取扱・立会い
材 質：その他					①. 有 2. 無
15 発 生 時	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)	23 事 故 の 概 要： 令和4年3月16日に福島県沖を震源とする地震が発生し、管内にて震度5強の地震が観測された。地震が夜間であったため、翌日の早朝、点検作業を実施した際に、特定屋外タンク貯蔵所の浮き屋根上に原油約39.5Lの溢流、ローリングラダー脱輪、雨水シール及び犬走基礎の破損を確認したもの。人的被害はなし。				
作 業 状 況： 番 号 ()	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止				

25	主 原 因		その他の地震等災害		着火原因		番号 ()				
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 浮き屋根上部への溢流については、軽微なスロッシング及びスブラッシュによるものと推定。ローリングラダーの脱輪については、地震動により車輪下部がランウェイのLアングルに当たり脱輪したものと推定。雨水シールの破損及び犬走基礎破損については、基礎沈下、ロッキング、スライド等によるものと推定。										
	主原因の詳細										
原	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
因	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 特定屋外タンク貯蔵所の浮き屋根の範囲内			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： ローリングラダー脱輪、雨水シール及び犬走基礎の破損。			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	11 台	0 隻	0 機	30 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	16 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)原油約39.5L。	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台	0 隻	0 機	8 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 調査活動					自衛防災・消防組織等 番号 (99) 警戒筒先配備、調査活動						
31 防災活動上の問題点											
32	施設名	屋外タンク貯蔵所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他				
	使用停止	年	月	日		年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日		年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日		年	月	日	年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無					
その他	被害状況の早期把握、原因究明及び再発防止策を指導 令和4年3月17日			内容：							
①. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭											
35 今後の対策や所見 本件事故は、地震に起因するものであり、施設の点検を行い、不備等がある場合は改修するよう指導。											

1 事故名	特定屋外タンク貯蔵所(T-15)浮屋根上に原油約52.5L溢流、雨水シール及び犬走が破損したもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 16日 23時 36分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 17日 7時 48分	
5 覚 知	3月 17日 8時 29分	6 鎮 圧 応急処置完了	3月 17日 10時 39分		
7 鎮火・処理完了	3月 17日 10時 45分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東 風速：2m/s 気温：4℃ 湿度：90%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、 <input checked="" type="checkbox"/> 貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 仙台地区石油コンビナート特別防災区域	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)	能 力：特定屋外タンク貯蔵所65,700KL		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 65,700,000L 328,500倍		
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 328,500倍		
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)	規 模：内径 65,000mm 高さ 22,000mm		設置の完成：昭和 54年 2月 20日 直近の完成：平成 28年 7月 6日		
14 発 生 箇 所	名 称：タンク浮屋根シール 番 号 (314)		17 物 質 の 区 分		
材 質：その他			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：原油(52.5L)		
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)		18 取 扱 者 の 概 要		
作 業 状 況：	番 号 ()		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 令和4年3月16日に福島県沖を震源とする地震が発生し、管内にて震度5強の地震が観測された。地震が夜間であったため、翌日の早朝、点検作業を実施した際に、特定屋外タンク貯蔵所浮き屋根上に原油約52.5L溢流、雨水シール及び犬走基礎が破損。人的被害なし。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因		その他の地震等災害				着火原因				番号 ()					
	関 連 原 因															
	発生原因の状況： 浮き屋根上部への溢流については、軽微なスロッシング及びスブラッシュによるものと推定。雨水シールの破損及び犬走基礎の破損については、基礎沈下、ロッキング、スライド等によるものと推定。															
	主原因の詳細															
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層			
	関連原因の詳細															
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																
27 人的被害							28 物的被害									
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 特定屋外タンク貯蔵所の浮き屋根の範囲内								
区分																
当 事 者		0	0	0	0											
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 雨水シール及び犬走基礎の破損								
第 三 者		0	0	0	0											
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																
消 防 機 関	11 台	0 隻	0 機	30 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	16 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)原油約52.5L						
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台	0 隻	0 機	8 人							
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人							
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (489 万円)						
30 実施した防災活動の状況																
公設消防機関：番号 (99) 調査活動							自衛防災・消防組織等 番号 (99) 警戒筒先配備、調査活動									
31 防災活動上の問題点																
32 施設名 屋外タンク貯蔵所																
政 策 措 置	使用停止	年 月 日				年 月 日				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他		
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検		令和 3 年 9 月 7 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日				年 月 日				気密試験等		年 月 日		年 月 日		
	関係条項									保 安 検 査		平成 28 年 7 月 6 日		年 月 日		
そ の 他	被害状況の早期把握、原因究明及び再発防止策を指導 令和 4 年 3 月 17 日				年 月 日				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：					
①. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭															
35 今後の対策や所見 本件事故は、地震に起因するものであり、施設の点検を行い、不備事項がある場合は改修するよう指導したものを。																

1 事故名	特定屋外タンク貯蔵所の浮屋根上に原油が溢流及びローリングラダー車軸が変形、雨水シールが破損した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 16日 23時 36分	推定・確定	4 発 見	3月 17日 7時 48分	
5 覚 知	3月 17日 8時 29分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 17日 10時 39分	
7 鎮火・処理完了	3月 17日 10時 45分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東 風速：2m/s 気温：4℃ 湿度：90%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				11 発 生 場 所
					区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 仙台地区石油コンビナート特別防災区域
					16 発生施設規制区分等
					施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 65,700,000L 328,500倍
12 施 設 装 置					設置の完成：昭和 54年 2月 20日 直近の完成：平成 30年 6月 28日
名 称：浮屋根式(地上)タンク	番 号 (1202)				
能 力：特定屋外タンク貯蔵所65,700KL					
13 機 器 等	温 度 圧 力：				
名 称：貯槽(タンク)	番 号 (107)				
規 模：内径 65,000mm 高さ 22,000mm					倍数の合計： 328,500倍
14 発 生 箇 所					
名 称：タンク浮屋根シール	番 号 (314)				17 物 質 の 区 分
材 質：その他					①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：原油(36.5L)
15 発 生 時					18 取 扱 者 の 概 要
運 転 状 況：定常運転中	番 号 (1)				
作 業 状 況：	番 号 ()				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 令和4年3月16日に福島県沖を震源とする地震が発生し、管内にて震度5強の地震が観測された。地震が夜間であったため、翌日の早朝、点検作業を実施した際に、特定屋外タンク貯蔵所浮き屋根上に原油約36.5L溢流及びローリングラダー車軸の変形及び雨水シールの破損を確認したものの。人的被害はなし。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因	その他の地震等災害	着火原因	番号 ()										
原 因	関 連 原 因													
	発生原因の状況： 浮き屋根上部への溢流については、軽微なスロッシング及びスブラッシュによるものと推定。ローリングラダー車軸の変形については、地震動により車輪下部がランウェイのLアングルに当たり変形したものと推定。雨水シールの破損については、基礎沈下、ロッキング、スライド等によるものと推定。													
	主原因の詳細													
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層										
	関連原因の詳細													
26	被害の状況	1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27	人的被害	28 物的被害												
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 特定屋外タンク貯蔵所の浮き屋根の範囲内						
	区分													
	当 事 者	0	0	0	0									
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： ローリングラダーの車軸変形、雨水シールの破損						
	第 三 者	0	0	0	0									
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
	消 防 機 関	11 台	0 隻	0 機	30 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	16 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)原油約39.5L。			
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台	0 隻	0 機	8 人				
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人				
											損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (546 万円)			
30	実施した防災活動の状況													
	公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 警戒筒先配備、調査活動							
31	防災活動上の問題点													
32	施設名	屋外タンク貯蔵所				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他				
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和3年9月7日	年	月	日		
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	平成30年6月28日	年	月	日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <u>無</u> 内容：					
32	その他	被害状況の早期把握、原因究明及び再発防止策を指導 令和4年3月17日				年			月		日			
		①. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭								
35	今後の対策 や所見	本件事故は、地震に起因するものであり、施設の点検を行い不備等がある場合は改修するよう指導したもの。												

1 事故名		屋外タンク貯蔵所から乾燥機(一般取扱所該当)への地上配管破損による灯油の流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定			4 発 見		3月 2日 12時 00分				
5 覚 知		3月 3日 12時 30分			6 鎮 圧 応急処置完了		3月 3日 13時 30分				
7 鎮火・処理完了		3月 18日 10時 30分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 ⑤. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：曇		風向：西		風速：7.4m/s		気温：4.5℃		湿度：60.2%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所							
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 農業 農業 農業サービス業 番 号 (131) (園芸サービス業を除く) 穀 作サービス業				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：							
				16 発生施設規制区分等				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,800L 9.8倍			
12 施 設 装 置				設置の完成：平成28年 8月 31日 直近の完成：平成28年 8月 31日							
名 称： その他のタンク 番 号 (1299) 能 力： タンク容量9,800L											
13 機 器 等				温度圧力：							
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模： 直径25mm				倍数の合計： 9.8倍							
14 発 生 箇 所				17 物 質 の 区 分							
名 称： 管継手(ダクトを含む) 番 号 (201) 材 質： 鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油(1,500L)							
15 発 生 時				18 取扱者の概要							
運 転 状 況： 停止中 番 号 (5) 作 業 状 況： その他 番 号 (99)				19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： 屋外タンク貯蔵所から乾燥機(一般取扱所該当)への地上配管が屋根からの落雪により破損し、灯油1,500Lが流出し敷地内土中に浸透、一部が敷地内側溝から敷地外水路へ流出したもの。なお、配管バルブの閉鎖と吸着マットを使用し応急処置を実施した。											
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他											

原 因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()		
	関 連 原 因								
	発生原因の状況： 屋外タンク貯蔵所の地上配管が屋根からの落雪により破損し、灯油1,500Lが流出したものを。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	破損		自然現象		雪の重み				
	関連原因の詳細								
26 被害の状況 ①. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害						28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名		
区分									
当 事 者		0	0	0	0				
防災活動従事者		0	0	0	0				
第 三 者		0	0	0	0				
被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した灯油が敷地内土中に浸透、一部が敷地内側溝から敷地外の流速の早い水路へ流出。数キロメートル下流側の河川に流出した可能性があるが、出動時、河川で油膜、油臭等は確認していない。									
施設等の被害状況： 屋外タンク貯蔵所の地上配管を破損									
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油1,500L流出									
損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (37 万円)									
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (5) 現場にて口頭で危険物施設の使用停止命令を行い、即日使用停止命令書を交付した。 吸着マットを敷地内側溝に設置し、敷地外水路への流出を防止をした。					自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点									
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	令和 4 年	3 月	3 日	年	月	日		
	改善命令等	年	月	日	年	月	日		
	停止解除	令和 4 年	3 月	18 日	年	月	日		
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年	月	日	年	月	日			
35 今後の対策 や所見	当該事業所に対し、雪対策の実施と従業員への教育を徹底するよう指導したところであるが、今後、管内の他の事業所に対しても指導を行い、同種事故防止に努める必要がある。								

1 事故名	屋外タンク貯蔵所から一般取扱所へ送油する配管に接続されているドレン配管の腐食による灯油の流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	9月 20日 13時 20分
5 覚 知	9月 20日 14時 05分	6 鎮 圧 応急処置完了	9月 20日 14時 59分
7 鎮火・処理完了	9月 21日 10時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北 風速：6.9m/s 気温：18℃ 湿度：71%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 <u>第1種</u> 、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号(5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属 材料卸売業 石油卸売業	区 分：①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名：秋田地区		
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 22,124,000L 22,124倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 22,124倍		
名 称：固定屋根付浮屋根(地上)タンク 番号(1203)	設置の完成：昭和44年 6月 30日		
能 力：タンク許可容量 22,124KL	直近の完成：令和4年 4月 16日		
13 機 器 等 温度 圧力：	17 物 質 の 区 分		
名 称：配管(送油、注入管等) 番号(606)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
規 模：SGP20A 1m	5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
14 発 生 箇 所	(固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧)		
名 称：その他の附属配管等 番号(299)	(低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温)		
材 質：鋼鉄	分 類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油		
15 発 生 時	18 取扱者の概要		
運 転 状 況：払出中 番号(10)	①. 選任有 2. 選任無		
作 業 状 況： 番号()	20 危険物 保安監督者 ①. 有 2. 無		
19 危険物保安 統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 11時50分頃、日常点検の一環としてオイルトラップを確認したところ、多くの油膜が認められたため、事業所内の配管等の緊急点検を行った。13時20分頃に油配管ピット内で、払出配管に接続するドレン配管からの灯油の流出を発見したため、漏えい配管に関連する屋外タンク貯蔵所のバルブ閉止作業を行うとともに、消防への通報を行った。事業所敷地外への流出はなかった。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号(10) 無 その他			

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()					
原 因	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 配管カバーの経年劣化により内部の保温材に雨水が浸入し、腐食疲労等劣化が進行したものの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	腐食	環境	多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害			28 物的被害					
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 事業所敷地内のオイルトラップ及び配管ピット内に流出	
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： SGP20A配管が腐食し、ピンホール発生	
第 三 者	0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性) 灯油漏えい	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人		
							損害額 1万円未満、 1万円以上 (100 万円)	
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
調査活動								
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	令和 4 年 9 月 20 日			年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保 安 検 査	年 月 日	年 月 日
	関係条項	法第12条第2項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無		
そ の 他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：				
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策 や所見	<ul style="list-style-type: none"> ・配管カバーを外しての点検 ・配管の計画的更新 							

1 事故名	副生油タンク燃料配管の圧力調整弁の取付不良により副生油が流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	7月 12日 13時 26分 推定・ <u>確定</u>	4 発 見	7月 12日 14時 08分
5 覚 知	9月 22日 10時 00分	6 鎮 圧 応急処置完了	7月 12日 14時 09分
7 鎮火・処理完了	7月 12日 15時 30分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東北東 風速：4m/s 気温：25℃ 湿度：91%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 熱 番 号 (3511) 供給業 熱供給業 熱供給業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 副生油A 200,000L 200倍		
12 施 設 装 置	設置の完成： 昭和 58年 8月 18日 直近の完成： 年 月 日		
名 称： 固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)	17 物 質 の 区 分		
能 力： 容量 200KL	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 副生油A(360L)		
13 機 器 等	18 取扱者の概要		
温 度 圧 力：	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 3. 不要		
名 称： その他 番 号 (999)	20 危険物保安監督者		
規 模： 呼び径 25	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
14 発 生 箇 所	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
名 称： レベルゲージ 番 号 (308)	23 事 故 の 概 要： 定修終了後の試運転作業において、副生油タンク帰属の燃料配管の圧力調整弁から副生油が防油堤内に流出したもの。		
材 質： 鋳鉄	24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (1) 無 装置の緊急停止		
15 発 生 時			
運 転 状 況： スタートアップ中 番 号 (2)			
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)			

原因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 圧力調整弁を配管に取り付ける際に、入口側と出口側を逆に取り付けてしまい、ダイヤフラムに高い圧力がかかった時ダイヤフラムの内周部が外れて隙間が発生し、圧力調整弁の上部接合部から流出。また、漏えい後の内部確認でダイヤフラムを組み込む押さえナットが緩んでいたことが発見したことから、施工時に仮止めで終わらせてしまったと推測され、これらの要因から、360L流出が継続したと考えられる。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	施工不良		施工		施工内容の間違い						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内に留まる。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： ダイヤフラムの変形			
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	6 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類 副生油A 360L流出(回収量)	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (4 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 情報収集、回収、液抜き					
31 防災活動上の問題点 社内規定の認識不足により、通報不要と判断してしまった。 発見後すぐに漏えいが停止したことからそのまま良いと現場が判断してしまった。											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日				保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	年 月 日										
35 今後の対策 や所見	協力会社の作業があった場合は、立会いを行い、確認作業を徹底する。 研修チェックリストを作成し、抜け防止を図る。 ダイヤフラム等の締付ナットは適正トルク値を定めて、管理を徹底する。										

1 事故名	屋外タンク貯蔵所の送液配管の腐食により発生した漏えい事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発生	4月 26日 10時 40分	推定・確定	4 発見	4月 26日 10時 45分	
5 覚知	4月 27日 9時 10分		6 鎮圧 応急処置完了	4月 26日 11時 30分	
7 鎮火・処理完了	4月 26日 13時 00分				
8 覚知別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気象状況	天気:	風向:	風速:	気温:	湿度:
10 発生事業所	種別: 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態: 製造業 化学工業 有機化学 番号 (1739) 工業製品製造業 その他の有機化学工業製品製造業				11 発生場所
					区分: ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名: 16 発生施設規制区分等 施設区分: ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別: 貯蔵所 施設別: 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数: 第4類第4石油類 ボリブ [®] ロビ [®] レク [®] リ 30,000L 5倍 コール 倍数の合計: 5倍 設置の完成: 昭和 33年 8月 15日 直近の完成: 平成 28年 11月 25日
12 施設装置	名称: 固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201) 能力: 30KL				
13 機器等	温度圧力: 0.4Mpa 名称: 配管(送油、注入管等) 番号 (606) 規模: SGP(黒)65A				
14 発生箇所	名称: 配管の架台、サポート 番号 (217) 材質: 鋼鉄				
15 発生時	運転状況: 定常運転中 番号 (1) 作業状況: 運転操作中 番号 (1)				
17 物質の区分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類: 第4類第4石油類 名称: ボリブ [®] ロビ [®] レク [®] リ [®] コール(5L)				
18 取扱者の概要	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要:	オンラインファイル無				
23 事故の概要:	屋外タンク貯蔵所から一般取扱所への送液配管途中の腐食箇所から漏えいしたもの。				
24 緊急処置の状況	有 番号 (10) 無 その他				

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()				
	関 連 原 因 維持管理不十分								
	発生原因の状況： 漏えいした配管は、1991年に施工したSGP(黒)で保温材及びラッキングカバーを施工後、配管を直接点検していなかったため、腐食穿孔箇所から漏えいに至ったもの。								
	主要原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）				
	関連原因の詳細								
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害						28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名		
区分									
当 事 者		0	0	0	0				
防災活動従事者		0	0	0	0				
第 三 者		0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						被災影響範囲及び拡大の状況： 配管下部の地面約2㎡に漏えい。			
消 防 機 関		0台 0隻 0機 0人	自 衛		0台 0隻 0機 0人	物質の被害状況： 配管から貯蔵液が漏えい(約5L)			
消 防 団		0台 0隻 0機 0人	共 同		0台 0隻 0機 0人				
海上保安部		0台 0隻 0機 0人	応 援		0台 0隻 0機 0人				
その他の機関		0台 0隻 0機 0人	その他		0台 0隻 0機 0人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (3万円)			
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 (5, 4) 配管の漏えい防止措置及び漏えいした貯蔵液を吸着し回収した。					
31 防災活動上の問題点 事故発生の翌日に通報があり、事業所内部の消防への連絡体制の不備があった。漏えいが発生した屋外タンク貯蔵所から一般取扱所へ送油する配管の点検を行った。									
政 策 措 置	32 施設名		屋外タンク貯蔵所(A-1)		33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止		令和4年 4月 27日		年 月 日		定期・自主点検	令和4年 4月 26日	年 月 日
	改善命令等		年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除		令和4年 5月 10日		年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項		法第12条の3第1項		34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：		
その他		緊急使用停止命令 年 月 日		年 月 日					
①. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策や所見 保温材やラッキングカバーを外して定期的に配管の腐食状態等の点検を行い、必要があれば更新をする。また、更新はSGP(白)以上の耐腐食性能の高い配管とし、配管受け部に腐食防止スペーサーを入れ、ラッキングカバーに更新した年月日を表示してもらう。事業所内の他の危険物施設の配管も同様な処置を行う。									

1 事故名	新規建設中の屋外タンク貯蔵所に既設屋外タンクの重油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 28日 9時 20分	推定・確定	4 発 見	2月 28日 10時 10分	
5 覚 知	2月 28日 10時 45分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 28日 11時 00分	
7 鎮火・処理完了	2月 28日 15時 45分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北西 風速：1m/s 気温：14℃ 湿度：19%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 航空運輸業 航空運 番号 (4611) 送業 航空運送業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 350,000L 175倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201)	13 機 器 等 温度圧力： 常温、常圧		設置の完成： 令和 4年 3月 30日 直近の完成： 年 月 日		
能 力： 350KL	名 称： 貯槽(タンク) 番号 (107)		17 物 質 の 区 分		
規 模： 内径 7,500mm、高さ 8,850mm 容量 350KL	14 発 生 箇 所		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(100L)		
14 発 生 箇 所	名 称： その他 番号 (999)		18 取扱者の概要 経験年数3年		
材 質： ステンレス	15 発 生 時		1. 選任有 ②. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 3. 不要		
運 転 状 況： 新規建設中 番号 (15)	20 危 険 物 保 安 監 督 者				
作 業 状 況： 新規建設工事中 番号 (7)	19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 既設の屋外タンク貯蔵所(以後既設タンク)の防油堤内に、新設の屋外タンク貯蔵所(以後新設タンク)を建設中であった。既設タンクと新設タンクは配管が相互に接続されているが、バルブにより切り離されている。また新設タンクは完成検査前検査を受験する段階であり、2箇所ある側マンホールはボルトで仮締めしている状況であった。事故当日は現場作業員が、新設タンクの元弁の動作確認及び異物確認をするためバルブを開操作し、その際に近傍にあった本管接続分岐弁用バルブについても誤って開操作を実施する。予定のなかった本管接続分岐弁用バルブを開操作したことにより既設タンクと新設タンクの配管が開通し、既設タンク内の重油が新設タンクに流入。新設タンク内に重油38KL及び側マンホールから防油堤内に100Lが流出したもの。その後、現場作業員が流出に気づき本管接続分岐弁用バルブを閉止、側マンホールのボルト締付け、吸着マットで漏えいした重油の回収を行う。また廃棄物処理業者にローリーを依頼し、集水樋の汲み取りを行う。人的被害、施設外への流出、周辺の機器への被害無し。					
24 緊急処置の状況 有 番号 (8、10) 無 防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等、その他					

25	主 原 因 誤操作	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 既設の屋外タンク貯蔵所と新規建設中の屋外タンク貯蔵所を切り離している元弁バルブ及び開ける予定がなかった本管接続分岐弁用バルブを不注意により開操作したことにより、既設タンクから新設タンクへ重油が流出したもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	人	本人の意識	思慮	不注意						
	関連原因の詳細									
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27	人的被害		28 物的被害							
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 新規建設中の屋外タンク貯蔵所内に重油38KL、既設屋外タンクと新設屋外タンクに共通の防油堤に重油100Lが流出。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 施設の被害はなし。		
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油 38,100L流出		
消防機関	1台	0隻	0機	3人	自 衛	0台	0隻		0機	0人
消防団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻		0機	0人
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻		0機	0人
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻		0機	0人
30	実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動										
31	防災活動上の問題点									
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：				
その他	年	月	日	年						月
35	今後の対策 や所見	保安監督者による関係機器取扱方法の教育 運用中の配管と接続されているバルブの操作時用のチェックリストの作成 全てのバルブに開閉表示の明示 バルブ操作後の周辺確認の徹底								

1 事故名	原油タンク(#7)ポンツーン内部での滲み				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 17日 12時 30分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 17日 12時 30分	
5 覚 知	3月 17日 12時 55分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 21日 15時 00分	
7 鎮火・処理完了	3月 21日 15時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北西 風速：4.9m/s 気温：16℃ 湿度：				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、 <input checked="" type="checkbox"/> 貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区	
12 施 設 装 置	名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202) 能 力：許可容量 97,417.0KL		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 97,417,000L 487,085倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模：内径 81.600m		倍数の合計： 487,085倍 設置の完成：昭和 42年 10月 4日 直近の完成：令和 3年 10月 12日		
14 発 生 箇 所	名 称：ポンツーン 番 号 (104) 材 質：鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：原油	
15 発 生 時	運 転 状 況：貯蔵・保管中 番 号 (7) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 2022年3月17日(木)12時30分頃、危険物屋外貯蔵設備(フローティングルーフタンク)にて、2022年3月16日(水)23:30頃に発生した福島県沖地震の被害状況確認をしていた操油課2係員が、原油タンク(#7)のポンツーン内部に油の滲みを目視にて確認した。直ちに上長報告を行った後、安全確保のため、当該タンクの内容物を他タンクへの移送を実施。タンク屋根着底後、タンク天板と油面間を窒素置換することで漏えい停止を確認した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送					

原因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 油の滲みを認めた箇所は、ボンツーン下板を補強するための補強リング(L型)の取り付け溶接部の周辺であった。当該タンクは、2009年の浮き屋根改修工事を行った後、2017年の定期開放検査の際に補強リング(L型)の取り付け溶接部においてボンツーン下板の割れ及び溶接線の母材の溶け落ちを確認していた。 タック溶接(ショートビート)部は、受払による液面変動や地震によるスロッシング等の外部応力が加わると応力集中しやすい箇所であり、下板に過剰な入熱を与えたことにより溶接欠陥が生じたところに、2009年完成検査以降の受払時の液面変動や2011年の東日本大震災を含む地震によるスロッシング等の外部応力が加わったことにより、ボンツーン下板に割れが生じ、その後、時間経過とともに進展し母材を貫通したと推定する。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	施工不良		施工		溶接不良					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： なし		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： ボンツーンの欠陥		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	11 台	0 隻	0 機	41 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	4 人	物質の被害状況： 原油
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台	0 隻	0 機	8 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	1 台	0 隻	0 機	2 人	
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	105 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (82 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 情報収集						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 大型化学高所放水車にて放水実施。警戒待機				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法		そ の 他	
	使用停止	令和 4 年 3 月 17 日				年 月 日	定期・自主点検	令和 3 年 11 月 19 日		年 月 日
	改善命令等	年 月 日				年 月 日	気密試験等	令和 3 年 11 月 15 日		年 月 日
	停止解除	令和 4 年 3 月 29 日				年 月 日	保安検査	令和 3 年 1 月 5 日		年 月 日
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	令和6年9月30日までに、法第10条第4項の規定に適合させること。 年 月 日									
35	今後の対策 や所見	ボンツーン内の滲みを認めた箇所(8箇所)については、消防危第84号通知に基づき、応急措置として接着剤による仮補修を実施。 タンク開放を前倒しし、ボンツーン補強リング(L型)の取付溶接線の検査を行った上で、原因特定と恒久補修を行う予定。								

1 事故名	ナフサタンク(#847)ボンツーン内部でのしみ				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 17日 12時 30分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 17日 12時 55分	
5 覚 知	3月 17日 12時 55分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 20日 20時 00分	
7 鎮火・処理完了	3月 20日 20時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北西 風速：4.9m/s 気温：16℃ 湿度：				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				11 発 生 場 所
					区 分：①. 事業所内 (製、 <input checked="" type="checkbox"/> 貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区
					16 発生施設規制区分等
					施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 21,985,000L 109,925倍
12 施 設 装 置					設置の完成：昭和46年 4月 15日 直近の完成：平成30年 12月 11日
名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)					17 物 質 の 区 分
能 力：許可容量 21,985.0KL					
13 機 器 等	温 度 圧 力：				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ナフサ
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)	規 模：内径 43.570m				
14 発 生 箇 所	名 称：ボンツーン 番 号 (104)				18 取扱者の概要
材 質：鋼鉄	19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
15 発 生 時	20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 2022年3月17日(木)12時30分頃、危険物屋外貯蔵設備(フローティングルーフタンク)にて、2022年3月16日(水)23:30頃に発生した福島県沖地震の被害状況確認をしていた操油課2係員が、ナフサタンク(#847)のボンツーン内部に油のしみを目視にて確認した。直ちに上長報告を行った後、安全確保のため、当該タンクの内容物を他タンクへの移送を実施。タンク屋根着底後、タンク天板と油面間を窒素置換することで漏えい停止を確認した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送					

原因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 滲みを認めた箇所は、ナンバー22ボンツーンインナーリム側のナンバー23ボンツーン仕切板の角部であり、インナーリムと仕切板の隅肉溶接線に溶け込み不良があった。当該隅肉溶接線は、ボンツーン下板とインナーリムの隅肉溶接線と交わる箇所であり、インナーリム外側の隅肉溶接線にも欠陥があるとインナーリムと下板の隙間を介して油が滲み出る箇所である。ボンツーン下板とインナーリムの隅肉溶接線は、2017年に実施した浮き屋根耐震改修工事の際に全線PT検査を行い問題なかったが、完成検査以降の受払時の液面変動や地震によるスロッシング等の外部応力が加わったことにより、インナーリム外側隅肉溶接線に内在していた欠陥が露出し、油が侵入したものと推定する。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	施工不良		施工		溶接不良					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 影響なし		
区分										
当事者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第三者	0	0	0	0				施設等の被害状況： インナーリムと仕切り板の隅肉溶接線に溶け込み不良		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消防機関	11台	0隻	0機	41人	自衛	1台	0隻	0機	4人	物質の被害状況： ナフサ
消防団	0台	0隻	0機	0人	共同	2台	0隻	0機	4人	
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応援	1台	0隻	0機	2人	
その他の機関	3台	0隻	0機	4人	その他	0台	0隻	0機	105人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (6万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 情報収集及び現場確認				自衛防災・消防組織等 番号 (99) 警戒筒先						
31 防災活動上の問題点										
行政措置	施設名	屋外タンク貯蔵所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	令和4年	3月	17日	年	月	日			
	改善命令等	年	月	日	年	月	日			
	停止解除	令和4年	3月	25日	年	月	日			
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無	内容：			
その他	令和4年 3月 25日 年 月 日									
		①. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策や所見		消防法第84号屋外貯蔵タンクの浮屋根の安全対策について適合状況の協議依頼書に基づき仮補修を行います。								

1 事故名	原油タンク(#4)ポンツーン内部での滲み				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 24日 16時 30分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 24日 16時 30分	
5 覚 知	3月 24日 16時 42分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 1日 14時 00分	
7 鎮火・処理完了	4月 1日 14時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴	風向：北西	風速：1.4m/s	気温：24℃	湿度：
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				
11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、 <input checked="" type="checkbox"/> 貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区				
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 68,591,000L 342,955倍				
13 機 器 等	温度圧力： 名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模：内径 75.500m				
14 発 生 箇 所	設置の完成：昭和40年 6月 3日 直近の完成：令和2年 10月 12日				
15 発 生 時	17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：原油				
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要：	オンラインファイル無				
23 事故の概要：	2022年3月24日(木)16時30分頃、2022年3月17日(木)に当社で発生した原油タンク(#7)及びナフサタンク(#847)のポンツーン内部での 滲みの不具合事象を受け、2022年3月16日(水)に発生した福島県沖地震以降に、移送作業等によりルーフに大きな移動が発生した危険物 屋外貯蔵設備(フローティングルーフタンク)の健全性確認をしていた操油課2係員が、原油タンク(#4)のポンツーン内部に油の滲みを目 視にて確認したので、直ちに上長に報告。その後、安全確保のため、当該タンクの内容物(原油)を他タンクへ移送を実施、窒素導入に より油面とタンク天板の間の空隙を窒素置換した。その後、2022年3月31日(木)に接着剤による応急補修を実施し、翌2022年4月1日(金) に再度ルーフを浮上させ、滲みなし及びガス検ゼロを確認した。				
24 緊急処置の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送				

25 主 原 因 調 査 中		着 火 原 因				番 号 ()				
関 連 原 因 調 査 中										
原 因	発生原因の状況： 油の滲みを認めた箇所は、ポンツーン下板を補強するための補強リング(L型)の取り付け溶接部周辺であった。当該部は附属品を固定するための隅肉溶接(タック溶接)であり、ポンツーン下板同士等の重ね溶接のような気密性能を要求する溶接線のような品質管理が行われておらず、且つ受払による液面変動や地震によるスロッシング等の外部応力が加わり応力集中しやすい箇所である。よって、2013年の浮き屋根改修工事の際に補強リング(L型)の取り付け部において溶接欠陥が生じた箇所に、2013年完成検査以降の受払時の液面変動や地震によるスロッシング等の外部応力が加わったことにより、ポンツーン下板に割れが生じ、その後時間を経過して、母材を貫通したと推定する。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 影響なし			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： ポンツーンの欠陥			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	9 台	0 隻	0 機	28 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 原油
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台	0 隻	0 機	4 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	1 台	0 隻	0 機	2 人	
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	3 人	その他	0 台	0 隻	0 機	103 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 情報収集及び現場確認						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 警戒筒先の配備				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法		そ の 他	
	使用停止	令和 4 年 3 月 24 日				年 月 日	定期・自主点検	年 月 日		年 月 日
	改善命令等	年 月 日				年 月 日	気密試験等	年 月 日		年 月 日
	停止解除	令和 4 年 4 月 13 日				年 月 日	保安検査	年 月 日		年 月 日
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：			
その他	年 月 日		年 月 日							
35	今後の対策 や所見 消防法第84号屋外貯蔵タンクの浮き屋根の安全対策について適合状況の協議依頼書に基づき仮補修を行います。									

1 事故名	原油タンク(#7)ポンツーン内部での滲み				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 1日 8時 25分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	4月 1日 8時 25分	
5 覚 知	4月 1日 8時 36分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 5日 18時 00分	
7 鎮火・処理完了	4月 5日 18時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気： 風向： 北西 風速： 4.9m/s 気温： 4℃ 湿度：				
10 発 生 事 業 所	種 別： ①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				11 発 生 場 所
					区 分： ①. 事業所内 (製、 <input checked="" type="checkbox"/> 貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京葉臨海中部地区
					16 発生施設規制区分等
					施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 97,417,000L 487,085倍
12 施 設 装 置					倍数の合計： 487,085倍
名 称： 浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)					設置の完成： 昭和 42年 10月 4日 直近の完成： 令和 3年 10月 12日
能 力： 許可容量 97,417.0KL					
13 機 器 等	温 度 圧 力：				
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)					
規 模： 内径 81.600m 高さ 21.880m					
14 発 生 箇 所					17 物 質 の 区 分
名 称： ポンツーン 番 号 (104)					①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス
材 質： 鋼鉄					5. 毒物 6. 劇物 7. その他
15 発 生 時					(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： 原油
運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号 (7)					
作 業 状 況： 番 号 ()					18 取 扱 者 の 概 要
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 2022年4月1日(金)8時25分頃、前日発生した千葉県北西部地震後のタンク健全性確認のため、危険物屋外貯蔵設備(フローティングルーフタンク)の点検をしていた操油課2係員が、原油タンク(#7)のポンツーン内部(No. 12、16)に油の滲みを目視にて確認し、直ちに上長報告を行った。その後、安全確保及び仮補修のため、当該タンクの内容物(原油)を他タンクへの移送を実施、ルーフ着底後、窒素導入により油面とタンク天板の間の空隙を窒素置換した。4月2日(土)に仮補修を実施し、翌4月3日(日)にルーフを浮上させ、全ポンツーン(50箇所)の点検をしたところ、No. 1ポンツーンにて新たな滲みを確認(ガス検はHC=0ppm)。直ちに上長報告を行い、再度内容物(原油)の移送を実施、窒素導入により油面とタンク天板の間の空隙を窒素置換した。4月5日(火)に仮補修を実施。4月8日(金)に再度ルーフを浮上させ、全ポンツーン(50箇所)の点検の結果、問題ないことを確認した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送					

25		主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
原 因	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 油を認めた箇所は、ボンツーン下板を補強するための補強リング(L型鋼)の取付溶接部の周辺であった。当該タンクは、2009年の浮き屋根改修工事を行った後、2017年の定期開放検査の際に補強リング(L型鋼)の取付溶接部においてボンツーンの下板の割れ及び溶接線下の母材の溶け落ちを確認していた。 タック溶接(ショートピート)部は、受払による液面変動や地震によるスロッシング等の外部応力が加わると応力集中しやすい箇所であり、下板に過剰な入熱を与えたことにより溶接欠陥が生じたところに、2009年完成検査以降の受払時の液面変動や2011年の東日本大震災を含む地震によるスロッシング等の外部応力が加わったことにより、ボンツーン下板に割れが生じ、その後、時間経過とともに進展し母材を貫通したと推定する。 また、当該タンクの補強リング(L型鋼)取付溶接部については、図面では片側隅肉溶接(タック溶接)であるところが、実際には、両側隅肉溶接になっていることを確認しており、より下板に過剰な入熱が加わりやすい条件になっていたと推定する。												
	主要原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	施工不良			施工			溶接不良						
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害							28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：					
区分								影響なし					
当 事 者		0	0	0	0								
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況：					
第 三 者		0	0	0	0			ボンツーン3か所					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況：			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台	0 隻	0 機	4 人	原油			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	1 台	0 隻	0 機	2 人				
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	59 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (125 万円)			
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (99)							
警戒活動						警戒活動							
31 防災活動上の問題点													
32	施設名					33 定期点検等				消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日			定期・自主点検				年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日			気密試験等				年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日			保 安 検 査				年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る				有・ <u>無</u>			
措 置	そ の 他	年 月 日	年 月 日			法令違反の有無				内容：			
35	今後の対策や所見	2022年度にタンク開放を前倒しし、ボンツーン補強リング(L型鋼)の取付溶接線の検査を行った上で、原因特定と恒久補修を行う。											

1 事故名	屋外タンク貯蔵所付帯設備のA重油ポンプの吐出側圧力計ネジ継手部からの重油漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 15日 4時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	4月 15日 4時 50分	
5 覚 知	4月 15日 6時 11分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 15日 7時 44分	
7 鎮火・処理完了	4月 15日 7時 44分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：東 風速：1.8m/s 気温：9℃ 湿度：89%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、 <input checked="" type="checkbox"/> その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区	
12 施 設 装 置	名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能 力：第4類第3石油類 65,200L		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 65,200L 32.6倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力：1.6Mpa 名 称：ポンプ 番 号 (501) 規 模：吐出量:5.1m ³ /h		倍数の合計：32.6倍		
14 発 生 箇 所	名 称：管継手(ダクトを含む) 番 号 (201) 材 質：ステンレス		設置の完成：令和元年 12月 12日 直近の完成：年 月 日		
15 発 生 時	運 転 状 況：試運転中 番 号 (14) 作 業 状 況： 番 号 ()		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：A重油(20L)	
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 試運転のため、4月14日21時57分にA重油ポンプを起動後、4月15日4時50分の現場確認の際に、A号機吐出配管圧力計ネジ継手部より重油が垂れており、漏油を確認。その後、圧力計元バルブ及びネジ継手の増し締めを行い、漏油を停止させた後、漏油状況の確認を実施。 漏油状況の確認の結果、発電所西側の油水分離槽の1層目にて油膜を確認したが、2～4層目に油膜は無く、海上への漏油もなし。漏油量は油水分離槽の容量等から20Lと推定される。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他					

25	主 原 因 施工不良	着火原因	番号 ()								
原因	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 漏えいが発生した継手部の台座が若干斜めに製作されていた。その結果、圧力計接続部が片締めとなり隙間が発生したことが推察される。据付直後の漏えいテストでは漏れは確認されていなかったものの、その後の試運転に於いて、ポンプ発停が通常よりも格段に多く繰り返され、緩みが増長され、最終的にA重油漏れに繋がったものと推定する。										
	主要原因の詳細										
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層							
	施工不良	施工	工事時の措置不良								
	関連原因の詳細										
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27	人的被害		28 物的被害								
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 屋外タンク貯蔵所の付帯設備であるA重油移送ポンプの吐出配管圧力計継手部からA重油20Lが流出し、大半がダイクに設置された油水分離槽にて回収されたが、一部、降雨の影響もあり、施設外の側溝に流出したが、最終の油水分離槽にて回収された			
	区分										
	当 事 者	0	0	0	0						
	防災活動従事者	0	0	0	0						
	第 三 者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 被害なし			
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 A重油 20L流出			
	消 防 機 関	9 台	0 隻	0 機	21 人	自 衛	0 台		0 隻	0 機	9 人
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台		0 隻	0 機	0 人
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台		0 隻	0 機	0 人
	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台		0 隻	0 機	0 人
30	実施した防災活動の状況										
	公設消防機関：番号 (4)						自衛防災・消防組織等 番号 (4)				
31	防災活動上の問題点										
行政措置	32	施設名					33	定期点検等	消 防 法	そ の 他	
		使用停止	年 月 日			年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
		改善命令等	年 月 日			年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
		停止解除	年 月 日			年 月 日	保 安 検 査	年 月 日	年 月 日		
		関係条項					34	当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無	
		そ の 他	年 月 日			年 月 日			内容：		
			1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35	今後の対策や所見 ・再発防止対策として漏えい箇所該当する計器を交換し、定期的に接手部の緩みがないことを確認する。										

1 事故名		屋外タンク貯蔵所(#1299)の溶接部からジイブチレン流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		4月 24日 17時 35分	推定・確定	4 発 見	4月 24日 17時 35分		
5 覚 知		4月 24日 18時 01分			4月 24日 22時 30分		
7 鎮火・処理完了		4月 24日 22時 30分			6 鎮 圧 応急処置完了		
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：雨		風向：北		風速：1.2m/s 気温：16℃ 湿度：93%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学 番 号 (1731) 工業製品製造業 石油化学系 基礎製品製造業(一貫して生産 される誘導品を含む)				区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ジイブチレン 498,000L 2,490倍			
12 施 設 装 置							
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)							
能 力：許可容量 498KL							
13 機 器 等				温度圧力：			
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)							
規 模：内径:9,600mm、高さ7,650mm							
14 発 生 箇 所				設置の完成：昭和40年 12月 27日 直近の完成：平成28年 8月 3日			
名 称：タンク側板 番 号 (101)				17 物 質 の 区 分			
材 質：鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ジイブチレン(6L)			
15 発 生 時				18 取扱者の概要			
運 転 状 況：貯蔵・保管中 番 号 (7)							
作 業 状 況： 番 号 ()							
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 2022年4月24日(日)17時35分頃、ガス検吹鳴の為、現場確認実施。 #1299タンク上部側板(約5.5m)より漏えいを発見。(タンク昇降階段ステップ下側) 他タンクへ移送後、側板からの漏えい停止。 接着剤にて仮補修を実施。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送							

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()										
	関 連 原 因 施工不良、維持管理不十分														
	発生原因の状況： 外面に形成した錆こぶから油が漏れいしていることを確認した。 調査した結果は、前回塗装時に錆こぶが除去されない状態で塗装されたため、通気差腐食による酸素濃淡電池が形成された。錆こぶの健全な鉄材が酸素供給不十分のため、アノードとなり、錆こぶ外面がカソードとなることで錆こぶ内部の鉄材が局部腐食した。 また関連原因としては、 ①工事施工管理不十分：錆こぶは、前回再塗装時(2000年)には発生しており、当該箇所の塗装下地処理として実施したサンドブラスト処理が不十分であった。 ②検査未実施：前回再塗装時(2000年)は側板最下段のみ外面目視検査記録が残っており、2段目以降は目視検査が行われていなかった。目視検査を行ってれば、外面腐食を検出し、適切な補修を行うことでタンクの健全性を確保できていたと考えられる。														
	主要原因の詳細														
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層								
	腐食		環境		濃淡電池腐食（通気差電池腐食、すき間腐食等）										
	関連原因の詳細														
	設備		監理・保守		点検・整備		点検内容が不適切								
	施工不良		施工		その他										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から															
27 人的被害						28 物的被害									
被害内容等		死亡		重症		中等症		軽症		死傷原因		職業又は職名		被災影響範囲及び拡大の状況：	
区分														流出なし。	
当 事 者		0		0		0		0							
防災活動従事者		0		0		0		0						施設等の被害状況：	
第 三 者		0		0		0		0						側板4段目(昇降階段ステップの下側)	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況															
消 防 機 関		6 台 0 隻 0 機 22 人		自 衛		2 台 0 隻 0 機 8 人		物質の被害状況：							
消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人		共 同		1 台 0 隻 0 機 1 人		防油提内にとどまり、流出無し。							
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人		応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人									
その他の機関		0 台 0 隻 0 機 0 人		その他		1 台 0 隻 0 機 2 人		損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (2,557 万円)							
30 実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (99)									
情報収集及び現場確認						警戒活動									
31 防災活動上の問題点															
行政措置	32 施設名		屋外タンク貯蔵所				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他				
	使用停止		年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日		年 月 日				
	改善命令等		令和 4 年 4 月 27 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日				
	停止解除		年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日				
	関係条項						34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <u>無</u>						
その他		年 月 日		年 月 日		内容：									
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭													
35 今後の対策や所見		①工事施工管理方法の変更及び協力会社への事例紹介 ②側板の詳細点検に係るガイドラインの順守 ③点検方法の見直し及び水平展開の実施													

1 事故名	重油タンク(#803)出荷/移送ポンプ吸込弁内圧上昇防止ノズルからのC重油漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 11日 20時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	5月 11日 20時 00分	
5 覚 知	5月 11日 20時 32分		6 鎮 圧 応急処置完了	5月 11日 20時 15分	
7 鎮火・処理完了	5月 11日 20時 50分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南東 風速：1.8m/s 気温：18℃ 湿度：				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				11 発 生 場 所
					区 分：①. 事業所内 (製、 <input checked="" type="checkbox"/> 貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区
					16 発生施設規制区分等
					施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 16,385,000L 8,192.5倍
12 施 設 装 置					設置の完成：昭和46年 6月 21日 直近の完成：令和2年 2月 5日
名 称：その他【分類なし】	番 号 (9999)				17 物 質 の 区 分
能 力：					
13 機 器 等	温 度 圧 力：70℃、0.08Mpa				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分 類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油
名 称：その他	番 号 (999)				
規 模：内圧上昇防止ノズル(1/2B) サイズ(外径):21.7mm 元厚3.7mm					18 取扱者の概要
14 発 生 箇 所	倍数の合計：8,192.5倍				①. 選任有 2. 選任無 3. 不要
名 称：その他の附属配管等	番 号 (299)				
材 質：鋼鉄					21 危険物取扱者の の取扱・立会い
15 発 生 時					①. 有 2. 無
運 転 状 況：停止中	番 号 (5)				
作 業 状 況：	番 号 ()				
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 5月11日(水)20時00分頃、No.12ポンプハウス(12PH)のパトロール中に、タンク出荷・移送ポンプ(PXP-704)上流の吸込弁(P704-09弁)に設置されている吸込弁内圧上昇防止ノズル(1/2B)保温部よりC重油が漏えいした痕を操油2係員が発見した。保温を解体し、漏えい箇所を確認したところ、配管より微量の漏えいが継続していることを確認した。直ちに上長に報告を行い、安全確保のため、漏えい部にバンド巻きを実施し、21時50分頃、漏えい停止を確認した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

25	主 原 因 調査中	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 調査中									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害			28 物的被害							
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 他に影響なし			
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 吸込弁内圧上昇防止ノズルの開孔			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 重油			
消 防 機 関	9 台	0 隻	0 機	26 人	自 衛	1 台		0 隻	0 機	8 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台		0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	1 台		0 隻	0 機	7 人
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台		0 隻	0 機	89 人
30 実施した防災活動の状況							損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (万円)			
公設消防機関：番号 (99) 情報収集					自衛防災・消防組織等 番号 (99) 警戒筒先					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/> 内容：				
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日							
35 今後の対策 や所見		調査中								

1 事故名	屋外タンク貯蔵所(T-105)ジェット燃料脱水循環作業用配管ドレン弁よりジェット燃料の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 2日 7時 50分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	6月 2日 7時 50分	
5 覚 知	6月 2日 8時 24分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 2日 11時 22分	
7 鎮火・処理完了	6月 2日 11時 22分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南西 風速：3m/s 気温：24℃ 湿度：65%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： ①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (<input checked="" type="checkbox"/> 製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) ジェット燃料(非) 51,417L 51.42倍				
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分				
名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
能 力：直径:67.370m高さ:18.290m	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：ジェット燃料(非) (17,000L)				
13 機 器 等 温度圧力：	18 取扱者の概要 経験年数4年				
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有				
規 模：51,417.0KL	3. 不要 ②. 無				
14 発 生 箇 所	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
名 称：ベント管、ブロー管、放出管 番 号 (303)	23 事 故 の 概 要： 6月2日7時17分、T104タンクヤード内の油漏えい検知アラームが発報となったため、操油グループ運転員が現場確認を実施した。操油グループ運転員は当初油漏えい検知器の誤作動と考え、油漏えい検知器の誤作動の要因となる検知柵内の土砂の除去作業を実施していたが、アラーム発報が解除されないことに疑問を持ち周囲の確認を実施したところ、7時50分頃にT104のピットから油水がオーバーフローしていることを発見した。直ちに計器室に連絡を行い、8時00分に副班長、操油GMが漏えいを覚知した。8時05分にT105ジェット燃料脱水循環作業用配管ドレン弁から油が漏えいしていることを発見し、直ちにバルブの閉止を行った。その後速やかに所内非常体制を発令し、8時24分に消防機関通報した。				
材 質：鋼鉄	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (8) 無 防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等				
15 発 生 時					
運 転 状 況：貯蔵・保管中 番 号 (7)					
作 業 状 況：監視中 番 号 (10)					

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 運転員は、タンク元弁開放作業前に本来閉止すべき脱水循環作業用配管ドレン弁の閉止を行わなかったため、ドレン弁から油が流出した。作業手順では、ドレン弁の閉止確認を行った後、タンク元弁の開放作業をすることになっているが、運転員(手順書は現場に持参していた)は、ドレン弁閉止確認はしていなかったことから手順書不履行が今回の発災要因と推定される。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		違反(故意)		怠慢			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： T-104へ油が流れ広範囲に流出した		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： T-104の犬走が油がしみ込んだ		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	8 台	0 隻	0 機	25 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	12 人	物質の被害状況： ジェット燃料漏えい量：17KL
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	4 台	0 隻	0 機	14 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 () 火災発生に備え現場待機					自衛防災・消防組織等 番号 () 公設消防隊： 消防車現場待機 自衛消防： 大型化学消防車1台より警戒体制:漏えい箇所へ散水・発砲準備/手広め2線					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無				
そ の 他	年	月	日	年	月	日	内容：			
35 今後の対策 や所見	手順書不履行が発生したことに對して、安全対策ミーティングを実施し、手順を順守することに対する周知・確認を実施した。									

1 事故名		浮き屋根式屋外タンク貯蔵所(T-113)のデッキ板上に原油が漏えいした事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定			4 発 見		9月 24日 6時 53分				
5 覚 知		9月 24日 7時 20分			6 鎮 圧 応急処置完了		9月 29日 10時 15分				
7 鎮火・処理完了		9月 29日 11時 20分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：雨		風向：東南東		風速：3m/s	気温：24℃	湿度：98%			
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所							
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区							
12 施 設 装 置				16 発生施設規制区分等							
名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202) 能 力：第4類第1石油類 廃油(79,413KL)				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 79,413,000L 397,065倍							
13 機 器 等				温度圧力：							
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模：内径75,560mm				倍数の合計： 397,065倍							
14 発 生 箇 所				設置の完成：昭和49年12月19日 直近の完成：令和3年12月24日							
名 称：タンク屋根板 番 号 (103) 材 質：鋼鉄				17 物 質 の 区 分							
15 発 生 時				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：原油(4,000L)							
運 転 状 況：受入中 番 号 (9) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)				18 取扱者の概要							
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： 原油揚荷後の現場点検において、タンクルーフ上に原油の漏えいを確認した。その後、タンクルーフ上の原油及び雨水を仮設接続の上オイリー系へ回収を開始。翌日25日にルーフ上の混油排水の回収を完了し、タンク内の在庫低下作業を開始した。											
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送											

原因	25 主 原 因 維持管理不十分		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： ・原油をタンカーよりタンクへ揚荷する際、ルーフ上へ原油噴き上げが発生して、ルーフドレンを経由し、原油が雨水排水へ混入することを防止するために、原油揚荷時は、天候によらずに常にルーフドレンバルブを閉止する運用としていた。弊社グループ会社の全製油所にルーフドレンバルブの運用要領についてヒアリングしたところ、他製油所はいずれも揚荷時もルーフドレンバルブを開とする運用要領を定めていた。 ・9月23日の揚荷開始前も上記の運用要領に従って、ルーフドレンバルブを閉止している。当時の天候は継続して雨天であり、揚荷開始前のルーフドレンバルブ閉止以降、ルーフ上への降雨は排出されることなくルーフ上に継続して滞水し、その結果ルーフのデッキ板に大きな撓みが発生させ、撓み量から推定されるタンク内原油の油面高さが非常用排水装置の開口部より高くなる状態となっていたと考えられる。通常は、非常用排水装置内部の封水によりタンク内原油が非常用排水装置内部を逆流してルーフのデッキ上に漏えいすることはないが、原油漏えいの痕跡が認められた非常用排水装置については、内部の封水の大部分が原油に置換され、封水機能が失われていたと推察している。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	制度		規則・手順		内容・周知		規則・手順の内容が不適切			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： デッキ板上に原油が漏えい		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 設備に被害なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	8 台	0 隻	0 機	40 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	40 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類 原油 約4,000L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	4 台	0 隻	0 機	14 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (68 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 状況確認・情報収集・安全管理						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 警戒筒先				
31 防災活動上の問題点 ホットライン通報										
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法		そ の 他	
	使用停止	令和 4 年 9 月 24 日					年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日					定期・自主点検	年 月 日	年 月 日	年 月 日
	停止解除	令和 4 年 10 月 11 日					気密試験等	年 月 日	年 月 日	年 月 日
	関係条項	法第12条の3第1項				保安検査	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
その他	年 月 日				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
35 今後の対策 や所見	今後は、事故発生時のように降雨が長時間継続した場合にも、ルーフ上に雨水が滞留することがないよう、タンカーからの揚荷時にルーフドレンバルブを閉止する運用を取りやめ、ルーフドレンバルブは大規模地震等の緊急時を除き常時開放とする運用に変更する									

1 事故名	屋外タンク附属配管の外表面腐食によりナフサの流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 14日 6時 30分	推定・ 確定	4 発 見	10月 14日 6時 30分	
5 覚 知	10月 14日 6時 40分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 14日 11時 50分	
7 鎮火・処理完了	10月 14日 11時 50分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北 風速：3.5m/s 気温：18℃ 湿度：68%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、 貯 、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ(非) 1,176L 5.88倍	
13 機 器 等	温度 圧力：	名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		設置の完成：昭和 43年 12月 1日 直近の完成：平成 27年 10月 20日	
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)		17 物 質 の 区 分		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス
15 発 生 時	材 質：鋼鉄		5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ナフサ(非) (50L)		倍数の合計： 5.88倍
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	18 取扱者の概要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い
22 設備・機器等の概要：	オンラインファイル無				
23 事故の概要：	協会社員がT-533近傍の工事関連でガス検知に行った際、異臭に気づいたため、操油グループへ連絡。操油グループ員が周囲を確認したところT-533附属配管ポンプリターン配管から漏えいを発見したものを。				
24 緊急処置の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他				

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： ・T-533は休止に伴い縁切り(仕切り板挿入)がなされていたが、当該漏えい配管が液封となることを避けるため、別タンク(T-908)で圧抜きできるようラインアップされていた。そのためガソリンブレンド運転時はポンプ吐出圧力がかかる運用となっていた。 ・調査の結果、劣化した防食テープ下で配管母材部に外面腐食が認められ開孔に至っていた。経年劣化により防食テープの環境遮断性能が低下し、配管母材表面に雨水等の水分が滞留したためと推定する。 ・漏えいが発生した箇所は、2020年に実施した外観点検で防食テープの膨れが認められており、防食テープ下腐食が懸念されていた。しかし詳細検査は、塩害を受けるエリアを優先して実施していた為、当該箇所の詳細検査は未実施であった。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境(保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇)					
	腐食		防食		防食塗装・被覆剥離(経年による剥離)					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： タンクヤード内にナフサが漏えいした		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管の開孔		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	12 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： ナフサ漏えい量:50L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	4 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 情報収集					自衛防災・消防組織等 番号 (99) 警戒筒先の配備					
31 防災活動上の問題点										
32 施設名	使用停止		年 月 日		年 月 日		33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等		年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日	年 月 日
	停止解除		年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日
	関係条項						保 安 検 査		年 月 日	年 月 日
	その他		年 月 日		年 月 日		34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容：	
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭								
35 今後の対策や所見 ・配管の取替実施。 ・防食テープ下腐食の検査プログラムを見直し、外観状況に応じた優先度順位にて詳細検査を実施するように変更。										

1 事故名	#63タンク附属配管が外面腐食による灯油の流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 7日 15時 40分	推定・確定	4 発 見	11月 7日 15時 40分	
5 覚 知	11月 7日 16時 12分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 7日 15時 45分	
7 鎮火・処理完了	11月 8日 23時 00分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南南東 風速：2m/s 気温：16℃ 湿度：				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,999,000L 9,999倍 倍数の合計： 9,999倍 設置の完成：昭和41年 9月 9日 直近の完成：令和4年 7月 25日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能 力：9,999KL			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(1L)		
13 機 器 等 温度圧力：0.9Mpa 名 称：その他 番 号 (999) 規 模：配管サイズ：16B			18 取扱者の概要		
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質：鋼鉄	20 危 険 物 保 安 監 督 者	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無	
15 発 生 時	運 転 状 況：停止中 番 号 (5) 作 業 状 況： 番 号 ()	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 11月7日(月)15時40分頃、パトロール中の操油課員が2号道路と11号道路の交差点付近にて新第1充填場(新1PK)行き#63タンク附属配管(灯油出荷配管) 架台接触部より油の滲み跡を発見。直ちに上長へ報告、当該配管をブロック。16時12分、消防機関へ電話連絡した。その後、当該配管の滞油除去を行い11月9日10時08分頃、漏えい部にバンド巻きを行うことで措置を完了した。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 配管吊り上げ後の目視検査結果より、当該灯油配管の架台接触部で雨水による外面腐食が進行し開孔・漏えいに至ったものと推定する										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 影響なし			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 雨水による外面腐食が進行し開孔			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	3台	0隻	0機	7人	自 衛	1台	0隻	0機	4人	物質の被害状況： 灯油1L	
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人		
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人		
その他の機関	5台	0隻	0機	6人	その他	0台	0隻	0機	54人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (160 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
情報収集											
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日	定期・自主点検	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				年 月 日	気密試験等	年 月 日			
	停止解除	年 月 日				年 月 日	保安検査	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
そ の 他	年 月 日				年 月 日						
35 今後の対策 や所見											
検討中											

1 事故名		屋外タンク附属配管から外面腐食によるC重油流出事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		12月 29日 7時 35分	推定・確定	4 発 見		12月 29日 7時 45分					
5 覚 知		12月 29日 7時 56分	6 鎮 圧 応急処置完了		12月 29日 13時 45分						
7 鎮火・処理完了		12月 29日 13時 45分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：南南西		風速：1m/s	気温：4℃	湿度：71%			
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所							
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区							
				16 発生施設規制区分等							
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 9,085,000L 4,542.5倍							
12 施 設 装 置											
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)											
能 力：第4類第3石油類 重油 9,085KL											
13 機 器 等				温度 圧力：							
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)											
規 模：2B											
14 発 生 箇 所				設置の完成：昭和 43年 6月 26日 直近の完成：令和 2年 3月 16日							
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)				17 物 質 の 区 分							
材 質：鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(690L)							
15 発 生 時				18 取 扱 者 の 概 要							
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)											
作 業 状 況： 番 号 ()											
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		1. 有 ②. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： 操油グループ員が点検時にC重油の漏えいを発見し、直ちに班長へ連絡した。その後、班長がP457Aリターン配管からの漏えいを覚知。 速やかに漏えい配管の縁切り(バルブ閉止)配管のスチームトレース(加温)の停止を行った。											
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他											

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関連原因							
	発生原因の状況： 当該配管は、保温が施工されており、保温内部で配管外面腐食が発生していたことから、保安材下腐食の発生及び減肉の進展により、穿孔に至ったと推定。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害				28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内に漏えい。漏えい範囲は、23m×3m×1cm
区分								
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管の穿孔
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	4 台 0 隻 0 機 12 人	自 衛	2 台 0 隻 0 機 12 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類 重油 約690L				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	4 台 0 隻 0 機 16 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	1 台 0 隻 0 機 2 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (3 万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 情報収集				自衛防災・消防組織等 番号 (5) 警戒筒先の配備				
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日						
35	今後の対策 や所見 検討中							

1 事故名	屋外タンク貯蔵所において、受入配管から重油若干が地面に流出した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 25日 13時 30分	推定・確定	4 発 見	4月 25日 13時 30分	
5 覚 知	4月 25日 14時 15分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 25日 13時 30分	
7 鎮火・処理完了	4月 25日 13時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南南東 風速：3.1m/s 気温：-20.1℃ 湿度：				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能 力：屋外タンク貯蔵所80,000L×1		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 80,000L 40倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：100A		倍数の合計： 40倍 設置の完成：昭和52年 7月 20日 直近の完成：平成31年 1月 23日		
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質：鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(0.1L)	
15 発 生 時	運 転 状 況：停止中 番 号 (5) 作 業 状 況：定期修理中 番 号 (2)		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 従業員が日常点検中に屋外タンク貯蔵所の受入配管から重油がにじみ出て、地面に垂れているのを発見した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 受入配管のエルボ部分の腐食が進行し、孔が開き重油が流出したもの。塩害及び経年劣化によるものと推定される。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		塩分の影響					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設敷地内において、防油堤外の屋外部分に重油が流出したもの		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	1 人	物質の被害状況： 重油若干
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (850 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5)			安全弁の停止、油の除去		
31 防災活動上の問題点										
32 施設名										
行政措置	使用停止	年 月 日		年 月 日		33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日	
	関係条項					保 安 検 査		年 月 日	年 月 日	
その他	年 月 日		年 月 日		34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
35 今後の対策や所見		流出箇所の配管と同等の配管について取替を行う。また、同一敷地内にある他の屋外タンク貯蔵所、一般取扱所及び屋内タンク貯蔵所の危険物配管についても塩害や経年劣化による腐食が認められる場合は、配管の取替及び補修を順次行う予定である。本件は、危険物配管に生じた孔からの流出事故であるが、従業員が日常点検中に流出を発見し被害拡大を防いだものである。同一敷地内の他施設も設置から30～60年経過しているものがあるため、同様の事故の危険性があることから、日常的な点検、維持管理が重要である。								

1 事故名		屋外タンク貯蔵所において、配管から重油若干が地面に流出したもの					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		10月 28日 15時 40分	
5 覚 知		10月 28日 16時 22分		6 鎮 圧 応急処置完了		10月 28日 16時 00分	
7 鎮火・処理完了		10月 28日 16時 00分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：曇		風向：東北東		風速：4.2m/s 気温：26.8℃ 湿度：	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 499,000L 249.5倍			
12 施 設 装 置							
名 称： 固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)							
能 力： 重油499,000L							
13 機 器 等				温度圧力：			
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)							
規 模： SCH40							
14 発 生 箇 所				設置の完成： 昭和 50年 6月 19日 直近の完成： 令和 2年 2月 16日			
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)				17 物 質 の 区 分			
材 質： 鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(0.1L)			
15 発 生 時				18 取 扱 者 の 概 要			
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)							
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)							
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 屋外タンク貯蔵所において、送油配管から重油若干が地面に流出したもの。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()				
	関連原因								
	発生原因の状況： 経年により、配管が劣化し亀裂が入ったもの。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）				
	関連原因の詳細								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害				28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 地面に重油若干が流出	
区分									
当 事 者		0	0	0	0				
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管の腐食	
第 三 者		0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	0 台 0 隻 0 機 0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 1 人	物質の被害状況： 重油若干					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人						
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人						
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (5 万円)					
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 (99) バルブの閉鎖				
31 防災活動上の問題点									
行政措置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和4年3月2日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日							
35	今後の対策 や所見	配管亀裂からの流出であったが、従業員が日常点検中に流出を早期に発見し流出拡大をふせいだものである。							

1 事故名		屋外タンク貯蔵所において配管が腐食したため重油が漏えいし海上に流出したもの			
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()			
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	1月 21日 8時 15分	
5 覚 知		1月 21日 8時 22分	6 鎮 圧 応急処置完了	1月 21日 8時 39分	
7 鎮火・処理完了		2月 14日 9時 10分			
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()			
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：北北東 風速：3.2m/s 気温：3℃ 湿度：41%			
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所			
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、 <u>他</u>) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：根岸臨海地区			
		16 発生施設規制区分等			
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 27,195,000L 13,597.5倍			
12 施 設 装 置					
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)					
能 力：貯蔵量 27,195,000L					
13 機 器 等		温度圧力：70℃、0.49Mpa			
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)					
規 模：12インチ		倍数の合計： 13,597.5倍			
14 発 生 箇 所		設置の完成：昭和39年 8月 11日 直近の完成：令和元年 5月 15日			
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)		17 物 質 の 区 分			
材 質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、常温 [0-40℃]、 <u>高温</u>) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：C重油(600L)			
15 発 生 時		18 取扱者の概要			
運 転 状 況：停止中 番 号 (5)					
作 業 状 況： 番 号 ()					
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い
		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 協会社社員が、船舶着棧予定の棧橋の周囲状況を確認しに行ったところ、海上に油膜が浮いているのを発見。直ちに製油所職員へ連絡し現地確認を実施。現地確認を行った結果、棧橋付近に敷設されている特定屋外タンクに附属する返油管から油が漏えいしているのを確認。直ちに当直へ連絡し、当直から公設消防へ通報した。配管の下はピット状になっており、内部に油が滞留していたため流出防止対策としてピット内に土嚢を積載、配管に附属するバルブの閉止作業を実施。バルブ閉止後には、配管内の滞油抜き作業をバキュームローリーにて実施。公設消防到着後、現場調査活動を実施するとともに海上へ流出した油の拡散作業を海上保安部及び協会社と連携し実施した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関連原因							
	発生原因の状況： 当該漏えい配管は、棧橋に設置された移送取扱所から特定屋外タンク貯蔵所へ移送するための返油配管です。配管の周りには保温材が被覆されており、一部露出部分に対し水分侵入防止のため防食テープを巻いている。なお、防食テープの交換についてのルールは特段設けておらず、目視点検により劣化していると点検者が判断したら行うこととなっている。当該配管に巻かれた防食テープは端部のほつれがあり、そこから水分が侵入したことにより配管が外面腐食を形成。穿孔し漏えいしたものと推定する。 施設内の防潮堤は、施設建設当初から使用しているものであり目地の部分が劣化により油の浸透がしやすくなっていた。それにより漏えいした油が浸透し、潮の流れに乗り海上へ流出したと想定する。							
	主要原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害				28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	
区分								
当 事 者		0	0	0	0			
防災活動従事者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						被災影響範囲及び拡大の状況： 特定屋外タンク附属配管下に6.6㎡範囲で流出し、岸壁からの滲み出により、350㎡油膜が広がった。		
消 防 機 関	7 台 0 隻 0 機	29 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機	100 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類非水溶性 C重油 600L漏えい		
消 防 団	0 台 0 隻 0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機	0 人			
海上保安部	4 台 0 隻 0 機	20 人	応 援	0 台 0 隻 0 機	0 人			
その他の機関	5 台 0 隻 0 機	8 人	その他	0 台 0 隻 0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (2,000 万円)		
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 調査活動				自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収、除去、拡散活動				
31 防災活動上の問題点								
32 行政措置	施設名			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 3 年 3 月 8 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	平成 30 年 6 月 18 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：		
その他	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策 や所見		再発防止策として、漏えい配管の部分取替の実施。今までは目視点検により損傷状況を確認した結果から放射線透過試験の実施場所を決めていたが、今後は4年周期での定期点検項目として放射線透過試験を実施するよう検査要領を変更する。 所見としては、配管部分にあっては目視点検の際に、塩害や水害の受けやすい露出部の配管に対し危険度を上げて点検していれば防げたものではないかと考える。						

1 事故名	屋外タンク貯蔵所に接続されているベントガス回収配管からのベンゼンの流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 26日 12時 15分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	1月 26日 12時 15分	
5 覚 知	1月 26日 12時 32分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 26日 13時 15分	
7 鎮火・処理完了	1月 26日 13時 15分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北西 風速：2.1m/s 気温：6.6℃ 湿度：65%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学 番 号 (1731) 工業製品製造業 石油化学系 基礎製品製造業(一貫して生産 される誘導品を含む)				11 発 生 場 所
					区 分：①. 事業所内 (製、 <input checked="" type="checkbox"/> 貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区
12 施 設 装 置	名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能 力：容量871KL				16 発生施設規制区分等
					施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ベンゼン 871,000L 4,355倍 倍数の合計： 4,355倍
13 機 器 等	温 度 圧 力：				
	名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：6インチ				
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質：鋼鉄				設置の完成：昭和39年 3月 23日 直近の完成：平成30年 1月 26日
15 発 生 時	運 転 状 況：貯蔵・保管中 番 号 (7) 作 業 状 況： 番 号 ()				17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ベンゼン(7.3L)
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 協力会社社員が作業のため、タンク防油堤内に入ったところ、屋外タンク貯蔵所に接続されているベントガス回収配管から、ベンゼンがつらら状に析出しているのを発見し通報したもの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 配管と梁の隙間が湿潤環境であったため、配管母材部の外面腐食により、開口したものの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内にベンゼン流出		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管開口		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	6 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ベンゼン約7.3L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 (99)					
・検知活動 ・情報収集					・検知活動					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和3年7月29日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無				
その他	年 月 日	年 月 日		内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反						
35 今後の対策 や所見		発災配管は危険物配管に該当しないが、気温が低いと配管底部に液状となったベンゼンが滞留する可能性があるため、危険物配管と同様に目視点検を実施するよう指導した。								

1 事故名		屋外タンク貯蔵所附属配管フランジ部からの危険物の流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		1月 31日 12時 07分	推定・確定	4 発 見		1月 31日 12時 28分	
5 覚 知		1月 31日 13時 28分	6 鎮 圧 応急処置完了		1月 31日 14時 07分		
7 鎮火・処理完了		1月 31日 14時 07分					
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：北北西 風速：3.1m/s 気温：9.1℃ 湿度：23%					
10 発 生 事 業 所			11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学 番号 (1732) 工業製品製造業 脂肪族系中 間物製造業(脂肪族系溶剤を含 む)			区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区				
			16 発生施設規制区分等				
			施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(水溶性液体) N-ビニルピロリドン 34,000L 8.5倍				
12 施 設 装 置							
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201)							
能 力：容量34KL							
13 機 器 等			温度圧力：30℃、0.3Mpa				
名 称：ポンプ 番号 (501)							
規 模：容量20m ³ /h、動力5.1KW			倍数の合計：8.5倍				
14 発 生 箇 所			設置の完成：平成 2年 4月 27日 直近の完成：平成 24年 9月 28日				
名 称：その他 番号 (999)			17 物 質 の 区 分				
材 質：ステンレス			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(水溶性液体) 名称：N-ビニルピロリドン(870L)				
15 発 生 時			18 取 扱 者 の 概 要				
運 転 状 況：移送中 番号 (18)							
作 業 状 況： 番号 ()							
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	
					1. 有 ②. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 屋外タンクから製造装置へN-ビニルピロリドンを送液中、計器室のトレンドデータで当該タンクの液面が著しく低下していたため、確認へ向かったところ、ポンプ吐出側の保温配管の板金の隙間からN-ビニルピロリドンが流出しているのを発見した。 ポンプを緊急停止するとともに、ポンプ前後のバルブをブロックした後、保温材をはがしたところ、配管から枝出し接続している圧力計のフランジ部から流出しているのを確認した。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他							

原因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： ポンプの吐出側に設置されている圧力計のゼロ点調整終了後、フランジ部を締結し、運転を再開したが、フランジ部にN-ビニルピロリドンが凍結していた状態で締結したため、外気温の上昇により、凍結していたN-ビニルピロリドンが融解し、フランジ部が緩み流出に至ったもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	施工不良		施工		ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内にN-ビニルピロリドン流出		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	10 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(水溶性)N-ビニルピロリドン約870L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
・情報収集										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和4年 1月 30日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・無 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反		
その他	年	月	日	年	月	日				
35 今後の対策や所見 ・フランジ締付け時にはフランジ面に異物の付着がないことを確認することとした。 ・照度のない場所での作業には、ヘッドライト等を使用し、作業に必要な照度を確保することとした。										

1 事故名		屋外タンク貯蔵所側板からの溶融硫黄の流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		2月 21日 11時 00分	推定・確定	4 発 見		2月 21日 11時 00分	
5 覚 知		2月 21日 11時 33分	6 鎮 圧 応急処置完了		2月 21日 12時 13分		
7 鎮火・処理完了		2月 21日 12時 13分					
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：北北西 風速：2.8m/s 気温：7℃ 湿度：20%					
10 発 生 事 業 所			11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業			区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区				
			16 発生施設規制区分等				
			施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第2類硫黄 溶融硫黄 5,368,460kg 53,684.6倍				
12 施 設 装 置							
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)							
能 力：容量3,000KL							
13 機 器 等			温度圧力：150℃				
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)							
規 模：直径17,400mm、高さ13,700mm							
14 発 生 箇 所			設置の完成：平成 9年 4月 9日 直近の完成：平成 15年 12月 22日				
名 称：タンク側板 番 号 (101)			17 物 質 の 区 分				
材 質：鋼鉄			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第2類硫黄 名称：溶融硫黄(400kg)				
15 発 生 時			18 取扱者の概要				
運 転 状 況：受入中 番 号 (9)							
作 業 状 況： 番 号 ()							
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	
					①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 硫黄回収装置から屋外タンクに溶融硫黄を受入中、屋外タンクの側板(保温材有)から溶融硫黄が流出しているのを巡回中の職員が発見し通報した。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送							

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 約120℃の加温タンクの側板と保温材の間に雨水が入り込み、高温湿潤環境となり、外面腐食が進行し開口に至った。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		高温多湿環境（温泉の湯気の影響、周囲が高温多湿環境）					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内に熔融硫黄流出		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： タンク側板開口		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	10 人	物質の被害状況： 第2類 熔融硫黄400kg流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円										
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) ・情報収集						自衛防災・消防組織等 番号 (5、4) ・検知活動				
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名					33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和3年10月29日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		<input type="checkbox"/> 有・無		
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反					
35 今後の対策 や所見	雨水がタンク側板と保温材の間に入りづらい構造に変え、他のタンクにも水平展開をする。									

1 事故名	屋外タンク貯蔵所における、附属配管からの廃油流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 26日 10時 25分	推定・確定	4 発 見	4月 26日 10時 25分	
5 覚 知	4月 26日 10時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 26日 11時 37分	
7 鎮火・処理完了	4月 26日 11時 37分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南南西 風速：4.5m/s 気温：22℃ 湿度：87%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区	
16 発生施設規制区分等			施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 廃油 995,000L 4,975倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 2,000L 2倍		
12 施 設 装 置	名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能 力：容量 995KL				
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模：直径13,500mm、高さ8,370mm				
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質：鋼鉄				
15 発 生 時	運 転 状 況：受入中 番 号 (9) 作 業 状 況： 番 号 ()				
17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：廃油(150L)				
18 取扱者の概要	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
19 危険物保安統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要	オンラインファイル無				
23 事故の概要	作業員が配管の外観点検をしていたところ、製造所からの廃油を回収する配管から廃油が流出しているのを発見した。				
24 緊急処置の状況	有 番号 (10) 無 その他				

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 日常的に油の流れがない部分で、配管母材部の内面腐食により開口し流出したもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		バクテリア腐食					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内に廃油流出		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管開口		
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	20 人	自 衛	3 台	0 隻	0 機	16 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)廃油約150L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	1 台	0 隻	0 機	1 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)				
・情報収集 ・検知活動						・検知活動 ・流出した廃油の回収				
31 防災活動上の問題点										
32 施設名 屋外タンク貯蔵所(#1001)										
政 行 措 置	使用停止	令和4年4月27日	年	月	日	33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	改善命令等	年 月 日	年	月	日	定期・自主点検		令和3年11月4日	年 月 日	
	停止解除	令和4年5月13日	年	月	日	気密試験等		年 月 日	年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項				保安検査		年 月 日	年 月 日	
その他	年 月 日	年 月 日	34 当該施設に係る 法令違反の有無		<input checked="" type="checkbox"/> ・無 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反					
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策や所見 腐食箇所と同様の箇所について点検期間の見直し及び水平展開を指導した。										

1 事故名	屋外タンク貯蔵所において附属配管が外面腐食により穿孔しナフサが流出したもの		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	8月 15日 9時 55分
5 覚 知	8月 15日 10時 18分	6 鎮 圧 応急処置完了	8月 15日 10時 05分
7 鎮火・処理完了	8月 15日 11時 30分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南 風速：2.8m/s 気温：30℃ 湿度：83%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： ①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、 <u>他</u>) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 根岸臨海地区		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等		
名 称： 浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 48, 108, 000L 240, 540倍		
能 力： 容量 48, 108KL	倍数の合計： 240, 540倍		
13 機 器 等	温度圧力： 0.1Mpa		
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	規 模： 口径6インチ		
14 発 生 箇 所	設置の完成： 昭和 39年 2月 27日 直近の完成： 令和 2年 6月 16日		
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)	17 物 質 の 区 分		
材 質： 鋼鉄	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ナフサ(23L)		
15 発 生 時	18 取扱者の概要		
運 転 状 況： 停止中 番 号 (5)	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
作 業 状 況： 番 号 ()	20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
21 危険物取扱者の取扱・立会い	1. 有 ②. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 第1発見者の協会社社員が当該配管周辺の点検作業を実施中に臭気を感じ、付近を確認をしたところ配管からの油漏えいを覚知。ただちに社内環境安全グループへ連絡。応急措置として製油所職員により当該配管縁切りのため4箇所の仕切弁閉止作業を実施。その後公設消防及び海上保安庁へ通報。公設消防は当該配管漏えい箇所の調査活動を実施。なお、海上漏えいはないため海上保安庁は現場には来ていない。漏えい量は23Lで防油堤内の漏えい油については、油吸着マットで回収作業を実施。配管内の滞油については、バキュームローリーにて3KLの回収。その後ブラインドプレートを挿入をして他系統との縁切りを実施した。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (8) 無 防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等			

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 当該漏えい配管は、No. 105タンクに附属するナフサをタンクへ送液するための配管である。当該配管はラック上に敷設されて、配管下側のラックとの接触部分より顕著な外面腐食並びに穿孔(直径1mm)が認められ腐食部分からナフサが漏えい。腐食原因としては、雨水が配管とラックの隙間に滞留したことにより、湿潤環境を形成したと推測される。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内に133㎡の範囲に漏えい		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： No105号タンク附属配管よりナフサ23L流出		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	69 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量:200 第1石油類 23.0L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	2 台	0 隻	0 機	5 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (4) 4箇所 の 仕 切 弁 閉 止 作 業、油 吸 着 マ ッ ト で 回 収 作 業、配 管 内 の 滞 油 に つ い て は、バ キ ュ ム ロ ー リ ー に て 3KL の 回 収、プ ラ イ ン ド プ レ ー ト を 挿 入 し て 他 系 統 と の 縁 切 り の 実 施				
31 防災活動上の問題点										
32 行政措置	施設名					33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和4年4月22日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	令和4年6月16日	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：		
その他	年	月	日	年	月	日				
35 今後の対策や所見 漏えいした配管の顕著な外面腐食範囲の部分取替を行う。また配管取替時に配管とラックの間に接触面積を減らすための丸棒を新たに設置して雨水が滞留しないような構造へ改良をする。 また、類似箇所については、外観検査に加えて配管重要度に応じて非破壊検査、つり上げ等の詳細検査を行うこととし、継続して検査を計画的に進めていく。										

1 事故名	屋外タンク貯蔵所において受入バルブ操作ミスによる流動性パラフィンの流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 19日 10時 15分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	8月 19日 10時 15分	
5 覚 知	8月 19日 11時 45分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 19日 16時 00分	
7 鎮火・処理完了	8月 19日 16時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北西 風速：1m/s 気温：28℃ 湿度：52%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 <input checked="" type="checkbox"/> 第1種、第2種、その他) 業 態：運輸業 倉庫業 倉庫業(冷蔵番号(4711) 倉庫業を除く) 倉庫業(冷蔵 倉庫業を除く)		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番号(1201)			施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他	貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所	
能 力：15KL			類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 流動 ^ハ ラフィン 15,000L 7.5倍	倍数の合計： 7.5倍	
13 機 器 等	温度圧力：		設置の完成：平成16年 5月 18日	直近の完成： 年 月 日	
名 称：貯槽(タンク) 番号(107)			17 物質の区分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス	
規 模：内径:2,500mm、高さ:3,000mm				5. 毒物 6. 劇物 7. その他	
14 発 生 箇 所	番号(304)			(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧)	
名 称：通気管	番号(7)			(低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温[0-40℃]、高温)	
材 質：ステンレス	番号(10)			分 類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：流動 ^ハ ラフィン(650L)	
15 発 生 時			18 取扱者の概要	経験年数12年	
運 転 状 況：貯蔵・保管中			①. 選任有 2. 選任無	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有
作 業 状 況：監視中			3. 不要		2. 無
19 危険物保安統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 10時15分頃、構内作業員が巡回中に屋外タンク貯蔵所(Y-015)の通気管から危険物がオーバーフローし、防油堤内に流出しているのを発見、直ちに解放されていたタンク元バルブ(受入)を閉止し、関係部署に連絡をした。流出は防油堤内で留まっており、二次災害の防止と併せて流出した危険物回収のための資機材準備及び原因究明のための調査を開始した。 11時45分、構内保安職員から加入電話により消防に通報した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号(1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()		
原 因	関 連 原 因						
	発生原因の状況： Y-141タンク(屋外タンク貯蔵所)の出荷ライン途中には、切り替えバルブによりY-015タンク(事故発生屋外タンク貯蔵所)へのシフトラインが接続されており、関連配管系統を構成している。 事故当日、Y-141タンクから一般取扱所(ドラム充填場)への出荷作業中、作業手順のミスにより、Y-015タンクへのシフトライン切り替えバルブが開放されており、当該ラインを通じてタンク内に流動パラフィンが流入(タンク元バルブも開放されていた)、貯蔵量の超過により通気管からオーバーフローし、防油堤内に約650L流出したものの。 ※Y-141タンク、Y-151タンクともに、同油種の流動パラフィンを貯蔵していた。						
	主要原因の詳細						
		第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層		
	人		本人の意識	思慮	思い込み		
	関連原因の詳細						
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
27	人的被害				28 物的被害		
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	
区分						職業又は職名	
当 事 者		0	0	0	0		
防災活動従事者		0	0	0	0		
第 三 者		0	0	0	0		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						被災影響範囲及び拡大の状況： 屋外タンク貯蔵所(Y-015)の通気管からの流出した流動パラフィンは、防油堤内に留まりの周囲への拡大及び飛散等はなかった。	
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						物質の被害状況： 屋外タンク貯蔵所(Y-015)の通気管から流出し防油堤内に留まった第4類第3石油類(非水溶性)流動パラフィン、約650Lが産業廃棄物となった。	
30 実施した防災活動の状況						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (20 万円)	
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 ()			
調査活動							
31 防災活動上の問題点							
32	施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和4年 3月 1日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u>	
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：			
35 今後の対策や所見		複数の関連危険物施設が配管系統で結ばれている場合、適切に作業手順を遵守する必要がある。 また、手動操作のみならず、緊急時に自動で停止できる設備等の導入を検討する。					

1 事故名	屋外タンク貯蔵所における、腐食に伴う附属配管からのライトナフサ流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 24日 10時 20分	推定・確定	4 発 見	9月 24日 10時 20分	
5 覚 知	9月 24日 10時 33分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 24日 12時 31分	
7 鎮火・処理完了	9月 24日 12時 31分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南西 風速：3m/s 気温：25.9℃ 湿度：94.9%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				11 発 生 場 所
					区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区
					16 発生施設規制区分等
					施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 9,800,000L 49,000倍
12 施 設 装 置					倍数の合計： 49,000倍
名 称：浮屋根式(地上)タンク	番 号 (1202)				
能 力：容量 9,800KL					
13 機 器 等	温 度 圧 力：				
名 称：配管(送油、注入管等)	番 号 (606)				
規 模：STPG370E、6B、元厚7.1t					
14 発 生 箇 所					設置の完成：昭和 54年 4月 22日 直近の完成：平成 21年 2月 26日
名 称：その他の附属配管等	番 号 (299)				
材 質：鋼鉄					
15 発 生 時					17 物 質 の 区 分
運 転 状 況：定常運転中	番 号 (1)				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ナフサ(337L)
作 業 状 況：	番 号 ()				18 取 扱 者 の 概 要
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： #126タンクの附属配管(6インチ・高さ約3mのラック上に敷設)が腐食開口し、ナフサが流出したもの。 なお、#126タンクは休止中であつたものの、当該配管は、#125タンクと共用しており、接触改質装置から製造されるライトナフサが 滯油している状態であつた。 発災日の10時20分頃、付近を通りがかった製油5G職員が発見した。(9時30分頃には異常がなかったとのこと)					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 開口部は、配管サポートが接触する付近であり、当該箇所は防食テープが施工されているが、この防食テープが劣化したことにより、雨水が配管外部部に滞水し外面腐食したものの。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分							被災影響範囲及び拡大の状況： 開口部から流出したナフサはドラム缶に受け、バキューム車により回収するとともに、周辺のフランジをブロックした上で、他のドレン部から、さらにバキューム車により回収した。			
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管開口部5mm×3mm			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	15 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	10 人	物質の被害状況： ナフサが400L程度流出したものと調査中
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	16 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)				
ガス検知活動										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所(#126)				33 定期点検等	消 防 法		そ の 他	
	使用停止	令和 4 年 9 月 26 日				定期・自主点検	令和 3 年 11 月 5 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				保安検査	令和 3 年 11 月 5 日		年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無			
その他	年 月 日		年 月 日		内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反					
35	今後の対策や所見 配管のラック接触部の防食措置について、水平展開として端部コーキングの健全性の確認及び、再発防止策として接触部へのステンレス板金ではなく、配管とラックの接触面積を減少させるためにステンレスの丸棒をサポートに設置するよう指導。									

1 事故名	屋外タンク貯蔵所附属配管エルボ部からのガソリン流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 20日 14時 45分	推定・確定	4 発 見	10月 20日 14時 45分	
5 覚 知	10月 20日 14時 58分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 20日 16時 39分	
7 鎮火・処理完了	10月 20日 16時 39分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南東 風速：2.3m/s 気温：20.1℃ 湿度：36%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区	
12 施 設 装 置	名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能 力：容量 3,842.8KL		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 3,839,000L 19,195倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,800L 3.8倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：STPG370E、10B、元厚7.8mm		倍数の合計： 19,198.8倍 設置の完成：昭和 58年 10月 8日 直近の完成：平成 28年 11月 16日		
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質：鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(140L)	
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 作業員が巡回点検中、屋外タンク貯蔵所の附属配管のダミーサポート接続部付近からガソリンが漏えいしていることを発見した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： ダミーサポート内に堆積した水分がダミーサポートと配管母材との隙間から染み出し、配管表面を湿らせ、局部的に腐食させたもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 不具合箇所周囲にガソリン流出		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管表面を湿らせ、局部的に腐食させた		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	7 人	物質の被害状況： ガソリン140L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 (99)					
・情報収集活動 ・ガス検知活動					・ガス検知活動 ・警戒筒先配備					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所(#4010)			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	令和 4 年 12 月 20 日			年 月 日			定期・自主点検	令和 4 年 10 月 11 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	令和 4 年 10 月 27 日			年 月 日			保 安 検 査	年 月 日	年 月 日
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・無 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反		
その他	年 月 日			年 月 日						
35 今後の対策や所見	不具合発生箇所については配管の更新を実施し、ダミーサポートについてはH鋼に変更し、水分の滞留を防ぐようにした。									

1 事故名	屋外タンク附属配管からの廃油流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 4日 10時 04分	推定・確定	4 発 見	11月 4日 10時 04分	
5 覚 知	11月 4日 10時 38分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 4日 11時 15分	
7 鎮火・処理完了	11月 4日 11時 15分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東南東 風速：4.2m/s 気温：20℃ 湿度：52%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)	能 力：容量:40,895KL		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 40,895,000L 204,475倍		
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 204,475倍		
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	規 模：6インチ		設置の完成：昭和 35年 12月 1日 直近の完成：平成 29年 3月 27日		
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)		17 物 質 の 区 分		
材 質：鋼鉄			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：廃油(182L)		
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)		18 取 扱 者 の 概 要		
作 業 状 況：	番 号 ()		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い ①. 有 2. 無		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危 険 物 保 安 監 督 者				
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 150号地で作業を終えた従業員が200号地へ戻る際に、付近を通りかかったところ臭気に気付き、周辺を確認すると屋外タンク附属配管から廃油が漏れいしていることを発見したもの。当該配管は屋外タンク貯蔵所等から道路を挟んだ対面側の150号地の屋外タンク貯蔵所へ廃油を送るための配管で、前日の巡回では異常はなかった。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： サポート接触部に保温材の切り欠きがあり外面腐食環境となっていた									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 配管開孔箇所周辺で収まった		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管母材部1.5mm開孔		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	15 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	8 人	物質の被害状況： 廃油182L漏えい
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) ガス検知活動を実施						自衛防災・消防組織等 番号 (5)				
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名	No.4タンク			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	令和 4 年 11 月 10 日			年 月 日			定期・自主点検	令和 4 年 6 月 10 日	
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			保安検査	年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・無 内容： 法第10条第3項 危険物を流出させたこと		
その他	年 月 日			年 月 日						
35 今後の対策 や所見	現在の運転条件では保温不要のため、配管更新時は保温施工はしないものとする。保温材の切り欠きがある同様の箇所の抽出及び点検を指導した。									

1 事故名	屋外タンク貯蔵所の附属配管における、サポート接触部の腐食に伴うナフサ流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 10日 14時 35分	推定・確定	4 発 見	11月 10日 14時 35分	
5 覚 知	11月 10日 14時 52分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 10日 15時 55分	
7 鎮火・処理完了	11月 10日 15時 55分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南西 風速：3.2m/s 気温：21℃ 湿度：47%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				11 発 生 場 所
					区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区
					16 発生施設規制区分等
					施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフ 5,000,000L 25,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 4,000L 4倍
12 施 設 装 置	名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202) 能 力：5,004KL				設置の完成：昭和38年 1月 14日 直近の完成：令和4年 2月 4日
13 機 器 等	温 度 圧 力：0.07Mpa 名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：SGP、6B、元厚5mm				
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質：鋼鉄				17 物 質 の 区 分
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ナフ(76L)
					18 取扱者の概要
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 従業員が現場付近を通行中に臭気を感じ、周辺を確認したところ、ラック上の高さ約3mに敷設されている配管(サポートとの接触部)からナフサが漏えいしていることを発見した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： サポートはC型鋼を突き合わせて、H型鋼のような形状としており、配管との接触部に水分が滞留しやすい構造であった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 周囲にナフサが流出		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管が腐食により穿孔		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	8 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ナフサ約76L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 (99)					
・情報収集活動 ・ガス検知活動					・ガス検知活動 ・警戒筒先配備					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	#5028			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	令和 4 年 11 月 10 日			年	月	日	定期・自主点検	令和 4 年 10 月 11 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日			年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	令和 4 年 12 月 23 日			年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項	法第12条の3			34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・無 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反		
その他	年 月 日			年 月 日						
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策や所見 発災配管及びサポートを更新し、サポート形状を雨水が堆積しない構造とした。事業所内にある他のC型鋼を突き合わせたサポートに設置されている配管について、検査の優先度を上げ、順次対応することとした。										

1 事故名	屋外タンクの出口弁グランド部からのメタクリル酸ジメチルアミノエチルの流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 12日 15時 00分	推定・確定	4 発 見	4月 12日 16時 30分	
5 覚 知	4月 12日 17時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 12日 18時 10分	
7 鎮火・処理完了	4月 12日 18時 10分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北 風速：2m/s 気温：20℃ 湿度：49%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学 番号 (1739) 工業製品製造業 その他の有 機化学工業製品製造業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：新潟西港地区特別防災区域				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(水溶性液体) メタクリル酸ジメチルアミノエチル 60,000L 30倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 30倍				
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201)	設置の完成：昭和 63年 1月 19日				
能 力：内径4,290mm、高さ4,500mm、容量60,000L	直近の完成：平成 30年 11月 6日				
13 機 器 等	17 物 質 の 区 分				
名 称：貯槽(タンク) 番号 (107)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
規 模：内径4,290mm、高さ4,500mm、容量60,000L	5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
14 発 生 箇 所	(固相、液相、気相) (常圧、加圧)				
名 称：開閉弁 番号 (204)	(低温、常温 [0-40℃]、高温)				
材 質：ステンレス	分 類： 第4類第2石油類(水溶性液体) 名称：メタクリル酸ジメチルアミノエチル(1L)				
15 発 生 時	18 取扱者の概要				
運 転 状 況：払出中 番号 (10)	①. 選任有 2. 選任無				21 危険物取扱者の の取扱・立会い
作 業 状 況： 番号 ()	3. 不要				①. 有 2. 無
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 重合禁止剤の調合作業のため屋外タンクの危険物を払出していた。払出し作業停止のため出口弁を閉鎖しようとしたところ、屋外タンクの出口弁下部にメタクリル酸ジメチルアミノエチルが漏えいしているのを職員が発見し、出口弁グランド部のボルトを増し締めして漏えいを停止させたもの。 なお、当該災害による死傷者は発生していない。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 屋外タンクの出口弁を長期間締め付けていたことで応力緩和が起こり、グランドパッキンが劣化、変形したため、パッキンの面圧が低下し出口弁のグランド部からメタクリル酸ジメチルアミノエチルが漏えいしたものと推定される。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 屋外タンクの出口弁グランドパッキンが劣化、変形しメタクリル酸ジメチルアミノエチルが1L漏えいしたが、防油堤内で収まっている。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 出口弁グランドパッキンの劣化、変形		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	17 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(水溶性) メタクリル酸ジメチルアミノエチル 1L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	3 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
・現場の安全管理 ・調査活動										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和3年7月21日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="checkbox"/> 無		
その他	年 月 日	年 月 日		1. 文書 2. 口頭			内容：			
35 今後の対策や所見 ・類似箇所の水平展開 ・弁類の管理を基準化するため、グランド部の増し締め、日常・定期点検、定期交換・整備について管理基準を作成 ・各部署に対して弁類の構造及びグランドパッキンの調整に関する保安教育の実施										

1 事故名	屋外タンク貯蔵所から一般取扱所へつながる地下埋設配管より軽油が流出した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 29日 8時 00分	推定・確定	4 発 見	6月 29日 9時 39分	
5 覚 知	6月 29日 9時 39分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 29日 17時 00分	
7 鎮火・処理完了	7月 1日 16時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南南東 風速：1m/s 気温：29℃ 湿度：72%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 9,600L 9.6倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： その他のタンク 番 号 (1299)	能力： 軽油:9,600L	13 機 器 等	温度圧力：	設置の完成： 昭和 55年 6月 19日	直近の完成： 昭和 55年 9月 17日
名 称： その他 番 号 (999)	規 模： 送油管(40A)	14 発 生 箇 所	名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)	17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(9,000L)
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)	15 発 生 時	作 業 状 況： 番 号 ()	18 取 扱 者 の 概 要	
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 付近住民から当該施設の周囲に油膜が確認できると通報があり、現地を確認、業者立ち合いのもと配管の加圧試験で、屋外タンク貯蔵所から一般取扱所へつながる地下埋設配管(送油管)より軽油の流出を確認したもの。流出した油は地表ににじみ出し、一部が農道脇の側溝から農業用水路を通じて下流の河川に流出したもの。流出量は、約9,000Lで負傷者はいないもの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関連原因							
	発生原因の状況： 埋設配管で設置から42年経過しており、経年劣化によるもの							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害						28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	
区分								
当 事 者		0	0	0	0			
防災活動従事者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した軽油約9,000Lが地中に浸透し、一部が農業用水へ流出したもの。流出範囲は敷地境界線より、100m程度に収まっている。		
消 防 機 関		1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
						物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油 約9,000L		
						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (135 万円)		
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
調査活動								
31 防災活動上の問題点								
32 施設名								
政 策 措 置	使用停止	年 月 日		年 月 日		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日
	関係条項					保安検査	年 月 日	年 月 日
	その他	年 月 日		年 月 日		34 当該施設に係る 法令違反の有無		
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭		有・無		内容： 配管の漏れの点検未実施
35 今後の対策や所見								
定期点検及び日常点検の徹底								

1 事故名	屋外タンク貯蔵所の液面計設定不良により満量以上に貯蔵していた灯油が熱膨張により溢れた流出事故									
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生	月	日	時	分	推定・確定	4 発 見	7月	2日	15時	30分
5 覚 知	7月	2日	16時	00分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月	3日	3時	30分
7 鎮火・処理完了	7月	3日	3時	30分						
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北 風速：2m/s 気温：32℃ 湿度：77%									
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 鉄道業 鉄道業 普 番 号 (4211) 通鉄道業									
11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 28,000L 28倍									
13 機 器 等	温度圧力： 名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模： 28,000L 倍数の合計： 28倍									
14 発 生 箇 所	設置の完成： 平成 7年 1月 5日 直近の完成： 平成 18年 11月 16日									
15 発 生 時	17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油(100L)									
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無				
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無										
23 事故の概要： 付近住民から、「灯油のにおいがすごい」との通報により、町職員が調査をしたところ、通報者付近に設置された屋外タンクの屋根付近から灯油が漏れているのを発見した。屋外タンク屋根上部に設置されたマンホールのつなぎ目から灯油が漏れいしているが、漏れいた灯油は、防油堤内に全て収まっており、外部への流出はなかった。										
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無										

原因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()							
	関 連 原 因 維持管理不十分											
	発生原因の状況： 令和3年12月に当シーズン用に灯油タンクを満タンになるように荷受けしたが、液面計の初期設定に誤りがあり(タンク内径に対する液面(容量)設定の錯誤)、実量よりも少なく表示していたため、満量の28KLを超えて貯蔵していた。その灯油をほぼ使うことなくシーズンを終了し、シーズン終了時には、タンク内に28KL以上の灯油が貯蔵されたままになっていた。来シーズンのため灯油をそのままにしておいたところ、貯蔵していた灯油の熱膨張により、タンク屋根に設置されたマンホールの蓋よりも液面が上昇し、そのパッキン部分から灯油約100Lが漏れ出し、防油堤内に溜まった。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	施工不良		施工		工事時の措置不良							
	関連原因の詳細											
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害				28 物的被害								
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： タンクの上部から灯油が漏れ、防油堤内に漏えいした。防油堤から外部には漏えいしていない。				
区分												
当 事 者	0	0	0	0								
防災活動従事者	0	0	0	0								
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	1 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 灯油約100L		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	2 人	その他	1 台	0 隻	0 機	2 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (1 万円)		
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()						
事故調査												
31 防災活動上の問題点												
32 施設名					33 定期点検等				消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和3年11月5日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <u>無</u>				
措 置	年 月 日		年 月 日				内容：					
35 今後の対策や所見	給油を行うときは、満タンにならないように行い、残油の管理を徹底し膨張した際には、抜き取りを行う等管理を行う。											

1 事故名	屋外タンク貯蔵所の保温被覆送油配管からの腐食開口による重油流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 6日 19時 48分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	12月 7日 0時 10分	
5 覚 知	12月 7日 0時 35分	6 鎮 圧 応急処置完了	12月 7日 2時 00分		
7 鎮火・処理完了	12月 7日 2時 00分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：西 風速：6.4m/s 気温：8℃ 湿度：68%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <input checked="" type="checkbox"/> 第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1899) 造業 その他の石油製品・石炭 製品製造業 他に分類されな い石油製品・石炭製品製造業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：新潟西港地区石油コンビナート等特別防災区域	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)	能 力：重油貯蔵量52KL		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 52,000L 26倍		
13 機 器 等	温 度 圧 力：70℃、1Mpa		倍数の合計： 26倍		
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	規 模：送油管(40A)		設置の完成：昭和 35年 9月 8日 直近の完成：平成 25年 8月 30日		
14 発 生 箇 所	名 称：給油管等 番 号 (907)		17 物 質 の 区 分		
材 質：鋼鉄	15 発 生 時		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(138L)		
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)	作 業 状 況： 番 号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 屋外タンク貯蔵所から一般取扱所(発電所)への送油管に、外部腐食によりピンホールが生じ、重油約138Lが漏えいしたもので、防油堤外への漏えいはなし。人的被害もなし。 平常運転時、発電所はガスを燃料とし稼働しているため、補助燃料である重油は送油されるが消費されず、配管内を循環していた。定時点検をしていた従業員が、屋外タンクのポンプから発電所への送油管の保温材部分から重油の漏えいを発見した。保温材を剥がしてみたところ、配管の母材部分のピンホールから漏えいを確認した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 当該配管は令和4年11月29日から12月6日の間で当該事故配管の保温材の張り替え作業をしており、その時は配管の漏えいは認められなかったものの、配管の母材部分に若干の腐食があったため錆止め塗装を行って復旧していたが、その塗装部分の腐食が進行して漏えいした。 原因については外部腐食による劣化である。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 屋外タンク貯蔵所から一般取扱所へ重油を送るための送油管が破損し、そこから流出した重油約138Lが周囲に飛散したものの。施設外への漏えいなし。人的被害なし。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 屋外タンク貯蔵所の送油管が破損。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	12 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	9 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性液体)重油 約138L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (137 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動				自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5) 燃料ポンプの停止、バルブの閉止 漏えいした重油の回収 状況の記録						
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	令和4年8月24日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：		
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策 や所見		・メンテナンスの徹底 ・従業員にて安全の再認識 ・長期的な施設の部品交換のタイミングの見直し ・当該事業所に対し、施設の維持管理と、他の部品の更新時期等についても指導していく必要がある。								

1 事故名	屋外タンク貯蔵所の水抜管フランジ部分からの危険物流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月	日	時	分	推定・確定
4 発 見	1月	2日	9時	15分	
5 覚 知	1月	2日	12時	26分	
6 鎮 火・処理完了	1月	2日	13時	30分	
7 鎮火・処理完了	1月	2日	13時	30分	
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南東 風速：5.4m/s 気温：2℃ 湿度：58.2%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 その他の番号 (1799) 化学工業 他に分類されない 化学工業製品製造業				
11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 50,000L 50倍				
13 機 器 等	温度圧力： 名称： 貯槽(タンク) 番号 (107) 規模： タンク容量50,000L				
14 発 生 箇 所	設置の完成： 昭和 36年 9月 11日 直近の完成： 平成 19年 4月 26日				
15 発 生 時	17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油(40L)				
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		18 取扱者の概要 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要
21 危険物取扱者の取扱・立会い	1. 有 ②. 無				
22 設備・機器等の概要	オンラインファイル無				
23 事故の概要	屋外タンク貯蔵所の水抜管フランジ部分から灯油約40L流出したもの。				
24 緊急処置の状況	有 番号 (10) 無 その他				

25 主 原 因 破損		着火原因				番号 ()						
関 連 原 因 発生原因の状況： 屋外タンク貯蔵所の水抜管フランジ部分のパッキンが凍結及び経年劣化により機能不良となり、流出したものと推定される。また、水抜管バルブが完全に閉止されていなかった。												
原 因	主原因の詳細											
	第Ⅰ層	第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層						
	疲労・劣化	素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）								
	破損	自然現象		凍結								
	関連原因の詳細											
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害						28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名					
区分							被災影響範囲及び拡大の状況： 屋外タンク貯蔵所防油堤内					
当 事 者	0	0	0	0								
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： パッキンが凍結及び経年劣化により機能不良となり流出が発生					
第 三 者	0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 灯油約40L流出		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人			
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点												
32 行政措置	施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年	月	日	令和3年3月1日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無			有・無 内容：				
その他	年	月	日	年	月	日						
35 今後の対策や所見 今後、水抜管バルブ交換工事を計画し、早期に水抜管バルブ交換予定。												

1 事故名	屋外タンク貯蔵所のタンク拔出シノズル下部から灯油が漏えいしたもの					
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生	3月 8日 11時 00分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 8日 11時 00分		
5 覚 知	3月 10日 15時 30分			6 鎮 圧 応急処置完了	3月 9日 15時 00分	
7 鎮火・処理完了	3月 10日 16時 15分					
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況	天気：曇		風向：北西		風速：1m/s 気温：5.7℃ 湿度：56.5%	
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 無機化学 番号 (1729) 工業製品製造業 その他の無 機化学工業製品製造業			11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 150,000L 150倍	
12 施 設 装 置				名称： 固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201) 能力： 容量 150,000L		
13 機 器 等	温度圧力：	名称： 貯槽(タンク) 番号 (107) 規模： SGP 50A		倍数の合計： 150倍 設置の完成： 昭和 52年 3月 14日 直近の完成： 令和 4年 3月 18日		
14 発 生 箇 所	名称： 管継手(ダクトを含む) 番号 (201) 材質： ステンレス		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油(90mL)			
15 発 生 時	運転状況： 改造中 番号 (16) 作業状況： その他 番号 (99)		18 取扱者の概要			
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無						
23 事故の概要： 塗装工事の為、タンク表面及びノズル、配管等のケレン作業に伴いなんらかの外力が加わり、タンク拔出シノズル下部から灯油が漏えいしたと推定される						
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他						

25	主 原 因 施工不良	着火原因	番号 ()
原 因	関 連 原 因		
	発生原因の状況： 塗装工事のケレン作業にて漏えいしたもの		
	主原因の詳細		
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層
	施工不良	施工	工事時の措置不良
	関連原因の詳細		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から			
27 人的被害			28 物的被害
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症
当 事 者	0	0	0
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0
第 三 者	0	0	0
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況			被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内での漏えい。外部に漏えいなし
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
30 実施した防災活動の状況			物質の被害状況： 灯油約90mL漏えい
公設消防機関：番号 (99) 現場到着後、情報収集、漏えい箇所の確認		自衛防災・消防組織等 番号 ()	
31 防災活動上の問題点			
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所 第395号	33 定期点検等
	使用停止	令和4年 3月 16日	消 防 法
	改善命令等	年 月 日	そ の 他
	停止解除	年 月 日	定期・自主点検
	関係条項	法第12条の3第1項	気密試験等
その他	年 月 日	保 安 検 査	
34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：	
35 今後の対策 や所見	残油は仮設配管を敷設し別屋外タンクへ移送 当該タンクは補修、整備完了後、運用予定		

1 事故名	重油移送配管からの重油漏えい		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	5月 11日 15時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見
5 覚 知	5月 11日 16時 07分	6 鎮 圧 応急処置完了	5月 11日 15時 20分
7 鎮火・処理完了	5月 11日 18時 10分		5月 11日 15時 40分
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南西 風速：3m/s 気温：22.5℃ 湿度：46.4%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： ①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 <input checked="" type="checkbox"/> 第1種、第2種、その他)	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)		
業 態： 電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所	特別防災地区名： 福井臨海地区		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 545,600L 272.8倍		
12 施 設 装 置	設置の完成：昭和53年 2月 10日 直近の完成：平成25年 3月 27日		
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)	17 物 質 の 区 分		
能 力：最大貯蔵数量545.6KL	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(860L)		
13 機 器 等	18 取扱者の概要		
温 度 圧 力：70℃	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)	21 危険物取扱者の の取扱・立会い		
規 模：容量545.6KL、内径9,680mm、高さ8,300mm	①. 有 2. 無		
14 発 生 箇 所	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
名 称：管継手(ダクトを含む) 番 号 (201)	23 事 故 の 概 要： 毎日実施する施設パトロール中に、重油移送配管の埋設配管立ち上がり部から重油が漏えいしているのを発見したもの。漏えいは収まっている状態。重油を消費している一般取扱所は令和4年4月7日より稼働を停止しているが、屋外タンク貯蔵所及び移送配管内には重油が残存している状態であった。発見後は即座に事業所員で漏えいしていた重油移送配管の内圧抜き及び系統分離を行い、緊急措置完了後に消防機関への通報を行った。重油の流出量は約860L。人的被害はなし。		
材 質：その他	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他		
15 発 生 時			
運 転 状 況：貯蔵・保管中 番 号 (7)			
作 業 状 況：その他 番 号 (99)			
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 重油移送配管の埋設部に設置されている電気防食(犠牲陽極)が断線し機能しておらず、その結果、埋設配管の腐食が進行し、重油が流出したものの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		防食		防食措置が悪いために腐食発生					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		整備していない			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 埋設配管付近の土壌約7m ³ が重油により汚染された。 施設等の被害状況： 埋設配管が一部腐食		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 重油約860Lの流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (7 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動					自衛防災・消防組織等 番号 (4)					
31 防災活動上の問題点										
32 施設名 屋外タンク貯蔵所										
政 策 措 置	使用停止	令和4年 5月 11日	年 月 日	33 定期点検等		消 防 法	そ の 他			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和4年 5月 9日	平成23年 11月 25日				
	停止解除	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日				
	関係条項	法第12条の3第1項		保安検査	年 月 日	年 月 日				
その他	令和4年 5月 12日	年 月 日	34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：					
①. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策や所見 対策として、漏えいした重油移送配管の埋設部は今後地上化工事を実施する。 所見として、施設設置から40数年経過しており、腐食等経年劣化による事故が頻発していることから、計画的な設備の更新が必要である。										

1 事故名		屋外タンク貯蔵所の底板の腐食による灯油の流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		1月 23日 0時 00分	推定・確定	4 発 見		1月 24日 9時 00分	
5 覚 知		1月 24日 16時 30分		6 鎮 圧		1月 24日 16時 00分	
7 鎮火・処理完了		1月 24日 16時 00分		応急処置完了			
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：雪		風向：南南西		風速：1m/s	
						気温：-4.4℃	
						湿度：98%	
10 発 生 事 業 所			11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 飲食店・宿泊業 宿泊業 旅 番 号 (7211) 館；ホテル 旅館；ホテル			区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
			16 発生施設規制区分等				
			施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,860L 1.86倍				
12 施 設 装 置							
名 称： 固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)							
能 力： タンク容量1,860L							
13 機 器 等			温度圧力：				
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)							
規 模： 直径1,170mm、高さ1,930mm、容量1,860L							
14 発 生 箇 所			設置の完成： 昭和 58年 10月 17日 直近の完成： 年 月 日				
名 称： タンク底板 番 号 (102)			17 物 質 の 区 分				
材 質： 鋼鉄			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (1,860L)				
15 発 生 時			18 取扱者の概要				
運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号 (7)							
作 業 状 況： 番 号 ()							
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者		1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	
						①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 宿泊施設内で給湯ができなくなったことから、施設従業員が屋外タンク貯蔵所を確認したところ、タンク底板部分から防油堤内への灯油の流出を確認した。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無							

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()							
	関連原因											
	発生原因の状況： 流出箇所付近の底板は腐食し、周囲の塗装は剥離していることから、経年により防食塗装が剥離したことにより腐食が進行したものと推測する。また、当該施設は温泉地、かつ、豪雪地域内に設置されたものであり、多湿な環境も事故の一因となったと考えられる。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	腐食		防食		防食塗装・被覆剥離(経年による剥離)							
	腐食		環境		多湿環境(保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇)							
	関連原因の詳細											
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害				28 物的被害								
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 屋外タンクから灯油1,860Lが漏えいし、3m四方の防油堤内に流出した。				
区分												
当 事 者		0	0	0	0							
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 屋外タンクの基礎と底板の間に直径0.5mmの穿孔が認められた。				
第 三 者		0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油1,860L流出		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (14 万円)		
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()						
現場調査												
31 防災活動上の問題点 消防機関に対して通報を行わなかった。廃油回収業者からの通報により覚知した。												
32 施設名					33 定期点検等				消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・無 内容： 危険物保安監督者未選任		
35 今後の対策 や所見	その他		年 月 日		年 月 日							
	1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭									
流出事故等が発生した際は、直ちに消防機関に対して通報するよう指導した。また、当該事故により施設廃止の意向があることから、廃止の方法等について説示した。 本件は、定期点検義務がなく、設置からの経過年数が長い施設での流出事故であり、今後、同等の施設が増加していくことが想定されるため、他の事業所に対しても、施設の維持管理について指導を継続していく。												

1 事故名	屋外タンク貯蔵所の送油管に接続されたドレンホースが防油堤外に出た状態で、開放弁が開放されていたため、重油が流出したものの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	1月 9日 12時 00分		
5 覚 知	1月 11日 12時 23分	6 鎮 圧 応急処置完了	1月 11日 13時 00分		
7 鎮火・処理完了	3月 6日 17時 00分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：北 風速：1m/s 気温：5℃ 湿度：94%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：教育・学習支援業 学校教育 番 号 (7671) 専修学校, 各種学校 専修学校		11 発 生 場 所 区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 5,000L 2.5倍		
12 施 設 装 置	名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能 力：容量5,000L		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(800L) 設置の完成： 昭和 55年 4月 10日 直近の完成： 平成 24年 1月 23日 倍数の合計： 2.5倍		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模：直径1,750mm、高さ2,250mm、容量5,000L				
14 発 生 箇 所	名 称：開閉弁 番 号 (204) 材 質：鋼鉄				
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)				
18 取扱者の概要	経験年数18年				
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要：	オンラインファイル無				
23 事故の概要：	屋外タンク貯蔵所の送油管に接続された空気抜きドレンホースが何からの原因により、防油堤外に出た状態で開閉弁が開放されていたため流出し、側溝から農業用ため池まで流れ込んだもの。なお、吸着マット及びオイルフェンスを設置して応急措置を実施した。				
24 緊急処置の状況	[有] 番号 (10) 無 その他				

25	主 原 因 維持管理不十分	着火原因	番号 ()				
原 因	関 連 原 因						
	発生原因の状況： 空気抜き用のドレンホースがいつから防油堤外に出ていたか不明であるが、普段から出ていた可能性が高く、点検不足及び管理不足であったもの。ただし、流出した原因の特定には至らない。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	設備	監理・保守	点検・整備	点検していない/不足			
	設備	監理・保守	点検・整備	確認不足			
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害			28 物的被害				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油が敷地内の側溝から敷地外の農業用ため池に流れ込んだ。流出箇所から農業用ため池まで約300m。
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第3石油類 重油 流出量不明
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
30 実施した防災活動の状況							損害額 1万円未満、 1万円以上 (945 万円)
公設消防機関：番号 (6)				自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点							
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：	
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日				
35 今後の対策 や所見		流出時は早期に通報すること。防油堤外に出るドレンホースは撤去すること。					

1 事故名	屋外タンクの通気管と接続した除害塔が機能せず、除害されていないアクリル酸メチルガスが大気に流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 30日 8時 30分	推定・確定	4 発 見	9月 30日 9時 50分	
5 覚 知	9月 30日 11時 45分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 30日 11時 30分	
7 鎮火・処理完了	9月 30日 12時 15分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西南西 風速：2m/s 気温：26℃ 湿度：63%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 無機化学 番 号 (1721) 工業製品製造業 ソーダ工業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：名古屋港臨海地区	
12 施 設 装 置	名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能 力：屋外タンク貯蔵所 950KL		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) アクリル酸メチル 950,000L 4,750倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：洗浄塔、槽(ワッシングタワー、スクラバー) 番 号 (105) 規 模：排ガス洗浄装置(2塔連結)1塔目:直径550mm、高さ11,415mm2塔目:直径500mm、高さ9,100mm排ガス処理量210Nm ³ /hr		設置の完成：昭和 58年 12月 27日 直近の完成：令和 元年 12月 11日	倍数の合計： 4,750倍	
14 発 生 箇 所	名 称：ベント管、ブロー管、放出管 番 号 (303) 材 質：鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (固相、液相、気相) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：アクリル酸メチル(145kg)	
15 発 生 時	運 転 状 況：受入中 番 号 (9) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 通常時は屋外タンクから排出されるアクリル酸メチルのガスを除害塔(薬剤:苛性ソーダ。薬剤タンクは2つあり、切替可能)で除去してから大気に放出する構造であったが、今回は除害塔内の薬剤濃度が低下していたことにより、船舶から受け入れた230KLのアクリル酸メチルから発生した気相分を処理しきれなくなり、除害塔が機能しないままアクリル酸メチルのガスが大気に放出され、周辺の事業所の職員3名が体調不良を起こしたもの。 なお、事故発生直近日で測定した苛性ソーダの濃度は発災事業所で定めている基準内の数値を維持していたが、船舶からの受入時に必要な苛性ソーダの濃度が適正に設定されていなかった。 また、アクリル酸エステルは臭気閾値が低いことから発災事業所において構内の従業員から臭気の報告があった後も低濃度のガスが放出されたもの誤認し、受入作業は停止することなく実施された。受入終了後に隣接事業所から体調不良者の連絡があったことで除害塔の薬剤の入替及び通報等の対応が実施されたもの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原因	25 主 原 因 設計不良		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 除害塔内の薬剤濃度が低下していたことにより、船舶から受け入れた230KLのアクリル酸メチルから発生した気相分を処理しきれなくなり、除害塔が機能しないままアクリル酸メチルのガスが大気に放出されたもの。 ただし、事故発生直近日で測定した苛性ソーダの濃度は発災事業所で定めている基準内の数値を維持していたが、船舶からの受入時に必要な苛性ソーダの濃度が適正に設定されていなかった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	設計不良		能力		処理能力不足（処理能力の限界を超えたため溢流等）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 除害塔からアクリル酸メチルガスが放出されたことにより発災事業所の敷地境界線から最大60m程度の範囲まで流出したと推定される。		
区分										
当事者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第三者	0	0	0	3	中毒			施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消防機関	1台	0隻	0機	3人	自衛	0台	0隻	0機	50人	物質の被害状況： 第4類引火性液体第1石油類非水溶性アクリル酸メチル 145kg流出
消防団	0台	0隻	0機	0人	共同	0台	0隻	0機	0人	
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応援	0台	0隻	0機	0人	
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 消防車両ではなく予防課員が現場の状況確認のために出向したため、現地での活動は情報収集のみです。					自衛防災・消防組織等 番号 (8) 近隣住民への聞き取り及び広報を実施し、隣接事業所の職員3名以外の体調不良者がいないことを確認した。					
31 防災活動上の問題点 隣接事業所からの臭気の連絡と発災事業所の作業との関連を確認した後、除害塔の薬剤切替後に通報を行ったことから通報が遅延した。アクリル酸メチルの臭気が確認された際の危険要因の把握が適正に行われておらず、当該危険物の受入作業が継続された。										
32 行政措置	施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和4年6月15日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無			有・無 内容：		
その他	年	月	日	年	月	日				
35 今後の対策や所見 除害塔における苛性ソーダの濃度を通常時は20～140g/Lで管理しているが船舶によるアクリル酸メチルの受入時には140g/Lのものを使用することとする。 また、当該薬剤について、経時劣化、季節変動、作業状況などを考慮した管理方法に改める(検討中)。										

1 事故名	屋外タンク貯蔵所における屋外タンク側板下部穿孔による重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	11月 24日 8時 00分		
5 覚 知	11月 24日 10時 10分	6 鎮 圧 応急処置完了	11月 24日 10時 00分		
7 鎮火・処理完了	1月 0日 0時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西 風速：9.9m/s 気温：15.6℃ 湿度：65.1%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：複合サービス業 協同組合(他 番 号 (7911) に分類されないもの) 農林水 産業協同組合(他に分類されな いもの) 農業協同組合(他に 分類されないもの)	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 49,500L 24.75倍				
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分				
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
能 力：49.5KL	5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
13 機 器 等	(固相、液相、気相) (常圧、加圧)				
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)	(低温、常温 [0-40℃]、高温)				
規 模：直径3,880mm、高さ4,875mm、容量49,500L	分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(19,000L)				
14 発 生 箇 所	18 取 扱 者 の 概 要				
名 称：タンク側板 番 号 (101)	①. 選任有 2. 選任無				
材 質：その他	3. 不要				
15 発 生 時	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い				
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)	①. 有				
作 業 状 況： 番 号 ()	2. 無				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 屋外タンク貯蔵所において、荷積みに来た運転手が屋外タンク側板下部からの流出を発見し危険物保安監督者へ連絡した。危険物保安監督者から連絡を受けた担当者が現場に行くと屋外タンク側板下部から放射状に重油が流出していた。油水分離槽のバルブが開放状態であったため、重油最大19KLが施設から排水路へ流出した。なお、流出した重油はバキューム車及び吸着マットを使用し処置を実施した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (8, 9) 無 防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等、緊急排出、緊急移送					

原因	25 主 原 因 不明		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 不明									
	発生原因の状況： 屋外タンク貯蔵所側板下部に穿孔があり重油が流出した。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 屋外タンクから最大19KLが流出し、事業所排水路から河川排水機場まで約1kmにわたり拡散し、排水機場手前に約800mにわたり滞留した。 施設等の被害状況： 屋外タンク側板下部に穿孔があり、重油が19KL流出した。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油最大19KL流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	1 台	0 隻	0 機	2 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	5 台	0 隻	0 機	15 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動										
31 防災活動上の問題点 流出量が多く広範囲に拡散しているため流出油回収に困難を極めている。										
行政措置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	令和4年8月23日		
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年 月 日		
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無				
その他	警告 令和4年12月23日 ①. 文書 2. 口頭			内容：						
35 今後の対策や所見	流出油の回収作業の継続 屋外タンク貯蔵所における監視体制の指導									

1 事故名	屋外タンク貯蔵所から発電設備へ至る配管の一部が腐食し重油が流出したもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 14日 15時 00分	推定・確定	4 発 見	1月 16日 16時 23分	
5 覚 知	1月 17日 10時 10分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 17日 11時 19分	
7 鎮火・処理完了	1月 17日 13時 47分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西 風速：6.2m/s 気温：8.5℃ 湿度：42%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 有機化学 番 号 (1735) 工業製品製造業 プラスチック製造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： 固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能 力： タンク容量19,600L		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 19,600L 9.8倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模： 直径2,500mm、高さ4,400mm、容量19,600L		倍数の合計： 9.8倍		
14 発 生 箇 所	名 称： その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質： 鋼鉄		設置の完成： 平成 元年 3月 8日 直近の完成： 令和 4年 3月 16日		
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： A重油(46L)	
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 屋外タンク貯蔵所から発電設備に送液される配管の一部に腐食による穿孔が発生し、保温材の継ぎ目から流出していたもの。 発電設備のサービスタンクの液量の減少により自動的に送液される仕組みで、4時間に1回の頻度で2分間ポンプは稼働。稼働時は連続的な滴下であるが、非稼働時は間欠的な滴下であり、合計で約46LのA重油が流出した。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 腐食の発生した配管はSGPで亜鉛メッキ塗装が施されていたが、保温材のラッキングの継ぎ目が配管の上側にあり、その隙間から雨水が進入し底に溜まり配管と触れている箇所が腐食したもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	施工不良		施工		施工内容の間違い					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えい箇所付近の排水溝を流れたA重油が敷地内の調整池まで流れた。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 危険物送油配管の一部		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)A重油約46L流出。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	令和 4 年	1 月	17 日	年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	停止解除	令和 4 年	3 月	17 日	年	月	日	年	月	日
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：			
その他	年	月	日	年	月	日				
35 今後の対策や所見 腐食した配管を含むすべての配管をSGP配管(さび止め塗装)に取替え、保温材の施工はなくした。 自主点検及び社員教育の徹底を指導するとともに、同一敷地内の他施設における点検についても保温材部分の点検を遵守するよう指導した。										

1 事故名	屋外タンク貯蔵所から稼働停止している発電設備までの配管にあるストレーナから重油が漏えいしたもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 9日 0時 40分	推定・確定	4 発 見	10月 9日 0時 40分	
5 覚 知	10月 9日 1時 46分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 9日 3時 27分	
7 鎮火・処理完了	10月 9日 5時 43分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南東 風速：1.1m/s 気温：11.6℃ 湿度：92%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 有機化学 番 号 (1735) 工業製品製造業 プラスチック製造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
16 発生施設規制区分等			施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 19,600L 9.8倍		
12 施 設 装 置	名 称： 固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能 力： 円筒縦置型(地上)タンク、容量19,600L		倍数の合計： 9.8倍 設置の完成： 平成 元年 3月 8日 直近の完成： 令和 4年 3月 16日		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模： 直径2,500mm、高さ4,400mm、容量19,600L				
14 発 生 箇 所	名 称： その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質： 鋼鉄		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： A重油(1L)		
15 発 生 時	運 転 状 況： 停止中 番 号 (5) 作 業 状 況： その他 番 号 (99)		18 取 扱 者 の 概 要		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 屋外タンク貯蔵所から発電設備のサービスタンクに送液される配管の一部であるストレーナから漏えいしたもの。 発電設備は休止中で自動弁が閉められており、屋外ポンプ設備についても手動バルブが閉められていたことから配管の内圧が上昇、直近で交換されていたストレーナ上蓋のパッキンが正規の位置に設置されていなかったことから漏えいを生じさせたもの。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原 因	25 主 原 因 施工不良		着火原因				番号 ()				
	関 連 原 因 維持管理不十分										
	発生原因の状況： ストレーナ上蓋のパッキンが正規の位置に設置されておらず内圧が上昇した際に上蓋の隙間から漏えいしたものの。										
	主原因の詳細										
	第I層		第II層		第III層		第IV層				
施工不良		施工		取り付け不良							
関連原因の詳細											
設備		監理・保守		点検・整備		整備内容が不適切					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名				
区分							被災影響範囲及び拡大の状況： 屋外ポンプ設備の囲いの内側のストレーナに僅かな油分の付着及びポンプ設備付近1.5m×2.3mの範囲で漏えい。				
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 漏えいによる被害はなし。				
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)A重油約1L	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点 漏えい発生から消防機関への通報までに時間を要している。危険物施設で火災、漏えい等の事故が発生した際はすぐに消防機関へ通報するという教育が社員に徹底されていない。											
政 策 措 置	32 施設名		屋外タンク貯蔵所			33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止		令和4年10月9日			年 月 日		定期・自主点検		年 月 日	
	改善命令等		年 月 日			年 月 日		気密試験等		年 月 日	
	停止解除		令和4年11月2日			年 月 日		保安検査		年 月 日	
	関係条項		法第12条の3第1項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ 無	
その他		年 月 日			年 月 日		内容：				
		1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 や所見		屋外タンク貯蔵所廃止済み									

1 事故名		船舶から屋外タンク貯蔵所への荷卸中のオーバーフロー						
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発生		2月 28日 11時 15分 推定・ 確定			4 発生見		2月 28日 11時 15分	
5 覚知		2月 28日 13時 10分			6 鎮圧 応急処置完了		2月 28日 11時 41分	
7 鎮火・処理完了		2月 28日 12時 10分						
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()						
9 気象状況		天気：晴 風向：西南西 風速：2.1m/s 気温：12.7℃ 湿度：25.4%						
10 発生事業所				11 発生場所				
種別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 第1種 、第2種、その他) 業態：運輸業 倉庫業 倉庫業(冷蔵番号(4711)倉庫業を除く) 倉庫業(冷蔵倉庫業を除く)				区分：①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名：堺泉北臨海				
12 施設装置				16 発生施設規制区分等				
名称：固定屋根式(地上)タンク 番号(1201) 能力：750KL				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 750,000L 750倍				
13 機器等				17 物質の区分				
温度圧力： 名称：貯槽(タンク) 番号(107) 規模：高さ10,635mm 直径9,688mm				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(2,528L)				
14 発生箇所				18 取扱者の概要				
名称：通気管 番号(304) 材質：ステンレス				①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
15 発生時				21 危険物取扱者の の取扱・立会い				
運転状況：受入中 番号(9) 作業状況：運転操作中 番号(1)				①. 有 2. 無				
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無								
23 事故の概要： 船舶から軽油の受け入れを行っていたが液面計不具合(詳細は調査中)により、液面計で表示された量が実際の受け入れ量より少なく表示されていたため、タンク容量を超え、トップアングルと屋根板の溶接部が破損し、この部分と通気管から、軽油がオーバーフローしたものの。								
24 緊急処置の状況 有 番号(9,1) 無 緊急排出、緊急移送、装置の緊急停止								

原因	25 主 原 因 不明		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 受け入れ時、オペレーターが計器室で残り受け入れ量100KLとなったところでレートダウン(流速調整)を指示。レートダウン完了後すぐ、現場監視していた作業員がタンク屋根部からオーバーフローを発見し、設備を停止する。漏えい時点でのオペレーター室での液面計表示では680KL(許容量750KL)であった。 事故原因については解析業者に依頼し、詳細な調査を行ったが、事故原因の特定には至らず。①液面計の不具合によるもの②軽油をタンクに受け入れた時の流れによりディスプレイサーに下向きの外力が働き、液面計が正常に作動しなかったこと等が考えられるが、原因の特定ができないため、不明とする。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 ①. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 屋外タンク防油堤内に軽油漏えい		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 屋外タンク貯蔵所のトップアングル付近の屋根板及び側板一部破損		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	4 人	物質の被害状況： 軽油約2,528L漏えい
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (38 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 情報収集				自衛防災・消防組織等 番号 (5) 油面高さを下げるために他タンクへの液移送及び油回収作業						
31 防災活動上の問題点 事案発生が11時15分で消防局への通報が13時すぎであり、油回収・移送などすべての作業を終えてからであった。警戒活動として消防車両等を配置していなかった。										
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	指導書 令和4年3月1日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策 や所見	通報の遅れについては今後起こさないよう厳しく指導した。また再発防止策等は現在事業所と協議し進めている段階である。									

1 事故名		屋外タンク貯蔵所において液封状態の配管内圧上昇により、フレキ管が破損し軽油が流出した事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		5月 19日 7時 40分 推定・ 確定			4 発 見		5月 19日 7時 40分				
5 覚 知		5月 19日 7時 51分			6 鎮 圧 応急処置完了		5月 19日 9時 05分				
7 鎮火・処理完了		5月 19日 9時 05分									
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：南東		風速：0.8m/s		気温：22.5℃		湿度：49.5%	
10 発 生 事 業 所						11 発 生 場 所					
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業						区 分：①. 事業所内 (製、 貯 、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 堺泉北臨海地区					
						16 発生施設規制区分等					
						施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 43,000,000L 21,500倍					
12 施 設 装 置											
名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)											
能 力：貯蔵量43,000KL											
13 機 器 等						温度圧力：					
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)											
規 模：貯蔵量43,000KL											
14 発 生 箇 所						設置の完成：昭和44年 4月 10日 直近の完成：令和2年 5月 26日					
名 称：フレキシブル管継手(ダクトを含む) 番 号 (202)						17 物 質 の 区 分					
材 質：ステンレス						①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(900L)					
15 発 生 時											
運 転 状 況：貯蔵・保管中 番 号 (7)											
作 業 状 況：その他 番 号 (99)											
18 取扱者の概要											
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： Tk-63入口配管撤去工事のための軽油置換作業後において、TK-64タンク元弁及び逃し弁の入口弁を閉止したことにより液封が形成。配管内の圧力が上昇したことにより、フレキ管が破損し軽油約900L流出。											
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無											

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因 破損										
	発生原因の状況： 作業者による安全弁の解除(閉止)に係る認識不足及び承認者による当該機能解除計画書の確認不足。 作業者は経験年数が浅く、当該作業により液封状態となることは認識していたが、スチームトレースにより破損に至るまで圧力が上昇することを認識していなかったもの。 安全重要機器(安全弁)の機能解除計画書の承認者は、安全弁の機能解除に対するリスク回避としての圧抜き作業の記載がないにもかかわらず、確認不足のまま承認したものの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足				
	関連原因の詳細										
	破損		定常運転時		異常圧力上昇等						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名				
区分											
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内に第4類第2石油類 軽油約900L流出				
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： フレキ管1個破損				
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	9 台	0 隻	0 機	29 人	自 衛	4 台	0 隻	0 機	10 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類 軽油約900L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
情報収集活動											
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	令和4年3月27日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日				保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無				
その他	年 月 日				内容：						
35 今後の対策や所見											
・重要機器機能解除計画書に記載するリスク回避策を正確に記載するよう教育 ・液封とならないよう必ず圧抜きを実施する旨、手順書の改定と教育 ・計画書承認者に対して、安全担保の視点を重視する旨の周知											

1 事故名	N-111タンク底板からの漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 14日 12時 35分	推定・ 確定	4 発 見	5月 14日 15時 10分	
5 覚 知	5月 14日 15時 22分		6 鎮 圧 応急処置完了	5月 14日 18時 25分	
7 鎮火・処理完了	5月 19日 12時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北北西 風速：2.9m/s 気温：18℃ 湿度：90%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、 貯 、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 和歌山北部臨海中地区	
12 施 設 装 置			16 発 生 施 設 規 制 区 分 等		
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)	能 力：屋外タンク貯蔵所(N-111)許可数量:第4類第2石油類 4,900KL		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 燃料油 4,900,000L 4,900倍		
13 機 器 等	温 度 圧 力：70℃		倍数の合計： 4,900倍		
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)	規 模：直径 21,300mm 高さ 15,195mm 容量 4,900KL		設置の完成：昭和 38年 2月 27日 直近の完成：令和 3年 2月 26日		
14 発 生 箇 所	名 称：タンク底板 番 号 (102)		17 物 質 の 区 分		
材 質：鋼鉄			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：燃料油(150L)		
15 発 生 時	運 転 状 況：貯蔵・保管中 番 号 (7)		18 取 扱 者 の 概 要		
作 業 状 況：	番 号 ()		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 社員による定期のタンク在庫数量確認時、N-111タンク在庫に減量があることを覚知し、現場目視によりタンク底板端部付近からの漏えいを確認した。 漏えい油はワックス分のため固化していた。					
24 緊急処置の状況 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 原因はアニュラ板(12mmt)の開孔であり、タンクドレン(Ph4前後)からの内部腐食による開孔と推定される。当該タンク底板には、ガラスフレークコーティングが施工されていたが、使用中にブリストアが発生し、亀裂・剥離した箇所にドレン水が浸入して腐食が発生し、65~75℃の管理温度で加速・進展したと推定する。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： N-111タンク底板端部付近からの漏えいだったが、漏油はワックス分のためタンク犬走部で固化していた。		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 底板は、外周側を中心に内面腐食が散在していた。 側板は、立ち上がり部(下部)150mm範囲で内面腐食が発生していた。		
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	12 人	自 衛	3 台	0 隻	0 機	100 人	物質の被害状況： タンク内残油は、他タンクへ移送した。 漏えい量は調査中です。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	7 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 化学車1台、軽積載車1台、広報車2台が出動し、警戒筒先配備及び現場確認を行う。 指揮支援隊にあつては、現場状況を聴取し情報収集活動を実施。						自衛防災・消防組織等 番号 (3、5) 自衛消防隊は、警戒筒先配備を実施。 非常事態対策組織を設置し、防災体制を確立した。 また、現地ではタンク内残油の移送や土のう積み、漏えい回収作業を行った。				
31 防災活動上の問題点										
32 行政措置	施設名					33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		平成 27 年 6 月 29 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査		年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>		
その他	年 月 日	年 月 日				内容：				
35 今後の対策や所見	<ul style="list-style-type: none"> ・当該タンクの次回開放周期を3年後とし、内部状況に応じて適正周期を検討する。 ・工事施工時のコーティング膜厚測定点数を板1枚当たり3カ所から5カ所に増やす。 ・次回開放時、コーティングの目視点検、膜厚測定、付着力評価、電気特性測定等を行う。 ・タンク温度調整を手動から自動制御にし、温度の振れ幅を狭め最高温度を下げる。 ・耐熱性のあるコーティングの使用を検討する。 ・コーティングの評価方法等に関しては、今回の事故に伴う知見を展開していく。 									

1 事故名	屋外タンク貯蔵所附属配管からの重油(重質軽油)が漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 2日 9時 30分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	6月 2日 9時 30分	
5 覚 知	6月 2日 9時 49分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 2日 12時 15分	
7 鎮火・処理完了	6月 3日 14時 45分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北西 風速：1.3m/s 気温：25.3℃ 湿度：64%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、 <input checked="" type="checkbox"/> 貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 和歌山北部臨海南部	
12 施 設 装 置	名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能 力：最大数量5,893KL		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油(重質 5,893,000L 2,946.5倍 軽油)	
13 機 器 等	温 度 圧 力：67℃、0.07Mpa 名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：16インチ配管		倍数の合計： 2,946.5倍 設置の完成：昭和43年 8月 1日 直近の完成：平成29年 12月 25日		
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質：鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(重質軽油)(6,000L)	
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 屋外タンク貯蔵所附属配管から重油(重質軽油)が漏えいしたもの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 危険物と分離した水分に含まれた硫黄や塩素が腐食原因となり、配管が腐食、穿孔したと推定する。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		工程の中で腐食環境の生成（塩素イオン、水素イオン、酸、硫化物等）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： タンクヤード内に6,000L漏えい。海上流出等なし。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管の内部腐食		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類 非水溶性 重油(重質軽油) 6,000L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 漏えいが停止するまで付近警戒。						自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5)				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法		そ の 他	
	使用停止	令和 4 年 6 月 2 日				年 月 日	年 月 日		令和 4 年 6 月 1 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日	年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				年 月 日	年 月 日		年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無			
その他	年 月 日				内容：					
35 今後の対策や所見										
原因を究明し、今後の対策を検討する。										

1 事故名		屋外タンク貯蔵所のフランジの緩みによる重油の流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		2月 17日 17時 40分	推定・確定	4 発 見	2月 18日 10時 55分		
5 覚 知		2月 18日 11時 06分			2月 18日 13時 45分		
7 鎮火・処理完了		2月 18日 13時 45分			6 鎮 圧 応急処置完了		
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：西		風速：2m/s 気温：2℃		湿度：49%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：水島臨海地区			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 940,000L 470倍			
12 施 設 装 置							
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)							
能 力：容量940KL							
13 機 器 等				温度圧力：260℃、0.98Mpa			
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)							
規 模：容量940KL				倍数の合計：470倍			
14 発 生 箇 所				設置の完成：昭和46年 7月 9日 直近の完成：令和3年 3月 8日			
名 称：管継手(ダクトを含む) 番 号 (201)				17 物 質 の 区 分			
材 質：鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(2,886L)			
15 発 生 時				18 取扱者の概要			
運 転 状 況：受入中 番 号 (9)							
作 業 状 況： 番 号 ()							
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	
						①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 屋外タンクN0.75附属配管のフランジ部から、重油2,886Lが防油堤内に漏えいしたものを。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無							

原	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 操作確認不十分、設計不良									
	発生原因の状況： 滞油抜き時にフランジからガスケット当たり面に油が付着したが、当該部の清掃、状況確認、ガスケット交換等を実施せず、油が付着した状態でそのままフランジを再締結した。その後、付着した油が熱で徐々に溶け、隙間が出来たため、漏えいに至った。									
	主原因の詳細									
因	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	施工不良		施工		取り付け不良					
関連原因の詳細										
制度		教育・訓練		内容			教育・訓練がない/不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいは防油堤内に収まり、被災影響及び拡大なし。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 滞油抜き時にフランジからガスケット当たり面に油が付着したが、当該部の清掃、状況確認、ガスケット交換等を実施せず、油が付着した状態でそのままフランジを再締結した。その後、付着した油が熱で徐々に溶け、隙間が出来たため、漏えいに至った。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	12 人	自 衛	3 台	0 隻	0 機	79 人	物質の被害状況： 重油2,886Lが漏えい。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	6 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <input type="text" value="1万円以上"/> (16 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 警戒待機及びガス検知					自衛防災・消防組織等 番号 (99) 警戒待機及びガス検知、残液移送及び回収					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/> 内容：				
その他	年 月 日	年 月 日								
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 や所見		<ul style="list-style-type: none"> ・定時監視(定期的に過去のタンクレベルとの照合を行い、レベル低下が設定以上となった場合にアラームを発砲すると傾向監視(レベル変化の方向を監視し、連続して低下した場合にアラームを発砲する)を行うシステム(最低約4L/10分まで検知可能)を追加する。2022年4月11日実施。 ・係員に巡回点検の基準を定めている製油共通基準の再教育を行い、テストで理解度を評価する。 ・入社2年目の全運転員向けに実施しているフランジボルト締結教育の中に、当該事故事例を織り込む。 ・全運転員に事故事例の周知とフランジ締結についての再教育を行う。 								

1 事故名	屋外タンク貯蔵所に敷設されているギヤポンプの安全弁のガスケットの破断による危険物の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 26日 6時 55分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	4月 26日 6時 55分	
5 覚 知	4月 26日 6時 55分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 26日 6時 57分	
7 鎮火・処理完了	4月 26日 8時 20分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東 風速：3.2m/s 気温：18℃ 湿度：91%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 化学繊維 番 号 (1742) 製造業 合成繊維製造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： 固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能 力： 最大数量300KL		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(水溶性液体) <i>メタノール</i> ・樹脂混合液 750L 1.88倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 60℃、0.6Mpa 名 称： ポンプ 番 号 (501) 規 模： ギヤポンプ 吐出量8,100m ³ /h			倍数の合計： 1.88倍	
14 発 生 箇 所	名 称： パッキング 番 号 (213) 材 質： ゴム		設置の完成： 昭和 43年 8月 14日 直近の完成： 平成 26年 10月 9日	17 物質の区分	
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分 類： 第4類第1石油類(水溶性液体) 名称： <i>メタノール</i> ・樹脂混合液 (340L)		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 同日1時頃に、運転員が施設点検を行っている際に、屋外タンク貯蔵所ST-856-1のポンプヤードに敷設されているギヤポンプの上部安全弁取付座のガスケットの一部はみだしと液のにじみを発見する。取付座のボルト増し締めを行い、保全課出勤までの間、経過観察で運転することとした。同日3時30分、6時の点検時には異常はなかったが、同日6時55分、早朝出勤の職員がギヤポンプ上部からメタノール・樹脂混合液が噴出しているのを発見する。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 設計不良		着火原因		番号 ()					
原	関連原因									
	発生原因の状況： 従来アスベスト製ガスケットを使用していた部分へ、代替えとしてテフロン製ガスケットを使用していたが、機器のフランジ面が荒れていることからシール性が保てないため、密着性の高いブチルゴム製ガスケットを使用していた。当該ブチルゴム製ガスケットは自製であり、作成の際にボルト貫通部の穴あけ位置がずれたことから、再度開孔を行ったことで一か所楕円となった部分が、2021年12月取付後から内圧を受け続けたことで一部がせん断され危険物の漏えいに至ったと推測される。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
設計不良	材料	使用材料の強度不足								
施工不良	施工	取り付け不良								
疲労・劣化	環境	常に高圧力下で疲労（想定内の圧力であるが、材料が継続した疲労により損傷等）								
因	関連原因の詳細									
26	被害の状況 ①. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：		
区分								なし		
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況：		
第 三 者		0	0	0	0			2021年12月交換したガスケットが内圧を受け続けたことで5cm程度が破断し、その部分が機器の外側にはみ出た状況となり、危険物が漏えいする。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況：
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	第4類 引火性液体 水溶性液体 指定数量:400
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	第1石油類 メタノール・樹脂混合液 340L流出
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <input type="text" value="1万円以上"/> (<input type="text" value="2"/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5)					
現場到着時に漏えいは止まっていたこと、流出は防油堤内で収まっていたことを確認し、従業員が回収作業を行っていたことから、現場調査及び安全管理を行う。					同日6時57分に機器の停止及び、ギヤポンプ前後のバルブ閉鎖により漏えいが止まったのを確認した後に、漏えい物の回収、消防機関への通報を行う。					
31 防災活動上の問題点										
32	施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日			年 月 日	定期・自主点検		年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日			年 月 日	気密試験等		年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日	保安検査		年 月 日	年 月 日	
	関係条項				34 当該施設に係る			有・ <input type="text" value="無"/>		
措 置	その他	年 月 日			年 月 日	法令違反の有無		内容：		
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策や所見										
発生機器の対応として、ブチルゴム製ガスケットは応力緩和による面圧の低下がテフロン製ガスケットより大きいことから、ガスケットをテフロン製へと交換する。交換にあたりフランジ面を磨ぎ、面荒れを解消してから使用する。人的要因の対応として、にじみ漏れ発見時の対応として、発見した時間帯が深夜で保全課の業務時間外であったため、経過観察を行ったことにより漏えいが発生した。今後は報告、連絡体制を必要な処置を行えるよう再教育を行う。										

1 事故名	危険物屋外タンク貯蔵所の側板と底板の隅肉溶接線近傍の側板の腐食による廃油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 27日 6時 30分	推定・確定	4 発 見	4月 27日 8時 45分	
5 覚 知	4月 27日 8時 48分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 27日 11時 30分	
7 鎮火・処理完了	4月 27日 14時 00分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北 風速：1.5m/s 気温：25℃ 湿度：64%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学 番 号 (1731) 工業製品製造業 石油化学系 基礎製品製造業(一貫して生産 される誘導品を含む)		11 発 生 場 所		
			区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：水島臨海地区		
			16 発生施設規制区分等		
			施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 廃油LE及び廃油HEの混合液 18,800L 18.8倍		
12 施 設 装 置	名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)		倍数の合計： 18.8倍		
	能 力：		設置の完成：平成 10年 4月 10日 直近の完成：令和 2年 10月 5日		
13 機 器 等	温 度 圧 力：常温、常圧		17 物 質 の 区 分		
	名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：廃油LE及び廃油HEの混合液(18L)		
	規 模：内径2,900mm、高さ3,000mm、容量18.8KL		18 取扱者の概要		
14 発 生 箇 所	名 称：タンク側板 番 号 (101)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
	材 質：ステンレス		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		
15 発 生 時	運 転 状 況：受入中 番 号 (9)		1. 有 ②. 無		
	作 業 状 況： 番 号 ()				
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 製造所の精製塔からの廃油受入中、4月27日6時30分頃の夜勤者パトロールでは異常なく、8時40分頃に通掛った従業員が異臭に気付き、周辺を確認したところ漏えいを発見した。腐食により、危険物屋外タンクの底板と側板を繋ぐ溶接線から内容物の廃油が細い線状で漏えいしていたもの。8時48分班長が119番通報を実施。自衛消防隊が出勤するとともに、製造所の停止操作を行った。漏えい部位はパテ埋めを実施し、パテ固結後に漏えいは停止した。火災の発生、人的被害、環境への影響はない。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因 維持管理不十分							
	発生原因の状況： 危険物屋外タンクの壁面で凝縮した水分が側板を伝わり、少量の水分がタンク内に混入し、内容物と接触することで酸を含む水が発生、その水と接触した部分が腐食し、底板と側板を繋ぐ溶接線近傍の側板から廃油18Lが流出したものの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	腐食		環境		工程の中で腐食環境の生成（塩素イオン、水素イオン、酸、硫化物等）			
	関連原因の詳細							
	設備		監理・保守		点検・整備		点検内容が不適切	
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害						28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： なし。
区分								
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 当該タンク側板と底板との隅肉溶接部の側板側母材に複数の開口部あり。
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	5 台 0 隻 0 機	12 人	自 衛	2 台 0 隻 0 機	148 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性) 廃油LE及び廃油HEの混合液 18L流出		
消 防 団	0 台 0 隻 0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機	0 人			
海上保安部	0 台 0 隻 0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機	0 人			
その他の機関	3 台 0 隻 0 機	6 人	その他	0 台 0 隻 0 機	2 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (650 万円)		
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 警戒待機及びガス検知				自衛防災・消防組織等 番号 (99) 警戒待機及びガス検知				
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策や所見	想定した水分混入原因の対策を実施すること、タンク内の水分管理を実施することで再発防止を図る。また、水分管理に加え定期的な超音波厚さ測定、開放点検を実施する。補修については、既存材料と比較して耐食性の高い材料に変更する。							

1 事故名	腐食劣化等による灯油約900Lの流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 13日 13時 00分	推定・確定	4 発 見	5月 13日 13時 00分	
5 覚 知	5月 14日 14時 42分	6 鎮 圧 応急処置完了	5月 14日 15時 00分		
7 鎮火・処理完了	5月 14日 15時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨	風向：	風速：	気温：	湿度：
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 農業 農業 農業サービス業 番 号 (131) (園芸サービス業を除く) 穀 作サービス業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： 送風機ジェットバーナー給油用配管		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,900L 1.9倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模： 送油管SGP25A		倍数の合計： 1.9倍 設置の完成： 令和 4年 5月 10日 直近の完成： 令和 4年 5月 10日		
14 発 生 箇 所	名 称： その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質： 鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油(900L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号 (7) 作 業 状 況： その他 番 号 (99)		18 取 扱 者 の 概 要	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ②. 無	
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の 取扱・立会い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： 5月9日に屋外タンクへ給油。5月13日に異常に燃料が減っていることに気付き、設置業者に点検を依頼。13日は雨天のため、流出箇所 の特定に時間を要し、翌日14日に敷地法面から田んぼの用水路に地下水と一緒に油分が染み出ているのを確認し吸着マット、吸着剤の 散布を行い対応。屋外タンクから各施設への配管を減圧により確認したところ、送風機ジェットバーナーの給油用配管から漏れている ことを確認し、その配管は直ちに使用不能とした。13時に原因が判明したことから漏えい事故として消防本部へ通報。運転に使用した 量もあるが、多く見て900Lが流出。灯油は建物内で漏えいして地面へ浸透し、農業用水路へ一部流出したもの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()				
	関連原因								
	発生原因の状況： 既設配管の経年劣化による破損が原因と考える。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）				
	関連原因の詳細								
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害				28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名		
区分									
当 事 者		0	0	0	0				
防災活動従事者		0	0	0	0				
第 三 者		0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	1 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油 900L									
損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円									
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99) 状況確認				自衛防災・消防組織等 番号 (4) 吸着マット 吸着剤を散布					
31 防災活動上の問題点 流出しているのを確認するためとはいえ1日たって消防への通報だった。									
行政措置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	令和 4 年	5 月	14 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	令和 4 年	5 月	20 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項			保安検査	年 月 日	年 月 日		
その他	流出原因が詳細にわかるまで使用停止 年 月 日			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 完成検査済証を交付する前に危険物施設を使用していたので法第12条第2項に該当 また7月19日現在においても保安監督者の未選任のため法第13条第1項に該当				
35 今後の対策や所見	定期的に現場の状況を確認し、必要があれば吸着マット、吸着剤等の散布 施設の(配管を含む)維持管理の徹底と定期点検の実施								

1 事故名	廃油を屋外タンクへ移送する際の過送油による漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 27日 11時 00分	推定・確定	4 発 見	6月 27日 11時 05分	
5 覚 知	6月 27日 12時 12分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 27日 11時 20分	
7 鎮火・処理完了	6月 27日 12時 20分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北東 風速：1.3m/s 気温：30℃ 湿度：70%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 医薬品製 番号 (1761) 造業 医薬品原薬製造業		11 発 生 場 所		
			区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
			16 発生施設規制区分等		
			施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 廃油 1,800L 9倍		
12 施 設 装 置	名 称： その他のタンク 番 号 (1299) 能 力： 18,000L				
13 機 器 等	温 度 圧 力：				
	名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模： 18,000L				
14 発 生 箇 所	名 称： 容器本体 番 号 (108) 材 質： ステンレス		設置の完成： 平成 29年 8月 1日 直近の完成： 年 月 日		
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 点検中 番 号 (5)		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： 廃油(600L)		
			18 取 扱 者 の 概 要		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 屋外タンクへ廃油を移送する作業中に、過送油により同タンクから廃油が漏えいした事故である。作業員は送油作業場所の液面計であらかじめ同タンクの容量を確認し、送油を行っても同タンク容量が100%にならないことを確認していたが、同タンクは、移送する液体の比重により、正確な%を示さないケースがあるため、80%を目安として送油を停止することを社内でルール化していた。しかし、当日の作業員はそのことを知らず100%を目安としてしまったため、結果として過送油となりタンクから廃油が漏えいしたものの。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： タンクへ移送する液体の比重により、液面計の目盛りが実際のタンク容量と違った数値を示すことを社内で周知し、漏えい防止のため80%までの移送にとどめるようルール化していたものの、事故当日の作業員がそのことを把握していなかった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	制度		規則・手順		内容・周知		周知不足			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 廃油600Lが防油堤内に流出。防油堤外には漏えいなし。		
区分										
当事者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第三者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 廃油600Lが防油堤内に流出。設備等の破損はなし。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消防機関	1台	0隻	0機	2人	自衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： 第4類第1石油類非水溶性(廃油)600Lが防油堤内に流出。
消防団	0台	0隻	0機	0人	共同	0台	0隻	0機	0人	
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応援	0台	0隻	0機	0人	
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
被害状況の確認と原因の調査。										
31 防災活動上の問題点 消防機関への通報が漏えい確認から1時間7分後であった。										
行政措置	施設名	屋外タンク貯蔵所			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和3年10月5日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="checkbox"/> 無		
その他	従業員教育、再発防止を指導 令和4年6月28日			年 月 日			内容：			
35 今後の対策 や所見	当該事業所からの申し出により、液面計上限警報を設置し、ポンプ停止のインターロックを設置することとした。また、作業する上での保安に関する事項を作業員に再度周知徹底することとした。									

1 事故名	屋外タンク貯蔵所から移動タンク貯蔵所へのC重油払出し作業中の仮設ホースの破損によるC重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	7月 20日 9時 55分		
5 覚 知	7月 20日 9時 58分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 20日 10時 33分	
7 鎮火・処理完了	7月 20日 10時 33分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西南西 風速：1.9m/s 気温：28℃ 湿度：				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学 番号 (1731) 工業製品製造業 石油化学系 基礎製品製造業(一貫して生産 される誘導品を含む)	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：水島臨海地区				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) C重油 230,000L 115倍				
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分				
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201)	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
能 力：容量(230KL)	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：C重油(26.7L)				
13 機 器 等	18 取扱者の概要				
名 称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 3. 不要				
規 模：内径50.8mm、外径64.8mm、許容圧力0.7MPa、 使用温度範囲-10~50℃	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
14 発 生 箇 所	23 事 故 の 概 要： 屋外タンク貯蔵所のC重油貯蔵タンク(U-90A)本体建て替え及び品名変更の為に、仮設ポンプ及びホースを用いて、当該タンクからローリーへC重油の移庫作業を令和4年7月11日から開始した。7月20日事故発生当日、8時40分より同様の作業を再開した。同日9時55分、C重油移庫作業を行っていた主査Aが防油堤内にある仮設吐出ホースからC重油が漏れいしていることを発見した。直ちに主査Aは仮設ポンプを停止し、当該タンクブロー弁(以下抜き出し弁と記す)を閉止した。その後、主査Aは漏えいが停止したことを確認した上で、防油堤外に退避し、漏えい発生を消防局へ通報(119番)した。消防指揮車隊が到着後、現場を確認し同日10時33分、重油の漏えいが停止していることを確認した。C重油移庫設備の漏えい箇所を特定するために、仮設サクシオンホース・仮設ポンプ・仮設吐出ホースを検査した結果、仮設吐出ホースの破断を確認した。漏えい量は26.7L。				
名 称：ホース(給油、注油及び注入ホースを除く) 番号 (211)	24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止				
材 質：その他					
15 発 生 時					
運 転 状 況：払出中 番号 (10)					
作 業 状 況： 番号 ()					
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無

原因	25 主 原 因 破 損		着火原因		番号 ()				
	関 連 原 因 維持管理不十分								
	発生原因の状況： 仮設ポンプの吐出側に仮設ホースをねじれた状態で接続したことにより、ホースの耐圧性能が低下し、更に、ポンプの脈動がホースへ伝わり、周期的な揺動が発生したことで繰り返し応力が作用し、硬質PVCと耐油耐候性特殊ゴムの境界面から亀裂が生じ、破断・漏えいに至ったと推察する。								
	主要原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	破損		定常運転時		異常圧力上昇等				
	関連原因の詳細								
	制度		規則・手順		内容・周知		規則・手順がない/文書化されない		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害						28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名		
区分									
当 事 者		0	0	0	0				
防災活動従事者		0	0	0	0				
第 三 者		0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						被災影響範囲及び拡大の状況： C重油は、防液堤内でとどまり、屋外タンク貯蔵所の区画外へ流出していない。			
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	4 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
						物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)C重油 26.7L流出			
						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (15 万円)			
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99) 警戒待機及びガス検知				自衛防災・消防組織等 番号 (4) 仮設ポンプを停止し、タンク抜き出し弁を閉止後、オイル吸着マットを用いて、防油堤内に漏えいしたC重油を回収した。					
31 防災活動上の問題点									
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u>			
その他	年 月 日	年 月 日		内容：					
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策や所見 (対策) 仮設吐出ホースをねじれた状態で接続したことにより、ホースの耐圧性能を低下させたことがホース破断の主因であることが分かったため、今後、ホースを使用する際にはホースの種類によらず、ねじれが無い状態でホースを取り付け、使用することにより事故防止対策を図ることとした。また、ホースの取扱いに関する安全作業指針に、ねじれがない状態でホースを取り付け、使用する旨を反映させる。 (所見) 管内の他の事業所に対しても、本件を教訓とし、同種の事故防止に努めるよう指導を行う必要がある。									

1 事故名	屋外タンク貯蔵所へ重油が流入し、オーバーフローによる流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 17日 4時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 17日 7時 05分	
5 覚 知	3月 17日 8時 35分	6 鎮 圧 応急処置完了	3月 17日 10時 18分		
7 鎮火・処理完了	3月 17日 10時 25分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南西 風速：2.4m/s 気温：9.1℃ 湿度：82.7%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：公務(他に分類されないもの) 番 号 (9531) 国家公務 行政機関 行政機 関	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)				
	特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 40,000L 20倍				
12 施 設 装 置	設置の完成：平成 27年 8月 28日 直近の完成：令和 4年 3月 16日				
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)	17 物 質 の 区 分				
能 力：タンク容量 40,000L	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(4,700L)				
13 機 器 等 温度圧力：	18 取扱者の概要				
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 3. 不要				
規 模：直径3,900mm、高さ3,870mm、容量40,000L	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有				
14 発 生 箇 所	23 事 故 の 概 要： 事故を起こした施設は高低差がある場所に設置された2つの屋外タンク貯蔵所から1つのポンプを通して庁舎ボイラーのサービスタンクに燃料を供給する施設である。サービスタンクに過剰送油した場合に備え、サービスタンクから2つの屋外タンク貯蔵所へ返油管が設置されており、この返油管により2つの屋外タンク貯蔵所が繋がっている構造となっている。本件事案は、運用開始時に定めた操作マニュアルに従って返油管に設置してあるバルブを全て開いた状態で運用していたため、高所に設置しているタンクから低所に設置しているタンクに返油管を通じてサイホンの原理により重油が流入し、通気管から漏えいしたもの。漏えいした重油の量は約4,700Lで、防油堤内に留まっており施設外には流出していない。漏えい発見後、屋外タンク貯蔵所及びポンプ室の各バルブを閉止し、吸着マット等を使用して防油堤内の重油を回収する。なお、当該施設は、平成28年5月に完成し、運用当初からポンプ室及び屋外タンク貯蔵所に設けている返油管のバルブは常時「開」で運用していたが、本件事故発生までの間に、このような漏えい事故は発生していない。				
名 称：通気管 番 号 (304)	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他				
材 質：鋼鉄					
15 発 生 時					
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)					
作 業 状 況： 番 号 ()					
19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者				

原因	25 主 原 因 不明		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 高所にある屋外タンク貯蔵所と低所にある屋外タンク貯蔵所との間で圧力差が生じ「サイホンの原理」により低い場所にあるタンクに重油が流入し、通気管から漏えいしたものと考察する。しかし、平成28年5月に施設が完成してから、今まで事故時の施設運用方法と同じ運用(返油管に設置してあるバルブは常時「開」とする)で事故は発生していない。事故前に、送油管と返油管をリリーフバルブ及び逆止弁を通じて繋ぐ工事を完了させているが、本件事故との関連性を示すことが出来ないため、原因の特定には至っていない。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 屋外タンク貯蔵所の通気管から重油が約4,700L漏えいする。漏えいした重油は防油堤内に留まり、危険物施設内で収まっている。 施設等の被害状況： 被害なし		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油 約4,700L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	43 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5)					
事故原因の調査					屋外タンク貯蔵所及びポンプ室内のバルブを閉止し、防油堤内に溜まった重油を回収する。					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	令和 4 年 3 月 17 日			年 月 日	定期・自主点検	年 月 日 令和 4 年 3 月 16 日			
	改善命令等	年 月 日			年 月 日	気密試験等	年 月 日 年 月 日			
	停止解除	令和 4 年 3 月 17 日			年 月 日	保安検査	年 月 日 年 月 日			
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る	有・ <input type="checkbox"/> 無				
その他	年 月 日			年 月 日	法令違反の有無					
35 今後の対策や所見										
本件漏えい事故は、運用開始当初から、それぞれの返油管バルブを常時「開」にして運用しており、高所のタンクから低所のタンクに重油が流れることによる漏えい事故は発生せず運用してきたが、今後は、どちらかの施設の返油管バルブを「閉」にして使用するよう指導するとともに、人的な誤操作を防ぐ考えから、返油管に逆止弁を設ける再発防止策も伝える。本件事故事案において、事業者はもとより指導を行う消防機関も施設に対する構造等を熟知し、事故に繋がる危険要因を見つけ、指導を行う必要があると考える。										

1 事故名		屋外タンク貯蔵所附属地下埋設配管からの重油流出事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定			4 発 見		3月 30日 15時 00分
5 覚 知		3月 30日 16時 00分			6 鎮 圧 応急処置完了		3月 30日 16時 00分
7 鎮火・処理完了		4月 28日 15時 30分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：東北東		風速： 気温： 湿度：	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 鉱業 鉱業 金属鉱業 鉄鉱 番 号 (513) 業				区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 495,000L 247.5倍			
12 施 設 装 置							
名 称： 固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)							
能 力： 495KL							
13 機 器 等				温度圧力： 0.01Mpa			
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)							
規 模： 直径100A 配管長50m							
14 発 生 箇 所				設置の完成： 昭和 48年 12月 26日 直近の完成： 令和 4年 4月 28日			
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)				17 物 質 の 区 分			
材 質： 鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(84L)			
15 発 生 時				18 取 扱 者 の 概 要			
運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号 (7)							
作 業 状 況： 番 号 ()							
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有							
23 事 故 の 概 要： 本事業所敷地外に敷設される屋外タンク貯蔵所附属配管(船舶からの受入ライン)において、定期の配管漏れ点検で流出事故の可能性 があることが発覚し、配管部周辺の掘削により重油の流出が認められたもの							
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無							

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 当該配管は地下埋設後約40年が経過しており、経年劣化による配管腐食が原因でピンホールが開口、重油が流出したもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
腐食		環境		塩分の影響						
疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）						
因	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 本事業所敷地外に敷設される屋外タンク貯蔵所附属配管（船舶からの受入ライン）から重油が漏えいした。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 経年劣化による配管腐食が原因でピンホールが開口		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0台	0隻	0機	0人	自 衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： 重油が84L漏えい
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人	
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人	
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無				
そ の 他	年	月	日	年	月	日	内容：			
35 今後の対策 や所見	定期に漏れの点検を実施していたことから、早期に危険物の流出を覚知できたが、微量な漏れであれば在庫管理等では容易に覚知できないため、埋設配管については計画的に更新することが必要である。									

1 事故名	屋外タンク貯蔵所の付帯配管工事のために、配管フランジ部を緩めて滞油を回収中、オイル受けから重油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 24日 12時 30分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	10月 24日 12時 50分	
5 覚 知	10月 24日 13時 07分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 24日 14時 01分	
7 鎮火・処理完了	10月 24日 14時 50分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東南東 風速：0.9m/s 気温：18℃ 湿度：44%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： ①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、 <input checked="" type="checkbox"/> 貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：岩国・大竹				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) スロップ油 12,851,000L 64,255倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 64,255倍				
名 称：固定屋根付浮屋根(地上)タンク 番 号 (1203)	設置の完成：昭和 38年 10月 9日				
能 力：タンク容量12,851KL	直近の完成：令和 元年 9月 17日				
13 機 器 等	温度圧力：				
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	17 物 質 の 区 分				
規 模：配管サイズ:14インチ、肉厚:7.9mm	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(566L)				
14 発 生 箇 所	18 取扱者の概要				
名 称：その他 番 号 (999)	①. 選任有 2. 選任無				
材 質：鋼鉄	20 危険物 保安監督者				
15 発 生 時	21 危険物取扱者 の取扱・立会い				
運 転 状 況：改造中 番 号 (16)	1. 有				
作 業 状 況：改造工事中 番 号 (8)	②. 無				
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： 危険物の品名変更を伴う(重油からスロップ油に変更)屋外タンク貯蔵所の付帯配管の工事のために、配管フランジ部を緩めて配管内の滞油を回収中、誤って一度に大量の滞油が排出されたため、設置していたオイル受けから重油が流出したものである。土嚢で漏油の拡大防止を行い回収処置を実施した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 監視不十分									
	発生原因の状況： 現場監督は、配管内の滞油回収作業にあたり、フランジ部からの排出量をコントロールするために、フランジのボルトを1本飛ばしで6本取り外すことを指示した。しかし、作業員が、指示を受けずに下部のボルト2本を追加で取り外しその情報が共有されなかった。排出作業が予定より時間を要す中、排出量を増加するためにフランジスペッターでフランジの隙間を広げたところ、下部のボルトが取り外されていたためガスケットが脱落し、排出量のコントロールができなくなり、オイル受けのパキューム作業が追いつかずに防油堤内に流出した。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	管理		リスクアセスメント		危険意識		危険に対する認識がない/不足			
	関連原因の詳細									
	管理		組織		コミュニケーション		重要情報が伝達されない			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内に漏えいしたものであり、他の施設等への拡大はなし。				
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	60 人	物質の被害状況： 重油が約566L流出したものを。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)				
警戒、調査										
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和 4 年 10 月 15 日	令和 4 年 10 月 23 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	平成 28 年 1 月 28 日	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無			
その他	再発防止策を含む事故報告書、改善計画書の提出を指導 令和 4 年 10 月 26 日				内容：					
35 今後の対策や所見 滞油回収を伴う配管工事については、配管工事と切り分けた滞油回収作業の手順書を協力会社に作成させること、及び、事前に滞油状況等の必要な情報を提供することを事業所の手順書に反映することとした。										

1 事故名	屋外貯蔵タンクへ工場用エアーを使用して圧送したことにより屋根板が破損し潤滑油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 2日 14時 40分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	11月 2日 14時 40分	
5 覚 知	11月 2日 15時 02分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 2日 15時 26分	
7 鎮火・処理完了	11月 2日 16時 05分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南東 風速：1.6m/s 気温：21℃ 湿度：56%				
10 発 生 事 業 所			11 発 生 場 所		
種 別	①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 <input checked="" type="checkbox"/> 第1種、第2種、その他)		区 分	①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)	
業 態	製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		特別防災地区名	岩国・大竹	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称	固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)		施設区分	① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他	
能 力	容量200KL		貯蔵・取扱・運搬の別	貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所	
13 機 器 等	温度圧力：		類・品名・名称・数量・倍数：		
名 称	貯槽(タンク) 番 号 (107)		第4類第3石油類(非水溶性液体)	潤滑油	200,000L 100倍
規 模	内径6,730mm 高さ6,000mm 容量200KL		倍数の合計：	100倍	
14 発 生 箇 所			設置の完成	平成 8年 5月 13日	
名 称	タンク屋根板 番 号 (103)		直近の完成	平成 30年 2月 1日	
材 質	鋼鉄		17 物質の区分		
15 発 生 時			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
運 転 状 況	受入中 番 号 (9)		5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
作 業 状 況			(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧)		
			(低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温)		
			分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：潤滑油(45L)		
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： 屋外貯蔵タンクへ国際輸送用積載式移動タンク貯蔵所から潤滑油を移送中、屋外貯蔵タンクの内圧が上昇し屋根板と側板の接合部が破損、その勢いで潤滑油が防油堤内に漏えいしたものである。屋外貯蔵タンクが破損したため、タンク内の潤滑油については、他のタンクへ緊急移送した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1, 9) 無 装置の緊急停止、緊急排出、緊急移送					

原因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 通常、当該屋外貯蔵タンクへの受け入れは、他のタンクからポンプを使用して移送しているが、原料不足により、臨時的に国際輸送用移動タンク貯蔵所から受け入れることとなり、工場用エアを使用して圧送することとなった。その際、タンク内の空間容積が減った時点でベント排出量を上回り、放爆構造である屋外貯蔵タンクの屋根板と側板の接合部分(片面溶接)が破損、その勢いで潤滑油が漏えいした。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		定常運転時		異常圧力上昇等					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内に留まったもの。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 屋外タンク貯蔵所の屋根及び側板の変形			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	34 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)潤滑油45L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (61 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 警戒・調査						自衛防災・消防組織等 番号 (5、99) 警戒				
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名	危険物屋外タンク貯蔵所			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	令和 4 年 11 月 2 日			年 月 日		定期・自主点検	令和 3 年 11 月 15 日	令和 4 年 11 月 2 日	
	改善命令等	年 月 日			年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日			年 月 日						
35 今後の対策 や所見	・初めて行う作業などは、変更管理を徹底し、有識者を集め安全審議会を開催する。・ブリーザー弁を更新する。・ベント配管の口径を大きくする。									

1 事故名		船舶からの軽油受入時におけるローディングアーム部の軽油漏えい事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		12月 21日 8時 51分	推定・確定	4 発 見		12月 21日 8時 51分	
5 覚 知		12月 21日 8時 51分	6 鎮 圧 応急処置完了		12月 21日 8時 51分		
7 鎮火・処理完了		12月 21日 11時 36分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：西 風速：0.2m/s 気温：3.9℃ 湿度：99.1%					
10 発 生 事 業 所			11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所			区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
			16 発生施設規制区分等				
			施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 3,000,000L 3,000倍				
12 施 設 装 置							
名 称：海上入出荷施設 番 号 (1401)							
能 力：ローディングアーム 約2,000KL/日							
13 機 器 等			温度圧力：0.5Mpa				
名 称：ローディングアーム 番 号 (604)							
規 模：約2,000KL/日			倍数の合計： 3,000倍				
14 発 生 箇 所			設置の完成：平成11年 7月 15日 直近の完成：平成11年 7月 15日				
名 称：パッキング 番 号 (213)			17 物 質 の 区 分				
材 質：ゴム			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(0.2L)				
15 発 生 時			18 取 扱 者 の 概 要				
運 転 状 況：受入中 番 号 (9)							
作 業 状 況： 番 号 ()							
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	
					①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有							
23 事 故 の 概 要： 船からの軽油受入時、ローディングアームの船側スイベル部から軽油の漏えい、陸側スイベル部に軽油の滲みを確認したため揚液ポンプを緊急停止した。軽油の漏えいは推定で200cc。船側のスイベル部には養生用のオイルパンを設けていたため、オイルパン外への流出はなし。陸側スイベル部は拭き取りを実施。死傷者なし。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()								
原 因	関 連 原 因										
	発生原因の状況： ローディングアームスイベル部のパッキンの経年劣化により軽油が漏えい										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層							
	疲労・劣化	素材等の劣化	長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）								
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害			28 物的被害								
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えい量が200mLと少量のため被害なし。				
当 事 者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 経年劣化により、ローディングアームのスイベル部のパッキンに亀裂が発生。				
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油が200mLが流出。	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点											
32 政 措 置	施 設 名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日			年 月 日	定期・自主点検		令和3年9月28日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日			年 月 日	気密試験等		年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日			年 月 日	保安検査		年 月 日	年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			<input type="checkbox"/> 有・無 内容： 定期点検未実施。			
そ の 他	年 月 日			年 月 日							
35 今後の対策や所見 計画的な点検、修理及び消耗部品の交換を行い予防保全に努めるとともに、開放点検結果により必要な措置を講じる。											

1 事故名	タンク間移送中、受入タンクの屋根マンホールからオーバーフローしたもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 26日 14時 30分	推定・ 確定	4 発 見	5月 26日 14時 30分	
5 覚 知	5月 26日 15時 25分		6 鎮 圧 応急処置完了	5月 26日 17時 20分	
7 鎮火・処理完了	5月 26日 19時 00分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気： 風向：北 風速：3m/s 気温：26℃ 湿度：63%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 第2種 、その他) 業 態：製造業 化学工業 油脂加工 番 号 (1752) 製品・石けん・合成洗剤・界面活 性剤・塗料製造業 石けん・合 成洗剤製造業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 番の州地区	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 脂肪酸メチルエステル 433,000L 216.5倍 ルゲーク油蒸留エステル	
13 機 器 等	温度圧力：	14 発 生 箇 所		設置の完成：平成 5年 2月 18日 直近の完成：令和 元年 5月 7日	
14 発 生 箇 所	名称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能力：第4類 第3石油類許可容量 433KL	15 機 器 等		17 物 質 の 区 分	
15 機 器 等	名称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模：縦置円筒型コーンルーフトank事業所呼称タンク名 TA-T161 ステンレス鋼製タンク 内径 8,600mm 高さ 8,090mm	16 発生施設規制区分等		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：脂肪酸メチルエステル(426L)	
16 発生施設規制区分等	17 物 質 の 区 分		18 取扱者の概要		経験年数0年
17 物 質 の 区 分	18 取扱者の概要		19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要
18 取扱者の概要	19 危険物保安 統括管理者		20 危険物 保安監督者		①. 有 2. 無
19 危険物保安 統括管理者	20 危険物 保安監督者		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要	オンラインファイル有				
23 事故の概要	計器室でのタンク容量演算値の表示設定に誤りがあり、正確なタンク内容量が表示されない状態でタンク間移送を行ったため、満量に気付かず、受入タンクのマンホールから貯蔵油がオーバーフローしたもの				
24 緊急処置の状況	有 番号 (1, 8) 無 装置の緊急停止、防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等				

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 監視不十分									
	発生原因の状況： 計器室監視モニターの演算計器の演算値(容量%)の上限数値を88%に設定していたため、それ以上の演算数値表示ができない誤設定状態のまま、TA-T164タンクからTA-T161タンクにタンク間移送を行ったため、タンク容量表示が90%以上で鳴動するアラームが機能せずに、移送状態が継続されたことで、マンホールからオーバーフローして側板を伝い、防油堤内に流出したもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	管理		監督		監査		監査がない			
	制度		規則・手順		内容・周知		周知不足			
	設備		設計		工程・システム設計		安全設計が不適切			
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		確認不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 移送ポンプ停止、タンク元弁閉止及び防油堤内の排水バルブ閉止確認により、防油堤内で留まった			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 保温材に溢流した油が浸潤し、取替え防油堤内土壌に浸透			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	3 人	物質の被害状況： 脂肪酸メチルエステル油426L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	1 台	0 隻	0 機	2 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	7 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (12 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 構内到着後、発災タンクならびに附帯設備の状況確認 事業所外への流出拡大なしを確認し、当該タンクに対し、緊急使用停止命令を発令 事業所側の応急処置が終了するまで警戒待機					自衛防災・消防組織等 番号 (3) 漏えい確認後、移送ポンプを緊急停止 防油堤の排水バルブの閉止確認 タンクレベルを許容容量以下にするため、他工程に緊急移送 応急措置が終了するまで、大型高所放水車を現場直近に配備し、警戒実施					
31 防災活動上の問題点 消防への異常現象の通報が約1時間後であり、危険物事故が周囲に与える影響の大きさに対する認識が不足している。速やかな通報体制の構築のため、社内教育が必要である、二次災害防止に必要な図書や必要不可欠な情報については、情報発信元を災害本部で一元化し、担当者から公設消防に対し、プッシュ型の情報発信が望まれる、指揮本部ならびに現地指揮所が設置されておらず、情報共有が困難であった。 デバイストールの導入もしくはホワイトボードへの板書等により、現場情報の共有を図るべきである。ハインリッヒの法則のとおり、軽微な事故は重大事故に直結する可能性を秘めることから、若年層の危険予知トレーニングの反復が必要である。タンクに事故があった時、緊急移送が必要な場合があるが、空きタンクがなかったため、緊急移送先の確保に困難を極めた。										
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	令和 4 年 5 月 26 日	年	月	日	定期・自主点検	令和 4 年 3 月 2 日	令和 4 年 5 月 25 日		
	改善命令等	年 月 日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	年 月 日	年	月	日						
35 今後の対策 や所見	事故の直接原因となった、担当者による演算計器の設定変更は、漏えい事故発生の潜在危険を多分に抱える操作であるため、今後は許可制とし、複数名で設定確認することが重要である また、フェイルセーフ機能を持ったインターロックを過信せず、従業員による定期監視や確認も並行すべきであると感じた									

1 事故名		屋外タンク貯蔵所付帯配管の開孔による灯油流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		1月 27日 11時 00分	推定・確定	4 発 見		1月 27日 11時 15分	
5 覚 知		1月 27日 11時 27分		6 鎮 圧 応急処置完了		1月 27日 11時 20分	
7 鎮火・処理完了		1月 27日 13時 22分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：曇		風向：北		風速：5m/s 気温：10℃ 湿度：30%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：松山			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 5,000,000L 5,000倍			
12 施 設 装 置							
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)							
能 力：許可容量:5,000KL							
13 機 器 等				温度圧力：			
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)							
規 模：材質:SGP、口径:100A				倍数の合計： 5,000倍			
14 発 生 箇 所				設置の完成：昭和41年 9月 16日 直近の完成：令和3年 4月 27日			
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)				17 物 質 の 区 分			
材 質：鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(1L)			
15 発 生 時				18 取扱者の概要			
運 転 状 況：貯蔵・保管中 番 号 (7)							
作 業 状 況： 番 号 ()							
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 特定屋外タンク貯蔵所の付帯配管に開口が発生し、灯油約1Lが流出したもの。 場内巡回中に従業員が発見し、応急措置を実施。負傷者等なし。河川への流出なし。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他							

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 当該配管の架台接触部に雨水が滞留し、滞留箇所が湿潤環境になっていたため、配管の外表面腐食を発生させたと推測する。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 事業所敷地内(配管下部約1㎡)		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 付帯配管3mm開孔		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	5 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油 約1L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (10 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 (4、5)					
調査活動										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	令和 4 年 1 月 27 日	年 月 日	定期・自主点検		令和 3 年 5 月 11 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等		年 月 日	年 月 日			
	停止解除	令和 4 年 3 月 18 日	年 月 日	保 安 検 査		年 月 日	年 月 日			
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	年 月 日	年 月 日								
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策 や所見	流出の事故調査を行い、改修を指導。 水平展開し、場内の類似箇所の点検を指導。									

1 事故名	製造所から屋外タンクに向かう配管の内部腐食による廃油の漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 1日 5時 00分	推定・確定	4 発 見	2月 1日 5時 30分	
5 覚 知	2月 1日 5時 54分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 1日 6時 35分	
7 鎮火・処理完了	2月 1日 6時 35分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南 風速：2.4m/s 気温：4℃ 湿度：46%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				11 発 生 場 所
					区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 菊間地区
					16 発生施設規制区分等
					施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 廃油 6,500,000L 32,500倍
12 施 設 装 置					設置の完成：昭和 49年 8月 28日 直近の完成：令和 3年 5月 28日
名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)					17 物 質 の 区 分
能 力：高さ16,750mm、内径23,240mm					
13 機 器 等	温 度 圧 力：60℃、0.08Mpa				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： 廃油(200L)
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)					
規 模：炭素鋼、外径165.2mm、スケジュール40、 公称厚さ7.1mm、保温材厚さ50mm					18 取扱者の概要
14 発 生 箇 所					
名 称：管継手(ダクトを含む) 番 号 (201)					①. 選任有 2. 選任無 3. 不要
材 質：鋼鉄					
15 発 生 時					21 危険物取扱者の の取扱・立会い
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)					
作 業 状 況： 番 号 ()					①. 有 2. 無
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 定期パトロール中の職員が強い臭気を感じたため、周囲を確認したところ、配管ラック上に敷設されている製造所から屋外タンクに向かう配管の保温材継ぎ目から、危険物が漏えいしているのを発見。消防に通報したのち、送油の停止措置及び、漏えい箇所をバルブ閉鎖によって、漏えい停止。漏えい危険物は、吸着マットにて回収。人的被害なし。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 配管外面に腐食はなく、開口部付近のみ板厚が薄くなっていること、配管内を流れる危険物には、腐食性物質が含まれていることから、腐食性物質が堆積した箇所、局部的に腐食が進行、開口したものと推定。 腐食性物質が堆積した理由は、製造所から屋外タンクには、100から200L/hの速さで危険物が送油されていたが、2020年10月からは、内部開放検査、補修工事のため、別の屋外タンクに送られていた。そのため、配管の分岐箇所から通常送られる屋外タンクまでの配管内では、危険物の流れが停滞し、堆積したと考えられる。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		デポジット腐食（堆積物下腐食、付着物下腐食）						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 配管敷設箇所に沿って、長さ10m、幅5mの範囲に危険物が漏えい。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管母材部に約7mmの開口。			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	8 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)廃油200L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額	1万円未満、1万円以上 () 万円)		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 警戒、調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (5、99) 警戒活動					
31 防災活動上の問題点											
行政措置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所			屋外タンク貯蔵所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和3年7月22日	令和4年1月5日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日
	関係条項							34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容：		
その他	破損箇所を改修すること。令和4年2月8日 ①. 文書 2. 口頭			類似箇所の配管を点検すること。令和4年2月18日 1. 文書 ②. 口頭							
35 今後の対策や所見		長期にわたって、配管内に危険物が残留、停滞する配管に対して、油抜き及び再使用時の気密検査などの指導を行う必要性を感じた。									

1 事故名	発電所内の屋外タンクからオーバーフローによる重油流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 3日 20時 38分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	8月 3日 20時 39分	
5 覚 知	8月 3日 20時 39分	6 鎮 圧 応急処置完了	8月 3日 20時 39分		
7 鎮火・処理完了	8月 3日 23時 30分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気:	風向:	風速:	気温:	湿度:
10 発 生 事 業 所	種 別 : 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態 : 電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所		11 発 生 場 所	区 分 : ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名:	
12 施 設 装 置	名 称 : 固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能 力 : 30KL		16 発生施設規制区分等	施設区分: ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別: 貯蔵所 施設別: 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数: 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 30,000L 15倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力 : 60℃ 名 称 : 貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模 : 30KL セットリングタンク		倍数の合計: 15倍 設置の完成: 平成 11年 3月 18日 直近の完成: 年 月 日		
14 発 生 箇 所	名 称 : その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質 : その他		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分類: 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称: C重油(486L)	
15 発 生 時	運 転 状 況 : 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況 : 運転操作中 番 号 (1)		18 取扱者の概要	経験年数30年	
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要: オンラインファイル無					
23 事故の概要: 事業所内において、セットリングタンクレベル以上の意警報が発報。現場確認したところ、オーバーフロー配管出口受槽より重油が溢れているのを確認。 溢れた重油は、防油堤内にとどまり構外に流出していないことを確認。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()		
	関 連 原 因 操作未実施、操作未実施						
	発生原因の状況： チェックハンドルが自動的に戻るものだと思い込んでいた。 (転動前に自動的に戻る機器を操作した経験があった。)						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		
	人		本人の知識・能力		知識		
	人		本人の意識		思慮		
					その他		
					思い込み		
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害				28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	
区分						職業又は職名	
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)C重油486L流出							
損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円							
30 実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 (99) 通報者から状況聴取を実施。人的被害もなく流出は停止しており、現場状況を確認し引き上げた。				自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点							
32 行政措置	施設名			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	年 月 日
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>	
その他	年 月 日	年 月 日			内容：		
35 今後の対策 や所見		機器の操作について職員に再教育を行う。					

3 屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所

1 事故名	液面計の故障によってオーバーフローした重油が、屋内タンクに設置されている液面計の開口部から流出したもの					
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生	4月 25日 10時 00分	推定・確定	4 発 見	4月 25日 12時 30分		
5 覚 知	5月 12日 15時 00分			6 鎮 圧 応急処置完了	5月 12日 16時 30分	
7 鎮火・処理完了	5月 12日 16時 30分					
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況	天気：曇		風向：西北西		風速：2.7m/s 気温：-14℃ 湿度：28%	
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：公務(他に分類されないもの) 番号 (9611) 地方公務 都道府県機関 都 道府県機関			11 発 生 場 所		
				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
				16 発生施設規制区分等		
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋内タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 16,200L 8.1倍		
12 施 設 装 置						
名 称： 屋内タンク	番 号 (1208)					
能 力： 第4類第3石油類 重油 16,200L(中仕切り)						
13 機 器 等	温 度 圧 力：					
名 称： 貯槽(タンク)	番 号 (107)					
規 模： 全長5,000mm、幅1,800mm、高さ2,000mm、 容量16,200L(2,900L:13,300L)				倍数の合計： 8.1倍		
14 発 生 箇 所				設 置 の 完 成： 昭和 40年 11月 17日 直 近 の 完 成： 昭和 40年 11月 17日		
名 称： 指示計器	番 号 (307)			17 物 質 の 区 分		
材 質： 鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(10L)		
15 発 生 時				18 取 扱 者 の 概 要		
運 転 状 況： 受入中	番 号 (9)					
作 業 状 況：	番 号 ()					
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無						
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所から屋内タンクへの受け入れ時に、屋内タンクの最大容量を超えて荷卸しを行ったため重油がタンク専用室内の床上に流出したもの 以前から液面指示計が故障していたため、推定在庫量のみで荷卸しの発注依頼を行っていたため、実在庫量との誤差によりオーバーフローした。 重油の臭気が強かったためタンク専用室内を確認したところ、重油が床に流出したことを確認し、油処理業者に連絡を行い、後日の対応となった。油の処理についての知識がなかったため、そのまま放置することとした。 後日、油処理業者が現地を訪れたところ、油が床(コンクリート)のひび割れ部分等から浸透してしまった状態であったため処理ができなかった。 警察本部から消防機関へ通報するように指導を受け、消防機関に通報に至った。						
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無						

原因	25 主 原 因 故障		着火原因				番号 ()			
	関連原因									
	発生原因の状況： 液面計が故障していたことにより、最大容量を超えて油の受け入れがあったことが原因によりオーバーフローした重油が流出したもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	故障		機能		機器の機能の停止					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： タンク専用室内の流出のみ		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 液面計の故障		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 重油10L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
調査活動										
31 防災活動上の問題点 事故発生から消防機関への通報まで期間があり、通報の遅れが認められる。										
行政措置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検			年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等			年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査			年 月 日	年 月 日	
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・無 内容：		
その他	年 月 日	年 月 日								
35 今後の対策や所見 液面計の故障していることを知りつつ起きた事故であり、大変遺憾である。 関係者に対して法令順守の徹底を指導したところであるが、同種同様の事故防止のため、他の事業者に対しても本事例を踏まえ指導を行っていきたい。										

1 事故名		屋内タンクからボイラーへの埋設配管の腐食による灯油の流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定	4 発 見		10月 20日 9時 00分						
5 覚 知		10月 25日 15時 51分	6 鎮 圧 応急処置完了		10月 25日 18時 00分						
7 鎮火・処理完了		1月 0日 0時 00分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：曇		風向：東		風速：2m/s	気温：12℃	湿度：49%			
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所							
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：医療・福祉 社会保険・社会福 番 号 (7542) 社・介護事業 老人福祉・介護 事業(訪問介護事業を除く) 介護老人保健施設				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：							
				16 発生施設規制区分等							
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋内タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 12,500L 12.5倍							
12 施 設 装 置											
名 称：ボイラー施設 番 号 (1505)											
能 力：											
13 機 器 等				温度圧力：							
名 称：ボイラー 番 号 (404)											
規 模：暖房及び給湯用ボイラー				倍数の合計： 12.5倍							
14 発 生 箇 所				設置の完成：平成 5年 10月 25日 直近の完成：平成 12年 12月 25日							
名 称：給油管等 番 号 (907)				17 物 質 の 区 分							
材 質：鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(8,000L)							
15 発 生 時				18 取扱者の概要							
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)											
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)											
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		1. 有 ②. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： タンクの残量を毎日確認しているが、通常時より多く減少していた。通常の使用量と減少量を比較すると約8,000L減少したものと推定される。敷地外のU字溝に油の流出が確認されたため油吸着マットにより油の回収を行っている。付近の河川及び河川の河口付近を確認するも油の流出は確認されていない。											
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無											

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 地下埋設配管の経年劣化による腐食										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		防食		防食塗装・被覆剥離(経年による剥離)						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 埋設配管から灯油約8,000Lが地中に漏えいし施設外の側溝内に流出した。流出範囲は敷地境界線隣接の側溝に収まっている。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 地下埋設配管の経年劣化による腐食により灯油が事業所敷地内の地中に流出			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油8,000L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (5) 側溝の水を土のうでせき止め吸着マットにて流出した油を回収						自衛防災・消防組織等 番号 (4) 配管の一次側(タンク側)をバルブで閉止した。					
31 防災活動上の問題点 施設従業員が油漏えい等の事故通報義務を理解していなかった。そのため、油漏えいが予想された時から3日後の通報となった。											
行政措置	32 施設名	屋内タンク貯蔵所			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	令和4年	7月	27日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無			有・ <input type="checkbox"/> 無			
その他	警告 令和4年11月4日			年 月 日			内容：				
35	今後の対策や所見 危険物施設の漏えい事故等の初動体制について従業員へ周知を図った。										

1 事故名	屋外タンク貯蔵所から屋内タンク貯蔵所へ送油する配管の腐食によるA重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 14日 15時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	2月 14日 17時 15分	
5 覚 知	2月 14日 17時 35分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 14日 17時 30分	
7 鎮火・処理完了	2月 14日 19時 30分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北 風速：1.7m/s 気温：3℃ 湿度：68%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 鉄鋼業 鉄素形材製 番 号 (2353) 造業 鋳鋼製造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： 屋内タンク 番 号 (1208) 能 力： 第3石油類 A重油 5,000L		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋内タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 5,000L 2.5倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 常温、常圧 名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模： SGP40A 全長85m		倍数の合計： 2.5倍 設置の完成： 昭和 36年 11月 6日 直近の完成： 令和 4年 2月 25日		
14 発 生 箇 所	名 称： 配管の架台、サポート 番 号 (217) 材 質： 鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： A重油(3L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 受入中 番 号 (9) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 屋外タンク貯蔵所のポンプ設備を15時頃に停止後、17時15分に油臭がするとのことで配管からの漏えいを発見した。配管漏えい部分の下にペール缶及び吸着マットを敷き、消防へ通報した。その後、側溝及び排水管部の中和剤処理を実施した。なお、事業所敷地外への流出はなかった。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()								
原 因	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 配管カバーの経年劣化により内部の保温材に雨水が浸入し、腐食披露等劣化が進行したものの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層							
	腐食	環境	多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）								
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害			28 物的被害								
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 事業所敷地内の側溝及びマンホール内に流出				
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： SGP40A配管約10cm腐食し、ピンホール1箇所発生				
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	3台	0隻	0機	8人	自 衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)A重油 3L漏えい	
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人		
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人		
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人		
							損害額 1万円未満、 1万円以上 (40 万円)				
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動											
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名	屋内タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日	定期・自主点検	年 月 日			
	改善命令等	令和4年 2月 14日				年 月 日	気密試験等	年 月 日			
	停止解除	年 月 日				年 月 日	保安検査	年 月 日			
	関係条項	法第12条第2項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無				
	その他	年 月 日					年 月 日				内容：
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭											
35	今後の対策 や所見	配管カバーを外しての目視点検及び配管の計画的更新の検討が必要									

1 事故名		屋内タンク貯蔵所からボイラーへの配管の腐食による重油の流出						
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生		6月 7日 13時 00分	推定・確定	4 発 見	6月 7日 14時 00分			
5 覚 知		6月 7日 17時 47分			6 鎮 圧	6月 7日 19時 22分		
7 鎮火・処理完了		6月 28日 10時 30分			6 応急処置完了			
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：西 風速：3.2m/s 気温：20.3℃ 湿度：46.1%						
10 発 生 事 業 所			11 発 生 場 所					
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： サービス業(他に分類されない番号(8213)もの) 洗濯・理容・美容・浴場業 洗濯業 リネンサプライ業			区 分： ①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋内タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 8,000L 4倍					
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分					
名 称： 屋内タンク 番 号 (1208) 能 力： 8,000L			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(100L)					
13 機 器 等			18 取 扱 者 の 概 要					
温 度 圧 力： 名 称： ボイラー 番 号 (404) 規 模： 燃料消費量 300L/日			1. 選任有 2. 選任無 3. 不要					
14 発 生 箇 所			20 危 険 物 保 安 監 督 者		21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い			
名 称： フレキシブル管継手(ダクトを含む) 番 号 (202) 材 質： 鋼鉄			1. 選任有 2. 選任無 3. 不要		①. 有 2. 無			
15 発 生 時			22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要：					
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()			オンラインファイル無					
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者			23 事 故 の 概 要：					
1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要			屋内タンク貯蔵所から消費施設の屋内蒸気ボイラーサービスタンクへ送油する鋼管から、重油約100Lが流出して土壌浸透及び水面に貯留したもの。敷地外への流出無し。					
24 緊 急 処 置 の 状 況			有 番 号 () 無					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 配管が屋外から工場内へ貫通する部分に設置されている点検柵周囲が地盤沈下で陥没しており、蒸気ボイラーの蒸気復元水が点検柵付近に常時滞留していた。これにより、水没した点検柵内の配管が腐食し、フレキシブル配管のサービスタンク側の鋼管ネジ接合部が損傷したことにより、重油が漏えいしたものの。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 当該敷地内のみの流出		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管の損傷		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)重油100L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (1 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 発生事業所の従業員により実施された漏えい防止措置の確認				自衛防災・消防組織等 番号 (4) 重油の流出箇所にオイル吸着マットを設置						
31 防災活動上の問題点										
32 施設名					33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：		
そ の 他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策や所見 今後の漏えい事故防止対策として、目視による点検ができること及び地盤沈下に対応するため、送油管を露出配管に敷設替えした。配管の完成検査時に関係者に対し、定期的に目視による点検を実施するよう指導した。										

1 事故名	廃棄アセトンの移送作業中、移送先である屋内タンク貯蔵所の通気管よりアセトンが流出した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 9日 7時 30分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	9月 9日 7時 50分	
5 覚 知	9月 9日 10時 15分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 9日 11時 00分	
7 鎮火・処理完了	9月 9日 11時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：西北西 風速：2m/s 気温：24℃ 湿度：94%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 その他の製造業 他 番 号 (3299) に分類されない製造業 他に 分類されないその他の製造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋内タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(水溶性液体) アセトン 6,000L 15倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 屋内タンク 番 号 (1208)			設置の完成： 平成 28年 7月 4日 直近の完成： 令和 4年 8月 12日	倍数の合計： 15倍	
能 力： 容量6,000L			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
13 機 器 等	温度圧力：			5. 毒物 6. 劇物 7. その他	
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)			(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧)		
規 模： 内径1.85m、高さ2.4m、容量6,000L			(低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温)		
14 発 生 箇 所			分 類： 第4類第1石油類(水溶性液体) 名称： アセトン(130L)		
名 称： 通気管 番 号 (304)			18 取扱者の概要		経験年数1年
材 質： ステンレス			①. 選任有 2. 選任無		21 危険物取扱者の の取扱・立会い
15 発 生 時			3. 不要		1. 有 ②. 無
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)					
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)					
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： 令和4年9月9日午前7時50分ころ、工場内にて施設従業員が製造工程で発生する廃棄アセトン約280Lの移送作業を行ったところ、移送先である危険物屋内タンク貯蔵所の通気管よりアセトン約130Lが流出した。流出範囲は工場内で留まっており、けが人等は無し。漏えいしたアセトンの全ては、工場内の排水等貯蔵施設へ流入したため当時貯蔵されていた排水約2,000Lすべてを除去し、産業廃棄物処理業者へ引き渡した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送					

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因 操作確認不十分							
	発生原因の状況： 移送作業は創業当時から行っており、その際漏えい等の事故がなかったため、従業員は通常通りの作業で漏えい等の事故は発生しないであろうという意識があった。また、工場内に設置されている移送ポンプからは屋内タンク貯蔵所の貯蔵量を確認することができない状況であった。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	人		本人の意識		思慮		思い込み	
	人		本人の意識		思慮		配慮不足	
	人		本人の意識		思慮		過信	
	関連原因の詳細							
	設備		設計		工程・システム設計		安全設計が不適切	
管理		リスクアセスメント		危険意識		危険に対する認識がない/不足		
環境		社会的環境		雰囲気		安全に対する意識が低い		
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害						28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	
区分								
当 事 者		0	0	0	0			
防災活動従事者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						被災影響範囲及び拡大の状況： 屋内タンク貯蔵所の通気管より廃棄アセトン130Lが流出した。流出範囲は、事業所内で収まっている。		
消 防 機 関		0台	0隻	0機	0人	自 衛	0台 0隻 0機 0人	
消 防 団		0台	0隻	0機	0人	共 同	0台 0隻 0機 0人	
海上保安部		0台	0隻	0機	0人	応 援	0台 0隻 0機 0人	
その他の機関		0台	0隻	0機	0人	その他	0台 0隻 0機 0人	
						物質の被害状況： 第4類第1石油類(水溶性)アセトン130L流出		
						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (7 万円)		
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点 消防機関へ通報せず流出防止措置を優先した結果、事故発生から2時間程度経過した状態で通報した。								
行政措置	32 施設名		屋内タンク貯蔵所		33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	使用停止		年 月 日	年 月 日	定期・自主点検		年 月 日	令和4年9月8日
	改善命令等		年 月 日	年 月 日	気密試験等		年 月 日	年 月 日
	停止解除		年 月 日	年 月 日	保安検査		年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無	
その他		警告：法13条(保安監督業務の適正な遂行) 令和4年9月28日		年 月 日		内容： 消防法第13条第1項及び第3項		
①. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策や所見 適正な保安監督業務の遂行及び再発防止計画書等の提出								

1 事故名	屋内タンク貯蔵所のポンプ圧力によりフランジパッキンの膨らみから重油が漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 12日 18時 00分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 12日 18時 00分	
5 覚 知	3月 30日 15時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 24日 10時 00分	
7 鎮火・処理完了	3月 28日 15時 20分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南東 風速：0.6m/s 気温：15℃ 湿度：65%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 情報通信業 情報サービス業 番 号 (3921) 情報処理・提供サービス業 情 報処理サービス業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： 屋内タンク 番 号 (1208) 能 力： 重油20,000L		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋内タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 20,000L 10倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 常温、0.1Mpa 名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模： 直径52.9mm(呼び径50A)		倍数の合計： 10倍 設置の完成： 平成 27年 11月 13日 直近の完成： 年 月 日		
14 発 生 箇 所	名 称： パッキング 番 号 (213) 材 質： ゴム		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(50L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取扱者の概要	経験年数27年	
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 過度なポンプ圧力によりフランジパッキンが破損し、漏えいしたもの。当日の作業及び運転等は無。応急的にポンプ側のバルブを閉止。漏えいした重油はウエスで拭き取り後、散水にて清掃。配管から29Lの重油を抜取後、パッキンを交換。その後、ポンプを試運転し、漏えいがない旨を確認した後に消防機関へ報告した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因 維持管理不十分										
	発生原因の状況： 過去に過度なポンプ圧力によりフランジパッキンが膨張して破損して漏えいし、周辺に飛び散ったもの。										
	主原因の詳細										
因	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）						
	関連原因の詳細										
	管理		監督		監査		監査がない				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 周辺に飛散し、壁面下部にある側溝に若干の重油が残っていた。また微量ではあるが油分離槽への流入もみられた。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 危険物屋内タンク貯蔵所10・11号タンク、系統送油配管のバルブのフランジパッキンの破損により漏えい。			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量:2,000 第3石油類 重油50L漏えい。 ゴム製フランジパッキン破損。	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点 直ちにしなければならないという認識がなく、通報が事故発生から18日後であった。											
政 策 措 置	32 施設名	屋内タンク貯蔵所(B1 10、11号タンク)				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	年 月 日		令和4年4月25日		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無				
その他	早期の通報を指導 令和4年4月21日		年 月 日		内容：						
35 今後の対策 や所見	<ul style="list-style-type: none"> ・バルブ周辺をモルタルで囲い溜枳を造り、溜枳内に漏油センサーを設置して遠方監視することを検討。 ・自主点検に今回漏油した配管系統のフランジ部分の点検も項目に明記する。 ・送油ポンプ運転時は2階の移送ポンプ制御内の運転電流を確認する。 ・工事等で給油配管バルブの開閉を行う作業がある場合は必ずチェックリストを作成して確認にあたる。 ・漏油発見時は規模の大小に関わらず、直ちに消防機関に通報する。 										

1 事故名	灯台用発電設備の戻り配管が破損したことによる屋内タンク貯蔵所からの軽油の流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	3月 2日 10時 40分
5 覚 知	3月 2日 17時 35分	6 鎮 圧 応急処置完了	3月 2日 16時 30分
7 鎮火・処理完了	3月 3日 11時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西 風速：2.8m/s 気温： 湿度：		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：公務(他に分類されないもの) 番 号 (9531) 国家公務 行政機関 行政機 関	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋内タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 1,300L 1.3倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 1.3倍		
名 称： 屋内タンク 番 号 (1208)	設置の完成： 平成 8年 2月 7日		
能 力： 1,300L	直近の完成： 平成 8年 2月 7日		
13 機 器 等	17 物 質 の 区 分		
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
規 模： 縦691mm、横691mm、高さ1,491mm	5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
14 発 生 箇 所	(固相、液相、気相) (常圧、加圧)		
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)	(低温、常温 [0-40℃]、高温)		
材 質： 銅	分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(1,150L)		
15 発 生 時	18 取 扱 者 の 概 要		
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)	1. 選任有 2. 選任無		
作 業 状 況： 番 号 ()	20 危 険 物 保 安 監 督 者		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有			
23 事 故 の 概 要： 施設職員及び点検業者が灯台用発電設備のオーバーホールのため当施設を訪れた際に、当該発電設備の戻り配管の破損により、燃料を供給する屋内タンク貯蔵所から軽油約1,150Lの漏えいを確認したものであり、施設外へ流出し地盤へ浸透したものの海上までには至らなかったもの。なお当日、本部指令室に設置する監視装置に貯蔵タンクの液面低下が表示されていたとのこと。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他			

原	25 主 原 因 破 損		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因 腐食疲労等劣化、維持管理不十分										
	発生原因の状況： 発電設備稼働時の振動により当設備からの戻り配管が破損。それにより当該箇所から燃料として屋内タンク貯蔵所から送られる軽油が漏えいし、直下の地盤面にあった亀裂から施設外に流出したものの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
疲労・劣化		環境		常に振動する環境下で疲労（想定内の振動であるが、材料が継続した疲労により損傷等）							
因	関連原因の詳細										
	設備		監理・保守		点検・整備		点検内容が不適切				
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名				
区分											
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 屋内貯蔵タンクから軽油が約1,150L漏えいし、地盤面の亀裂から屋外に約36㎡にじみ出た。流出範囲は敷地内に収まっている。				
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 発電設備戻り配管の破損				
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	1 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油1,150L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	1 機	6 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	1 隻	0 機	3 人		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 飛行機による海上調査					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名		屋内タンク貯蔵所			33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止		年 月 日			年 月 日		定期・自主点検		令和4年2月24日	
	改善命令等		年 月 日			年 月 日		気密試験等		年 月 日	
	停止解除		年 月 日			年 月 日		保安検査		年 月 日	
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無	
その他		指導 令和4年3月3日			年 月 日		内容：				
1. 文書 ②. 口頭		1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策や所見 施設職員により定期的(年6回程度)な自主点検は実施されていたが、今まで以上に点検の頻度や精度を上げる等の事故防止対策を徹底するとともに、不良(腐食)箇所を発見した場合は、即時対応するよう指導。消防としても離島に設置された施設であるが、腐食しやすい環境下にあるため、適宜、立入検査等を実施することで事故再発防止に努める必要がある。											

4 地 下 タ ン ク 貯 蔵 所

1 事故名	地下タンクからボイラーへの屋外配管破損によるA重油の漏えい事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 1日 0時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 10日 9時 30分	
5 覚 知	3月 23日 18時 11分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 10日 10時 00分	
7 鎮火・処理完了	1月 0日 0時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気:	風向:	風速:	気温:	湿度:
10 発 生 事 業 所	種 別 : 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態 : 飲食店・宿泊業 宿泊業 旅 番 号 (7211) 館 ; ホテル 旅館 ; ホテル				
11 発 生 場 所	区 分 : ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名 :				
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等 施設区分 : ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別 : 貯蔵所 施設別 : 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数 : 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 13,000L 6.5倍				
13 機 器 等	温度圧力 : 名 称 : ボイラー 番 号 (404) 規 模 : 800,000kcal/h 倍数の合計 : 6.5倍				
14 発 生 箇 所	設置の完成 : 平成 2年 11月 30日 直近の完成 : 年 月 日				
15 発 生 時	17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類 : 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称 : 重油 (8,000L)				
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要 :	オンラインファイル無				
23 事故の概要 :	令和4年3月10日、担当者がサービスタンクからボイラーへつながる屋外配管に設置されている配管に亀裂を発見し、バルブを閉め配管の閉鎖を行った。この時点で危険物が漏えいしていることを認識していたが、消防に通報していなかった。担当者が週に1度残油量の確認を行っており3月1日に残9,000Lを確認しており、その後3月7日の点検時残量0であること液面計で確認している。 休館中のホテルであるが、凍結を防止するためボイラーを使用しており、使用量は約150L/日であるため、3月1日から6日まで900Lを使用していた計算から約8,000Lが地中及び機械室B棟へ漏えいした事故である。 配管は落雪により湾曲し、配管の根元から漏えいしたもの。				
24 緊急処置の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止				

原因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()							
	関 連 原 因													
	発生原因の状況： 配管は屋外に設置されており、機械室A棟上部からの落雪により配管が変形し配管結合部に負荷が集中したため亀裂が生じ重油を漏えいした。													
	主原因の詳細													
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層							
	破損		自然現象		その他									
	関連原因の詳細													
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27 人的被害						28 物的被害								
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名							
区分														
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 現在、流出範囲は事業所敷地内のみであるが、破損した配管周囲の土壌及び雪に重油が漏れたので、今後雪解けて付近の河川等への流出も考えられる。							
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 重油が約8,000L地中へ流出、汚染土壌の廃棄及び破損配管附近の機械室B棟内部への重油の流入による中和処理。							
第 三 者	0	0	0	0										
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性) 重油 約8,000L				
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人					
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人					
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人					
30 実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()								
調査活動														
31 防災活動上の問題点 事故発見後の関係機関の通報を怠り、重油約8,000Lが流出した。														
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他							
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和3年11月12日	年	月	日		
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	令和3年11月12日	年	月	日		
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日	年	月	日
	関係条項							34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無					
その他	年	月	日	年	月	日	内容： 法第16条の3第2項 事故発生時の通報義務違反							
35 今後の対策や所見	配管の撤去 従業員に対し事故時、遅滞なく速やかに通報を行うよう指導の実施													

1 事故名		地下タンク貯蔵所埋設配管の腐食による漏油					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		3月 23日 15時 00分	推定・確定	4 発 見		3月 24日 9時 00分	
5 覚 知		3月 24日 10時 25分	6 鎮 圧 応急処置完了		3月 24日 10時 00分		
7 鎮火・処理完了		3月 24日 10時 00分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：西南西 風速：4.9m/s 気温：5.4℃ 湿度：59%					
10 発 生 事 業 所			11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：公務(他に分類されないもの) 番 号 (9621) 地方公務 市町村機関 市町 村機関			区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
			16 発生施設規制区分等				
			施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 5,000L 2.5倍				
12 施 設 装 置							
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)							
能 力： 5,000L							
13 機 器 等			温度圧力：				
名 称： ポンプ 番 号 (501)							
規 模： 回転数960rpm 吐出量13L/min			倍数の合計： 2.5倍				
14 発 生 箇 所			設 置 の 完 成： 平成 2年 11月 15日 直 近 の 完 成： 平成 27年 12月 12日				
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)			17 物 質 の 区 分				
材 質： 鋼鉄			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油 (1L)				
15 発 生 時			18 取 扱 者 の 概 要				
運 転 状 況： 停止中 番 号 (5)							
作 業 状 況： 番 号 ()							
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	
					1. 有 ②. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 3月23日15時頃、当該施設職員が建物巡視を行っていたところ、地下タンク貯蔵所付近から油臭を感じた。安全のためオイルポンプを停止。24日9時に地下タンク貯蔵所を設置した業者に連絡し、発掘したところ埋設送油配管にピンホールが開いており、微量の油分を見分。油分を含んだ土壌は全て回収済みであった。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無							

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因 不明									
	発生原因の状況： 直近の漏れ点検では異状はなく、また、発生日前の施設巡視時では油臭やオイルポンプに異状等はみられなかった。設置から30年以上経過しており、多湿環境の土壌であることから腐食等劣化が原因と思われる。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 地下タンク貯蔵所周辺(約1㎡)		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 地下タンク貯蔵所埋設送油配管の腐食により第4類第3石油類(重油)が流出、地下タンク貯蔵所周辺の土壌を汚染。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(重油)が埋設配管より約1L漏油したものの。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
埋設送油配管下部にオイルマットを敷き、流出防止措置を施した。										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和3年 8月 11日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	令和3年 8月 11日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無				
その他	年 月 日	年 月 日		内容：						
35	今後の対策 や所見	自主点検の徹底								

1 事故名	地下タンク貯蔵所における燃料供給配管のせん孔による灯油漏えい		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	4月 7日 10時 00分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	4月 7日 10時 00分
5 覚 知	4月 7日 10時 30分	6 鎮 圧 応急処置完了	4月 7日 10時 20分
7 鎮火・処理完了	10月 25日 10時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 ⑤. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南西 風速：3m/s 気温：7℃ 湿度：31%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：公務(他に分類されないもの) 番 号 (9531) 国家公務 行政機関 行政機 関	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,000L 3倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能 力： 地下貯蔵タンク容量3,000L	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (60L)		
13 機 器 等 温度 圧力：	18 取扱者の概要		
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	1. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の 取扱・立会い 1. 有		
規 模： 送油管20A、返油管32A、注入管65A	③. 不要		
14 発 生 箇 所	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)	23 事 故 の 概 要： 地下貯蔵タンクからボイラーへの燃料供給配管が腐食によりせん孔し、屋外点検枒内に灯油60Lが漏えいした。ボイラーの不着火アラームを確認し、ボイラーの使用を直ちに停止した。		
材 質： 鋼鉄	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止		
15 発 生 時			
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)			
作 業 状 況： 番 号 ()			

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 当該危険物施設は設置から22年経過しており、経年劣化により配管表面が損耗したことに加え、融雪期には屋外点検枡に地下水が流入することで燃料供給配管等の腐食が進行し、せん孔したことで配管内の灯油が漏えいしたものである。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 灯油漏えい範囲は地下貯蔵タンクからボイラーへの燃料供給配管の屋外点検枡内に限られている。		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 気密試験及び目視により送油管の腐食せん孔が確認された。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油60L漏えい
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動										
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検		
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等		
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査		
	関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無			有・無		
その他	年	月	日	年	月	日	内容：			
35 今後の対策や所見	今回の事故は経年劣化により点検枡内配管表面が損耗し、せん孔したことで配管内の灯油が漏えいしたものである。しかし、ボイラーの不着火アラームを確認したのち、すぐにボイラーの使用を停止したため、初期の危険物の流出拡大防止策は取られていた。 しかし、融雪期等には点検枡内に地下水が溜まる状態であり、配管の腐食の進行を助長させることが考えられるため、点検枡内に地下水が溜まらない措置及び定期的な目視点検の実施が必要である。									

1 事故名	移動タンク貯蔵所から地下タンク貯蔵所へ過剰注油したことにより地下タンク貯蔵所通気口から重油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 24日 10時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	6月 24日 10時 05分	
5 覚 知	6月 24日 12時 40分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 24日 17時 30分	
7 鎮火・処理完了	8月 31日 12時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東南東 風速：6.8m/s 気温：17.8℃ 湿度：98%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 医療・福祉 社会保険・社会福 番 号 (7545) 祉・介護事業 老人福祉・介護 事業(訪問介護事業を除く) 有料老人ホーム				11 発 生 場 所
					区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：
		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 6,000L 3倍		
12 施 設 装 置	名 称： 地下タンク 番 号 (1209) 能 力： 6,000L				
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模： 直径1,400mm、全長4,484mm、容量6,000L				
14 発 生 箇 所	設 置 の 完 成： 平成 23年 12月 8日 直 近 の 完 成： 年 月 日				
15 発 生 時	名 称： 通気管 番 号 (304) 材 質： 鋼鉄				
	17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油 (1,200L)				
	18 取扱者の概要				
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所から地下タンク貯蔵所へ過剰注油したことにより重油1,200L程度が流出した事故である。事故当日、注油前に地下タンク貯蔵所、移動タンク貯蔵所双方の危険物取扱者が液面指示計を確認。重油5,000Lを注油しても過剰注油としないことを確認したうえで注油を開始するが、過剰給油となり通気管先端から重油が約1,200L程度流出したものである。事故の要因として事故発生の数か月前より液面指示計に不調が発生しており、数度の修理を行っている。5月にも不調が発生したことから製造メーカーに問い合わせ、液面指示計のセンサー不良によるものと判明。修理を依頼するが当該部品はオーダーメイドで製作には時間を要するとのことであり、修理対応中に今回の事故が発生したものである。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 故障		着火原因				番号 ()			
	関連原因									
	発生原因の状況： 液面指示計センサー不良により、正確な残量を表示できなかったもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	故障		機能		機器の異常動作					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 地下タンク貯蔵所より重油1,200L程度が施設内の側溝、調整池及び付近の河川に流出。流出範囲は敷地境界線より100m程度に留まっている。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 地下タンク液面指示計センサー故障			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油1,200L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	3 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4) 吸着マット等による漏えい防止措置						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 中和剤による油処理				
31 防災活動上の問題点 事故発生から約2時間30分後に通報。										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検			年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等			令和3年11月22日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査			年 月 日	年 月 日	
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・無 内容： 消防法第14条の3の2 点検記録の作成及び保存の義務違反		
35 今後の対策 や所見	液面指示計センサー不良改修までは複数の職員による検尺棒による残量確認、また、事故発生後は速やかに消防へ通報するよう指導。									

1 事故名	地下タンク貯蔵所の埋設配管の腐食により点検桝内に重油が流出したもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	9月 13日 10時 30分		
5 覚 知	9月 13日 10時 53分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 13日 11時 30分	
7 鎮火・処理完了	9月 13日 13時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南東 風速：1.3m/s 気温：21℃ 湿度：				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： サービス業(他に分類されない番号(8441)もの) 娯楽業 スポーツ施設 提供業 スポーツ施設提供業 (別掲を除く)		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 8,000L 4倍 倍数の合計： 4倍 設置の完成： 昭和 60年 12月 27日 直近の完成： 昭和 60年 12月 27日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)	能 力： A重油(8,000L)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(10L)		
13 機 器 等 温 度 圧 力：	名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		18 取 扱 者 の 概 要		
規 模： 直径35.7mm	14 発 生 箇 所		1. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ③. 不要 ②. 無		
名 称： 給油管等 番 号 (907)	材 質： 鋼鉄		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)		23 事 故 の 概 要： 9月12日に燃焼の臭いがするため原因を捜索するも特定に至らず、翌日屋外にある点検桝を確認したところ地下水が滞水し表面に油成分が浮いているのを発見。抜水し配管を確認したところ2~3mmの腐食孔を発見。直ちに防食テープにて応急処置を実施した。		
作 業 状 況：	番 号 ()		24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他		

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 地形的に地下水が多量に流入される場所であり、長時間かけて点検弁に地下水が浸入し鋼製配管の腐食が進んだものと思われる。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	腐食	環境	多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）							
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害			28 物的被害							
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 点検弁内に重油が10L流出。 施設等の被害状況： 地下タンク埋設配管2～3mmの腐食孔。			
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油10L。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 現場調査活動。					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	地下タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日		年 月 日			定期・自主点検	令和3年8月1日		令和3年12月1日
	改善命令等	年 月 日		年 月 日			気密試験等	令和3年9月14日		年 月 日
	停止解除	年 月 日		年 月 日			保安検査	年 月 日		年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無			
その他	配管の改修が完了するまで、使用停止を指示 令和4年9月13日		年 月 日		内容：					
35	今後の対策 や所見 定期的に点検弁を確認し、地下水が滞水していれば抜水する。									

1 事故名	地下タンク貯蔵所からサービスタンクまでの送油管より漏えい		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	11月 7日 8時 00分
5 覚 知	11月 11日 11時 40分	6 鎮 圧 応急処置完了	11月 11日 12時 00分
7 鎮火・処理完了	11月 17日 15時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南西 風速：3m/s 気温：11℃ 湿度：73%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 食料品製造業 水産 番号 (923) 食料品製造業 水産練製品製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 15,000L 7.5倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称： 地下タンク 番 号 (1209) 能 力： 地下タンク15,000L	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： A重油(400L) 設置の完成： 平成 15年 4月 7日 直近の完成： 平成 15年 5月 15日 倍数の合計： 7.5倍		
13 機 器 等 温度 圧力： 0℃、0Mpa	18 取扱者の概要 経験年数15年		
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模： 配管20Aを接続するフレキシブル配管	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
14 発 生 箇 所	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
名 称： フレキシブル管継手(ダクトを含む) 番 号 (202) 材 質： 鋼鉄	23 事 故 の 概 要： ボイラー消費用の貯蔵施設である。 漏えい部分は、地下タンクからサービスタンクまでの送油管である。 (埋設部から約22cm地上への立ち上がった20A配管とフレキシブル配管の接合部より漏えい)		
15 発 生 時	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止		
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)			

原 因	25 主 原 因 維持管理不十分		着火原因		番号 ()				
	関連原因								
	発生原因の状況： 配管接合部(ユニオン)の緩み								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	人		本人の意識		違反(故意)		問題意識の不足		
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足		
	人		対人関係		上司		権威主義的/従順		
	関連原因の詳細								
26 被害の状況 ①. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害				28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 事業所敷地内配管付近の地盤面に漏えい(1.3m×0.7m)	
区分									
当 事 者		0	0	0	0				
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし	
第 三 者		0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 1 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人					物質の被害状況： A重油 第4類第3石油類 約400L漏えい(ミスト状に飛散した可能性あり)	
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人						
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人						
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人					損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)	
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点									
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和4年6月4日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和4年11月28日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>			
そ の 他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容： 1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭					
35	今後の対策 や所見 日常点検及び事故発生時の対応について再確認が必要								

1 事故名	地下タンク貯蔵所の吸引管からの漏えい事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 1日 0時 00分	<input checked="" type="checkbox"/> 推定・確定	4 発 見	6月 7日 13時 10分	
5 覚 知	6月 7日 13時 10分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 13日 10時 00分	
7 鎮火・処理完了	6月 13日 10時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他(現認)				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東 風速：5.7m/s 気温：8.6℃ 湿度：62.4%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： サービス業(他に分類されない番号(8441)もの) 娯楽業 スポーツ施設 提供業 スポーツ施設提供業 (別掲を除く)		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 10,000L 5倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)	13 機 器 等 温 度 圧 力：		設置の完成： 昭和 55年 5月 28日 直近の完成： 昭和 55年 5月 28日		
能 力：	名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		18 取 扱 者 の 概 要		
13 機 器 等	規 模： 地下貯蔵タンク10KL		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： A重油		
14 発 生 箇 所	名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)		21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		
材 質： 鋼鉄	15 発 生 時		1. 有 2. 無 ③. 不要		
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)	作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		1. 有 ②. 無		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 地下貯蔵タンクからサービスタンクまでの吸引管からA重油が漏えいし、タンク室に流出したもの					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他					

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()
原 因	関 連 原 因		
	発生原因の状況： 地下貯蔵タンクからボイラー(サービスタンク)への送油管に腐食があり漏えいした。なお、漏えい箇所はタンク室内であったことから、施設外への流出はなし。		
	主原因の詳細		
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層
	腐食	防食	防食塗装・被覆剥離(経年による剥離)
	関連原因の詳細		
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から		
27	人的被害		28 物的被害
	被害内容等	死亡	重症
区分	中等症	軽症	死傷原因
職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 4か所ある漏えい検知管のうち1か所から重油を確認。タンク室内のため拡大はなし		
当 事 者	0	0	0
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0
第 三 者	0	0	0
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況		
消 防 機 関	0 台 0 隻 0 機 0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
	物質の被害状況： A重油漏えい 漏えい量は不明		
	損害額 1万円未満、 1万円以上 (300 万円)		
30	実施した防災活動の状況		
公設消防機関：番号 ()		自衛防災・消防組織等 番号 ()	
31	防災活動上の問題点		
政 策 措 置	32	施設名	33 定期点検等
	使用停止	年 月 日	消 防 法
	改善命令等	年 月 日	そ の 他
	停止解除	年 月 日	定期・自主点検
	関係条項	年 月 日	気密試験等
	その他	年 月 日	保 安 検 査
	1. 文書 2. 口頭		34 当該施設に係る 法令違反の有無
	1. 文書 2. 口頭		有・ 無 内容：
35	今後の対策や所見		
	定期的な点検、日常の在庫管理を習慣づける必要がある。		

1 事故名	地下タンク貯蔵所の吸引管からの漏えい事故		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	6月 9日 10時 30分
5 覚 知	6月 9日 10時 30分	6 鎮 圧 応急処置完了	6月 10日 14時 00分
7 鎮火・処理完了	6月 10日 14時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他(現認(立入検査))		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東 風速：2.4m/s 気温：18.5℃ 湿度：59.6%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：公務(他に分類されないもの) 番 号 (9621) 地方公務 市町村機関 市町 村機関	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 3,500L 1.75倍		
12 施 設 装 置			
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)			
能 力：			
13 機 器 等	温 度 圧 力：		
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)			
規 模： 地下タンク貯蔵所 3.5KL	倍数の合計： 1.75倍		
14 発 生 箇 所	設 置 の 完 成： 昭和 58年 10月 3日 直 近 の 完 成： 平成 11年 10月 29日		
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)	17 物 質 の 区 分		
材 質： 鋼鉄	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油		
15 発 生 時	18 取 扱 者 の 概 要		
運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号 (7)	1. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ③. 不要		
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)	20 危険物保安監督者		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 令和3年10月16日の定期点検(タンク及び配管)を実施したところ漏れが確認され、吸引管と判明し、令和4年1月28日配管修理を実施。その後、立入検査を実施したところ地下貯蔵タンクの検知管からA重油が確認されたもの			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送			

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()				
原 因	関 連 原 因						
	発生原因の状況： 地下貯蔵タンクの配管が腐食しA重油が漏えいしたもの。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	腐食	防食	防食無し(耐腐食性の材料を使用せず)				
	腐食	防食	その他				
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害			28 物的被害				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 敷地外への流出はなし。即時に地下貯蔵タンクから重油を抜き取り漏えい拡大防止を図る
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： A重油が漏えい
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
30 実施した防災活動の状況							損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点							
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 3 年 10 月 16 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 3 年 10 月 16 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保 安 検 査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>		
そ の 他	年 月 日	年 月 日	内容：				
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策 や所見	定期点検を実施し漏えいを確認し修理するも、更に漏えいが確認されたことから定期的な点検が必要。なお、地下タンク貯蔵所は廃止する予定。						

1 事故名		地下タンク貯蔵所ピット内配管亀裂によりA重油が約20L流出したもの					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		5月 2日 14時 00分	推定・確定	4 発 見		5月 3日 6時 30分	
5 覚 知		5月 3日 6時 35分		6 鎮 圧		5月 3日 7時 32分	
7 鎮火・処理完了		6月 15日 14時 00分		6 応急処置完了			
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：北北西 風速：0.6m/s 気温：12℃ 湿度：58%					
10 発 生 事 業 所			11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 漁業 水産養殖業 海面養殖 番 号 (415) 業 種苗養殖業			区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
			16 発生施設規制区分等				
			施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 6,000L 3倍				
12 施 設 装 置							
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)							
能 力：							
13 機 器 等			温度圧力：				
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)							
規 模： 地下タンク 6,000L							
14 発 生 箇 所			倍数の合計： 3倍				
名 称： フレキシブル管継手(ダクトを含む) 番 号 (202)			設置の完成： 平成 26年 9月 4日				
材 質： ステンレス			直近の完成： 平成 26年 9月 4日				
15 発 生 時			17 物 質 の 区 分				
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
作 業 状 況： 番 号 ()			5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： A重油(20L)				
			18 取扱者の概要				
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	
						①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 地下タンク貯蔵所ピット内配管亀裂によりA重油約20Lが流出したもの。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他							

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()
原 因	関 連 原 因		
	発生原因の状況： 送油管であるフレキシブルメタル配管内部に穿孔が2か所あり重油が漏えいしたもので、経年劣化と推定する。		
	主原因の詳細		
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層
	腐食	環境	多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）
関連原因の詳細			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から			
27 人的被害		28 物的被害	
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症
当 事 者	0	0	0
防災活動従事者	0	0	0
第 三 者	0	0	0
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況		被災影響範囲及び拡大の状況： 特になし	
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	2 台 0 隻 0 機 5 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
30 実施した防災活動の状況		物質の被害状況： A重油約20L流出。	
公設消防機関：番号 (5) 吸着マットを使用し、漏えいした重油の回収を実施。		自衛防災・消防組織等 番号 ()	
31 防災活動上の問題点		損害額 1万円未満、 1万円以上 (50 万円)	
32	施設名	地下タンク貯蔵所	33 定期点検等
行 政 措 置	使用停止	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日
	関係条項		
その他	令和 4 年 5 月 10 日	年 月 日	34 当該施設に係る 法令違反の有無
		①. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭
35	今後の対策 や所見	配管ピット内へ危険物の漏えいを確認したにも関わらず、消防機関への通報を怠ったこと及び漏えいした危険物が未回収のまま滞留しており、フレキシブル配管の応急措置実施後、施設を稼働させていたことから、即時通報、漏えいした危険物の即時回収及び施設の早期改修について指導書を交付したものを。	
		消 防 法	そ の 他
		定期・自主点検	令和 3 年 8 月 12 日
		気密試験等	令和 2 年 8 月 26 日
		保 安 検 査	年 月 日
		有・無 内容： 消防法第12条1項 製造所等の維持管理違反 消防法第16条の3第1項応急措置義務違反 消防法第16条の3第2項通報義務違反	

1 事故名	ポンプ圧送による重油の受入れ後、注入口からの重油の噴き出しによる漏えい事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 16日 9時 50分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	5月 16日 9時 50分	
5 覚 知	5月 16日 10時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	5月 16日 11時 00分	
7 鎮火・処理完了	5月 16日 12時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南東 風速：2m/s 気温：17℃ 湿度：41%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： サービス業(他に分類されない番号(8522)もの) 廃棄物処理業 産業廃棄物処理業 産業廃棄物処分業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油(ローサル) 13,000L 6.5倍 倍数の合計： 6.5倍 設置の完成： 平成19年12月19日 直近の完成： 平成26年10月23日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 地下タンク	番 号 (1209)				
能 力： 容量13,000L					
13 機 器 等	温 度 圧 力：				
名 称： 貯槽(タンク)	番 号 (107)				
規 模： 直径1,800mm 胴長5,154mm 鏡出349mm 容量13,000L					
14 発 生 箇 所	名 称： タンクの注入口	番 号 (905)			
材 質： アルミニウム					
15 発 生 時	運 転 状 況： 受入中	番 号 (9)			
	作 業 状 況： その他	番 号 (99)			
			18 取 扱 者 の 概 要	経験年数10年	
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 地下タンクに移動タンクからポンプ圧送により重油の受入れを行い、作業完了後、注入口から注入ホースを離脱しようとした時に、地下タンク注入口から重油が噴き出し、注入口周囲の地盤面に40L程度の重油が漏えいしたものの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

25	<p>主 原 因 操作確認不十分</p> <p>関 連 原 因 誤操作</p>	着火原因	番号 ()																																											
原因	<p>発生原因の状況：</p> <p>移動タンクから地下タンクに荷卸しする際、通常は自重で地下タンクへ送油し、作業完了時のみに注入ホース内の油を移動タンクのポンプを使用して送油し作業を完了させている。当該地下タンクへの送油はポンプで加圧しながら送油を行っていた。送油完了後、ポンプを停止させ、注入ホース内の残油を確認したところ重く、ホース内に油が残油していると思ったことから再度移動タンクのポンプを使用して注入ホース内の残油を地下タンクへ送油。ポンプ停止後、注入ホースが軽くなったのを確認し、地下タンク注入口と注入ホースの結合部を外した瞬間に注入口から重油が噴き出し、地下タンク注入口周囲の地盤面に約40Lの重油を漏えい。地下タンクからの重油の噴き出しが発生した原因として、移動タンクのポンプの送油により地下タンク内部に過剰な圧力が一時的にかかり、減圧する前に注入口と注入ホースの結合部を外したため、地下タンク内の圧力が注入口から抜け、注入口から重油が噴き出したと推測する。</p>																																													
	<p>主要原因の詳細</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width:25%;">第Ⅰ層</th> <th style="width:25%;">第Ⅱ層</th> <th style="width:25%;">第Ⅲ層</th> <th style="width:25%;">第Ⅳ層</th> </tr> <tr> <td>人</td> <td>本人の知識・能力</td> <td>技能・技術力</td> <td>未経験</td> </tr> <tr> <td>人</td> <td>本人の意識</td> <td>思慮</td> <td>配慮不足</td> </tr> </table>			第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層	人	本人の知識・能力	技能・技術力	未経験	人	本人の意識	思慮	配慮不足																															
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層																																										
	人	本人の知識・能力	技能・技術力	未経験																																										
	人	本人の意識	思慮	配慮不足																																										
	<p>関連原因の詳細</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width:25%;">人</th> <th style="width:25%;">本人の意識</th> <th style="width:25%;">思慮</th> <th style="width:25%;">過信</th> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>			人	本人の意識	思慮	過信																																							
	人	本人の意識	思慮	過信																																										
<p>26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から</p>																																														
<p>27 人的被害</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width:15%;">被害内容等</th> <th style="width:10%;">死亡</th> <th style="width:10%;">重症</th> <th style="width:10%;">中等症</th> <th style="width:10%;">軽症</th> <th style="width:15%;">死傷原因</th> <th style="width:10%;">職業又は職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>		被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			<p>28 物的被害</p> <p>被災影響範囲及び拡大の状況： 河川への流出なし</p> <p>施設等の被害状況： なし</p>																
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																								
当 事 者	0	0	0	0																																										
防災活動従事者	0	0	0	0																																										
第 三 者	0	0	0	0																																										
<p>29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width:15%;">消防機関</th> <td style="width:10%;">2台</td> <td style="width:10%;">0隻</td> <td style="width:10%;">0機</td> <td style="width:10%;">4人</td> <th style="width:10%;">自 衛</th> <td style="width:10%;">0台</td> <td style="width:10%;">0隻</td> <td style="width:10%;">0機</td> <td style="width:10%;">0人</td> </tr> <tr> <th style="width:15%;">消 防 団</th> <td>0台</td> <td>0隻</td> <td>0機</td> <td>0人</td> <th style="width:10%;">共 同</th> <td>0台</td> <td>0隻</td> <td>0機</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <th style="width:15%;">海上保安部</th> <td>1台</td> <td>0隻</td> <td>0機</td> <td>2人</td> <th style="width:10%;">応 援</th> <td>0台</td> <td>0隻</td> <td>0機</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <th style="width:15%;">その他の機関</th> <td>1台</td> <td>0隻</td> <td>0機</td> <td>3人</td> <th style="width:10%;">その他</th> <td>0台</td> <td>0隻</td> <td>0機</td> <td>0人</td> </tr> </table> <p>物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油40L流出</p>							消防機関	2台	0隻	0機	4人	自 衛	0台	0隻	0機	0人	消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人	海上保安部	1台	0隻	0機	2人	応 援	0台	0隻	0機	0人	その他の機関	1台	0隻	0機	3人	その他	0台	0隻	0機	0人
消防機関	2台	0隻	0機	4人	自 衛	0台	0隻	0機	0人																																					
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人																																					
海上保安部	1台	0隻	0機	2人	応 援	0台	0隻	0機	0人																																					
その他の機関	1台	0隻	0機	3人	その他	0台	0隻	0機	0人																																					
<p>30 実施した防災活動の状況</p> <p>公設消防機関：番号 (99)</p> <p>安全管理、情報収集</p> <p>自衛防災・消防組織等 番号 ()</p>																																														
<p>31 防災活動上の問題点</p>																																														
行政措置	32 施設名	地下タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他																																						
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和3年11月30日	年 月 日																																							
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和3年11月30日	年 月 日																																							
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日																																							
	関係条項	再発防止策等の提出を指導				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無																																							
その他	令和4年 5月 16日	年 月 日	1. 文書 ②. 口頭	1. 文書 2. 口頭	内容：																																									
35 今後の対策 や所見	<p>(再発防止策) ポンプ圧送による荷卸をしない。自重での荷卸を行う。 注入ホース内の残油処理を慎重に行う。 取扱者に周知徹底を行う。</p> <p>(所見) 移動タンクからのポンプによる荷卸は、受入タンク内部に圧力蓄積されている可能性があることを取扱者及び立会者共に認識し、タンク内部の圧力が減圧したのを確認後に注入口から注入ホースを外す等の対策が必要となる。同様の事象は油種に関わらず発生することから、移動タンク側事業所及び受入側事業所へ事故事例として周知し、取扱者及び立会者へ事故防止対策の徹底を図る指導を行わなくてはならない。</p>																																													

1 事故名	地下タンク貯蔵所の点検中における送油管の腐食による重油流出事故					
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生	6月 30日 9時 00分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	6月 30日 9時 00分		
5 覚 知	6月 30日 11時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 30日 9時 30分		
7 鎮火・処理完了	6月 30日 12時 30分					
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：無風状態 風速：0m/s 気温：31℃ 湿度：51.3%					
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：公務(他に分類されないもの) 番 号 (9621) 地方公務 市町村機関 市町 村機関		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 15,000L 7.5倍		
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)			設置の完成： 平成 4年 12月 19日 直近の完成： 年 月 日		倍数の合計： 7.5倍	
能 力： 重油 15,000L			17 物 質 の 区 分		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油 (5L)	
13 機 器 等 温度 圧力：			18 取扱者の概要		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	20 危険物 保安監督者		21 危険物取扱者 の取扱・立会い			
規 模： SGP(黒) 25A	19 危険物保安 統括管理者		①. 有 2. 無			
14 発 生 箇 所	名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)					
材 質： 鋼鉄	15 発 生 時					
運 転 状 況： 停止中 番 号 (5)						
作 業 状 況： 点検中 番 号 (5)						
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無						
23 事 故 の 概 要： 令和4年6月30日9時頃、運転委託業者より油の臭いがする旨の報告を受ける。 確認の結果、地下貯蔵タンクから燃焼バーナーへの送油管(配管ビット内部分)から重油が流出しているのを特定。						
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他						

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()								
	関連原因												
	発生原因の状況： 経年劣化により配管が腐食したもの。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層						
	腐食		防食		防食塗装・被覆剥離(経年による剥離)								
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害				28 物的被害									
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： なし(配管ピット内の重油流出)					
区分													
当 事 者	0	0	0	0									
防災活動従事者	0	0	0	0									
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管が腐食(配管ピット内の重油流出)					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 重油 5L			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人				
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人				
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99) 情報収集活動実施						自衛防災・消防組織等 番号 (99) テープ及びホースバンドにより応急措置実施							
31 防災活動上の問題点													
行政措置	32 施設名	地下タンク貯蔵所				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日		定期・自主点検		令和 3 年 9 月 24 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日		気密試験等		令和 3 年 9 月 24 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				年 月 日		保 安 検 査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無			
その他	基準適合するよう指導 令和 4 年 6 月 30 日				年 月 日				内容：				
35 今後の対策 や所見	配管の材質を変更する SGP(黒)→PLS(被覆鋼管)												

1 事故名		重機除雪時における地下タンク露出送油管の損傷による流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		1月 5日 5時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	1月 7日 9時 00分		
5 覚 知		1月 13日 10時 00分			6 鎮 圧 応急処置完了	1月 7日 10時 00分	
7 鎮火・処理完了		1月 7日 12時 00分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：曇		風向：西		風速：8m/s 気温：1℃ 湿度：70%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：公務(他に分類されないもの) 番 号 (9621) 地方公務 市町村機関 市町 村機関				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 6,000L 3倍			
12 施 設 装 置							
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)							
能 力： 6KL×1基							
13 機 器 等				温度圧力：			
名 称： 発電機 番 号 (704)							
規 模： 90kVA							
14 発 生 箇 所				設置の完成： 昭和 59年 3月 23日 直近の完成： 年 月 日			
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)				17 物 質 の 区 分			
材 質： 銅				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油 (5L)			
15 発 生 時				18 取扱者の概要			
運 転 状 況： 停止中 番 号 (5)							
作 業 状 況： その他 番 号 (99)							
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	
						1. 有 ②. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 早朝、駐車場の除雪を行った重機がサービスタンクまでの送油配管に接触したため、配管にたまっていた重油約5Lが駐車場敷地内側溝に流出したものの。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他							

原 因	25 主 原 因 破 損		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 除雪業者が誤って送油用の配管を損傷したもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		工事時		重機等の衝突					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 建物敷地内駐車場とその側溝の一部に油漏えい		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 地下タンクからサービスタンクまでの送油管の破損と駐車場及び側溝への油漏えい		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類重油5L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5)					
損傷箇所を耐油テープで塞いだ。油吸着シートを敷いた。側溝の汚泥を除去した。流出油処理剤を散布した。										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日		年 月 日	定期・自主点検	令和1年 5月 26日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日	気密試験等	令和3年 12月 3日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日		年 月 日	保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無				
その他	年 月 日		年 月 日	内容：						
35	今後の対策 や所見 ガードパイプの設置									

1 事故名		サービスタンクの返油管から、地下タンク貯蔵所へ返油する際、危険物(灯油)が漏えいしたもの					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		12月 5日 7時 00分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見		12月 5日 7時 00分	
5 覚 知		12月 6日 10時 50分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 6日 13時 30分		
7 鎮火・処理完了		12月 6日 14時 00分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：曇		風向：北北東		風速：1.7m/s 気温：6.1℃ 湿度：83.6%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：医療・福祉 医療業 病院 一 番 号 (7311) 般病院				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 2,000L 2倍			
12 施 設 装 置							
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)							
能 力： 2,000L							
13 機 器 等				温 度 圧 力：			
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)							
規 模： 直径1,280mm、全長1,888mm、容量2,000L							
14 発 生 箇 所				設置の完成： 平成 26年 10月 14日 直近の完成： 平成 26年 10月 14日			
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)				17 物 質 の 区 分			
材 質： 鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (20L)			
15 発 生 時				18 取 扱 者 の 概 要			
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)							
作 業 状 況： 番 号 ()							
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	
				21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 地下タンクのポンプ設備の一部を交換し、試運転後、灯油を20Lを返油管から地下タンク貯蔵所へ戻したところ埋設配管から灯油20Lが漏えいしたもの。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他							

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 老朽化による配管の腐食劣化と推定される。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		防食		防食塗装・被覆剥離(経年による剥離)					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ボイラー室地下部に埋設した返油管から灯油が漏えいしたもの。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 返油管		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 灯油約20L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 全ての埋設配管を業者による圧力点検の実施、返油管の地上配管と、埋設配管の切離しをし、バイパス配管の設置を指導する。					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点 漏えい事故発生後、消防機関への通報が遅れた。										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和4年11月1日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和2年10月8日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策 や所見	埋設配管を地上配管に変更すると共に、事故発生後の消防機関への通報を指導する。									

1 事故名	地下タンク貯蔵所の送油ポンプ操作不適による重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 14日 11時 50分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 14日 12時 00分	
5 覚 知	3月 14日 14時 06分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 14日 17時 26分	
7 鎮火・処理完了	9月 15日 10時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東南東 風速：2.2m/s 気温：21.1℃ 湿度：35.4%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 飲食店・宿泊業 宿泊業 旅 番 号 (7211) 館；ホテル 旅館；ホテル		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 10,000L 5倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 屋内タンク 番 号 (1208)	能 力： サービスタンク 230L		設置の完成： 昭和 42年 4月 20日 直近の完成： 令和 3年 1月 21日		
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 5倍		
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)	規 模： 縦600mm、横600mm、高さ700mm 容量230L		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(200L)		
14 発 生 箇 所	名 称： 通気管 番 号 (304)		18 取扱者の概要		
材 質： 鋼鉄	15 発 生 時		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)	作 業 状 況： その他 番 号 (99)		20 危険物 保安監督者		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： ボイラー室(少量危険物取扱所)のサービスタンク(230L)の制御装置が故障し自動での給油ができなくなったため、地下貯蔵タンクからサービスタンクに至る配管にあるギヤポンプを手動で操作していた。ギヤポンプのスイッチを入れたままその場を離れサービスタンクの通気管に接続された約500Lのタンクを経由して重油が推定270L~770L流出したものの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他					

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因 故障、維持管理不十分							
	発生原因の状況： サービスタンクの制御装置が故障し自動での給油ができなくなったため、地下貯蔵タンクからサービスタンクに至る配管にあるギヤポンプを手動で操作しており、ギヤポンプのスイッチを入れたままその場を離れサービスタンクの通気管から流出させたもの。							
	主要原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	人		本人の意識		違反(故意)		問題意識の不足	
	関連原因の詳細							
	設備		監視・保守		点検・整備		異常事態の放置	
故障		機能		機器の機能の停止				
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害						28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	
区分								
当 事 者		0	0	0	0			
防災活動従事者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油が事業所側溝から河川(約250m)を流れ、湖の河口部から約70mの範囲に拡散したもの。		
消 防 機 関		6 台	0 隻	0 機	17 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
						物質の被害状況： 第4類第3石油類 重油約270～770Lが流出。		
						損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)		
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (6)				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
湖河口部に万国旗型のオイルマットを設置。湖に約70mのオイルフェンスを展開。								
31 防災活動上の問題点								
事故発生から消防への通報までに約2時間経過している。事業所側溝～湖までの河川が暗きよになっているため、目視による確認ができていない。								
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	使用停止		年 月 日	年 月 日	定期・自主点検		年 月 日	年 月 日
	改善命令等		年 月 日	年 月 日	気密試験等		年 月 日	年 月 日
	停止解除		年 月 日	年 月 日	保安検査		年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無	
その他		年 月 日	年 月 日			内容： 概要：危険物取扱者が不在時に、非危険物取扱者が地下タンク貯蔵所の送油ポンプを手動にて操作を実施。 根拠条文：法第13条第3項 製造所等における危険物取扱者以外の者の危険物の取扱い		
35 今後の対策 や所見		当該事業所に対し、機器の維持管理について指導を実施。また、故障していた機器等の改修、及び手動による取り扱いをしないよう指導。						

1 事故名	地下タンク貯蔵所に接続された非常用発電機の燃料タンクからの重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 23日 21時 05分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	10月 24日 6時 30分	
5 覚 知	10月 26日 8時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 26日 11時 00分	
7 鎮火・処理完了	12月 22日 10時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北東 風速：1.5m/s 気温：14℃ 湿度：83%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 電子部品・デバイス製 番 号 (2913) 造業 電子部品・デバイス製造 業 集積回路製造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 25,000L 12.5倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 自家発電施設	番 号 (1503)	能 力： 非常用発電機 出力180kVA 電圧200V 周波数50Hz	設置の完成： 平成 元年 7月 10日 直近の完成： 平成 元年 7月 10日	倍数の合計： 12.5倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力：	名 称： 貯槽(タンク)	番 号 (107)	18 取扱者の概要 経験年数4年	
規 模： 容量86L		14 発 生 箇 所	番 号 (308)	21 危険物取扱者の の取扱・立会い ①. 有 2. 無	
材 質： ステンレス		15 発 生 時	番 号 (1)		
運 転 状 況： 定常運転中		作 業 状 況：	番 号 ()		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 非常用発電機に設置されたレベルスイッチの故障により、地下タンク貯蔵所からの燃料供給が止まらず重油が流出したもの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 故障		着火原因				番号 ()			
	関連原因		維持管理不十分							
	発生原因の状況： 10月23日21時05分頃に発生した停電により、非常用発電機の燃料供給信号が入り稼働した。停電が復旧した段階で、非常用発電機に設置されたレベルスイッチにより燃料供給が停止されるシステムであったが、レベルスイッチが故障しており過剰に燃料が供給されたため、燃料タンクから重油が流出した。 重油は非常用発電機周辺の地盤及び貯水槽内に流出しており、流出量は当日の地下タンク貯蔵所の使用量5,000Lから、別系統で供給されているボイラー設備の使用量2,000Lを引いた3,000Lと推測する。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	故障		機能		機器の機能の停止					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		確認不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 施設地盤及び貯水槽内に流出。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： レベルスイッチの故障。			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油 3,000L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
調査活動を実施する。応急措置が講じられていたので、除去回収等の活動はなし。										
31 防災活動上の問題点 危険物施設からの流出という認識がなく、事故発生から2日後に一般電話での通報となった。										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検			令和4年9月28日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等			令和4年9月28日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査			年 月 日	年 月 日	
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="checkbox"/> 無		
そ の 他	年 月 日	年 月 日					内容：			
35 今後の対策や所見 非常電源から常用電源に切り替わった際の機器点検の実施を徹底し、危険物施設の事故の場合は直ちに消防機関へ通報するよう指導する。										

1 事故名	地下タンク貯蔵所において、埋設配管が破損し土中へ重油が流出した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 18日 16時 50分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	10月 18日 16時 50分	
5 覚 知	10月 18日 19時 13分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 18日 17時 00分	
7 鎮火・処理完了	10月 18日 20時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東北東 風速：3m/s 気温：17℃ 湿度：68%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 建設業 総合工事業 建築工 番号 (641) 事業(木造建築工事業を除く) 建築工事業(木造建築工事業を除く)		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 4,000L 2倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 地下タンク	番 号 (1209)	能 力： 重油4,000L	設置の完成： 令和 4年 9月 5日	直近の完成： 年 月 日	倍数の合計： 2倍
13 機 器 等	温 度 圧 力： 0.4Mpa		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(500L)		
名 称： ポンプ	番 号 (501)	規 模： 吐出量14m ³ /min			
14 発 生 箇 所	名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)		18 取扱者の概要		
材 質： 合成樹脂	15 発 生 時				
運 転 状 況： 試運転中	番 号 (14)	作 業 状 況： 運転操作中	1. 選任有 2. 選任無	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 地下タンク貯蔵所において、埋設配管から重油約500Lが地中に流出したものを。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 植栽工事の際、重機により当該配管をさせたもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		工事時		重機等の衝突					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 埋設配管流出箇所周辺		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 埋設配管		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	1 人	物質の被害状況： 重油約500L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 装置の停止				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	地下タンク貯蔵所			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・無		
その他	立入検査 令和4年10月20日			年 月 日			内容： 構造違反(配管の破損)			
35 今後の対策 や所見	今後の変更工事で植栽と干渉しないよう、埋設配管のルートを変更する予定である。外構工事の際、業者が危険物配管が埋設されているという認識がなかった。									

1 事故名	地下タンク貯蔵所において、荷卸し中に通気管から重油がオーバーフローし地面に流出したもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 26日 14時 20分	推定・確定	4 発 見	10月 26日 14時 20分	
5 覚 知	10月 31日 15時 10分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 26日 14時 30分	
7 鎮火・処理完了	10月 31日 15時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北西 風速：2.1m/s 気温：18.1℃ 湿度：39%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 不動産業 不動産賃貸業・管理番号 (6941) 業 不動産管理業 不動産管 理業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 15,000L 7.5倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 地下タンク	番 号 (1209)	能 力： 重油15,000L	設置の完成： 昭和 45年 2月 23日	直近の完成： 平成 25年 5月 31日	
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 7.5倍		
名 称： 配管(送油、注入管等)	番 号 (606)	規 模： SGP32A	18 取扱者の概要		
14 発 生 箇 所	名 称： 通気管		1. 選任有 2. 選任無		
材 質： 鋼鉄	番 号 (304)		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		
15 発 生 時	運 転 状 況： 受入中		1. 有		
作 業 状 況： その他	番 号 (9)	作 業 状 況： その他	2. 無		
	番 号 (99)				
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 地下タンク貯蔵所において、荷卸し中に重油30Lが通気管からオーバーフローし地面に流出したもの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 故障		着火原因				番号 ()				
	関連原因		操作確認不十分								
	発生原因の状況： 重油を荷卸しする際、地下タンク貯蔵所の液面計が故障していたため、正確な数量を把握できなかった。その状況で発注された4,000Lを給油しようとしたため、オーバーフローしたもの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	故障		機能		機器の機能の停止						
	関連原因の詳細										
	人		本人の意識		違反(故意)		問題意識の不足				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名				
区分											
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 通気管から流出した重油が駐車していた車両2台にかかり、地面上に流出した。				
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし				
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	1 人	物質の被害状況： 重油30L	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額	1万円未満、 <u>1万円以上</u> (8 万円)		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
31 防災活動上の問題点 流出した時点での通報がなされなかった。											
政 策 措 置	32 施設名	地下タンク貯蔵所				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		平成 10 年 2 月 9 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無			
その他	防災安全指導 令和 4 年 10 月 31 日				1. 文書 ②. 口頭		内容： 危険物取扱者立ち会いなし、定期点検未実施				
35 今後の対策や所見 在庫量の管理、荷卸し時の立ち会い、事故時の適切な通報等を指導していく必要がある。											

1 事故名	地下タンク貯蔵所において、タンクから灯油約2,000Lが土中に流出したもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 28日 9時 30分	推定・確定	4 発 見	12月 28日 9時 30分	
5 覚 知	12月 28日 12時 50分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 28日 13時 40分	
7 鎮火・処理完了	12月 28日 13時 40分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気:	風向:	風速:	気温:	湿度:
10 発 生 事 業 所	種 別 : 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態 : 医療・福祉 医療業 病院 一 番 号 (7311) 般病院		11 発 生 場 所	区 分 : ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名:	
			16 発生施設規制区分等	施設区分: ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別: 貯蔵所 施設別: 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数: 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 2,500L 2.5倍	
12 施 設 装 置	名 称 : 地下タンク 番 号 (1209) 能 力 : 灯油2,500L			倍数の合計: 2.5倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力 : 名 称 : 貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模 : 2,500L			設 置 の 完 成 : 昭 和 54年 10月 18日 直 近 の 完 成 : 昭 和 54年 11月 29日	
14 発 生 箇 所	名 称 : その他 番 号 (999) 材 質 : 鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類 : 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称: 灯油 (2,000L)	
15 発 生 時	運 転 状 況 : 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況 : 点検中 番 号 (5)		18 取 扱 者 の 概 要		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要: オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要 : 12月26日にタンク満量に給油したが、28日に液面計を確認すると800Lを示した。消防が出向し確認した時点では液面計は250Lを表示していた。抜き取りを実施し後日流出箇所調査を行う。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 経年劣化により地下埋設配管の腐食が進み、孔が生じ灯油が土中に流出したものを。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 地下タンクから土中へ灯油約2,000Lが流出した。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 地下タンク			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 灯油約2,000L	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名	地下タンク貯蔵所			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・無 内容： 定期点検未実施			
その他	安全指導 令和4年12月28日			年 月 日							
1. 文書 ②. 口頭	1. 文書 2. 口頭										
35 今後の対策や所見 今後も当該タンクを使用するとのことで、当該タンクは直接埋設の一重殻タンクであるので、タンク内面をFRPコーティングし既存の配管は埋め殺し、新規に露出配管を設置する予定である。											

1 事故名	地下タンクからボイラーへの埋設配管による重油の流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 24日 8時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	12月 24日 9時 00分	
5 覚 知	1月 11日 15時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 27日 15時 00分	
7 鎮火・処理完了	12月 27日 15時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (処理後、消防局に来庁し報告)				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北東 風速：1.6m/s 気温：12.4℃ 湿度：47.6%				
10 発 生 事 業 所	種 別： ①特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：医療・福祉 医療業 病院 一 番 号 (7311) 般病院				11 発 生 場 所
					区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：
		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 20,000L 10倍		
12 施 設 装 置	名 称： 地下タンク 番 号 (1209) 能 力： タンク容量20,000L				
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模： 直径2,000mm、全長7,348mm				
14 発 生 箇 所	名 称： 給油管等 番 号 (907) 材 質： 鋼鉄				設置の完成： 昭和 61年 3月 20日 直近の完成： 昭和 62年 12月 28日
15 発 生 時	運 転 状 況： 試運転中 番 号 (14) 作 業 状 況： 番 号 ()				17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(100L)
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 地下タンク貯蔵所と一般取扱所を結ぶ危険物配管において、一般取扱所で使用するボイラーの作動試験を実施したところ、通常に作動しないことから地下貯蔵タンク及び配管の漏れの点検を実施したところ危険物(第4石油類、重油)が約100L土壌に流出しているのを確認。ただちに当該地下タンク及び配管から抜油を実施し、土壌の汚染状況、改修状況等は市の環境部門で実施中。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 当該地下貯蔵タンク近傍に特別高圧配線と直結している変電設備が設置されていることから「電氣的腐食のおそれのある場所」に該当している可能性がある。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	腐食		環境		迷走電流腐食			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害				28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 地下タンク貯蔵所の燃料配管から重油が約100L流出したが、拡大状況は現在調査中。
区分								
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 地下タンク貯蔵所の燃料配管が3箇所亀裂。
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	0 台 0 隻 0 機 0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況：				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	第4類第3石油類(非水溶性)重油約100L流出				
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (300 万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点 令和3年12月24日に発災し、消防局に令和4年1月11日報告(通報の遅れ)。								
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和3年3月25日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策 や所見	当該地下貯蔵タンク近傍に地下貯蔵タンクが4基埋設されているが、電氣的に腐食のおそれのある場所に該当する可能性があるため、配管の露出化等を考慮すること、又は地下貯蔵タンクを廃止する計画であるならば、廃止まで在庫管理の徹底(1日1回以上)及び漏えい検知管による漏れの点検を少なくとも1週間に1回以上実施するよう指導。							

1 事故名	地下タンクから非常用発電機への配管(可撓管)に穴が開き、管廊内に重油が流出したもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月	日	時	分	推定・確定
4 発 見	5月	25日	14時	10分	
5 覚 知	5月	25日	14時	40分	
6 鎮 火・処理完了	6月	10日	15時	30分	
7 鎮火・処理完了	6月	10日	15時	30分	6 鎮 火 圧 応 急 処 置 完 了
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北西 風速：5m/s 気温：29℃ 湿度：38%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 運輸に附帯するサー 番号 (4852) ビス業 運輸施設提供業 道 路運送固定施設業				
11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 4,000L 2倍				
13 機 器 等	温度圧力： 名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模： 送油管(25A) 倍数の合計： 2倍				
14 発 生 箇 所	設置の完成： 平成 30年 7月 30日 直近の完成： 平成 30年 7月 30日				
15 発 生 時	17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(8L)				
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 地下タンク貯蔵所の定期点検のため、配管に圧力をかけたところ、送油管の圧力異常を確認した。直ちに試験をやめ、流出箇所を確認し、管廊内の可撓管から8L程度の漏えいを確認した。漏えいした油を吸着マットで応急処置を実施した。なお、管廊外への流出なく、人的被害もないもの					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()				
原因	関 連 原 因						
	発生原因の状況： 可撓管の一部において、凍結防止剤の付着後、局所的に腐食が進行し、可撓管の肉厚が薄いため開口し、送油時の圧力により漏えいしたもの また、配管が管廊内にあるため、一度付着した凍結防止剤が雨等で流れず固着してしまったため短期間で腐食が進行したと推察される。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	腐食	環境	塩分の影響				
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害			28 物的被害				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設外への流出はなく、地下タンクから非常用発電機までの配管の管廊内で漏えいしたもの
当 事 者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 可撓管1基損傷
防災活動従事者	0	0	0	0			
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油8L流出
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
30 実施した防災活動の状況							損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)
公設消防機関：番号 (99) 調査活動				自衛防災・消防組織等 番号 (99) 当該施設の使用停止			
31 防災活動上の問題点							
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 2 年 5 月 19 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 4 年 5 月 25 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/> 内容：		
その他	年 月 日	年 月 日					
35	今後の対策 や所見 日常点検及び定期点検の強化						

1 事故名	地下タンク貯蔵所トレンチ内に設置された配管を土砂で埋設したため、腐食開口により灯油が流出した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 30日 2時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	7月 30日 3時 00分	
5 覚 知	8月 1日 16時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 30日 12時 00分	
7 鎮火・処理完了	8月 1日 16時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東南東 風速：1m/s 気温：24℃ 湿度：98%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 飲食店・宿泊業 宿泊業 旅 番 号 (7211) 館；ホテル 旅館；ホテル	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 100,000L 100倍				
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分				
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
能 力： 100KL	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (3,500L)				
13 機 器 等 温度 圧 力：	18 取 扱 者 の 概 要				
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有				
規 模： 直径30mm	3. 不要				
14 発 生 箇 所	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
名 称： 給油管等 番 号 (907)	23 事 故 の 概 要： 7月30日午前3時ころ警告音が鳴り、調査を行った結果、埋設配管部分に異常があるのではないかと思い関係バルブを閉じた。後日、漏れの確認を業者が実施したところ、圧力が上がらないことから漏れがあることが確認できた。2時間おきにタンクの残量を確認しており、異常な数値を示している時間があり、約3.5KLが地中へ漏えいした。灯油の漏えいを止めるため、漏えい箇所へつながる配管のバルブを閉じ様子を見た後、配管の破損と油の流出が確認できたため消防へ通報した。配管は約2/3が建物内を露出配管してあり露出部分に異常は認められなかった。埋設配管の1/2以上は3年前に交換されており残りの埋設部分に1cmの穴が開き灯油が漏えいし、建物下部土囊部分に浸透した。				
材 質： 鋼鉄	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止				
15 発 生 時					
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)					
作 業 状 況： 監視中 番 号 (10)					
19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要					
20 危険物保安監督者					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因 設計不良							
	発生原因の状況： 当初は、トレンチ内に配管されていたものが、その上に土砂をかぶせ埋設した。配管には防食処置がされておらず周囲の配管にも腐食が確認できた。さらに蒸気管が並列に配管されており、高温多湿状態に常にあったため、防食処置のされていない配管が腐食し、穴が開いたもの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	腐食		環境		高温多湿環境（温泉の湯気の影響、周囲が高温多湿環境）			
	腐食		防食		防食無し（耐腐食性の材料を使用せず）			
	関連原因の詳細							
	設計不良		材料		使用材料の耐食性不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害				28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	
区分								
当 事 者		0	0	0	0			
防災活動従事者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			
被災影響範囲及び拡大の状況： 被害の状況確認のため数か所の井戸の汚染状況を確認しているが、井戸、直近河川等に油の混入は確認できていない。								
施設等の被害状況： 埋設配管に漏れを確認したことから、今後の使用が出来ないため、配管はこのまま埋め戻す。								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況：				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	灯油約3,500L				
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (35 万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 (6、8、99)				
調査活動								
31 防災活動上の問題点								
32 施設名								
行政措置	使用停止	年 月 日	年 月 日	33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 4 年 7 月 30 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 元 年 9 月 7 日	年 月 日		
	関係条項			保 安 検 査	年 月 日	年 月 日		
その他	年 月 日	年 月 日	34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <u>無</u>			
		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭	内容：				
35 今後の対策や所見								
危険物施設から先の少量危険物に該当する部分からの流出ではあるが、ギアポンプで加圧しての送油のため、短時間で大量の灯油が漏えいした。いくつかの警報装置が設置されていたが、停止機能がないため手で止めるまで漏えいが続いた。異常が発生した場合は、警報音とともに電磁弁等で送油を遮断できれば、流出量は少なくて済んだと思われる。								

1 事故名	地下タンク貯蔵所のサービスタンクからボイラーへの埋設配管腐食によるA重油流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 1日 8時 30分	推定・確定	4 発 見	11月 7日 8時 30分	
5 覚 知	11月 14日 14時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 28日 12時 00分	
7 鎮火・処理完了	11月 28日 12時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東南東 風速：0.4m/s 気温：14.4℃ 湿度：96.3%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 飲食店・宿泊業 宿泊業 旅 番 号 (7211) 館；ホテル 旅館；ホテル		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 4,000L 2倍	
名 称： 地下タンク	番 号 (1209)	13 機 器 等		温度圧力：	
能 力： 4,000L		名 称： 貯槽(タンク)		番 号 (107)	
14 発 生 箇 所	規 模： 埋設配管詳細不明		設置の完成： 昭和 56年 1月 12日		倍数の合計： 2倍
名 称： その他の附属配管等	番 号 (299)	14 発 生 箇 所		直近の完成： 令和 2年 7月 30日	
材 質： その他		15 発 生 時		17 物 質 の 区 分	
15 発 生 時	運 転 状 況： 休止中		番 号 (6)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス
作 業 状 況：	番 号 ()				5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： A重油(700L)
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	18 取扱者の概要		
			1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： 施設機械室内の重油サービスタンクからボイラーまでの埋設配管内の破損により、A重油約700Lが流出したもの。なお、原因としては設置から40年以上経過したことによる老朽化と考えられる。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()				
原 因	関 連 原 因						
	発生原因の状況： 施設の営業休止中、A重油を使用していないにもかかわらず液面計にて油量減少を認め、点検業者が確認したところA重油の漏えいを覚知。(老朽化による配管の腐食が原因と推測する)						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	腐食	環境	多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）				
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害			28 物的被害				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 特になし
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管の腐食が原因と推測。
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： ・第4類第3石油類(非水溶性)A重油700L流出。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
							損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円
30 実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点							
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和4年11月21日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和4年11月21日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>	
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：			
35 今後の対策 や所見		日常の管理として、重油残量と使用量の推移に注意を払い、異常の有無の把握に努める。また、40年以上経過している設備の更新補修を行う。消防機関としては定期的な立入検査及び注意喚起を行う。					

1 事故名	移動タンク貯蔵所から地下タンク貯蔵所へ荷卸の際のオーバーフローによる流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 8日 11時 00分	<input checked="" type="checkbox"/> 推定・確定	4 発 見	1月 18日 10時 00分	
5 覚 知	1月 20日 17時 05分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 18日 17時 00分	
7 鎮火・処理完了	6月 8日 10時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気： 不明 風向： 風向不明 風速： 気温： 湿度：				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)				11 発 生 場 所
					区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：
		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 29,200L 14.6倍		
12 施 設 装 置	名 称： 地下タンク 番 号 (1209) 能 力： 20KL×1基、10KL×1基				
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911) 規 模： 一般取扱所 指定数量6倍				
14 発 生 箇 所	名 称： その他 番 号 (999) 材 質： その他				
15 発 生 時	運 転 状 況： 荷卸中 番 号 (13) 作 業 状 況： 番 号 ()				
	設置の完成： 昭和 55年 2月 28日 直近の完成： 令和 3年 3月 23日				
	17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (<input checked="" type="checkbox"/> 低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(4,000L)				
	18 取 扱 者 の 概 要				
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 大型タンクローリーから地下タンク貯蔵所への重油荷卸の際に、何らかの原因により重油がオーバーフローし、周囲の積雪及び土壌に漏えいしたものと推測される。 流出範囲については、施設周辺の土壌195㎡、半径100m以上に流出なし。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () <input checked="" type="checkbox"/> 無					

原因	25 主 原 因 不明		着火原因		番号 ()			
	関連原因 不明、不明							
	発生原因の状況： 発生原因については、詳細不明。発生日時と消防覚知日時に数日空いてしまい、積雪等により原因の特定が困難になった。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
関連原因の詳細								
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害						28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 当該施設周辺の土壌汚染のみで河川等への流出はなし。
区分								
当事者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0				
第三者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消防機関	1台 0隻 0機	2人	自衛	0台 0隻 0機	0人	物質の被害状況： 重油が4,000L漏えいした。		
消防団	0台 0隻 0機	0人	共同	0台 0隻 0機	0人			
海上保安部	0台 0隻 0機	0人	応援	0台 0隻 0機	0人			
その他の機関	2台 0隻 0機	3人	その他	0台 0隻 0機	0人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)		
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
重油が染みた雪は同事業所管理の土地(地下タンク貯蔵所脇)に堆積されている。土壌に染みた油はオイルマット等での回収ができない。								
31 防災活動上の問題点								
行政措置	施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>		
その他	年 月 日	年 月 日	内容：					
1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策や所見								
・荷卸し作業前にはタンク残量を施設附属のメーター等により目視で確認するよう指導。また、積雪等によりメーターが隠れている場合には所有者側で作業の支障がないよう除雪を適切に行うよう指導した。 ・荷卸しを行う際は必ず施設所有会社の従業員及びタンクローリー乗務員双方の立会いのもと行い、給油時の異常や危険物の漏えい事故等が発生した場合に早期に覚知できる体制を整えるよう指導した。								

1 事故名		地下タンク貯蔵所において、配管破損による灯油の流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		3月 5日 0時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見		3月 5日 14時 00分	
5 覚 知		3月 5日 18時 45分	6 鎮 圧 応急処置完了		3月 6日 10時 00分		
7 鎮火・処理完了		3月 6日 11時 30分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：雪		風向：東北東		風速：4m/s 気温：5℃ 湿度：72%	
10 発 生 事 業 所			11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 飲食店・宿泊業 宿泊業 旅 番 号 (7211) 館；ホテル 旅館；ホテル			区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
			16 発生施設規制区分等				
			施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 5,000L 5倍				
12 施 設 装 置							
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)							
能 力： 灯油・5,000L							
13 機 器 等			温 度 圧 力：				
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)							
規 模： 5,000L・内径1,300mm・胴長4,200mm							
14 発 生 箇 所			設置の完成： 平成 元年 6月 26日 直近の完成： 平成 7年 9月 20日				
名 称： 管継手(ダクトを含む) 番 号 (201)			17 物 質 の 区 分				
材 質： 鋼鉄			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (3,000L)				
15 発 生 時			18 取 扱 者 の 概 要				
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)							
作 業 状 況： 番 号 ()							
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	
						①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 社員寮のボイラーに接続されている地下タンク貯蔵所の屋外配管の継手部分が、落雪により破損し、敷地内のため池に灯油3,000Lが流出したものの							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

原 因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 社員寮のボイラーに接続されている地下タンク貯蔵所の屋外配管の継手部分が、落雪により破損したもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		自然現象		雪の重み					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 灯油3,000Lが敷地内のため池に流出(河川への流出なし)		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 屋外配管の継手部分が、落雪により破損		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類 灯油 3,000L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (17 万円)				
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
調査活動 3月5日：消防隊による調査活動(出火危険なし) 3月6日：関係機関と合同で調査活動(敷地外への流出なし)										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和3年9月24日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和3年9月24日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策 や所見		付近住民への広報を実施すること、屋外設備を再点検すること、自主点検を積極的に実施すること、及び、屋外設備に積雪対策を講じる場合は消防機関に相談することを指導								

1 事故名	地下タンク貯蔵所において、荷卸し中に通気管からオーバーフローしたもの					
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生	10月 8日 15時 00分	推定・ 確定	4 発 見	10月 8日 15時 00分		
5 覚 知	10月 8日 16時 54分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 8日 16時 00分		
7 鎮火・処理完了	11月 27日 17時 00分					
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況	天気：晴		風向：北		風速：3.2m/s 気温：22.5℃ 湿度：49.4%	
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： サービス業(他に分類されない番号(8443)もの) 娯楽業 スポーツ施設 提供業 ゴルフ場			11 発 生 場 所		
				区 分： ①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 28,000L 14倍		
12 施 設 装 置	名 称： 地下タンク 番 号 (1209) 能 力： 容量28,000L			設置の完成：平成4年11月18日 直近の完成：平成7年10月6日 17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(18L)		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模： 直径2,200mm、高さ7,600mm、容量28,000L					
14 発 生 箇 所	名 称： 通気管 番 号 (304) 材 質： 鋼鉄			18 取扱者の概要 経験年数30年		
15 発 生 時	運 転 状 況： 荷卸中 番 号 (13) 作 業 状 況： 充填中 番 号 (12)					
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無						
23 事故の概要： 液面計が故障している状態で、荷卸し作業を行ったため液量が分からず通気管からオーバーフローしたもの。また、液面計が故障していたため応急処置として、地下タンク貯蔵所の事業所が手作りの検尺棒で測定していたが、測定した量が入りきらずオーバーフローし約18L流出した物。なお、吸着マット及び乾燥砂を使い、応急処置を実施した。						
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無						

原因	25 主 原 因 故障		着火原因		番号 ()						
	関連原因		維持管理不十分								
	発生原因の状況： 液面計が故障していることは知っていたが、部品交換が遅れたため中止ながら使用していた。また、事業所で経過措置として対策を講じていたが十分ではなかったもの。										
	主要原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	故障		機能		機器の機能の停止						
	関連原因の詳細										
	設備		監理・保守		点検・整備		整備していない				
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名				
区分											
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 地下タンクから重油18L流出し、施設内の側溝に流出した。				
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし				
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)18L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (60 万円)											
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
原因調査実施											
31 防災活動上の問題点											
32 施設名											
行政措置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	令和4年3月19日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等	令和4年3月19日	年 月 日	
	関係条項							保安検査	年 月 日	年 月 日	
その他	年 月 日			年 月 日			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容： 法第10条第4項 製造所等における設備の技術上の基準違反		
35 今後の対策や所見 故障していた液面計を早急に交換すること。今後は定期的に変換する。											

1 事故名	地下タンクの供給先であるボイラー用タンクのバルブ付け根が破損したことによる重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 3日 0時 00分	推定・確定	4 発 見	1月 3日 16時 00分	
5 覚 知	1月 3日 17時 28分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 3日 20時 48分	
7 鎮火・処理完了	1月 3日 20時 49分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後開知 7. 一般加入 ⑧. その他 (他消防本部からの応援要請)				
9 気 象 状 況	天気: 晴 風向: 風向不明 風速: 気温: 湿度:				
10 発 生 事 業 所	種 別: 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態: 公務(他に分類されないもの) 番 号 (9611) 地方公務 都道府県機関 都 道府県機関		11 発 生 場 所	区 分: ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名:	
12 施 設 装 置	名 称: 地下タンク 番 号 (1209) 能 力: 10KL×1基		16 発生施設規制区分等	施設区分: ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別: 貯蔵所 施設別: 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数: 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 10,000L 5倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力: 名 称: 配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模: 鋼製、バルブの付け根部分、地上1.5m付近		17 物質の区分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類: 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称: 重油 (3,500L) 倍数の合計: 5倍	
14 発 生 箇 所	名 称: 開閉弁 番 号 (204) 材 質: 鋼鉄		設置の完成:	昭和 49年 10月 22日	
15 発 生 時	運 転 状 況: 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況: 番 号 ()		直近の完成:	年 月 日	
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要: オンラインファイル無					
23 事故の概要: 施設職員が、通常運転中の施設の配管経路途中にあるバルブ付近が破損し、重油が3,500L流出しているのを発見した。今回破損箇所は地下タンクの供給先サービスタンクのバルブ付け根である。緊急措置として、職員が敷地内の排水口にオイルマットを設置した。他市消防本部から、付近の河川に油膜が浮いているとの連絡が入ったことで覚知した。この流出による死傷者は発生していない。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他					

原 因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()	
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 【推定】バルブ上方にあるサービスタンク内に結露が発生し、結露水が配管内を通過して下方にあるバルブ部へ移動した。バルブ部に溜まった結露水が気温低下により凍結し、体積が膨張したことでバルブが破損したと考えられる。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	破損		自然現象		凍結			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害						28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	
区分							被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油が施設排水口から河川に流れ込み、約10kmにわたって下流へ流出し、付近のダムに滞留した。	
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： ボイラー用重油タンクのバルブ付け根付近を破損した。	
第 三 者	0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	0台 0隻 0機 0人	自 衛	0台 0隻 0機 0人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油3,500L				
消 防 団	0台 0隻 0機 0人	共 同	0台 0隻 0機 0人					
海上保安部	0台 0隻 0機 0人	応 援	0台 0隻 0機 0人					
その他の機関	0台 0隻 0機 0人	その他	0台 0隻 0機 0人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (939 万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日						
35	今後の対策 や所見 供給元である地下タンクを屋内タンクへ変更する計画をしており、構造の簡素化及びバルブ等へのオイルパン設置の拡充を進めている。							

1 事故名	地下タンク貯蔵所の配管から重油が1,000L漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 19日 16時 00分	推定・確定	4 発 見	1月 20日 10時 30分	
5 覚 知	1月 20日 15時 06分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 20日 15時 45分	
7 鎮火・処理完了	1月 20日 19時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：無風状態 風速： 気温： 湿度：				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：医療・福祉 医療業 病院 一 番 号 (7311) 般病院		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称：地下タンク 番 号 (1209) 能 力：50KL		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 50,000L 25倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力：0.05Mpa 名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：口径25A		倍数の合計： 25倍 設 置 の 完 成：平成 22年 11月 25日 直 近 の 完 成：平成 22年 11月 25日		
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質：鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(1,000L)	
15 発 生 時	運 転 状 況：停止中 番 号 (5) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取 扱 者 の 概 要		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 地下タンク貯蔵所から一般取扱所(非常用発電機)のサービスタンクまでの間の燃料配管において腐食によるピンホールが発生し、当該腐食箇所から、免震ピット内の湧き水ピット等に重油1,000Lが漏えいしたものの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関連原因							
	発生原因の状況： 免震ピット内の耐火被覆された配管において、その被覆内に湿気がたまり配管が腐食したものと推定される。							
	主要原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害						28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 免震ピット内の湧水溝及び湧水ピット内に重油が流入した。
区分								
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 送油配管に腐食孔が出現。 流出した油により免震ピット内の湧水溝の汚損及び湧水ピット内に重油が滞留。
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	0 台 0 隻 0 機 0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 重油が1,000L流出。				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (94 万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 (4、5)				
施設の定期点検のため見回っていたところ、免震ピット内で油の匂いがしたため、確認したところ地下タンクの送油管より油が漏れ落ちている状態を発見した。耐火被覆をめくるとピンホールより勢いよくアーチ状に油が出てきたため、一時的な流出防止措置を実施し、即座に業者に配管の交換と油の回収を依頼し、油の回収等を実施した。								
31 防災活動上の問題点 事故発見から通報まで時間を要した(4時間)。								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 3 年 3 月 30 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 1 年 10 月 2 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策 や所見	対策 危険物施設の定期点検に係る教育を行うこと及び配管の被覆がなくても支障がないことから、配管の被覆を撤去し配管の腐食状況等を確認できる状態とした。 所見 事故発見から通報まで時間を要したため、事故発生時の対応マニュアルを作成することが望ましい。							

1 事故名		地下タンク貯蔵所における灯油の流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定			4 発 見		4月 12日 15時 50分				
5 覚 知		4月 12日 15時 50分			6 鎮 圧 応急処置完了		4月 12日 15時 50分				
7 鎮火・処理完了		4月 28日 16時 00分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後開知 7. 一般加入 ⑧. その他 (漏れの点検に立ち合ったことによる自己覚知)									
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：南西		風速：6m/s		気温：25℃		湿度：54%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所							
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 輸送用機械器具製造 番 号 (3013) 業 自動車・同附属品製造業 自動車部分品・附属品製造業				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：							
				16 発生施設規制区分等							
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 15,000L 15倍							
12 施 設 装 置											
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)											
能 力： 15,000L											
13 機 器 等				温度圧力：							
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)											
規 模： 直径1,927mm、全長5,600mm、容量15,000L											
14 発 生 箇 所				設置の完成： 昭和 63年 8月 25日 直近の完成： 年 月 日							
名 称： その他 番 号 (999)				17 物 質 の 区 分							
材 質： 鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油(72L)							
15 発 生 時				18 取 扱 者 の 概 要							
運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号 (7)											
作 業 状 況： 番 号 ()											
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危 険 物 保 安 監 督 者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		1. 有 ②. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： 事業所から、暖房用ボイラーを使用していないのに地下タンク貯蔵所の在庫量が72L減少した、との連絡を受けたため、消防が立入検査を実施したところ漏えい検知管に灯油の臭気があることを確認した。翌日、在庫の抜取りを実施するとともに、圧力検査を実施したところ試験圧力に対して12%の圧力の減少が確認されたため流出事故と判断した。											
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他											

原 因	25 主 原 因 不明		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 腐食疲労等劣化が原因と見て調査するも、原因不明。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設周囲及び事業所敷地境界に設けられた、地下水観測用の井戸から油の成分は検出されず。		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 腐食疲労等劣化により地下貯蔵タンクに穴が空いていると見て調査中		
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 貯蔵してあった灯油72Lが流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
事故調査										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	地下タンク貯蔵所			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和4年 2月 9日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	令和2年 2月 26日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・無		
その他	警告 令和4年 4月 15日			1. 文書 2. 口頭			内容： 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反			
35 今後の対策 や所見	定期点検(自主点検)や漏れ試験はしっかり実施されていた状況で発生した事故であった。地下貯蔵タンクが埋設されていた場所の地質や地下水の影響を受け腐食が発生した可能性も否定できないため、当該施設は廃止され、設備は灯油ボイラーからガスボイラーへ更新された。									

1 事故名	地下タンク貯蔵所の通気管から燃料の流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	9月 8日 21時 37分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	9月 8日 21時 40分
5 覚 知	9月 9日 0時 33分	6 鎮 圧 応急処置完了	9月 9日 3時 00分
7 鎮火・処理完了	9月 9日 3時 00分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北 風速：1.8m/s 気温：24.5℃ 湿度：96.3%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 輸送用機械器具製造 番 号 (3041) 業 航空機・同附属品製造業 航空機製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) Jet A-1 96,000L 96倍		
12 施 設 装 置	設置の完成：平成20年 6月 12日 直近の完成：令和4年 4月 6日		
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)			
能 力： 48,000L×2基			
13 機 器 等	温度圧力：		
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)			
規 模： 内径2,400mm、胴長11,658mm、容量48,000L			
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分		
名 称： 通気管 番 号 (304)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
材 質： 鋼鉄	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： Jet A-1(57.2L)		
15 発 生 時	18 取扱者の概要 経験年数22年		
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)			
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)			
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要
	21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有			
23 事 故 の 概 要： 本事故は、地下タンク貯蔵所の通気管から約57.2Lの燃料がオーバーフローし、漏えいした燃料の一部が雨水配管を通じて雨水排水口から河川へ流出したものである。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

原 因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()							
	関連原因											
	発生原因の状況： 原因は、地下貯蔵タンクへの戻り配管のバルブ操作を誤ったため、試験で使用しきれなかった燃料が、戻り配管を経由し地下貯蔵タンクに流入したため。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	人		本人の意識		思慮		思い込み					
	関連原因の詳細											
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害				28 物的被害								
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいした燃料の一部が、雨水配管を通じて雨水排水口から河川へ流出した。 流出範囲は、夜間のため詳細に確認できていないが、流出量が少量のため敷地境界線から100m以内に収まっているものと推定される。				
区分												
当 事 者	0	0	0	0								
防災活動従事者	0	0	0	0								
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類約57.2L流出		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	1 台	0 隻	0 機	6 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)		
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (4、6)						自衛防災・消防組織等 番号 (4、6)						
31 防災活動上の問題点 事故を発見してから消防機関へ通報するまで2時間53分が経過している。予防規程の見直しと従業員への教育。												
政 策 措 置	32 施設名	地下タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他				
	使用停止	年 月 日				年 月 日	定期・自主点検	令和4年9月1日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				年 月 日	気密試験等	令和2年9月3日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日				年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>				
その他	危険物の流出防止及び除去 令和4年10月9日				年 月 日		内容：					
35 今後の対策 や所見	バルブ切り替え後の確認チェックシートを作成。バルブ切替え順序の明確化及び注意喚起表示を設置。 従業員への教育の徹底及び消防機関への早期通報ができる体制をとるよう指導した。											

1 事故名	地下タンクから燃料小出し槽(少量危険物)への送液配管の腐食による重油の漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 13日 0時 00分	推定・確定	4 発 見	9月 13日 0時 00分	
5 覚 知	9月 13日 10時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 13日 11時 00分	
7 鎮火・処理完了	9月 13日 11時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西 風速：2.2m/s 気温：30℃ 湿度：68%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 飲料・たばこ・飼料製 番 号 (1061) 造業 飼料・有機質肥料製造業 配合飼料製造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： 地下タンク 番 号 (1209) 能 力： 5,000L		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 5,000L 2.5倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 0.1Mpa 名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模： 呼び径25A		倍数の合計： 2.5倍 設置の完成： 平成 3年 7月 16日 直近の完成： 平成 3年 11月 29日		
14 発 生 箇 所	名 称： その他 番 号 (999) 材 質： 鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(2L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 通報者は、当日の午前8時30分の朝礼で、夜間の見回りをしていた職員が上記事故を発見した旨の報告を受けたため、現地を確認した後、当消防本部へ通報した。 通報を受け、調査員2名で出向し、消防法第16条の5に基づく立入検査を実施した。 地下タンク貯蔵所の配管の周囲には危険物が漏えいした跡があり、継続した漏えいは認められない。漏えいの範囲は、横1m×縦0.5m程度であり、一部排水溝への流出を認めるも、敷地外への流出は認められなかった。なお、事業所側の対応として、吸着マットによる流出防止措置がとられていた。 調査員が漏えい検査管により検査したところ、地下貯蔵タンクの異常は認められなかった。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 危険物配管の被覆部分に亀裂があり、内部の鋼管部分も赤黒く変色していた。また当該配管を中心に漏えい跡が認められた。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 敷地外への流出なし		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管の漏れ		
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第3石油類(重油)1~2L程度
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
原因調査										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止		年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日	
	改善命令等		年 月 日		年 月 日		気密試験等		令和4年3月31日	
	停止解除		年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日	
	関係条項						34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容： 法第13条の3項 製造所等における危険物取扱者以外の者の危険物の取り扱い	
その 他		年 月 日		年 月 日						
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭								
35 今後の対策 や所見		当該地下タンク貯蔵所は使用を停止し、点検を行い、事前に消防本部へ相談の上、改修する。 危険物施設の事故等を発見した際は、すみやかに保安監督者及び消防本部へ報告する。								

1 事故名	地下タンク貯蔵所の地上配管フランジ部分のパッキン破損箇所から重油が流出したもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	7月 20日 11時 00分		
5 覚 知	7月 20日 19時 18分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 20日 20時 56分	
7 鎮火・処理完了	7月 26日 17時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気： 不明 風向： 風向不明 風速： 気温： 湿度：				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 公務(他に分類されないもの) 番 号 (9531) 国家公務 行政機関 行政機 関	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 12,000L 6倍				
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分				
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
能 力： 地下タンク貯蔵所 タンク容量12,000L	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油 (8,000L)				
13 機 器 等 温度圧力：	18 取 扱 者 の 概 要				
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)	1. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者 ①. 有 ③. 不要 6倍の合計： 6倍				
規 模： 直径1,800mm、胴長4,854mm、鏡349mm、最大容量12,000L	設置の完成： 平成 18年 3月 9日 直近の完成： 令和 2年 9月 18日				
14 発 生 箇 所	19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者 1. 選任有 2. 選任無 20 危 険 物 保 安 監 督 者 1. 選任有 2. 選任無 21 危 険 物 取 扱 者 ①. 有 材 質： ゴム 番 号 (213) ③. 不要 の 取 扱 ・ 立 会 い 2. 無				
15 発 生 時	22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要： オンラインファイル無				
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)	23 事 故 の 概 要： 覚知日の前日、排水機場を訪れた職員が排水機場のモニター室で地下タンクの油面低下を確認。 残油量を確認したところ、地下タンクの貯蔵量が急激に減っていることを確認したため手動によりポンプを停止し、施設内外を点検したが異常は発見できなかった。 翌日、点検業者に依頼し、モニター室で残油量の確認及び施設の点検を実施したところ、地下タンク貯蔵所の地上配管フランジ部分から重油の漏えいを確認した。				
作 業 状 況： 番 号 ()	24 緊 急 処 置 の 状 況 [有] 番 号 (1) 無 装置の緊急停止				

25	主 原 因 破 損		着 火 原 因		番 号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 漏えい覚知の5日前、施設の点検のため燃料移送ポンプを自動運転にて始動させる。4日後、施設モニター室にて地下タンク貯蔵所の液面低下を確認。翌日、点検保守業者による臨時点検を実施し、燃料配管のフランジ部分のパッキンが損傷しており、パッキン部分からの重油の漏えいを確認した。燃料移送ポンプが作動した際、配管内の重油が漏えいしたと推定される。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
破損		定常運転時		その他						
関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 施設敷地内の土中に危険物(第4類第3石油類 重油)約8,000L漏えい。 施設周囲の排水桶門に吸着マットを設置。河川及び隣接地への流出なし。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 地下タンク貯蔵所の地上配管フランジ部分のパッキン損傷。地下タンク貯蔵所内の危険物(第4類第3石油類:重油)約8,000Lが敷地内の地中へ漏えい。			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	2 人	物質の被害状況： 地下タンク貯蔵所内の危険物(第4類第3石油類:重油)約8,000Lが敷地内の地中へ漏えい。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (30 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 現場到着時、施設職員により漏えい箇所への応急措置が実施されていたため、漏えい箇所及び施設周辺の状況確認を実施。				自衛防災・消防組織等 番号 (6) 施設職員による漏えい箇所確認後、施設周辺を巡視、異状がないことを確認。 漏えいしていた配管フランジ部分のパッキンを交換し、排水機場の排水桶門に吸着マットを設置。						
31 防災活動上の問題点 異常の確認、漏えい箇所の特定から応急措置の実施まで1日以上経過しており、施設側の処置が完了してから通報に至っており、早期の通報が実施されなかった。施設周辺を巡視及び排水機場の排水桶門に吸着マットを設置。										
32	施 設 名	地下タンク貯蔵所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検		年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	令和 4 年 7 月 20 日	年 月 日	気密試験等		令和 3 年 2 月 7 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査		年 月 日	年 月 日			
	関係条項	法第12条第2項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	流出防止、危険物の回収、原因の究明等 令和 4 年 7 月 20 日 年 月 日 ①. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭									
35	今後の対策 や所見	漏えいした配管及び同時期に設置された配管の点検を指示。点検の結果、異常なし。 事案覚知直後から、漏えいした時期が出水期であったこともあり、危険物が施設外へ流出し、周辺地域に人的・物的被害を及ぼすおそれが懸念され、漏えい危険物の回収作業を早期に開始するよう強く指示した。しかし、施設側(国)は、安全・確実な回収方法を行うとの方針から、事前調査に長期の時間(覚知から約1か月)を要し、実際の回収作業の開始がかなり遅くなったものである。施設側の調査の結果、危険物は敷地内の地中に滞留しているとのことで、回収作業により漏えい危険物については概ね回収された。安全確認のため、土中残油及び周辺河川の監視等を継続することとしている。 排水機場では、通常時は無人のことが多く、目視による日常の点検が困難であるが、遠隔監視と定期確認の徹底を施設管理者に実施させることにより、施設の保安の確保と再発防止を行わせた。								

1 事故名	地下タンク貯蔵所に係る配管の一部損傷による灯油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 6日 18時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	11月 7日 8時 30分	
5 覚 知	11月 7日 8時 50分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 7日 11時 00分	
7 鎮火・処理完了	11月 7日 17時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北東 風速：2.6m/s 気温：14℃ 湿度：				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： サービス業(他に分類されない番号(8516)もの) 廃棄物処理業 一般廃棄物処理業 ごみ処分量		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 地下タンク	番 号 (1209)	能 力： 貯蔵容量10,000L	設置の完成： 平成 10年 11月 16日	直近の完成： 平成 10年 11月 16日	倍数の合計： 10倍
13 機 器 等	温 度 圧 力：	名 称： ポンプ	番 号 (501)	規 模： 1,900L/h	
14 発 生 箇 所	名 称： フレキシブル管継手(ダクトを含む)	番 号 (202)	材 質： ステンレス	17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油(1,500L)
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中	番 号 (1)	作 業 状 況：	番 号 ()	18 取 扱 者 の 概 要
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 従業員が灯油消費量を記録していたため、確認したところ、想定以上の量が消費されていた。 そのため、施設を巡回し、確認したところ、工場1階予備ボイラー室出入口付近の屋外アスファルトに染みを発見し、灯油の漏えいを確認した。即時、送油ポンプ及び施設の操業を停止し、施設管理業者に連絡。施設管理業者到着後、予備ボイラー室内に入ったところ、灯油が霧状に噴射し漏えいしているのを確認。その後、消防機関に連絡したものの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因			番号 ()		
原 因	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 地下タンク貯蔵所設置時から配管等の更新をしていなかったため、劣化し、漏えいしたもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層	
	疲労・劣化		環境			常に振動する環境下で疲労（想定内の振動であるが、材料が継続した疲労により損傷等）				
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設装置建屋内に灯油が流出 施設等の被害状況： ポンプに設置されていたフレキシブル配管を更新していなかったため、劣化し、配管が開口し、施設内に漏えいしたもの。			
区分						職業又は職名				
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
						物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油 1,500L流出 損害額 1万円未満、 1万円以上 (17 万円)				
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 現地調査を実施し、事故原因の聴取をし、漏えいした危険物の回収をするよう指示した。						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点										
32 施設名										
政 策 措 置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日	
	関係条項							保安検査	年 月 日	
その他	年 月 日			年 月 日			34 当該施設に係る法令違反の有無			
		1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭			有・ 無 内容：		
35 今後の対策や所見										
設備の維持管理の徹底や計画的な設備更新について指導した。										

1 事故名		屋内タンク貯蔵所から地下タンク貯蔵所への戻り配管による重油の流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		7月 28日 9時 30分	推定・確定	4 発 見		7月 28日 9時 30分	
5 覚 知		7月 28日 11時 02分		6 鎮 圧 応急処置完了		7月 28日 13時 00分	
7 鎮火・処理完了		7月 28日 13時 00分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気:		風向:		風速: 気温: 湿度:	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別: 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態: 医療・福祉 医療業 病院 精 番 号 (7312) 神病院				区 分: ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名:			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分: ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別: 貯蔵所 施設別: 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数: 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 20,000L 10倍			
12 施 設 装 置							
名 称: 地下タンク 番 号 (1209)							
能 力: 20KL×1基							
13 機 器 等				温度圧力:			
名 称: 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)							
規 模: 戻り管(65A)				倍数の合計: 10倍			
14 発 生 箇 所				設置の完成: 昭和 49年 10月 18日 直近の完成: 平成 6年 7月 22日			
名 称: 給油管等 番 号 (907)				17 物 質 の 区 分			
材 質: その他				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類: 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称: 重油(400L)			
15 発 生 時				18 取 扱 者 の 概 要			
運 転 状 況: 緊急操作中 番 号 (4)							
作 業 状 況: 番 号 ()							
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	
				21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要: オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要 : 地下タンク貯蔵所(20,000L)の燃料が減少したため、病棟3階の少量危険物サービスタンク(715L)への燃料を確保するため、屋内タンク貯蔵所(4,800L)の燃料を地下タンクへ戻す作業を行った際、戻り配管部分から重油が約400L漏えいしたものの。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 屋内タンク貯蔵所から地下タンク貯蔵所への戻り配管による腐食劣化により、重油約400Lが側溝へ流出。なお、敷地外への流出はなし。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 重油（約400L）が事業所内の側溝へ流出。事業所外への流出はなし。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 屋内タンク貯蔵所から地下タンク貯蔵所への戻り配管が腐食破損。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 重油約400Lを流出。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 () 敷地外への流出状況の確認等の調査。（敷地外への流出がないことを確認）						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	地下タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法		そ の 他	
	使用停止	令和 4 年 7 月 28 日				年 月 日	年 月 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日	年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				年 月 日	年 月 日		年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無			
その他	年 月 日				内容：					
35 今後の対策 や所見		漏えいした配管の取替え工事等を行う予定。								

1 事故名	地下タンクからサービスタンクへの埋設配管の腐食による灯油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	1月 28日 15時 30分		
5 覚 知	1月 28日 15時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 16日 15時 20分	
7 鎮火・処理完了	3月 28日 17時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他(立入検査)				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西 風速：5m/s 気温：11℃ 湿度：41%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：医療・福祉 社会保険・社会福 番号 (7542) 祉・介護事業 老人福祉・介護 事業(訪問介護事業を除く) 介護老人保健施設		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)	
			特別防災地区名：	16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 4,000L 4倍
12 施 設 装 置	名 称： 地下タンク 番 号 (1209)		設置の完成： 平成 元年 4月 20日 直近の完成： 令和 3年 12月 7日		
	能 力： 4,000L				
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 4倍		
	名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)				
	規 模： 直径1,450mm、全長2,800mm、容量4,000L				
14 発 生 箇 所	名 称： その他の部位 番 号 (399)		17 物 質 の 区 分		
	材 質： 鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油		
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)		18 取 扱 者 の 概 要		
	作 業 状 況： 番 号 ()				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 現地調査を行っていたところ当該事業所地下タンク貯蔵所検知管4箇所から地下水と油分を認め、気密漏えい検査により地下タンクからサービスタンクへの吸引管から地下に灯油が漏れていることが確認されたため、地下埋設配管の改修を実施した。なお、事故発生日時及び流出量は不明である。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関連原因							
	発生原因の状況： 地下埋設配管の腐食疲労等劣化							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害						28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏油部周囲2m土壌
区分								
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 地下埋設送油配管腐食
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	0台 0隻 0機 0人	自 衛	0台 0隻 0機 0人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油 流出量不明				
消 防 団	0台 0隻 0機 0人	共 同	0台 0隻 0機 0人					
海上保安部	0台 0隻 0機 0人	応 援	0台 0隻 0機 0人					
その他の機関	0台 0隻 0機 0人	その他	0台 0隻 0機 0人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 () なし				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施設名	少量危険物配管		33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	令和4年 2月 25日	年 月 日	定期・自主点検	令和4年 1月 21日	年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和3年 10月 5日	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	令和4年 3月 16日	年 月 日	保 安 検 査	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
	関係条項	法第5条の2第2項		34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>		
その他	年 月 日	年 月 日			内容：			
35 今後の対策 や所見	①. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭 常日頃からの仕入れ量と使用量等在庫管理の徹底及び頻回の点検を指導したところであるが、今後他の事業所に対しても指導を行い、同種事故防止に努める必要がある。							

1 事故名	地下タンク貯蔵所液面計取り付け座からの重油流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	4月 18日 16時 13分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見
5 覚 知	4月 18日 16時 45分	6 鎮 圧 応急処置完了	4月 18日 16時 20分
7 鎮火・処理完了	4月 18日 20時 30分		4月 18日 16時 22分
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西北西 風速：0.7m/s 気温：19.7℃ 湿度：29.9%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： ①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <input checked="" type="checkbox"/> 第2種、その他)	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)		
業 態：情報通信業 通信業 移動電 番号 (3731) 気通信業 移動電気通信業	特別防災地区名：北九州地区		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等		
名 称：地下タンク 番 号 (1209)	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他		
能 力：40KL×2本	貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所		
13 機 器 等	類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 80,000L 40倍		
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)	温度圧力：		
規 模：内径2,500mm 胴長8,354mm 鏡出485mm	倍数の合計：40倍		
14 発 生 箇 所	設置の完成：平成23年 8月 5日		
名 称：液面計 番 号 (309)	直近の完成：平成24年 11月 15日		
材 質：鋼鉄	17 物質の区分		
15 発 生 時	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
運 転 状 況：停止中 番 号 (5)	5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
作 業 状 況：定期修理中 番 号 (2)	(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧)		
	(低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温)		
	分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：A重油(350L)		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	18 取扱者の概要 経験年数12年
			①. 選任有 2. 選任無 3. 不要
			21 危険物取扱者 の取扱・立会い
			①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事故の概要： 地下タンク貯蔵所の年次点検のため、液面計を取り外し制御盤は開放(電源OFF)、ポンプの電源はONのまま整備を行っていたが、タンク内が空の状態との信号が発信されたため、ポンプが起動し送油された。このため、タンク液面計取付座から重油約350Lが流出、内約30Lがマンホール点検口外の地上に流出した。発見と同時にポンプを手動で停止、マンホール外へ流出した重油を吸着マットを使用して回収し拡散防止を行った。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他			

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 地下タンク貯蔵所の点検や修理等を実施する場合、制御電源を開放(電源OFF)していれば、移送ポンプは起動しないと思っていたため。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 液面計取付座から重油が流出し、マンホールからオーバーフローした油が配管ビットへ流出した。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	10 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油約350L流出。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (104 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動				自衛防災・消防組織等 番号 (5) マンホール内に溜まっている重油はバキュームで吸引し、外部に流出した重油は吸着マットを使用して回収。地盤面は中和剤で洗浄を行い、汚水は廃棄処理した。						
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名	地下タンク貯蔵所			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和3年10月23日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	令和3年7月13日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
その他	令和4年4月18日	年 月 日		1. 文書 ②. 口頭		1. 文書 2. 口頭				
35 今後の対策や所見		製造メーカーと共同で点検マニュアルの見直し。 定期修理等を行う際は、制御電源を開放(OFF)するとともに、移送ポンプも手動で停止(電源OFF)にする。								

1 事故名		地下タンク貯蔵所への荷卸し時における重油の流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		4月 19日 14時 30分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	4月 19日 14時 30分		
5 覚 知		4月 19日 21時 04分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 19日 21時 49分		
7 鎮火・処理完了		4月 19日 21時 49分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン ④. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：南		風速：0.9m/s 気温：18.9℃ 湿度：48.5%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： サービス業(他に分類されない番号(8211)もの) 洗濯・理容・美容・浴場業 洗濯業 普通洗濯業				区 分： ①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 4,800L 2.4倍			
12 施 設 装 置				17 物 質 の 区 分			
名 称： 地下タンク 番 号 (1209) 能 力： 容量4,800L				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(40L)			
13 機 器 等				18 取 扱 者 の 概 要			
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模： 直径1,440cm×全長3,402cm、直埋設一重殻鋼製タンク				温度圧力： 倍数の合計： 2.4倍 設置の完成： 昭和 63年 2月 24日 直近の完成： 平成 7年 11月 24日			
14 発 生 箇 所		名 称： 通気管 番 号 (304) 材 質： 鋼鉄		21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		①. 有 2. 無	
15 発 生 時		運 転 状 況： 荷卸中 番 号 (13) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危 険 物 保 安 監 督 者	
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有							
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所の危険物取扱者1名が地下貯蔵タンクの油面計を監視しながら、荷卸しを行っていたところ、地下貯蔵タンクの通気管から重油が噴出したためすぐにポンプを停止したが、約40Lの重油が地上に溢れた。 クリーニング工場の従業員と協力してふき取りや洗浄を行った際、水を使用したため、油分を含んだ水が付近の側溝に流れ、施設外の用水路に流出した。なお、吸着マットを使用し、回収及び拡散防止を実施した。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

原因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所の危険物取扱者は新任で、当該クリーニング工場への荷卸しを1名で行うのは初めてであったこと及び、荷卸し数量と液面計の数量に誤認があり、油面計の表示が満タンの容量を示していることに気付かず注油を続けたもの。 また、クリーニング工場側の立会は常習的に行われておらず、地下タンク貯蔵所からタンク注入口が離れており、タンク直上の油面計を監視していたため、重油が噴出し、注油口側の移動タンク貯蔵所のポンプを緊急停止するまでに時間を要したもの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の知識・能力		技能・技術力		経験不足/習熟不足				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 通気管から溢れた重油が施設外の側溝から用水路に流れ込み、最大で100m程度まで流出。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0						
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし。			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油約40L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (4, 5) 油吸着マットを使用し、残留していた重油の回収及び拡散防止を図った。						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 地上に溢れた重油をタオル等でふき取り、除去した。					
31 防災活動上の問題点 事業者側から消防等公的機関への通報はなく、異臭に気付いた周辺住民からの通報で発覚した。重油をふき取った後、洗浄のため水を流したことで流出範囲が広がった。											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	平成 29 年 12 月 27 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	平成 29 年 12 月 27 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日				保 安 検 査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 法第14条の3の2 点検記録の作成及び保存の義務違反				
その他	年 月 日										
35 今後の対策や所見 従業員への安全教育を実施し、施設の保安管理を徹底するとともに、荷卸し時には危険物取扱者等による立ち合いを行う。											

5 移動タンク貯蔵所

1 事故名	移動タンク貯蔵所から一般住宅のホームタンクへの注油中に灯油が漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 27日 8時 00分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	1月 27日 8時 00分	
5 覚 知	2月 4日 15時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 4日 15時 53分	
7 鎮火・処理完了	6月 30日 10時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西北西 風速：3.4m/s 気温：-2℃ 湿度：60%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (<u>陸上</u> 、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,750L 3.75倍 倍数の合計： 3.75倍 設置の完成：令和 元年 9月 12日 直近の完成： 年 月 日	
12 施 設 装 置			名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303) 能力：第4類第2石油類 灯油 3,750L		
13 機 器 等	温度 圧力：	名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606) 規模：容量3,750L			
14 発 生 箇 所	名称：給油(注油)ノズル 番号 (909) 材質：鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(60L)	
15 発 生 時	運転状況：荷卸中 番号 (13) 作業状況：運転操作中 番号 (1)		18 取扱者の概要		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所から一般住宅のホームタンクに注油時、注油ノズルの手動開閉装置を固定し、その場を離れた間にオートストップ機能が作動せず、灯油約60Lが流出した。なお、液体の中和剤をホームタンクの上から散布し、応急措置を実施した。					
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (10) 無 その他					

25	主 原 因 監視不十分 関 連 原 因 操作確認不十分	着火原因	番号 ()				
原 因	発生原因の状況： 空き缶で手動開閉装置を固定してその場を離れ際、注油ノズルのオートストップ機能が作動せず、灯油が漏えいした。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	人	本人の意識	思慮	過信			
	関連原因の詳細						
	人	本人の意識	違反(故意)	問題意識の不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害			28 物的被害				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ホームタンク周囲の雪及び土壌に灯油が流出
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： ホームタンク周囲の土壌を汚損
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第2石油類(灯油)が約60L流出
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
30 実施した防災活動の状況							損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (万円)
公設消防機関：番号 (5、99) 調査活動				自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点							
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	<input type="checkbox"/> 有・無	
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容： 消防法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反 消防法第16条の3第2項 製造所等における通報義務違反			
35	今後の対策 や所見	当該事業所に対し、消防法令の遵守について、指導を行い、同種の違反の防止に努める必要がある。					

1 事故名	移動タンク貯蔵所配管破損による漏えい事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 24日 15時 06分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	2月 24日 15時 06分	
5 覚 知	2月 24日 15時 11分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 24日 17時 32分	
7 鎮火・処理完了	2月 24日 17時 57分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気:	風向:	風速: 2m/s	気温: -2℃	湿度: 81%
10 発 生 事 業 所	種 別: 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態: 運輸業 道路貨物運送業 特 番 号 (4421) 定貨物自動車運送業 特定貨物自動車運送業		11 発 生 場 所	区 分: 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名:	
12 施 設 装 置	名 称: 移動貯蔵タンク 番 号 (1303) 能 力: 20,000Lタンク		16 発生施設規制区分等	施設区分: ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別: 貯蔵所 施設別: 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数: 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 20,000L 10倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力: 名 称: 配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模: 長径2,430mm 短径1,410mm 胴長8,040mm 鏡の出180mm 全長8,400mm 容量20,000L		設置の完成: 平成 22年 9月 1日 直近の完成: 平成 22年 9月 8日	倍数の合計: 10倍	
14 発 生 箇 所	名 称: 給油管等 番 号 (907) 材 質: 鋳鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類: 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称: 重油(10L)	
15 発 生 時	運 転 状 況: その他 番 号 (99) 作 業 状 況: その他 番 号 (99)		18 取扱者の概要	経験年数25年	
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要: オンラインファイル無					
23 事故の概要: トラクターヘッドが故障したため、圧雪面に車を止め、別のトラクターヘッドと交換中にトレーラーが滑りだしたことにより補助脚が折れ、タンクの配管が圧雪面に接触し、配管に残っていた油が流出したものの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()				
	関連原因 破損、不明								
	発生原因の状況： トラクターヘッドが故障したため、圧雪面に車を止め、別のトラクターヘッドと交換中にトレーラーが滑りだしたことにより補助脚が折れ、タンクの配管が圧雪面に接触し、配管に残っていた油が流出したものの。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足		
	関連原因の詳細								
	交通事故		その他		その他				
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害						28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名		
区分									
当 事 者		0	0	0	0				
防災活動従事者		0	0	0	0				
第 三 者		0	0	0	0				
						被災影響範囲及び拡大の状況： タンク底部の配管が損傷し、配管内の重油約10Lが地盤面に流出			
						施設等の被害状況： 配管の損傷・アウトリガーの破損			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
						物質の被害状況： 配管内の第4類第3石油類、重油約10Lが流出			
						損害額 1万円未満、 1万円以上 (100 万円)			
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 ()				
吸着マットの設置									
31 防災活動上の問題点 なし。									
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ 無	
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：				
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策 や所見		移動タンクの運転手に今後は平地で作業をするよう指導する。							

1 事故名	給油取扱所へ軽油を荷卸中、操作を怠り、給油取扱所敷地内に軽油が流出した事故					
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生	4月 22日 15時 50分	推定・確定	4 発 見	4月 22日 15時 55分		
5 覚 知	4月 22日 16時 10分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 22日 17時 10分		
7 鎮火・処理完了	4月 22日 17時 30分					
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況	天気：晴		風向：東北東		風速：2.9m/s 気温：15.3℃ 湿度：70%	
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 運輸に附帯するサー ビス業 その他の運輸に附帯 するサービス業 他に分類さ れない運輸に附帯するサー ビス業			11 発 生 場 所		
12 施 設 装 置				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等		
13 機 器 等	温度圧力：			施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 26,000L 130倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 0L 0倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 0L 0倍		
14 発 生 箇 所	名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303) 能 力： タンク容量26,000L			設置の完成： 平成 10年 9月 11日 直近の完成： 令和 3年 3月 15日 倍数の合計： 130倍		
15 発 生 時	13 機 器 等			17 物 質 の 区 分		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	
22 設備・機器等の概要	オンラインファイル無					
23 事故の概要	移動タンク貯蔵所から給油取扱所専用地下タンクに荷卸しする際、使用しない吐出口を開放したまま底弁を開放操作し、当該吐出口から、軽油約40Lが給油取扱所敷地内に流出したものの。					
24 緊急処置の状況	有 番号 () 無					
21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無					

原因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()					
	関連原因 監視不十分									
	発生原因の状況： 運転手が業務の慣れから、動作の確認を怠っており、流出事故に至った。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		思い込み			
	関連原因の詳細									
	人		本人の意識		違反(故意)		問題意識の不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： なし。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 軽油約40L。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検			年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等			年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保 安 検 査			年 月 日	年 月 日	
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・無 内容：		
	その他	年 月 日	年 月 日							
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭										
35 今後の対策や所見 一つ一つの操作を確認するため、コメンタリー操作をする										

1 事故名		移動タンク貯蔵所における、注油作業中の流出事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		5月 9日 6時 10分	推定・確定	4 発 見		5月 9日 6時 10分	
5 覚 知		5月 9日 8時 07分		6 鎮 圧		5月 9日 9時 19分	
7 鎮火・処理完了		5月 9日 10時 00分		6 応急処置完了			
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：南		風速：4.8m/s 気温：11℃		湿度：45%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 鉄道業 鉄道業 普 番 号 (4211) 通鉄道業				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 20,000L 100倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 17,650L 17.65倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 18,750L 18.75倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 17,380L 8.69倍			
12 施 設 装 置							
名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303)							
能 力： 第4類第1石油類(ガソリン)第2石油類(灯油・軽油)第3石油類(A重油)20,000L(100倍)							
13 機 器 等				温度 圧力：			
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)							
規 模： 内径寸法 長さ7,700mm、幅2,460mm、高さ1,395mm				倍数の合計： 100倍			
14 発 生 箇 所				設置の完成： 平成 25年 10月 28日 直近の完成： 年 月 日			
名 称： マンホール 番 号 (305)				17 物 質 の 区 分			
材 質： 鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油 (300L)			
15 発 生 時				18 取 扱 者 の 概 要			
運 転 状 況： 荷卸中 番 号 (13)				経験年数3年			
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)							
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危 険 物 保 安 監 督 者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	
				21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所から鉄道用給油取扱所の地下貯蔵タンクに軽油を荷卸し後、注入ホース内の残油が滞留したままで地下貯蔵タンク側に移すことができず、緊結金具を外すこともできなかったため、注入ホース内の残油を移動タンク貯蔵所に吸引して外そうとしたところ、地下貯蔵タンク内の軽油も吸い込んでしまい、移動タンク貯蔵所のタンク室の開放状態としていたマンホールから溢れ出て、防護枠のドレン管から約300L地上に流出した。なお、応急措置として吸着マット、中和剤を使用し、流出した軽油を吸着し回収した。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 容量2KLのタンク室に積載してきた軽油2KLのうち1KLを荷卸し後、注入ホース内の残油を移動タンク貯蔵所側に吸引しようとしたところ、地下貯蔵タンク内の軽油も吸引され、移動タンク貯蔵所のタンク室に1KL以上の軽油が戻ったことにより、タンク室の容量を超え、開放状態であったマンホールから溢れたもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所のタンク室のマンホールから溢れた軽油約300Lが、事業所の敷地内に流出した。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 鉄道給油取扱所の注入口付近の土壤に浸透		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油 300L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	7 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (5 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
調査活動										
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検			年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等			年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保 安 検 査			年 月 日	年 月 日	
	関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無			<input checked="" type="checkbox"/> ・無		
その他	年 月 日	年 月 日					内容： 移動タンク貯蔵所 ・法第10条第1項、法第16条の3第2項 鉄道給油取扱所 ・法第14条の2第4項			
35 今後の対策や所見	<p>今後の対策 移動タンク貯蔵所を所有する事業所に対して、許可形態を逸脱した取扱い行為を行わないよう細心の注意を払って危険物を取り扱うこと及び発見者が直ちに消防機関へ通報できるよう、緊急連絡体制図を見直すよう指導し、再発防止に努める必要がある。</p> <p>所見 移動タンク貯蔵所の危険物取扱者は、自分の知識と経験不足から起きてしまったと供述していることから、各事業所での危険物の貯蔵取扱いに係る教育や訓練の重要性を再確認した。</p>									

1 事故名	移動タンク貯蔵所における、注油作業中の流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 14日 10時 00分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	5月 14日 10時 00分	
5 覚 知	5月 14日 10時 02分		6 鎮 圧 応急処置完了	5月 14日 10時 54分	
7 鎮火・処理完了	5月 14日 11時 30分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東北東 風速：7m/s 気温：17℃ 湿度：78%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油・軽油 3,750L 3.75倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 移動貯蔵タンク 番号 (1303)	能 力： 第4類第2石油類 灯油 3,750L		設置の完成： 平成 27年 8月 27日	倍数の合計： 3.75倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 0.2Mpa		直近の完成： 年 月 日		
名 称： ポンプ 番号 (501)	規 模： 容量3,750L		18 取扱者の概要 経験年数17年		
14 発 生 箇 所	名 称： 安全弁 番号 (301)		1. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有		
材 質： 鋼鉄	15 発 生 時		③. 不要		
運 転 状 況： 払出中 番号 (10)	作 業 状 況： 運転操作中 番号 (1)		②. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所の灯油納入業者がホームタンクに注油するため、路上に車両を停車、ポンプを起動後、ホースを伸ばし、ピストルノズルで注油しようとしたところ、底弁の操作バルブ及び吐出口の操作バルブを吸入位置にしてあることに気づかず、操作したため、タンク内に圧力が掛かり、安全弁から灯油が噴出したもの。噴出した灯油が防護枠内に漏えいし、防護枠の水抜きパイプを伝って、路上に約30Lが流出した。 なお、運転手は直ちにエンジンを停止、防護枠の水抜きバルブを閉止後、車載の中和剤を散布し、ウエスを用いて、流出灯油の一部を回収した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1, 8) 無 装置の緊急停止、防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等					

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 底弁の操作バルブ及び吐出口の操作バルブを吸入位置にしてあることに気づかず、ポンプを起動し、給油操作したため、タンク内に圧力が掛かり、安全弁から灯油が噴出したもの。										
	主要原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		違反(故意)		怠慢				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 安全弁から噴出した灯油が防護枠内に漏えいし、防護枠の水抜きパイプを伝って、路上に約30Lが流出した。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性) 灯油 約30L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動											
31 防災活動上の問題点											
32 施設名											
政 策 措 置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	年 月 日	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日	年 月 日	年 月 日
	関係条項							保安検査	年 月 日	年 月 日	年 月 日
その他	年 月 日			年 月 日			34 当該施設に係る 法令違反の有無		<input type="checkbox"/> 有・無 内容： ・消防法第10条3項(政令第24条第8号)、製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反		
35 今後の対策 や所見 今回の流出事故は、修理のため工場からタンクローリーが戻った際に交換部品のチェックを行うとともに、吐出口の切り替えバルブ及び底弁の重力バルブをよく確認しなかったこと、配送前に底弁及び吐出口のバルブ操作位置をよく確認しないで給油を開始したこと、傾斜地に満油状態で車両を停車して給油を行ったことにより、タンク内の安全弁下部が灯油と接触した状態で安全弁が作動したため、安全弁から灯油が噴出した事故であると推察され、工場からの車両の納品後及び配送作業前の操作確認不十分に起因した事故であると考え。このことから、荷卸し時の確認方法及び再発防止対策の徹底について指導及び注意喚起するものである。											

1 事故名	移動タンク貯蔵所の単独転覆事故による灯油の河川流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 7日 8時 15分	推定・確定	4 発 見	11月 7日 8時 15分	
5 覚 知	11月 7日 8時 37分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 7日 14時 00分	
7 鎮火・処理完了	11月 7日 19時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東南東 風速：1m/s 気温：2℃ 湿度：92%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 一 番 号 (4411) 一般貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く)		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 16,000L 16倍	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称： 移動貯蔵タンク	番 号 (1303)		倍数の合計： 16倍		
能 力： 容量16,000L			設置の完成： 平成 24年 2月 27日 直近の完成： 令和 4年 10月 20日		
13 機 器 等	温 度 圧 力：		17 物 質 の 区 分		
名 称： 貯槽(タンク)	番 号 (107)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
規 模： 全長6,259mm 胴長5,880mm 長径2,470mm 短径1,370mm			5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油(9,600L)		
14 発 生 箇 所	名 称： マンホール		18 取 扱 者 の 概 要		
材 質： 鋼鉄	番 号 (305)		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
15 発 生 時	運 転 状 況： 移送中		21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		
作 業 状 況：	番 号 ()		①. 有 2. 無		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危 険 物 保 安 監 督 者		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所が配送ルートを誤り、道路幅員約4mの砂利道を走行中、進路方向から左側の路肩に寄りすぎ、法面を斜めに約20～30m走行しながら道路面から約3m下の農業用水路に転覆したもの。 転覆の際に、タンク室全6室のうち、第1室から第5室のマンホールが開放されたことでタンク室内に貯蔵されていた灯油が周囲の土壌及び農業用水路等に漏えい、水路を伝い河川流出となる。 灯油の漏えい量は9,600L、内1,600Lが河川流出と推定する。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 交通事故		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所が配送ルートを誤り、幅員約4mの砂利道を走行中、路肩によりすぎハンドルをとられ、法面を下り、農業用水路へ転覆する。転覆の際にマンホールが土壌との接触又は衝撃により開放されて灯油が漏えいしたもの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層						
	交通事故		運転操作		路肩に寄りすぎ						
	交通事故		路上環境		その他						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 転覆した移動タンク貯蔵所から漏えいした灯油が農業用水路をとおり約160m下流の樋門から河川流出			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 事故車両転覆 車両損壊 タンク損傷			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	3台	0隻	0機	7人	自 衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油 9,600L流出 内 1,600Lが河川流出	
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人		
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人		
その他の機関	5台	0隻	0機	10人	その他	0台	0隻	0機	0人		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (4, 5)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
・樋門から河川流入部にオイルフェンスを3重に設置 ・樋門部に油吸着マットを投入											
31 防災活動上の問題点											
32 施設名											
行政措置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検		年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等		令和3年10月2日	年 月 日
	関係条項							保安検査		年 月 日	年 月 日
その他	年 月 日			年 月 日			34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：		
35 今後の対策や所見		・従業員へ正規ルート走行遵守の徹底。									

1 事故名	移動タンク貯蔵所において、移送中の接触事故により配管を損傷、路上及び荷卸し先で危険物を流出したもの						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	11月 10日 6時 30分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	11月 10日 7時 35分			
5 覚 知	11月 10日 7時 39分			6 鎮 圧 応急処置完了	11月 10日 9時 31分		
7 鎮火・処理完了	11月 10日 9時 31分						
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況	天気：雨		風向：南西		風速：8m/s		気温：11.7℃ 湿度：62%
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)			11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (<u>陸上</u> 、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 14,000L 7倍		
12 施 設 装 置				13 機 器 等			
名 称：移動貯蔵タンク	番 号 (1303)	温 度 圧 力：	設置の完成：平成 3年 10月 15日 直近の完成：令和 4年 12月 2日	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：A重油(8.6L)			
能 力：最大数量14,000L	名 称：配管(送油、注入管等)	番 号 (606)	規 模：直径約3cm	倍数の合計： 7倍			
13 機 器 等	名 称：ドレンバルブ		番 号 (210)	18 取扱者の概要 経験年数28年			
材 質：鋼鉄	15 発 生 時		運 転 状 況：荷卸中	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要			
15 発 生 時	作 業 状 況：		番 号 (13)	20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要	オンラインファイル無						
23 事故の概要	移動タンク貯蔵所が移送中に、交差点内を左折する際に、縁石と車体に設置されている巻き込み防止装置(サイドガード)を接触し、破損したサイドガードにより吐出口に接続されたドレン管が折損し、配管内の危険物が路上に流出、また、同ドレン管の破損に気が付かないまま荷卸しを行ったことにより事業所敷地内に流出した。						
24 緊急処置の状況	有 番号 () <u>無</u>						

原因	25 主 原 因 交通事故		着火原因		番号 ()					
	関連原因 誤操作									
	発生原因の状況： 接触したことは把握していたが、衝撃等から事故は軽度なものであると考え業務を優先したことによるもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
交通事故		運転操作		路肩に寄りすぎ						
関連原因の詳細										
因	人		本人の意識		思慮		配慮不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 交差点から幅約6m奥行き約100mの範囲の路上 荷卸し先の注入口付近の幅約2m、奥行き約2mの範囲(事業所敷地内)		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所の吐出口に接続されたドレン管が折損したもの		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)A重油 8.6L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4, 99) 流出した危険物が排水溝へ流れないように漏えい防止措置、漏えいした危険物の回収及び調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点 流出した危険物の回収と上司への報告を優先するあまり、消防機関への通報を失念したことにより通報が遅れたことが認められる。										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：		
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策や所見 交差点内における接触を把握しながらも、十分な点検等を行わず危険物が流出したことは大変遺憾である。関係者に対して法令順守の徹底を指導したところであるが、同種同様の事故防止のため、他の事業者に対しても本事例を踏まえ指導を行っていきたい。										

1 事故名		移動タンク貯蔵所の検水管亀裂部より灯油流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		12月 13日 6時 50分	推定・確定	4 発 見	12月 13日 7時 00分		
5 覚 知		12月 13日 10時 29分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 13日 7時 00分		
7 鎮火・処理完了		12月 13日 8時 15分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：雨		風向：南東		風速：12.3m/s 気温：6.2℃ 湿度：82%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、 <u>その他</u>)				区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)			
業 態：運輸業 道路貨物運送業 一 番 号 (4411) 一般貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く)				特別防災地区名：苫小牧地区			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他			
				貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所			
				類・品名・名称・数量・倍数：			
				第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 20,000L 100倍			
				第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 0L 0倍			
				第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 0L 0倍			
				第4類第3石油類(非水溶性液体) 不明 0L 0倍			
12 施 設 装 置							
名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)							
能 力：容量 20,000L							
13 機 器 等				温度 圧力：			
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)							
規 模：呼び径30mm							
				倍数の合計：100倍			
14 発 生 箇 所				設置の完成：平成 3年 9月 25日			
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)				直近の完成：令和 4年 11月 21日			
材 質：アルミニウム				17 物 質 の 区 分			
				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
				5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
				(固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧)			
				(低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温)			
				分 類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(60L)			
				18 取 扱 者 の 概 要			
				経験年数2年			
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		21 危険物取扱者の取扱・立会い	
						①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有							
23 事 故 の 概 要： ローリー積場で移動貯蔵タンクに灯油を充てんしていたところ、検水管に亀裂が生じていたため、当該部より灯油約60Lが流出した事故。 運転手Aと同乗者Bは、13日6時4分にローリー積場に到着、レーンに入り6時30分頃より灯油20KLの充てんを始めた。積込は第4室、第1室、第2室、第5室、第3室、第6室の順で行い、6時59分に充てんを終了した。その後、AとBは、点検のため車両を一巡していたところ、車両左側にある検水管格納箱裏側の配管あたりから灯油が流出していることを発見した。Bが後方の底弁緊急レバー及び検水管緊急レバーを同時に引くことにより流出は停止した。流出は、第3室及び第6室の検水管の亀裂開口部より発生したものであった。流出範囲は、一般取扱所敷地内で留まっており、吸着マットによる清拭等により、8時15分に全量回収をもって終了した。 流出量は、第3室及び第6室の灯油の減少量から、約60Lであったものと推定した。 同日10時29分にローリー積場関係者より通報があり、覚知したもの。 なお、この事故による負傷者は発生していない。							
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

原 因	25 主 原 因 破損		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 操作未実施									
	発生原因の状況： 亀裂の発生原因は、検水管に流入したドレンが凍結膨張したことによる延性破壊と推定。検水管底弁の閉鎖を失念したことから、当該亀裂部より灯油が漏えいしたものの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		自然現象		凍結					
	関連原因の詳細									
	人		本人の知識・能力		知識		忘れる			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 一般取扱所のペーパメント上に灯油が漏えい		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 検水管の破損		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 灯油約60L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (8 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点										
32 施設名										
行 政 措 置	使用停止	年 月 日		年 月 日		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	令和 4 年 10 月 1 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日		年 月 日		気密試験等	令和 2 年 7 月 21 日	年 月 日		
	関係条項					保安検査	年 月 日	年 月 日		
そ の 他	年 月 日		年 月 日		34 当該施設に係る 法令違反の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反				
1. 文書 2. 口頭	年 月 日		年 月 日							
35	確実な操作確認、点検の徹底									
今後の対策 や所見										

1 事故名	走行中ジャックナイフ現象により車両が横転したことで、破損部位等から灯油が漏えいしたもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 14日 6時 30分	推定・確定	4 発 見	12月 14日 6時 30分	
5 覚 知	12月 14日 7時 16分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 14日 10時 40分	
7 鎮火・処理完了	12月 14日 12時 36分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン ④. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南西 風速：0.3m/s 気温：-2℃ 湿度：82%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 業 態：	1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他)		区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他)		
	運輸業 道路貨物運送業 一 番号 (4411) 一般貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く)		特別防災地区名：		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等				
名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303) 能 力：容量:20,000L	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他				
	貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所				
13 機 器 等	類・品名・名称・数量・倍数：				
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模：直径2,450mm、全長7,890mm、容量20,000L	第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 20,000L 100倍				
	第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 20,000L 20倍				
14 発 生 箇 所	第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 20,000L 20倍				
名 称：タンク側板 番 号 (101) 材 質：アルミニウム	設置の完成：令和元年 8月 13日				
	直近の完成：年 月 日				
15 発 生 時	17 物 質 の 区 分				
運 転 状 況：移送中 番 号 (18) 作 業 状 況： 番 号 ()	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(4,000L)				
19 危険物保安統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 配送のため峠を下っている最中、路面凍結によりジャックナイフ現象が発生し操縦不能となり車両前部が反対車線側の路外に逸脱、タンク部分は道路上で助手席を下にして横転したもの。事故後、大量に灯油が漏えいしていたため、積載している油吸着マットで処理を試みたが処理しきれないので、停車していた乗用車の方に電波の届くところまで連れていってもらい通報。消防隊が到着後タンクから道路側溝へ流出した灯油を油吸着マットで処理。また、道路側溝上の雨水樋より近くの河川に流入しているのを確認したので、河川の流れが弱くなっている箇所に油吸着マットを設置しながら下流に向かう。さらに、役場建設課によるオイルフェンスの設置を実施する。この事故による死傷者は無し。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原因	25 主 原 因 交通事故		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 配送のため峠を下っている最中、ジャックナイフ現象が発生し、操縦不能となり路外逸脱し横転したものの。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	交通事故		路上環境		凍結、水たまり等で路上が滑りやすい					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：		
区分								交通事故による横転により、タンク助手席側の側面が破損。中身の灯油は道路側溝上を約400mの範囲で流出。また、道路側溝上の雨水樹を通じて河川へ流出。事故現場より700m下流附近に役場建設課によるオイルフェンスを設置する。		
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況：		
防災活動従事者		0	0	0	0			タンク助手席側前方から後方にかけて大きな凹み(縦60cm×横540cm)。タンク助手席側前方より約2.2mの位置に10cm程度の亀裂。		
第 三 者		0	0	0	0			物質の被害状況：		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								第4類第2石油類(非水溶性)灯油 4,000L流出		
消 防 機 関	3台	0隻	0機	13人	自 衛	0台	0隻	0機	0人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (3,140 万円)
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人	
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人	
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4, 6)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
タンクから道路側溝へ流出した灯油を油吸着マットで処理。また、道路側溝上の雨水樹より近くの河川に流入しているのを確認したので、河川の流れが弱くなっている箇所油吸着マットを設置しながら下流に向かう。さらに、役場建設課によるオイルフェンスの設置に協力する。										
31 防災活動上の問題点										
32 施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和3年7月31日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ 無		
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日			内容：			
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭								
35 今後の対策や所見										
当該運転手へのヒアリング、教育。他の運転手への周知、教育。										

1 事故名		移動タンク貯蔵所へ積み込み中に灯油を漏えいしたもの									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		12月 22日 9時 50分	推定・確定	4 発 見		12月 22日 9時 50分					
5 覚 知		12月 22日 9時 58分	6 鎮 圧 応急処置完了		12月 22日 9時 50分						
7 鎮火・処理完了		12月 22日 10時 30分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：曇		風向：東北東		風速：5m/s	気温：3℃	湿度：87%			
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所							
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：							
				16 発生施設規制区分等							
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,000L 3倍							
12 施 設 装 置											
名 称：ローリー充てん施設 番号 (1402)											
能 力：タンク3,000L											
13 機 器 等				温度圧力：							
名 称：貯槽(タンク) 番号 (107)											
規 模：ピストルノズル											
14 発 生 箇 所				設置の完成：平成31年 2月 12日 直近の完成：平成31年 2月 12日							
名 称：タンクの注入口 番号 (905)				17 物 質 の 区 分							
材 質：鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(40L)							
15 発 生 時				18 取扱者の概要							
運 転 状 況：停止中 番号 (5)				経験年数27年							
作 業 状 況：充填中 番号 (12)											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 灯油を移動タンク貯蔵所へ積み込み中に、作業員が目を離していたため、移動タンク貯蔵所から灯油を溢れさせて漏えいさせる。ノズルのオートストップは機能せず故障が判明。小排水溝は氷で埋まっていたため、敷地外にも灯油が流出する。											
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

25	主 原 因 監視不十分	着火原因	番号 ()					
原 因	関 連 原 因 故障							
	発生原因の状況： 作業員が目を離していたため、移動タンク貯蔵所から灯油を溢れさせて漏えいさせる。							
	主要原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	人	本人の意識	違反(故意)	怠慢				
	関連原因の詳細							
	故障	機能	機器の機能の停止					
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害		28 物的被害						
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 灯油が40L(推定)漏えいし、うち約10Lが施設外の側溝内に流出した。流出範囲は敷地境界線より100m以内に収まっている。 施設等の被害状況： 機器の破損なし	
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油50L	
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人		
30 実施した防災活動の状況							損害額 1万円未満 、1万円以上 (万円)	
公設消防機関：番号 (99) 原因調査				自衛防災・消防組織等 番号 (5) 消防隊到着前に中和剤で中和済。				
31 防災活動上の問題点								
32 政 措 置	施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：	
	その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日			
1. 文書 2. 口頭								
1. 文書 2. 口頭								
35 今後の対策 や所見	従業員に操作方法の周知徹底を行い、従業員に危険物の取扱をしている自覚を強く持たせる							

1 事故名	移動タンク貯蔵所から地下貯蔵タンクへの荷卸し中に、注入口から灯油が漏えいした事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 26日 14時 40分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	12月 26日 14時 40分	
5 覚 知	12月 28日 16時 25分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 26日 14時 43分	
7 鎮火・処理完了	12月 26日 14時 43分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北 風速：2.4m/s 気温：2℃ 湿度：83%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)				
	特別防災地区名：				
16 発生施設規制区分等					
施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他					
貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所					
類・品名・名称・数量・倍数：					
第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,750L 3.75倍					
第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 3,750L 3.75倍					
倍数の合計： 3.75倍					
12 施 設 装 置	設置の完成：平成26年 5月 28日				
名 称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)	直近の完成：年 月 日				
能 力：第4類第2石油類(非水溶性) 灯油 3,750L 第2石油類(非水溶性) 軽油 3,750L 倍数3.7倍					
13 機 器 等	温度圧力：				
名 称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)					
規 模：ポンプ吐出量80L/min					
14 発 生 箇 所	設置の完成：平成26年 5月 28日				
名 称：タンクの注入口 番号 (905)	直近の完成：年 月 日				
材 質：鋼鉄	17 物 質 の 区 分				
15 発 生 時	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
運 転 状 況：荷卸中 番号 (13)	5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
作 業 状 況：運転操作中 番号 (1)	(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧)				
	(低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温)				
	分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(4L)				
18 取扱者の概要					
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所から地下貯蔵タンクへ灯油を荷卸し中に注入口から吹返し、注入ホースと注入口を緊結していなかったため、灯油が注入口付近に漏えいしたもので、隣地及び雨水樹への流入はなし。施設管理者が灯油臭及び漏えい痕の処理方法について、一般加入により消防へ連絡したことにより覚知に至ったもの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 注入ホースと注入口の緊結未実施										
	主要原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		違反(故意)		理解しない				
	制度		規則・手順		内容・周知		規則・手順の内容が不適切				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 注入口から約4Lが敷地内に流出し、注入口付近の地上アスファルト約12㎡程漏えい、雨水樋への流入なし。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 灯油約4L	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額	1万円未満	、1万円以上 () 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動、情報収集											
31 防災活動上の問題点 消防機関への通報に遅れがあった。											
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他				
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検 令和4年9月29日 年 月 日			
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等 令和4年6月24日 年 月 日			
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保 安 検 査 年 月 日 年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無				
そ の 他	年	月	日	年	月	日	内容： ・法第10条3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反 ・法第16条の3第2項 事故発生時の通報義務違反				
35 今後の対策 や所見	危険物施設へ荷卸ろしをする際、ホースと注油口の緊結を実施していない事業所が他多数あると聴取したため、関係事業所への再周知が必要となる。										

1 事故名	移動タンク貯蔵所の単独交通事故による灯油流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 29日 10時 05分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	12月 29日 10時 05分	
5 覚 知	12月 29日 10時 17分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 29日 13時 14分	
7 鎮火・処理完了	12月 29日 14時 45分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン ④. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西北西 風速：3.4m/s 気温：-2.4℃ 湿度：71.3%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 一 番 号 (4411) 一般貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く)		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他)	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	特別防災地区名：	
名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303)	能 力： 3.75KL	13 機 器 等	貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所		類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,700L 3.7倍
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)	規 模： タンク諸元(内測)長さ2,600mm、幅1,860mm、高さ1,000mm、最大容量3,750L	温 度 圧 力：	設置の完成： 令和 3年 3月 23日		倍数の合計： 3.7倍
名 称： マンホール 番 号 (305)	材 質： 鋼鉄	14 発 生 箇 所	直近の完成： 年 月 日		17 物 質 の 区 分
15 発 生 時	運 転 状 況： 移送中 番 号 (18)	作 業 状 況：	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		5. 毒物 6. 劇物 7. その他
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者	（固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相）（ <input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧）		（低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温）
22 設備・機器等の概要：	オンラインファイル無				
23 事故の概要：	該当の移動タンク貯蔵所が交差点を左折するためブレーキを踏んだ際にタイヤが滑り、ハンドルを右に旋回したところ助手席側を下に横転したもの。事故当時タンク内には2,900Lの灯油が積載されており、タンク上部後方のマンホール注入口の隙間から灯油160Lが屋外に流出する。				
24 緊急処置の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無			

原	25 主 原 因 交通事故		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 操作確認不十分									
	発生原因の状況： 凍結した路面でハンドル操作を誤り車両が横転									
	主原因の詳細									
因	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	交通事故		路上環境		凍結、水たまり等で路上が滑りやすい					
関連原因の詳細										
人		本人の知識・能力			技能・技術力		その他			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ・横転した移動タンク貯蔵所から道路上に灯油が幅3m、長さ3mにわたり漏えいした。 施設等の被害状況： 助手席側タンク側面に擦り傷。助手席側のキャビンとリヤボディの変形		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類2石油(非水溶性)灯油160L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (252 万円)				
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4) 漏えいした道路上に乾燥砂を散布する					自衛防災・消防組織等 番号 (4) 手動ポンプ及び吸着マットにて漏えいした灯油を回収した後、油処理剤を道路上に散布する。また、事故車両は灯油を他の移動タンク貯蔵所に抜き取った後にレッカー移動する。					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		令和4年 8月 16日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査		年 月 日	年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
そ の 他	年 月 日	年 月 日								
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭								
35 今後の対策や所見 立入検査の際に交通事故防止の呼びかけを実施する。										

1 事故名		移動タンク貯蔵所の横転事故による積載軽油の流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		4月 17日 12時 52分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	4月 17日 12時 52分		
5 覚 知		4月 17日 12時 52分	6 鎮 圧		4月 17日 15時 17分		
7 鎮火・処理完了		4月 17日 15時 17分	6 応急処置完了				
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：南西		風速：8.1m/s 気温：15.4℃ 湿度：31%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド				区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (<u>陸上</u> 、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,750L 3.75倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 0L 0倍 第4類第2石油類(水溶性液体) 重油 0L 0倍			
12 施 設 装 置							
名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)							
能 力：タンク容量 3,750L							
13 機 器 等				温度圧力：			
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)							
規 模：長さ2,600mm 幅1,860mm 高さ1,000mm				倍数の合計： 3.75倍			
14 発 生 箇 所				設置の完成：平成 23年 12月 13日 直近の完成：平成 26年 1月 9日			
名 称：計量口 番 号 (904)				17 物 質 の 区 分			
材 質：鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(0.5L)			
15 発 生 時				18 取扱者の概要			
運 転 状 況：移送中 番 号 (18)				経験年数20年			
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)							
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	
				21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 移送中の移動タンク貯蔵所が運転操作を誤り中央分離帯へ接触し、単独横転事故をおこしたものの。車両は運転席を下に横転しており、防護枠内第一室の計量口蓋の縁部分から軽油が流出していた。流出量は積載していた軽油約0.5L。流出した軽油については、通行人からの通報により出場した消防隊により処理を行った。また、運転者1名が救急搬送された。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () <u>無</u>							

原	25 主 原 因 交通事故		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 操作確認不十分									
	発生原因の状況： 運転者の不注意による運転操作ミスにより車両が横転。計量口に緩みがあり、軽油が流出した。									
	主原因の詳細									
因	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	交通事故		運転操作		前方(後方)不注意					
関連原因の詳細										
人		本人の意識			思慮		不注意			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 横転した移動タンク貯蔵所から軽油が直径約1mの範囲で流出		
区分										
当 事 者	0	0	0	1	交通事故					
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所1台破損		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	12 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油0.5L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	移動タンク貯蔵所			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年 月 日		
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年 月 日		
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年 月 日		
	関係条項	危険物取扱者の違反処理			34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無			
その他	令和4年5月19日			年 月 日		内容：				
		①. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策や所見										
道路交通法の遵守を含めた保安教育の徹底										

1 事故名		移動タンク貯蔵所からの灯油漏えい事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		11月 10日 7時 30分	推定・確定	4 発 見		11月 10日 8時 10分	
5 覚 知		11月 10日 12時 18分		6 鎮 圧		11月 10日 12時 15分	
7 鎮火・処理完了		11月 10日 12時 47分		6 応急処置完了			
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：北西		風速：2.9m/s 気温：16.5℃		湿度：60.5%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 一 番 号 (4411) 一般貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く)				区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,700L 3.7倍			
12 施 設 装 置							
名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303)							
能 力： 3,700L							
13 機 器 等				温度圧力：			
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)							
規 模： 3,700L				倍数の合計： 3.7倍			
14 発 生 箇 所				設置の完成： 平成 26年 2月 4日 直近の完成： 平成 26年 2月 24日			
名 称： マンホール 番 号 (305)				17 物 質 の 区 分			
材 質： 鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (50L)			
15 発 生 時				18 取扱者の概要			
運 転 状 況： 運搬中 番 号 (11)				経験年数0年			
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)							
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有							
23 事故の概要： 灯油の配達に行くために、朝7時40分頃に会社を出発する。8時10分頃、配達先へ到着すると、車両周辺に灯油臭を運転手が確認する。すぐにタンク上へ登り確認するとタンクのマンホールが全開で防護枠内に灯油が漏えいしていた(約10L)。車両の付近には若干の灯油が漏えいしているのを確認する。自社前の路上にも灯油が漏えい(約40L)しており、店長から運転手に漏えいの確認の電話が入る。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他							

25	主 原 因 操作確認不十分	着火原因	番号 ()					
原 因	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 打ち合わせに集中し、マンホール蓋を閉め忘れたため。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	人	本人の意識	思慮	配慮不足				
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害			28 物的被害					
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 事業所前の路上の半径5mの範囲に灯油が漏えいした もの。 施設等の被害状況： 無し	
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油50L流出	
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人		
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人		
30 実施した防災活動の状況							損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (万円)	
31 公設消防機関：番号 (5)				自衛防災・消防組織等 番号 (5)				
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日			定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日			気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日			保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/> 内容：	
その他	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策 や所見		危険物の危険性についての教養の実施や事故防止に努めるよう指導する。また漏えい事故を発見したら遅滞なく通報するよう合わせて指導する。						

1 事故名		無許可変更の移動タンク貯蔵所の配管フランジパッキン劣化による重油流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		12月 18日 8時 10分	
5 覚 知		12月 18日 8時 15分		6 鎮 圧 応急処置完了		12月 18日 10時 08分	
7 鎮火・処理完了		12月 18日 14時 45分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 ⑤. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：雪		風向：北西		風速：3.9m/s 気温：-2.2℃ 湿度：97%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタン ド				区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他)			
				特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,000L 3倍			
12 施 設 装 置							
名 称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)							
能 力：タンク容量 3,000L							
13 機 器 等				温度圧力：			
名 称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)							
規 模：容量 55.5L							
14 発 生 箇 所				設置の完成：平成 5年 9月 17日 直近の完成：年 月 日			
名 称：管継手(ダクトを含む) 番号 (201)				17 物 質 の 区 分			
材 質：鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(500L)			
15 発 生 時				18 取 扱 者 の 概 要			
運 転 状 況：停止中 番号 (5)							
作 業 状 況： 番号 ()							
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	
				21 危険物取扱者 の取扱・立会い		1. 有 ②. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 無許可で常置場所を変更していた駐車中の移動タンク貯蔵所の運転席側の吐出口配管継手から重油が漏えいしたもの。重油は許可品名外である。重油は運転席側吐出口配管継手直下の雪上に滴るように流出し、雪が茶色に変色していた。流出量は不明。死傷者は発生していない。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他							

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()				
	関 連 原 因 維持管理不十分								
	発生原因の状況： 吐出口付近フランジ接続部のパッキンが長期間外気にさらされており、維持管理もされていない為劣化し、パッキン部分から漏えいした。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
関連原因の詳細									
設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害						28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名		
区分									
当 事 者		0	0	0	0				
防災活動従事者		0	0	0	0				
第 三 者		0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						被災影響範囲及び拡大の状況： 停車中の移動タンク貯蔵所から重油が幅2m、長さ5mの範囲内で漏えい			
消 防 機 関	3台	0隻	0機	10人	自 衛	0台	0隻	0機	0人
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人
その他の機関	3台	0隻	0機	6人	その他	0台	0隻	0機	0人
						物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油流出、流出量は不明			
						損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円			
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (4、5) 移動タンク貯蔵所周囲に吸着マットを設置。				自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点									
政 策 措 置	32 施設名	移動タンク貯蔵所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日		
	改善命令等	年	月	日	年	月	日		
	停止解除	年	月	日	年	月	日		
	関係条項	法第10条第3項、法第11条第1項、法第12条第1項、法第13条第3項違反			34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無			
その他	令和4年12月27日			内容： 法第10条第3項、法第11条第1項、法第11条の4第1項、法第12条第1項、法第13条第3項					
①. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭								
35 今後の対策や所見	所見：移動タンク貯蔵所を利便性向上の為、違反と知りながら無許可で常置場所を変更し、維持管理しておらず悪質性が高いと感じる。 対策：この事業所には他にも移動タンク貯蔵所があるが、違反者(設置者)は他の車両の常置場所を把握していない為、整理し、維持管理するよう指導した。								

1 事故名	交通事故による移動タンク貯蔵所の配管の亀裂及び軽油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 18日 16時 05分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	1月 18日 16時 07分	
5 覚 知	1月 18日 16時 09分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 18日 16時 08分	
7 鎮火・処理完了	1月 18日 16時 40分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雪 風向：無風状態 風速：0m/s 気温：-3℃ 湿度：99%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属 材料卸売業 石油卸売業		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 3,750L 3.75倍 倍数の合計： 3.75倍 設置の完成：平成24年 10月 29日 直近の完成：平成24年 10月 29日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(20L)		
能 力：容量3,750L			18 取扱者の概要		
13 機 器 等	温 度 圧 力：	名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)	規 模：長径1,854mm、短径1,028mm、全長2,584mm、容量3,750L	材 質：鋼鉄	19 危険物保安 統括管理者
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)	15 発 生 時	運 転 状 況：貯蔵・保管中 番 号 (7)	作 業 状 況：その他 番 号 (99)	20 危険物 保安監督者
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無	
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所の運転手が運転操作を誤りスリップし、センターラインを越えたため、対向の普通乗用車と衝突し配管に亀裂が入ったことにより軽油約20L流出したもの。運転手により底弁手動閉鎖装置が作動されていた。現場到着した消防隊によりオイル吸着マット及びビニール袋にて流出防止措置を講じた。さらに事故調査時、底弁操作ハンドルが吐出側になっているのを発見したものの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 交通事故		着火原因		番号 ()	
	関連原因					
	発生原因の状況： 降雪による視界不良により、移動タンク貯蔵所の運転手がハンドル操作を誤り対向の普通乗用車と衝突し配管に亀裂が入ったため発生したものの。					
	主要原因の詳細					
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層	
	交通事故		運転操作		ハンドル操作ミス	
	関連原因の詳細					
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
27 人的被害				28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因
区分						職業又は職名
当 事 者	0	0	0	0		
防災活動従事者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	0	0		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	12 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
物質の被害状況： 第4類第2石油類 非水溶性 軽油 約20L流出						
損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (100 万円)						
30 実施した防災活動の状況						
公設消防機関：番号 (5) オイル吸着マット及びビニール袋にて漏えい防止措置を講じた				自衛防災・消防組織等 番号 ()		
31 防災活動上の問題点						
行政措置	32 施設名	移動タンク貯蔵所		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 3 年 11 月 15 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 3 年 11 月 16 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項	法第16条の2第2項		34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無	
その他	令和 4 年 2 月 3 日	年 月 日	内容： 消防法第16条の2第2項 危険物移送の基準違反			
35 今後の対策 や所見	当該事業所に対し、従業員への教育を徹底するよう指導したところであるが、今後保安講習等の機会を利用し他の事業所に対して同種の事故防止に努める必要がある。					

1 事故名	移動タンク貯蔵所から給油取扱所地下タンクに荷卸しする際、移動タンク貯蔵所吐出口からのガソリン流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 17日 8時 20分	推定・確定	4 発 見	4月 17日 8時 20分	
5 覚 知	4月 17日 9時 08分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 17日 11時 02分	
7 鎮火・処理完了	4月 17日 11時 02分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南東 風速：1m/s 気温：14℃ 湿度：29%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 一 番 号 (4411) 一般貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く)		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 16,000L 80倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 16,000L 16倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 16,000L 16倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 16,000L 8倍	
名 称： 移動貯蔵タンク	番 号 (1303)		設置の完成： 平成 18年 9月 22日 直近の完成： 令和 元年 7月 30日		
能 力： タンク容量 16,000L	13 機 器 等 温度 圧力：		倍数の合計： 120倍		
名 称： 配管(送油、注入管等)	番 号 (606)		17 物 質 の 区 分		
規 模： 直径70mm	14 発 生 箇 所		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(330L)		
名 称： その他の附属配管等	番 号 (299)		18 取扱者の概要 経験年数31年		
材 質： アルミニウム	15 発 生 時		1. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 ③. 不要 2. 無		
運 転 状 況： 荷卸中	番 号 (13)				
作 業 状 況： 運転操作中	番 号 (1)				
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 20 危険物保安監督者				
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所(ガソリン16,000L積載)から給油取扱所の地下貯蔵タンクに注油する際、移動タンク貯蔵所の配管内の残油確認のため開放した吐出口の閉め忘れに気付かず、荷卸しを開始したため吐出口(右側)からガソリン約330Lが給油取扱所内に流出した。 なお、セーフティコーン等を設置し給油取扱所への進入禁止及び吸着マットを使用し応急措置を実施した。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

25	主 原 因 操作確認不十分	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所の残油確認のため開放した右側吐出口を失念により閉鎖しないまま移動タンク貯蔵所の底弁を開放した。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	人	本人の知識・能力	知識	忘れる						
	人	本人の意識	思慮	思い込み						
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害			28 物的被害							
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油取扱所の給油空地及び油分離装置1槽目まで流出。 敷地外への流出なし。			
当 事 者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 被害なし			
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	3 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ガソリン 約330L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	1 台	0 隻	0 機	3 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
事故調査活動 警戒筒先の配備					吸着マット100枚及び中和剤により、流出した油を除去した。					
31 防災活動上の問題点 流出した油を除去するため通報が遅延した(発生から48分後通報)。										
政 策 措 置	32 施設名	給油取扱所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	令和 4 年	4 月	17 日	定期・自主点検	令和 3 年	7 月	26 日	年 月 日	
	改善命令等	年	月	日	気密試験等	令和 3 年	10 月	22 日	年 月 日	
	停止解除	令和 4 年	4 月	17 日	保 安 検 査	年	月	日	年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：				
そ の 他	年	月	日	年						月
1.	文書			1.	文書			2.	口頭	
2.	口頭			2.	口頭					
35 今後の対策 や所見	移動タンク貯蔵所の事業所は、当該従業員に対して再教育し、事業所従業員に安全教育を実施。 給油取扱所の事業所は、荷卸し作業のマニュアルの徹底。 当消防本部については、当該2事業所に対して災害発生届出書及び再発防止対策の提出を指導。 また、類似事故防止のため管内の他の事業所に対して指導し、注意喚起を実施。									

1 事故名	移動タンク貯蔵所の走行中における注油ノズルの落下破損による灯油の流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 21日 9時 20分	推定・確定	4 発 見	11月 21日 9時 25分	
5 覚 知	11月 21日 9時 34分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 21日 9時 40分	
7 鎮火・処理完了	11月 21日 12時 30分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：北西 風速：1m/s 気温：10℃ 湿度：100%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 ガ 番 号 (3413) ス業 ガス業 ガス事業所(本 社, 営業所等)		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他)	
			16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,900L 1.9倍	
12 施 設 装 置	名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)		設置の完成：平成 24年 6月 11日 直近の完成：平成 24年 6月 11日		
	能 力：灯油1,900L				
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 1.9倍		
	名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)				
	規 模：長さ2,094mm、幅1,500mm、高さ880mm				
14 発 生 箇 所	名 称：給油(注油)ノズル 番 号 (909)		17 物 質 の 区 分		
	材 質：合成樹脂		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
15 発 生 時	運 転 状 況：移送中 番 号 (18)		5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
	作 業 状 況：その他 番 号 (99)		(固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(47L)		
			18 取扱者の概要 経験年数0年		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所の運転手が次の灯油配達に向かう際、注油ホースを伸ばした状態でノズルを荷台に仮置きし、注油ホースの収納を忘れたまま走行したことにより、注油ホースを引きずり注油ノズルが荷台から落下し破損したため、ホース内に残っていた灯油を市道及び国道上に約47L漏えいさせたもの。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 危険物取扱者が車両を発進させる際、移動タンク貯蔵所の注油ノズルの破損による油漏れが起こらないための措置を怠ったものであり、危険物の保安の確保について細心の注意を払わなかったことによるもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		不注意			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所から市道及び国道上の約1.5kmの範囲にわたり、灯油約47Lが漏えいしたものの。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所の注油ノズルの破損		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油約47Lが流出。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (19 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5) 油吸着マット等を使用しての油回収作業				自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点										
32 施設名										
政 策 措 置	使用停止	年 月 日		年 月 日		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	令和4年 8月 17日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日		年 月 日		気密試験等	令和4年 8月 17日	年 月 日		
	関係条項					保安検査	年 月 日	年 月 日		
その他	年 月 日		年 月 日		34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策や所見										
危険物取扱者の指導と併せて、当該事業所に対しても、従業員の安全教育について指導したところであるが、今後の危険物安全協会の研修会などの機会を捉えて、管内の他事業者に対し情報提供を行い、従業員への保安教育の徹底を図る必要がある。										

1 事故名		移動タンク貯蔵所の重油流出事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		1月 28日 8時 30分	推定・確定	4 発 見		1月 29日 7時 30分	
5 覚 知		1月 29日 9時 02分	6 鎮 圧 応急処置完了		1月 29日 16時 00分		
7 鎮火・処理完了		1月 31日 15時 00分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：東南東 風速：2m/s 気温：0.9℃ 湿度：98%					
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 ガ 番 号 (3413) ス業 ガス業 ガス事業所(本 社, 営業所等)				区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 3,000L 1.5倍			
12 施 設 装 置							
名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)							
能 力：							
13 機 器 等				温度圧力：			
名 称：運搬車 番 号 (602)							
規 模：移動タンク貯蔵所 最大数量3,000L				倍数の合計： 1.5倍			
14 発 生 箇 所				設置の完成：平成 11年 4月 5日 直近の完成： 年 月 日			
名 称：給油(注油)ノズル 番 号 (909)				17 物 質 の 区 分			
材 質：ステンレス				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(30L)			
15 発 生 時				18 取扱者の概要 経験年数3年			
運 転 状 況：給油中 番 号 (8)							
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)							
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 重油タンク給油するためホースを延長中にバランスを崩し、持っていたノズルのレバーを握ってしまい、重油を周囲に漏らしてしまつたもの。流出範囲は、防油堤内と重油タンク東側の敷地内。水路への流出は確認されていない。 漏えい後の対応は、吸着マットを使用し、その後に敷地内に流出した汚泥を超強力吸引車で吸引している。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無							

原 因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 重油タンクへ給油する際、足が雪に沈みバランスを崩し誤ってノズルのレバーを握ってしまったもの。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		不注意			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 重油が約30L流出し、側溝から敷地内に広がり約276㎡にわたり漏えいした。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油 約30L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (150 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5)				自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点 当事者が防油堤内にのみ流出したと認識したため、関係機関への通報をしていなかった。 後日、発生場所の職員が臭いに気づき通報したため、流出から通報まで時間を要した。										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策 や所見		油流出事故が発生した場合は、遅滞なく通報するよう指導していく必要がある。								

1 事故名		移動タンク貯蔵所による軽油の漏えい									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		5月 18日 12時 30分	推定・確定	4 発 見		5月 18日 13時 10分					
5 覚 知		5月 18日 13時 20分	6 鎮 圧 応急処置完了		5月 18日 16時 20分						
7 鎮火・処理完了		6月 10日 9時 00分									
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：曇		風向：西		風速：3m/s	気温：20℃	湿度：37%			
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所							
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタン ド				区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：							
				16 発生施設規制区分等							
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油・軽油 3,000L 3倍							
12 施 設 装 置											
名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)											
能 力：3,000L											
13 機 器 等				温度圧力：							
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)											
規 模：長さ2,392mm、幅1,600mm、高さ1,100mm											
14 発 生 箇 所				設置の完成：平成23年 11月 11日 直近の完成：年 月 日							
名 称：給油(注油)ホース 番 号 (908)				17 物 質 の 区 分							
材 質：ゴム				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(140L)							
15 発 生 時				18 取扱者の概要							
運 転 状 況：移送中 番 号 (18)				経験年数17年							
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)											
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所で軽油を工事現場へ移送後、ノズルを確実に固定せずに次の現場まで移動したため、ノズルが脱落。ホースから次の配達現場まで、約140Lの軽油を漏えいさせたもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無											

25	主 原 因 操作確認不十分	着火原因	番号 ()				
原 因	関 連 原 因						
	発生原因の状況： ノズルを確実に固定せずに次の現場まで移動したため、ノズルが脱落。ホースから次の配達現場まで、約140Lの軽油を漏えいさせたもの。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	人	本人の意識	思慮	不注意			
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害			28 物的被害				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所から軽油が、道路上約5,400mに わたり、約140L漏えいした。 施設等の被害状況： 臨港道路上、5,400mにわたり軽油が流出
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油 140L流出
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
30 実施した防災活動の状況							損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (万円)
公設消防機関：番号 (99) 調査活動				自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点							
政 措 置	32 施設名	移動タンク貯蔵所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和3年 6月 25日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和3年 9月 4日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項	違反事項通知			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無	
その他	令和4年 6月 10日	年 月 日	年 月 日	内容： 法第16条の2第2項 移動タンク貯蔵所の移送基準違反 法第16条の2第3項 危険物取扱者免状不携帯 法第16条の3第2項 事故発生時の通報義務違反関係			
35	今後の対策 や所見	従業員への安全教育、運行前点検の徹底					

1 事故名	国道で一時停止していた移動タンク貯蔵所に後ろから来たクレーン車が追突し、亀裂が入り灯油が漏れた事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 14日 10時 30分	推定・確定	4 発 見	9月 14日 10時 30分	
5 覚 知	9月 14日 10時 32分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 14日 10時 52分	
7 鎮火・処理完了	9月 14日 14時 40分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北西 風速：2.5m/s 気温：25.3℃ 湿度：68%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 一 番 号 (4411) 一般貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く)				11 発 生 場 所
					区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：
		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 4,000L 4倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 2,000L 10倍		
12 施 設 装 置	名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303) 能 力： 16KL				倍数の合計： 14倍
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模： 直径926cm 高さ301cm 幅249cm 最大積載量13,000kg				
14 発 生 箇 所	名 称： タンク側板 番 号 (101) 材 質： 鋼鉄				設置の完成： 平成 24年 12月 13日 直近の完成： 平成 24年 12月 13日
15 発 生 時	運 転 状 況： 移送中 番 号 (18) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)				17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (1,950L)
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： アンダーパス付近で、移動タンクがアンダーパスの十字路にて一時停止をし、高速道路ICへ左折しようとしていたところ、後方から来たクレーン車が移動タンクのタンク後方に追突し、タンクに亀裂が入り灯油が漏れた。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 交通事故	着火原因	番号 ()
原 因	関 連 原 因		
	発生原因の状況： タンクローリーはアンダーパスの十字路で一時停止した後、左折しようとしたところ後ろからきたクレーン車が追突してきた。		
	主原因の詳細		
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層
	交通事故	運転操作	前方(後方)不注意
	関連原因の詳細		
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から		
27	人的被害		28 物的被害
	被害内容等	死亡	重症
区分	中等症	軽症	死傷原因
職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： アンダーパス交差点 灯油の流出範囲：約116.7㎡		
当 事 者	0	0	0
防災活動従事者	0	0	0
第 三 者	0	0	0
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況		
消防機関	5台 0隻 0機 0人	自 衛	0台 0隻 0機 0人
消防団	0台 0隻 0機 0人	共 同	0台 0隻 0機 0人
海上保安部	0台 0隻 0機 0人	応 援	0台 0隻 0機 0人
その他の機関	10台 0隻 0機 0人	その他	0台 0隻 0機 0人
	物質の被害状況： 灯油1,950Lの流出。		
	損害額 1万円未満、 1万円以上 (16 万円)		
30	実施した防災活動の状況		
	公設消防機関：番号 (4, 5) 油粘土で灯油の流出を防ぎ、吸着マット、吸着砂で漏れた灯油の除去を行った。		自衛防災・消防組織等 番号 ()
31	防災活動上の問題点		
政 策 措 置	32	施設名	33 定期点検等
	使用停止	年 月 日	消 防 法
	改善命令等	年 月 日	そ の 他
	停止解除	年 月 日	定期・自主点検
	関係条項	年 月 日	気密試験等
	そ の 他	年 月 日	保 安 検 査
	1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭	平成 29 年 10 月 22 日
	年 月 日	年 月 日	平成 29 年 10 月 22 日
	年 月 日	年 月 日	年 月 日
	34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ 無 内容：
35	今後の対策 や所見		
	消防法令の遵守ならびに事故の再発防止にかかる従業員教育の実施。 事故を教訓に同様の事故が発生しないよう各施設に安全対策を周知徹底する。		

1 事故名	移動タンク貯蔵所における注入ホース及びノズル落下に伴う危険物流出事案				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 18日 9時 20分	推定・確定	4 発 見	11月 18日 9時 20分	
5 覚 知	11月 18日 9時 39分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 18日 10時 26分	
7 鎮火・処理完了	11月 18日 11時 50分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東南東 風速：2m/s 気温：9℃ 湿度：60%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属 材料卸売業 石油卸売業		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 2,000L 2倍 倍数の合計： 2倍 設置の完成：平成 8年 10月 24日 直近の完成：平成 29年 11月 22日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)	能 力：2,000L		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(10L)		
13 機 器 等	温 度 圧 力：		18 取扱者の概要 経験年数3年		
名 称：その他 番号 (999)	規 模：注入ノズル		1. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 ③. 不要		
14 発 生 箇 所	名 称：ホース(給油、注油及び注入ホースを除く) 番号 (211)		20 危険物保安監督者		
材 質：ゴム	15 発 生 時		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
運 転 状 況：移送中 番号 (18)	作 業 状 況：その他 番号 (99)		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所において、移送開始前の点検を行わず、ホース格納箱の蓋が解放状態で移送を行ったために、移送中に注入ホース及びノズルが落下。落下により、注入ノズルが破損脱落し、注入ホース内に残存していた危険物(灯油)10Lが路上に流出したものの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

25	主 原 因 操作確認不十分	着火原因	番号 ()					
原 因	関 連 原 因 操作確認不十分、操作未実施							
	発生原因の状況： 運行開始前の点検を怠った							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	人	本人の意識	違反(故意)	怠慢				
	関連原因の詳細							
	人	本人の意識	違反(故意)	怠慢				
	人	本人の意識	違反(故意)	理解しない				
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害			28 物的被害					
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所の注入ホースから灯油10Lが路上に流出。 流出範囲は、おおよそ幅0.3～0.5m、長さ90mにわたり漏えいした。	
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油 10L流出	
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人		
30 実施した防災活動の状況							損害額 1万円未満、 1万円以上 (15 万円)	
公設消防機関：番号 (5)				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
油脂吸着材を散布								
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和4年9月1日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和4年9月7日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	[有]・無	
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容： 消防法第16条の2第2項 移動タンク貯蔵所の 移送義務違反			
35	点検確認表を使用し、再発防止を図る。							
今後の対策 や所見								

1 事故名	移動タンク貯蔵所からホームタンクへ改造したノズルによりA重油を注油中にその場を離れたことによる重油の流出						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	2月 21日 12時 00分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	2月 21日 12時 01分			
5 覚 知	2月 21日 12時 27分			6 鎮 圧 応急処置完了	2月 21日 12時 35分		
7 鎮火・処理完了	2月 21日 13時 21分						
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況	天気：曇		風向：西北西		風速：10m/s		気温：-1℃ 湿度：60%
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 飲料・たばこ・飼料製 番 号 (1023) 造業 酒類製造業 清酒製造業			11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 3,500L 1.75倍		
12 施 設 装 置				13 機 器 等			
名 称： その他のタンク 番 号 (1299)	温 度 圧 力：	名 称： タンクの注入口 番 号 (905)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
能 力： ホームタンク容量396L	名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)	材 質： ステンレス	5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
13 機 器 等	規 模： ホームタンク容量396L	15 発 生 時	(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧)				
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)	14 発 生 箇 所	運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号 (7)	(低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温)				
名 称： タンクの注入口 番 号 (905)	15 発 生 時	作 業 状 況： 充填中 番 号 (12)	分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： A重油(10L)				
材 質： ステンレス	17 物 質 の 区 分	18 取 扱 者 の 概 要	経験年数40年				
15 発 生 時	18 取 扱 者 の 概 要	19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い				
運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号 (7)	19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	①. 有 2. 無				
作 業 状 況： 充填中 番 号 (12)	20 危 険 物 保 安 監 督 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要					
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要：	オンラインファイル無						
23 事 故 の 概 要：	移動タンク貯蔵所からホームタンクへ手動開閉装置を開放状態で固定できるように改造したノズルでA重油を注油中、移動タンク貯蔵所の注油量を確認しようとその場を離れたため、ホームタンクの容量限界を超えた受入れをしたことにより、ホームタンクの注入口からA重油10Lが敷地内に流出した。なお、河川流出はなく、吸着マットを使用し応急措置を実施した。						
24 緊 急 処 置 の 状 況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (8) 無 防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等						

原 因	25 主 原 因 維持管理不十分		着火原因		番号 ()							
	関連原因											
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所の注入ホース先端部の注入ノズルを手動開閉装置を開放した状態で固定できるように無許可で改造し、その注入ノズルでホームタンクに注油していたため、その場を離れることができ、A重油を流出させたもの。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	人		本人の意識		違反(故意)		怠慢					
	設備		監理・保守		点検・整備		その他					
	関連原因の詳細											
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害				28 物的被害								
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ホームタンクの周囲30cmの範囲(敷地内)に流出。				
区分												
当 事 者		0	0	0	0							
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 破損等の物的被害なし				
第 三 者		0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	3台	0隻	0機	7人	自 衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)A重油10L流出		
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人			
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人			
その他の機関	2台	0隻	0機	3人	その他	0台	0隻	0機	0人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)		
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99) 事故調査活動を行った。						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 事故調査活動を行った。						
31 防災活動上の問題点												
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他				
	使用停止	年 月 日				年 月 日	定期・自主点検	令和3年7月15日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				年 月 日	気密試験等	令和3年6月30日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日				年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		<input type="checkbox"/> 有・無 内容： 注入ノズルを無許可で改造(法第10条第3項、 法第11条第1項)				
35	今後の対策 や所見	消防法令に関する認識不足が要因のひとつであり、従業員に対する安全教育の実施										

1 事故名		移動タンク貯蔵所が荷卸し中、給油取扱所敷地内にガソリン約140L流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		3月 5日 8時 45分	推定・確定	4 発 見		3月 5日 8時 45分	
5 覚 知		3月 5日 8時 49分		6 鎮 圧		3月 5日 9時 50分	
7 鎮火・処理完了		3月 5日 9時 55分		6 応急処置完了			
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：無風状態 風速： 気温：7.4℃ 湿度：63.5%					
10 発 生 事 業 所			11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)			区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
			16 発生施設規制区分等				
			施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ハイオクガソリン 2,000L 10倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) レギュラーガソリン 10,000L 50倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 4,000L 4倍				
12 施 設 装 置							
名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303)							
能 力： 容量20,000L							
13 機 器 等			温度圧力： 20Mpa				
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)							
規 模： 容量20,000L							
14 発 生 箇 所			倍数の合計： 64倍				
名 称： その他 番 号 (999)			設置の完成： 平成 23年 10月 3日 直近の完成： 令和 3年 8月 30日				
材 質： ステンレス			17 物 質 の 区 分				
15 発 生 時			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ハイオクガソリン(140L)				
運 転 状 況： 荷卸中 番 号 (13)							
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)							
			18 取扱者の概要 経験年数0年				
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	
					①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 給油取扱所の地下貯蔵タンクに移動タンク貯蔵所が荷卸しのため給油ホースを給油取扱所の注入口に接続し、移動タンク貯蔵所上部にてハイオクガソリンの底弁をあけたところ、荷卸し側ではない吐出口が開放されていたため、当該吐出口からハイオクガソリンが約140L流出したものの。吐出口開閉の思い違い及び確認不足によるもの。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無							

25	主 原 因 操作確認不十分	着火原因	番号 ()						
原 因	関 連 原 因								
	発生原因の状況： 給油取扱所の地下貯蔵タンクに移動タンク貯蔵所が荷卸しのため給油ホースを給油取扱所の注入口に接続し、移動タンク貯蔵所上部にてハイオクガソリンの底弁をあけたところ、荷卸し側ではない吐出口が開放されていたため、当該吐出口からハイオクガソリンが約140L流出したものの。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層					
	人	本人の意識	思慮	思い込み					
	関連原因の詳細								
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27	人的被害								
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	28 物的被害	
区分								被災影響範囲及び拡大の状況： なし	
当 事 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 被害なし	
防災活動従事者	0	0	0	0					
第 三 者	0	0	0	0					
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	0台 0隻 0機 0人	自 衛	0台 0隻 0機 0人	物質の被害状況：				第4類第1石油類(非水溶性)ハイオクガソリン 約140L流出	
消 防 団	0台 0隻 0機 0人	共 同	0台 0隻 0機 0人						
海上保安部	0台 0隻 0機 0人	応 援	0台 0隻 0機 0人						
その他の機関	0台 0隻 0機 0人	その他	0台 0隻 0機 0人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (17 万円)					
30	実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31	防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ 無				
その他	年 月 日	年 月 日	内容：						
35	今後の対策や所見								
荷卸し立会い時の監視強化及び作業手順の再指導を行う。									

1 事故名		移動タンク貯蔵所の横転による流出事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		11月 25日 8時 50分	推定・確定	4 発 見		11月 25日 8時 55分					
5 覚 知		11月 25日 8時 55分	6 鎮 圧 応急処置完了		11月 25日 9時 10分						
7 鎮火・処理完了		11月 25日 11時 26分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン ④. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：西南西		風速：1m/s	気温：12℃	湿度：86%			
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所							
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)				区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：							
				16 発生施設規制区分等							
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,500L 3.5倍							
12 施 設 装 置											
名 称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)											
能 力：3,500L											
13 機 器 等				温度圧力：							
名 称：貯槽(タンク) 番号 (107)											
規 模：容量3,500L											
14 発 生 箇 所				設置の完成：平成 29年 9月 8日 直近の完成：年 月 日							
名 称：マンホール 番号 (305)				17 物 質 の 区 分							
材 質：鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(50L)							
15 発 生 時				18 取扱者の概要							
運 転 状 況：運搬中 番号 (11)											
作 業 状 況：運転操作中 番号 (1)											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： 配送中、狹隘道路に進入、タイヤの片側が脱輪し田んぼに横転する。積載していた灯油が流出する。											
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無											

25	主 原 因 交通事故	着火原因	番号 ()				
原 因	関 連 原 因						
	発生原因の状況： 狭隘道路での運転操作						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	交通事故	運転操作	路肩に寄りすぎ				
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害			28 物的被害				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 横転した移動タンク貯蔵所から灯油が田んぼに流出する 施設等の被害状況： 弁
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油約50L流出
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
30 実施した防災活動の状況							損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)
公設消防機関：番号 (5) 吸着マットを活用し、拡散防止を実施する				自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点							
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/> 内容：	
そ の 他	年 月 日	年 月 日	年 月 日				
35 今後の対策 や所見		運転操作技術の向上に努めること					

1 事故名	移動タンクがノズルを格納せず移動し、塀等に引っ掛かり、ホースに負荷がかかり根元より切断され灯油が流出						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	1月 24日 16時 45分	推定・確定	4 発 見	1月 24日 16時 45分			
5 覚 知	1月 24日 17時 10分			6 鎮 圧 応急処置完了	1月 24日 16時 46分		
7 鎮火・処理完了	1月 24日 18時 20分						
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況	天気：曇		風向：北北西		風速：3.5m/s		気温：6℃ 湿度：29%
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタン ド			11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,900L 1.9倍		
12 施 設 装 置				名称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303) 能 力： 第4類第2石油類 灯油 1,900L			
13 機 器 等	温度 圧力： 名 称： その他 番 号 (999) 規 模： 第4類第2石油類 灯油 1,900L	14 発 生 箇 所		設置の完成： 令和 2年 11月 16日 直近の完成： 令和 2年 11月 16日			
14 発 生 箇 所	名 称： 給油(注油)ホース 番 号 (908) 材 質： ゴム		15 発 生 時		18 取扱者の概要 経験年数28年		
15 発 生 時	運 転 状 況： 給油中 番 号 (8) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者		20 危 険 物 保 安 監 督 者		21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い ①. 有 2. 無
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危 険 物 保 安 監 督 者		21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 灯油配達中、ノズルを格納せずに別の場所に移動した。そのため、ノズルが家の塀等に引っ掛かり、ホースに負荷がかかり根元より切断され、灯油が流出したもの							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 操作確認不十分									
	発生原因の状況： 危険物取扱者がノズルを格納したと思い込んで、移動タンク貯蔵所を移動させてしまったため									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		思い込み			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所から灯油47.9Lが道路上及び側溝に漏えいした。 流出範囲は現場から50m程度に収まっている。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 給油ホースの切断		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類 灯油 48L程度漏えい
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (37 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4) オイル吸着マット、ACライトを散布し、流出防止措置を行う					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点 事故後、速やかに通報している。事故後、速やかに通報している。緊急停止レバーの作動。オイル吸着マット、ACライトの散布。側溝内のオイル吸着マットでせき止めた油分は、オイルバキュームカーで吸い取り、油流出時に対する社内教育等は未実施。										
行政措置	32 施設名	移動タンク貯蔵所			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和3年 1月 15日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和2年 9月 29日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
その他	法令遵守及び再発防止の警告書の交付等	年 月 日	年 月 日							
35 今後の対策 や所見	危険物の取扱作業に従事するときは、消防法第10条第3項の貯蔵又は取扱いの技術上の基準を遵守するとともに、当該危険物の保安の確保について細心の注意を払うことを、社内教育等で徹底してもらう。 指差し呼称での確認など、改めて基本動作の大切さを実感することになりました。									

1 事故名		移動タンク貯蔵所の注油口の蓋からポンプの操作ミスにより重油の流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		2月 22日 8時 15分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見		2月 22日 8時 18分					
5 覚 知		2月 22日 9時 15分	6 鎮 圧 応急処置完了		2月 22日 9時 30分						
7 鎮火・処理完了		2月 22日 13時 30分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：北		風速：5m/s	気温：2.3℃	湿度：49.1%			
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所							
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属 材料卸売業 石油卸売業				区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (<u>陸上</u> 、海上、その他) 特別防災地区名：							
				16 発生施設規制区分等							
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 4,000L 2倍							
12 施 設 装 置											
名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)											
能 力：容量4,000L											
13 機 器 等				温度圧力：							
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)											
規 模：直径1,800mm、全長3,350mm、容量4,000L											
14 発 生 箇 所				設置の完成：平成 29年 12月 20日 直近の完成：平成 29年 12月 20日							
名 称：タンクの注入口 番 号 (905)				17 物 質 の 区 分							
材 質：その他				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(50L)							
15 発 生 時				18 取扱者の概要							
運 転 状 況：荷卸中 番 号 (13)				経験年数0年							
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)											
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： 地下貯蔵タンクに移動タンク貯蔵所のポンプを使い、重油を荷下ろししようとしたところ、ポンプを吸入側にしてしまったため、地下貯蔵タンク内に残っていた重油が移動貯蔵タンク内に流入し、荷下ろしのために開放していた注入口から防護枠内に重油が流出、防護枠内の雨水排水用のドレンから地盤面に重油が約50L地盤面に漏えいした。早期に発見し、吸着マットを使用し応急処置を実施したため河川等への油の流出はなし。											
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他											

原 因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 地下タンク貯蔵所に移動タンク貯蔵所のポンプを使い、加圧して重油を荷下ろししようとしたところ、ポンプの操作を誤り、地下貯蔵タンク内の重油を吸い上げてしまい、移動タンク貯蔵所の注入行の蓋から重油が約10L敷地内に漏えいしたもの。										
	主要原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		取り違い				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所から重油約10Lが、幅2m長さ4mにわたり漏えいした。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし。			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油約10L	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額	1万円未満	、1万円以上 () 万円	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動											
31 防災活動上の問題点											
32 施設名											
政 策 措 置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	令和 3 年 11 月 5 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等	令和 元 年 12 月 7 日	年 月 日	
	関係条項							保 安 検 査	年 月 日	年 月 日	
その他	年 月 日			年 月 日			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容：		
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策や所見											
定期的に講習会を行い、ヒヤリハットを共有するとともに、指差し呼称を徹底し、誤操作をなくす。											

1 事故名		移動タンク貯蔵所の充填及び移送に関わる作業の確認不足により、道路及び用水路にA重油が流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		7月 29日 11時 05分	推定・確定	4 発 見		7月 29日 11時 05分	
5 覚 知		7月 29日 12時 25分	6 鎮 圧 応急処置完了		7月 29日 19時 00分		
7 鎮火・処理完了		7月 30日 8時 00分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：南南東 風速：1.4m/s 気温：32℃ 湿度：55%					
10 発 生 事 業 所			11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタン ド			区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
			16 発生施設規制区分等				
			施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 3,000L 1.5倍				
12 施 設 装 置							
名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303)							
能 力： 第4類第3石油類 A重油 3,000L							
13 機 器 等			温度圧力：				
名 称： その他 番 号 (999)							
規 模： 第4類第3石油類 A重油 3,000L							
14 発 生 箇 所			設置の完成： 平成 30年 6月 21日 直近の完成： 平成 30年 6月 21日				
名 称： タンクの注入口 番 号 (905)			17 物 質 の 区 分				
材 質： 鋼鉄			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： A重油(8L)				
15 発 生 時			18 取扱者の概要 経験年数27年				
運 転 状 況： 移送中 番 号 (18)							
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)							
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	
					①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 配送先の少量危険物タンクにA重油を注油するため、移動タンク貯蔵所上部の注入口を開放、送油バルブ等の操作を行っていたところ、注入口から流出し、防波板の排水用ホースを伝って、道路及び用水路に流れ出たもの。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()							
	関 連 原 因 操作未実施											
	発生原因の状況： 関係者からの状況聴取で、配送前に一般取扱所から当該移動タンク貯蔵所にA重油を充填する時、タンク内に残油がないか目視並びに検尺棒で確認することは行っていなかったとのこと。そのため、指定数量以上が充填されていた可能性がある。また、事故当日は気温が30℃を超え、常置場所が屋外であったため、A重油の油温が時間経過とともに上昇し、膨張していたことが考えられること。 これらのことから、配送先での注油時に、準備段階でタンクから先端ノズルまでの経路が開通しとことで、配管、ホース内の膨張したA重油がタンク内に逆流し、油面を押し上げ、注入口から漏れ出たものと考えられる。											
	主要原因の詳細											
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	制度		規則・手順		内容・周知		規則・手順の内容が不適切					
	関連原因の詳細											
	制度		規則・手順		内容・周知		周知不足					
因												
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害						28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名					
区分												
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所からA重油8.0Lが道路上及び用水路に流出した。流出範囲は現場から100m程度に収まっている。					
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 用水路先の水田に流出					
第 三 者	0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類 A重油 8L程度流出		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	6 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 () 万円)		
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (4) オイル吸着マット、バキューム車による回収作業						自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点 事故後、流出を抑制するため、回収作業を優先し、通報に時間を要している。事故後、流出を抑制するため、回収作業を優先し、通報に時間を要している。オイル吸着マット、バキューム車による回収作業、消防等関係機関に通報する管理体制は整っていない。移動タンク貯蔵所のA重油充填及び配達方法の詳しい教育等はなかった。												
行政措置	32 施設名	移動タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他				
	使用停止	年 月 日				年 月 日	定期・自主点検	令和 4 年 2 月 26 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				年 月 日	気密試験等	平成 30 年 5 月 10 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日				年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項	法第10条第3項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無					
その他	法令遵守及び再発防止のため、設置者に警告書を交付する 令和 4 年 10 月 11 日				内容：							
35 今後の対策や所見	①. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭 ・移動タンク貯蔵所の操作をマニュアル化し、配送手順の教育を実施する。また、社内教育を再度考え直し、社内教育を完了した者のみが配送業務を行う仕組みなどを構築する。 ・災害が発生した際は、速やかに消防等の関係機関に通報する体制を整備する。											

1 事故名	移動タンク貯蔵所ホース未収納走行のため脱落、タンク底弁未閉鎖による灯油流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 19日 17時 45分	推定・確定	4 発 見	12月 19日 17時 45分	
5 覚 知	12月 19日 17時 59分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 19日 19時 15分	
7 鎮火・処理完了	12月 19日 19時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン ④. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西 風速：2.6m/s 気温：6℃ 湿度：39%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,900L 1.9倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 移動貯蔵タンク	番 号 (1303)	能 力： 1,900L	設置の完成： 平成 17年 11月 22日	直近の完成： 平成 17年 11月 22日	倍数の合計： 1.9倍
13 機 器 等	温 度 圧 力：	名 称： その他	番 号 (999)	規 模： タンク底弁	
14 発 生 箇 所	名 称： 開閉弁	番 号 (204)	材 質： 鋼鉄	18 取扱者の概要	経験年数2年
15 発 生 時	運 転 状 況： 移送中	番 号 (18)	作 業 状 況： その他	番 号 (99)	19 危険物保安統括管理者
	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所後部積載の注油設備のノズル及びホースを収納せずに車両を発進させ、進行途中でホースが根元から脱落、気付かずに車両を進行させたところ、タンク底弁を閉鎖していなかったため、タンクに貯蔵していた灯油約120Lを道路上に流出させたもの。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原 因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()								
	関 連 原 因 操作確認不十分												
	発生原因の状況： 車両を運転する際は移動タンク貯蔵所の底弁を閉鎖しなければならないという知識不足及び車両を発進させる際に周囲を確認しなかった不注意												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層						
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足						
	関連原因の詳細												
	人		本人の意識		思慮		不注意						
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害						28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 公道約1km					
区分													
当 事 者	0	0	0	0									
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： ホース脱落					
第 三 者	0	0	0	0									
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数 量:1,000 第2石油類 灯油 約120L 公道上に流出			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人				
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)			
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (5)						自衛防災・消防組織等 番号 ()							
道路上へ流出した灯油の回収													
31 防災活動上の問題点													
32 施設名													
政 策 措 置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検		年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等		年 月 日		年 月 日	
	関係条項							保安検査		年 月 日		年 月 日	
34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>											
内容：													
35 今後の対策や所見													
移動タンク貯蔵所の底弁操作(操作時以外は閉鎖すること)について徹底させるとともに、指差し呼称等の安全管理意識を持つよう会社をあげて従業員教育を行う。													

1 事故名	高速道路において、移動タンク貯蔵所に後方からの車両が追突し、タンクが破損したことによる廃油漏えい					
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生	2月 21日 9時 00分	推定・確定	4 発 見	2月 21日 9時 00分		
5 覚 知	2月 21日 9時 09分			6 鎮 圧 応急処置完了	2月 21日 9時 48分	
7 鎮火・処理完了	2月 21日 9時 48分					
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況	天気：晴		風向：西北西		風速：3.4m/s 気温： 湿度：26.9%	
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： サービス業(他に分類されない番号(8521)もの) 廃棄物処理業 産業廃棄物処理業 産業廃棄物収集運搬業			11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 4,200L 2.1倍	
12 施 設 装 置				13 機 器 等		
名 称： 移動貯蔵タンク	番 号 (1303)	温 度 圧 力：	設置の完成： 平成 26年 12月 19日	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス	倍数の合計： 2.1倍	
能 力： 4,200L			直近の完成： 年 月 日	5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
名 称： 配管(送油、注入管等)	番 号 (606)			(固相、液相、気相) (常圧、加圧)		
規 模： 長さ2m				(低温、常温[0-40℃]、高温)		
名 称： その他	番 号 (999)			分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 廃油(0.5L)		
材 質： アルミニウム				18 取扱者の概要		
15 発 生 時				1. 選任有 2. 選任無	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
運 転 状 況： 移送中	番 号 (18)	20 危険物保安監督者		③. 不要		
作 業 状 況： 運転操作中	番 号 (1)					
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無						
23 事故の概要： 東京外環道内回りを走行中、後方からきた車両に追突されて、車両後部に設置していた吸入管が破損し、破損箇所から廃油が数リットル漏えいしたものの。						
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無						

原 因	25 主 原 因 交通事故		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 車両後部に設置していた吸入管が破損し、破損箇所から廃油が数リットル漏えいしたものの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	交通事故		その他		追突を受ける						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： なし			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 吸油管の破損			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 破損箇所から第4類の廃油が数リットル漏えいしたものの。	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (70 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動											
31 防災活動上の問題点											
32 施設名											
政 策 措 置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	年 月 日		年 月 日
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等	平成 31 年 4 月 20 日		年 月 日
	関係条項							保安検査	年 月 日		年 月 日
そ の 他	年 月 日			年 月 日			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：		
35 今後の対策 や所見		適切な車間距離を保つと共に、事故発生後は二次災害防止に務め、危険物の漏えい等を最小限に食い止められるようにすること。									

1 事故名		移動タンク貯蔵所から屋外タンク貯蔵所に荷卸しを行う際の誤操作による灯油の流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		2月 22日 8時 55分	推定・確定	4 発 見	2月 22日 8時 55分		
5 覚 知		2月 22日 9時 54分			2月 22日 14時 40分		
7 鎮火・処理完了		2月 22日 14時 40分			6 鎮 圧 応急処置完了		
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：東南東		風速：1m/s 気温：3℃ 湿度：54%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 一 番 号 (4411) 一般貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く)				区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 16,000L 80倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 16,000L 16倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 16,000L 16倍			
12 施 設 装 置							
名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303)							
能 力： タンク容量16,000L							
13 機 器 等				温度圧力：			
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)							
規 模： タンク容量16,000L							
14 発 生 箇 所				設置の完成： 平成 16年 5月 6日 直近の完成： 年 月 日			
名 称： マンホール 番 号 (305)				17 物 質 の 区 分			
材 質： 鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油(200L)			
15 発 生 時				18 取扱者の概要			
運 転 状 況： 荷卸中 番 号 (13)				経験年数10年			
作 業 状 況： その他 番 号 (99)							
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	
				21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所から屋外タンク貯蔵所へ荷卸しする際、バルブ操作を誤り屋外貯蔵タンクから移動貯蔵タンクへ吸入したため、移動貯蔵タンクから灯油が約200L溢れ、付近の側溝を経由し河川へ流出したものの。緊急措置として油吸着マットを側溝付近に設置した。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他							

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 誤操作									
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所の三方バルブを吐出側ではなく吸入側に誤操作したことに気づかず、屋外貯蔵タンクから移動貯蔵タンクに灯油が吸入され、上部マンホールから溢れたもの。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		取り違い			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所付近において灯油が幅4m、長さ11mの範囲に流出し敷地外の側溝から河川へ約500mにわたり流出した。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油 約200L流出。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	8 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5、99) 油吸着マット及びオイルプロッターにより灯油の回収作業。(側溝内及び河川) 事故発生の経緯及び流出範囲の調査。					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和 3 年 7 月 11 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	平成 31 年 2 月 24 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無				
その他	危険物取扱者へ違反事項通知 令和 4 年 3 月 24 日		年 月 日	内容：						
35	今後の対策 や所見 本件事故は取扱者の確認不足により発生したものであり、操作手順確認の徹底により再発防止できるものである。									

1 事故名	給油取扱所において、移動タンク貯蔵所からガソリン荷下ろし後、給油ホース内に残存したガソリンが流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 3日 13時 40分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	6月 3日 13時 40分	
5 覚 知	6月 3日 14時 20分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 3日 14時 48分	
7 鎮火・処理完了	6月 3日 14時 48分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西北西 風速：4.5m/s 気温：25.6℃ 湿度：63%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 一 番 号 (4411) 一般貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く)		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他)	
			特別防災地区名：	16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 16,000L 80倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 4,000L 4倍
12 施 設 装 置	名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303)		設置の完成： 平成 31年 3月 21日 直近の完成： 平成 31年 3月 21日		
	能 力： 20,000L				
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 84倍		
	名 称： その他の移送機器 番 号 (699)				
	規 模： 給油ホース				
14 発 生 箇 所	名 称： 給油(注油)ホース 番 号 (908)		17 物 質 の 区 分		
	材 質： ゴム		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(10L)		
15 発 生 時	運 転 状 況： 荷卸中 番 号 (13)		18 取 扱 者 の 概 要		
	作 業 状 況： 番 号 ()				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 給油取扱所における移動タンク貯蔵所から専用タンクへのガソリン荷下ろし後、給油ホース内の残存したガソリンを専用タンクに排出するために給油ホースを煽ったにも関わらず、給油ホース内にガソリンが残存しており、給油ホースを注入口から取り外した際に10L程度のガソリンが漏えいした。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

原因	25 主 原 因 故障		着火原因				番号 ()			
	関連原因									
	発生原因の状況： 何らかの原因で大気弁式通気管が閉塞し専用タンク、注入管及び給油ホースの内圧が高まったことにより、給油ホース内の残存ガソリンを専用タンクに排出できなかった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	故障		機能		周囲からの異物の作用による機器の動作不良					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： なし		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： ガソリン10L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 関係者に対する速やかな通報等の指導						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点 発生から通報まで40分を要しているため、速やかな通報を指導した。設置なし。活動なし。作動なし。										
32 施設名	使用停止		年 月 日		年 月 日		33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等		年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和 4 年 4 月 1 日	年 月 日
	停止解除		年 月 日		年 月 日		気密試験等		令和 3 年 2 月 22 日	年 月 日
	関係条項						保 安 検 査		年 月 日	年 月 日
	その他		年 月 日		年 月 日		34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容：	
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭								
35 今後の対策 や所見 再発防止対策を講じるとともに速やかな通報を指導した。										

1 事故名	移動タンク貯蔵所から屋外タンク貯蔵所へ荷下ろし中の過酸化水素流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 20日 9時 00分	推定・確定	4 発 見	5月 20日 9時 00分	
5 覚 知	5月 20日 9時 13分		6 鎮 圧 応急処置完了	5月 20日 10時 15分	
7 鎮火・処理完了	5月 20日 10時 50分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南東 風速：2m/s 気温：23℃ 湿度：53%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 無機化学 番号 (1729) 工業製品製造業 その他の無 機化学工業製品製造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第6類過酸化水素 過酸化水素 21,500kg 71.67倍 倍数の合計： 71.67倍 設置の完成： 平成 24年 3月 25日 直近の完成： 年 月 日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 移動貯蔵タンク 番号 (1303)			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能 力： 20,150kg			5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
13 機 器 等 温度圧力：			(固相、液相、気相) (常圧、加圧)		
名 称： 貯槽(タンク) 番号 (107)			(低温、常温 [0-40℃]、高温)		
規 模： 20,150kg			分 類： 第6類過酸化水素 名称： 過酸化水素(20L)		
14 発 生 箇 所			18 取扱者の概要		
名 称： 管継手(ダクトを含む) 番号 (201)			1. 選任有 2. 選任無	21 危険物取扱者の の取扱・立会い	①. 有 2. 無
材 質： ステンレス			③. 不要		
15 発 生 時					
運 転 状 況： 払出中 番号 (10)					
作 業 状 況： 充填中 番号 (12)					
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所から屋外タンク貯蔵所へ過酸化水素を荷下ろし作業を実施した際に接続部からの漏えいを確認。約20Lを施設内に流出し、ウエス等により回収作業を実施した。工場施設内のみで他への流出なし、死傷者等なし。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原 因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 操作確認不十分									
	発生原因の状況： 接続が締め付け不足によりガスケットのシール面圧が不足し流出									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	施工不良		施工		ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）					
	関連原因の詳細									
	人		本人の意識		思慮		思い込み			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所の周囲約5mに流出、施設内路面のみに流出。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 施設路面のみに流出		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	9 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 過酸化水素を約20L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	5 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 安全管理・調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (5) ウエス等により回収及び流出防止				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	令和4年2月3日		
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年 月 日		
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="checkbox"/> 無		
その他	年	月	日	年	月	日	内容：			
35 今後の対策や所見 早期に通報され回収作業も迅速に行われたため、他の施設等に流出は防げたが、今後同じような事案が起きないように、社内教育を実施するように指導。 別の事業所でも起こりえる事故のため周知及び指導の必要性はある。										

1 事故名	ホテル敷地内において、移動タンク貯蔵所からの流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 13日 9時 25分	推定・確定	4 発 見	10月 13日 9時 25分	
5 覚 知	10月 13日 9時 56分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 13日 12時 09分	
7 鎮火・処理完了	10月 16日 11時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：北東 風速：1m/s 気温：12.9℃ 湿度：86.6%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 一 番 号 (4411) 一般貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く)		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 16,000L 8倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303)	能 力： 移動タンク貯蔵所 16,000L		設置の完成： 令和 元年 7月 31日	直近の完成： 年 月 日	
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 8倍		
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)	規 模： 直径 6,200mm、高さ 1,395mm、容量16,000L		17 物質の区分		
14 発 生 箇 所	名 称： タンクの注入口 番 号 (905)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
材 質： 鋼鉄	15 発 生 時		5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
運 転 状 況： 荷卸中 番 号 (13)	作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		(固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(40L)		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： ホテルの北側に設置されている地下タンク貯蔵所へ移動タンク貯蔵所から危険物(重油)注油作業を行う際、移動タンク貯蔵所の作業員(危険物取扱者)が作業の手順を誤り、タンク室から溢れ出た重油が防護枠内の水抜きドレン管を介して敷地内に漏えいした。雨水排水用の側溝からホテル北側の河川(水路)を経由し、約40Lの重油が湖へ流出したものの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 当該移動タンクは、タンク内部が6室に間仕切られており、それぞれに底弁が設けられている。本事案のように傾斜のある車路に駐車した状態においては、傾斜を考慮して、1室終了毎に底弁ハンドルを開放し注油作業を行わなければならなかったが、乗務員が誤って重油の貯蔵されている全ての底弁ハンドルを同時に開放し、間仕切りタンクが吐出配管で一つに繋がった状態のまま注油のため吐出口を開放したところ、傾斜最下部に位置するタンク室(キャビン側)にほかのタンク室から重油が流入し、タンク上部のハッチ(1番ハッチ)から溢れ出したもの									
	主原因の詳細									
	第I層		第II層		第III層		第IV層			
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油が事業所側溝から河川に流れ込み、敷地内側溝部分、河川約45m、湖約40m四方に重油が拡散した。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所に被害なし。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油 約40L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	3 人	その他	0 台	1 隻	0 機	15 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5) 河川及び湖面上の油膜を吸着マットを使用して除去した。				自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5) ・オイルフェンスの設置 ・バキューム作業にて湖面の油分を除去						
31 防災活動上の問題点 消防法令関係の技術上の基準の遵守及び危険物取扱時の保安確保。										
行政措置	32 施設名	移動タンク貯蔵所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和3年8月1日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>				
その他	行政指導 令和3年11月25日	年 月 日		内容：						
35 今後の対策 や所見	<ul style="list-style-type: none"> ・当該施設への納入手順書、荷卸しチェックシートを含む再発防止マニュアルの設定 ・移動タンク貯蔵所の設置者に対して、本件の事故原因についての再発防止策を周知徹底するようを行った。 									

1 事故名	移動タンク貯蔵所が凍結路面でスリップして衝突し、貯蔵タンクが裂けて灯油が流出した事故					
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生	1月 18日 12時 30分	推定・確定	4 発 見	1月 18日 12時 35分		
5 覚 知	1月 18日 12時 37分			6 鎮 圧 応急処置完了	1月 18日 15時 29分	
7 鎮火・処理完了	1月 18日 18時 00分					
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況	天気：雪 風向：無風状態 風速： 気温：-0.3℃ 湿度：82.4%					
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド			11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,500L 3.5倍 倍数の合計： 3.5倍 設置の完成：平成18年 3月 8日 直近の完成：平成18年 3月 8日	
12 施 設 装 置				17 物 質 の 区 分		
名 称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能 力：灯油3,500L				5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(570L)		
13 機 器 等	温度圧力：	14 発 生 箇 所		18 取 扱 者 の 概 要		
名 称：貯槽(タンク) 番号 (107)	規 模：角型 縦:3.02m 横:1.89m 高さ:1.15m	名 称：本体溶接部 番号 (106)		1. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有		
14 発 生 箇 所	材 質：鋼鉄		15 発 生 時		③. 不要	
運 転 状 況：運搬中 番号 (11)		作 業 状 況：運転操作中 番号 (1)		20 危険物保安監督者		
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無						
23 事 故 の 概 要： 灯油の小口配達のため、国道を移送中に運転操作を誤り対向車両と衝突事故を起こし、移動タンク貯蔵所のタンク本体後部角が裂け、その開口部からタンク内の灯油が道路上に流出した。併せて、車両も破損したため道路を走行できなかった。 道路上に流れ出た灯油は、降り積もった雪に吸収されたため河川等への流出は無く、汚染された雪を回収するとともに、路面に付着した油を粒状吸着剤で回収した。						
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無						

25	主 原 因 交通事故		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因 破損										
	発生原因の状況： 路面が凍結し、著しく滑りやすい状態であったにもかかわらず、漠然と通常で移動タンク貯蔵所を移送していたため、前車の減速によりブレーキを踏んだところ、スリップして対向車線にはみ出して運転席側の側面が対向車両に衝突した。その衝撃でタンク運転席側後方角の溶接部が裂けて開口部ができ、移送中の灯油が道路上に流出した。										
	主原因の詳細										
第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
交通事故		運転操作		その他運転操作ミス							
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
	27 人的被害				28 物的被害						
	被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
	区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 道路上へ幅2m、長さ20mの範囲で灯油約570L流出				
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所及び車両の破損				
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 灯油 約570L(推定)	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	6 人	その他	2 台	0 隻	0 機	4 人		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (4、5、99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
事故調査											
31 防災活動上の問題点											
32	施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和3年11月1日	年 月 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	令和3年6月8日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・無			
33	その他	年	月	日	年	月	日	内容： 移動タンク貯蔵所の移送基準違反(法第16条の2第2項) 事故程度中(事故発生時付加点数)			
	1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭								
35	今後の対策や所見 道路状況に合わせた車両の運行を指導した。										

1 事故名	移動タンク貯蔵所による移送中、注油口蓋の閉め忘れによる灯油流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発生	3月 31日 15時 14分	推定・確定	4 発生見	3月 31日 15時 30分	
5 覚知	3月 31日 15時 31分		6 鎮圧 応急処置完了	3月 31日 17時 00分	
7 鎮火・処理完了	3月 31日 18時 00分				
8 覚知別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気象状況	天気：雨 風向：南西 風速：0.8m/s 気温：5.4℃ 湿度：88.8%				
10 発生事業所	種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)		11 発生場所	区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,700L 3.7倍 設置の完成：平成18年 11月 24日 直近の完成：平成31年 3月 1日	
12 施設装置			名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303) 能力：灯油 3,700L		
13 機器等	温度圧力：		倍数の合計： 3.7倍		
14 発生箇所	名称：タンクの注入口 番号 (905) 材質：鋼鉄		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油 (1L)		
15 発生時	運転状況：運搬中 番号 (11) 作業状況：運転操作中 番号 (1)		18 取扱者の概要 経験年数3年		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所による危険物の移送中、当該タンクの注入口の蓋が閉まっていなかったため危険物が路上と駐車場に流出した。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()							
	関 連 原 因 操作確認不十分											
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所に灯油を注入した後に、注入口の蓋を閉め忘れたまま走行し、移送中の衝撃で蓋から灯油が漏れ、防護枠のドレンが開いていたことにより路上に流出した。 蓋を閉めなかったことを含め、移送前点検をしなかったことも間接的な原因である。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	人		本人の意識		違反(故意)		怠慢					
	関連原因の詳細											
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害				28 物的被害								
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名					
区分												
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 注入口の蓋を閉め忘れて走行した道路上2kmの範囲及び駐車場で断続的に流出したが、流出量が微量であったため、その後の流出拡大は無かった。					
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし					
第 三 者	0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石類(非水溶性)灯油1L未満流出(推定)		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人			
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99) 事故調査。					自衛防災・消防組織等 番号 (5、4) 油中和剤を噴霧器で散布。							
31 防災活動上の問題点												
32 施設名					33 定期点検等				消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無				
措 置	年 月 日		年 月 日		内容： 蓋の閉鎖を怠ったこと(法第10条第3項) 移送開始前の点検未実施(法第16条の2)							
35	蓋の閉鎖、移送開始前の点検の励行											
今後の対策や所見												

1 事故名	移動タンク貯蔵所から灯油ホームタンクへ注油中、注油ホースが注油ノズル結合部で裂け、灯油が流出した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 27日 14時 05分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	4月 27日 14時 05分	
5 覚 知	4月 27日 14時 59分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 27日 15時 40分	
7 鎮火・処理完了	4月 27日 15時 40分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北西 風速：5m/s 気温：14℃ 湿度：66%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 ガ 番 号 (3413) ス業 ガス業 ガス事業所(本 社, 営業所等)				11 発 生 場 所
					区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：
			16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,900L 1.9倍	
12 施 設 装 置	名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303) 能 力：灯油 1,900L				
13 機 器 等					
	名 称：運搬車 番 号 (602) 規 模：長さ2,094mm、幅1,500mm、高さ880mm、容量1,900L				倍数の合計： 1.9倍
14 発 生 箇 所	設置の完成：平成30年 7月 20日 直近の完成：年 月 日				
	名 称：給油(注油)ホース 番 号 (908) 材 質：ゴム				17 物 質 の 区 分
15 発 生 時	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(1.5L)				
	運 転 状 況：給油中 番 号 (8) 作 業 状 況：小分け・詰替中 番 号 (13)				18 取 扱 者 の 概 要
	経験年数40年				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所から配達先の一般住宅車庫内にある灯油ホームタンク(490L)へ注油中、注油ノズルのオートストップ機能が作動した衝撃により、注油ホースが注油ノズル結合部で裂け、灯油約1.5Lが流出した。流出は車庫内の灯油ホームタンク周辺のみで、河川への流出及び火災危険なし。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 経年劣化により注油ノズルとの結合部にひび割れが発生していた注油ホースで注油したため、オートストップ機能が作動した衝撃により注油ホースが裂け、灯油が流出したものの。 日常点検により注油ホースのひび割れは確認していた。業者に修理依頼済みだったが、社会情勢により部品の納入が遅れ、やむを得ず使用していた。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		整備していない			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 配達先の車庫内に灯油が流出		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 注油ホース1本破断		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油約1.5L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
調査活動										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和3年7月5日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無			有・無		
その他	年	月	日	年	月	日	内容： 不備があった設備を使用していた。 消防法第12条第1項 製造所等の維持、管理			
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策や所見	設備の維持管理を徹底し、異常がある場合は使用しないよう指導する。									

1 事故名	被けん引式タンクローリーのけん引部分カブラからタンク部が脱落し、破損した配管から灯油等が漏えいした事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 23日 9時 35分	推定・確定	4 発 見	7月 23日 9時 35分	
5 覚 知	7月 23日 9時 43分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 23日 9時 45分	
7 鎮火・処理完了	7月 23日 16時 28分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：西北西 風速：9.2m/s 気温：23.5℃ 湿度：87.8%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 特 番 号 (4421) 定貨物自動車運送業 特定貨物自動車運送業				11 発 生 場 所
					区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：
		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 24,000L 120倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 24,000L 120倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 24,000L 24倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 24,000L 24倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 24,000L 12倍		
12 施 設 装 置	名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303) 能 力： 原油等24,000L				
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： その他 番 号 (999) 規 模： 楕円形移動貯蔵タンク 容量:24,000L				
14 発 生 箇 所	名 称： その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質： 鋼鉄				設置の完成： 平成 27年 9月 3日 直近の完成： 平成 27年 9月 5日
15 発 生 時	運 転 状 況： 移送中 番 号 (18) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)				17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油、軽油(5L)
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 油槽所から移送中、けん引車のシャーシフレームが破損したため、代替のけん引車に入替え作業を行い、発進したところ、けん引車とセミトレーラー式の移動貯蔵タンク部分がけん引車のカブラーから脱落し、移動貯蔵タンク下部にある送油用配管が破損し、配管内の灯油等が路上に漏えいしたもの					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： けん引車とセミトレーラー式の移動貯蔵タンクが被けん引車のカブラから離脱し、移動貯蔵タンクが路面に落下し、その衝撃で配管が損傷し流出したものの。 けん引車とセミトレーラーを接続するカブラからカップリングピンが外れた原因は、カブラのメーカーによる事故調査報告では、カブラの構造に異常はなく、代替えのけん引車とセミトレーラーを接続する際、カップリングピンが正しい位置に接続されていなかったことによるもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	設備		監理・保守		点検・整備		確認不足			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： タンクローリー下部の配管から灯油又は軽油約5Lが路上約20m×10mの範囲に漏えいしたものの。 施設等の被害状況： 被けん引式タンクローリーのセミトレーラー下部の配管を損傷する。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 灯油又は軽油約5Lが流出する。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (1,000 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
吸着マットにより、漏えい拡散措置を実施する。 また、貯蔵したままでのクレーンによる移動作業は危険であると判断し、移動貯蔵タンク内の灯油等を全量抜き出した後、移動するよう指示する。										
31 防災活動上の問題点 交差点内にセミトレーラーが立ち往生したため、交通障害が生じた。										
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和4年4月2日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和2年6月29日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ <u>無</u>			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
35 今後の対策や所見	社内マニュアルの改正し、けん引車とセミトレーラーの連結の際は、確実に連結されていることを目視で確認するとともに、連結確認操作の回数を増やし、再発の防止を図る。									

1 事故名	移動タンク貯蔵所から船舶へ給油した際に燃料タンクの容量を超えて給油し、溢れた軽油が海へ流出した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 23日 17時 00分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	9月 23日 17時 00分	
5 覚 知	9月 23日 17時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 23日 17時 20分	
7 鎮火・処理完了	9月 24日 6時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後周知 7. 一般加入 ⑧. その他 (消防現場立会中の事故)				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：南西 風速：1.4m/s 気温：20.5℃ 湿度：97.7%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属 材料卸売業 石油卸売業		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、 <u>海上</u> 、その他)	
			特別防災地区名：	16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 6,000L 6倍
12 施 設 装 置	名 称：その他のタンク 番 号 (1299)		設置の完成：令和 3年 9月 28日 直近の完成：年 月 日		
	能 力：軽油:7,000L(3,500×2基)				
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 6倍		
	名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)				
	規 模：(高さ1,440mm、幅1,440mm、奥行1,800mm)×2基				
14 発 生 箇 所	名 称：通気管 番 号 (304)		17 物 質 の 区 分		
	材 質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(100L)		
15 発 生 時	運 転 状 況：受入中 番 号 (9)		18 取扱者の概要 経験年数24年		
	作 業 状 況：充填中 番 号 (12)				
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： ふ頭に停泊していた船舶の燃料タンクに、仮取扱いの手続きをとって移動タンク貯蔵所から軽油6,000Lを給油していたところ、当該船舶の燃料タンクへ過剰給油となり、当該燃料タンクの通気管から軽油が噴出し、この給油作業中に展開していたオイルフェンス内の海上に約100Lの軽油が流出した。					
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 維持管理不十分		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 給油を受けた船舶の機関長が当該船舶の燃料タンクが8,000L(実際は、7,000L)とっていたため移動タンク貯蔵所の危険物取扱者に誤った給油量を指示し、容量を超えて給油した結果、通気管から流出したもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： オイルフェンスを設置していたため、船の周囲の海上2mの範囲内で流出したもの		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	9 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油100L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	1 隻	0 機	4 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (1 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4、6、5) 海上にオイルフェンスを展開し、船上に残った軽油を吸着マット、ACライトで除去した。					自衛防災・消防組織等 番号 (4、6、5) 海上にオイルフェンスを展開し、船上に残った軽油を吸着マット、ACライトで除去した。 中和剤を海にまき、油の除去作業を行った。					
31 防災活動上の問題点 船長が引継ぐ際に、燃料タンクは8,000Lだと聞いていた。										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
35	乗組員への教育を徹底し、船に対する知識を深める。									
今後の対策 や所見										

1 事故名	移動タンク貯蔵所から屋外タンク(少危施設)への注油時に弁が開放状態であった吐出口から廃油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 25日 0時 30分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	12月 25日 9時 00分	
5 覚 知	12月 25日 9時 17分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 25日 10時 09分	
7 鎮火・処理完了	12月 25日 10時 09分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南南東 風速：2.1m/s 気温：3.9℃ 湿度：86%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： サービス業(他に分類されない番号(8241)もの) 洗濯・理容・美容・浴場業 公衆浴場業 公衆浴場業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 4,000L 2倍 倍数の合計： 2倍 設置の完成： 昭和 62年 6月 17日 直近の完成： 昭和 62年 6月 17日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303) 能 力： タンク容量4,000L			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 廃油(40L)		
13 機 器 等 温度圧力： 名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模： 楕円形 長さ3,300mm 幅1,800mm 高さ930mm			18 取扱者の概要 経験年数35年		
14 発 生 箇 所	名 称： 開閉弁 番 号 (204) 材 質： 鋳鉄	20 危 険 物 保 安 監 督 者	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無	
15 発 生 時	運 転 状 況： 払出中 番 号 (10) 作 業 状 況： 充填中 番 号 (12)	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所の注入ホースを屋外タンク貯蔵所(少量危険物施設)の給油口に接続し、車両左側の吐出口を開放し、注油を開始しようとポンプで加圧したところ、車両右側後部の吐出口が閉鎖されておらず、当該箇所から廃油約40Lが敷地内駐車場及び側溝から用水へ流出したもの。なお、吸着マットを使用し、応急措置を実施した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他					

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 監視不十分									
	発生原因の状況： 夜間の暗い中での取扱い作業で、バルブの開閉の目視確認を誤認し、注入作業前に全てバルブが閉になっているものと思い込んだことにより、開放状態であったバルブの吐出口から油を流出させたもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		違反(故意)		怠慢			
	関連原因の詳細									
	人		本人の意識		思慮		思い込み			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した廃油が敷地内駐車場の側溝から用水へと流出した。なお、流出範囲は敷地境界線から約650m先の用水まで油膜の浮遊が確認された。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況：			
第 三 者	0	0	0	0			なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)廃油約40L流出
消 防 団	2 台	0 隻	0 機	8 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5) 吸着マットで流出油の回収					自衛防災・消防組織等 番号 (5) 吸着マットでの流出油の回収					
31 防災活動上の問題点 関係者は流出が敷地内で収まり、敷地外への流出は無いと判断し、消防への通報は必要無いと思い通報を行わなかったもの(消防への通報は付近民からの通報によるもの)。										
32 施 設 名					33 定期点検等	消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	平成 26 年 4 月 22 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	平成 22 年 6 月 12 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無			
その他	年 月 日		年 月 日		内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反 法第13条の23 保安講習未受講 法第14条の3の2 定期点検未実施					
35 今後の対策 や所見	立入検査通知書を発行し、定期点検及び漏れ点検の実施、保安講習を受講するよう指示。 関係者側へ再発防止対策を含めた報告書を提出させた。 また、今後は流出事故を発生させた場合は応急措置だけでなく、敷地外への流出を問わず消防機関へ通報するよう指導した。									

1 事故名	灯油を配達中ノズルが外れ道路上に灯油が流出した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 13日 10時 55分	推定・確定	4 発 見	10月 13日 10時 55分	
5 覚 知	10月 13日 11時 18分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 13日 11時 28分	
7 鎮火・処理完了	10月 13日 11時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北北東 風速：3m/s 気温：16℃ 湿度：89%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 2,000L 2倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)	能力：2,000L	13 機 器 等 温度 圧力：	名 称：その他の移送機器 番号 (699)	規 模：ノズル	設置の完成：平成 26年 12月 9日 直近の完成：年 月 日
14 発 生 箇 所	名 称：給油(注油)ノズル 番号 (909)	材 質：アルミニウム	15 発 生 時	運 転 状 況：その他 番号 (99)	作 業 状 況：運転操作中 番号 (1)
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所にて灯油を配達。ホースの巻き取り格納中に注油ノズルがホースから外れ民家庭先と市道に灯油約3Lが流出したものの。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原 因	25 主 原 因 維持管理不十分		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 注油ノズルを着脱する接続口のレバーを固定していなかったためにホース巻き取り時に給油ノズルが外れたことに気が付かなかった。										
	主要原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		違反(故意)		問題意識の不足				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 灯油配達中に停車中の移動タンク貯蔵所から約3L流出するが拡散はなく吸着マットにて処理した。流出範囲は移動タンク貯蔵所の周囲約3mの市道及び側溝にとどまる。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類灯油約3Lの流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額	1万円未満	、1万円以上 () 万円	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (5)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	令和3年9月15日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日				保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無				
その他	年 月 日				内容：						
35 今後の対策 や所見		ノズルとホースの接続部分のロックが外れないようにバンセンで固定設置。当該事業所が所有する移動タンク貯蔵所に対し立入検査実施。									

1 事故名		移動タンク貯蔵所の交通事故で灯油約1,900Lが流出した事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		2月 18日 5時 56分 推定・ <u>確定</u>			4 発生見		2月 18日 5時 56分						
5 覚知		2月 18日 6時 01分			6 鎮圧 応急処置完了		2月 18日 6時 47分						
7 鎮火・処理完了		2月 18日 12時 49分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴		風向：北北東		風速：1.3m/s		気温：-1.2℃		湿度：98%			
10 発生事業所						11 発生場所							
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：運輸業 道路貨物運送業 一番号 (4411) 一般貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く)						区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (<u>陸上</u> 、海上、その他)							
						特別防災地区名：						16 発生施設規制区分等	
						施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他							
						貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所							
						類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 20,000L 20倍							
12 施設装置						設置の完成：平成17年 1月 27日 直近の完成：平成17年 1月 27日							
名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303) 能力：容量20,000L													
13 機器等						温度圧力：							
名称：貯槽(タンク) 番号 (107) 規模：容量20,000L						倍数の合計：20倍							
14 発生箇所						17 物質の区分							
名称：タンク側板 番号 (101) 材質：特殊合金						①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (<u>低温</u> 、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(1,900L)							
15 発生時						18 取扱者の概要							
運転状況：運搬中 番号 (11) 作業状況：運転操作中 番号 (1)						1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
19 危険物保安統括管理者													
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所とダンプカーの交通事故で、移動タンク貯蔵所の第2室タンク側板が破損し、積載していた灯油約1,900Lが流出したものの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () <u>無</u>													

25	主 原 因 交通事故	着火原因	番号 ()
原 因	関 連 原 因		
	発生原因の状況： 前日より降雪があり、路面が凍結し、滑りやすい状況であった。		
	主原因の詳細		
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層
	交通事故	路上環境	凍結、水たまり等で路上が滑りやすい
	関連原因の詳細		
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から			
27 人的被害			
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症
当 事 者	0	0	0
防災活動従事者	0	0	0
第 三 者	0	0	0
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況		軽症	死傷原因
消 防 機 関	5 台 0 隻 0 機 12 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
28 物的被害		被災影響範囲及び拡大の状況： 交通事故により停車した堤防道路上の数メートルに灯油約1,900Lが流出 河川等への流出はなし	
28 物的被害		施設等の被害状況： (移動タンク貯蔵所) 積載タンクの第2室右側板破損(縦10cm～横4cm程度の穴)	
28 物的被害		物質の被害状況： (灯油)流出 約1,900L	
28 物的被害		損害額 1万円未満、 1万円以上 (280 万円)	
30 実施した防災活動の状況			
公設消防機関：番号 (4, 5)		自衛防災・消防組織等 番号 ()	
積載タンクの側板の破損箇所を油粘土で養生 油吸着マット及びオイルパンを使用し、拡散防止措置			
31 防災活動上の問題点			
32	施設名	33 定期点検等	消 防 法
政 策 措 置	使用停止	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日
	関係条項		
	そ の 他	年 月 日	年 月 日
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭	
34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ 無 内容：	
35	今後の対策 や所見		
事故発生から通報までは適切な対応ができているが、タンク側板からの流出は想定しておらず、事故直後における拡散防止措置ができなかったため、油粘土等の資器材の積載も必要と考える。			

1 事故名	一般取扱所において移動タンク貯蔵所の底弁及び吐出口の閉め忘れによる軽油漏えい事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 20日 8時 30分	推定・確定	4 発 見	10月 20日 9時 00分	
5 覚 知	10月 20日 9時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 20日 11時 30分	
7 鎮火・処理完了	10月 20日 11時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他(自己覚知)				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北東 風速：1.6m/s 気温：12.5℃ 湿度：82.7%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号(5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属 材料卸売業 石油卸売業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 2,000L 2倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 2,000L 2倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称：移動貯蔵タンク 番号(1303)	能力：		設置の完成：平成8年3月22日 直近の完成：平成8年3月22日		
13 機 器 等	温度圧力：		倍数の合計：4倍		
名 称：貯槽(タンク) 番号(107)	規 模：長さ3,330mm、幅1,800mm、高さ930mm、容量4,000L		17 物質の区分		
14 発 生 箇 所	名 称：給油(注油)ホース 番号(908)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
材 質：合成樹脂	15 発 生 時		5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
運 転 状 況：移送中 番号(18)	作 業 状 況：充填中 番号(12)		(固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(200L)		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所の移送前点検を実施せず、底弁及び吐出口が開いたままの状態では軽油を充填し、漏れているのに気づかないまま、油槽所内及び道路上に軽油を約200L流出させたもの。					
24 緊急処置の状況 有 番号(1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所の底弁及び吐出口が空いているにもかかわらず、閉鎖確認せずに軽油を充填し移送する。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		違反(故意)		問題意識の不足			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 軽油200Lが県道及び市道約3kmにわたり漏えいする。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 油槽所(充填箇所)内に軽油が漏えいする。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	2 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油約200L漏えいする。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	6 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5) 道路上の軽油をオイル吸着剤で処理する。					自衛防災・消防組織等 番号 (4) 吐出口及び底弁のバルブ閉鎖、施設内の漏えい物の除去					
31 防災活動上の問題点 消防職員による自己覚知であった、市役所、警察への通報はなし。危険物を取り扱っている責任を再度認識する必要がある。作業の際の安全確認等、作業マニュアル無し。県確認済み										
政 策 措 置	32 施設名	一般取扱所			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	令和 4 年 10 月 20 日			年 月 日			定期・自主点検	令和 4 年 4 月 20 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	令和 4 年 10 月 20 日			年 月 日			保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・無		
その他	年 月 日			年 月 日			内容： ①一般取扱所 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反 ②移動タンク貯蔵所 法第16条の2第2項 危険物の移送違反			
35 今後の対策や所見	従業員への安全教育の実施、作業マニュアルの作成 通報に遅滞があったことについて、消防法第16条の3第2項の順守を指示した。									

1 事故名	移動タンク貯蔵所のタンク亀裂(ピンホール)からの灯油流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 22日 10時 20分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	12月 22日 10時 20分	
5 覚 知	12月 22日 10時 55分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 22日 11時 00分	
7 鎮火・処理完了	12月 22日 12時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：南 風速：2.5m/s 気温：8.4℃ 湿度：86%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属 材料卸売業 石油卸売業		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,900L 1.9倍 倍数の合計： 1.9倍 設置の完成：平成 7年 6月 6日 直近の完成：平成 18年 7月 18日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)	能 力：1,900L		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(0.1L)		
13 機 器 等	温 度 圧 力：				
名 称：貯槽(タンク) 番号 (107)	規 模：1,900L		18 取扱者の概要		
14 発 生 箇 所	名 称：容器本体 番号 (108)				
材 質：鋼鉄	15 発 生 時		21 危険物取扱者の の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
運 転 状 況：払出中 番号 (10)	作 業 状 況：運転操作中 番号 (1)				
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所で一般住宅のドラム缶に灯油を払い出し後、移動タンク貯蔵所の荷台から灯油が流出しているのを発見。原因については、タンク後部鏡板と掲示板(鋼製)の経年接触により、タンク後部鏡板上部に亀裂(ピンホール)が発生し、灯油が公道及び側溝に流出したもの					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

25	主 原 因 破 損	着火原因	番号 ()
原 因	関 連 原 因		
	発生原因の状況： タンク後部鏡板と掲示板(鋼製)の経年接触により、タンク後部鏡板上部に亀裂(ピンホール)が発生		
	主要原因の詳細		
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層
	破損	定常運転時	物質の落下・ぶつかりによる破損
	関連原因の詳細		
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から		
27	人 的 被 害		28 物的被害
	被害内容等	死亡	重症
区分	中等症	軽症	死傷原因
職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所停車位置から公道5m及び側溝2mに約0.1Lの灯油流出		
当 事 者	0	0	0
防災活動従事者	0	0	0
第 三 者	0	0	0
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況		
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 5 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	3 台 0 隻 0 機 5 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
	物質の被害状況： 灯油約0.1L流失		
	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (万円)		
30	実施した防災活動の状況		
	公設消防機関：番号 (4) オイルマットで道路及び側溝への流出防止措置を実施		自衛防災・消防組織等 番号 ()
31	防災活動上の問題点		
政 策 措 置	32	施 設 名	移動タンク貯蔵所
	使用停止	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日
	関係条項	法第10条第4項及び第12条第1項	
	その他	警告 令和4年12月23日 年 月 日 ①. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭	
33	定期点検等	消 防 法	そ の 他
	定期・自主点検	令和4年2月22日	年 月 日
	気密試験等	令和3年3月11日	年 月 日
	保安検査	年 月 日	年 月 日
	34	当該施設に係る 法令違反の有無	
		有・ <input type="text" value="無"/> 内容：	
35	今後の対策 や所見		
	当該移動タンク貯蔵所については、廃止となった。		

1 事故名	移動タンク貯蔵所から屋外タンク貯蔵所へ荷卸し中に発生した重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 10日 14時 15分	推定・確定	4 発 見	5月 10日 14時 19分	
5 覚 知	5月 10日 15時 15分		6 鎮 圧 応急処置完了	5月 10日 14時 50分	
7 鎮火・処理完了	5月 10日 18時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東南東 風速：6.1m/s 気温：18.5℃ 湿度：44.4%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)				11 発 生 場 所
					区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：
		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 14,000L 70倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 14,000L 14倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 14,000L 14倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 14,000L 7倍		
12 施 設 装 置	名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303) 能 力：				
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模：全長6,320mm、容量14,000L 倍数の合計： 105倍				
14 発 生 箇 所	設 置 の 完 成：平成 18年 3月 16日 直 近 の 完 成：平成 18年 3月 16日				
名 称：ホース(給油、注油及び注入ホースを除く)	番 号 (211)				
材 質：ゴム	17 物 質 の 区 分				
15 発 生 時	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(300L)				
運 転 状 況：荷卸中 番 号 (13)	18 取 扱 者 の 概 要				
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)	経験年数19年				
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所から荷卸しする際、通常閉止するバイパスバルブを誤って開放し、荷卸しを開始する。さらに、開放しなければいけない後方吐出連絡バルブを閉止したままポンプの回転数をあげたため、吐出口には流れず配管内を循環し、第5槽へすべての槽の重油が流れ込み、第5槽上部のマンホールから溢れ出した。また、本来タンク上部の防護枠シェルターコックは閉止して荷卸しするが、閉止することを失念していたためマンホールから溢れ出した重油がシェルターコック側に流れ込み、ドレン配管を通過し地盤面へ流出した。なお、吸着マットを使用し、応急措置を実施した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 普段乗り慣れていない車両だったため、ポンプ作業時は開放しないバイパスバルブを後方吐出連絡バルブと勘違いし開放した。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		思い込み			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所から重油が幅5m、長さ4mにわたり漏えいした。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 移動タンクから重油が流出し、地盤面及び枳内へ漏えいしたものを。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油300L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (2 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動				自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) 油吸着マットで重油を回収						
31 防災活動上の問題点 事故発生から消防機関へ通報するまで長時間を要した。										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和3年 6月 16日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和1年 6月 8日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策 や所見		作業手順遵守、車両設備確認の再徹底。荷卸しマニュアルの教育。								

1 事故名	移動タンク貯蔵所が配達先の事業所で転覆し、タンク上部から重油が漏えい						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	8月 2日 18時 37分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	8月 2日 18時 37分			
5 覚 知	8月 2日 18時 37分			6 鎮 圧 応急処置完了	8月 2日 19時 50分		
7 鎮火・処理完了	8月 2日 19時 56分						
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況	天気：晴		風向：南		風速：0.5m/s		気温：30℃ 湿度：81.3%
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタン ド			11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (<input checked="" type="checkbox"/> 陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 3,000L 1.5倍		
12 施 設 装 置				名称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303) 能 力：3,000L			
13 機 器 等	温度圧力：		18 取扱者の概要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		
14 発 生 箇 所	名称：安全弁 番 号 (301) 材 質：鋼鉄		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 有 2. 無
15 発 生 時	運 転 状 況：その他 番 号 (99) 作 業 状 況：その他 番 号 (99)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(20L)		倍数の合計： 1.5倍		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有							
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所の運転中、斜面に乗り上げて転覆する。衝撃により安全弁に異常に高い圧力がかかり、重油約20L漏えいする。運転手が車外に出る際、ラジエーター水で左手及び右肩に熱傷を負う。緊急措置は行われず。安全弁が閉鎖される圧力まで低下した時点で安全弁が閉鎖、漏えいが止まる。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () <input checked="" type="checkbox"/> 無							

原 因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 1,000Lのタンク室に満タン状態、外気温が摂氏30℃という環境で安全装置にある程度圧力がかかった状態であったところに、転覆の衝撃が加わり安全弁に異常に高い圧力がかかり、安全弁が開放し漏えいする。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		定常運転時		車両等の接触					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 転覆した移動タンク貯蔵所から重油が幅0.5m、長さ10mにわたり漏えいした。		
区分										
当 事 者		0	0	0	1	車両の転覆	会社員			
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所のキャビンが破損、側面枠、胴板が変形する。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	13 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油20Lが漏えい
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	4 台	0 隻	0 機	5 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (100 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5) 液体吸着材、吸着マットを使用し漏えいした重油を回収する。						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	平成 30 年 11 月 5 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	令和 2 年 7 月 21 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無				
その他	年 月 日	年 月 日		内容： 消防法第14条の3の2 点検記録の作成及び保存の義務違反						
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策や所見	従業員の体調管理、正常な作業の実施を指導する(自主的)									

1 事故名	移動タンク貯蔵所から重機への注油中、移動タンク貯蔵所が動き横転したことによる軽油の流出					
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生	10月 4日 7時 41分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	10月 4日 7時 41分		
5 覚 知	10月 4日 7時 45分			6 鎮 圧 応急処置完了	10月 4日 8時 05分	
7 鎮火・処理完了	10月 4日 8時 05分					
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況	天気：曇		風向：南		風速：4.1m/s 気温： 湿度：80%	
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 木材・木製品製造業 番 号 (1314) (家具を除く) 製材業, 木製品 製造業 木材チップ製造業			11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他)	
				特別防災地区名：	16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 4,000L 4倍
12 施 設 装 置	名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303)			設置の完成： 平成 27年 2月 5日 直近の完成： 平成 27年 2月 10日		
	能 力： 移動貯蔵タンク容量4,000L					
13 機 器 等	温 度 圧 力：			倍数の合計： 4倍		
	名 称： その他 番 号 (999)					
	規 模： 移動貯蔵タンク容量4,000L					
14 発 生 箇 所	名 称： タンク屋根板 番 号 (103)			17 物 質 の 区 分		
	材 質： ステンレス			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
15 発 生 時	運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)			5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
	作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)			(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油 (1L)		
				18 取扱者の概要 経験年数6年		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無						
23 事故の概要： 発生事業所外から注油に来た移動タンク貯蔵所が重機へ注油中、移動タンク貯蔵所のサイドブレーキの効果が不十分であったため、当該移動タンク貯蔵所が後進し、地盤面の影響を受け横転した。そして、横転したことにより、移動タンク貯蔵所の計量口が緩み、注入口付近から軽油が1.0L程度流出したものの。						
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他						

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所から重機への注油行為を行う際、傾斜のある場所で当該行為をしていた。当該行為中、移動タンク貯蔵所のサイドブレーキの効果が不十分であり、車輪止めも施していなかったため、車両が後進し、右後輪がコンクリートのスロープに乗り上げたことにより横転、貯蔵する軽油が1.0L程度流出したものの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		過信				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 軽油1.0L程度の流出			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 移動貯蔵タンクの変形			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油 1.0L程度流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (100 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (4、99) 乾燥砂を用いて流出した軽油の処理を実施するとともに、関係者からの聴取等、事故状況の調査及びこれに係る情報収集を実施した。						自衛防災・消防組織等 番号 (4) 重機注入口を閉鎖するとともに、緊急レバーを作動させることにより流出防止措置を実施した。					
31 防災活動上の問題点											
32 施設名											
行政措置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検		令和4年9月22日	年 月 日
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等		年 月 日	年 月 日
	関係条項							保安検査		年 月 日	年 月 日
置	その他	年 月 日			年 月 日			34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：	
		1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策や所見 従業員の安全教育を実施											

1 事故名	一般取扱所への荷卸し作業において、移動タンク貯蔵所から重油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 30日 10時 15分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	6月 30日 10時 20分	
5 覚 知	6月 30日 10時 34分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 30日 10時 45分	
7 鎮火・処理完了	6月 30日 11時 28分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南東 風速：3.9m/s 気温：29℃ 湿度：75%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				11 発 生 場 所
					区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、 <input checked="" type="checkbox"/> 他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 岩国・大竹
					16 発生施設規制区分等
					施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油(重油) 3,400L 1.7倍
12 施 設 装 置					倍数の合計： 1.7倍
名 称：移動貯蔵タンク	番 号 (1303)				
能 力：タンク容量3,400L					
13 機 器 等	温 度 圧 力：				
名 称：その他	番 号 (999)				
規 模：全長5,300mm、口径50.8mm					
14 発 生 箇 所					
名 称：その他	番 号 (999)				
材 質：ゴム					
15 発 生 時					
運 転 状 況：荷卸中	番 号 (13)				
作 業 状 況：その他	番 号 (99)				
					17 物 質 の 区 分
					①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 廃油(重油) (85L)
					18 取扱者の概要
					経験年数8年
19 危険物保安統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： 事業所内において、移動タンク貯蔵所で装置から回収した廃油(重油)を排水処理施設(一般取扱所)に荷卸しする際、バルブの誤操作により移動タンク貯蔵所から廃油が漏えいしたものである。 バルブの閉鎖により漏えいは停止し、吸着マットにより漏油処理を実施した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 事業所内において、協力会社の従業員が、移動タンク貯蔵所で装置から回収した廃油(重油)を排水処理施設(一般取扱所)に荷卸しする際、荷卸し手順を誤り、本来開放すべきではないバルブまで開放したため、移動タンク貯蔵所から廃油が漏えいしたものである。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		取り違い			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 荷卸し中の移動タンク貯蔵所から、バルブの誤操作により廃油(重油)が漏えいしたものであり、隣接施設等への影響なし。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 施設等の被害なし。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	71 人	物質の被害状況： 廃油(重油)が約85L漏えいしたものの。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額	1万円未満	、1万円以上 () 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)				
警戒、調査										
31 防災活動上の問題点										
32 施設名 移動タンク貯蔵所										
行政措置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	令和 3 年 11 月 16 日	令和 4 年 6 月 30 日
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日	年 月 日
	関係条項							保安検査	年 月 日	年 月 日
その他	再発防止策を含む事故報告書、改善計画書の提出を指導 令和 4 年 7 月 1 日			年 月 日			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：		
①. 文書 ②. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策や所見 作業標準書(チェックリスト)について、有効的に活用できるよう見直しを行うとともに、活用の徹底を図る。本事故事例の周知教育を実施するとともに、年間安全教育計画により継続的に教育を実施する。										

1 事故名	屋外タンク貯蔵所の水切り兼スケール除去作業中、監視不足により移動タンク貯蔵所からガソリン含有水が流出						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	10月 13日 14時 00分	推定・確定	4 発 見	10月 13日 14時 14分			
5 覚 知	10月 13日 14時 27分			6 鎮 圧 応急処置完了	10月 13日 16時 10分		
7 鎮火・処理完了	10月 13日 16時 10分						
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況	天気：晴		風向：東南東		風速：1.7m/s		気温：24℃ 湿度：54%
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業			11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：岩国・大竹		
16 発生施設規制区分等				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 廃油 3,800L 19倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 廃油 3,800L 3.8倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 3,800L 1.9倍			
12 施 設 装 置	名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303) 能 力：タンク最大容量:3,800L			倍数の合計： 19倍 設置の完成：平成 25年 8月 7日 直近の完成：平成 25年 8月 7日			
13 機 器 等	温 度 圧 力：常温、常圧 名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模：長径1,800mm、短径930mm、全長3,200mm、容量3,800L						
14 発 生 箇 所	名 称：マンホール 番 号 (305) 材 質：ステンレス			17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン含有水(184.4L)			
15 発 生 時	運 転 状 況：受入中 番 号 (9) 作 業 状 況：その他 番 号 (99)			18 取 扱 者 の 概 要 経験年数2年			
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有							
23 事 故 の 概 要： 屋外タンク貯蔵所において、移動タンク貯蔵所を用いた水切り兼スケール除去作業を実施中、作業員の監視不足により、車両上部のマンホールからガソリン含有水が約184.4Lオーバーフローしたものである。なお、当該作業中、作業員は車両から離れており、作業終了後、車両に戻った際に漏えいを覚知したものである。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無							

原因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 屋外タンク貯蔵所の水切り兼スケール除去作業を実施する際は、移動タンク貯蔵所のレベル監視を行わなければならないにも関わらず、当該事業所の操油係作業員との連絡手段(携帯電話)が無かったため、水切り兼スケール除去作業に要する時間を把握した上で持ち場を離れていたが、作業終了後、車両に戻ったところオーバーフローしていたものである。										
	主要原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	管理		監督		監視		監視が実施されない/不足				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 受け入れ作業中の移動タンク貯蔵所からガソリン含有水が構内路上にオーバーフローしたもの。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 施設等の被害なし。			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	3 台	0 隻	0 機	60 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ガソリン含有水が約184.4L漏えいしたもの。	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (2 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
警戒、調査											
31 防災活動上の問題点											
32 施設名 移動タンク貯蔵所											
行政措置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	令和 3 年 11 月 16 日	令和 4 年 10 月 13 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等	令和 3 年 11 月 16 日	年 月 日	
	関係条項							保安検査	年 月 日	年 月 日	
その他	再発防止策を含む事故報告書、改善計画書の提出を指導 令和 4 年 10 月 17 日			年 月 日			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：		
①. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭										
35 今後の対策や所見 今後は、移動タンク貯蔵所での廃油回収作業を一人で実施しないルールとし、回収作業実施時には、作業員とは別に専従の監視人を配置し、チェックリストの進捗記入及びタンクの常時レベル監視を行うこととした。また、移動タンク貯蔵所には、緊急停止機構が備わっていないため、安全に緊急停止する設備の導入を検討することとした。											

1 事故名	走行中の移動タンク貯蔵が積載ホースを切断したことによる軽油漏えい事故						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	11月 4日 15時 55分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	11月 4日 15時 55分			
5 覚 知	11月 4日 16時 10分			6 鎮 圧 応急処置完了	11月 4日 16時 15分		
7 鎮火・処理完了	11月 4日 16時 55分						
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況	天気：晴		風向：北北東		風速：4m/s		気温：17℃ 湿度：52%
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタン ド			11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 1,200L 1.2倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,000L 1倍		
12 施 設 装 置				13 機 器 等			
名 称：移動貯蔵タンク	番 号 (1303)	温 度 圧 力：	設置の完成：平成12年12月1日				
能 力：2.2KL			直近の完成：平成30年9月26日				
名 称：貯槽(タンク)	番 号 (107)		17 物質の区分				
規 模：2.2KL			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
			5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
15 発 生 時			(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧)				
運 転 状 況：移送中	番 号 (18)		(低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温)				
作 業 状 況：	番 号 ()		分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(2L)				
			18 取扱者の概要				
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有							
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所での配送を終え、給油所へ帰路途上に県道上にて、車両左側に設置されているホースリールに巻かれて収納されている給油(注油)ホースが何らかの理由により緩み、そのホースを当該移動タンク貯蔵所の左後輪で轆くことにより給油(注油)ホースが切断され、約2Lの軽油が県道上に漏えいした。給油(注油)ホースの切断に気付き移動タンク貯蔵所をすぐに停車させた後、車内に積載してある吸着マット3枚で漏えいした軽油を回収する作業を実施。さらに所属給油所に回収作業の応援を携帯電話にて要請。回収作業をしながら消防本部予防課へ携帯電話にて事故の報告を実施したもの。現場路上には漏えいした危険物(軽油)が縦4.0m、幅1.5mの範囲で片側の車線にのみ漏えいしていた。死傷者なし。ホースリールに固定装置なし。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他							

原因	25 主 原 因 不明		着火原因		番号 ()				
	関連原因		設計不良						
	発生原因の状況： 車両左側に設置されているホースリールに巻かれて収納されている給油(注油)ホースが何らかの理由により緩み、その給油(注油)ホースを当該移動タンク貯蔵所の左後輪で轆くことにより給油(注油)ホースが切断された。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	関連原因の詳細								
	設計不良		機能		必要とされる機能が備わっていない				
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害						28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名		
区分									
当 事 者	0	0	0	0					
防災活動従事者	0	0	0	0					
第 三 者	0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						被災影響範囲及び拡大の状況： 県道片側車線上の縦4.0m、幅1.5mの範囲で漏えい。			
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	1 台	0 隻	0 機	2 人
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
						物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油 2L流出			
						損害額 1万円未満、 1万円以上 (20 万円)			
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
界面活性剤による措置									
31 防災活動上の問題点									
32 施設名 移動タンク貯蔵所									
行政措置	使用停止	令和4年11月4日	年	月	日	33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	改善命令等	令和4年11月7日	年	月	日	定期・自主点検	令和4年10月19日	年 月 日	
	停止解除	令和4年11月15日	年	月	日	気密試験等	令和2年12月29日	年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項				保安検査	年 月 日	年 月 日	
その他	年 月 日	年 月 日			34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ 無 内容：			
	1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策や所見									
今回の事故は定期点検及び立入検査項目にない箇所での事故だった。ホースリールに緩みを防止するための固定装置がついていないことも審査の盲点であった。許可申請時また、立入検査時も細部に至るまで審査、検査が必要である。同様の事故を起こさないためホースリールを固定する措置を取らせる等の指導を実施していきたい。また、今回のように危険物取扱者が事故時に早急な対応ができるよう引き続き指導していきたい。									

1 事故名	移動タンク給油所から給油取扱所の地下タンクへ軽油を荷卸し中、移動タンク貯蔵所の吐出口から軽油が漏えい		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	5月 7日 7時 51分 推定・ 確定	4 発 見	5月 7日 7時 51分
5 覚 知	5月 7日 7時 51分	6 鎮 圧 応急処置完了	5月 7日 8時 18分
7 鎮火・処理完了	5月 7日 8時 18分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：無風状態 風速： 気温：20℃ 湿度：75%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属 材料卸売業 石油卸売業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 20,000L 100倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能 力：	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油 (20L)		
13 機 器 等	18 取扱者の概要		
名 称： その他 番 号 (999)	経験年数4年		
規 模： 胴長7,300mm、幅2,460mm、高さ1,395mm、容量20,000L	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
14 発 生 箇 所	21 危険物取扱者の の取扱・立会い		
名 称： 開閉弁 番 号 (204)	①. 有 2. 無		
材 質： 鋼鉄			
15 発 生 時			
運 転 状 況： 荷卸中 番 号 (13)			
作 業 状 況： その他 番 号 (99)			
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 移動単タンク貯蔵所から給油所の地下タンクへガソリンを荷卸し後、絞り作業の際に助手席側吐出口のバルブを完全に閉鎖していなかったため、軽油の荷卸しの際に軽油20Lが給油所施設内に漏えいした。なお、中和剤及び吸着マットを使用し応急処置を実施した。			
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無			

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()				
	関連原因 監視不十分、操作確認不十分								
	発生原因の状況： 給油所立ち合いの監視不十分及び絞り作業を行った運転手の確認不十分により軽油が漏えいしたものの。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	人		本人の意識		思慮		思い込み		
	関連原因の詳細								
	管理		監督		監視		監視が実施されない/不足		
人		本人の意識		思慮		配慮不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害						28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名		
区分									
当 事 者		0	0	0	0				
防災活動従事者		0	0	0	0				
第 三 者		0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						被災影響範囲及び拡大の状況： 荷卸し中の移動タンク貯蔵所から軽油が給油所施設内に幅3m長さ5mにわたり漏えいした。			
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
						物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油20L流出。			
						損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)			
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (4)				自衛防災・消防組織等 番号 ()					
漏えいした軽油の中和及び改修作業。									
31 防災活動上の問題点									
32 施設名									
行政措置	使用停止	年 月 日		年 月 日		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	令和 3 年 11 月 26 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		気密試験等	平成 29 年 10 月 19 日	年 月 日	
	関係条項					保安検査	年 月 日	年 月 日	
その他	年 月 日		年 月 日		34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>			
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭		内容：			
35 今後の対策や所見									
当該事業所へ対し、従業員への教育を指導。また、予防既定の順守を指導したところであるが、今後、管内の他の事業所に対しても指導を行い同種事故防止に努める必要がある。									

1 事故名	移動タンク貯蔵所と軽自動車の交通事故後に、積載タンクより軽油の漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 6日 9時 30分	推定・確定	4 発 見	12月 6日 9時 30分	
5 覚 知	12月 6日 9時 37分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 6日 10時 25分	
7 鎮火・処理完了	12月 6日 10時 25分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北西 風速：1m/s 気温：9℃ 湿度：48%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 1,900L 1.9倍 倍数の合計： 1.9倍 設置の完成：平成15年 10月 20日 直近の完成：令和4年 5月 30日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称：移動貯蔵タンク 番号 (1303) 能 力：軽油1,900L			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(3L)		
13 機 器 等 温度圧力：			18 取扱者の概要		
名 称：貯槽(タンク) 番号 (107) 規 模：横1,500mm 高さ880mm 長さ2,094mm 容量1,900L	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
14 発 生 箇 所	名 称：本体溶接部 番号 (106) 材 質：アルミニウム				
15 発 生 時	運 転 状 況：移送中 番号 (18) 作 業 状 況： 番号 ()				
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 国道3号線を直進走行中の移動タンク貯蔵所と右折中の軽自動車による交差点内での交通事故において、事故直後には移動タンク貯蔵所からの危険物の漏えいはなかったが、移動タンク貯蔵所を近くの店舗駐車場に移動させた際、積載タンクの亀裂部分から軽油が漏えいしたものの。なお、油吸着マット及び油吸着材を使用し、応急措置を実施した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原因	25 主 原 因 交通事故		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 交通事故において、移動タンク貯蔵所は右前方が軽自動車と衝突し、軽自動車は横転、移動タンク貯蔵所は右前方下部を破損したが、積載タンク等からの危険物の漏えいは確認できなかった。しかし、移動タンク貯蔵所を移動させた際の振動等により、事故により発生していた積載タンク右側後下部のタンク取付け架台とタンク本体の溶接部付近の亀裂が悪化し、同箇所より軽油が漏えいしたものの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	交通事故		その他		交差点内における接触、衝突						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 交通事故により、積載タンクの亀裂部分から約3Lの軽油が漏えい			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 積載タンク右側後下部のタンク取付け架台とタンク本体の溶接部付近に約5cmの亀裂			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油約3L漏えい	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (150 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (4) タンク亀裂箇所に、養生テープで油吸着マットを貼り付け、地面に油吸着材を散布						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点											
32 行政措置	施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和 4 年 11 月 6 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		令和 3 年 4 月 20 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日		年 月 日								
35 今後の対策や所見 ・危険物入れ替え作業の際の注意喚起 ・危険物事故発生届出書の提出 ・事故車両の使用停止											

1 事故名	移動タンク貯蔵所から車両へ軽油を給油後、移動タンク貯蔵所の発進によりホース接続部分が破断した流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 16日 15時 30分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	9月 16日 15時 30分	
5 覚 知	9月 16日 17時 45分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 16日 16時 30分	
7 鎮火・処理完了	9月 16日 17時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東南東 風速：8.7m/s 気温：28.6℃ 湿度：68.2%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： サービス業(他に分類されない番号(9399)もの) その他のサービス業 他に分類されないサービス業 他に分類されないサービス業		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外(陸上、海上、その他)	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 4,000L 20倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 4,000L 4倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 3,800L 1.9倍	
13 機 器 等	温度圧力：		設置の完成：平成12年12月7日 直近の完成：平成12年12月7日		
14 発 生 箇 所	名称：移動貯蔵タンク 番号(1303)		17 物 質 の 区 分		
15 発 生 時	能力：		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温[0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(100L)		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： 事業所で、移動タンク貯蔵所からレンタル4tトラックへ軽油を給油。給油後、移動タンク貯蔵所を発進させた際、給油ホースの巻取りが不十分であったため、何らかの原因でノズルとホースの接続部分が破断し、軽油約100Lが流出した。敷地外への流出なし。なお、当該事故に際し、死傷者等は発生していない。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号(1、10) 無 装置の緊急停止、その他					

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 当該移動タンク貯蔵所の危険物取扱者は、給油後にホースを巻き取ったか明確に覚えていない。流出後、危険物取扱者が確認した際には、ノズルは通常の状態での収納されていたが、破断した給油ホース(3~4m)が地面に垂れ下がっている状態であった。										
	主要原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		思い込み				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 事業所で移動タンク貯蔵所から軽油約100Lが流出。当該敷地に設置されている油分離槽で流出は止まっている状態。			
区分											
当事者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0						
第三者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所のホースの接続部分が破断			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消防機関	2台	0隻	0機	5人	自衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： 軽油約100Lが流出	
消防団	0台	0隻	0機	0人	共同	0台	0隻	0機	0人		
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応援	0台	0隻	0機	0人		
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人		
								損害額	1万円未満	、1万円以上 () 万円	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
情報収集及び調査											
31 防災活動上の問題点 流出事故が発生したのが15時30分頃であったが、覚知時間は17時45分である。 通報までに時間を要している上、通報者は事故状況を十分に把握していない所有会社の社員からであった。											
行政措置	施設名	移動タンク貯蔵所				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和3年12月25日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無			
その他	令和4年9月17日		年 月 日				内容：				
35 今後の対策や所見 当該事業所に対し、従業員への教育及び危険物の取扱作業に従事するときの保安確保について細心の注意を払うようしたところである。今後、管内の事業所に対しても同種の事故防止に努める必要がある。											

1 事故名	注油中タンクローリーからの漏えい事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 12日 14時 30分	推定・確定	4 発 見	3月 12日 14時 30分	
5 覚 知	3月 14日 8時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 12日 14時 30分	
7 鎮火・処理完了	3月 12日 15時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東 風速：7.1m/s 気温：22.4℃ 湿度：57%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 一 番 号 (4411) 一般貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く)		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他)	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 16,000L 16倍	
名 称： 移動貯蔵タンク	番 号 (1303)	能 力： ポンプ圧最大0.2MPa		設置の完成： 平成 14年 4月 18日 直近の完成： 平成 14年 4月 18日	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 0.1Mpa		17 物 質 の 区 分		倍数の合計： 16倍
名 称： その他	番 号 (999)	規 模： 最大積載量16,000L		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (5L)	
14 発 生 箇 所	名 称： その他 番 号 (999)		18 取扱者の概要		経験年数8年
材 質： 鋼鉄	15 発 生 時		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い
運 転 状 況： 払出中	番 号 (10)	20 危険物保安監督者		①. 有 2. 無	
作 業 状 況： 運転操作中	番 号 (1)				
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： タンクへタンクローリーが注油する際、払出とは別の払出口のバルブの不完全閉鎖により、払出口から灯油が漏えい。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因 操作確認不十分							
	発生原因の状況： 事故前の払出作業でバルブ閉鎖の確認不足							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	人		本人の意識		思慮		不注意	
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害						28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	
区分								
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいした灯油はタンクローリー払出口下の地面 (アスファルト)2㎡内に留まった状態	
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 無し	
第 三 者	0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	0台 0隻 0機 0人	自 衛		0台 0隻 0機 0人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油5L流出			
消 防 団	0台 0隻 0機 0人	共 同		0台 0隻 0機 0人				
海上保安部	0台 0隻 0機 0人	応 援		0台 0隻 0機 0人				
その他の機関	0台 0隻 0機 0人	その他		0台 0隻 0機 0人	損害額 [1万円未満]、1万円以上 (万円)			
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和3年 4月 28日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	平成30年 4月 28日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・[無] 内容：		
そ の 他	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策 や所見		荷卸し開始前に全ての吐出口目視点検と触手点検を行う。 荷卸し時には全ての吐出口下部に漏油マット及び油受けバケットを使用する。						

1 事故名		移動タンク貯蔵所の上部マンホール閉め忘れによる漏えい事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		5月 19日 10時 57分	推定・確定	4 発 見		5月 19日 11時 00分	
5 覚 知		5月 19日 11時 20分		6 鎮 圧 応急処置完了		5月 19日 11時 35分	
7 鎮火・処理完了		5月 19日 11時 35分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 ⑤. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：東南東		風速：5m/s 気温：25℃ 湿度：76%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタン ド				区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 2,000L 2倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 1,000L 1倍			
12 施 設 装 置							
名 称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)							
能 力：タンク容量3KL							
13 機 器 等				温度圧力：			
名 称：貯槽(タンク) 番号 (107)							
規 模：容量3KL				倍数の合計： 3倍			
14 発 生 箇 所				設置の完成：平成 28年 12月 10日 直近の完成： 年 月 日			
名 称：マンホール 番号 (305)				17 物 質 の 区 分			
材 質：銅				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油 (20L)			
15 発 生 時				18 取扱者の概要			
運 転 状 況：移送中 番号 (18)				経験年数30年			
作 業 状 況：運転操作中 番号 (1)							
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 令和4年5月19日(木)10時50分頃、他社のローディングアームから自社の移動タンク貯蔵所に軽油約730Lの詰込み作業を行った。その後、タンク上部の注入口外蓋の閉め忘れにより、軽油約20Lの漏えい事故が発生。なお、他社従業員3名で砂を運搬し応急処置を実施。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無							

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()		
	関連原因						
	発生原因の状況： タンク上部注入口の内蓋は閉めたが、外蓋の閉め忘れにより、走行時の振動で注入口から軽油があふれ出し、防護枠内に溜まった軽油がタンク左右前方の水抜きドレン(開の状態)からの漏えい事 発生原因の状況故である。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		
	設備		監理・保守		点検・整備		
					確認不足		
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害				28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所から軽油が幅0.5m、長さ約100mに渡り漏えいした。	
区分					死傷原因		職業又は職名
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
消 防 機 関	0台 0隻 0機 0人	自 衛	0台 0隻 0機 0人	物質の被害状況：			
消 防 団	0台 0隻 0機 0人	共 同	0台 0隻 0機 0人	第4類第2石油類(非水溶性)軽油約20Lの漏えい			
海上保安部	0台 0隻 0機 0人	応 援	0台 0隻 0機 0人				
その他の機関	0台 0隻 0機 0人	その他	0台 0隻 0機 0人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)			
30 実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 ()			自衛防災・消防組織等 番号 (5) 乾燥砂を散布				
31 防災活動上の問題点							
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無		
その他	年 月 日	年 月 日	内容： ・消防法第16条の2第2項 移動タンク貯蔵所の移送基準違反 ・危政令第31条 責務違反(事故通報時の通報義務違反)				
35	従業員の安全教育の実施。						
今後の対策や所見							

6 給油取扱所

1 事故名	鉄道用給油取扱所における、給油中の流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 2日 1時 10分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	2月 2日 1時 10分	
5 覚 知	2月 2日 1時 28分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 2日 1時 20分	
7 鎮火・処理完了	2月 2日 2時 59分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：西 風速：2.4m/s 気温：-3℃ 湿度：59%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 鉄道業 鉄道業 普 番 号 (4211) 通鉄道業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 98,000L 98倍				
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分				
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
能 力： 地下貯蔵タンク容量:98,000L	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(10L)				
13 機 器 等 温 度 圧 力：	18 取 扱 者 の 概 要				
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有				
規 模： ポンプ吐出量200L/min	3. 不要				
14 発 生 箇 所	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有				
名 称： その他 番 号 (999)	23 事 故 の 概 要： 鉄道用給油取扱所において、車両の燃料タンク(甲タンク、乙タンク)へ同時に給油作業をした。この際、2つのタンクの液面計は同量を示しており、通常は同じ速度で液面計が上昇するところ、甲タンクの液面計が上がらないことに気付き、一旦給油作業を中断した。流出を疑い、甲タンクの周囲を確認したが異状はなかったため、給油を再開したところ、甲タンクのオーバーフロー管から軽油が流出したため、給油を停止し流出油の処理及び事故状況の確認、上司への報告を行った。流出を確認してから停止するまでは3秒程度で、ポンプ吐出量から流出量は約10Lと考えられる。				
材 質： 鋼鉄	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止				
15 発 生 時	20 危険物保安監督者				
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)					
作 業 状 況： その他 番 号 (99)					
19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要					

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 燃料タンクに附属する液面計はガラスゲージ式であり、これを構成するバルブは全開とすべきである。 一方、今回流出事故が発生した燃料タンクに附属する液面計のバルブは半開状態であったことから、給油しても液量が上がらない状態であった。給油行為者は、一度は不思議に思い、周囲の確認を行ったものの、異状はないとして給油を続けてしまった。また、液量が上がらない事象についても上司等に報告をしていなかった。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	管理		リスクアセスメント		危険意識		危険に対する認識がない/不足				
	人		本人の意識		思慮		過信				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 燃料タンクのオーバーフロー管から給油取扱所敷地内に油が流出した。施設敷地外等への流出なし			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし			
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類引火性液体(非水溶性)軽油約10L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動											
31 防災活動上の問題点											
32 施設名											
行政措置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	令和 3 年 10 月 28 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等	令和 3 年 10 月 28 日	年 月 日	
	関係条項							保安検査	年 月 日	年 月 日	
その他	年 月 日			年 月 日			34 当該施設に係る法令違反の有無		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無 内容： ・法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反 ・法第13条の23 危険物取扱者保安講習未受講		
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭										
35 今後の対策や所見											
今回の事故は、一度異状に気付いたものの、給油行為者の判断で給油を継続してしまったことが原因である。 また、今回事故が発生した施設では、1日に30車両にも及ぶ給油作業を目視と暗算により給油量を判断し、かつ、手元に計量する機器がない状態で実施しており、危険物の取扱いを行うには困難な環境となっている。 さらに、当該施設は直近でも事故が発生しており、その対策として安全管理マニュアルを更新し、本件事故における行動について、一定の改善はみられたものの、今後の再発防止対策として、ハード面の見直しも検討する必要がある。											

1 事故名	営業用給油取扱所の地下タンク又は埋設配管からのガソリン流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 31日 0時 00分	推定・確定	4 発 見	2月 9日 15時 45分	
5 覚 知	2月 9日 16時 08分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 9日 16時 08分	
7 鎮火・処理完了	3月 4日 9時 45分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：不明 風向：風向不明 風速：不明 気温：不明 湿度：不明				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタン ド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 28,500L 142.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,500L 9.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 9,500L 9.5倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 1,880L 0.94倍				
12 施 設 装 置	13 機 器 等				
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	温度圧力：				
能 力： タンク容量:ガソリン28,500L、灯油9,500L、軽油9,500L、廃油1,880L	名 称： その他 番 号 (999)				
13 機 器 等	規 模： 地下貯蔵タンク:全長6,572mm、内径1,430mm、 容量9,500L、注入管:口径80A吸引管:口径40A				
14 発 生 箇 所	設置の完成： 昭和 53年 10月 3日 直近の完成： 年 月 日				
名 称： その他 番 号 (999)	17 物 質 の 区 分				
材 質： 鋼鉄	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(267L)				
15 発 生 時	18 取 扱 者 の 概 要				
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)	19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者				
作 業 状 況： 番 号 ()	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要				
	20 危 険 物 保 安 監 督 者				
	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い				
	1. 有 ②. 無				
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： 令和4年1月31日、高精度液面計がガソリンの地下貯蔵タンク(容量9,500L)の液面異常を検知し、POS帳票累計を確認したところ残量が29.51L少なかった。その旨を計量器メーカーへ確認したところ誤差の範囲内であり支障ないとの回答を受けたが、保安監督者が上司へ報告したところ、タンク検査を実施することとなった。同年2月5日から、依頼を受けた業者によるPOS帳票累計の確認や気密検査を実施し、同年2月9日に当該タンク及び接続する埋設配管等(注入管及び吸引管、通気管)の加圧試験の結果異常があると確定したため、消防機関へ通報したもの。なお、2月9日にタンク内のガソリンは抜き取り済み。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()				
原 因	関 連 原 因						
	発生原因の状況： 事故のあった地下貯蔵タンク及び配管埋設部は埋設したまま廃止したため流出箇所を直接確認していないが、設置から43年4ヵ月程度経過していることから、経年劣化等によるものと推測する。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	腐食	環境	多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）				
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害			28 物的被害				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油取扱所敷地内土壌中に流出。敷地外等への流出なし。
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							被災等の被害状況： 容量9,500Lのガソリン地下貯蔵タンク又は埋設配管の一部破損
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ガソリン 約267L流出							損害額 1万円未満、 1万円以上 (4 万円)
30 実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 (99) 調査活動				自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点							
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 3 年 11 月 5 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 2 年 12 月 23 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無	
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：			
1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭			
35 今後の対策 や所見	今回の事故は、高精度液面計で異常を検知した際に業者に確認するも誤差の範囲と回答を受けたが、点検実施の判断をしたため早期に発見することができたものである。当該施設は設置から43年経過しているため、今後も施設の維持管理を適切に行い事故の未然防止や早期発見に努めていく必要がある。						

1 事故名	営業用給油取扱所における注入管理設部からのガソリン流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 7日 0時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 10日 9時 00分	
5 覚 知	3月 10日 9時 10分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 10日 9時 30分	
7 鎮火・処理完了	5月 25日 10時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西 風速：2.6m/s 気温：7℃ 湿度：45%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタン ド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 50,000L 250倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 30,000L 30倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 1,960L 0.98倍				
12 施 設 装 置	13 機 器 等 温度圧力：				
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)				
能 力： タンク容量:ガソリン50,000L、灯油10,000L、軽油30,000L、廃油1,960L	規 模： 注入管:口径100A				
14 発 生 箇 所	15 発 生 時				
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)	材 質： 鋼鉄				
17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(25L)				
18 取 扱 者 の 概 要	19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危 険 物 保 安 監 督 者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い 1. 有 ②. 無				
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： 令和4年3月7日(月)地下貯蔵タンク周囲の漏えい検査管で油を検知し、同年3月10日(木)に実施した漏れ点検の結果ガソリンタンクの注入管に圧力の降下が認められたこと、同年3月7日(月)から3月9日(水)までの在庫管理記録からガソリンに減量が認められることから、危険物流出事故が発生していると判断し消防機関へ通報した。なお、回収までの間、当該注入管の使用を中止している。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()				
原 因	関 連 原 因						
	発生原因の状況： 事故のあった配管は埋設された状態のため流出箇所を直接確認していない(今後改修予定)が、設置から30年以上経過していることから、経年劣化による腐食等によるものと推測する。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	腐食	環境	多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）				
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害			28 物的被害				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 不明
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： ガソリン地下貯蔵タンクの注入管理設部として調査中
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ガソリン 約25L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
							損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)
30 実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 (99) 調査活動				自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点							
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和3年4月1日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和4年3月10日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>	
そ の 他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：			
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策 や所見	当該施設は設置から34年近く経過しているため、今後も施設の維持管理を適切に行い事故の未然防止や早期発見に努めるよう指導を行っていく。						

1 事故名	鉄道給油取扱所において、給油ホースに亀裂が発生したことによる軽油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発生	3月 29日 0時 00分	推定・確定	4 発生見	3月 29日 23時 30分	
5 覚知	3月 29日 23時 43分		6 鎮圧 応急処置完了	3月 29日 23時 35分	
7 鎮火・処理完了	3月 30日 9時 10分				
8 覚知別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気象状況	天気：曇 風向：北北西 風速：2.2m/s 気温：4℃ 湿度：55%				
10 発生事業所	種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：運輸業 鉄道業 鉄道業 普番号 (4211) 通鉄道業		11 発生場所	区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施設装置	名称：その他【分類なし】 番号 (9999) 能力：地下貯蔵タンク容量195,000L		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 195,000L 195倍	
13 機器等	温度圧力： 名称：固定給油(注油)設備 番号 (911) 規模：最大吐出量120L/min		倍数の合計： 195倍 設置の完成：昭和40年 7月 1日 直近の完成：平成25年 11月 6日		
14 発生箇所	名称：給油(注油)ホース 番号 (908) 材質：ゴム		17 物質の区分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(2L)	
15 発生時	運転状況：給油中 番号 (8) 作業状況： 番号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 鉄道給油取扱所における仕業洗浄庫内の作業スペースにて、給油作業員が給油ホースの亀裂部から軽油約2Lの流出を確認したもの。なお、流出した軽油を水で排水溝に流した後、敷地内の油分離棟に至り、内部で基準値以下処理された後に排出されており、敷地外への流出はなし。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 給油ホースは、給油作業後において、折り返した状態で収納しているとのことで、流出の原因となった亀裂は給油ホース折返し部分の外側で発生したことから、使用と収納の反復によりホースが疲労したものと推定。										
	主要原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	疲労・劣化		環境		想定内の応力下で疲労(応力腐食割れ)						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油は、施設排水口及び油分離槽で回収。 施設外への流出なし。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 給油ホース折返し部分の外側に亀裂			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油 推定2L	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動											
31 防災活動上の問題点											
32 施設名											
政 策 措 置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	令和3年6月11日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等	令和3年5月27日	年 月 日	
	関係条項							保安検査	年 月 日	年 月 日	
その他	年 月 日			年 月 日			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/> 内容：		
35 今後の対策 や所見		当該事故は給油ホースを引きずったこと及び曲げ伸ばしの反復により発生した亀裂であると推測されるため、主に引きずる可能性が高い部分及び曲げ伸ばしが発生する部分の保護又は取扱い方法の変更する等、同様の流出事故に対する防止対策を検討する必要がある。									

1 事故名	屋外給油取扱所において、給油中の車両から軽油が漏えいした事故		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	6月 4日 15時 38分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	6月 4日 15時 38分
5 覚 知	6月 7日 15時 00分	6 鎮 圧 応急処置完了	6月 4日 16時 50分
7 鎮火・処理完了	6月 7日 16時 50分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (立入検査時に発見)		
9 気 象 状 況	天気：晴	風向：北	風速：4m/s 気温：17℃ 湿度：55%
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 複合サービス業 協同組合(他 番 号 (7911) に分類されないもの) 農林水 産業協同組合(他に分類されな いもの) 農業協同組合(他に 分類されないもの)		
11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 28,000L 140倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍 第4類第4石油類 潤滑油 1,900L 0.32倍		
13 機 器 等	温度圧力： 名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911) 規 模： 外形寸法(mm) 幅:1,285、高さ:1,490、奥行:533吐 出量:(標準)40L/min(高速)75L/min		
14 発 生 箇 所	設置の完成： 昭和 40年 1月 30日 直近の完成： 平成 30年 12月 27日		
15 発 生 時	名 称： 車両の給油口 番 号 (906) 材 質： 鋼鉄 運 転 状 況： 給油中 番 号 (8) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		
17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油 (20L)		
18 取 扱 者 の 概 要	経験年数8年		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要
21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無		
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要：	オンラインファイル無		
23 事 故 の 概 要：	令和4年6月7日(火)15時00分頃、予防係2名が給油取扱所の定期立入検査を行っていたところ、施設内の地面に油が漏れた痕跡を発見する。 検査立会者(保安監督者)に確認すると、令和4年6月4日(土)15時38分に町内事業所の大型バスに給油中、給油口から軽油が漏えい。直ちに給油を停止し、漏えいした軽油は給油所職員が吸着マット・中和剤で処理したとのこと。給油したバスは燃料タンクを2つ搭載し、事故当時は車体右側の給油口から給油していたが、車体左側の給油口から漏えいしたとのこと。 現地調査を行い、漏えい事故が発生した場合は直ちに消防機関に通報するよう関係者に指導する。		
24 緊 急 処 置 の 状 況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止		

原 因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 燃料タンクを2つ搭載した大型バスの車体右側給油口から給油していたが、左側給油口の燃料キャップが緩んでいたため軽油が漏えい。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		不注意			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいした軽油が、排水溝を流れ油水分離槽に入る。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 施設への被害無し。			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性) 軽油 20L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額	1万円未満	、1万円以上 () 万円
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 地面に残った漏えい痕の清掃、油水分離槽内の清掃を指導する。						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和4年5月6日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和3年7月29日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容：		
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策 や所見	当該事業所に対し、漏えい事故が発生した場合は速やかに通報すること。また同構造の車両に給油する際には、給油口を確認するなど再発防止対策を徹底するよう指導する。									

1 事故名		鉄道用給油取扱所における、給油作業中の流出事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		6月 14日 17時 55分	推定・確定	4 発 見		6月 14日 17時 55分	
5 覚 知		6月 14日 18時 05分		6 鎮 圧		6月 14日 18時 10分	
7 鎮火・処理完了		6月 14日 18時 10分		6 応急処置完了			
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気： 風向：南		風速：4.8m/s		気温：11℃	湿度：45%
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 鉄道業 鉄道業 普 番 号 (4211) 通鉄道業				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 98,000L 98倍			
12 施 設 装 置							
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)							
能 力： 地下貯蔵タンク容量:98,000L							
13 機 器 等				温度圧力：			
名 称： その他 番 号 (999)							
規 模： ポンプ吐出量200L/min							
14 発 生 箇 所				設置の完成： 昭和 61年 10月 31日 直近の完成： 年 月 日			
名 称： 車両の給油口 番 号 (906)				17 物 質 の 区 分			
材 質： 鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(3L)			
15 発 生 時				18 取扱者の概要 経験年数3年			
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)							
作 業 状 況： その他 番 号 (99)							
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 鉄道用給油取扱所において、車両の燃料タンクへ給油するため、給油口に給油ノズルとゴム製のくさびをはめて固定した状態で給油していたところ、差し込んでいた給油ノズルとゴム製のくさびが外れ、敷地内コンクリート部に軽油が流出した。給油を停止し流出油の処理及び事故状況の確認、上司への報告を行った。流出を確認してから即時停止したため、流出量は約3Lと考えられる。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

25	主 原 因 操作確認不十分	着火原因	番号 ()				
原 因	関 連 原 因						
	発生原因の状況： 機関車の燃料タンクの給油口に、給油ノズルとゴム製のくさびをはめて固定した状態で給油していたところ、差し込んでいた給油ノズルとゴム製のくさびが外れ軽油が流出した。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	人	本人の意識	違反(故意)	怠慢			
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害			28 物的被害				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 軽油約3Lが事業所内のコンクリート部に流出した。
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油 約3L流出
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
30 実施した防災活動の状況							損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (万円)
公設消防機関：番号 (99) 調査活動				自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点							
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	<input type="checkbox"/> 有・無	
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容： ・消防法第10条3項 製造所等における危険物の無許可貯蔵・取扱い			
35	今後の対策 や所見	今後の対策 ・従業員の安全教育の実施 所見 ・当該事案は漏えいを防止する意識の欠如から発生したもので、原因の追求と従業員の意識改革が求められる。					

1 事故名	給油取扱所(セルフ)において、給油ノズルの満量停止装置の故障による軽油流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 21日 12時 15分	推定・確定	4 発 見	6月 21日 12時 15分	
5 覚 知	6月 21日 12時 48分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 21日 13時 28分	
7 鎮火・処理完了	6月 21日 13時 28分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北東 風速：2.5m/s 気温：20℃ 湿度：60%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 40,000L 200倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 30,000L 30倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 20,000L 20倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 400L 0.2倍 倍数の合計： 250.2倍	
12 施 設 装 置			14 発 生 箇 所		
名 称： その他【分類なし】 番号 (9999)	能 力： タンク容量ガソリン 40,000L 灯油 20,000L 軽油 30,000L 廃油 400L 倍数 250.2倍	13 機 器 等	温度 圧力：	17 物 質 の 区 分	設置の完成： 昭和 47年 12月 22日 直近の完成： 平成 28年 7月 13日
名 称： 固定給油(注油)設備 番号 (911)	規 模： セルフ型マルチアルファタワー型ホース長さ 4m	15 発 生 時	運 転 状 況： 給油中 番号 (8)	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油 (8.1L)	18 取 扱 者 の 概 要
材 質： アルミニウム	19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	20 危 険 物 保 安 監 督 者	作 業 状 況： 番号 ()	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い
	③. 不要				①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 当該事故は、営業用屋外給油取扱所(セルフ)の固定給油設備にて、顧客が自家用車に給油していたところ、給油ノズルの満了停止装置が作動せず、給油口から約8.1Lの軽油が敷地内に漏えいしたもので、監視室にて監視中であった従業員が現場まで駆け寄り、固定給油設備の給油ノズル収納部分にあるポンプの停止スイッチにより給油を停止、その後油処理用の洗剤、吹きこぼし用のウエス及び新聞紙を使用し流出した軽油を処理した。 なお、供給一斉停止制御装置は作動しておらず、他の固定給油設備は使用可能状態であった。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 故障		着火原因		番号 ()											
	関連原因															
	発生原因の状況： 給油ノズルの主弁が故障により閉止しなかったことが推測されるが、詳細については業者により調査中															
	主原因の詳細															
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層									
	故障		機能		機器の機能の停止											
	関連原因の詳細															
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																
27 人的被害				28 物的被害												
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油取扱所敷地内に流出。敷地外への流出はなし。								
区分																
当 事 者		0	0	0	0											
防災活動従事者		0	0	0	0											
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 固定給油設備の給油ノズル(軽油)1個の故障								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油 約8.1L流出						
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人							
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人							
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人							
30 実施した防災活動の状況																
公設消防機関：番号 (4)					自衛防災・消防組織等 番号 ()											
情報収集																
31 防災活動上の問題点																
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他									
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検			令和4年4月2日	年	月	日		
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等			令和4年2月28日	年	月	日		
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査			年	月	日	年	月	日
	関係条項							34 当該施設に係る法令違反の有無				有・無				
その他	年	月	日	年	月	日					内容： ・法第10条第3項(危政令第27条第6項1の3(危規則第40条の3の10第3号ニ)) 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反 ・法第13条第2項 危険物保安監督者届出義務違反					
35 今後の対策や所見		<ul style="list-style-type: none"> ・対策 ・従業員の安全教育の実施 ・給油ノズルの故障原因調査 ・所見 危険物を取り扱う機器等の不具合については、日常点検及び定期点検を実施していても完全に防ぐ事は困難であるため、非常時の対応方法及び予防規程の内容把握を主眼として、査察等の機会を通じて再度周知徹底していく必要がある。														

1 事故名		鉄道給油取扱所において、給油ホースに亀裂が発生したことによる軽油の流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		7月 1日 0時 43分 推定・ 確定			4 発 見		7月 1日 0時 43分				
5 覚 知		7月 1日 0時 54分			6 鎮 圧 応急処置完了		7月 1日 0時 44分				
7 鎮火・処理完了		7月 1日 9時 30分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：曇		風向：東南東		風速：2.1m/s		気温：17℃		湿度：88%	
10 発 生 事 業 所						11 発 生 場 所					
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 鉄道業 鉄道業 普 番 号 (4211) 通鉄道業						区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：					
						16 発生施設規制区分等					
						施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 195,000L 195倍					
12 施 設 装 置											
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)											
能 力： 地下貯蔵タンク容量195,000L											
13 機 器 等						温度圧力：					
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)											
規 模： 最大吐出量120L/min						倍数の合計： 195倍					
14 発 生 箇 所						設置の完成： 昭和 40年 7月 1日 直近の完成： 平成 27年 7月 22日					
名 称： 給油(注油)ホース 番 号 (908)						17 物 質 の 区 分					
材 質： ゴム						①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(0.5L)					
15 発 生 時						18 取扱者の概要					
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)											
作 業 状 況： 番 号 ()											
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 鉄道給油取扱所における仕業洗浄庫内の作業スペースにて、給油作業員が給油ホースの亀裂部から軽油約0.5Lの流出を確認したものの。なお、給油作業員が危険物流出を覚知後すぐに給油ホース元バルブを閉止し、引き続き危険物の流出を防止した。敷地外への流出はなし。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()		
	関連原因						
	発生原因の状況： 変更許可により給油ホースを更新してから約7年経過しており、経年劣化が原因として考慮される。また、給油ホース収納時、中央部分を折り返してフックに掛けており、折返し部分の亀裂により流出していることから、収納方法により発生した可能性も考慮される。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
疲労・劣化	素材等の劣化	長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害				28 物的被害			
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設外への流出なし。
区分							
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			
第 三 者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 給油ホース1本(52,000円)破損
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油 0.5L	
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛		0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他		0 台 0 隻 0 機 0 人
30 実施した防災活動の状況						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (5 万円)	
公設消防機関：番号 (4, 99)				自衛防災・消防組織等 番号 ()			
調査活動							
31 防災活動上の問題点							
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和4年 6月 4日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和4年 5月 31日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u>		
その他	年 月 日	年 月 日	内容：				
35 今後の対策 や所見	当該事故は給油ホースを引きずったこと及び曲げ伸ばしの反復により発生した亀裂であると推測されるため、主に引きずる可能性が高い部分及び曲げ伸ばしが発生する部分の保護又は取扱い方法の変更する等、同様の流出事故に対する防止対策を検討する必要がある。 定期点検のみによらず、日常点検により機器の状況を適宜把握することで、事故を予防できる旨を今後の立入検査等で関係者に周知していく。						

1 事故名	給油取扱所 地下埋設配管からの漏えい		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	7月 11日 21時 00分
5 覚 知	7月 12日 14時 45分	6 鎮 圧 応急処置完了	7月 12日 15時 30分
7 鎮火・処理完了	1月 0日 0時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気:	風向:	風速: 気温: 湿度:
10 発 生 事 業 所	種 別 : 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態 : 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタン ド		
11 発 生 場 所	区 分 : ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名:		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等 施設区分: ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別: 取扱所 施設別: 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数: 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 38,800L 194倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油・灯油 28,800L 28.8倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 1,950L 0.98倍		
13 機 器 等	温度圧力: 名 称 : ポンプ 番 号 (501) 規 模 : 固定給油設備		
14 発 生 箇 所	設置の完成: 昭和 48年 12月 1日 直近の完成: 平成 29年 9月 13日		
15 発 生 時	17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類: 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称: ガソリン(2, 100L)		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	18 取扱者の概要 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要
21 危険物取扱者の取扱・立会い	21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要:	オンラインファイル無		
23 事故の概要:	地下埋設配管から危険物(ガソリン)が漏えいしたもの。		
24 緊急処置の状況	有 番号 () 無		

25	主 原 因 調査中	着火原因	番号 ()
原 因	関 連 原 因		
	発生原因の状況： まだ埋設配管を掘り起こしていないため原因にあつては調査中であるが、腐食による穿孔が原因と推察している		
	主原因の詳細		
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層
	第Ⅳ層		
	関連原因の詳細		
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から			
27 人的被害			
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症
当 事 者	0	0	0
防災活動従事者	0	0	0
第 三 者	0	0	0
28 物的被害			
被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいしたガソリンが土壌に流出。漏えい量は不明であるが、漏えい範囲はガソリンスタンドの敷地から100m以内に収まっているものと思われる。その漏えい範囲に設置された水道管(ポリエチレン製)にベンゼン成分が混入したものの。			
施設等の被害状況： 地下埋設配管の破損			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況			
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
物質の被害状況： ガソリンの流出。			
損害額 1万円未満、1万円以上 () 万円)			
30 実施した防災活動の状況			
公設消防機関：番号 (99)		自衛防災・消防組織等 番号 ()	
調査活動			
31 防災活動上の問題点			
給油設備による給油時にエアが混入する事象が起こった時に、直ぐに使用停止せず、機器の検査も数日後に行ったため、消防機関への通報が遅れた。1週間に1回以上の漏えい検査管による検査を怠っていたために、漏えいの発見が遅れた可能性がある。			
32 政 措 置	施 設 名	給油取扱所	
	使用停止	令和4年 7月 15日	年 月 日
	改善命令等	令和4年 7月 15日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日
	関係条項	法第12条第2項、第12条の3第1項	
そ の 他	年 月 日	年 月 日	
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭	
33 定期点検等			
消 防 法	そ の 他		
定期・自主点検	令和4年 4月 1日		
気密試験等	令和2年 10月 25日		
保 安 検 査	年 月 日		
34 当該施設に係る 法令違反の有無			
有・無 内容： 消防法第14条の3の2(定期点検義務違反)			
35 今後の対策 や所見			

1 事故名	給油ノズルが給油口に入ったまま車両が発進したため計量器が傾いた事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 25日 16時 10分	推定・確定	4 発 見	7月 25日 16時 10分	
5 覚 知	7月 25日 16時 15分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 25日 16時 20分	
7 鎮火・処理完了	7月 25日 16時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東北東 風速：2.5m/s 気温：24.3℃ 湿度：				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属 材料卸売業 石油卸売業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： 給油取扱所 10,600L×1基 20,000L×1基		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 20,000L 20倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 10,600L 53倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911) 規 模： 860W×2,240H×480D(mm)		倍数の合計： 73倍 設置の完成： 昭和 42年 10月 16日 直近の完成： 平成 26年 10月 29日		
14 発 生 箇 所	名 称： その他の機器等本体 番 号 (199) 材 質： ステンレス		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(水溶性液体) 名称： 軽油(1L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 給油中 番 号 (8) 作 業 状 況： その他 番 号 (99)		18 取扱者の概要		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： 保安監督者が自動停止ノズルにてホイールローダーへ軽油を給油中に別の車両へ給油作業をしていたところ、ホイールローダーの運転手が自動停止ノズルで給油が停止した状態を給油が終わって給油ノズルが抜かれたと誤認し、エンジンを始動し発進したため給油ホースが引っ張られ計量器が傾いたもの。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

25	主 原 因 操作確認不十分 関 連 原 因 監視不十分	着火原因	番号 ()				
原 因	発生原因の状況： 保安監督者が自動停止ノズルにてホイールローダーへ軽油を給油中に別の車両へ給油作業をしていたところ、ホイールローダーの運転手が自動停止ノズルで給油が停止した状態を給油が終わって給油ノズルが抜かれたと誤認し、エンジンを始動し発進したため給油ホースが引っ張られ計量器が傾いたもの。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層				
	人	本人の意識	思慮				
因	関連原因の詳細						
	人	本人の意識	思慮				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害			28 物的被害				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 事故により給油ホース内に残っていた軽油1L未満が漏れ出たが、排水溝への流出はなし。
当 事 者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 地上式固定給油設備1基及びアイランドの一部を破損。
防災活動従事者	0	0	0	0			
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油 1L未満。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
30 実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 (99) 漏えいが無かったため安全確認のみ実施					自衛防災・消防組織等 番号 ()		
31 防災活動上の問題点							
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日			定期・自主点検	令和 4 年 6 月 1 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日			気密試験等	令和 4 年 5 月 12 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日			保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無	
その 他	年 月 日			内容：			
1. 文書 2. 口頭			年 月 日				
1. 文書 2. 口頭			年 月 日				
35 今後の対策 や所見	保安監督者へ給油が停止した状態でもノズルが車両の給油口に挿入されている場合は給油作業中であるので、エンジンを始動した場合には直ちにエンジンを停止させるよう指導。また、ホイールローダー運転手には保安監督者が給油終了後の対応前にエンジン始動発進したので十分注意するよう指導。						

1 事故名		自家用給油取扱所漏油事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		7月 29日 17時 00分	推定・確定	4 発 見		7月 29日 18時 00分	
5 覚 知		7月 29日 18時 27分	6 鎮 圧 応急処置完了		7月 29日 20時 34分		
7 鎮火・処理完了		7月 30日 11時 40分					
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：曇		風向：西		風速：2.3m/s 気温：23.5℃ 湿度：77%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 一 番 号 (4411) 一般貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く)				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍			
12 施 設 装 置							
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)							
能 力： 給油取扱所(自家用)10,000L							
13 機 器 等				温度 圧力：			
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)							
規 模： シングル 吐出量85L/min				倍数の合計： 10倍			
14 発 生 箇 所				設置の完成： 昭和 51年 5月 15日 直近の完成： 平成 2年 5月 15日			
名 称： 給油(注油)ホース 番 号 (908)				17 物 質 の 区 分			
材 質： ゴム				①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(1,000L)			
15 発 生 時				18 取 扱 者 の 概 要			
運 転 状 況： 休止中 番 号 (6)							
作 業 状 況： 番 号 ()							
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 当施設は1年前に、タイヤショベル給油時にノズルを差し込んだまま発進させたことから固定給油設備の変形及びホースが破断していたためノズルの開閉装置が作動しない状態であった。前記の理由により、休止届が提出されたものの、地下貯蔵タンク内の危険物(軽油)除去は金銭的理由により不履行であったため、継続的に指導していたが履行されていなかった。事故当時、停止されていた固定給油設備の電源が何らかの要因で稼働し危険物が漏えい、異音に気づいた付近住民が発見し施設関係者の身内へ連絡、消防へ119となった。当時、当施設は無であったため稼働原因及び事故発生時刻は不明である。 消防現場到着時、電源は既に外部の者により停止されており噴出は収まっていたが、危険物で油分離槽は満たされており、溢れた分は側溝を流れていた。また、当施設より150mの海岸で流出を発見、砂浜に滞留していたが海への流出はしておらず消防はそれぞれに吸着綿を設定し、応急処置を実施した。消防現場到着後に施設関係者も臨場している。 固定給油設備の変形により雨水がタンク内へ侵入していたことを考慮すると事故当時の残油は推定1,300L、油分離槽の容量を鑑み、漏えい危険物は推定1,000Lと考えられる。 産業廃棄物処理業者により、事故当日に固定給油設備のファンベルト離脱、事故翌日に漏えい危険物及び地下貯蔵タンク内の危険物の除去・清掃を実施した。							
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()			
関 連 原 因 維持管理不十分									
原 因	発生原因の状況： 漏えい事故発生の1年前に、除雪の為タイヤショベルの給油を実施していた際、給油ノズルを差し込んだままタイヤショベルを発進させたことから、固定給油設備が変形し、ホースが破断、開閉装置が機能しない状態であったため、固定給油設備の電源を停止していた。地下貯蔵タンク内の危険物除去は、金銭的な理由から実施出来ず、継続的に指導していたが不履行であった。漏えい事故は、停止されていたはずの電源が何らかの理由により作動し、発生した。事故当日は1名のみ出勤で、事故発生時は既に退勤していたため、電源が作動した原因については不明である。								
	主原因の詳細								
	第I層	第II層		第III層		第IV層			
	破損	定常運転時		その他					
因	関連原因の詳細								
	設備	監理・保守		点検・整備		整備していない			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害						28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名		
区分									
当 事 者		0	0	0	0				
防災活動従事者		0	0	0	0				
第 三 者		0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	5 台	0 隻	0 機	10 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
						物質の被害状況： 被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した危険物が、施設付近側溝(集水桝)及び当施設から150mの位置までの海岸(砂浜)に流れた。			
						施設等の被害状況： 当施設の固定給油設備は元より変形、破損していたが、本事故の発生により応急処置として固定給油設備のファンベルトを離脱したことから機能を停止した。			
						物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油 約1,000L流出			
						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (99 万円)			
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (4)				自衛防災・消防組織等 番号 ()					
側溝(集水桝)及び海岸へ流出し砂浜に滞留していた危険物に対し、吸着綿を設置した。									
31 防災活動上の問題点									
政 策 措 置	施 設 名	自家用給油取扱所			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 2 年 6 月 25 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	平成 25 年 2 月 15 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無		
その他	休止届提出時よりタンク内危険物の抜き取り指示 令和 3 年 8 月 20 日			1. 文書 2. 口頭		内容： 法第14条の3の2 定期点検、漏れの点検未実施			
35 今後の対策や所見 本事故は第三者の敷地内侵入によるいたずら等の可能性も考慮できることから、侵入防止対策を指導した。									

1 事故名	固定注油設備から移動タンク貯蔵所に軽油を注油中、上部マンホールから注油ノズルが外れたことによる流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 11日 13時 15分	推定・確定	4 発 見	5月 11日 13時 15分	
5 覚 知	5月 11日 13時 40分		6 鎮 圧 応急処置完了	5月 11日 14時 00分	
7 鎮火・処理完了	5月 11日 16時 25分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南西 風速：7.2m/s 気温：23.7℃ 湿度：56%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド				11 発 生 場 所
					区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：
		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 64,000L 320倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 32,000L 32倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 48,000L 48倍		
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： 給油取扱所(軽油32,000L)				設置の完成： 平成 17年 12月 20日 直近の完成： 令和 4年 7月 12日
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： その他 番 号 (999) 規 模： ホース長3m				
14 発 生 箇 所	名 称： 給油(注油)ノズル 番 号 (909) 材 質： 鋼鉄				17 物 質 の 区 分
15 発 生 時	運 転 状 況： 荷積中 番 号 (12) 作 業 状 況： その他 番 号 (99)				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(24L)
	18 取扱者の概要				経験年数16年
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 給油取扱所の固定注油設備で移動タンク貯蔵所の上部のマンホールから軽油を注油中、注油ノズルを差し込んだままその場を離れたところ、流速の勢いが強く、注油ノズルがマンホールから外れ、軽油約24Lが施設内及び施設外の道路並びに道路に隣接する別敷地に流出したもの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他					

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 監視不十分									
	発生原因の状況： 注入管を使用せずに移動タンク貯蔵所の上部マンホールから注油行為を行い、注油ノズルを差し込んだままその場を離れたところ、流速の勢いが強く、注油ノズルがマンホールから外れ、軽油が流出したもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足			
	関連原因の詳細									
	人		本人の意識		思慮		不注意			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 固定注油設備の注油ノズルから、軽油約24Lが施設内及び施設外の道路並びに道路に隣接する別敷地に流出したもの。流出範囲は敷地境界線より1m以内に収まっている。		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油約24L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4, 99) 油吸着マットにより流出防止を図るとともに、情報収集に当たる。					自衛防災・消防組織等 番号 (4) 油吸着マットにより流出した軽油を回収する。					
31 防災活動上の問題点 事故発生時、従業員は消防機関に通報せず、匿名の一般加入電話の入電により消防機関が事故を覚知したものである。										
行政措置	32 施設名	給油取扱所		移動タンク貯蔵所		33 定期点検等	消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	令和 3 年 12 月 1 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	令和 2 年 10 月 27 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日		年 月 日	
	関係条項	法第14条の2第4項、法第16条の3第2項		法第10条第3項、法第11条第1項、法第16条の3第2項		34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無			
その他	令和 4 年 5 月 11 日		令和 4 年 5 月 11 日		内容：					
	①. 文書 2. 口頭		①. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策や所見 移動貯蔵タンクへの注油は、従業員が行うよう徹底するとともに、予防規程遵守義務及び通報義務について、従業員への教育を徹底するよう指導した。										

1 事故名	給油取扱所で給油中の車両が発進しホースが断裂したことによるガソリンの流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 31日 15時 00分	推定・確定	4 発 見	5月 31日 15時 00分	
5 覚 知	5月 31日 16時 15分		6 鎮 圧 応急処置完了	5月 31日 15時 45分	
7 鎮火・処理完了	6月 2日 13時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：東北東 風速：0.3m/s 気温：12.7℃ 湿度：100%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		11 発 生 場 所 区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： 給油取扱所 9.6KL×3基		16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 13,440L 67.2倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 9,600L 9.6倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 5,760L 5.76倍		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911) 規 模： 吐出量40L/min 6本マルチ ホース長4m ホース径16mm		倍数の合計： 82.56倍 設置の完成： 昭和 46年 3月 26日 直近の完成： 平成 29年 12月 28日		
14 発 生 箇 所	名 称： 給油(注油)ホース 番 号 (908) 材 質： ゴム		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(2L)		
15 発 生 時	運 転 状 況： 給油中 番 号 (8) 作 業 状 況： 監視中 番 号 (10)		18 取扱者の概要		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： 給油中の車両が給油口にノズルがセットされていた状態でエンジンを始動させ発進させたため、給油ホースが断裂し、ホース内に滞留していたガソリン2Lが流出した。なお、中和剤及び吸着マットを使用し、応急措置を実施した。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

25	主 原 因 破 損		着火原因		番号 ()	
原 因	関 連 原 因					
	発生原因の状況： 車両運転手は指定金額分の現金を先払いしており、指定金額分の給油が完了したことからノズルが解除されているものと思ひ込み、周囲を確認することなくエンジンを始動させ発進したため、ノズル付近のホースが断裂したものの。					
	主原因の詳細					
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層	
	破損		定常運転時		車両等の接触	
	関連原因の詳細					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
27 人的被害					28 物的被害	
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因
区分						職業又は職名
当 事 者	0	0	0	0		
防災活動従事者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	0	0		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
					物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ガソリン 2L流出	
					損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円	
30 実施した防災活動の状況						
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 ()		
31 防災活動上の問題点						
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等		消 防 法
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 3 年 6 月 7 日	そ の 他
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 元 年 6 月 21 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>
その他	年 月 日	年 月 日			内容：	
35 今後の対策 や所見	当該事業所に対し、従業員への給油中における監視体制、安全管理を徹底するよう指導し、再発防止対策を提出させたところであるが、今後、管内の他の事業所に対しても指導を行い、同種事故防止に努める必要がある。					

1 事故名	豪雨により給油取扱所内が浸水し固定給油設備(簡易タンク)が転倒したことによるガソリンの流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 3日 18時 30分	推定・確定	4 発 見	8月 4日 6時 00分	
5 覚 知	8月 4日 8時 05分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 4日 9時 30分	
7 鎮火・処理完了	8月 4日 9時 40分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雷雨 風向：南南東 風速：1m/s 気温：23℃ 湿度：98%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 10,590L 52.95倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油・灯油 19,200L 19.2倍				
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分				
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
能 力： 給油取扱所 地下タンク9.6KL/3基 簡易タンク495L/2基	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： 高オクタン価ガソリン(50L) 倍数の合計： 72.15倍				
13 機 器 等 温度圧力：	設置の完成： 昭和 56年 12月 10日 直近の完成： 令和 4年 3月 17日				
名 称： その他 番 号 (999)	18 取扱者の概要				
規 模： 幅650mm、奥行825mm、高さ1,650mm、タンク容量495L	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 3. 不要 ②. 無				
14 発 生 箇 所	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者				
名 称： 通気管 番 号 (304)	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有				
材 質： 鋼鉄	23 事故の概要： 降雨によって営業時間外の給油取扱所施設内が最大80cmの深さで浸水、浮力により固定給油設備(簡易貯蔵タンク)1基が転倒、通気管からタンク内の高オクタン価ガソリン50Lが流出したもの。被害は固定給油設備(簡易貯蔵タンク)2基の破損及び土砂、泥の流入による施設内汚損であり、死傷者無し。実施した緊急措置及び作動した安全装置等は無し。また地下タンク内への水の流入は無し。施設全体に油膜を確認したが、消防機関現認時に水が引いており、施設外への流出状況は確認できず不明。				
15 発 生 時	24 緊急処置の状況 有 番号 () 無				
運 転 状 況： シャットダウン中 番 号 (3)					
作 業 状 況： 番 号 ()					

25	主 原 因		風水害		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因		施工不良							
	発生原因の状況： 転倒した固定給油設備に車止めや地盤面への固定等の措置が無く、発生時、タンク内は容量495Lの内、200Lの油量であったため浮力が生じ転倒に至ったもの。									
	主原因の詳細									
原 因	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
関連原因の詳細										
施工不良		設置		基礎に確実に固定せず						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油取扱所敷地内へ拡散した油膜を確認。発見時の水が引いた状態で施設外に油膜等は確認されず、流出範囲は不明確である。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 地上式固定給油設備(簡易貯蔵タンク)2基を破損。事務所及び整備室(65㎡)が浸水。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ガソリン 50L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
転倒した簡易タンクを引き起こし、二次災害の防止と危険物の流出状況の調査を実施した。										
31 防災活動上の問題点										
32	施 設 名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		令和4年4月1日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		令和3年11月2日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保 安 検 査		年 月 日	年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無			
政 措 置	そ の 他	年 月 日	年 月 日				内容：			
		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策や所見										
今回の事故によって更新予定となった固定給油設備(簡易貯蔵タンク)の地盤面への固定、更には地下タンク内への浸水など水害対策を考慮した施設管理の徹底並びに従業員への教育、指導を依頼した。										

1 事故名	給油取扱所の固定給油設備から移動タンク車へ軽油を注入中、ノズルが外れ敷地内に約60L流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 13日 17時 30分	推定・確定	4 発 見	12月 13日 17時 30分	
5 覚 知	12月 14日 13時 27分	6 鎮 圧 応急処置完了	12月 14日 14時 30分		
7 鎮火・処理完了	12月 14日 14時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：みぞれ 風向：西南西 風速：5m/s 気温：4.6℃ 湿度：69.3%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 建設業 総合工事業 一般土 番号 (611) 木建築工事業 一般土木建築 工事業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： 自家用給油取扱所 貯蔵品名、数量 第2石油類(軽油)19,200L		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 19,200L 19.2倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911) 規 模： ノズル吐出量70L/min		倍数の合計： 19.2倍 設置の完成： 平成 3年 9月 24日 直近の完成： 平成 31年 1月 29日		
14 発 生 箇 所	名 称： 給油(注油)ノズル 番 号 (909) 材 質： その他		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(6L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 給油中 番 号 (8) 作 業 状 況： 充填中 番 号 (12)		18 取扱者の概要	経験年数0年	
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： 自家用給油取扱所の固定給油設備にて、移動タンク(指定数量未満の危険物を貯蔵)へ注入していたところ、ノズルが外れ危険物約6Lが給油所敷地内へ漏えいしたものの。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原 因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 固定給油設備のノズルを移動タンクのマンホール部分へ固定していたところ、ノズルが外れ危険物が漏えいした。										
	主要原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 自家用給油取扱所敷地内には、微量の油膜が確認される。 付近の水路を確認するも、油膜は確認されない。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 自家用給油取扱所の地盤面に微量の油膜が確認される。			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 危険物(第2石油類軽油)約6L漏えい。	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
付近の水路の確認をするも危険物の流出、滞留は認められない自家用給油取扱所の関係者に対し、適切な取扱い等を指導する。											
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日	定期・自主点検	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				年 月 日	気密試験等	年 月 日			
	停止解除	年 月 日				年 月 日	保安検査	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		<input type="checkbox"/> ・無			
その他	年 月 日				年 月 日		内容： 消防法第10条第3項違反 消防法第13条第1項及び第3項違反				
35	固定注油設備の設置、保安体制の再徹底、危険物取扱者資格の取得										
今後の対策や所見											

1 事故名	給油取扱所内で車両の給油口に給油ノズルを挿した状態で発進し、給油ホースが離脱し、軽油が流出したもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 17日 13時 30分	推定・ 確定	4 発 見	10月 17日 13時 30分	
5 覚 知	10月 17日 14時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 17日 14時 30分	
7 鎮火・処理完了	10月 17日 16時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北西 風速：1.5m/s 気温：20.8℃ 湿度：97.5%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： 給油取扱所30KL×6基		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 70,000L 350倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 20,000L 20倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 90,000L 90倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911) 規 模： 直径2,100mm、全長9,998mm、30,000L		倍数の合計： 460倍 設置の完成： 平成 8年 6月 24日 直近の完成： 令和 3年 2月 3日		
14 発 生 箇 所	名 称： 給油(注油)ホース 番 号 (908) 材 質： ステンレス		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(5L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 給油中 番 号 (8) 作 業 状 況： 監視中 番 号 (10)		18 取扱者の概要	経験年数9年	
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 顧客が大型ダンプに給油(軽油)した後、ノズルを挿した状態で発進させて、固定給油設備のホースが破損し、危険物が約5L流出したもの。なお事故後、従業員が速やかに流出した軽油の回収作業を実施した。					
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 従業員の監視不十分により、大型ダンプがノズルを固定給油設備に戻す行為を見落としたことが原因である。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	管理		監督		監視		監視が実施されない/不足				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 固定給油設備周囲に流出した油種を約5L回収した。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0						
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 固定給設備給油ホースが破損した。			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油約5L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (1 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
危険物施設の事故調査											
31 防災活動上の問題点											
32 施設名											
政 策 措 置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	令和4年12月29日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等	令和4年7月29日	年 月 日	
	関係条項							保安検査	年 月 日	年 月 日	
その他	年 月 日			年 月 日			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：		
35 今後の対策 や所見											
従業員の監視体制の強化及び、安全教育の実施											

1 事故名	給油取扱所において、給油中の車両が動き出し、給油ホースが固定給油設備から離脱したことによる軽油の流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	6月 18日 7時 30分 推定・ 確定	4 発 見	6月 18日 7時 30分
5 覚 知	6月 18日 8時 20分	6 鎮 圧 応急処置完了	6月 18日 9時 40分
7 鎮火・処理完了	6月 18日 14時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東 風速：0.5m/s 気温：21℃ 湿度：90%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタン ド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 38,000L 190倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 9,500L 9.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,500L 9.5倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍 第4類第4石油類 オイル 5,400L 0.9倍 倍数の合計： 210.9倍		
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： タンク容量 9,500L6基、2,000L1基		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911) 規 模： 幅1,280mm、奥行530mm、高さ2,240mm		
14 発 生 箇 所	名 称： 給油(注油)ホース 番 号 (908) 材 質： ゴム		
15 発 生 時	運 転 状 況： 給油中 番 号 (8) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		
17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(1L)		
18 取 扱 者 の 概 要	経験年数4年		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要
21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		①. 有 2. 無
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要：	オンラインファイル無		
23 事 故 の 概 要：	従業員が給油ノズルを給油口に差し込んだまま離れたところ、車両が動き出したため、固定給油設備から給油ホースが離脱してホース内に滞留していた軽油が約1L飛散したものの。		
24 緊 急 処 置 の 状 況	有 番号 (1) 無 装置の緊急停止		

25	主 原 因 監視不十分	着火原因	番号 ()				
原 因	関 連 原 因 操作確認不十分						
	発生原因の状況： 従業員が停車状況を確認せずに給油したため、車両が傾斜のある前方に進み、給油ホースが固定給油設備の安全継手から離脱し、ホース内に滞留していた軽油が飛散した。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	人	本人の意識	思慮	不注意			
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害			28 物的被害				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 固定給油設備周囲に軽油が飛散
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 給油ノズル、給油ホース安全接手を破損
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性) 軽油 約1L流出
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
30 実施した防災活動の状況							損害額 1万円未満、 1万円以上 (4 万円)
公設消防機関：番号 (99) 事故情報の収集を行う。				自衛防災・消防組織等 番号 (4) 固定給油設備のポンプの停止、カラーコーンを使用した給油レーンの使用中止及び消防機関への通報を行う。			
31 防災活動上の問題点							
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無	
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：			
1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭			
35 今後の対策 や所見	従業員への安全教育の実施。 給油車両のブレーキランプ点灯の有無で停止状況を確認。 従業員が給油車両の停止状況を確認すれば防止できた事故であるため、一層の安全確認の励行及び安全教育が必要である。						

1 事故名	屋外給油取扱所内の固定給油設備からの流出事故		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	12月 10日 10時 42分 推定・ 確定	4 発 見	12月 10日 10時 42分
5 覚 知	12月 10日 11時 09分	6 鎮 圧 応急処置完了	12月 10日 11時 45分
7 鎮火・処理完了	12月 10日 11時 45分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北東 風速：0.6m/s 気温：8.6℃ 湿度：65%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 64,000L 320倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 12,000L 12倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 20,000L 20倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能 力： 給油取扱所(地下貯蔵タンク容量48,000L)	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(0.3L)		
13 機 器 等 温度 圧 力：	18 取扱者の概要		
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有		
規 模： 固定給油設備のノズル	3. 不要		
14 発 生 箇 所	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
名 称： 給油(注油)ノズル 番 号 (909)	23 事 故 の 概 要： 中型トラック運転手が操作を誤り、トラック後部を固定給油設備に接触させ、給油ノズルを変形、破損させ、その際にホース内のガソリンが敷地内に約300mL程度漏れたもの。		
材 質： 鋼鉄	24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止		
15 発 生 時			
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)			
作 業 状 況： 番 号 ()			

25	主 原 因 破 損	着火原因	番号 ()
原 因	関 連 原 因		
	発生原因の状況： トラックの誤操作による固定給油設備への接触		
	主原因の詳細		
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層
	破損	定常運転時	車両等の接触
	関連原因の詳細		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から			
27 人的被害			28 物的被害
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症
当 事 者	0	0	0
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0
第 三 者	0	0	0
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況			被災影響範囲及び拡大の状況： 屋外給油取扱所敷地内にガソリン0.3L流出
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	2 台 0 隻 0 機 4 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
30 実施した防災活動の状況			物質の被害状況： 屋外給油取扱所敷地内にガソリン0.3L流出
公設消防機関：番号 (99)		自衛防災・消防組織等 番号 ()	
事故発生状況の調査			
31 防災活動上の問題点			
政 策 措 置	32 施設名		33 定期点検等
	使用停止	年 月 日	消 防 法
	改善命令等	年 月 日	そ の 他
	停止解除	年 月 日	定期・自主点検
	関係条項		令和 4 年 6 月 23 日
そ の 他	年 月 日	気密試験等	
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭	令和 4 年 3 月 10 日
		保 安 検 査	年 月 日
		34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無
		内容：	
35	今後の対策 や所見		
大型車両等が給油に来た際の監視行為を徹底させる			

1 事故名	給油中、車両が発進し、給油ノズルが引っ張られ、破損したことによるガソリン漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 30日 12時 00分	推定・確定	4 発 見	1月 3日 14時 30分	
5 覚 知	1月 3日 14時 46分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 3日 16時 15分	
7 鎮火・処理完了	1月 6日 15時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西北西 風速：3m/s 気温：13℃ 湿度：29%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 28,500L 142.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 9,500L 9.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 19,100L 19.1倍	
13 機 器 等	温度圧力：	倍数の合計： 171.1倍		設置の完成： 昭和 37年 8月 2日 直近の完成： 平成 15年 10月 27日	
14 発 生 箇 所	名称： 給油(注油)ノズル 番号 (909)	17 物 質 の 区 分		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(5L)	
15 発 生 時	運転状況： 給油中 番号 (8)	18 取扱者の概要			
	作業状況： 番号 ()				
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 給油中、担当者が他の業務のため車両から離れてしまい、給油が終わったと勘違いした運転手が発進し、ノズルが引っ張られ破損した。そこからガソリンが漏えいする。12月30日の時点では破損箇所から漏えいしないよう措置をし、年末年始になる。休業日であった1月3日に来客がノズルから漏えいしているのに気が付き、消防機関に通報する。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

25	主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()			
原 因	関 連 原 因 操作確認不十分									
	発生原因の状況： 給油が終わったと勘違いし、車両を発進させたため、ノズルが引っ張られ破損した。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		定常運転時		その他					
	関連原因の詳細									
	人		本人の意識		思慮		思い込み			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害							28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 敷地内に若干のガソリン漏えい		
区分										
当事者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第三者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 懸垂式固定給油設備のノズル、ホースの交換		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消防機関	2台	0隻	0機	8人	自衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ガソリン 5L漏えい
消防団	0台	0隻	0機	0人	共同	0台	0隻	0機	0人	
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応援	0台	0隻	0機	0人	
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人	
損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (15 万円)										
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4) 流出防止措置、原因調査					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点 事故発生から速やかに通報できていない。事故発生から速やかに連絡するが、年末のため対応できなかった。該当レーン使用停止。その後、漏えいしていないことを確認し、営業再開。										
32 行政 措置	施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <u>無</u> 内容：		
	その他	年	月	日	年	月	日			
35 今後の対策 や所見 給油中は担当車両の対応が終わるまではその場を離れない。 万が一離れる場合は、運転手に声をかけることを徹底する。										

1 事故名	給油取扱所でノズルを誤操作し、ガソリンが顔にかかったもの		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	4月 24日 15時 16分 推定・ <u>確定</u>	4 発 見	4月 24日 15時 18分
5 覚 知	4月 24日 15時 20分	6 鎮 圧 応急処置完了	4月 24日 15時 27分
7 鎮火・処理完了	4月 24日 15時 28分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南西 風速：1.8m/s 気温：19℃ 湿度：65%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 64,000L 320倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 16,000L 16倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 16,000L 16倍 倍数の合計： 352倍		
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： セルフスタンド 48KL×2基		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911) 規 模： 使用最大数量 50L/min		
14 発 生 箇 所	名 称： その他 番 号 (999) 材 質： その他		
15 発 生 時	運 転 状 況： 給油中 番 号 (8) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		
17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (<u>低温</u> 、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(0.1L)		
18 取 扱 者 の 概 要	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要	オンラインファイル無		
23 事 故 の 概 要	自家用車に給油を終えてノズルを戻そうとしたところ、誤って顔にノズルを向けたままレバーを握りガソリンが顔にかかったもの		
24 緊急処置の状況	有 番号 () <u>無</u>		

原 因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： ノズル操作の誤り									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： なし		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし		
第 三 者		0	0	0	1	顔面化学熱傷	無職			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0台	0隻	0機	0人	自 衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ガソリン 0.1L流出
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人	
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人	
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人	
								損害額 [1万円未満]、1万円以上 () 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点 事故後速やかに消防機関に通報している。										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			保安検査	年 月 日	
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・[無] 内容：
その他	年 月 日			年 月 日						
35 今後の対策 や所見	当該事業所に対し、来客者が想定外の行動をとることも考慮に入れて、従業員への教育をするよう指導したところであるが、今後、管内の他の事業所に対しても立入検査時等で指導を行い同種事故防止に努める必要がある。									

1 事故名	給油取扱所内において、車両が接触したことによる固定給油設備の破損及び危険物の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 24日 17時 50分	推定・ 確定	4 発 見	2月 24日 17時 50分	
5 覚 知	2月 25日 8時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 25日 15時 30分	
7 鎮火・処理完了	2月 25日 15時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北西 風速：5.4m/s 気温：5.9℃ 湿度：26.4%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 30,000L 150倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍 倍数の合計： 171倍				
12 施 設 装 置	設置の完成： 昭和 39年 5月 15日 直近の完成： 令和 3年 10月 5日				
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	17 物 質 の 区 分				
能 力： 給油取扱所 10KL×5基、2KL×1基	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(2.5L)				
13 機 器 等 温度圧力：	18 取扱者の概要				
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 3. 不要				
規 模： 高さ1,900mm、横1,000mm、奥行460mm、吐出量45L/min	20 危険物保安監督者				
14 発 生 箇 所	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無				
名 称： その他 番 号 (999)	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
材 質： 鋼鉄	23 事故の概要： トラックが固定給油設備に接触し、固定給油設備内部の送油パイプが外れガソリンが約2.5L流出したものを。				
15 発 生 時	24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他				
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)					
作 業 状 況： 監視中 番 号 (10)					

原 因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()				
	関 連 原 因 監 視 不 十 分										
	発生原因の状況： 従業員がいたが、他の顧客への対応をしていたため、当該車両の誘導が間に合わなかった。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	破損		定常運転時		車両等の接触						
	関連原因の詳細										
	管理		組織		人員配置(役割・責任)		人の配置が不適切				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名				
区分											
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 流出範囲は事業所の敷地内で収まっていた。				
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 固定給油設備1基を破損し、固定給油設備周辺にガソリン約2.5L流出した。また、固定給油設備を固定していたアンカーボルト接地部分のアイランドが損傷した。				
第 三 者	0	0	0	0			固定給油設備1基を破損し、固定給油設備周辺にガソリン約2.5L流出した。また、固定給油設備を固定していたアンカーボルト接地部分のアイランドが損傷した。				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ガソリン 約2.5L流出。	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (165 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動実施。											
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名	給油取扱所				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検			令和4年 1月 4日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				気密試験等			令和3年 10月 5日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日				保安検査			年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <u>無</u> 内容：		
その他	口頭指導 令和4年 2月 25日				1. 文書 ②. 口頭			1. 文書 2. 口頭			
35 今後の対策 や所見 当該事業所内の対策：給油取扱所内での適切な車両誘導の実施。 所見：当該事業所に対し、給油取扱所内での車両の誘導を適切に行うよう指導した。また、事故後に本市の給油取扱所に対し注意喚起のメールを配信した。今後も立入検査等の機会を捉え、引き続き事故防止の徹底を指導していきたい。											

1 事故名	携行缶へ注入している際に携行缶の口からガソリンが噴き出したもの		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	3月 20日 7時 09分 推定・ 確定	4 発 見	3月 20日 7時 09分
5 覚 知	3月 20日 7時 12分	6 鎮 圧 応急処置完了	3月 20日 7時 14分
7 鎮火・処理完了	3月 20日 7時 14分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：快晴 風向：西北西 風速：2.6m/s 気温：6℃ 湿度：77.5%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 50,000L 250倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 15,000L 15倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 15,000L 15倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能 力： 給油取扱所 30KL×2基、20KL×1基	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(0.1L)		
13 機 器 等 温度圧力：	18 取扱者の概要 経験年数1年		
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有		
規 模： 吐出量40L/min	3. 不要		
14 発 生 箇 所	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
名 称： 給油(注油)ノズル 番 号 (909)	23 事故の概要： 従業員が固定給油設備を使用し、携行缶へガソリンを詰替中、給油レバーを強く握ってしまったことにより携行缶からガソリンが噴き出し顔面に付着したもの。		
材 質： アルミニウム	24 緊急処置の状況 有 番号 () 無		
15 発 生 時			
運 転 状 況： その他 番 号 (99)			
作 業 状 況： 小分け・詰替中 番 号 (13)			

原 因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 1L携行缶の口が小さくどの程度注入したか確認するため、上から覗いた際に誤って給油レバーを強く握ってしまったもの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の知識・能力		技能・技術力		経験不足/習熟不足				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： なし			
区分											
当 事 者		0	0	0	1	化学熱傷	アルバイト				
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	14 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ガソリン0.1L附着	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
負傷部位確認後、救急搬送を実施。											
31 防災活動上の問題点											
32 施設名											
政 策 措 置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	令和4年3月15日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等	令和4年2月16日	年 月 日	
	関係条項							保安検査	年 月 日	年 月 日	
その他	年 月 日			年 月 日			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/> 内容：		
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策や所見											
今後、同様の事故が起きないように従業員への教育を実施するよう指導した。											

1 事故名	給油取扱所において軽車両に給油中、ガソリンが車両から漏えいしたもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 18日 13時 51分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	5月 18日 13時 51分	
5 覚 知	5月 18日 14時 10分	6 鎮 圧 応急処置完了	5月 18日 15時 08分		
7 鎮火・処理完了	5月 18日 15時 15分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南東 風速：3m/s 気温：26℃ 湿度：28%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： 給油取扱所ガソリン 50,000L軽油 30,000L灯油 10,000L廃油 1,800L		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 50,000L 250倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 30,000L 30倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 1,800L 0.9倍 倍数の合計： 290.9倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： その他 番 号 (999) 規 模： 給油空地間口10m以上奥行6m以上		14 発 生 箇 所	設 置 の 完 成： 昭和 45年 9月 25日 直 近 の 完 成： 平成 29年 7月 5日	
15 発 生 時	運 転 状 況： 給油中 番 号 (8) 作 業 状 況： 番 号 ()		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(27L)	
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	18 取扱者の概要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要：	オンラインファイル無				
23 事故の概要：	顧客が軽自動車にガソリンを給油中、顧客の車両下部からガソリンが漏えいしたもの。顧客の車両に整備不良があったもの。				
24 緊急処置の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (7) 無 第5種消火設備				

原 因	25 主 原 因 交通事故		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 顧客の車両の整備不良があり、ガソリンを給油中、車両からのガソリン漏えいに気づいたもの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	交通事故		その他		整備不良(ブレーキ故障・タイヤバースト)						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 軽自動車株からガソリン27Lが幅1.5m、長さ3.5mにわたり漏えいし、給油空地から施設内の側溝内に流出した			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： ガソリン27Lが給油空地から施設内の側溝内に流出した			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ガソリン27L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額	1万円未満	、1万円以上 () 万円	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 消防機関及び警察機関へ通報					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	令和 3 年 7 月 15 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	令和 1 年 12 月 2 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日				保 安 検 査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無				
その他	年 月 日				内容：						
35 今後の対策 や所見		改めて監視業務を強化したいとのこと									

1 事故名	セルフスタンドにおける計量機ノズルからの軽油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 1日 15時 15分	推定・ 確定	4 発 見	8月 1日 15時 20分	
5 覚 知	8月 1日 15時 23分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 1日 15時 25分	
7 鎮火・処理完了	8月 1日 15時 25分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：快晴	風向：	風速：	気温：	湿度：
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 各種商品卸売業 番 号 (4919) 各種商品卸売業 その他の各 種商品卸売業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： 給油取扱所 30KL×3		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 50,000L 250倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 20,000L 20倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 20,000L 20倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911) 規 模： 吐出量40L/min		倍数の合計： 290倍 設置の完成： 平成 15年 1月 10日 直近の完成： 令和 3年 12月 2日		
14 発 生 箇 所	名 称： 給油(注油)ノズル 番 号 (909) 材 質： アルミニウム		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(0.1L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 給油中 番 号 (8) 作 業 状 況： その他 番 号 (99)		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 顧客が自動車に燃料補給をするために、固定給油設備から軽油の給油ノズルを外した際、ノズルから軽油が吐出され、土間コンクリート上に約0.1Lが流出したもの。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()	
	関連原因 維持管理不十分					
	発生原因の状況： 給油ノズル内部のダイヤフラムパッキンの劣化により、パッキンの隙間から軽油が漏れ出しノズルから吐出したものの。					
	主原因の詳細					
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層		第Ⅳ層	
疲労・劣化	素材等の劣化	長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）				
関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
27 人的被害				28 物的被害		
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名
当 事 者	0	0	0	0		
防災活動従事者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	0	0		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	12 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
物質の被害状況： 第4類第2石油類 軽油 0.1L流出						
損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (万円)						
30 実施した防災活動の状況						
公設消防機関：番号 (99) 警戒活動及び状況調査			自衛防災・消防組織等 番号 (5)			
31 防災活動上の問題点						
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和4年4月1日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和2年3月2日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>	
その他	年 月 日	年 月 日	内容：			
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策や所見	機器等の点検実施の再徹底					

1 事故名	給油取扱所で車両が固定給油設備に接触したことによるガソリン流出事故		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	9月 23日 21時 26分	推定・確定	4 発 見
5 覚 知	9月 23日 21時 28分		6 鎮 圧
7 鎮火・処理完了	9月 24日 4時 00分		応急処置完了
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：西北西 風速：2m/s 気温：23.4℃ 湿度：98.8%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 40,000L 200倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 30,000L 30倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 241倍		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	設置の完成： 平成 4年 8月 11日 直近の完成： 平成 28年 3月 30日		
能 力： 給油取扱所 タンク容量40,000L	17 物 質 の 区 分		
13 機 器 等	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(879.2L)		
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)	18 取 扱 者 の 概 要		
規 模： 直径1,285mm 高さ2,240mm	経験年数0年		
14 発 生 箇 所	19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者		
名 称： 管継手(ダクトを含む) 番 号 (201)	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
材 質： 特殊合金	20 危 険 物 保 安 監 督 者		
15 発 生 時	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
運 転 状 況： 試運転中 番 号 (14)	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		
作 業 状 況： 点検中 番 号 (5)	①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有			
23 事 故 の 概 要： 給油取扱所において、給油を終えた11tトラックが発進した際、当該トラックの左後方が固定給油設備に接触、給油ノズルが所定の位置から外れ、併せてノズルホルダーが脱落した。その後、従業員が動作確認のため給油ノズルを元の位置に戻し注文機を設定した上でノズルを持ち上げたところ、給油ホースの根元付近からガソリンが噴出した。従業員は、ノズルを元の位置に収めるなど、ポンプ停止を試みたが、車両の接触によりセンサーが破損していたため、ポンプを停止できなかった。その後、現場に到着した消防隊によりブレーカーを遮断しポンプを停止することでガソリンの流出が止まった。なお、流出したガソリンは敷地内の油水分離槽で留まっている。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

原	25 主 原 因 破 損		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 操作確認不十分									
	発生原因の状況： 給油を終えた11tトラックが発進時に固定給油設備に接触し、給油ホースが引っ張られ給油ノズルが脱落した。その後、従業員が動作確認のため給油ノズルを所定の位置に戻し注文機を操作して給油ノズルを持ち上げたところ、車両の接触による影響で給油ノズル根元の安全継手が若干外れかけていたため、その部分からガソリンが流出したものの。									
	主原因の詳細									
因	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		定常運転時		車両等の接触					
関連原因の詳細										
設備		監理・保守		点検・整備		確認不足				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 車両の接触で損傷した固定給油設備からガソリン879.22Lが流出し、油水分離槽内で留まった。		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 地上式固定給油設備1基を破損		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	13 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ガソリン 879.22L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (49 万円)				
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4)				自衛防災・消防組織等 番号 (5)						
従業員に動力盤の開閉器の遮断を指示しポンプを停止することでガソリンの噴出を停止。油水分離槽内に滞留したガソリンをドラム缶に回収するまでの間、警戒筒先を配備し、安全管理を行った。				ガソリンが流出している固定給油設備(フルサービス用)のポンプを停止させるため、外した給油ノズルをノズルホルダーに戻したが停止せず、さらにセルフ用の緊急停止スイッチを押したが停止しなかった。その後到着した消防機関の指示で、動力盤の開閉器を遮断することでポンプが停止した。						
31 防災活動上の問題点										
危険物が流出した際、通常の操作で機器が停止できない場合の措置方法が周知されていなかった。祝日であったため、油を回収する専門業者への連絡がつかず、手配ができなかった。										
政 策 措 置	32 施設名	給油取扱所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	令和4年	9月	23日	年 月 日	定期・自主点検	令和4年 4月 12日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和3年 6月 20日	年 月 日			
	停止解除	令和4年	9月	30日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u>				
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：						
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策 や所見	事業者に対し、次の点について指導した。設備が損傷した場合は、専門業者の点検を経るまで当該設備の運転を行わないこと。給油の際、特に大型車両の場合は、近傍の固定給油設備の位置を考慮し停車位置を選定すること。給油を終えた車両が発信する際の誘導を徹底すること。併せてドライバーにも注意喚起すること。危険物が流出した場合、通常の操作で止まらない場合は、ブレーカーを遮断すること。併せて有事の際の手順書を販売室等分かりやすい場所に掲示すること。これらのことについて、従業員への教育と訓練を徹底すること。土日祝日に事故が発生した場合、専門業者を手配できるようにすること。									

1 事故名	航空機給油取扱所から常置場所に移動中のサービスの交通事故によりサービス配管から残油が流出した事故					
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生	3月 10日 18時 00分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 10日 18時 00分		
5 覚 知	3月 10日 18時 12分			6 鎮 圧 応急処置完了	3月 10日 19時 07分	
7 鎮火・処理完了	3月 10日 19時 07分					
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況	天気：晴		風向：南東		風速：3.7m/s 気温：10.8℃ 湿度：56%	
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)			11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
				16 発生施設規制区分等		
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) JET-A1 4,000,000L 4,000倍		
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)			倍数の合計： 4,000倍		
	能 力： 給油取扱所、4,000KL					
13 機 器 等	温 度 圧 力：			設置の完成： 平成 8年 9月 30日 直近の完成： 令和 4年 3月 7日		
	名 称： その他の移送機器 番 号 (699)					
	規 模： サービス車体調査中					
14 発 生 箇 所	名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)			17 物 質 の 区 分		
	材 質： 鋼鉄			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
15 発 生 時	運 転 状 況： その他 番 号 (99)			5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
	作 業 状 況： その他 番 号 (99)			(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： JET-A1 (50L)		
				18 取 扱 者 の 概 要		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無						
23 事 故 の 概 要： 航空機への給油作業後、サービスの常置場所へ戻る途上で、運転手が居眠りをしていたため、サービス左側面をガードレールに接触させ配管を損傷し、残油50Lが路上へ流出したものの。						
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他						

原 因	25 主 原 因 破損		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 航空機への給油作業後、サービサーの常置場所へ戻る途上で、運転手が居眠りをしていたため、サービサー左側面をガードレールに接触させ配管を損傷し、残油50Lが路上へ流出した。運転手は前日の睡眠時間が3時間程度であった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		定常運転時		物質の落下・ぶつかりによる破損					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： サービサーの配管から残油(JET-A1)50Lが路上へ流出 施設等の被害状況： サービサー配管		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	5 人	物質の被害状況： 残油(JET-A1)50L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	14 人	
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 現状確認					自衛防災・消防組織等 番号 (5) 油吸着マットにより除去					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和 4 年 2 月 19 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無				
その他	年 月 日	年 月 日		内容：						
35 今後の対策 や所見 本事案は、運転手の睡眠不足による一時的な居眠り運転が要因となって発生した破損事故である。事業所は、給油作業事業者に対する定期的な運転教育を行っており、社員への安全教育に努めているが、今回の事故を受けて、運転手の睡眠外来での診察及び相談、社内での本事案の周知と安全ミーティングの実施、産業医及び保健師による従業員の健康管理を行っていく。作業員の健康状態が給油作業等の安全性に影響する可能性があることを念頭に、給油作業に係る定期的な安全教育にあわせて健康状態の把握と管理を実施していく必要がある。										

1 事故名	自家用給油取扱所の給油ホースから軽油が流出した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 16日 21時 25分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	4月 16日 21時 25分	
5 覚 知	4月 16日 21時 25分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 16日 21時 35分	
7 鎮火・処理完了	4月 26日 15時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (当庁職員発見)				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南東 風速：6m/s 気温：16.3℃ 湿度：82%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 公務(他に分類されないもの) 番 号 (9611) 地方公務 都道府県機関 都 道府県機関		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
			16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 10,000L 50倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍	
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： 自家用給油取扱所10,000L×2			設置の完成： 平成 25年 7月 25日 直近の完成： 年 月 日	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 充てん機 番 号 (901) 規 模： 固定給油設備(懸垂式)高さ5.6m、幅2m			倍数の合計： 60倍	
14 発 生 箇 所	名 称： 給油(注油)ホース 番 号 (908) 材 質： ゴム		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(0.1L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		18 取 扱 者 の 概 要		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： ガソリン車の燃料補給を実施しようとしたところ、軽油の側の固定給油設備の下部に、軽油若干が流出しているのを確認した。軽油の給油ホースを確認すると先端から3mの位置にひび割れがあり、角度により漏えいが認められた。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 経年劣化により、給油ホースに亀裂が生じたもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 自家用給油取扱所の給油空地1㎡に軽油が流出		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 固定給油設備（懸垂式）の給油ホース1		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 軽油若干
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
油の除去										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和4年 1月 13日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	令和4年 1月 13日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="checkbox"/> 無		
その他	年	月	日	年	月	日	内容：			
35 今後の対策や所見 保安監督者を中心に施設利用者全てが危険物を取り扱っていることを自覚し、適正に維持管理をする必要がある。また、ガソリンの給油ホースも耐用年数を経過しているため交換が必要であると考えられる。										

1 事故名	給油取扱所の計量機の給油ノズルからのガソリンの流出事故		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	5月 2日 1時 23分 推定・ 確定	4 発 見	5月 2日 1時 24分
5 覚 知	5月 2日 9時 06分	6 鎮 圧 応急処置完了	5月 2日 11時 40分
7 鎮火・処理完了	5月 2日 11時 40分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南 風速：9m/s 気温：12.4℃ 湿度：87.7%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 40,000L 200倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 20,000L 20倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 231倍		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	設置の完成： 平成 14年 1月 24日		
能 力： 給油取扱所40,000L×1、10,000L×1、20,000L×1、2,000L×1	直近の完成： 令和 3年 8月 5日		
13 機 器 等 温度 圧力：	17 物 質 の 区 分		
名 称： 充てん機 番 号 (901)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
規 模： 高さ2m、横1m、幅0.6m	5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
14 発 生 箇 所	(固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧)		
名 称： 給油(注油)ノズル 番 号 (909)	(低温、 常温 [0-40℃]、高温)		
材 質： その他	分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(0.1L)		
15 発 生 時	18 取扱者の概要		
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)	①. 選任有 2. 選任無		
作 業 状 況： 監視中 番 号 (10)	3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 営業用給油取扱所において、5月1日23時40分に利用客が車両を給油レーンに進入させようとした際に、計量機の給油ノズルに接触、従業員はガードボールに接触したと思い、給油ノズルを確認しなかった。5月2日1時23分に原動機付自転車で給油に来た利用客が給油しようとしたところ、給油ノズルからガソリンが漏れ、地盤面に流出した。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他			

原 因	25 主 原 因 破損		着火原因				番号 ()			
	関連原因									
	発生原因の状況： 車両が接触した際に破損箇所を発見できず、原動機付自転車の利用客が給油しようとした際に流出したもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		定常運転時		車両等の接触					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油取扱所内		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 計量機の給油ノズルから		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： ガソリン若干
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)				
事故調査						油の除去				
31 防災活動上の問題点 災害発生時に社内の上司に連絡することとなっていたがなされなかった。										
政 策 措 置	32 施設名	給油取扱所			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年 月 日	年 月 日	
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・無	内 容：	
その他	安全指導 令和4年5月2日			1. 文書 ②. 口頭			1. 文書 2. 口頭			
35 今後の対策 や所見 従業員は軽微な事故であれば報告する必要がないと考えていた。災害発生時は予防規程を遵守するよう指導する必要がある。										

1 事故名	給油取扱所(セルフ)において、利用客が注ぎ足し給油したため、給油口から地面にガソリンが流出したものの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 24日 9時 44分	推定・ 確定	4 発 見	8月 24日 9時 44分	
5 覚 知	8月 24日 9時 59分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 24日 10時 27分	
7 鎮火・処理完了	8月 24日 10時 27分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北 風速：5m/s 気温：31℃ 湿度：80%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 30,000L 150倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 20,000L 20倍 倍数の合計： 180倍				
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： ガソリン30,000L、灯油20,000L、軽油10,000L				
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911) 規 模： 幅1,280mm、高さ2,300mm、奥行き530mm				
14 発 生 箇 所	設 置 の 完 成： 昭和 48年 12月 20日 直 近 の 完 成： 令和 4年 8月 1日				
名 称： 給油(注油)ノズル 番 号 (909)	17 物 質 の 区 分				
材 質： 鋼鉄	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(0.1L)				
15 発 生 時	18 取 扱 者 の 概 要 経験年数0年				
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)	19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危 険 物 保 安 監 督 者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い ①. 有 2. 無				
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)	22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要： オンラインファイル無				
23 事 故 の 概 要： 給油中に利用客が注ぎ足し給油したため、車両の給油口からガソリンが若干が地面に流出した。					
24 緊 急 処 置 の 状 況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番 号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 利用客がストッパー作動後に注ぎ足し給油したため									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		違反(故意)		問題意識の不足			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ガソリン若干が地面流出		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	1 人	物質の被害状況： ガソリン若干
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5) 油処理剤を活用しガソリンを除去					自衛防災・消防組織等 番号 (5) ペーパータオルを活用し、ガソリンを除去					
31 防災活動上の問題点 利用客からの通報であり、給油取扱所側に通報の意思なし。										
政 策 措 置	32 施設名	給油取扱所			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	平成 31 年 4 月 29 日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	令和 元年 5 月 30 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保 安 検 査	年 月 日	年 月 日
	関係条項	防災安全指導			34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="checkbox"/> 無		
その他	令和 4 年 8 月 24 日			年 月 日			内容：			
35 今後の対策 や所見 従業員の危険意識の低さから、通報を怠っていた。流出が発生した際の早期通報を指導する。保安監督者不在の際は、代行者が責任をもって事故に対応できるよう勤務サイクルを組む必要がある。										

1 事故名	営業用給油取扱所の固定給油設備に車両が衝突し、固定給油設備が転倒、ガソリンが地面に流出したもの		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	9月 19日 7時 01分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	9月 19日 7時 01分
5 覚 知	9月 19日 7時 05分	6 鎮 圧 応急処置完了	9月 19日 8時 01分
7 鎮火・処理完了	9月 19日 8時 29分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南 風速：7.6m/s 気温：26.5℃ 湿度：83%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 1,800L 0.9倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 50,000L 250倍		
12 施 設 装 置	13 機 器 等 温度圧力：		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)		
能 力： ガソリン50,000L、軽油10,000L、灯油10,000L、廃油1,800L	規 模： 高さ2,500mm、幅1,500mm、奥800mm		
14 発 生 箇 所	設置の完成： 平成 5年 3月 30日 直近の完成： 平成 27年 9月 25日		
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)	17 物 質 の 区 分		
材 質： 鋼鉄	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(5L)		
15 発 生 時	18 取扱者の概要		
運 転 状 況： 停止中 番 号 (5)	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ②. 無		
作 業 状 況： その他 番 号 (99)	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
23 事 故 の 概 要： 利用客が給油取扱所に進入しようとした際に、後続車両に追突され、利用客の車両が固定給油設備に衝突。固定給油設備が転倒し、配管に残存していたガソリン若干が地面に流出したもの。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他			

原 因	25 主 原 因 交通事故		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 後続車両の追突により、利用客の車両が固定給油設備に衝突したものの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層						
	破損		定常運転時		車両等の接触						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 固定給油設備1台転倒、ガソリン5Lが地面に流出			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 固定給油設備1台			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	3台	0隻	0機	13人	自 衛	0台	0隻	0機	1人	物質の被害状況： ガソリン5L	
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人		
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人		
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人		
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (300 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (5) 油処理剤、吸着マットによりガソリンを除去						自衛防災・消防組織等 番号 (4) 機器の停止					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	平成 22 年 11 月 16 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	平成 20 年 2 月 1 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保 安 検 査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
そ の 他	年 月 日		年 月 日								
35 今後の対策や所見 営業時間外の事故だったため、装置も停止中で流出は配管内の残油のみで、利用客もおらず人がなかった。											

1 事故名	営業用給油取扱所において、車両が給油中に発進し給油ホースが離脱、ガソリン若干が地面に流出したものの		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	11月 4日 6時 10分 推定・ 確定	4 発 見	11月 4日 6時 10分
5 覚 知	11月 4日 6時 33分	6 鎮 圧 応急処置完了	11月 4日 6時 33分
7 鎮火・処理完了	11月 4日 8時 31分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北東 風速：3m/s 気温：14.4℃ 湿度：67%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 40,000L 200倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 70,000L 70倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍 倍数の合計： 281倍		
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： ガソリン40,000L、軽油70,000L、灯油10,000L、廃油2,000L		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911) 規 模： 吐出量40L/min		
14 発 生 箇 所	名 称： 給油(注油)ホース 番 号 (908) 材 質： ゴム		
15 発 生 時	運 転 状 況： 給油中 番 号 (8) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		
17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(3L)		
18 取 扱 者 の 概 要	経験年数10年		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 有 2. 無
21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無		
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要：	オンラインファイル無		
23 事 故 の 概 要：	営業用給油取扱所において、車両が給油中に発進し給油ホースが離脱、ガソリン3Lが地面に流出したものの。		
24 緊 急 処 置 の 状 況	<input checked="" type="checkbox"/> 有	番 号 (1)	無 装置の緊急停止

25	主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()							
原 因	関 連 原 因											
	発生原因の状況： 給油中に、利用客が給油中と知らず、前方のスペースが開いたため車両を移動させたところ、給油ホースから給油ノズルが離脱し 地面上にガソリン3Lが流出した。											
	主原因の詳細											
	第I層		第II層		第III層		第IV層					
	管理		監督		監視		監視が実施されない/不足					
	関連原因の詳細											
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27	人的被害					28	物的被害					
	被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油ホースから給油ノズルが離脱し地面上にガソ リン3Lが流出した。				
	当 事 者	0	0	0	0							
	防災活動従事者	0	0	0	0							
	第 三 者	0	0	0	0							
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						物質の被害状況： ガソリン3L					
	消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛		0 台	0 隻	0 機	2 人	
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同		0 台	0 隻	0 機	0 人	
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援		0 台	0 隻	0 機	0 人	
	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他		0 台	0 隻	0 機	0 人	
							損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (6 万円)					
30	実施した防災活動の状況											
	公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5)							
31	防災活動上の問題点 他のレーンでの給油行為が全て終わった後に緊急停止を行った。											
32	施設名	給油取扱所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他				
	使用停止	年	月	日	年		月	日	年	月	日	
	改善命令等	年	月	日	年		月	日	令和4年5月25日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年		月	日	年	月	日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：					
その他	防災安全指導 令和4年11月4日		年 月 日									
35	今後の対策 や所見 給油中のエンジン停止の徹底、利用客への声掛け、確実な監視を指導していく必要がある。											

1 事故名	給油取扱所において、車両に給油中、ノズルの差し込み不良により軽油が流出したもの		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	1月 4日 16時 10分 推定・ 確定	4 発 見	1月 4日 16時 10分
5 覚 知	1月 4日 16時 10分	6 鎮 圧 応急処置完了	1月 4日 16時 30分
7 鎮火・処理完了	1月 4日 16時 30分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (消防職員が現場に居合わせていた)		
9 気 象 状 況	天気：晴	風向：北	風速：8.7m/s 気温：8℃ 湿度：37%
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		
11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 40,000L 200倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 1,800L 0.9倍		
13 機 器 等	温度圧力： 名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911) 規 模： 縦:2,240mm×横:1,530mm×幅:530mm		
14 発 生 箇 所	設置の完成： 平成 5年 8月 27日 直近の完成： 令和 3年 3月 31日		
15 発 生 時	17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(3L)		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	18 取扱者の概要 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要
21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要	オンラインファイル無		
23 事故の概要	消防隊が当該給油取扱所で車両に給油中、ピストルノズルが車両側給油口に浅く挿入されたことにより、軽油が約3Lが車両側及び地面に吹きこぼれたもの。 なお、給油を中断し吸着剤にて応急措置を実施した。		
24 緊急処置の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止		

25	主 原 因 操作確認不十分	着火原因	番号 ()				
原 因	関 連 原 因						
	発生原因の状況： 車両の給油口が高所にあるため、ピストルノズルの挿入状況が確認しづらく、ノズルが浅く入った状態で給油してしまったため軽油を約3L流出した。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	人	本人の知識・能力	知識	知識不足			
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害			28 物的被害				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 固定給油(注油)設備の周囲に軽油が飛散
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第2石油類非水溶性 軽油 約3L
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
30 実施した防災活動の状況							損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (万円)
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点							
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/> 内容：	
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日				
35	今後の対策 や所見 給油中の監視体制を強化させる						

1 事故名	セルフ屋外給油所における顧客のノズル誤操作による流出事故					
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生	1月 15日 10時 23分	推定・ 確定	4 発 見	1月 15日 10時 27分		
5 覚 知	1月 15日 10時 35分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 15日 10時 38分		
7 鎮火・処理完了	1月 15日 10時 38分					
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況	天気：曇		風向：南南西		風速：1.6m/s 気温：1.4℃ 湿度：96.2%	
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド			11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
				16 発生施設規制区分等		
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 48,000L 240倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 38,000L 38倍		
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： ガソリン:48,000L 軽油:10,000L 灯油:38,000L			倍数の合計： 288倍 設置の完成：平成24年 11月 6日 直近の完成：平成24年 11月 6日		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911) 規 模： 固定給油設備ガソリン吐出量40L/min					
14 発 生 箇 所	名 称： 給油(注油)ノズル 番 号 (909) 材 質： アルミニウム			17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(0.2L)		
15 発 生 時	運 転 状 況： 給油中 番 号 (8) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)			18 取 扱 者 の 概 要		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無						
23 事 故 の 概 要： 顧客に自ら給油等をさせる給油取扱所で顧客が給油後にノズルを計量器に収納する際、ホースのねじれを直そうとしてノズルを回転させた時に誤って手動開閉装置を握ってしまい、ノズル先端から噴出したガソリンが飛び散り、行為者の頭部と衣服にかかったもの。						
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無						

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 給油後、ノズルをノズル受けに収納する際、ホースのねじれを直そうとしてノズルを回転させた時に、手動開閉装置を握ってしまった。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ガソリンがかかった当該顧客のみで、他への流出なし。			
区分											
当事者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第三者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし。			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消防機関	1台	0隻	0機	2人	自衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： ガソリン推定0.2L	
消防団	0台	0隻	0機	0人	共同	0台	0隻	0機	0人		
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応援	0台	0隻	0機	0人		
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
事故調査。											
31 防災活動上の問題点											
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	年 月 日				
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	令和3年11月11日				
	停止解除	年 月 日				保安検査	年 月 日				
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無				
その他	年 月 日				内容： 定期・自主点検未実施						
35 今後の対策 や所見	当該給油取扱所では、今回と同様の事故が6件発生しており、今回が7件目の事故である。 給油前にモニター表示へノズルをノズル受けに収納する際の注意喚起文書を表示するようにしてもらいなどの注意喚起を行って令和3年は事故がなかったが、また同様の事故が発生してしまった。 再発防止するために、積極的に顧客が高齢者の場合は直接声掛けを行ったり、放送設備での声掛け、ノズル取手部分に注意表示をするなど、より効果的な更なる対応策を検討するように事業所本社へ連絡し指導した。										

1 事故名	給油取扱所において、計量機ピット内立ち上がり管が腐食し穿孔によりガソリンが漏えいした事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 24日 8時 00分	推定・確定	4 発 見	7月 14日 14時 00分	
5 覚 知	7月 14日 14時 29分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 12日 15時 00分	
7 鎮火・処理完了	8月 16日 0時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北北東 風速：1.5m/s 気温：30℃ 湿度：70.8%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属 材料卸売業 石油卸売業		11 発 生 場 所		
			区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
			16 発生施設規制区分等		
			施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 38,000L 190倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 9,500L 9.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,500L 9.5倍 第4類第4石油類 廃油 2,000L 0.33倍		
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)		設置の完成：平成18年 11月 28日 直近の完成：令和 3年 10月 6日		
	能 力： 給油取扱所(ガソリン38,000L、軽油9,500L、灯油9,500L、廃油2,000L)				
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 209.33倍		
	名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)				
	規 模： アスファルト6mm				
14 発 生 箇 所	名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)		17 物 質 の 区 分		
	材 質： 鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(0.1L)		
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)		18 取 扱 者 の 概 要		
	作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： 給油作業中エアーが混入するため調査したところ、計量機ピット内立ち上がり管が腐食により穿孔し、ピット内にガソリン約0.03Lが流出したものの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 異種金属管腐食により計量機ピット内立ち上がり管が腐食穿孔したものの。 3基ある計量機のうち、流出した計量機の立ち上がり管のみが、配管材料と異なる金属プレートで固定されており、その部分だけに腐食が認められた。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層						
	腐食		環境		異種金属間腐食						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 立ち上がり管が腐食穿孔し、ピット内に漏えいしたものの。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 立ち上がり管の一部が腐食。			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類引火性液体非水溶性(ガソリン)約0.03Lがピット内に漏えいしたものの。	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()						
調査活動											
31 防災活動上の問題点											
32 施設名											
行政措置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	年 月 日	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等	令和2年5月8日	年 月 日	年 月 日
	関係条項							保安検査	年 月 日	年 月 日	年 月 日
その他	年 月 日			年 月 日			34 当該施設に係る法令違反の有無		<input checked="" type="checkbox"/> ・無 内容： 定期点検未実施		
35 今後の対策や所見		定期点検を実施し、3年間保存する。									

1 事故名	自家用給油取扱所において故障したノズルを使い続け、流出した軽油が積雪により河川にまで至った事故		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	12月 22日 8時 20分
5 覚 知	12月 22日 8時 26分	6 鎮 圧 応急処置完了	12月 22日 9時 40分
7 鎮火・処理完了	12月 22日 11時 30分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：雨	風向：南南西	風速：2m/s 気温：3℃ 湿度：100%
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 一 番 号 (4411) 一般貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く)	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 30,000L 30倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能 力： 屋外自家給油取扱所 地下タンク30KL×1基	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(7.5L)		
13 機 器 等 温度 圧力：	18 取扱者の概要 経験年数34年		
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有		
規 模： 高さ1,626mm、幅914mm、奥行511mm	3. 不要		
14 発 生 箇 所	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有		
名 称： 給油(注油)ノズル 番 号 (909)	23 事故の概要： 自家用給油取扱所において、オートストップ機能が故障している給油ノズルで給油を続けていたため、軽油が少量ずつ敷地内に流出していたが、排水溝と油分離層が雪で埋まっていたため機能せず、消雪パイプから出る水とともに敷地外へ流出し、側溝を伝い河川へ流出した。		
材 質： ステンレス	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止		
15 発 生 時			
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)			
作 業 状 況： その他 番 号 (99)			

25	主 原 因 故障		着火原因				番号 ()								
	関 連 原 因 維持管理不十分														
	発生原因の状況：		事故発生前日から満了時のオートストップ機能が作動しないにも関わらず給油を行い、流出を覚知するまでの間、毎給油時に軽油を少しずつ流出させた。また、連日の大雪により排水溝と油分離層が雪に埋もれていたため、貯留が機能せず、敷地内の消雪パイプから流れる水により軽油が直接敷地外へ流出した。												
	主原因の詳細														
原	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層								
	故障		機能		機器の機能の停止										
因	関連原因の詳細														
	設備		監理・保守		点検・整備		異常事態の放置								
26 被害の状況		1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害		28 物的被害													
被害内容等		死亡		重症		中等症		軽症		死傷原因		職業又は職名		被災影響範囲及び拡大の状況：	
区分														側溝を経由し、給油取扱所から付近の河川下流500mまで流出した	
当 事 者		0		0		0		0							
防災活動従事者		0		0		0		0						施設等の被害状況：	
第 三 者		0		0		0		0						満量停止機能の故障	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												物質の被害状況：			
消 防 機 関		2台 0隻 0機 6人		自 衛		0台 0隻 0機 0人		0台 0隻 0機 0人		0台 0隻 0機 0人		0台 0隻 0機 0人		第4類第2石油類(非水溶性)軽油 約7.5L流出	
消 防 団		0台 0隻 0機 0人		共 同		0台 0隻 0機 0人		0台 0隻 0機 0人		0台 0隻 0機 0人		0台 0隻 0機 0人			
海上保安部		0台 0隻 0機 0人		応 援		0台 0隻 0機 0人		0台 0隻 0機 0人		0台 0隻 0機 0人		0台 0隻 0機 0人			
その他の機関		0台 0隻 0機 0人		そ の 他		0台 0隻 0機 0人		0台 0隻 0機 0人		0台 0隻 0機 0人		0台 0隻 0機 0人		損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)	
30 実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 (5)												自衛防災・消防組織等 番号 ()			
河川及び側溝に吸着マットの設置															
31 防災活動上の問題点															
32	施 設 名						33 定期点検等		消 防 法		そ の 他				
	使用停止		年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日		年 月 日				
	改善命令等		年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日				
	停止解除		年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日				
政 措 置	関係条項						34 当該施設に係る法令違反の有無		<input type="checkbox"/> 有・無 内容： 法第13条第3項 製造所等における危険物取扱者以外の者の危険物の取扱い						
	そ の 他		年 月 日		年 月 日										
35		従業員への安全教育の実施													
今後の対策や所見															

1 事故名	固定給油設備のノズルを刺した状態で車両が移動しホースが破損しガソリン流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	2月 22日 14時 40分 推定・ 確定	4 発 見	2月 22日 14時 40分
5 覚 知	2月 22日 14時 49分	6 鎮 圧 応急処置完了	2月 22日 14時 45分
7 鎮火・処理完了	2月 22日 14時 45分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：雪 風向：南南西 風速：4.5m/s 気温：1.1℃ 湿度：81%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 48,500L 242.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油・軽油 38,700L 38.7倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍 倍数の合計： 282.2倍		
12 施 設 装 置	設置の完成： 昭和 38年 12月 27日 直近の完成： 平成 31年 1月 10日		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	17 物 質 の 区 分		
能 力： 給油取扱所 30KL×1 9.5KL×3 9.6KL×2 2KL×1	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(0.1L)		
13 機 器 等 温度圧力：	18 取扱者の概要 経験年数15年		
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 3. 不要 2. 無		
規 模： 固定給油設備の安全継手	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者		
14 発 生 箇 所	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有		
名 称： その他 番 号 (999)	23 事 故 の 概 要： 給油取扱所で給油口に給油ノズルが刺さった状態で従業員がPOS操作をする。給油作業が終わったと思った運転手が車両を発進させ給油ホースが引っ張られ結合部が破損、ガソリン約100mLが流出。外れたホースが従業員の左手にぶつかり負傷する。		
材 質： 鋼鉄	24 緊急処置の状況 有 番号 () 無		
15 発 生 時			
運 転 状 況： スタートアップ中 番 号 (2)			
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)			

25	主 原 因 監視不十分	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 従業員が普段と違う操作手順をすることにより、運転手が給油を終了したと勘違いしたことが原因。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	制度	教育・訓練	内容	教育・訓練内容が不適切						
	関連原因の詳細									
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27	人的被害		28 物的被害							
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ホースに溜まっていたガソリンが固定給油設備付近に流出。		
区分										
当 事 者	0	0	0	1	左手剥離創	作業員				
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 固定給油設備のホース結合部破損		
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ガソリン約100mL流出		
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻		0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻		0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻		0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻		0 機	0 人
30	実施した防災活動の状況							損害額 1万円未満、 1万円以上 (10 万円)		
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 ()						
調査活動										
31	防災活動上の問題点									
政 策 措 置	32	施設名			33	定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止		年 月 日	年 月 日	定期・自主点検		令和 3 年 4 月 5 日	年 月 日		
	改善命令等		年 月 日	年 月 日	気密試験等		令和 2 年 1 月 10 日	年 月 日		
	停止解除		年 月 日	年 月 日	保 安 検 査		年 月 日	年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：				
	その他		年 月 日	年 月 日						
1. 文書 2. 口頭										
35	今後の対策 や所見									
POS作業後に給油作業を実施及び運転手への声掛けをする。										

1 事故名	自動車に給油中、固定給油設備のポンプフロート部の故障でエア抜口から給油取扱所内にガソリンが流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	1月 6日 15時 20分 推定・ 確定	4 発 見	1月 6日 15時 20分
5 覚 知	1月 6日 15時 32分	6 鎮 圧 応急処置完了	1月 6日 15時 52分
7 鎮火・処理完了	1月 6日 17時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：西南西 風速：1m/s 気温：7℃ 湿度：49%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 39,200L 196倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油、軽油 29,400L 29.4倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能 力： 給油取扱所 タンク容量68,600L	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(0.5L)		
13 機 器 等 温度圧力：	18 取扱者の概要		
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有		
規 模： 40L/min 倍数の合計： 225.4倍	3. 不要		
14 発 生 箇 所	設置の完成： 平成 2年 7月 24日		
名 称： その他 番 号 (999)	直近の完成： 令和 3年 10月 22日		
材 質： アルミニウム	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者		
15 発 生 時	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有		
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)	2. 無		
作 業 状 況： 番 号 ()			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有			
23 事 故 の 概 要： 従業員が顧客自動車にガソリンを給油中、固定給油設備下部のエア抜口からガソリンが吹き出し、給油空地内約1㎡にガソリンが約0.5L流出したもの。			
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無			

原 因	25 主 原 因 故障		着火原因				番号 ()			
	関連原因									
	発生原因の状況： ポンプフロート部の故障でシリンダーの作動不良が起こり、本来空気を排出するエア抜口からガソリンが排出されたもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	故障		機能		機器の機能の停止					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油取扱所内の床面に約1㎡にガソリンを流出させた。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： ポンプフロート部		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： ガソリン 約0.5L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 情報収集						自衛防災・消防組織等 番号 (4、5)				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	給油取扱所				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和 3 年 2 月 10 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無		
その他	安全確保のため事故計量器の使用停止。機器の交換。 令和 4 年 1 月 6 日				1. 文書 ②. 口頭		内容：			
35 今後の対策や所見 管内の同種事業所に対し、同種事故防止のために立入検査等の機会をとらえ指導に努める必要がある。										

1 事故名	セルフの給油取扱所にて給油中にガソリンが流出したものの		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	1月 26日 13時 00分 推定・ 確定	4 発 見	1月 26日 13時 00分
5 覚 知	1月 26日 13時 20分	6 鎮 圧 応急処置完了	1月 26日 13時 15分
7 鎮火・処理完了	1月 26日 18時 18分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：雨	風向：南東	風速：3m/s 気温：8℃ 湿度：64%
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 96,000L 480倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 24,000L 24倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 24,000L 24倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍 倍数の合計： 529倍		
12 施 設 装 置	14 発 生 箇 所		
名 称： その他【分類なし】 番号 (9999)	設置の完成： 平成 21年 8月 27日 直近の完成： 平成 25年 11月 14日		
能 力： 給油取扱所 (セルフ)タンク容量146,000L	17 物 質 の 区 分		
13 機 器 等 温度圧力：	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(0.5L)		
名 称： 固定給油(注油)設備 番号 (911)	18 取扱者の概要		
規 模： セルフ計量器	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
14 発 生 箇 所	21 危険物取扱者の取扱・立会い		
名 称： 給油(注油)ノズル 番号 (909)	①. 有 2. 無		
材 質： アルミニウム			
15 発 生 時			
運 転 状 況： 給油中 番号 (8)			
作 業 状 況： 監視中 番号 (10)			
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事故の概要： セルフの給油取扱所で顧客が自動車に給油中、何らかの原因でオートストップ機能が作動せず、ガソリン約0.5Lを給油空地に流出させたもの。			
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無			

25	主 原 因 監視不十分	着火原因	番号 ()								
原因	関 連 原 因										
	発生原因の状況： ノズル部分のオートストップ機能が不良なのかを確認するため、点検業者の調査を実施したところ、機器に異常は認められないとの内容である。そのため、ノズルを浮かした給油や、オートストップ後の継ぎ足し給油等の顧客による給油方法に何らかの原因があると考えられ、危険物取扱者の監視確認が不十分であったために、顧客に注意を促すことや緊急停止等の措置を行えず、流出したと考えられる。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層							
	環境	社会的環境	雰囲気	安全に対する意識が低い							
	関連原因の詳細										
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
人的被害	被害内容等						28 物的被害				
	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名					
	当 事 者	0	0	0	0						
	防災活動従事者	0	0	0	0						
	第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	0台	0隻	0機	0人	自 衛	0台	0隻	0機	0人	28 物的被害	
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人		
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人		
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人		
物質の被害状況： ガソリン 約0.5L											
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 (5)						
事後、応急措置として床面に広がったガソリンを吸着マットにて吸い込み、床面を油分散洗浄剤で清掃を行う。											
31 防災活動上の問題点											
32 行政措置	施設名					33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無			
その他	年	月	日	年	月	日	内容：				
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭											
35	今後の対策や所見 従業員の監視業務の教育を徹底し、再発防止をするよう、所長に伝える。										

1 事故名	給油取扱所において、注入中にその場を離れたことによる灯油の流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	4月 3日 9時 42分 推定・ 確定	4 発 見	4月 3日 9時 42分
5 覚 知	4月 3日 10時 25分	6 鎮 圧 応急処置完了	4月 3日 11時 43分
7 鎮火・処理完了	4月 3日 11時 43分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南西 風速：3m/s 気温：11℃ 湿度：45%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタン ド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 15,000L 15倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 45,000L 225倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 20,000L 20倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍 倍数の合計： 261倍		
12 施 設 装 置	設置の完成：平成 7年 12月 21日 直近の完成：平成 8年 3月 27日		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	17 物 質 の 区 分		
能 力： 地下タンク30KL×2 20KL×1 2KL×1	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油(10L)		
13 機 器 等 温度 圧力：	18 取扱者の概要 経験年数1年		
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 3. 不要 2. 無		
規 模： 灯油用固定注油設備	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者		
14 発 生 箇 所	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
名 称： 給油(注油)ノズル 番 号 (909)	23 事故の概要： 固定注油設備から、移動タンク貯蔵所(タンク容量3,000L)に灯油を注入する際に、注入管を使用せずに手動開閉装置付きのピストルノズルを開放状態で固定し、タンク頂部のマンホールから入れてその場を離れたところ、ピストルノズルが落下してノズル根本部分が破損し、灯油約10Lが敷地内に流出したもの。		
材 質： 鋼鉄	24 緊急処置の状況 有 番号 () 無		
15 発 生 時			
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)			
作 業 状 況： 充填中 番 号 (12)			

25	主 原 因	監視不十分	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 固定注油設備から、移動タンク貯蔵所に灯油を注入する際に、ピストルノズルを開放状態で固定し、タンク頂部のマンホールから入れてその場を離れたことにより、ピストルノズルが落下してノズル根本部分が破損し、灯油が敷地内に流出したもの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層							
	人	本人の意識	違反(故意)	問題意識の不足							
	関連原因の詳細										
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27	人的被害			28 物的被害							
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油取扱所敷地内に灯油約10Lが流出			
	区分										
	当 事 者	0	0	0	0						
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 固定注油設備のピストルノズル1基破損			
	第 三 者	0	0	0	0						
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
	消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(灯油)約10L流出
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
									損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (5 万円)		
30	実施した防災活動の状況										
	公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
	調査活動										
31	防災活動上の問題点 給油取扱所内において、違反行為に対する共通認識が徹底されていなかった。										
32	施設名	給油取扱所				33	定期点検等	消 防 法	そ の 他		
行 政 措 置	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	令和3年9月1日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	令和3年9月1日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日				保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	危険物取扱者2名違反処理 令和4年5月25日 年 月 日 ①. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭										
35	今後の対策 や所見	事業所内で事故防止の徹底が行われた。 なお、事故発生の給油取扱所は令和4年5月10日付で廃止届が提出された。									

1 事故名	給油取扱所において、移動タンク貯蔵所から過剰注入によるガソリン流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 18日 10時 40分	推定・ 確定	4 発 見	8月 18日 10時 45分	
5 覚 知	8月 18日 10時 48分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 18日 11時 40分	
7 鎮火・処理完了	8月 18日 11時 40分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南 風速：1m/s 気温：29℃ 湿度：61%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド				11 発 生 場 所
					区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：
			16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 21,850L 109.25倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 6,650L 6.65倍	
12 施 設 装 置	倍数の合計： 125.9倍				
名 称： その他【分類なし】	番 号 (9999)				
能 力： 給油取扱所	タンク容量9.5KL×3 10KL×1				
13 機 器 等	温度圧力：				
名 称： 貯槽(タンク)	番 号 (107)				
規 模： 全長6,090mm	内径1,440mm 容量10,000L				
14 発 生 箇 所	設置の完成： 昭和 40年 3月 30日 直近の完成： 令和 2年 12月 24日				
名 称： 計量口	番 号 (904)				
材 質： 鋼鉄	17 物 質 の 区 分				
15 発 生 時	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(150L)				
運 転 状 況： 受入中	番 号 (9)				
作 業 状 況： 運転操作中	番 号 (1)				
	18 取扱者の概要		経験年数3年		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 給油取扱所の地下貯蔵タンク(10,000L)に、移動タンク貯蔵所からガソリンを荷卸しする際に、在庫量を読み間違えて荷卸ししたため に過剰注入となり、地下貯蔵タンクの計量口からガソリン約150Lが敷地内に流出したものの。					
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 給油取扱所の危険物取扱者は在庫量を読み間違えて移動タンク貯蔵所の危険物取扱者に指示し、移動タンク貯蔵所の危険物取扱者は自分で確認することなく荷卸し作業を行ったため、過剰注入となった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		思い込み			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油取扱所の敷地内にガソリン約150L流出		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 地下貯蔵タンクの計量口からガソリンが流出し、油水分離層に滞油(損害等無し)		
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3台	0隻	0機	6人	自 衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(ガソリン)約150L流出
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人	
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人	
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4, 99) 漏えい箇所に油吸着マットの設置、及び調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	給油取扱所			移動タンク貯蔵所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	令和4年9月1日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	令和4年9月1日	年 月 日
	停止解除	年 月 日			年 月 日			保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>	
その他	危険物取扱者1名違反処理 令和4年9月29日 ①. 文書 2. 口頭			危険物取扱者1名違反処理 令和4年9月29日 ①. 文書 2. 口頭			内容：			
35	今後の対策 や所見 事業所内において、再発防止徹底の教育が実施された。									

1 事故名	給油取扱所の設備及び防火塀に貨物自動車(6t)が衝突した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 3日 22時 00分	推定・確定	4 発 見	9月 3日 22時 00分	
5 覚 知	9月 3日 22時 15分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 3日 22時 25分	
7 鎮火・処理完了	9月 4日 2時 00分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：無風状態 風速：0m/s 気温：20℃ 湿度：98%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタン ド		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 19,200L 96倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,600L 9.6倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 9,600L 9.6倍 倍数の合計： 115.2倍 設置の完成： 昭和 55年 10月 11日 直近の完成： 令和 3年 9月 22日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【分類なし】	番 号 (9999)	材 質： その他	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(0.2L)		
能 力： 給油取扱所 タンク容量:9.6KL×4基			18 取扱者の概要		
13 機 器 等 温度 圧力：	名 称： 固定給油(注油)設備		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
名 称： 固定給油(注油)設備	番 号 (911)	規 模： 高さ:1,490mm、幅:1,280mm、奥行き:530mm、ホース長4,000mm	20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
14 発 生 箇 所	名 称： その他の機器等本体		21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ②. 無		
名 称： その他の機器等本体	番 号 (199)	材 質： その他			
15 発 生 時	運 転 状 況： 停止中				
運 転 状 況： 停止中	番 号 (5)	作 業 状 況：			
作 業 状 況：	番 号 ()				
19 危険物保安統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ②. 無		
21 危険物取扱者の取扱・立会い	1. 有 ②. 無				
22 設備・機器等の概要	オンラインファイル無				
23 事故の概要	営業終了後の給油取扱所に貨物自動車(6t)が衝突し、敷地内の固定給油設備1基、固定注油設備1基、防火塀等が破損したものの。破損した固定給油設備内の軽油約0.2Lが敷地内に流出し、出動した消防隊が吸着マットを使用して措置した。また、敷地外の電柱も破損したことにより、事務所内の電話線等も破損したものの。貨物自動車運転手1名が負傷。				
24 緊急処置の状況	有 番号 () 無				

原 因	25 主 原 因 交通事故		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 居眠り運転によって貨物自動車の操作を誤ったもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	交通事故		運転操作		居眠り運転					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 破損した固定給油設備から軽油が幅0.1m、長さ0.2mにわたり0.2L流出した。		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	1	交通事故	運転手	施設等の被害状況： 地上式固定給油設備1基、地上式固定注油設備1基、防火塀等を破損。また、敷地外の電柱にも衝突したことにより、事務所内の電話線等も破損したものの。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油 0.2L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (1,000 万円)		
公設消防機関：番号 (5, 99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
吸着マットを使用し、流出した軽油の回収を実施。 事故車両運転手を救急搬送したものの。										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和4年5月25日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和3年8月31日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u>			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
35	営業終了後の給油取扱所に貨物自動車(6t)が衝突したものの。									
今後の対策 や所見										

1 事故名	給油ノズルを車両に差し込んだ状態で、車両を移動したため給油ホースが破損しガソリンが流出したもの		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	6月 6日 11時 03分 推定・ 確定	4 発 見	6月 6日 11時 03分
5 覚 知	6月 6日 11時 04分	6 鎮 圧 応急処置完了	6月 6日 11時 05分
7 鎮火・処理完了	6月 6日 17時 20分		
8 覚 知 別	1. 119 ②. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：西北西 風速：2m/s 気温：19℃ 湿度：74%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 30,000L 150倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 100,000L 100倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【分類なし】 番号 (9999)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能 力： 給油取扱所(30,000L)	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(10L)		
13 機 器 等 温度圧力：	18 取扱者の概要 経験年数0年		
名 称： 固定給油(注油)設備 番号 (911)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有		
規 模： 吐出量35L/min	3. 不要		
14 発 生 箇 所	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
名 称： 給油(注油)ホース 番号 (908)	23 事 故 の 概 要： アルバイト2名で預かり中の顧客の車両を洗車及び給油を実施。給油したアルバイトがノズルを挿入した状態で救急事案がありその場を離れ、拭き取り作業を実施していたアルバイトが、給油ホースが繋がっていることに気づかず車両を移動させてことから給油ホースの安全継手で破断したもの。安全継手のボール弁が作動せず懸垂式のホースに残っていたガソリンが約10L漏えいしたものの。		
材 質： 特殊合金	24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止		
15 発 生 時			
運 転 状 況： 定常運転中 番号 (1)			
作 業 状 況： 運転操作中 番号 (1)			

25	主 原 因 操作確認不十分	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因									
	発生原因の状況： アルバイトの女性従業員は初出勤の中、操作不慣れな状態で敷地内に侵入してきた救急車に動揺し、冷静な判断と対応ができなかった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	人	本人の体調	精神的	冷静でなかった						
	関連原因の詳細									
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27	人的被害		28 物的被害							
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 安全継手の破断により、ガソリンが約10L流出。直ちにペール缶で受け止め施設外の流出なし。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 給油ホースの破断(安全継手)		
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ガソリン10L		
消防機関	2台	0隻	0機	4人	自 衛	0台	0隻		0機	0人
消防団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻		0機	0人
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻		0機	0人
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻		0機	0人
30	実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動										
31	防災活動上の問題点									
政 策 措 置	32	施設名	給油取扱所		33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和4年4月10日	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	年 月 日			
	関係条項	給油空地の一部を制限		34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無				
その他	令和4年6月6日	年 月 日	1. 文書 ②. 口頭		内容：					
35	今後の対策や所見									
従業員の安全教育の実施。										

1 事故名	給油中にトラックが誤って発進し、固定給油設備の給油ホースを引っ張り安全継手が離脱した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 26日 19時 40分	推定・ 確定	4 発 見	11月 26日 19時 40分	
5 覚 知	11月 26日 20時 22分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 26日 20時 50分	
7 鎮火・処理完了	11月 26日 20時 50分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北北東 風速：2.1m/s 気温：15.6℃ 湿度：97.7%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)	
			特別防災地区名：	16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 40,000L 200倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 60,000L 60倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)		設置の完成：平成 24年 3月 23日 直近の完成：令和 2年 3月 23日		
	能 力： 給油取扱所 20KL×5 2KL×1				
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 261倍		
	名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)				
	規 模： 固定給油設備1基				
14 発 生 箇 所	名 称： 給油(注油)ホース 番 号 (908)		17 物 質 の 区 分		
	材 質： 鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(0.5L)		
15 発 生 時	運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)		18 取 扱 者 の 概 要		
	作 業 状 況： 番 号 ()				
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： 大型トラックが給油中に給油完了と思ひ込み誤って発進したため、固定給油設備の給油ノズルを燃料タンクに差し込んだまま、給油ホースが引っ張られ安全継手が離脱したもの。なお、本事故により死傷者はなく、給油ホース内の軽油が漏れたもの。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

25	主 原 因 破 損	着火原因	番号 ()				
原 因	関 連 原 因						
	発生原因の状況： トラック運転手の過失によるもの。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	破損	定常運転時	その他				
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害			28 物的被害				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 固定給油設備と給油ホースの接続部に存する安全 継手が離脱
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油約0.5L流出
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
30 実施した防災活動の状況							損害額 1万円未満、 1万円以上 (1 万円)
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 ()			
調査活動							
31 防災活動上の問題点 事故発生から消防覚知までに時間を要し、通報の遅れがあった。							
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 3 年 12 月 15 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 3 年 3 月 10 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：		
その他	年 月 日	年 月 日					
		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭				
35	今後の対策 や所見 災害発生時、消防機関へ速やかな通報に努める。						

1 事故名	給油取扱所の地下埋設配管が腐食により灯油が流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	6月 7日 13時 30分
5 覚 知	6月 8日 9時 00分	6 鎮 圧 応急処置完了	6月 8日 10時 00分
7 鎮火・処理完了	6月 8日 10時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北西 風速：8.3m/s 気温：24℃ 湿度：45%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタン ド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 38,000L 190倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 19,000L 19倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 9,500L 9.5倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) エンジンオイル 1,800L 0.9倍		
12 施 設 装 置	13 機 器 等 温度圧力：		
名 称：その他【分類なし】 番 号 (9999)	名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		
能 力：9.5KLタンク(ガソリン)3基、9.5KLタンク(軽油)1基、9.5KLタンク(灯油)1基	規 模：不詳		
14 発 生 箇 所	15 発 生 時		
名 称：給油管等 番 号 (907)	材 質：鋼鉄		
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)	作 業 状 況： 番 号 ()		
17 物 質 の 区 分		18 取 扱 者 の 概 要	
①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無	
19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 給油取扱所において、従業員が定期点検を実施したところ、漏えい検査管の1箇所から油の付着を確認した。点検業者に依頼をし、配管内の灯油を空にした上で、気密検査を実施したところ、地下タンクから計量機に向かう配管からの漏れを確認した。消防はその報告を後日受け、現地確認したところ、同様に漏えい検査管の1箇所から油の付着を確認した。付近用水路への流出は確認できず、流出拡大防止措置も適切であったため、灯油計量機は修繕工事が完了するまで使用しないよう指導した。当該配管は取替工事を行う予定である。			
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無			

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()				
原 因	関 連 原 因						
	発生原因の状況： 降雨により地下水位が上昇し、腐食しやすい環境下であったため腐食したものと推察。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	腐食	環境	多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）				
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害			28 物的被害				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 地下埋設配管から土壌に流出。
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管の腐食劣化
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 灯油(流出量不明)
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)
30 実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 (99) 調査活動を実施。一般出向で現場に向かったもの。				自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点							
32 政 措 置	施設名						
	使用停止	年 月 日	年 月 日				
	改善命令等	年 月 日	年 月 日				
	停止解除	年 月 日	年 月 日				
	関係条項						
その他	年 月 日	年 月 日					
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭			
				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
				定期・自主点検	令和4年6月7日	年 月 日	
				気密試験等	令和2年12月24日	年 月 日	
				保安検査	年 月 日	年 月 日	
				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>		
				内容：			
35 今後の対策 や所見	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌調査の実施 ・漏えいのあった配管の修繕工事 ・的確な日常点検の実施 						

1 事故名	給油取扱所におけるトラック燃料タンクからの軽油漏えい事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 26日 14時 41分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	月 日 時 分	
5 覚 知	11月 26日 19時 52分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 26日 21時 59分	
7 鎮火・処理完了	11月 26日 21時 59分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北西 風速：2.7m/s 気温：18℃ 湿度：72%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 39,200L 196倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,800L 9.8倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 9,800L 9.8倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,500L 1.25倍 第4類第4石油類 潤滑油 2,000L 0.33倍 倍数の合計： 217.18倍				
12 施 設 装 置	設置の完成：平成元年 10月 2日 直近の完成：令和 3年 3月 29日				
名 称：その他【分類なし】 番号 (9999)	17 物 質 の 区 分				
能 力：給油取扱所 地下タンク9,800L6基、1,950L1基	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(3L)				
13 機 器 等 温度 圧力：	18 取扱者の概要 経験年数11年				
名 称：その他 番号 (999)	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無				
規 模：70L	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
14 発 生 箇 所	23 事 故 の 概 要： 給油取扱所において2tトラックの燃料タンクへの給油(軽油)を終えたが、燃料タンクの蓋の締めが甘かったため、トラックの退出時に軽油が給油口から給油取扱所内及び道路上に漏えいしたものの。漏えい量は3Lと推定。 当該給油取扱所近辺の路上に油の漏れた跡があるとの通報を受け消防隊が出動し、油の跡を追ったところ当該給油取扱所にたどり着いた。給油取扱所内の監視カメラを確認し、給油取扱所関係者が当該事案の発生を覚知したものの。 なお燃料タンクの蓋は、トラックが常置場所に戻る途中の路上に落ちていたもの。				
材 質：鋼鉄	24 緊急処置の状況 有 番号 () <input checked="" type="checkbox"/> 無				
15 発 生 時					
運 転 状 況：その他 番号 (99)					
作 業 状 況：その他 番号 (99)					

25	主 原 因 操作確認不十分	着火原因	番号 ()				
原 因	関 連 原 因						
	発生原因の状況： トラックへの給油後に燃料タンクの蓋を確実に締めたことを確認していなかった。						
	主要原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	人	本人の意識	思慮	不注意			
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害			28 物的被害				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油取扱所内及び道路上(敷地境界線から100m以上離れた位置にも流出あり)に軽油の漏えい
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							施設等の被害状況： 無し
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
30 実施した防災活動の状況							物質の被害状況： 軽油3L(推定)
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 ()			
給油取扱所内の監視カメラによる当該事故の確認。 消防隊活動時は、漏えいした軽油の処理が必要な状態ではなかった。							
31 防災活動上の問題点 給油取扱所関係者は消防隊から話を聞くまで事故が発生したことを認識しておらず、通報がなかった。							
32 政 措 置	施設名						
	使用停止	年 月 日	年 月 日				
	改善命令等	年 月 日	年 月 日				
	停止解除	年 月 日	年 月 日				
	関係条項						
その他	年 月 日	年 月 日					
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭		33 定期点検等			
				定期・自主点検	消 防 法	そ の 他	
				気密試験等	令和4年 9月 1日	年 月 日	
				保安検査	令和4年 7月 8日	年 月 日	
					年 月 日	年 月 日	
34 当該施設に係る 法令違反の有無				[有]・無 内容： 法第10条第4項 製造所等の位置、構造設備の技術上の基準違反 第4種消火設備(大型消火器)の型式が失効している。			
35	今後の対策 や所見 給油開始から完了までの動作の確実な確認を徹底しました。						

1 事故名	給油取扱所において、給油ホースの一部から軽油が流出した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 12日 10時 20分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	4月 12日 10時 20分	
5 覚 知	4月 12日 15時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 12日 10時 20分	
7 鎮火・処理完了	4月 12日 10時 25分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴	風向：	風速：	気温：	湿度：
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路旅客運送業 一 番号 (4321) 一般乗用旅客自動車運送業 一 一般乗用旅客自動車運送業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： 給油取扱所 タンク容量 軽油10KL		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 20,000L 20倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 0.28Mpa 名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911) 規 模： 寸法542W×850H×352D		倍数の合計： 20倍 設置の完成： 昭和 56年 12月 23日 直近の完成： 平成 27年 2月 5日		
14 発 生 箇 所	名 称： 給油(注油)ホース 番 号 (908) 材 質： ゴム		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(0.5L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： スタートアップ中 番 号 (2) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 給油取扱所内の計量器ナンバー3で車両へ給油をするため、計量器の電源を入れ、加圧した際にホースの一部分から軽油が漏れ、防油堤内に貯留したもの。流出量にあつては約0.5L。 流出後、事故関係者が吸着マットにて処置をされた。 また、消防機関への通報は発生時間から約4時間40分後であった。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原	25 主 原 因 破 損		着火原因		番号 ()												
	関 連 原 因 維持管理不十分																
	発生原因の状況： 計量器メーカーも交えたうえで原因究明をしたところ、流出の原因としてはホースの劣化によるものと考えられるが、当該ホースは令和2年に更新されており、比較的年数も経過していないことから日常の使用法(ホースに余裕を持たせて給油しているか等)についても見直すように指導した。																
	主原因の詳細																
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層										
疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化(腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化)													
因	関連原因の詳細																
	人		本人の意識		思慮		その他										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																	
27 人的被害						28 物的被害											
被害内容等		死亡		重症		中等症		軽症		死傷原因		職業又は職名		被災影響範囲及び拡大の状況： 計量器のリールホースの破損により、リールホース内の軽油が防油堤内に流出した。			
区分																	
当 事 者		0		0		0		0									
防災活動従事者		0		0		0		0						施設等の被害状況： 計量器のリールホースの破損。			
第 三 者		0		0		0		0									
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																	
消 防 機 関		1 台 0 隻 0 機 2 人		自 衛		0 台 0 隻 0 機 0 人		消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人		共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人		物質の被害状況： 軽油約0.5L流出	
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人		応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人		その他の機関		0 台 0 隻 0 機 0 人		その他		0 台 0 隻 0 機 0 人		損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)	
30 実施した防災活動の状況																	
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()											
<small>立入検査を実施し、 1. 災害発生届出を届け出ること。 2. 消防への通報の遅れがあったことから、以後は早期に通報するよう職員に周知徹底すること。 3. 破損しているホースの修理・更新等については必要に応じて申請、届出を行うこと。 を指導した。</small>																	
31 防災活動上の問題点																	
発生時刻から通報までに約5時間が経過しており、法第16条の3第2項の通報の義務に対する認識を事業所として改めて周知する必要がある。																	
政 策 措 置	32 施設名		給油取扱所		33 定期点検等		消 防 法		そ の 他								
	使用停止		年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和4年 1月 27日		年 月 日						
	改善命令等		年 月 日		年 月 日		気密試験等		令和4年 1月 27日		年 月 日						
	停止解除		年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日						
	関係条項						34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>		内容：						
その他		災害発生届出の提出等を指示 令和4年 4月 12日		年 月 日													
35 今後の対策 や所見		事業所の方からの聴取のなかで、日常時の使用方法でホースにテンションがかかったままの状態給油行為をしている可能性が否定できないことから、今一度、機器の取扱方法について周知徹底される必要がある。															

1 事故名	給油取扱所において、利用者のノズル誤操作によるガソリン漏えい事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 7日 7時 05分	推定・確定	4 発 見	8月 7日 7時 07分	
5 覚 知	8月 7日 7時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 7日 8時 00分	
7 鎮火・処理完了	8月 7日 8時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴	風向：	風速：	気温：	湿度：
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： サービス業(他に分類されない番号(9099)のもの) その他の事業サービス業 他に分類されない事業サービス業 他に分類されないその他の事業サービス業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番号(9999) 能 力： 給油取扱所 48KL×2基、2KL×1基		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 64,000L 320倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 16,000L 16倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 16,000L 16倍	
13 機 器 等	温度圧力： 名 称： 固定給油(注油)設備 番号(911) 規 模： 油種3種類		倍数の合計： 352倍 設置の完成： 平成 4年 4月 3日 直近の完成： 令和 3年 11月 19日		
14 発 生 箇 所	名 称： 給油(注油)ノズル 番号(909) 材 質： アルミニウム		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(5L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 給油中 番号(8) 作 業 状 況： 運転操作中 番号(1)		18 取扱者の概要		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 利用者が自動車へ給油中、ノズル誤操作によりガソリンを周囲に漏えいさせた。					
24 緊急処置の状況 有 番号() 無					

25	主 原 因 誤操作	着火原因	番号 ()
原 因	関 連 原 因		
	発生原因の状況： 利用者の思い込みによりノズルレバーを握ったままで自動車給油口からノズルを抜いた		
	主原因の詳細		
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層
	人	本人の意識	思慮
	関連原因の詳細		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から			
27 人的被害			28 物的被害
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症
当 事 者	0	0	0
防災活動従事者	0	0	0
第 三 者	0	0	0
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況			被災影響範囲及び拡大の状況： なし
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 3 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
物質の被害状況： ガソリン5Lの流出			施設等の被害状況： なし
30 実施した防災活動の状況			損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (万円)
公設消防機関：番号 (99)		自衛防災・消防組織等 番号 ()	
現場確認			
31 防災活動上の問題点			
政 策 措 置	32 施設名		33 定期点検等
	使用停止	年 月 日	消 防 法
	改善命令等	年 月 日	そ の 他
	停止解除	年 月 日	定期・自主点検
	関係条項		令和3年11月29日
その他	年 月 日	気密試験等	年 月 日
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭	
34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>	
35 今後の対策 や所見		内容： 	
監視業務の徹底及び強化			

1 事故名	セルフ給油取扱所において、顧客がひび割れたポリタンクに灯油を注油したため漏えいしたもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 5日 19時 00分	推定・確定	4 発 見	11月 5日 19時 05分	
5 覚 知	11月 5日 19時 11分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 5日 20時 20分	
7 鎮火・処理完了	11月 5日 20時 20分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北東 風速：1m/s 気温：12.3℃ 湿度：69%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		11 発 生 場 所 区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 192,000L 960倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油、灯油 192,000L 192倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍 倍数の合計： 1,153倍 設置の完成： 平成 15年 12月 9日 直近の完成： 令和 4年 6月 15日		
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番号 (9999) 能 力： 給油取扱所 タンク容量48,000L				
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 固定給油(注油)設備 番号 (911) 規 模： 計量機 40L/min				
14 発 生 箇 所	名 称： その他 番号 (999) 材 質： 合成樹脂		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油(5L)		
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番号 (1) 作 業 状 況： 番号 ()		18 取 扱 者 の 概 要 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い ①. 有 2. 無		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： セルフ給油取扱所において、顧客が軽トラックの荷台に積載したポリタンクに灯油を注油したところポリタンク下部にひび割れがあり、軽トラック荷台及び注油空地に灯油が漏えいしたもの。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原因	25 主 原 因 破 損 着火原因 番号 ()										
	関 連 原 因 維持管理不十分										
	発生原因の状況： ポリタンクの経年劣化及び顧客のポリタンクに異常がないかの確認不足。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層								
	疲労・劣化	素材等の劣化	その他								
関連原因の詳細											
因	人	本人の意識	思慮	不注意							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害			28 物的被害								
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 顧客の軽トラック荷台及び注油空地に約5Lの灯油が漏えい。			
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 漏えいによる被害なし			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2台	0隻	0機	4人	自 衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)約5L	
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人		
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人		
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人		
								損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動											
31 防災活動上の問題点											
行政措置	32 施設名	給油取扱所			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日		
	停止解除	年 月 日			年 月 日			保安検査	年 月 日		
	関係条項							34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>		
その他	顧客への注意喚起及び監視業務の強化 令和4年11月5日			年 月 日			内容：				
35 今後の対策や所見 顧客への注意喚起のため、固定注油設備に注意書きを表示し再発防止を図る。											

1 事故名	給油取扱所における地下埋設配管からの漏えい事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 9日 7時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	11月 9日 10時 00分	
5 覚 知	11月 9日 10時 40分	6 鎮 圧 応急処置完了	11月 9日 10時 30分		
7 鎮火・処理完了	1月 0日 0時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他(従業員からの電話)				
9 気 象 状 況	天気:	風向:	風速:	気温:	湿度:
10 発 生 事 業 所	種 別 : 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態 : サービス業(他に分類されない番号(9399)もの) その他のサービス業 他に分類されないサービス業 他に分類されないサービス業				11 発 生 場 所
					区 分 : ①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名: 16 発生施設規制区分等 施設区分: ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別: 取扱所 施設別: 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数: 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 45,000L 225倍
12 施 設 装 置	名 称 : その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力 : 給油取扱所 30KL×4基 2KL×1基				倍数の合計: 225倍 設置の完成: 平成 6年 9月 21日 直近の完成: 令和 元年 12月 26日
13 機 器 等	温 度 圧 力 : 名 称 : 固定給油(注油)設備 番 号 (911) 規 模 : 油種4種類				
14 発 生 箇 所	名 称 : 給油管等 番 号 (907) 材 質 : その他				17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温[0-40℃]、高温) 分類: 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称: ガソリン
15 発 生 時	運 転 状 況 : 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況 : 運転操作中 番 号 (1)				18 取 扱 者 の 概 要
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要: オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要 : モーターの回転不良のため、点検を実施したところ、地下埋設配管からの漏えいが判明した					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()
原 因	関 連 原 因		
	発生原因の状況： 地下タンクと給油設備を繋ぐ地下埋設配管に腐食を確認。現在埋設配管の交換工事中。		
	主原因の詳細		
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層
	腐食	防食	その他
	関連原因の詳細		
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から		
27	人的被害		28 物的被害
	被害内容等	死亡	重症
区分	中等症	軽症	死傷原因
当 事 者	0	0	0
防災活動従事者	0	0	0
第 三 者	0	0	0
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況		被災影響範囲及び拡大の状況： なし
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
30	実施した防災活動の状況		
公設消防機関：番号 (99、4)		自衛防災・消防組織等 番号 ()	
情報収集			
31	防災活動上の問題点		
政 策 措 置	32	施設名	給油取扱所
	使用停止	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日
	関係条項		
	その他	調査依頼 令和4年11月24日 1. 文書 ②. 口頭	
33	定期点検等	消 防 法	そ の 他
	定期・自主点検	令和3年3月17日	年 月 日
	気密試験等	令和3年3月17日	年 月 日
	保安検査	年 月 日	年 月 日
	34	当該施設に係る 法令違反の有無	
		有・ 無 内容：	
35	今後の対策 や所見		

1 事故名	セルフ給油取扱所において、顧客が乗用車に給油していたところ車両下部から漏えいしたもの						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	12月 1日 9時 23分	推定・ 確定	4 発 見	12月 1日 9時 23分			
5 覚 知	12月 1日 9時 30分				6 鎮 圧	12月 1日 10時 37分	
7 鎮火・処理完了	12月 1日 10時 37分				6 応急処置完了		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況	天気：曇		風向：北西		風速：5.1m/s		気温：8.1℃ 湿度：63%
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド			11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 120,000L 600倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 24,000L 24倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 48,000L 48倍 倍数の合計： 672倍 設置の完成：平成20年 10月 29日 直近の完成：平成28年 2月 26日		
12 施 設 装 置				名称：その他【分類なし】 番 号 (9999) 能力：給油取扱所 タンク容量48,000L			
13 機 器 等				温度圧力： 名称：固定給油(注油)設備 番 号 (911) 規 模：計量機 ガソリン30L/min 軽油40L/min			
14 発 生 箇 所				名称：その他 番 号 (999) 材 質：ゴム			
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()			17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(20L)		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： セルフ給油取扱所において、顧客が乗用車に給油していたところ乗用車の給油配管と燃料タンクが根元で外れていたため燃料タンクが満量になった後、外れている部分から燃料が漏えいし、給油ノズルの満量停止装置が作動しなかったもの。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他							

原因	25 主 原 因 不明		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 給油配管と燃料タンクが根元で外れていた原因は不明。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油空地であるコンクリート製の地面に縦横約5mの範囲でガソリンが漏えいしたもの。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 漏えいによる被害なし。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)約20L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額	1万円未満	、1万円以上 () 万円
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) ACライトの散布、泡消火薬剤の散布、可燃性ガス濃度の測定						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名	給油取扱所				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無		
その他	ガソリン漏えいに伴い清掃完了までの間給油停止 令和4年12月1日 年 月 日 1. 文書 ②. 口頭 1. 文書 2. 口頭						内容：			
35 今後の対策や所見 類似事案防止の広報を検討する。										

1 事故名	セルフ給油取扱所において、顧客がポリタンクに灯油を注油した際、容器がひび割れし、漏えいしたもの						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	12月 11日 16時 47分	推定・ 確定	4 発 見	12月 11日 16時 47分			
5 覚 知	12月 11日 17時 03分			6 鎮 圧 応急処置完了	12月 11日 18時 28分		
7 鎮火・処理完了	12月 11日 18時 28分						
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況	天気：曇		風向：北北東		風速：3.9m/s		気温：9.5℃ 湿度：75%
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド			11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 120,000L 600倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 24,000L 24倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 48,000L 48倍 倍数の合計： 672倍 設置の完成：平成20年 10月 29日 直近の完成：平成28年 2月 26日		
12 施 設 装 置				名 称： その他【分類なし】 番号 (9999) 能 力： 給油取扱所 タンク容量48,000L			
13 機 器 等	温 度 圧 力：	名 称： 固定給油(注油)設備 番号 (911)		規 模： 計量機 40L/min			
14 発 生 箇 所	名 称： その他 番号 (999)		材 質： 合成樹脂		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油(10L)		
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番号 (1)		作 業 状 況： 番号 ()		18 取 扱 者 の 概 要		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： セルフ給油取扱所において、顧客がポリタンクに灯油を注油したところポリタンク側面がひび割れし漏えいしたもの。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無							

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： ポリタンクの経年劣化及びポリタンクに異常がないか顧客の確認不足。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化		素材等の劣化		その他					
	関連原因の詳細									
	人		本人の意識		思慮		不注意			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 注油空地に約10Lの灯油が漏えい		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 漏えいによる被害なし。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)約10L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額	1万円未満	、1万円以上 () 万円
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動										
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名	給油取扱所			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無			
その他	顧客への注意喚起及び監視業務の強化 令和4年12月11日			1. 文書 ②. 口頭		内容：				
35 今後の対策や所見										
顧客によるポリタンクへの注油時に容器の経年劣化による漏えい事故が続いていることから給油取扱所への注意啓発及び消防本部ホームページ、両市に一般住民向けの注意喚起を実施。										

1 事故名	屋外給油取扱所において給油後に車両後部の燃料タンク付近からガソリンが流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	5月 14日 22時 05分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	5月 14日 22時 05分
5 覚 知	5月 14日 22時 14分	6 鎮 圧 応急処置完了	5月 14日 23時 30分
7 鎮火・処理完了	5月 14日 23時 30分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇	風向：北北西	風速：3m/s 気温：15℃ 湿度：63%
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタン ド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 50,000L 250倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 15,000L 15倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 15,000L 15倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍 倍数の合計： 281倍		
12 施 設 装 置	14 発 生 箇 所		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	名 称： その他 番 号 (999)		
能 力： 30KLタンク2基、20KLタンク1基、2KLタンク1基	材 質： その他		
13 機 器 等	15 発 生 時		
温 度 圧 力： 常温、常圧	運 転 状 況： 停止中 番 号 (5)		
名 称： その他 番 号 (999)	作 業 状 況： 番 号 ()		
規 模： 不明	17 物 質 の 区 分		
14 発 生 箇 所	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(10L)		
名 称： その他 番 号 (999)	18 取 扱 者 の 概 要		
材 質： その他	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
15 発 生 時	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		
運 転 状 況： 停止中 番 号 (5)	①. 有 2. 無		
作 業 状 況： 番 号 ()			
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 24時間セルフ方式営業用給油取扱所において、自家用車(普通乗用車)の給油終了後に同車両の燃料タンク付近からガソリン約10Lが流出したもの。保安監督者代行者が第5種消火設備を現場付近まで搬送及びレーンを封鎖するとともに管轄の消防署に加入電話で通報し、消防隊が乳化処理及び散水による洗浄を実施。敷地外への流出はなし。			
24 緊 急 処 置 の 状 況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番 号 (10) 無 その他			

25	主 原 因 不明	着火原因	番号 ()
原 因	関 連 原 因		
	発生原因の状況： 車両の燃料タンク付近からガソリン約10Lが流出したもので、発生原因は不明。		
	主原因の詳細		
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層
	関連原因の詳細		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から			
27 人的被害			28 物的被害
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症
当 事 者	0	0	0
防災活動従事者	0	0	0
第 三 者	0	0	0
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況			被災影響範囲及び拡大の状況： 給油空地内のみに流出した。
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	1 台 0 隻 0 機 2 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
30 実施した防災活動の状況			物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)のガソリンが約10L流出した。
公設消防機関：番号 (4, 5) 乳化処理及び散水による洗浄		自衛防災・消防組織等 番号 (99) 通報, 消火準備	
31 防災活動上の問題点			
政 策 措 置	32 施設名		33 定期点検等
	使用停止	年 月 日	消 防 法
	改善命令等	年 月 日	そ の 他
	停止解除	年 月 日	定期・自主点検
	関係条項		気密試験等
そ の 他	年 月 日	保 安 検 査	
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭	
34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：	
35	事故発生時の対応の再確認		
今後の対策 や所見			

1 事故名	給油取扱所内で荷卸し中遠方注油口からの漏えい事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 23日 15時 20分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	6月 23日 15時 20分	
5 覚 知	6月 23日 15時 54分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 23日 15時 30分	
7 鎮火・処理完了	6月 23日 15時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西南西 風速：3.5m/s 気温：34℃ 湿度：51%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
			16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 62,000L 310倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油・軽油 40,000L 40倍	
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： タンク容量(40KL×2、22KL×1)		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(18L)		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： その他 番 号 (999) 規 模： 遠方注油口				
14 発 生 箇 所	名 称： その他 番 号 (999) 材 質： 鋼鉄		設置の完成： 平成 27年 8月 14日 直近の完成： 令和 4年 3月 23日 倍数の合計： 350倍		
15 発 生 時	運 転 状 況： 荷卸中 番 号 (13) 作 業 状 況： 監視中 番 号 (10)		18 取扱者の概要		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 給油取扱所の地下タンクへレギュラーガソリンを荷卸した際、圧抜き操作を怠ったことにより、地下タンクの圧力が上昇したため、遠方注油口からガソリン(18L)が漏えいしたものの					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 給油取扱所の地下タンクヘレギュラーガソリンを荷卸した際、圧抜き操作を怠ったことにより、地下タンクの圧力が上昇したため、遠方注油口からガソリン(18L)が漏えいしたもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		取り違い			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 被害なし		
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 危険物漏えい
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 (4) 吸着マット				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検			年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等			年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保 安 検 査			年 月 日	年 月 日	
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="text" value="無"/> 内容：		
そ の 他	年 月 日	年 月 日								
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策 や所見	荷卸し手順の掲示、緊急時の処置方法の徹底									

1 事故名	ドラム缶からオイルキャビネットへの埋設配管が腐食しディーゼル用エンジンオイルが流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	11月 10日 12時 00分 推定・ 確定	4 発 見	11月 10日 19時 00分
5 覚 知	11月 11日 10時 15分	6 鎮 圧 応急処置完了	11月 10日 19時 00分
7 鎮火・処理完了	12月 5日 11時 00分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北西 風速：1.1m/s 気温：21℃ 湿度：52%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタン ド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 30,000L 150倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油・灯油 20,000L 20倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 2,600L 1.3倍 第4類第4石油類 潤滑油 1,500L 0.25倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称：自動車等の点検、整備作業場 番 号 (1704)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能 力：オイルキャビネット 容量200L第3石油類(ドラム缶入り)最大 2,600L第4石油類(ドラム缶入り)最大1,500L	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第4石油類 名称：潤滑油(180L)		
13 機 器 等 温度 圧力：	18 取扱者の概要		
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者 ①. 有 3. 不要 3. 不要 の取扱・立会い 2. 無		
規 模：20Aステンレス鋼管直径27.2mm	倍数の合計： 171.55倍		
14 発 生 箇 所	設置の完成：昭和41年 3月 31日 直近の完成：平成21年 3月 11日		
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)	19 危険物保安 統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物 保安監督者		
材 質：ステンレス	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
15 発 生 時	23 事 故 の 概 要： 屋外フルサービス給油取扱所の自動車整備室にてエンジンオイル交換中、オイルキャビネットからオイルジョッキに給油する際、ドラム缶からオイルキャビネットへの埋設配管からディーゼル用エンジンオイルが流出		
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)	24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止		
作 業 状 況： 番 号 ()			

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因									
	発生原因の状況： ドラム缶からオイルキャビネットへ送油する埋設配管が経年劣化(56年間使用)により防食等塗装が剥離し、ステンレス製の配管が腐食して使用中に破損したことが原因でエンジンオイルが流出									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	腐食	防食	防食塗装・被覆剥離(経年による剥離)							
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害			28 物的被害							
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油所敷地内の防水コンクリート下の土壌が半径 1.5m、深さ2mの範囲で汚染			
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 防水コンクリート下の土壌が半径1.5m、深さ2mの 範囲で汚染			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 埋設配管が破損してエンジンオイル180Lが流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
							損害額 1万円未満、 1万円以上 (341 万円)			
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点 消防への通報が事故発生翌日となってしまった。理由は、事業所の責任者は事故発生時の通報義務は知っていたものの、親会社への報告は行っており、親会社が消防への通報を行うか、そうでなければ親会社から通報の指示があるものと思込んでいたため。結果として、翌日に設備改修業者に消防への通報を促されて初めて通報を行ったもの。										
政 策 措 置	32 施設名	屋外給油所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日			
	改善命令等	年	月	日	年	月	日			
	停止解除	年	月	日	年	月	日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無				
その他	警告(法第12条第1項) 令和4年11月17日			年	月	日	内容：			
①. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策 や所見	埋設配管を除去しバルクタンク型のオイルキャビネットに変更する。									

1 事故名	車両の燃料タンクに空いていた5cmの穴から軽油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 21日 7時 02分	推定・ 確定	4 発 見	12月 21日 7時 02分	
5 覚 知	12月 21日 7時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 21日 10時 40分	
7 鎮火・処理完了	12月 21日 10時 40分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向： 風速：1.7m/s 気温：3℃ 湿度：69%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタン ド		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： 地下タンク 40KL 48KL 1,950L 各1基ずつ		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 28,000L 140倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 60,000L 60倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 他の第3石油類 3,000L 1.5倍 第4類第4石油類 潤滑油 1,800L 0.3倍 倍数の合計： 201.8倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 常温、常圧 名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911) 規 模： ガソリン:28,000L、軽油:60,000L、 第3石油類:3,000L、潤滑油(第4石油類):1,800L		設置の完成： 平成 17年 12月 20日 直近の完成： 令和 2年 11月 30日		
14 発 生 箇 所	名 称： その他 番 号 (999) 材 質： ステンレス		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(30L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 給油中 番 号 (8) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 従業員がトラックに給油していたところ給油タンクに5cmの穴が開いていたため軽油30Lが流出したもの					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()	
	関 連 原 因 不 明							
	発生原因の状況： 燃料タンクに穴が開いた車両への給油							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	破損		定常運転時		その他			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害						28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	
区分								
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 給油取扱所に軽油が漏えいし、軽油30L油分離槽に滞油	
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油30L油分離槽に滞油	
第 三 者	0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	0台 0隻 0機 0人	自 衛	0台 0隻 0機 0人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油30L油分離槽に滞油				
消 防 団	0台 0隻 0機 0人	共 同	0台 0隻 0機 0人					
海上保安部	0台 0隻 0機 0人	応 援	0台 0隻 0機 0人					
その他の機関	0台 0隻 0機 0人	その他	0台 0隻 0機 0人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (7 万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点 加入電話にて消防機関に通報。漏えい箇所を散水後、吸着マットにて吸着及び清掃車にて分離槽の清掃実施。								
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日						
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策 や所見	従業員に給油時にタンクの破損がないか確認するよう指導。							

1 事故名	給油中に誤って運転手が車両を発進させたため、落下し破損した給油ノズルからガソリンが流出した事案		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	4月 17日 17時 07分 推定・ 確定	4 発 見	4月 17日 17時 07分
5 覚 知	4月 17日 17時 33分	6 鎮 圧 応急処置完了	4月 17日 17時 42分
7 鎮火・処理完了	4月 17日 18時 02分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：快晴 風向：南東 風速：1.4m/s 気温：21℃ 湿度：29%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 28,800L 144倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 28,800L 28.8倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 1,800L 0.9倍 第4類第4石油類 潤滑油 2,100L 0.35倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能 力： タンク容量61,800L	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(0.5L)		
13 機 器 等	18 取扱者の概要		
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)	経験年数30年		
規 模： 懸垂式 ホースリール本体幅2,435mm×高さ715mm×奥行560mm	設置の完成： 昭和 63年 7月 4日 直近の完成： 令和 3年 1月 20日		
14 発 生 箇 所	21 危険物取扱者の取扱・立会い		
名 称： 給油(注油)ノズル 番 号 (909)	①. 有 2. 無		
材 質： 鋼鉄	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
15 発 生 時	20 危険物保安監督者		
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)			
作 業 状 況： 番 号 ()			
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事故の概要： 給油中に誤って運転手が車両を発進させ、引っ張られた給油ホースと給油ノズルが安全継手で分離し、落下した給油ノズルが破損した。また、給油ノズルから、施設内にレギュラーガソリンが約0.5L漏えいした。なお、漏えいした危険物については、拭き取り等の応急措置を実施した。			
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

原 因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因 誤 操 作									
	発生原因の状況： 給油を依頼された従業員が給油しながら、窓ふきや他車への停車位置の指示を行っていたところ、突然運転手が無意識に誤って車両を発進させたため、引っ張られた給油ホースと給油ノズルが安全継手で分離し、落下した給油ノズルが破損したものの。									
	主原因の詳細									
	第I層		第II層		第III層		第IV層			
	破損		定常運転時		機器そのものが落下					
	関連原因の詳細									
	人		本人の意識		思慮		不注意			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分							被災影響範囲及び拡大の状況： 施設外への影響なし。			
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 給油ノズル1機が破損した。			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1台	0隻	0機	4人	自 衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ガソリンが約0.5L漏えいした。
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人	
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人	
その他の機関	1台	0隻	0機	2人	その他	0台	0隻	0機	0人	
							損害額 1万円未満、 <input type="text" value="1万円以上"/> (41 万円)			
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 応急措置の確認					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	給油取扱所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日		年	月	日		
	改善命令等	年	月	日		年	月	日		
	停止解除	年	月	日		年	月	日		
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>				
その他	改修が完了するまで固定給油設備の使用停止 令和4年 4月 17日			内容：						
35 今後の対策 や所見		事業所では、従業員の安全教育が実施された。 給油前に、ドライバーと従業員でコミュニケーションを十分とり、事故防止に努めるよう指導するとともに、ドライバーが給油中である旨が分かるような表示等についても検討するよう指導した。								

1 事故名		給油取扱所(船舶)の地下埋設配管から重油流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		10月 4日 5時 00分	
5 覚 知		10月 4日 9時 22分		6 鎮 圧 応急処置完了		10月 6日 14時 00分	
7 鎮火・処理完了		2月 28日 9時 00分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：南西		風速：5m/s 気温：25.2℃ 湿度：79.7%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 複合サービス業 協同組合(他 番 号 (7912) に分類されないもの) 農林水 産業協同組合(他に分類されな いもの) 漁業協同組合(他に 分類されないもの)				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類その他 重油 100,000L 50倍			
12 施 設 装 置				倍数の合計： 50倍 設置の完成： 昭和 62年 12月 22日 直近の完成： 昭和 62年 12月 22日			
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： 給油取扱所 100KL×1基							
13 機 器 等				温度圧力：			
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模： 容量100KL							
14 発 生 箇 所				17 物 質 の 区 分			
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質： その他							
15 発 生 時				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(2,000L)			
運 転 状 況： 停止中 番 号 (5) 作 業 状 況： 番 号 ()							
18 取扱者の概要							
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有							
23 事 故 の 概 要： 給油取扱所固定給油設備に接続されている地下埋設配管から重油が地中に漏れ、岸壁地盤から海面に流出した。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他							

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 地下埋設配管の穿孔部(直径約1cm穴)から地盤面及び海面に推定量2,000L流出										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		塩分の影響						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 地下埋設配管から漏れた重油が海面に流出し、船舶係留所約190mに渡り拡散した。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0						
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 地下埋設配管の穿孔部(直径約1cm穴)			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量:2,000L 第3石油類 重油	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	1 台	1 隻	0 機	9 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	7 台	0 隻	0 機	24 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (6、4、7)					自衛防災・消防組織等 番号 (5、4、6、7)						
31 防災活動上の問題点 覚知日時の数日前から流出していた可能性があり、通報の遅れも重なり対応が遅れた。漏れの箇所を特定するのに時間を費やした。											
行政措置	32 施設名	給油取扱所			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	気密試験等	平成 30 年	4 月	12 日
	関係条項							保安検査	年	月	日
その他	施設休止届の提出指導		事故発生報告の提出指導		34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無 内容： 標識・掲示板(不明瞭)、防油堤(清掃不適)、消火器(失効)、固定給油設備(土台の腐食)、油吸着剤(必要量不足)				
35 今後の対策や所見	今後、同種事故を防止すべく、現状の埋設配管の使用は認めないと指導する。										

1 事故名	固定給油設備に顧客の車両が接触し破損したことによるガソリンの流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 11日 15時 50分	推定・ 確定	4 発 見	12月 11日 15時 50分	
5 覚 知	12月 11日 17時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 11日 15時 55分	
7 鎮火・処理完了	12月 28日 15時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：北東 風速：4m/s 気温：9℃ 湿度：80%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)	
			特別防災地区名：	16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 38,000L 190倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,500L 9.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 9,500L 9.5倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： 9.5KL×6基、2KL×1基		倍数の合計： 210倍 設置の完成： 平成 5年 11月 1日 直近の完成： 令和 4年 10月 7日		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911) 規 模： 高さ2.3m、幅1.3m、奥行き0.55m				
14 発 生 箇 所	名 称： 給油(注油)ホース 番 号 (908) 材 質： 鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(0.3L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： その他 番 号 (99)		18 取 扱 者 の 概 要	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無	
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 顧客の車両(トラック)が後退した際、不注意により車両後部が固定給油設備のホース接続部分に接触。接触部分が破損し、ホース内のガソリン0.3Lが固定給油設備の周囲に流出したものの。					
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 車両の不注意									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		定常運転時		車両等の接触					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 固定給油設備の給油ホースの接続部分が破損し、当該固定給油設備が設置されているアイランド周囲にガソリン0.3Lが流出。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 固定給油設備1基の破損			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	3 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ガソリン0.3L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (20 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動					自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和3年9月1日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和4年2月17日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
35	今後の対策 や所見 大型車両が方向転換する場合は、誘導員をつける									

1 事故名	自家用給油所における移動タンクへの過剰な注油による軽油の流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	8月 24日 16時 00分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	8月 24日 17時 00分
5 覚 知	8月 24日 18時 01分	6 鎮 圧 応急処置完了	8月 24日 19時 26分
7 鎮火・処理完了	8月 24日 19時 26分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東南東 風速：2.8m/s 気温：30℃ 湿度：71%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 鉱業 鉱業 採石業、砂・砂利・番号 (546) 玉石採取業 砂岩採取業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 15,300L 15.3倍 第4類第4石油類 潤滑油 4,000L 0.67倍		
12 施 設 装 置			
名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303)			
能 力：			
13 機 器 等	温度圧力：		
名 称： その他 番 号 (999)			
規 模： 容量2,000L	倍数の合計： 15.97倍		
14 発 生 箇 所	設置の完成： 昭和 48年 12月 25日 直近の完成： 昭和 48年 12月 25日		
名 称： タンクの注入口 番 号 (905)	17 物 質 の 区 分		
材 質： 鋼鉄	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(1,600L)		
15 発 生 時	18 取扱者の概要 経験年数3年		
運 転 状 況： その他 番 号 (99)			
作 業 状 況： その他 番 号 (99)			
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要
	21 危険物取扱者 の取扱・立会い		1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 自家用給油取扱所において、ノズルをラッチにより開放状態に固定して移動タンクへ注油し、その場を離れている間、ノズルから軽油が出続け、注入口から溢れた軽油が防護枠の水抜き管を通して敷地及び河川に、合計1,600L流出。行為者は発見後、ノズルのレバーを戻し注油を止め、その他の応急措置は実施せず帰宅する。川に流れている油を発見した通行人が119番通報する			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他			

原因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()									
	関 連 原 因 操作未実施													
	発生原因の状況： 危険物取扱無資格者が有資格者の立ち会いがない状態で、ノズルを注入口の枠と蓋の間に挟んで注油しており、ノズルの先端が油面に触れていない状態であったため、満了停止制御装置が作動せず、ノズルから軽油が出続けたもの													
	主原因の詳細													
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層							
	管理		監督		監視		監視がない							
	人		本人の意識		違反(故意)		問題意識の不足							
	関連原因の詳細													
	制度		教育・訓練		実施状況		教育・訓練が実施されない							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27 人的被害						28 物的被害								
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名							
区分														
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 軽油は自家用給油取扱所の油分離装置からもあふれ、側溝を流れて河川へ少なくとも1kmにわたって流出							
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 特になし							
第 三 者	0	0	0	0										
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 軽油1,600Lが流出				
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人					
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人					
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人					
30 実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 (4)						自衛防災・消防組織等 番号 ()								
31 防災活動上の問題点														
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他						
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日	年	月	日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 法第11条第1項、法第13条第3項、法第14条の3の2、法第16条の3第1項、2項							
その他	年	月	日	年	月		日							
35 今後の対策 や所見	<ul style="list-style-type: none"> ・移動タンク貯蔵所はただちに使用を止めて廃棄する ・危険物取扱無資格者が危険物を取り扱う際、有資格者の立ち会いを徹底する ・点検記録は作成し保存する ・緊急時の対応について社内教育を実施する 													

1 事故名	給油取扱所において、給油中、固定給油設備下部からの危険物の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 8日 11時 10分	推定・確定	4 発 見	10月 8日 11時 10分	
5 覚 知	10月 8日 11時 20分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 8日 11時 20分	
7 鎮火・処理完了	10月 8日 13時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北西 風速：1.8m/s 気温：18℃ 湿度：49%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
			16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 55,000L 275倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油・灯油 25,000L 25倍	
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： タンク容量40,000L×2基				
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911) 規 模： 固定給油設備 高さ2,300mm、幅530mm、長さ1,280mm				
14 発 生 箇 所	名 称： その他 番 号 (999) 材 質： 合成樹脂				
15 発 生 時	運 転 状 況： 給油中 番 号 (8) 作 業 状 況： 番 号 ()				
	設置の完成： 平成 21年 7月 27日 直近の完成： 平成 28年 7月 11日 倍数の合計： 300倍				
	17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ハイオクガソリン(4L)				
	18 取 扱 者 の 概 要				
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要：	オンラインファイル無				
23 事故の概要：	給油取扱所において、顧客がハイオクガソリンを給油しようとしたところ、固定給油設備の危険物が約4L流出したものの。				
24 緊急処置の状況	有 番号 (10) 無 その他				

原因	25 主 原 因 故障		着火原因				番号 ()				
	関連原因										
	発生原因の状況： 固定給油設備内のフロートに異物が混入したことにより、空気逃がし弁が機能せず、エア一抜きバルブに危険物が流れ、エア一抜き口から危険物が外へ流出した。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	故障		機能		周囲からの異物の作用による機器の動作不良						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名				
区分											
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 事業所敷地内にハイオクガソリン約4Lが流出した。				
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 施設等における破損等の被害なし。				
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)ガソリン4L流出。	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
30 実施した防災活動の状況								損害額	1万円未満	、1万円以上 () 万円	
公設消防機関：番号 (99) 事故状況等の調査及びこれに係る情報収集を実施。						自衛防災・消防組織等 番号 (99) ・計量器のポンプ停止、電気遮断 ・ウエスにより流出した危険物の処理 ・事故が発生した固定給油設備の周囲にカラーコーンを置き、使用禁止措置を実施					
31 防災活動上の問題点											
32 施設名	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	改善命令等	年 月 日			年 月 日				定期・自主点検	令和4年 6月 28日	年 月 日
	停止解除	年 月 日			年 月 日				気密試験等	令和3年 7月 12日	年 月 日
	関係条項								保安検査	年 月 日	年 月 日
	その他	年 月 日			年 月 日			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：		
35 今後の対策 や所見	当該給油所の運営会社とメーカーにより再発防止策を検討する。										

1 事故名	自家用給油取扱所において、サクシヨン管からの軽油漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	3月 11日 14時 30分		
5 覚 知	3月 11日 14時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 14日 15時 30分	
7 鎮火・処理完了	4月 19日 15時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (立入検査時に判明)				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南 風速：3.4m/s 気温：18.8℃ 湿度：40.8%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路旅客運送業 一 番号 (4331) 般貸切旅客自動車運送業 一 般貸切旅客自動車運送業		11 発 生 場 所		
			区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
			16 発生施設規制区分等		
			施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 16,250L 16.25倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 2,950L 2.95倍		
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： 自家用屋外給油取扱所(9.6KL×2基)				
13 機 器 等					
	名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		倍数の合計： 19.2倍 設置の完成： 昭和 60年 8月 17日 直近の完成： 昭和 60年 12月 14日		
	規 模： 内径1.44m 全長6.5m 容量9.6KL				
14 発 生 箇 所	名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)		17 物 質 の 区 分		
	材 質： 鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油		
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)		18 取 扱 者 の 概 要		
	作 業 状 況： 番 号 ()				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 定期の立入検査時、漏えい検査管内に油分を確認。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関連原因							
	発生原因の状況： サクシヨン管部分からの漏えいであり、計量機による給油により当該配管部分残存した軽油が気密不良部位から漏えいしたもの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の摩耗（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の摩耗）			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害						28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 軽油用サクシヨン管からの漏えいであり、敷地外への流出は認められない。
区分								
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 無し。
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	0 台 0 隻 0 機 0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況：				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	在庫管理が徹底されていなかったため漏えい量は不明。				
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 2 年 9 月 5 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	年 月 日	年 月 日	内容：					
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策 や所見	事業所による在庫管理ができておらず、漏えい量が把握できなかったため、事業所に対し在庫管理を徹底させる。また、管内の他の事業所に対しても指導を行い同種事故防止に努める。							

1 事故名		船舶給油取扱所の配管破損による軽油流出事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		11月 3日 8時 00分	
5 覚 知		11月 3日 8時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了		11月 3日 8時 10分	
7 鎮火・処理完了		11月 3日 8時 10分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：東南東		風速：1m/s 気温：14.5℃ 湿度：96.6%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：公務(他に分類されないもの) 番号 (9621) 地方公務 市町村機関 市町 村機関				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,400L 10.4倍			
12 施 設 装 置				設置の完成：平成15年 9月 12日 直近の完成：平成23年 3月 7日			
名 称： その他【分類なし】 番号 (9999) 能 力： 船舶給油取扱所の送油配管							
13 機 器 等				温度圧力：			
名 称： 配管(送油、注入管等) 番号 (606) 規 模： 径32mm、長さ950mm				倍数の合計： 10.4倍			
14 発 生 箇 所				17 物 質 の 区 分			
名 称： 給油管等 番号 (907) 材 質： ステンレス				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(2L)			
15 発 生 時				18 取 扱 者 の 概 要			
運 転 状 況： 停止中 番号 (5) 作 業 状 況： 点検中 番号 (5)				①. 選任有 2. 選任無 3. 不要			
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		21 危険物取扱者 の取扱・立会い	
						①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 消防艇用給油取扱所の施設点検時に、給油配管の一部であるフレキシブルホース部分が何らかの原因で裂け、配管内に残っていた軽油(約2L)が給油配管ボックス内に漏えいしているのを発見した。なお、給油配管ボックス外への流出はなかったもの。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無							

原因	25 主 原 因 破損		着火原因				番号 ()			
	関連原因									
	発生原因の状況： 潮の満ち引き等による浮桟橋の上下運動により、フレキシブルホースに絶えず負荷がかかっていることが原因で、フレキシブルホースが破損し軽油が漏えいしたもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化		環境		常に振動する環境下で疲労（想定内の振動であるが、材料が継続した疲労により損傷等）					
因	関連原因の詳細									
26 被害の状況 ①. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいした油に関しては、配管ボックス内の吸着マットに吸着されたため、配管ボックス外への流出はなし。		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： フレキシブルホース1本を破損		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4石油類第2石油類(非水溶性)約2L漏えい
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <input type="text" value="1万円以上"/> (<input type="text" value="5"/> 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 漏えいした危険物の回収及び清掃					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点										
32 施設名					33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和4年8月26日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和4年12月5日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日							
35 今後の対策や所見 業者と今後の対応について検討中であり、修繕等の処置が完了するまでの間は設備の使用を自主的に停止する。										

1 事故名	給油取扱所内設置の可搬式混合計量機への接触事故による流出事故		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	11月 16日 6時 40分 推定・ 確定	4 発 見	11月 16日 6時 40分
5 覚 知	11月 16日 7時 20分	6 鎮 圧 応急処置完了	11月 16日 6時 41分
7 鎮火・処理完了	11月 16日 6時 42分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東 風速：2m/s 気温：10.4℃ 湿度：71%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 60,000L 300倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 12,000L 12倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 24,000L 24倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能 力： 給油取扱所 タンク容量48,000KL×2	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶 名称： 混合油(ガソリンと2サイクル 性液体) エンジンオイル) (2L)		
13 機 器 等 温度圧力：	18 取扱者の概要		
名 称： その他 番 号 (999)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者 ①. 有 3. 不要 21 の取扱・立会い 2. 無		
規 模： タンク容量95L	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
14 発 生 箇 所	23 事 故 の 概 要： 顧客の車両が可搬式混合計量機へ接触及び可搬式混合計量機が転倒し破損。計量機を起こす際、混合油が2L程漏えいした。		
名 称： その他 番 号 (999)	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他		
材 質： 鋼鉄			
15 発 生 時			
運 転 状 況： 休止中 番 号 (6)			
作 業 状 況： その他 番 号 (99)			

原 因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 運転時の前方不注意									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		定常運転時		車両等の接触					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 無し		
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 可搬式混合計量機の破損		
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 可搬式混合計量機から、混合油約2L漏えい
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (58 万円)				
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点 混合計量機の衝突防止が不十分だった。										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策 や所見		混合計量機周辺へパイロンを設置する等、衝突防止対策を行い、事故防止に努める。								

7 移 送 取 扱 所

1 事故名	移送取扱所の出荷配管の耐火材下の外面腐食によりジェット燃料が流出した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 31日 9時 30分	推定・ 確定	4 発 見	10月 31日 9時 30分	
5 覚 知	10月 31日 9時 45分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 31日 12時 15分	
7 鎮火・処理完了	10月 31日 12時 15分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北 風速：3.6m/s 気温：17℃ 湿度：52%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、 荷 、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) JP1A(非) (ジェット燃料) 24,000L 24倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 24倍				
名 称：その他【石油精製工業】 番 号 (2999)	設置の完成：昭和56年 4月 27日				
能 力：第4類第2石油類 ジェット燃料(非) 24,000KL	直近の完成：令和元年 11月 22日				
13 機 器 等	17 物 質 の 区 分				
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
規 模：本管12B、ベント部3/4B	5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
14 発 生 箇 所	(固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧)				
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)	(低温、 常温 [0-40℃]、高温)				
材 質：鋼鉄	分 類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：JP1A(非) (ジェット燃料) (170L)				
15 発 生 時	18 取扱者の概要				
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)	①. 選任有 2. 選任無				
作 業 状 況： 番 号 ()	20 危険物保安監督者				
19 危険物保安統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 10月31日9時30分頃操油グループ員が側溝内の油を発見し直ちに班長へ連絡した。9時45分に班長がジェット燃料出荷配管での不具合を覚知し、所内非常体制を発令した。連絡を受けた環境安全グループ員が10時09分にちば消防共同指令センターにホットライン通報を行った。漏えい覚知後は速やかに漏えい配管の緑切り(バルブ閉止)を行い、漏えい配管付近の耐火材を撤去、不具合箇所を特定し、公設消防と漏えい停止を確認した。					
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他					

25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因				番号 ()			
関 連 原 因									
発生原因の状況： ・耐火材被覆のベント配管抜出部に施工されたシール材が劣化しており、雨水が容易に侵入可能な状態であった。さらにベント配管のボス部には耐火材の隙間を埋めるためグラスウールが施工されていた。以上から、耐火材中に侵入した雨水がグラスウールに保持され湿潤環境が形成される特異的な環境下で外面腐食が進展し、開口に至ったと判断している。 ・配管設置当時は、社内基準にグラスウールの使用についての記載がなく、耐火下腐食への影響を考慮せずにグラスウールが施工されたと考えられる。なお、現行の社内基準では、耐火下腐食が進展する環境下においてグラスウールの使用が禁止されている。									
主原因の詳細									
第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害						28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名		
区分									
当 事 者		0	0	0	0				
防災活動従事者		0	0	0	0				
第 三 者		0	0	0	0				
被災影響範囲及び拡大の状況： 側溝にJP1Aが漏えいした 製油所外及び海上への漏えい無し									
施設等の被害状況： 配管の開孔									
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	10 台	0 隻	0 機	24 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	15 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	4 台	0 隻	0 機	14 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
物質の被害状況： JP1A漏えい量:170L									
損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円									
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99) 火災発生に備え現場待機					自衛防災・消防組織等 番号 (99) 漏えい箇所周辺への警戒待機				
31 防災活動上の問題点									
32 施設名									
行政措置	使用停止	年 月 日			年 月 日				
	改善命令等	年 月 日			年 月 日				
	停止解除	年 月 日			年 月 日				
	関係条項								
その他	年 月 日			年 月 日					
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭					
33 定期点検等				消 防 法		そ の 他			
定期・自主点検				年 月 日		年 月 日			
気密試験等				年 月 日		年 月 日			
保安検査				年 月 日		年 月 日			
34 当該施設に係る法令違反の有無				有・ <input type="text" value="無"/>					
				内容：					
35 今後の対策や所見									
・配管の取替後、腐食対策として耐火材の撤去を実施。 ・現行の社内基準に従い耐火下(保温下)腐食が進展する環境下ではグラスウールを使用せず、撥水性の耐火材(保温材)を使用する。									

1 事故名	移送取扱所において配管が外面腐食を形成し穿孔したことで重油が漏えいしたもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	7月 13日 15時 42分		
5 覚 知	7月 13日 15時 56分	6 鎮 圧 応急処置完了	7月 13日 15時 50分		
7 鎮火・処理完了	7月 14日 10時 15分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北北東 風速：2.4m/s 気温：26℃ 湿度：88%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、 <u>他</u>) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：根岸臨海地区				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 35,000,000L 175,000倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 0L 0倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 175,000倍				
名 称：海上入出荷施設 番 号 (1401)	設置の完成：昭和43年12月13日 直近の完成：令和3年8月5日				
能 力：1日の出荷量 35,000L	17 物 質 の 区 分				
13 機 器 等 温度圧力：70℃、0.79Mpa	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、常温[0-40℃]、 <u>高温</u>) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(0.4L)				
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	18 取扱者の概要				
規 模：14インチ 120m	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
14 発 生 箇 所	21 危険物取扱者の取扱・立会い				
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)	①. 有 2. 無				
材 質：鋼鉄					
15 発 生 時					
運 転 状 況：払出中 番 号 (10)					
作 業 状 況： 番 号 ()					
19 危険物保安統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 協力会社社員が、午前から実施していた重油出荷の作業終了準備のため棧橋へ来たところ海上に波でかき消えてしまう程度の油膜を確認。直ちに棧橋に設置されている電話機にて製造所職員へ連絡。製油所職員により応急処置としてバルブ閉止作業を実施。その後海上保安庁及び公設消防へ通報。海上保安庁は公設消防とともに陸側及び船舶による海上側の調査活動を実施。自衛消防組織によりオイルフェンスの展張作業、岸壁部分の油回収作業を実施。現場にて漏えい停止が確認できなかったため、公設消防により出荷配管に対し製造所等使用制限命令を口頭によりかけた。配管内の滞油にあってはバキュームローリーにて回収作業を実施。その後ブラインドプレートを挿入し他系統との縁切りを実施した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 当該施設は主に製油所内で製造された重油を出荷するための、保温材を被った移送配管です。保温材内部は配管が敷設されており、配管下部にサポートが溶接により取り付けられている。保温材にはシリコン材を使用しシールがされており、内部には水分や外部からの塵等が入らない対策をしている。発災後に当該配管のシール材を確認したところ、シールの劣化により隙間ができており、内部に雨水や海水が侵入していた。当該漏えい箇所はサポート部分が点付け溶接となっており、侵入した水分が溜まり外面腐食を形成したことで漏えいしたものと推定する。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 保温材内で破損した配管の漏えい箇所から約1m先の岸壁に横1.4m、縦0.3mの範囲で重油が0.42L漏えい。 施設等の被害状況： 配管にピンホール		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	114 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類非水溶性 重油 0.42L漏えい
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	2 台	0 隻	0 機	3 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	3 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (100 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 (4、5、6)					
調査活動										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	H-1棧橋出荷配管			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	令和 4 年 7 月 13 日	年	月	日	定期・自主点検	令和 4 年 3 月 18 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	令和 4 年 7 月 14 日	年	月	日	保 安 検 査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	年 月 日	年	月	日						
		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭							
35	今後の対策 や所見	漏えいした配管を撤去。同様の施行箇所について目視点検や非破壊検査を実施。								

1 事故名	移送取扱所において配管から硫黄が漏えいしたもの		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	9月 7日 10時 00分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	9月 7日 10時 00分
5 覚 知	9月 7日 11時 02分	6 鎮 圧 応急処置完了	9月 12日 17時 45分
7 鎮火・処理完了	9月 12日 17時 45分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北 風速：0.1m/s 気温：29℃ 湿度：77%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： ①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、 <input checked="" type="checkbox"/> 荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：根岸臨海地区		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等		
名 称：海上入出荷施設 番 号 (1401)	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所		
能 力：76,800,000L/日	類・品名・名称・数量・倍数： 第2類硫黄 硫黄 0kg 0倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 76,800,000L 384,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 0L 0倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 0L 0倍 第4類第4石油類 潤滑油 0L 0倍		
13 機 器 等	温度圧力：145℃、0.4Mpa		
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	設置の完成：昭和 39年 4月 2日 直近の完成：平成 31年 3月 27日		
規 模：約33m(護岸の流出油防止堤からMLAまで)	倍数の合計：384,000倍		
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分		
名 称：配管の架台、サポート 番 号 (217)	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
材 質：鋼鉄	5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
15 発 生 時	(<input checked="" type="checkbox"/> 固相)、液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分類：第2類硫黄 名称：硫黄(4.1L)		
運 転 状 況：停止中 番 号 (5)	18 取扱者の概要		
作 業 状 況： 番 号 ()	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	21 危険物取扱者 の取扱・立会い
22 設備・機器等の概要：	1. 有 ②. 無		
オンラインファイル無			
23 事故の概要： タンカーによる油の荷卸し予定に合わせて、協力会社員(男性68歳)がB棧橋(移送取扱所)の点検を行っていたところ、硫黄配管の配管サポート部から硫黄が約4L漏えいしているのを発見した。9月12日、復旧作業のため再加熱したところ、仕切弁カバーの隙間から硫黄約0.1L漏えいした。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他			

原因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()				
	関 連 原 因 誤 操 作										
	発生原因の状況：		9月7日の当該配管は出荷予定が無いため、停止中であったが、改造工事のため加熱したところ配管のサポート部分から硫黄が漏えいしていた。9月12日は昇温を開始した際に再度漏えいした。昇温時の手順不備により内容物が液封となりバルブのパッキンが破損して漏えいに繋がったと推定する。								
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	破損		工事時		その他						
	破損		点検時		点検時の処置の不備						
	関連原因の詳細										
	制度		規則・手順		内容・周知		規則・手順がない/文書化されない				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名				
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0						
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						被災影響範囲及び拡大の状況：					
消 防 機 関		12 台	0 隻	0 機	46 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	10 人	物質の被害状況： 硫黄 4.1L
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (200 万円)					
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 (4)							
調査活動											
31 防災活動上の問題点 通報の遅れ。											
政 策 措 置	32 施 設 名				33 定 期 点 検 等		消 防 法		そ の 他		
	使用停止		年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和4年 3月 22日		
	改善命令等		年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		
	停止解除		年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		
	関係条項						34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：		
そ の 他		年 月 日		年 月 日							
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策 や所見		液封を回避するよう、昇温手順を明確化する。									

1 事故名	C重油出荷配管のねずみ鑄鉄製バルブ破損による漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 19日 13時 43分	推定・確定	4 発 見	1月 19日 13時 43分	
5 覚 知	1月 19日 13時 53分	6 鎮 圧 応急処置完了	4 発 見	1月 19日 16時 44分	
7 鎮火・処理完了	1月 19日 17時 36分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西 風速：5m/s 気温：7.5℃ 湿度：				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 堺泉北臨海地区				
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等				
名 称：海上入出荷施設 番 号 (1401)	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 3,479,000L 17,395倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 4,184,000L 4,184倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 3,379,000L 1,689.5倍 第4類7アルコール類 エチルアルコール 102,000L 255倍 第2類硫黄 硫黄 210,000kg 2,100倍				
能 力：移送取扱所 総取扱量11,354KL	倍数の合計： 25,623.5倍				
13 機 器 等	温度 圧力：				
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	設置の完成： 昭和 49年 8月 23日 直近の完成： 令和 3年 9月 1日				
規 模：バルブ径12B 肉厚6.7mm	17 物質の区分				
14 発 生 箇 所	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：C重油(655L)				
名 称：開閉弁 番 号 (204)	18 取扱者の概要				
材 質：鑄鉄	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
15 発 生 時	21 危険物取扱者の の取扱・立会い				
運 転 状 況：その他 番 号 (99)	①. 有 2. 無				
作 業 状 況：不定期修理中 番 号 (3)					
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： C重油出荷配管上の流量計の検定をするために流量計の取り外しを実施し、当該部に仕切り板を挿入した状態で保持していた。13時43分に流量計下流側のブロック弁から、C重油が漏えいしており弁本体が破断しているのを発見する。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因 操 作 確 認 不 十 分									
	発生原因の状況： 流量計検定作業実施時、液封防止のために作業者がドレンを開放し対策を試みたがドレンが閉塞していたためできず、代替として別ラインのバルブを開放し、液封対策を実施する予定であった。しかし、作業者はバルブ開放を実施し忘れ液封対策作業を終了した。その結果、滞油温度が上昇したことでの圧力上昇によるバルブ破損に至った。 また破損したバルブはねずみ鋳鉄製のものであり、当事業所では過去にも同様の事案がみられた。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		定常運転時		異常圧力上昇等					
	関連原因の詳細									
	人		本人の意識		思慮		思い込み			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいした重油がブロック弁周辺に漏えい			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： ブロック弁1基破損			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	9 台	0 隻	0 機	33 人	自 衛	3 台	0 隻	0 機	12 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類 重油約655L漏えい
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (30 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)				
情報収集及び警戒活動										
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和4年 1月 1日	年 月 日				
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日				
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日				
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	改善及び再発防止措置 令和4年 1月 19日	年 月 日								
1. 文書 ②. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策 や所見	当該事故に基づき、1. 作業員の教育、2. 手順書・確認書等の改正、3. 事故原因となったねずみ鋳鉄製バルブを使用している箇所及びバルブの更新状況を確認し、できるだけ更新進めていくよう指導する。									

1 事故名	移送取扱所において、液封状態の配管の内圧が上昇したことによりバルブが破損しナフサが流出した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 10日 10時 40分	推定・ 確定	4 発 見	4月 10日 10時 40分	
5 覚 知	4月 10日 10時 56分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 10日 10時 56分	
7 鎮火・処理完了	4月 10日 10時 56分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西南西 風速：3.5m/s 気温：19.6℃ 湿度：67.5%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： ①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、 荷 、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：堺泉北臨海地区				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 3,479,000L 17,395倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 4,184,000L 4,184倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 3,379,000L 1,689.5倍 第4類7アルコール類 エチルアルコール 102,000L 255倍 第2類硫黄 硫黄 210,000kg 2,100倍 倍数の合計： 25,623.5倍				
12 施 設 装 置	14 発 生 箇 所				
名 称：海上入出荷施設 番 号 (1401)	名 称：開閉弁 番 号 (204)				
能 力：総取扱量 11,354KL	材 質：鋳鉄				
13 機 器 等 温度 圧 力：	15 発 生 時				
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)				
規 模：バルブ径8インチ	作 業 状 況：監視中 番 号 (10)				
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分				
名 称：開閉弁 番 号 (204)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ナフサ(84L)				
材 質：鋳鉄	18 取 扱 者 の 概 要				
15 発 生 時	19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)	20 危 険 物 保 安 監 督 者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
作 業 状 況：監視中 番 号 (10)	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い ①. 有 2. 無				
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 液封防止システムの異常により、吐出配管内抽圧弁が閉止され液封状態が形成された結果、気温上昇により内圧が上がり、ねずみ鉄製バルブが破損しナフサが流出したものの。					
24 緊 急 処 置 の 状 況 有 番 号 (10) 無 その他					

原因	25 主 原 因 破 損		着 火 原 因				番 号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 計器室からの電動弁操作を光通信で行っていたが、光ケーブルが外気温等の影響を受けて、信号が不安定な状態になり電動弁操作に異常をきたした。担当者が動作確認のため計器室より開閉操作を行ったが、現場の弁開閉状態に関係なく、操作信号が優先されることを認識していなかったため、開閉操作に伴い抽圧弁が閉止され、液封状態が形成され気温により圧力上昇したことによるもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		自然現象		その他					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 弁周囲の地面約1㎡		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 弁一個破損		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	9 台	0 隻	0 機	33 人	自 衛	4 台	0 隻	0 機	10 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類ナフサ84L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (15 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) ・情報収集活動					自衛防災・消防組織等 番号 (99) ・警戒活動					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 4 年 3 月 27 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保 安 検 査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策 や所見	<ul style="list-style-type: none"> ・光通信システムの更新(PCを除く。2023年度まで) ・液封防止システムの誤作動について2022年度中引き続き対応を検討する ・手順書の改定と教育 ・ねずみ鑄鉄弁の全数改修に向けた調査及び取り換えの実施 									

1 事故名	移送取扱所のピグランチャーセーフティロックの緩みによる重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 25日 23時 50分	推定・確定	4 発 見	1月 26日 9時 35分	
5 覚 知	1月 26日 9時 42分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 26日 9時 37分	
7 鎮火・処理完了	1月 26日 15時 40分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北西 風速：1.5m/s 気温：5℃ 湿度：88%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分： ①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 特別防災地区名： 水島臨海地区	
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： 7,200KL/日		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 7,200,000L 3,600倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 67℃、0.2Mpa 名 称： ピグ装置 番 号 (605) 規 模： 全長2,200mm、内径355.6mm		倍数の合計： 3,600倍 設置の完成： 平成 15年 1月 20日 直近の完成： 平成 25年 8月 29日		
14 発 生 箇 所	名 称： その他の部位 番 号 (399) 材 質： 鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(4,140L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： スタートアップ中 番 号 (2) 作 業 状 況： その他 番 号 (99)		18 取扱者の概要	経験年数30年	
19 危険物保安統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 移送取扱所のピグ点検作業後、ピグランチャーに保温を取り付ける際、保温板金の一部がピグランチャーのドアフランジクランプバーのセーフティロックに取り付けられたT字ハンドルに接触し、ピグランチャーの圧抜き穴を有するセーフティロックが緩んだ。その後、リーク確認をすることなく移送を再開したため、圧抜き穴から重油が流出防止囲い内に4,140L流出した。現場を通りかかった従業員が流出を発見し、直ちに該当箇所の縁切り及び119番通報を実施した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()				
	関 連 原 因 設計不良								
	発生原因の状況： 圧抜き穴を有するセーフティロックにT字ハンドルが取り付けられており、点検に伴う保温復旧作業の干渉により緩みやすい構造であったが、作業員がセーフティロックの構造や役割を理解しておらず、流出の危険性を認識していなかったため、十分な締め付けを意識せず作業を完了した。また、点検終了後、運転圧力をかける際にリーク確認を実施するよう申し送ったが、交代勤務者が次回ピグ使用による油置換時に実施するものと誤解し、リーク確認を行わず運転を開始したため、圧抜き穴からの流出に至った。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	管理		組織		コミュニケーション		伝達方法が不適切		
	設備		監理・保守		点検・整備		確認不足		
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足		
	関連原因の詳細								
	設計不良		機能		その他				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害				28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名		
区分									
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： ピグランチャーの流出防止囲い内に重油4, 140Lが流出した。		
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし		
第 三 者	0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	14 人	自 衛	5 台	0 隻	0 機	100 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	6 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油 4, 140L流出									
損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (31 万円)									
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99) 警戒待機及びガス検知				自衛防災・消防組織等 番号 (5、99) 流出油回収、ガス検知及び警戒待機					
31 防災活動上の問題点									
32 行政措置	施設名			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 3 年 2 月 5 日	令和 4 年 1 月 24 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日							
35 今後の対策や所見 ・従業員への安全教育の実施 ・セーフティロック附属のT字ハンドル撤去及び周囲の保温板金撤去 ・作業手順書の作成及び周知 ・申し送りの記録による認識齟齬発生防止 ・施設及び機器の構造や役割を理解せず作業を実施することは、個人はもとより事業所として異常である。従業員教育の徹底について再三にわたり指導しているところであるが、基礎的な教育ですら行き渡っていない。以前にも増して重点的に指導を継続していく必要がある。									

1 事故名	移送取扱所の附属ポンプメカニカルシールからの硫黄漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 3日 11時 20分	推定・確定	4 発 見	8月 3日 11時 20分	
5 覚 知	8月 3日 11時 24分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 3日 11時 40分	
7 鎮火・処理完了	8月 3日 13時 57分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南西 風速：2m/s 気温：32℃ 湿度：62%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：水島臨海地区				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第2類硫黄 硫黄 7,200,000kg 72,000倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 33,600,000L 168,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 12,000,000L 12,000倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 33,600,000L 16,800倍 第4類第4石油類 潤滑油 14,400,000L 2,400倍 倍数の合計： 271,200倍				
12 施 設 装 置	設置の完成：昭和 47年 10月 14日 直近の完成：令和 3年 12月 7日				
名 称：海上入出荷施設 番 号 (1401)	17 物 質 の 区 分				
能 力：第6出荷ポンプ所72,000kg/日	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第2類硫黄 名称：硫黄(425kg)				
13 機 器 等 温度 圧 力：140℃、1.15Mpa	18 取扱者の概要				
名 称：ポンプ 番 号 (501)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 3. 不要 3. 不要 2. 無				
14 発 生 箇 所	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
名 称：その他の機器等本体 番 号 (199)	23 事 故 の 概 要： 8月1日14時45分、月例点検の際、附属ポンプ(以下「PU-502」という。)周辺の蒸気銅管トレース(以下、「トレース」という。)からポンプケーシング付近で蒸気漏れを確認し、トレースの蒸気漏れ調査のため関係する弁を閉止した。14時50分、閉止した弁は蒸気漏れ箇所の対象ではなかったため弁の開放作業を実施したが、4箇所のうち2箇所の弁の開放を忘れた。8月3日9時13分、海上出荷準備のためPU-502を遠隔起動したが自動停止する。10時00分、PU-502周辺トレースの弁が閉止しているのを確認し弁を開放した。11時20分、PU-502を遠隔起動した直後、ポンプメカニカルシールから硫黄漏えいを確認したためPU-502を遠隔停止し、11時24分、統合計器室から119番通報を実施した。				
材 質：その他	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止				
15 発 生 時					
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)					
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)					

原因	25 主 原 因 破 損		着火原因		番号 ()								
	関 連 原 因 操作未実施												
	発生原因の状況：												
	8月3日9時13分、PU-502構成機器のメイティングリング付近の硫黄が固化した状態でPU-502を起動するが、軸とともに回転しようとしたメイティングリングに固化した硫黄による過大な負荷がかかり亀裂が発生する。メイティングリングとシールリング間も固化した硫黄により固着しており、本来回転しないシールリングに負荷がかかり、回り止めのノックピンが変形した。その結果、過負荷運転となりPU-502が停止する。10時00分、トレースを通気し、固化していた硫黄が溶解すると、11時20分、PU-502再起動による遠心力でメイティングリングが破損、シール性能を失い硫黄が漏れ出す。また、間接原因として、出荷前点検内容に配管系、ポンプの過熱状態について点検手順が定められていなかった。さらに、スチーム系統の設備不備及び過熱不足ポンプの運転がメカニカルシールの破損に至ることの認識不足も相まったことも要因であった。												
	主要原因の詳細												
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層						
	破損		定常運転時		異常圧力上昇等								
因	関連原因の詳細												
	人		本人の意識		思慮		配慮不足						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害						28 物的被害							
被害内容等		死亡		重症		中等症		軽症		死傷原因		職業又は職名	
区分													
当 事 者		0		0		0		0				被災影響範囲及び拡大の状況： PU-502メカニカルシールから硫黄が周囲(1,600mm×1,700mm×500mm、3,400mm×1,000mm×500mm、9,000mm×500mm×500mm)に漏れ出した。	
防災活動従事者		0		0		0		0				施設等の被害状況： PU-502メカニカルシール構成機器の交換	
第 三 者		0		0		0		0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関		5 台 0 隻 0 機 12 人		自 衛		3 台 0 隻 0 機 91 人		物質の被害状況： 第2類 可燃性固体 硫黄 425kg					
消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人		共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人							
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人		応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人							
その他の機関		1 台 0 隻 0 機 2 人		その他		0 台 0 隻 0 機 0 人		損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)					
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99) 警戒待機				自衛防災・消防組織等 番号 (99) 警戒待機及びガス検知実施									
31 防災活動上の問題点													
行政措置	32 施設名		移送取扱所 出荷4号棧橋の第6出荷ポンプ所		33 定期点検等		消 防 法		そ の 他				
	使用停止		令和 4 年 8 月 3 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日				
	改善命令等		年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日				
	停止解除		年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日				
	関係条項		法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>				
その他		年 月 日		年 月 日		内容：							
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭											
35 今後の対策 や所見		<ul style="list-style-type: none"> ・出荷前点検(硫黄熔融確認)の強化 ・過熱トレース入口弁の開放操作忘れ防止と弁操作手順の再徹底 ・メカニカルシール部の過熱の常用性に関する教育 ・製油所共通作業基準へ反映し、製油各係の作業手順書の見直し ・社内回転機ネットワークにおいて、本事例を通知 ・安全文化の醸成にむけて、ワーキンググループ体制を構築した上で、具体的な項目や取り組みについて取り進めている 											

1 事故名	移送取扱所の附属ポンプメカニカルシールからの硫黄漏えい		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	8月 30日 19時 35分
5 覚 知	8月 30日 19時 42分	6 鎮 圧 応急処置完了	8月 30日 19時 35分
7 鎮火・処理完了	8月 30日 20時 20分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南東 風速：1.3m/s 気温：28℃ 湿度：62%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、 <u>荷</u> 、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：水島臨海地区		
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第2類硫黄 硫黄 7,200,000kg 72,000倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 33,600,000L 168,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 12,000,000L 12,000倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 33,600,000L 16,800倍 第4類第4石油類 潤滑油 14,400,000L 2,400倍 倍数の合計： 271,200倍		
12 施 設 装 置	名 称：海上入出荷施設 番 号 (1401) 能 力：第6出荷ポンプ所 72,000kg/日		
13 機 器 等	温 度 圧 力：145℃、0.88Mpa 名 称：ポンプ 番 号 (501) 規 模：吐出能力 200t/h		
14 発 生 箇 所	名 称：その他の機器等本体 番 号 (199) 材 質：ステンレス		
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()		
17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、常温 [0-40℃]、 <u>高温</u>) 分 類：第2類硫黄 名称：硫黄(294kg)		
18 取 扱 者 の 概 要	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い ①. 有 2. 無
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要：	オンラインファイル無		
23 事 故 の 概 要：	8月30日15時00分、硫黄の海上出荷前点検で異常がないことを確認し、附属ポンプ(以下「PU-501」という。)にて硫黄の海上出荷を行う。17時00分頃、出荷流量が安定した時点で、メカニカルシールの漏えい有無、温度及びPU-501吸込部温度を確認し異常は見られなかった。出荷開始の1時間後の点検でも異常は認められなかった。19時35分、出荷から3時間後の点検に向かった運転員が、PU-501メカニカルシールから硫黄の漏えいを確知し、無線にて統合計器室へ連絡する。直ちにPU-501を停止し、吸込弁及び吐出弁を閉止したことで漏えいは停止した。19時42分、統合計器室から119番通報を実施した。		
24 緊 急 処 置 の 状 況	<input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止		

原因	25 主 原 因 設計不良		着火原因		番号 ()				
	関 連 原 因 設計不良								
	発生原因の状況： 温度が低いクエンチスチームにより、PU-501メカニカルシール内部が冷却され、シールリングが作動不良に至ったため、摺動面の面開きが発生し硫黄が漏れいしたと推測する。メカニカルシールへ供給するスチームクエンチの温度は150℃で設計されていたが、吸込配管のスチームジャケットを通して熱交換されることで、一部が液化しドレンが絡んだ蒸気となり、これがスチームクエンチ調節弁で大気圧に減圧されることで、ドレンの気化熱により約100℃近くに温度が低下していた。通常、130℃から150℃で管理されている硫黄の温度が、メカニカルシール摺動面付近で低下し、粘土が上昇することで流動性を失った。硫黄は119℃を下回ると固化することから、部分的にそれ以下の温度まで冷却された可能性がある。本来であれば、スプリングの荷重によりシールリングを押さえつけ、軸の移動に追従してシールしているが、周辺の硫黄の流動性が失われたことにより、シールリングの作動性が悪くなり、軸に追従できず面開きが生じた。また、間接原因として、当該ポンプのメカニカルシールはシールリング下のシールにVリングはシャフトとの接接触面で引っ掛かりが発生しやすい構造のため、硫黄の温度変化による粘土上昇の影響を受けるリスクを有していた。								
	主要原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	設計不良		能力		想定を越えた温度の発生				
	関連原因の詳細								
	設計不良		材料		その他				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害				28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名		
区分									
当 事 者		0	0	0	0				
防災活動従事者		0	0	0	0				
第 三 者		0	0	0	0				
被災影響範囲及び拡大の状況： PU-501メカニカルシールから硫黄が周囲(1,400mm×3,700mm×800mm、2,000mm×1,200mm×800mm、4,800mm×800mm×800mm)に漏れいした。									
施設等の被害状況： PU-501メカニカルシールのシールリングを交換									
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	9 人	自 衛	3 台	0 隻	0 機	41 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
物質の被害状況： 第2類 可燃性固体 硫黄 294kg									
損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円									
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99) 警戒待機				自衛防災・消防組織等 番号 (99) 警戒待機及びガス検知実施					
31 防災活動上の問題点									
行政措置	32 施設名	移送取扱所 出荷4号棧橋の第6出荷ポンプ所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	令和 4 年 8 月 30 日			年 月 日	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日			年 月 日	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日			年 月 日	年 月 日	年 月 日		
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	年 月 日			年 月 日	内容：				
35 今後の対策 や所見	・メカニカルシールの保温方法をスチームジャケットに変更し、蒸気の圧力を保持し、温度管理を行う ・テフロン性のVリングをケムラッツ製のOリングに変更 ・事業所内の硫黄ポンプで軸封構造にメカニカルシールを有しかつスチームクエンチを採用している機器は、温度管理が容易なスチームジャケットもしくはスチームトレースに変更 ・社内回転機ネットワークにおいて、本事例を通知 ・安全文化の醸成にむけて、ワーキンググループ体制を構築した上で、具体的な項目や取り組みについて取り進めている								

1 事故名	危険物配管(移送取扱所)からベンゼンが流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 19日 7時 17分	推定・確定	4 発 見	8月 19日 7時 20分	
5 覚 知	8月 19日 7時 46分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 19日 7時 20分	
7 鎮火・処理完了	8月 19日 11時 40分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東北東 風速：2.9m/s 気温： 湿度：				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所 区 分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：宇部・小野田		
12 施 設 装 置	名 称：海上入出荷施設 番 号 (1401) 能 力：		16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ベンゼン 4,546,000L 22,730倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン 577,000L 2,885倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) スチレンモノマー 5,285,000L 5,285倍		
13 機 器 等	温 度 圧 力：0.95Mpa 名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：STPG370-S 10B Sch20		倍数の合計： 30,900倍 設置の完成：平成 4年 9月 9日 直近の完成：令和 4年 9月 8日		
14 発 生 箇 所	名 称：配管の架台、サポート 番 号 (217) 材 質：鋼鉄		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ベンゼン(5L)		
15 発 生 時	運 転 状 況：その他 番 号 (99) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： ベンゼンを出荷する準備として液張りを行っていたところ、棧橋上の出荷配管からベンゼンの漏えいを発見したもの					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()
原 因	関 連 原 因 施工不良		
	発生原因の状況： 通常受入配管として使用している配管から払出を行い、一時的に配管内の圧力が0.95MPa程度(受入時0.2MPa)まで上昇したことにより、配管が腐食している部分にピンホールが発生、ベンゼンが漏えいしたもの 腐食の原因は、配管と配管サポート接触部分の外面腐食が進行していたものと推定。		
	主原因の詳細		
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層
	腐食	環境	多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）
	関連原因の詳細		
施工不良	設置	その他	
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から			
27 人的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症
当 事 者		0	0
防 災 活 動 従 事 者		0	0
第 三 者		0	0
		中等症	軽症
		0	0
		死傷原因	職業又は職名
28 物的被害			
被災影響範囲及び拡大の状況： 流出したベンゼン(約5L)が棧橋上に漏えいしたもの			
施設等の被害状況： 配管が腐食している部分にピンホールが発生			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況			
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 2 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機 3 人
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	6 台 0 隻 0 機 10 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
			物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ベンゼン約5L流出
			損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円
30 実施した防災活動の状況			
公設消防機関：番号 (99) 調査活動		自衛防災・消防組織等 番号 (99) 自衛消防隊を出動し、当該漏えい付近に消防車を配備	
31 防災活動上の問題点			
32 施設名			
政 策 措 置	使用停止	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日
	関係条項		
その他	年 月 日	年 月 日	
		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭
33 定期点検等			
		定期・自主点検	令和4年8月15日
		気密試験等	年 月 日
		保安検査	年 月 日
		34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/> 内容：
35 今後の対策や所見			
事業所の対策として、類似する配管サポート部分の点検を実施した。 再発防止策として、各グループ長による職員への教育、完成検査前自主検査で申請図面通り施工されていることを確認することを再度徹底された。			

8 一般取扱所

1 事故名	一般取扱所(消費施設)重油バーナチップ清掃作業後の取付ボルト締結不足による重油の漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発生	2月 2日 10時 14分	推定・ 確定	4 発生見	2月 2日 10時 14分	
5 覚知	2月 2日 10時 35分		6 鎮圧 応急処置完了	2月 2日 10時 58分	
7 鎮火・処理完了	2月 2日 17時 20分				
8 覚知別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気象状況	天気：曇 風向：西北西 風速：3m/s 気温：0℃ 湿度：60%				
10 発生事業所	種別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 第1種 、第2種、その他) 業態：電気・ガス・熱供給・水道業 電話番号(3311) 気業 電気業 発電所		11 発生場所	区分：①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名：知内地区	
12 施設装置			16 発生施設規制区分等		
名称：発電装置	番号(4101)	能力：確定出力 350,000KW	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 1,800,000L 900倍	設置の完成：平成 8年 12月 21日 直近の完成： 年 月 日	倍数の合計： 900倍
13 機器等	温度圧力：110℃、2.06Mpa		17 物質の区分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、常温[0-40℃]、 高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(40L)	
14 発生箇所	名称：バーナー 番号(313) 材質：ステンレス		18 取扱者の概要	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 3. 不要 2. 無	
15 発生時	運転状況：定常運転中 番号(1) 作業状況：洗浄中 番号(11)				
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 2号機(一般取扱所)2段主バーナのバーナチップ定期清掃後の主バーナを点火してのリークチェック過程において、当該バーナ取付部から重油が漏えいした。 主バーナ消火、当該バーナアイソレ実施し消防へ通報。油吸着マット等で漏えい油拡散防止等の応急措置を実施した。					
24 緊急処置の状況 有 番号(1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()										
	関連原因														
	発生原因の状況： 漏えい原因については、漏えいのあった主バーナのチップ清掃のため取り外していた取付ボルトの締め付けを、清掃作業が終了し復旧する際に失念したことで重油漏えいに至ったもの。 漏えいに至った経緯については、工事担当者2名にて漏えいのあった主バーナ(以下、A主)と、隣接する主バーナ(以下、D主)の清掃を各々に分かれて実施していたが、D主担当者の作業が難航していたため、A主担当者は自身の持ち場の取り外していたボルトをトルクレンチを用いてトルク締めするところを手締めしたところで作業を中断し、D主の作業を助勢。D主の全作業が完了し、本来ならば中断していたA主の手締めをみの取付ボルトをトルク締めしなければならなかったが、A主担当者は当該ボルトのトルク締めが完了しているものと誤認したことで、トルク締め実施が失念され締結力不足となった。 また、当該清掃作業については従来から各手順の実施漏れ防止を目的にチェックシートが作成されており、手順毎にチェックを入れる事となっていたが、今回の作業時には確認せずにチェックを入れてしまったことから重油漏えいに至った。														
	主要原因の詳細														
	第I層		第II層		第III層		第IV層								
	施工不良		施工		ボルトの締め付けの問題(締め付け不良、過度の締め付け等)										
	関連原因の詳細														
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から															
27 人的被害				28 物的被害											
被害内容等		死亡		重症		中等症		軽症		死傷原因		職業又は職名		被災影響範囲及び拡大の状況： 当該装置下の4階床面3.3m×1.7mの範囲に重油溜まり及び階下の3階壁面の一部に少量、1階の床面にごく微小の重油の飛散有り。(2階は吹き抜けとなっているため無し。)	
区分															
当事者		0		0		0		0							
防災活動従事者		0		0		0		0						施設等の被害状況： 床及び壁面に重油が付着	
第三者		0		0		0		0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況															
消防機関		2台 0隻 0機 4人		自衛		0台 0隻 0機 10人								物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量:2,000L 第3石油類 重油40L漏えい	
消防団		0台 0隻 0機 0人		共同		0台 0隻 0機 0人									
海上保安部		0台 0隻 0機 0人		応援		0台 0隻 0機 0人									
その他の機関		0台 0隻 0機 0人		その他		0台 0隻 0機 0人								損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)	
30 実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 (99) 消防職員到着時には既に漏えいは停止しており、事業所作業員によって油吸着マット等での漏えい油の拡散防止は完了し、漏えい油の清掃作業が開始されている状態であった。 事故発生階(4階)の漏えい状況及び階下(3階、1階※2階は吹き抜けのため無し)への飛散状況を確認後、漏えい危険物の除去を指示した。								自衛防災・消防組織等 番号 (5) 油吸着マットを設置し、ウエスで拭き取り作業を実施。							
31 防災活動上の問題点															
32 施設名 一般取扱所															
行政措置		使用停止		年 月 日		年 月 日		33 定期点検等		消 防 法		そ の 他			
		改善命令等		年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和3年11月2日		令和4年2月2日			
		停止解除		年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日			
		関係条項						保安検査		年 月 日		年 月 日			
措置		その他		令和4年2月8日		年 月 日		34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無		内容：			
		1. 文書 ②. 口頭		1. 文書 2. 口頭											
35 今後の対策や所見		事業所が実施した再発防止対策については、事故原因が取り外したボルトの取付作業途中に持ち場を離れたために当該作業が完了したと誤認したことによるトルク締めの失念と、今回のような各作業手順実施漏れ防止目的に作成されたチェックシートが適正に使用されなかったことによるものであったことから、下記のとおり実施する旨報告があった。 ①当該清掃作業の請負工事会社に対し、チェックシート使用の徹底について教育を実施する。また、「取付ボルトトルク締め」についてはダブルチェックするよう工事会社の作業要領書・チェックシートに反映する。 ②下記の内容を当該清掃作業を請負う工事会社の作業要領書・チェックシートに反映する。 1. 取付ボルト手締めを実施した後には作業を中断すると、今回の事象のように取付ボルトトルク締めに失念する可能性があることから、ボルトを手締めする前段階の作業から清掃完了までの手順である「予備バーナ挿入→取付ボルト手締め→取付ボルトトルク締め」の手順については中断すること無く一貫して作業する。 2. 「予備バーナ挿入→取付ボルト手締め→取付ボルトトルク締め」の最中に担当しているバーナを離れることがないよう、担当者毎にトルクレンチ2本(主バーナ用及び点火バーナ用)を用意する。さらに主バーナ用と点火バーナ用のトルクレンチの取違い防止のため、トルクレンチと取付ボルトに同色の着色を行った。(主バーナ用ピンク色、点火バーナ用黄色) 3. 作業中であることを一目でわかるよう、作業開始時に「作業中」の札をバーナに掲示し、トルク締め後に札を取り外す。 消防の所見については、事故原因が判明しており、事業所が実施した上記再発防止対策を今後も徹底することで事故の再発は図れるものと思われる。 消防からの指導は上記再発防止対策の徹底を口頭指導した。 また、今後当該危険物施設の消防立入検査時において、再発防止対策の実施状況を継続して確認することとした。													

1 事故名	共同住宅等の燃料供給施設の一般取扱所において、中継タンク本体の底板が腐食し灯油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 1日 0時 00分	推定・確定	4 発 見	2月 6日 17時 40分	
5 覚 知	2月 6日 18時 15分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 6日 20時 00分	
7 鎮火・処理完了	4月 1日 10時 00分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雪 風向：西 風速：2.5m/s 気温：-4℃ 湿度：61%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 分類不能の産業 分類不能の番号 (9999) 産業 分類不能の産業 分類不能の産業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 15,000L 15倍 倍数の合計： 15倍 設置の完成： 昭和 55年 8月 4日 直近の完成： 年 月 日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【分類なし】	番 号 (9999)	能 力： 地下貯蔵タンク 15,000L	17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油(185L)	
13 機 器 等	温 度 圧 力：	名 称： 貯槽(タンク)	番 号 (107)	18 取扱者の概要	
規 模： 中継タンク容量:460L、寸法:W750mm、D750mm、H900mm		14 発 生 箇 所	番 号 (102)	1. 選任有 2. 選任無	21 危険物取扱者の取扱・立会い
名 称： タンク底板	番 号 (102)	材 質： 鋼鉄		③. 不要	1. 有 ②. 無
15 発 生 時		運 転 状 況： 定常運転中	番 号 (1)		
作 業 状 況：		番 号 ()			
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： 5階建ての共同住宅等の燃料供給施設の一般取扱所において、屋上に所在する中継タンク室内の中継タンク本体底板が腐食により減肉し、流出した。流出量は185Lで、中継タンクの防油堤内、共同住宅の4階及び5階の共用部に流出した。人的被害はなし。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()								
原 因	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 設置から40年以上経過しており、中継タンク内部の底板が著しく腐食していた。これは、長期間の使用により石油スラッジがタンク底部に沈殿、堆積し発生したものが原因と考えられる。なお、目視による穿孔は確認できなかった。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層							
	腐食	環境	デポジット腐食（堆積物下腐食、付着物下腐食）								
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害			28 物的被害								
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出事故により、中継タンク防油堤内に180L、4階共用部に1L、5階共用部に4L漏えいした。				
当 事 者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管の経年劣化による腐食が進行し、金属表面が損耗した。				
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油 185L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 1万円未満、 1万円以上 (2 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (5, 99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
流出油の回収、情報収集、事故原因調査											
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他				
	使用停止	年 月 日			年 月 日	定期・自主点検	令和 3 年 9 月 3 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日			年 月 日	気密試験等	令和 3 年 9 月 3 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日			年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項						34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無			
その他	年 月 日			年 月 日			内容：				
35 今後の対策や所見 再発防止対策として、法定点検の実施のほか、定期的の中継タンク内の水抜きを実施する等、管理会社に任せきりとせず、設置者側においても、危険物の特性や施設に対する知識を深め、維持管理を行っていく必要がある。											

1 事故名	共同住宅等の燃料供給施設の一般取扱所にて、屋上露出配管が積雪荷重により折損し、灯油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 15日 6時 00分	推定・確定	4 発 見	2月 16日 11時 30分	
5 覚 知	2月 16日 12時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 16日 15時 00分	
7 鎮火・処理完了	2月 16日 15時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南東 風速：3.7m/s 気温：0℃ 湿度：66%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 分類不能の産業 分類不能の番号 (9999) 産業 分類不能の産業 分類不能の産業		11 発 生 場 所 区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 4,000L 4倍		
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番号 (9999) 能 力： 専用地下貯蔵タンク 4,000L		設置の完成： 平成 7年 3月 24日 直近の完成： 年 月 日		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 配管(送油、注入管等) 番号 (606) 規 模： ポリエチレン被覆鋼管 15A		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油(3,700L) 倍数の合計： 4倍		
14 発 生 箇 所	名 称： 給油管等 番号 (907) 材 質： 鋼鉄		18 取 扱 者 の 概 要		
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番号 (1) 作 業 状 況： 番号 ()		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危 険 物 保 安 監 督 者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い 1. 有 ②. 無		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要				
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要：	オンラインファイル有				
23 事 故 の 概 要：	共同住宅等の燃料供給施設の一般取扱所(中継タンク方式)において、地下貯蔵タンク内の燃料が著しく減少したため調査した結果、屋上にある中継タンク2次側の横引きで露出する配管が、大雪による積雪荷重過多により、ネジ込み接続部が折損し、灯油3,700Lが流出したものの。流出した油は下水管に流れ込んだ。人的被害はなし。 緊急措置として、流出事故発見後直ちに中継タンクバルブを閉止した。				
24 緊 急 処 置 の 状 況	有 番号 (1) 無 装置の緊急停止				

原因	25 主 原 因 破 損		着火原因		番号 ()					
	関連原因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 連日の大雪に伴う積雪荷重過多により破損したものを。屋上露出配管部分の除雪は行っていなかった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		自然現象		雪の重み					
	関連原因の詳細									
	管理		リスクアセスメント		危険意識		危険に対する認識がない/不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した灯油3,700Lは、屋上排水溝から下水管へと流出した。河川への流出は確認されておらず、流出範囲は敷地境界線より100m程度に収まっている。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 屋上露出配管折損、灯油3,700L流出			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油 3,700L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (42 万円)				
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 ()						
情報収集										
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名	一般取扱所		33 定期点検等		消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和3年 8月 17日	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和3年 5月 2日	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	年 月 日			
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無				
その他	法第16条の3第2項 通報義務違反 令和4年 2月 28日		年 月 日		内容： ・法第16条の3第2項 関係機関への通報義務違反 流出事実発見から消防機関への通報まで1時間経過していることから、直ちに通報を行っていないもの。					
35 今後の対策や所見	今回の事故は、連日の大雪の影響で発生したものであるが、露出配管の保護措置や、定期的な屋上の除雪をすることで配管の折損による流出事故は防げた可能性が高い。 同様の事故を防止するため、今回の事故事例を全市的に広報していく必要がある。									

1 事故名	共同住宅等の燃料供給施設の一般取扱所にて、屋上露出配管が積雪荷重により折損し、灯油が流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	3月 1日 11時 20分
5 覚 知	3月 1日 11時 21分	6 鎮 圧 応急処置完了	3月 1日 15時 00分
7 鎮火・処理完了	3月 1日 17時 30分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：西 風速：6.1m/s 気温：0℃ 湿度：70%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 分類不能の産業 分類不能の番号 (9999) 産業 分類不能の産業 分類不能の産業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,000L 3倍		
12 施 設 装 置	13 機 器 等		
名 称： その他【分類なし】 番号 (9999) 能 力： 専用地下貯蔵タンク 3,000L	温度圧力： 名 称： 配管(送油、注入管等) 番号 (606) 規 模： ポリエチレン被覆鋼管 15A 倍数の合計： 3倍		
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分		
名 称： 給油管等 番号 (907) 材 質： 鋼鉄	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油(645L)		
15 発 生 時	18 取 扱 者 の 概 要		
運 転 状 況： 定常運転中 番号 (1) 作 業 状 況： 番号 ()	1. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ③. 不要 ③. 不要 ②. 無		
19 危険物保安統括管理者	20 危険物保安監督者		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 共同住宅等の燃料供給施設の一般取扱所(中継タンク方式)において、建物南側の下水樋で灯油の流出を発見し通報したもの。地下貯蔵タンク内の燃料消費量に目立った異常はなかったが、調査した結果、屋上にある中継タンク2次側の横引きで露出する配管が、大雪による積雪荷重過多により、ネジ込み接続部が折損し、灯油645Lが流出したもの。人的被害はなし。 緊急措置として、流出事故発見後直ちに中継タンクバルブを閉止した。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

原因	25 主 原 因 破 損		着火原因		番号 ()					
	関連原因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 連日の大雪に伴う積雪荷重過多により破損したものの。屋上露出配管部分の除雪は行っていなかった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		自然現象		雪の重み					
	関連原因の詳細									
	管理		リスクアセスメント		危険意識		危険に対する認識がない/不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した灯油645Lは、屋上排水溝から下水管へと流出した。河川への流出は確認されておらず、流出範囲は敷地境界線より100m程度に収まっている。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 屋上露出配管折損、灯油645L流出			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油645L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (6 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 ()						
情報収集										
31 防災活動上の問題点										
32 施設名										
行政措置	使用停止	年 月 日		年 月 日		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	令和3年 8月 30日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日		年 月 日		気密試験等	令和3年 5月 14日	年 月 日		
	関係条項					保安検査	年 月 日	年 月 日		
その他	年 月 日		年 月 日		34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無				
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭		内容： ・法第11条第6項 製造所等の譲渡・引渡の届出義務違反旧設置者のまま、届出を怠っていたもの。				
35 今後の対策や所見										
今回の事故は、連日の大雪の影響で発生したものであるが、露出配管の保護措置や、定期的な屋上の除雪をすることで配管の折損による流出事故は防げた可能性が高い。 同様の事故を防止するため、今回の事故事例を全市的に広報していく必要がある。										

1 事故名	共同住宅等の燃料供給施設の一般取扱所にて、屋上露出配管が積雪荷重により折損し、灯油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 28日 0時 00分	推定・確定	4 発 見	3月 1日 13時 00分	
5 覚 知	3月 1日 13時 35分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 1日 13時 35分	
7 鎮火・処理完了	3月 1日 17時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雪 風向：西 風速：1.2m/s 気温：0℃ 湿度：70%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 分類不能の産業 分類不能の番号 (9999) 産業 分類不能の産業 分類不能の産業		11 発 生 場 所 区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 20,000L 20倍		
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番号 (9999) 能 力： 専用地下貯蔵タンク 20,000L		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (2,978L)		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 配管(送油、注入管等) 番号 (606) 規 模： 口径:20A		設置の完成： 昭和 57年 9月 30日 直近の完成： 年 月 日 18 取扱者の概要 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
14 発 生 箇 所	名 称： 給油管等 番号 (907) 材 質： 鋼鉄		21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ②. 無		
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番号 (1) 作 業 状 況： 番号 ()				
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： 共同住宅等の燃料供給施設の一般取扱所(中継タンク方式)において、地下貯蔵タンク内の燃料が著しく減少したため調査した結果、屋上にある中継タンク2次側の横引きで露出する配管が、大雪による積雪荷重過多により、フランジ接続部に亀裂が生じ、灯油2,978Lが流出したもの。流出した油は下水管に流れ込んだ。人的被害はなし。 緊急措置として、流出事故発見後直ちに中継タンクのバルブを閉止した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原	25 主 原 因 破 損		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因 維持管理不十分							
	発生原因の状況： 連日の大雪に伴う積雪荷重過多により破損したものの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
破損		自然現象		雪の重み				
因	関連原因の詳細							
	管理		リスクアセスメント		危険意識		危険に対する認識がない/不足	
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害				28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した灯油は、屋上排水溝から下水管へと流出し、約5km先の下水処理場にて油膜を確認した。河川等への流出はなし。
区分								
当 事 者		0	0	0	0			
防災活動従事者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 屋上露出配管折損
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関		2 台 0 隻 0 機 6 人	自 衛		0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況：		第4類第2石油類(非水溶性)灯油約2,978L流出
消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人			
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人			
その他の機関		0 台 0 隻 0 機 0 人	その他		0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (33 万円)		
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (5, 99)				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
調査活動								
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	使用停止		年 月 日	年 月 日	定期・自主点検		令和3年7月9日	年 月 日
	改善命令等		年 月 日	年 月 日	気密試験等		令和3年7月12日	年 月 日
	停止解除		年 月 日	年 月 日	保安検査		年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <u>無</u>	
その 他		年 月 日	年 月 日	内容：				
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策や所見 今回の事故は、連日の大雪の影響で発生したものであるが、露出配管の保護措置や、定期的な屋上の除雪をすることで配管の折損による流出事故は防げた可能性が高い。同様の事故を防止するため、今回の事故事例を全市的に広報していく必要がある。								

1 事故名	共同住宅等の燃料供給施設の一般取扱所にて、屋上露出配管が積雪荷重により折損し、灯油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 6日 6時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 9日 11時 30分	
5 覚 知	3月 9日 11時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 9日 11時 30分	
7 鎮火・処理完了	3月 9日 16時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北北西 風速：10.2m/s 気温：0℃ 湿度：71%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 分類不能の産業 分類不能の番号 (9999) 産業 分類不能の産業 分類不能の産業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 6,000L 6倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【分類なし】	番 号 (9999)	能 力： 専用地下貯蔵タンク 6,000L	設置の完成： 平成 7年 7月 10日	直近の完成： 年 月 日	倍数の合計： 6倍
13 機 器 等	温 度 圧 力：	名 称： 配管(送油、注入管等)	番 号 (606)	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス	
規 模： ポリエチレン被覆鋼管 20A				5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油(800L)	
14 発 生 箇 所	名 称： 給油管等	番 号 (907)	18 取扱者の概要		
材 質： 鋼鉄			1. 選任有 2. 選任無	21 危険物取扱者の取扱・立会い	1. 有
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中	番 号 (1)	③. 不要		②. 無
作 業 状 況：		番 号 ()			
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無	20 危険物保安監督者	③. 不要		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： 共同住宅等の燃料供給施設の一般取扱所(中継タンク方式)において、地下貯蔵タンク内の燃料が著しく減少したため調査した結果、屋上にある中継タンク2次側の横引きで露出する配管が、大雪による積雪荷重過多により、ネジ込み接続部が折損し、灯油800Lが流出した。流出した油は下水管に流れ込んだ。人的被害はなし。 緊急措置として、流出事故発見後直ちに中継タンクのバルブを閉止した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況：		連日の大雪に伴う積雪荷重過多により破損したものを。屋上露出配管部分の除雪は行っていなかった。							
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		自然現象		雪の重み					
	関連原因の詳細									
	管理		リスクアセスメント		危険意識		危険に対する認識がない/不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した灯油800Lは、屋上排水溝から下水管へと流出した。河川への流出は確認されておらず、流出範囲は敷地境界線より100m程度に収まっている。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 屋上露出配管折損			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油 800L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	3 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (9 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 ()						
調査活動										
31 防災活動上の問題点										
32 施設名										
政 策 措 置	使用停止	年 月 日		年 月 日		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	令和3年5月1日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日		年 月 日		気密試験等	令和3年5月1日	年 月 日		
	関係条項					保安検査	年 月 日	年 月 日		
その他	年 月 日		年 月 日		34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭								
35 今後の対策や所見										
今回の事故は、連日の大雪の影響で発生したものであるが、露出配管の保護措置や、定期的な屋上の除雪をすることで配管の折損による流出事故は防げた可能性が高い。 同様の事故を防止するため、今回の事故事例を全市的に広報していく必要がある。										

1 事故名	一般取扱所取扱タンクの元弁閉止忘れによる流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	3月 13日 19時 10分		
5 覚 知	3月 13日 19時 29分	6 鎮 圧 応急処置完了	3月 13日 20時 04分		
7 鎮火・処理完了	3月 13日 22時 00分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東南東 風速：1.9m/s 気温：1.5℃ 湿度：78%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <u>第2種</u> 、その他) 業 態：製造業 化学工業 無機化学 番号 (1729) 工業製品製造業 その他の無 機化学工業製品製造業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 苫小牧地区				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 廃油 7,021L 7.02倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 1,848L 0.92倍 倍数の合計： 7.94倍				
12 施 設 装 置	14 発 生 箇 所				
名 称：蒸気発生施設 番号 (1508)	名 称：タンク屋根板 番号 (103)				
能 力：8,869L/日	材 質：ステンレス				
13 機 器 等 温度 圧力：	15 発 生 時				
名 称：貯槽(タンク) 番号 (107)	運 転 状 況：定常運転中 番号 (1)				
規 模：内径900mm、高さ724.5mm、容量361L	作 業 状 況：運転操作中 番号 (1)				
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分				
名 称：タンク屋根板 番号 (103)	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 廃油(110L)				
15 発 生 時	18 取 扱 者 の 概 要 経験年数35年				
運 転 状 況：定常運転中 番号 (1)	19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危 険 物 保 安 監 督 者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い ①. 有 2. 無				
作 業 状 況：運転操作中 番号 (1)	22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要： オンラインファイル有				
23 事 故 の 概 要： 燃料供給元タンクをAタンクからBタンクへ切り替える際、Aタンクの元バルブを閉鎖しなかったため、両タンクの高差によりAタンクへ廃油が逆流し、Aタンク屋根板開口部より最大110Lの廃油が溢流した事故。 3月13日17時頃、従業員Kは、燃料供給元タンクをAタンクからBタンクに切り替える作業を行った。同作業は弁の開閉を手動で操作するものであるが、KはAタンクの元弁閉鎖をケアレスミスにより失念した。また、同作業時に防油堤内に融雪水の滞留が認められたことから、排水のため水抜口のバルブを開放し、他の作業のためその場を離れた。 同日19時頃、巡回点検を実施していたKは、Aタンク付近から水が滴り落ちるような異音を聞き、確認のため駆け付けたところ、Aタンク屋根上に設置しているミキサーの軸貫通部より廃油が溢流していることを発見したため、ボイラーを停止させ、消防へ通報した。 溢流した廃油は、最大で110Lであり、防油堤水抜口より油分離槽へ流出したが、当該槽内に留まり施設外への流出はなかった。 発生時間は、作業開始時間から発見時間までの間であるが、特定には至っていない。 なお、この事故による負傷者は発生していない。					
24 緊 急 処 置 の 状 況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1, 8) 無 装置の緊急停止、防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等					

25	主 原 因 操作未実施 関 連 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()					
原 因	発生原因の状況： 高低差があるタンク間を連結する配管のバルブ操作未実施により廃油が逆流した。また、当該配管には逆止弁が設けられていたが、弁座摩耗によるシート漏れが生じ、機能しなかった。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	人	本人の意識	思慮	思い込み				
	関連原因の詳細							
疲労・劣化	素材等の劣化	長期使用による素材等の摩耗（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の摩耗）						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害			28 物的被害					
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 廃油が最大で約110L流出したが、防油堤及び油分離槽内で収まったもの。	
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 廃油110L流出	
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 3 人		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人		
30 実施した防災活動の状況							損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円	
公設消防機関：番号 (99) 警戒活動				自衛防災・消防組織等 番号 (5)				
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日			定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日			気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日			保 安 検 査	年 月 日	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/> 内容：	
その他	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策 や所見		操作確認の徹底及び施設の維持管理の徹底に係る指導の必要性						

1 事故名	共同住宅等の燃料供給施設の一般取扱所において、埋設配管部分から灯油が漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	4月 5日 15時 00分		
5 覚 知	4月 6日 13時 05分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 6日 19時 00分	
7 鎮火・処理完了	8月 8日 10時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北北西 風速：6.9m/s 気温：7℃ 湿度：57%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 分類不能の産業 分類不能の番号 (9999) 産業 分類不能の産業 分類不能の産業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番号 (9999) 能 力： 専用地下貯蔵タンク4,000L		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 4,000L 4倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 配管(送油、注入管等) 番号 (606) 規 模： 口径:20A		倍数の合計： 4倍 設置の完成： 平成 8年 5月 21日 直近の完成： 令和 2年 5月 20日		
14 発 生 箇 所	名 称： 給油管等 番号 (907) 材 質： 鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油	
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番号 (1) 作 業 状 況： 番号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 共同住宅等の燃料供給施設の一般取扱所における、地下貯蔵タンクからオイルポンプへの送油管の屋外埋設部分で圧力点検の気密不良が認められ、当該配管付近の土中に灯油が漏えいしたものの。流出量については不明。なお、当該埋設配管部分の点検機から仮設配管(ゴム製)を設置し、漏えいを防止した。その後、当局消防職員による使用を停止する旨の指示により、オイルポンプを停止し、当該施設の使用を停止した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 破 損	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因 腐食疲労等劣化									
	発生原因の状況： 埋設配管直上に木の根が張っており、根の成長により、腐食の進んだ埋設配管を圧迫する形となり、埋設配管が損傷したもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層							
	破損	自然現象	雪の重み							
因	関連原因の詳細									
	腐食	環境	多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）							
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27	人 的 被 害		28 物的被害							
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： なし		
当 事 者		0	0	0	0					
防 災 活 動 従 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 送油管に気密不良が認められた。		
第 三 者		0	0	0	0					
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 灯油 流出量は不明
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
										損害額 1万円未満、 1万円以上 (37 万円)
30	実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動										
31	防災活動上の問題点 施設関係者による通報の遅れがあった。									
政 策 措 置	32	施設名			33	定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日		年 月 日	定期・自主点検	令和3年6月23日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日	気密試験等	令和3年6月23日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日		年 月 日	保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項				34	当該施設に係る 法令違反の有無	有 ・無	内容： ・法第11条第1項 製造所等の無許可設置、位置・構造及び設備の無許可変更 ・法第16条の3第2項 事故発生時の通報義務違反		
35	今後の対策 や所見	今後の対策 ・定期点検のほか、日常点検(自主点検)を実施し、事故防止及び異常の早期発見を図る。 所見 ・当該施設は令和元年5月20日に老朽化に伴う吸引管及び返油管の取り換え工事を行っており、施設全体の老朽化が進んでいると推測できる。当該施設の設置者は共同住宅管理組合であり、管理会社が常駐していないため、設置者である管理組合側にも日常定期的な点検等による事故防止を呼び掛ける必要がある。								

1 事故名	配管供給の一般取扱所において、地下埋設配管から灯油漏えい		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	3月 25日 11時 00分
5 覚 知	4月 29日 16時 38分	6 鎮 圧 応急処置完了	3月 25日 14時 00分
7 鎮火・処理完了	9月 27日 10時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北西 風速：1.7m/s 気温：10℃ 湿度：44%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 分類不能の産業 分類不能の番号 (9999) 産業 分類不能の産業 分類不能の産業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,000L 3倍		
12 施 設 装 置	13 機 器 等 温度 圧力：		
名 称： その他【分類なし】 番号 (9999) 能 力： 専用地下貯蔵タンク3,000L	名 称： 配管(送油、注入管等) 番号 (606) 規 模： 管径:65A		
14 発 生 箇 所	15 発 生 時		
名 称： 給油管等 番号 (907) 材 質： 鋼鉄	運 転 状 況： 定常運転中 番号 (1) 作 業 状 況： 番号 ()		
17 物 質 の 区 分		18 取 扱 者 の 概 要	
①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	21 危険物取扱者 の取扱・立会い
1. 有 ②. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 配管供給の一般取扱所において、注油口から地下貯蔵タンク間の配管埋設部から灯油が流出し、敷地内及び道路上に流出したもの。 灯油の流出跡を確認した施設職員から連絡を受けた処理業者が敷地内及び事業所内道路上の油分の洗浄作業を行った。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()	
	関連原因					
	発生原因の状況： 注油口から地下貯蔵タンク間の埋設配管部分に漏れが確認されたことから、注油した灯油の一部が当該埋設配管の漏れ部分から流出したものと推定。					
	主要原因の詳細					
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層	
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）	
	関連原因の詳細					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
27 人的被害				28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因
区分						職業又は職名
当 事 者	0	0	0	0		
防災活動従事者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	0	0		
被災影響範囲及び拡大の状況： 流出量は不明、対象物北側敷地内通路に約10㎡、対象物東側道路に約27㎡の灯油流出痕が認められた。						
施設等の被害状況： 注入管に気密不良が認められた。						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						
消 防 機 関	6 台	0 隻	0 機	24 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
物質の被害状況： 不明						
損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円						
30 実施した防災活動の状況						
公設消防機関：番号 ()			自衛防災・消防組織等 番号 ()			
調査活動						
31 防災活動上の問題点 施設関係者による通報の遅れがあった。						
32 施設名					33 定期点検等	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和3年6月28日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和3年6月28日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	<input type="checkbox"/> 有・無 内容： 法第16条の3第2項 事故発生時の通報義務違反	
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭			
35 今後の対策や所見 今後の対策 ・定期点検のほか、日常点検(自主点検)を実施し、事故防止及び異常の早期発見を図る。 所見 危険物流出の痕跡はあったものの、流出を確認した後から消防覚知までの間隔が空いたことにより流出の経緯を明確に確認できず、関係者からの聴取内容による調査となってしまうため、危険物流出等の事故が発生した時点での通報を施設関係者に対し、呼び掛ける必要がある。						

1 事故名	一般取扱所カルバート内送油配管の腐食開孔による軽油の流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	8月 26日 16時 50分
5 覚 知	8月 26日 17時 09分	6 鎮 圧 応急処置完了	8月 26日 19時 05分
7 鎮火・処理完了	8月 27日 12時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南東 風速：5.2m/s 気温：21.1℃ 湿度：91%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 <u>第1種</u> 、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 苫小牧地区		
	16 発生施設規制区分等		
12 施 設 装 置	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 1,570,000L 7,850倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 91,200L 91.2倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 2,988,500L 1,494.25倍 第4類第4石油類 ケーソン油 91,800L 15.3倍 倍数の合計： 9,450.75倍		
名 称：ボイラー施設 番 号 (1505)	設置の完成： 昭和 46年 4月 13日 直近の完成： 平成 31年 2月 1日		
能 力：825t/h	17 物 質 の 区 分		
13 機 器 等	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(186L)		
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	18 取扱者の概要		
規 模：呼び径80mm 呼び厚さ5.5mm	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
14 発 生 箇 所	21 危険物取扱者の の取扱・立会い		
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)	1. 有 ②. 無		
材 質：その他	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有		
15 発 生 時	23 事 故 の 概 要： カルバート内収容の送油配管が、外面腐食により開孔し、流体である軽油約186Lが流出した事故。 事故当日16時50分頃、協力会社社員より、燃料ポンプ室東側のカルバートあたりで軽油の臭気を感じる旨の報告があったため、カルバート内部を点検したところ、軽油の滞留が認められたことから、17時9分に消防へ通報したもの。 流出した軽油は、カルバート内約96㎡の範囲に拡がり、深いところで約3.5cmの滞留が認められたが、そのほとんどは雨水であった。 漏えいは、第3号ボイラー助燃バーナー供給配管の1箇所です認められた。当該箇所ToStrapクランプによる応急措置を実施し、その後、ボイラーを緊急停止している。 流出した軽油を含む含油水は、仮設ポンプ等により全量回収された。流出量は、回収した含油水の油分量から、約186Lと推定した。 なお、この事故による負傷者は発生していない。		
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他		
作 業 状 況： 番 号 ()			
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： カルバート内に雨水等が滞留し、湿潤環境となったことで、配管の外表面より腐食が進行し、開孔に至ったものと推定する。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		点検内容が不適切			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 軽油約186Lが流出し、カルバート内約96㎡にわたり拡がった。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管腐食		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	11 人	物質の被害状況： 軽油約186L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 (5)				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和4年5月30日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無			有・ <input type="checkbox"/> 無		
その他	年 月 日	年 月 日		1. 文書 2. 口頭			内容：			
35 今後の対策や所見	カルバート等防護構造物内に収容される配管の維持管理及び点検の徹底									

1 事故名	一般取扱所の戸別タンク二次側配管から灯油が流出(調査中)		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	9月 6日 14時 00分
5 覚 知	9月 8日 9時 28分	6 鎮 圧 応急処置完了	9月 8日 10時 30分
7 鎮火・処理完了	1月 0日 0時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気： 不明 風向： 風向不明 風速： 気温： 湿度：		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 家具・じゅう器・番号 (5911) 機械器具小売業 家具・建具・ 量小売業 家具小売業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 4,000L 4倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能 力： 専用地下貯蔵タンク容量4,000L(灯油)	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油		
13 機 器 等	18 取 扱 者 の 概 要		
温 度 圧 力： 常温、常圧	1. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の 取 扱 ・ 立 会 い 1. 有		
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	③. 不要		
規 模： 戸別タンク二次側地下埋設配管・鋼管:20A(プライマー塗装、エナメル 塗装+ジュートテープ巻き×2回)・被覆銅管:8パイ	20 危険物 保 安 監 督 者		
14 発 生 箇 所	22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要：		
名 称： その他 番 号 (999)	オンラインファイル無		
材 質： その他	23 事 故 の 概 要：		
15 発 生 時	発生場所1階倉庫床下に灯油を含む油水が溜まっていたことから、最下階の戸別タンク二次側配管(条例規制部分)の加圧検査を行ったところ漏れが確認されたが流出箇所等調査中。		
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)			
作 業 状 況： 番 号 ()			
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い 1. 有 ②. 無
24 緊 急 処 置 の 状 況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番 号 (10) 無 その他			

原因	25 主 原 因 調査中	着火原因			番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 調査中									
	主原因の詳細									
	第I層		第II層		第III層		第IV層			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 調査中		
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 調査中		
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	9 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 調査中
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	8 台	0 隻	0 機	15 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点 消防機関への通報に遅れが見られた。										
政 措 置	32 施設名				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	令和 4 年 4 月 20 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	令和 4 年 4 月 20 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		<input checked="" type="checkbox"/> 有 内容： ・法第11条第1項(無許可変更)について調査中。 ・法第16条の3第2号 消防機関への通報義務違反		
そ の 他	年 月 日		年 月 日							
35	検討中									
	今後の対策 や所見									

1 事故名	一般取扱所においてローリー積場配管の腐食孔からのガソリン流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 9日 5時 40分	推定・確定	4 発 見	9月 9日 5時 40分	
5 覚 知	9月 9日 6時 15分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 9日 6時 58分	
7 鎮火・処理完了	9月 9日 8時 18分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北北東 風速：3m/s 気温：15.5℃ 湿度：98.8%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 <u>第1種</u> 、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号(5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属 材料卸売業 石油卸売業	区 分：①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名：釧路				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 1,000,000L 5,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油、軽油 3,000,000L 3,000倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 1,000,000L 500倍 倍数の合計： 8,500倍				
12 施 設 装 置	設置の完成：昭和52年11月15日 直近の完成：平成25年7月29日				
名 称：ローリー充てん施設 番号(1402)					
能 力：5,000KL/日					
13 機 器 等	温度圧力：0.2Mpa				
名 称：配管(送油、注入管等) 番号(606)					
規 模：配管全長≒172m 容量≒6,000L 漏えい箇所の高さ 136cm 配管直径114cm					
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分				
名 称：その他の附属配管等 番号(299)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
材 質：鋼鉄	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(35L)				
15 発 生 時	18 取扱者の概要				
運 転 状 況：定常運転中 番号(1)	①. 選任有 2. 選任無				
作 業 状 況：運転操作中 番号(1)	3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無				
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： ローリー積場の配管からガソリンが漏えいしたもの。 ローリーに積込作業中の運転手が「パンッ」という音がしたため、周囲を確認すると配管から霧状のガソリンが噴出しているところを確認する。油槽所社員へ伝え、社員から所長へ報告後、119番通報する。油槽所社員により施設の緊急停止及び漏えい防止及び拡大防止処置を実施する。西救助隊現着後、微量の漏えいが継続していたため、ゴムバンド等を使用して更に応急処置を行い漏えいは完全に停止する。敷地外への流出はなし。負傷者なし。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号(1、10) 無 装置の緊急停止、その他					

25		主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
		関 連 原 因 維持管理不十分											
原 因	発生原因の状況： 2018年に漏えい箇所の塗装を実施しているが、ケレンが不十分であったと推測される。 2019年の外観目視点検で塗装状態が良いとの理由から異常なしと判断している。その後の日常点検や月例点検で目視点検を継続していたが、漏えいに至ったことからケレン作業が不十分な状態で塗装を行ったこと及び配管交換等の恒久的な対応が十分ではなかった可能性がある。また、現場管理委託を受けている業者から事業所へ配管の取替について相談をしたことがあったが、予算等の関係から取替には至らなかった。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	腐食			環境			多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	腐食			環境			塩分の影響						
	関連原因の詳細												
	設備			監理・保守			点検・整備			点検内容が不適切			
	設備			監理・保守			点検・整備			整備内容が不適切			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害							28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 一般取扱所ローリー積場内一部への流出のみ。取扱所外への流出はなし。					
区分													
当 事 者		0	0	0	0								
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 一般取扱所ローリー積場のガソリン配管の一部。					
第 三 者		0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	7 人	物質の被害状況： ガソリン35Lの流出			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人				
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (45 万円)			
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (4)						自衛防災・消防組織等 番号 (4、3、5)							
31 防災活動上の問題点													
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他					
	使用停止	年 月 日	年 月 日			定期・自主点検	令和 4 年 6 月 27 日	令和 4 年 6 月 16 日					
	改善命令等	年 月 日	年 月 日			気密試験等	年 月 日	年 月 日					
	停止解除	年 月 日	年 月 日			保安検査	年 月 日	年 月 日					
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：						
その他	年 月 日	年 月 日											
35 今後の対策や所見	法令点検や自主点検は行われていたが、今回漏えい箇所となったフランジ接続部分及び湿潤環境下にある部分についての点検は点検項目に明記はされていなかった。消防側から依頼し、点検項目の明記及びケレン作業に伴う補修方法について今後の再発防止策を提出してもらう。 今後は点検項目を追加し自主点検を強化、継続するとともに、異常があった箇所についての十分な処置と恒久的な対応を図るべきである。												

1 事故名	配管供給の一般取扱所において、移動タンク貯蔵所から灯油を荷卸し中に通気管から漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 13日 7時 50分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	10月 13日 8時 00分	
5 覚 知	10月 14日 8時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 13日 8時 40分	
7 鎮火・処理完了	10月 13日 11時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東北東 風速：7m/s 気温：17℃ 湿度：78%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 分類不能の産業 分類不能の番号 (9999) 産業 分類不能の産業 分類不能の産業		11 発 生 場 所		
			区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
			16 発生施設規制区分等		
			施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,000L 3倍		
12 施 設 装 置	名 称： 地下タンク 番 号 (1209)		設置の完成： 昭和 63年 11月 17日 直近の完成： 年 月 日		
	能 力： 専用地下貯蔵タンク3,000L				
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 3倍		
	名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)				
	規 模： 通気管 口径:20A				
14 発 生 箇 所	名 称： 通気管 番 号 (304)		17 物 質 の 区 分		
	材 質： 鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油(76L)		
15 発 生 時	運 転 状 況： 荷卸中 番 号 (13)		18 取 扱 者 の 概 要		
	作 業 状 況： 番 号 ()		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 配管供給の一般取扱所において、専用地下タンクの液面計が実際と異なる油量を表示していたため、移動タンク貯蔵所からの荷卸し時に地下タンクの容量限界を超えた受入れをしたことにより、地下タンクの通気管先端部から敷地及び隣地に灯油約76Lが流出した。なお、移動タンク貯蔵所の運転手(危険物取扱者)は漏えい後、直ちにエンジンを停止し、車載の中和剤を散布し、ウエスを用いて流出した灯油の一部を回収した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 故障		着火原因				番号 ()			
	関連原因									
	発生原因の状況： 専用地下タンクの液面計の表示残量が、実際の残量より少ない量で表示されていたため、過剰注油となり、灯油が通気管から流出した。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	故障		機能		機器の機能の停止					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 地下タンクから灯油約76Lが通気管周囲2m範囲の自己敷地内及び隣地住宅敷地に流出した。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 専用地下タンク液面計の故障			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油約76L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	2 台	0 隻	0 機	4 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
調査活動及び流出した灯油の処理活動										
31 防災活動上の問題点 消防機関への通報に遅れがあった。										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和4年7月22日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	令和4年7月22日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・無		
その他	年	月	日	年	月	日	内容： ・法第16条の3第2項 事故発生時の通報義務違反			
35	今後の対策 や所見 ・今後の対策 ・定期点検のほか、日常点検(自主点検)を実施し、事故防止及び異常の早期発見を図る。 所見 ・いつから液面計が適正に表示されなかったかは不明であるが、危険物施設内の異常を発見するためにも、日頃からの維持管理は重要であると考えられる。また、通報については事故処理を優先し、直ちに行われていなかったことから、事故発生時の適切な通報について、指導していくことが重要である。 これらを踏まえ、同種事案の再発防止対策の徹底について、指導及び注意喚起を実施する。									

1 事故名	第四棧橋払出配管からの重油流出事故		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	5月 9日 13時 40分 推定・ 確定	4 発 見	5月 9日 13時 40分
5 覚 知	5月 9日 14時 05分	6 鎮 圧 応急処置完了	5月 9日 16時 11分
7 鎮火・処理完了	5月 10日 9時 37分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南東 風速：3m/s 気温：14℃ 湿度：73%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製)、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 仙台地区		
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 9,900,000L 49,500倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油・軽油 9,900,000L 9,900倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 9,000,000L 4,500倍 倍数の合計： 63,900倍		
12 施 設 装 置	14 発 生 箇 所		
名 称：海上入出荷施設 番 号 (1401)	名 称：その他 番 号 (999)		
能 力：	材 質：鋼鉄		
13 機 器 等 温 度 圧 力：0.98Mpa	15 発 生 時		
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)		
規 模：12B、肉厚6.9mm 材質SGP	作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)		
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分		
名 称：その他 番 号 (999)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(6.4L)		
15 発 生 時	18 取 扱 者 の 概 要		
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)	19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)	20 危 険 物 保 安 監 督 者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要： オンラインファイル有	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い ①. 有 2. 無		
23 事 故 の 概 要： 令和4年5月9日14時05分頃、巡回中の職員が海面に油膜を発見。 流出元を探したところ、一般取扱所(第四棧橋)の重油出荷配管サポート付近から重油が流出しているのを確認した。			
24 緊 急 処 置 の 状 況 有 番 号 (10) 無 その他			

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因 維持管理不十分、施工不良										
	発生原因の状況： 流出部を確認すると、サポート付近(地上から265mm)から流出しており、サポートの構造上、ケレン及び塗装作業がしにくくなっている場所であった。 2012年に震災時の被害調査の為、配管点検を実施。点検後、外面の防食塗装を行ったが、この際施工が十分にされていないと推定される。 また、2018年の点検時に当該部分の外面腐食を確認していたが、補修計画を立案していなかった。										
	主要原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		防食		防食措置が悪いために腐食発生						
	関連原因の詳細										
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足				
施工不良		施工		工事時の措置不良							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名				
区分											
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 海上に流出(油膜) 施設側5m×30mの範囲				
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 払出配管に穿孔(1mmΦ×1箇所)				
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	20 台	0 隻	0 機	70 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	49 人	物質の被害状況： A重油(6.4L)	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	3 台	2 隻	0 機	8 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	4 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	6 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 情報収集活動実施					自衛防災・消防組織等 番号 (99) 現地本部、非常対策本部の設置 情報収集活動実施						
31 防災活動上の問題点											
行政措置	32 施設名	一般取扱所			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和3年9月2日	平成30年11月8日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：			
その他	令和4年5月10日	年		月	日						
35 今後の対策や所見 流出部のサポートをメンテナンスしやすい構造のものに変更する。 配管の点検周期を見直し、点検部門の報告書に対する改善計画の立案を速やかに行うよう進捗管理を徹底する。											

1 事故名	サービスタンクからボイラーへの地上重油送油管腐食に伴う流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 19日 10時 30分	推定・確定	4 発 見	7月 19日 11時 00分	
5 覚 知	7月 19日 11時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 19日 15時 00分	
7 鎮火・処理完了	7月 20日 13時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気:	風向:	風速: 1m/s	気温: 26℃	湿度: 81%
10 発 生 事 業 所	種 別: 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態: 製造業 非鉄金属製造業 電 番 号 (2441) 線・ケーブル製造業 電線・ ケーブル製造業(光ファイバ ケーブルを除く)		11 発 生 場 所	区 分: ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名:	
12 施 設 装 置	名 称: ボイラー施設 番 号 (1505) 能 力: 一般取扱所 ボイラー 2,500L/日		16 発生施設規制区分等	施設区分: ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別: 取扱所 施設別: 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数: 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 2,500L 1.25倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力: 名 称: 配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模: 送油管口径25A送油管長4.9m		倍数の合計: 1.25倍 設置の完成: 昭和 53年 5月 2日 直近の完成: 昭和 58年 5月 12日		
14 発 生 箇 所	名 称: その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質: 鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類: 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称: A重油(0.1L)	
15 発 生 時	運 転 状 況: 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況: 番 号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要: オンラインファイル無					
23 事故の概要: 7月14日の終業時に異常無かったが、7月19日の始業時に異臭があり、送油管腐食部より少量の滲みを確認した。外部への流出は無く、ボイラーの稼働を停止するとともに送油バルブの閉鎖した。にじみ出たA重油は吸着マットにより応急措置した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 経年劣化										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		防食		防食塗装・被覆剥離(経年による剥離)						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： サービスタンクからボイラーへの地上送油管			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 地上送油管の腐食			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	5 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)A重油 約100mL流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (1 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 漏えい箇所の確認、及び漏えい範囲の調査を実施。						自衛防災・消防組織等 番号 () 吸着マットによる回収除去					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	令和4年6月24日	令和4年7月14日			
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日				保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	年 月 日										
35 今後の対策 や所見 ボイラーによる湿気の影響を受け難い配管経路の検討。											

1 事故名	一般取扱所の焼却炉バーナーユニット軽油供給圧力減圧弁の下部からの軽油漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 8日 22時 40分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	4月 8日 22時 40分	
5 覚 知	4月 8日 23時 13分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 8日 23時 33分	
7 鎮火・処理完了	4月 9日 2時 13分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南西 風速：1m/s 気温：7℃ 湿度：83%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 廃油 2,920L 2.92倍				
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分				
名 称： 焼却装置 番 号 (1605)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
能 力： 容量 約2,500,000kcal/h/基(廃棄物300kg/h相当)	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(49L)				
13 機 器 等 温度圧力： 0.8Mpa	18 取扱者の概要				
名 称： その他の移送機器 番 号 (699)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有				
規 模： ユニットの大きさ:たて600mm、横2,250mm、高さ1,950mm	3. 不要				
14 発 生 箇 所	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
名 称： 制御弁 番 号 (205)	23 事 故 の 概 要： 2022年4月8日午後10時40分頃、定例パトロール中の作業員が、一般取扱所の焼却炉バーナーユニット軽油供給圧力減圧弁の下部に設置している軽油受けパンに軽油が滴下(2滴)していることを発見。同日午後10時43分、当該作業員が現場を確認したところ、当該減圧弁のガイドプラグに軽油が滲んでいることを確認し、滲みを拭き取りしたところ、ガイドプラグから軽油が漏えい。当該作業員は、当該減圧弁の上流に設置されている弁を直ちに閉止し、午後10時45分頃、軽油の漏えいが停止したことを確認。漏えいした軽油は、当該設備において焼却運転等を行う際に使用する燃料であり、漏えい範囲は、当該受けパン(約2.3m×約0.6m×高さ約5cm)の内側において約2.3m×約0.6m×深さ約3cm、及び当該受けパンの外側において約2m×約3m×約1mmであった。なお、建屋外への漏えいはなく、漏えいした軽油は、すくい取り及び拭き取りにより、2022年4月9日午前2時13分、回収作業が完了。				
材 質： その他	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他				
15 発 生 時					
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)					
作 業 状 況： その他 番 号 (99)					
19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要					
20 危険物保安監督者					

原因	25 主 原 因 破 損		着火原因		番号 ()										
	関 連 原 因 維持管理不十分														
	発生原因の状況： 施工時にガイドプラグが過大な力で締め込まれたことでねじ山が欠損した可能性があり、欠損したことに気付かず使用したことで、本来の機能通りにシールされず軽油が漏えいしたものと推定。維持管理については、点検リストに入っていないため点検等は実施していない。														
	主原因の詳細														
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層								
施工不良		施工時の確認		施工時に周囲の設備等を損傷したのに気付かず使用											
因	関連原因の詳細														
	設備		監視・保守		点検・整備		点検していない/不足								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から															
27 人的被害						28 物的被害									
被害内容等		死亡		重症		中等症		軽症		死傷原因		職業又は職名		被災影響範囲及び拡大の状況：	
区分														漏えい範囲は、焼却炉バーナコントロールユニットの受けパン(約2.3m×約0.6m×高さ約5cm)の内側において約2.3m×約0.6m×深さ約3cm、及び当該受けパンの外側において約2m×約3m×約1mm。建屋の外への漏えいはなく、漏えいした軽油は、すくい取りや拭き取りにより回収。	
当 事 者		0		0		0		0						施設等の被害状況：	
防災活動従事者		0		0		0		0						プラグのねじ山が欠損	
第 三 者		0		0		0		0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況															
消 防 機 関		1 台 0 隻 0 機 3 人		自 衛		3 台 0 隻 0 機 9 人		物質の被害状況：							
消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人		共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人		第4類第2石油類 軽油49L流出							
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人		応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人									
その他の機関		0 台 0 隻 0 機 0 人		その他		0 台 0 隻 0 機 0 人		損害額 1万円未満、 1万円以上 (27 万円)							
30 実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 (5)											
情報収集及び調査を実施。				建屋の外への漏えいはなく、漏えいした軽油は、すくい取りや拭き取りにより回収。											
31 防災活動上の問題点															
応急処置完了(4月8日 22時45分)から119番通報(同日 23時14分)まで時間を要した。															
行政措置	32 施設名				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他						
	使用停止		年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日		令和4年4月8日				
	改善命令等		年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日				
	停止解除		年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日				
	関係条項						34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ 無						
その他		年 月 日		年 月 日		内容：									
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭													
35 今後の対策や所見		当該事業所に対し、従業員への教育及び事故事例の周知徹底、漏えいしたプラグについては、プラグの増し締めを行っていないことを確認した上で新品の減圧弁と交換、今後の管理については、プラグの突き出し量の寸法測定及び弁本体とプラグに合マークを設け、プラグを増し締めしないようにすること、また、敷地内の同様の設備に対して調査、不備があれば交換するように指導。													

1 事故名	一般取扱所の重油配管からの漏えい						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	12月 26日 11時 30分	推定・確定	4 発 見	12月 26日 11時 58分			
5 覚 知	12月 26日 12時 21分			6 鎮 圧 応急処置完了	12月 26日 13時 15分		
7 鎮火・処理完了	12月 26日 15時 00分						
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況	天気：晴		風向：東北東		風速：1m/s		気温：9℃ 湿度：55%
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 <u>第1種</u> 、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所				11 発 生 場 所		
					区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 広野地区		
					16 発生施設規制区分等		
					施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 0L 0倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 1,395,900L 1,395.9倍		
12 施 設 装 置	名 称：その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力：5号点火用A重油供給配管:STPG370 S40 50A				設置の完成：平成 11年 9月 27日 直近の完成：平成 30年 8月 31日		
13 機 器 等							
	名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：5号点火用A重油供給配管:STPG370 S40 50A				倍数の合計： 1,395.9倍		
14 発 生 箇 所	名 称：その他 番 号 (999) 材 質：鋼鉄				17 物 質 の 区 分		
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：A重油(10L)		
					18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	1. 有 ②. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 配管の腐食防止用のテープ養生の端部より雨水の混入により配管の腐食による錆びが発生し漏えい							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 配管の腐食防止用のテープ養生の端部より雨水の混入により配管の腐食による錆びが発生し漏えい									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	腐食	防食	防食塗装・被覆剥離(経年による剥離)							
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害			28 物的被害							
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 配管ラック下部の道路周辺に飛散(3×5m) 事業所構外への流出なし			
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性) A重油 10L漏えい			
消 防 機 関	2台	0隻	0機	5人	自 衛	3台		0隻	0機	6人
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台		0隻	0機	0人
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台		0隻	0機	0人
その他の機関	1台	0隻	0機	2人	その他	0台		0隻	0機	0人
30 実施した防災活動の状況							損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)			
公設消防機関：番号 (99) 監視及び指示					自衛防災・消防組織等 番号 (5、3)					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	平成 30 年 9 月 19 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>				
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：						
35	漏えい配管の交換及び腐食しにくいSUS配管へ順次交換									
今後の対策 や所見										

1 事故名	ストレーナー交換時にバルブ操作を誤り油圧ユニットの配管フランジから作動油が流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	12月 27日 9時 13分 推定・ 確定	4 発 見	12月 27日 9時 13分
5 覚 知	12月 27日 9時 29分	6 鎮 圧 応急処置完了	12月 27日 13時 16分
7 鎮火・処理完了	12月 27日 16時 55分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴	風向：北西	風速：6m/s 気温：7℃ 湿度：56%
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 無機化学 番号 (1721) 工業製品製造業 ソード工業	区 分：①. 事業所内 (製)、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区		
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 45.5L 0.23倍 第4類第1石油類(水溶性液体) マーカー用インク 4L 0.01倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 消泡剤 480L 0.48倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 白灯油 393L 0.39倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 絶縁油 5,078L 2.54倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 14,500L 7.25倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) C重油 169,600L 84.8倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 切削油 264L 0.13倍 第4類第4石油類 潤滑油 1,490.4L 0.25倍 第4類第4石油類 油圧作動油 2,370L 0.4倍 第4類第4石油類 ギヤ油 1,008.2L 0.17倍 倍数の合計： 96.65倍		
12 施 設 装 置	14 発 生 箇 所		
名 称：その他【無機化学工業】 番号 (7199)	名 称：管継手(ダクトを含む) 番号 (201)		
能 力：生産能力 830t/日	材 質：鋼鉄		
13 機 器 等	15 発 生 時		
温度 圧力：	運 転 状 況：定常運転中 番号 (1)		
名 称：その他 番号 (999)	作 業 状 況：その他 番号 (99)		
規 模：油圧タンク容量 2,370Lポンプ能力 175kg/cm ²	17 物 質 の 区 分		
	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第4石油類 名称： 作動油(505L)		
	18 取扱者の概要 経験年数0年		
19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事故の概要： 一般取扱所内において、清掃作業準備中、油圧作動ユニット配管フランジより作動油が流出したものを。			
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()							
	関連原因											
	発生原因の状況： 清掃作業員が、掃除箇所を勘違いしており、別系統の作動油戻り配管用バルブの閉操作をした。さらに逃しラインのバルブも閉になっていたことから、タンクへの戻りが出来なくなり、配管圧力が上がり、耐圧性能を超えて、オイルフィルター下流部バルブのフランジ部ガスケットが破損し、流出に至ったもの。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	人		本人の意識		思慮		取り違い					
	関連原因の詳細											
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害				28 物的被害								
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：				
区分								影響なし				
当 事 者	0	0	0	0								
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況：				
第 三 者	0	0	0	0				ガスケット 破損				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	7 台	0 隻	0 機	23 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	25 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類 作動油 505L流出		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人			
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (17 万円)				
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99) 情報収集						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 情報収集、回収作業						
31 防災活動上の問題点												
32 施設名					33 定期点検等				消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・ <u>無</u>		内容：
32 措置	その他	年 月 日		年 月 日								
35 今後の対策 や所見 操作ミスを防ぐため、監視員を設けて2名体制での作業とするよう指導。また、バルブに常時「開・閉」等を表示し、ハンドル操作できないようにバルブを針金で繋結する。												

1 事故名	一般取扱所ダクトからの危険物流出事故		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	3月 24日 9時 00分
5 覚 知	3月 25日 13時 30分	6 鎮 圧 応急処置完了	3月 25日 12時 00分
7 鎮火・処理完了	8月 8日 9時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南 風速：1.4m/s 気温：13.9℃ 湿度：		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 その他の番号 (1799) 化学工業 他に分類されない 化学工業製品製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) MEK 100L 0.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) IPクリーン 4,200L 4.2倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) IPソルベント 6,000L 3倍 第4類第4石油類 DOP,DINP 8,700L 1.45倍 第4類7600L類 IPA 320L 0.8倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 9.95倍		
名 称： その他【分類なし】 番号 (9999)	設置の完成： 昭和 62年 12月 1日 直近の完成： 令和 4年 3月 22日		
能 力： 壁材に可塑剤を塗布	17 物 質 の 区 分		
13 機 器 等 温度 圧力：	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第4石油類 名称： DOP(30L) 第4類第4石油類 DINP		
名 称： 換気設備 番号 (916)	18 取扱者の概要		
規 模： ダクトの附属配管20A	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
14 発 生 箇 所	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有		
名 称： その他の附属配管等 番号 (299)	23 事 故 の 概 要： 壁材を作るため原料の紙上に可塑剤(DOP第4類第4石油類、DINP第4類第4石油類)を塗布し、オープンにて加熱、乾燥、型押しする工程で、発生する排煙を建物屋根上の排煙ダクトでダクト蓄熱式脱臭装置(RTO)に送り、燃焼処理され大気に放出される。 その際、ダクト内で排煙ミストが液化しダクト内に溜まることから、ダクト各所にあるドレン配管で油を集め、工場内のコンテナで回収している。 漏えいしたのは油を集めるためのドレン配管が詰まり、逆流してオイルパンに溜まり工場屋根から雨水排水経路を経て工場敷地内の油分離槽に流れ、処理しきれない油分が工場北側の用水に流れ込んだもの。		
材 質： 鋼鉄	24 緊急処置の状況 有 番号 () 無		
15 発 生 時			
運 転 状 況： 定常運転中 番号 (1)			
作 業 状 況： 運転操作中 番号 (1)			

原因	25 主 原 因 故障		着火原因				番号 ()	
	関連原因							
	発生原因の状況： 長年の使用により配管内の油が固まり、目詰まりを起こしたためオーバーフローを起こしたもの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	故障		機能		周囲からの異物の作用による機器の動作不良			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害						28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	
区分								
当 事 者		0	0	0	0			
防災活動従事者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	0台 0隻 0機 0人	自 衛	0台 0隻 0機 0人	物質の被害状況：				
消 防 団	0台 0隻 0機 0人	共 同	0台 0隻 0機 0人	第4類第4石油類 DOP流出 流出量不明				
海上保安部	0台 0隻 0機 0人	応 援	0台 0隻 0機 0人	第4類第4石油類 DINP流出 流出量不明				
その他の機関	0台 0隻 0機 0人	その他	0台 0隻 0機 0人	損害額 [1万円未満]、1万円以上 () 万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	令和3年10月30日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・[無]			
その他	年 月 日	年 月 日	内容：					
35	従業員の保安教育徹底							
今後の対策 や所見								

1 事故名	一般取扱所と屋内タンク貯蔵所を接続する配管からポリオールが漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 21日 11時 30分 推定・ 確定	4 発 見	11月 21日 11時 30分		
5 覚 知	11月 24日 11時 30分	6 鎮 圧 応急処置完了	11月 21日 11時 30分		
7 鎮火・処理完了	11月 21日 11時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西南西 風速：1.1m/s 気温：10.5℃ 湿度：98.8%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 一般機械器具製造業 番 号 (2682) 事務用・サービス用・民生用機 械器具製造業 冷凍機・温湿調 整装置製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)				
	特別防災地区名：				
12 施 設 装 置		16 発生施設規制区分等			
名 称： その他の合成樹脂製造装置 番 号 (5959)		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他			
能 力： ウレタン発泡設備		貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所			
13 機 器 等		類・品名・名称・数量・倍数：			
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		第4類第1石油類(非水溶性液体) シクロペンタン 863L 4.32倍			
規 模： 鋼製65A		第4類第4石油類 ポリオール 5,090L 0.85倍			
14 発 生 箇 所		第4類第4石油類 作動油 50L 0.01倍			
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)		設置の完成： 平成 10年 6月 5日			
材 質： 鋼鉄		直近の完成： 平成 31年 2月 20日			
15 発 生 時		17 物 質 の 区 分			
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
		(固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧)			
		(低温、 常温 [0-40℃]、高温)			
		分 類： 第4類第4石油類 名称： ポリオール(40L)			
		18 取扱者の概要			
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 屋内タンク貯蔵所から一般取扱所へポリオール(第4類第3石油類非水溶性)を送油する地上配管において、腐食し穿孔した部分から約40Lのポリオールが漏えいしたため、飛散漏えい防止措置としてウエス、防壁シート、油吸着剤を使用し流出拡大を防止した。					
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 配管は断熱材でカバーされており、外観上の確認はしていたが、内部の確認はしておらず、異常に気づかなかった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）						
因	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 地上配管下部に漏えいし、飛散漏えい防止措置としてウエス、防壁シート、油吸着剤を使用し流出拡大を防止した。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)ポリオールを送油する地上配管が腐食し穿孔した。			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)ポリオール 約40L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
事故調査										
31 防災活動上の問題点										
漏えい時に通報がなく、後日通報があった。										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項							34 当該施設に係る法令違反の有無		
その他	年 月 日	年 月 日		年 月 日			有・無 内容：			
35	配管点検方法の検討									
今後の対策や所見										

1 事故名	一般取扱所において、ミニローリーに充てん中に、停止レバーの操作を誤ったことによる灯油の流出						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	2月 24日 9時 28分	推定・ 確定	4 発 見	2月 24日 9時 28分			
5 覚 知	2月 24日 15時 00分				6 鎮 圧 応急処置完了	2月 24日 17時 00分	
7 鎮火・処理完了	2月 24日 17時 00分						
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (別件出向時に覚知したもの)						
9 気 象 状 況	天気：晴	風向：	風速：	気温：	湿度：		
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属 材料卸売業 石油卸売業			11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
12 施 設 装 置	名 称： ローリー充てん施設 番 号 (1402) 能 力：			16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 69,000L 69倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 20,000L 20倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 20,000L 10倍		
13 機 器 等	温 度 圧 力：			倍数の合計： 99倍			
13 機 器 等	名 称： ローディングアーム 番 号 (604) 規 模： 吐出量700L/min			設置の完成： 昭和 53年 12月 16日 直近の完成： 令和 2年 12月 14日			
14 発 生 箇 所	名 称： タンクの注入口 番 号 (905) 材 質： アルミニウム			17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油(630L)		
15 発 生 時	運 転 状 況： 荷積中 番 号 (12) 作 業 状 況： 充填中 番 号 (12)			18 取扱者の概要	経験年数0年		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	1. 有 ②. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有							
23 事故の概要： 一般取扱所において、ローディングアームでミニローリーに充てん中に停止レバーの操作を誤り、かつ、行為者が緊急停止方法を知らなかったため、ミニローリーのタンク注入口からオーバーフローし灯油630L(うち1~2Lが下水)が流出したもの。なお、吸着マットを使用し応急措置を実施した。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因 操作未実施、監視不十分					
	発生原因の状況： 行為者が停止レバーの操作を誤った際、緊急時における教育訓練を受けていなかったため緊急停止措置が実施されず、かつ、教育訓練を受けた者の立会いがなかったため灯油の流出を招いたもの。					
	主要原因の詳細					
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層	
	人		本人の意識		思慮	
因	関連原因の詳細					
	制度		教育・訓練		内容	
	人		本人の知識・能力		知識	
					教育・訓練がない/不足	
					知識不足	
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
27 人的被害				28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因
区分						職業又は職名
当 事 者	0	0	0	0		
防災活動従事者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	0	0		
被災影響範囲及び拡大の状況： 一般取扱所から灯油630Lが流出し、そのうち1~2Lが事業所排水管から下水に流れ込んだもの。流出範囲は敷地境界線から20m程度に収まっている。						
施設等の被害状況： なし						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	6 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油 630L流出						
損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円						
30 実施した防災活動の状況						
公設消防機関：番号 (99) 調査活動				自衛防災・消防組織等 番号 (5, 6)		
31 防災活動上の問題点 別件出向時に報告を受けたもので、発災時から時間経過が認められる。未実施である。保安業務に対する教育に改善の余地がある。						
行政措置	32 施設名	一般取扱所		33 定期点検等		消 防 法
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 3 年 6 月 21 日	そ の 他
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項	法第14条の2第4項		34 当該施設に係る		[有]・無 内容： 法第14条の2第4項 予防規程遵守義務違反
	予防規程遵守義務違反			法令違反の有無		
その他	令和 4 年 3 月 28 日	年 月 日				
①. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策や所見	保安教育の実施 再発防止策として取扱いに係る掲示板の設置					

1 事故名	一般取扱所において、バルブ誤操作による流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発生	2月 25日 12時 21分	推定・ 確定	4 発生	見	2月 25日 12時 21分
5 覚知	2月 25日 12時 21分		6 鎮圧 応急処置完了		2月 25日 12時 38分
7 鎮火・処理完了	2月 25日 15時 51分				
8 覚知別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気象状況	天気：晴 風向：西北西 風速：1.2m/s 気温：10.9℃ 湿度：11%				
10 発生事業所	種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 製造業 金属製品製造業 金 番 号 (2552) 属素形材製品製造業 金属ブ レス製品製造業(アルミニウ ム・同合金を除く)				
11 発生場所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
12 施設装置	名称： その他【鉄鋼・非金属工業】 番 号 (6199) 能力： 4,900L				
13 機器等	温度圧力： 900℃ 名称： 焼入れ、焼戻し炉 番 号 (403) 規模： 4,900L				
14 発生箇所	名称： 開閉弁 番 号 (204) 材質： 鋼鉄				
15 発生時	運転状況： 試運転中 番 号 (14) 作業状況： 運転操作中 番 号 (1)				
16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類アルコール類 アルコール 180L 0.45倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 熱処理油 14,400L 7.2倍 倍数の合計： 7.65倍 設置の完成： 昭和 53年 12月 27日 直近の完成： 昭和 62年 6月 15日				
17 物質の区分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 熱処理油(900L)				
18 取扱者の概要	経験年数1年				
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要	オンラインファイル無				
23 事故の概要	一般取扱所において、従業員が滴注式ガス雰囲気炉のバルブを誤操作したため、隣接する炉から流入したオイル約900Lが漏えいしたものの。				
24 緊急処置の状況	有 番号 (10) 無 その他				

原 因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 操作確認不十分									
	発生原因の状況： 従業員の経験不足により本来閉鎖しなければならないバルブを閉鎖しなかった。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の知識・能力		技能・技術力		経験不足/習熟不足			
	関連原因の詳細									
	人		本人の意識		思慮		思い込み			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 当該施設内のみの流出		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 破損等なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)熱処理油約900L漏えい
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (22 万円)				
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動										
31 防災活動上の問題点										
32 施設名										
政 策 措 置	使用停止	年 月 日		年 月 日		33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和3年12月1日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日	
	関係条項					保 安 検 査		年 月 日	年 月 日	
	その他	年 月 日		年 月 日		34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：		
35 今後の対策 や所見		当該事業所に対し、従業員への教育を徹底するよう指導したところであるが、今後、管内の他の事業所に対しても指導を行い、同種事故防止に努める必要がある。								

1 事故名	一般取扱所において送油配管のフランジ部分から、軽油約1,740Lが施設内に漏れ出し、うち50Lが施設外に流出した流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 13日 13時 07分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	4月 14日 8時 45分	
5 覚 知	4月 14日 13時 49分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 14日 14時 30分	
7 鎮火・処理完了	4月 14日 15時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (県消防課担当者からの連絡)				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南 風速：3.7m/s 気温：26.6℃ 湿度：49.7%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 分類不能の産業 分類不能の番号 (9999) 産業 分類不能の産業 分類不能の産業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番号 (9999) 能 力： 排水ポンプ		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 20,742L 20.74倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 配管(送油、注入管等) 番号 (606) 規 模： フランジ		倍数の合計： 20.74倍 設置の完成： 昭和44年 11月 1日 直近の完成： 平成27年 12月 21日		
14 発 生 箇 所	名 称： 管継手(ダクトを含む) 番号 (201) 材 質： ステンレス		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(1,740L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 停止中 番号 (5) 作 業 状 況： 番号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 河川排水ポンプを稼働させるための一般取扱所において、送油配管のフランジ部分から軽油が約1,740L施設内に漏れ、うち約50Lが配管ピット内クラックから施設外に染み出て水路の表面に広がった流出事故					
24 緊急処置の状況 有 番号 () <input checked="" type="checkbox"/> 無					

25	主 原 因 設計不良	着火原因	番号 ()					
原 因	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 配管内の危険物が自動閉止弁と逆止弁に挟まれ密閉状態になり、温度変化等で内圧が上昇してガスケットが破損したと推定する。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	設計不良	能力	想定を越えた圧力の発生					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害			28 物的被害					
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 河川に設置したオイルフェンスでほぼ回収できたが、若干の軽油が下流20mまで流れたとの報告があった。河川流出に伴う被害なし。 施設等の被害状況： 送油配管フランジ部分ガスケット破損	
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油が1,740Lが施設内に流出 損害額 1万円未満、 1万円以上 (23 万円)	
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人		
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 (6、4、5)				
31 防災活動上の問題点 事業所からの通報なし。								
32 政 措 置	施 設 名				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和 4 年 2 月 18 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ 無 内容：	
そ の 他	年 月 日	年 月 日						
		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭					
35 今 後 の 対 策 や 所 見	床面クラックの補修と配管の内圧上昇対策							

1 事故名	一般取扱所において、ドラム缶への抜き取りホース破損による第3石油類の流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 22日 10時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	11月 22日 10時 00分	
5 覚 知	11月 22日 13時 06分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 22日 10時 03分	
7 鎮火・処理完了	11月 22日 10時 10分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西 風速：6.4m/s 気温：17.7℃ 湿度：45.8%				
10 発 生 事 業 所	種 別： ①特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 化学肥料 番号 (1719) 製造業 その他の化学肥料製 造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) クラール用混合液 19,550L 9.78倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： その他のタンク	番 号 (1299)	能 力：	設置の完成： 平成 4年 5月 27日	直近の完成： 令和 2年 7月 10日	倍数の合計： 9.78倍
13 機 器 等	温 度 圧 力：	名 称： 混合、溶解槽	番 号 (106)	18 取扱者の概要	
規 模： 9m ³		14 発 生 箇 所	名 称： ホース(給油、注油及び注入ホースを除く)	番 号 (211)	材 質： 合成樹脂
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中	番 号 (1)	作 業 状 況： 運転操作中	番 号 (1)	
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： 溶解槽よりクラール用混合液の200Lドラム缶への抜き取り開始直後に抜き取り用ホース配管が暴れていたため、すぐに抜き取りロバルブを「開」にしたが、抜き取り用ホース配管の接続部分が裂けて混合液が作業場所周辺の床に漏れ出した。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () <input type="checkbox"/> 無					

25	主 原 因 操作確認不十分	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 抜取口バルブを閉じた状態でポンプを起動させてしまい、かつ循環ラインバルブ「閉」であったため、ホース配管内の圧力が上昇し、接続部が破断した。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	人	本人の意識	思慮	思い込み						
	関連原因の詳細									
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27	人的被害		28 物的被害							
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： タンク周囲の床に約1Lの危険物が漏えい		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： タンク周囲の床に約1Lの危険物が漏えい		
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： タンク周囲の床に約1Lの危険物が漏えい		
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻		0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻		0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻		0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻		0 機	0 人
30	実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動										
31	防災活動上の問題点									
政 策 措 置	32 施設名									
	使用停止	年 月 日			年 月 日					
	改善命令等	年 月 日			年 月 日					
	停止解除	年 月 日			年 月 日					
	関係条項									
	その他	年 月 日			年 月 日					
33 定期点検等										
	定期・自主点検	年 月 日								
	気密試験等	年 月 日								
	保安検査	年 月 日								
34	当該施設に係る法令違反の有無			有・ <input type="checkbox"/> 無						
内容：										
35	今後の対策や所見									
チェックシートを作成し、バルブ開閉手順を現場へ掲示する。 配管に圧力計を設置し、抜取り作業時にホース内圧力を監視できる体制をとる。										

1 事故名	一般取扱所においてドラム缶からタンクローリーに移し替え中に発生した潤滑油の漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 5日 11時 12分	推定・ 確定	4 発 見	1月 5日 11時 12分	
5 覚 知	1月 5日 11時 27分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 5日 12時 10分	
7 鎮火・処理完了	1月 5日 13時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北 風速：5m/s 気温：6℃ 湿度：23%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 第1種 、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1821) 造業 潤滑油・グリース製造業 (石油精製業によらないもの) 潤滑油製造業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部	
12 施 設 装 置	名 称：ローリー充てん施設 番 号 (1402) 能 力：届出最大取扱数量第3石油類:20KL第4石油類:108KL 可燃性液体類:20KL		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 20,000L 10倍 第4類第4石油類 潤滑油 108,000L 18倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：運搬車 番 号 (602) 規 模：積載容量:14KL		倍数の合計： 28倍 設置の完成：昭和 63年 2月 15日 直近の完成：令和 3年 3月 10日		
14 発 生 箇 所	名 称：その他 番 号 (999) 材 質：アルミニウム		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第4石油類 名称：潤滑油(200L)	
15 発 生 時	運 転 状 況：荷積中 番 号 (12) 作 業 状 況：充填中 番 号 (12)		18 取扱者の概要	経験年数19年	
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 潤滑油製品ドラム缶からタンクローリーへの詰替え(タンクローリー吸上作業)を行っていた際、2KLタンク室へ10ドラム吸い上げ予定に対し、誤って12ドラム吸い上げてしまいマンホールから漏えいさせた。 漏えい量 200L。(漏えい油はタンクローリー上部の防護枠内に滞留)					
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 操作確認不十分	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 製品ドラム缶の本数を勘違いし、予定より多い本数の吸い上げ作業を行った。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	人	本人の意識	思慮	不注意						
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害			28 物的被害							
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいによりタンクローリー上部の防護枠内に漏えい油(潤滑油)が滞留した。取扱所、事業所外への漏えいなし。			
当 事 者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 無			
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	6 台	3 隻	0 機	13 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	9 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類(潤滑油)200L 漏えい
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (3 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 警戒筒先を配備、被害拡大の恐れがないことを確認した。					自衛防災・消防組織等 番号 (5) タンクローリー内で被害が留まっていることを確認した。					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和3年 1月 5日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保 安 検 査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無	内容：			
そ の 他	年 月 日	年 月 日	年 月 日							
35 今後の対策 や所見	ドラム吸取り作業を行う場合、ドラムに油種ばさみをドラム天板に挟み、また、ドラムキャップは積み込むドラム本数分のみ外すこととし、吸取りドラムの本数誤りを防止する。									

1 事故名	MXへキサン回収塔(T-242)塔頂圧力計取出配管からのガス漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 8日 14時 15分	推定・ 確定	4 発 見	1月 8日 14時 15分	
5 覚 知	1月 8日 14時 33分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 8日 17時 44分	
7 鎮火・処理完了	1月 9日 10時 40分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北 風速：1m/s 気温：11℃ 湿度：30%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学 番号 (1731) 工業製品製造業 石油化学系 基礎製品製造業(一貫して生産される誘導品を含む)	区 分：①. 事業所内 (製)、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：1 危険物 2 高压ガス ③ 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第2類引火性固体 MT触媒 1,040kg 1.04倍 第4類特殊引火物 イソソク 29,932L 598.64倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 1-ヘキセン 225,338L 1,126.69倍 第4類第3石油類(水溶性液体) 帯電防止剤 410L 0.1倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) シェルオイル 243.5L 0.12倍 第4類第4石油類 潤滑油 4,233L 0.71倍 倍数の合計： 1,727.3倍				
12 施 設 装 置	設置の完成：平成 9年 12月 10日 直近の完成：令和 3年 1月 5日				
名 称：ポリエチレン製造装置 番号 (5102)	17 物 質 の 区 分				
能 力：ポリエチレン:30万t/年	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、 気相) (常圧、 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：1-ヘキセン(104kg)				
13 機 器 等	18 取扱者の概要				
名 称：蒸留、精留塔(スクリュー、スリッパ) 番号 (101)	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
規 模：直径1,400mm、高さ30,294mm、容量41.35m ³	20 危険物 保安監督者				
14 発 生 箇 所	21 危険物取扱者 の取扱・立会い				
名 称：その他の附属配管等 番号 (299)	①. 有 2. 無				
材 質：鋼鉄					
15 発 生 時					
運 転 状 況：定常運転中 番号 (1)					
作 業 状 況： 番号 ()					
19 危険物保安 統括管理者	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
20 危険物 保安監督者	23 事 故 の 概 要： 当該機器プラットフォーム補修工事のため、撤去作業準備を行っていた協力会社員が作業箇所周辺で臭気を感じたため、現場課員へ連絡。連絡を受けた担当者が、ポータブルガス検知器を用いて周囲にの確認を行ったところ、当該配管より可燃性ガスが漏えいしていることを確認。直ちに社内119通報を行うとともに、当該設備の縁切り操作を開始した。				
21 危険物取扱者 の取扱・立会い	24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他				

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分		発生原因の状況： 当該配管の目視点検、肉厚測定及び保温材の設置状況より、今回破孔した箇所は、保温板金のコーキング劣化した箇所より雨水が侵入し外面腐食により減肉し破孔に至ったと推定する。							
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
	関連原因の詳細									
	26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： なし		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 外面腐食により減肉し破孔		
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	7 台	0 隻	0 機	26 人	自 衛	3 台	0 隻	0 機	20 人	物質の被害状況： 1-ヘキセン 104kg
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台	0 隻	0 機	8 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 情報収集					自衛防災・消防組織等 番号 (99) 大型化学高所放水車にて放水実施。警戒待機					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和 3 年 11 月 19 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	令和 3 年 11 月 15 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	令和 3 年 1 月 5 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無				
その他	年 月 日	年 月 日		内容：						
35 今後の対策 や所見		破孔部及び周辺の腐食の著しい箇所を同材同形状で取り替える。 水平展開として、当該施設の過去に外面腐食点検を行った範囲において、今回の事例と同様に炭素鋼配管でトレース施工されている箇所の再点検をプラントスタート前に行う								

1 事故名	3号プライマリタービン第2軸受振動計取付箇所より油漏えいし発煙				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 27日 5時 15分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	1月 27日 5時 15分	
5 覚 知	1月 27日 5時 19分	6 鎮 圧 応急処置完了	1月 27日 7時 48分		
7 鎮火・処理完了	1月 27日 7時 48分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南東 風速：2m/s 気温：0℃ 湿度：88%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <input checked="" type="checkbox"/> 第2種、その他)	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)				
業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所	特別防災地区名：京葉臨海中部地区				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第4石油類 潤滑油 317,499L 52.92倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 52.92倍				
名 称：発電装置 番 号 (4101)	設置の完成：昭和47年 7月 26日 直近の完成：平成22年 3月 26日				
能 力：取扱量:317.499KL	17 物 質 の 区 分				
13 機 器 等	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分類：第4類第4石油類 名称：潤滑油(1L)				
名 称：タービン 番 号 (504)	18 取扱者の概要				
規 模：取扱量:317.499KL	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
14 発 生 箇 所	21 危険物取扱者の の取扱・立会い				
名 称：軸受 番 号 (903)	①. 有 2. 無				
材 質：鋼鉄					
15 発 生 時					
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)					
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)					
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： タービンの軸振動が高かったため現場確認を実施したところ 第2軸受振動検出器付近より油が泡状に漏れているのを確認した。 振動値が高かったため、振動検出器のプロープ部に隙間ができてしまった。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
原 因	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 3号機プライマリ第2軸受振動検出器プローブの軸と外筒の隙間が規定値より広がっており、プローブの排油口より処理できない油が泡状に漏れた。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		その他					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 3号機プライマリータービン第2軸受け振動計付近より潤滑油が漏えいしたもの。事業所外への漏えいなし。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 被害なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第4石油類 潤滑油 1L程度流出			
消 防 機 関	9 台	0 隻	0 機	21 人	自 衛	0 台		0 隻	0 機	7 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台		0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台		0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 (4)					
ガス検知器にて環境測定を実施し、異常なしを確認後、漏えい箇所の確認をしたところ、当該箇所には当該職員によりオイル吸着シートが巻き付けられており、吸着シートに若干のオイルが滲んでいることを確認した。2時間程待機した後に吸着シートを外し、オイルの漏えいなしを確認した。										
31 防災活動上の問題点 特記無し。										
32 施設名	使用停止		年 月 日		年 月 日		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	改善命令等		年 月 日		年 月 日			定期・自主点検	令和3年6月9日	年 月 日
	停止解除		年 月 日		年 月 日			気密試験等	年 月 日	年 月 日
	関係条項							保安検査	年 月 日	年 月 日
	その他		年 月 日		年 月 日		34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>		
			1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭			内容：		
35 今後の対策や所見							触診による設備点検を定期的に行い、必要に応じてクリアランス測定を実施。			

1 事故名	発電タービン軸受け用潤滑油の配管つまりによる漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 9日 10時 00分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	2月 9日 10時 00分	
5 覚 知	2月 9日 11時 18分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 9日 14時 50分	
7 鎮火・処理完了	2月 9日 14時 50分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北東 風速：2m/s 気温：10℃ 湿度：52%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <input checked="" type="checkbox"/> 第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区	
16 発生施設規制区分等			施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第4石油類 潤滑油 1,500L 0.25倍 第4類第2石油類(水溶性液体) 軽油 4,500L 2.25倍		
12 施 設 装 置	名 称：発電装置 番 号 (4101) 能 力：不明		設置の完成：平成 11年 2月 22日 直近の完成： 年 月 日 倍数の合計： 2.5倍		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：発電機 番 号 (704) 規 模：発電量36万KW				
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質：鋼鉄		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分 類： 第4類第4石油類 名称：潤滑油(350L)		
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取 扱 者 の 概 要		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 潤滑油を発電タービン軸受け部に供給する為の設備の小出し槽の液面変動(減少)があったため調査をしたところ、タービン軸受け部からの油の漏えいを確認したもの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

原	25 主 原 因 故障		着火原因		番号 ()							
	関連原因 維持管理不十分											
	発生原因の状況： 潤滑油配管内部に錆等の不純物が詰まったことにより、循環不順によるもの											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	故障		機能		周囲からの異物の作用による機器の動作不良							
因	関連原因の詳細											
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害						28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 潤滑油の漏えい				
区分												
当 事 者		0	0	0	0							
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 潤滑油350L漏えい				
第 三 者		0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	1台	0隻	0機	2人	自 衛	0台	0隻	0機	2人	物質の被害状況： 潤滑油350L漏えい		
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人			
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人			
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)		
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99) 現場到着時、現場調査を実施した。						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 現場到着時、作業員からの状況聴取等を実施した。						
31 防災活動上の問題点												
政 策 措 置	32 施設名						33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止		年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日		年 月 日	
	改善命令等		年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日	
	停止解除		年 月 日		年 月 日		保 安 検 査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項						34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>			
	そ の 他		年 月 日		年 月 日				内容：			
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭								
35 今後の対策 や所見		ハード及びソフト面の対策を確実に実施するよう指導した。										

1 事故名	第1充填場(1PK)セカンダリーブチルアルコール(SBA)出荷配管フィルター部からの漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 16日 13時 23分	推定・確定	4 発 見	6月 16日 13時 50分	
5 覚 知	6月 16日 14時 02分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 16日 14時 16分	
7 鎮火・処理完了	6月 16日 15時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：西北西 風速：3.1m/s 気温：22℃ 湿度：				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区	
16 発生施設規制区分等			施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 揮発油 200,000L 1000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) セカンダリーブチルアルコール(SBA) 12,000L 12倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 1,700,000L 850倍 倍数の合計： 1,862倍		
12 施 設 装 置	名 称：ローリー充てん施設 番 号 (1402)		設置の完成：昭和38年 2月 28日 直近の完成：令和4年 3月 25日		
13 機 器 等	温度圧力：0.55Mpa 名 称：フィルター 番 号 (908) 規 模：フィルター直径(外径):318.5mm				
14 発 生 箇 所	名 称：フィルター 番 号 (910)		17 物 質 の 区 分		
15 発 生 時	材 質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：セカンダリーブチルアルコール(SBA)(4.1L)		
19 危険物保安統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 2022年6月16日(木)13時23分頃、第1充填場(1PK)を通りかかった関係会社社員がセカンダリーブチルアルコール(SBA)出荷配管フィルター上蓋フランジ部からSBAの漏えいを確認。直ちに所管部署に報告。所管部署員によるフィルター上下流弁を閉止することで漏えいは停止した。回収作業中に周辺側溝内にSBAを確認したため通報。直ちに、側溝内に土嚢を設置し拡散を防止。側溝内のSBAを回収しガス検0ppmを確認した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 調査中					着火原因					番号 ()					
	関連原因 調査中															
	発生原因の状況： 調査中															
	主原因の詳細															
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層			
	関連原因の詳細															
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																
27 人的被害										28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 他に影響なし								
区分																
当 事 者		0	0	0	0											
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 他施設への影響なし								
第 三 者		0	0	0	0											
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																
消 防 機 関	6 台 0 隻 0 機	15 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機	6 人	物質の被害状況： セカンダリーブチルアルコール(SBA) 4.1L										
消 防 団	0 台 0 隻 0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機	0 人											
海上保安部	0 台 0 隻 0 機	0 人	応 援	1 台 0 隻 0 機	3 人											
その他の機関	3 台 0 隻 0 機	4 人	その他	0 台 0 隻 0 機	118 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (1 万円)										
30 実施した防災活動の状況																
公設消防機関：番号 (99) 情報収集										自衛防災・消防組織等 番号 (4) オイルマットを使用して回収作業						
31 防災活動上の問題点																
32 施設名																
行政措置	使用停止	年 月 日				年 月 日				33 定期点検等			消 防 法		そ の 他	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検			年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				年 月 日				気密試験等			年 月 日		年 月 日	
	関係条項									保安検査			年 月 日		年 月 日	
	その他	年 月 日				年 月 日				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ 無 内容：			
		1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭										
35 今後の対策や所見																
類似フィルター(ストレーナー)について、外観目視検査を実施した。																

1 事故名	BK1,2号炉 油圧装置から潤滑油が漏えいした事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 12日 14時 20分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	7月 12日 14時 30分	
5 覚 知	7月 12日 15時 25分	6 鎮 圧 応急処置完了	7月 12日 18時 25分		
7 鎮火・処理完了	7月 12日 18時 25分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇	風向：南東	風速：	気温：	湿度：
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <input checked="" type="checkbox"/> 第2種、その他) 業 態：製造業 窯業・土石製品製造業 番 号 (2297) その他の窯業・土石製品製造業 石灰製造業				
11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区				
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 非水溶性液体 57,600L 288倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 36,000L 18倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 再生油 39,000L 19.5倍 第4類第4石油類 潤滑油 900L 0.15倍 倍数の合計： 325.65倍				
13 機 器 等	温度圧力：15Mpa 名 称：その他 番 号 (999) 規 模：容量:500L外観寸法:2,000mm×1,600mm×1,570mm				
14 発 生 箇 所	設置の完成：昭和 49年 10月 14日 直近の完成： 年 月 日				
15 発 生 時	17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第4石油類 名称：潤滑油(3L)				
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 発生施設: BK1,2号炉(施設区分: 一般取扱所) GL+約37m地点の屋外フロアに設置されている油圧装置ユニットより潤滑油漏えい 半径約5m範囲で飛散し周辺構造物へ付着					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 当該油圧ホースは2014年3月設置-交換履歴無し									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 半径約5m範囲で飛散し周辺構造物へ付着		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 当該油圧ホースの亀裂		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	9 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	5 人	物質の被害状況： 潤滑油 約3L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (46 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 情報収集				自衛防災・消防組織等 番号 (5) 吸着マットを使用し回収作業						
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
	その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日					
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策 や所見	油圧ホースの交換周期の設定をする									

1 事故名	一般取扱所において、ドラム缶からタンクローリーに移し替え中に投入量間違いにより発生した潤滑油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 29日 9時 00分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	7月 29日 9時 00分	
5 覚 知	7月 29日 9時 20分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 29日 9時 30分	
7 鎮火・処理完了	7月 29日 14時 36分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西 風速：2.2m/s 気温：31.1℃ 湿度：54%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 <input checked="" type="checkbox"/> 第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1821) 造業 潤滑油・グリース製造業 (石油精製業によらないもの) 潤滑油製造業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区	
12 施 設 装 置	名 称：ローリー充てん施設 番 号 (1402) 能 力：届出最大取扱量 第3石油類:20KL、 第4石油類:108KL、可燃性液体類:20KL		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 20,000L 10倍 第4類第4石油類 潤滑油 108,000L 18倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：運搬車 番 号 (602) 規 模：積載容量:12KL		倍数の合計： 28倍 設置の完成：昭和 63年 2月 15日 直近の完成：令和 3年 3月 10日		
14 発 生 箇 所	名 称：その他 番 号 (999) 材 質：アルミニウム		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第4石油類 名称：潤滑油(250L)	
15 発 生 時	運 転 状 況：荷積中 番 号 (12) 作 業 状 況：充填中 番 号 (12)		18 取扱者の概要	経験年数12年	
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 潤滑油スロップドラムからタンクローリーへの詰替え(タンクローリー吸い上げ作業)を行っていた際、4KLハッチへ20ドラム吸い上げ 予定に対して、誤って23ドラム吸い上げてしまい(23本目途中で漏えい発見)ハッチから漏えいさせた。漏えい量250L、内50Lが取扱所床 に流出した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 操作確認不十分	着火原因	番号 ()				
原 因	関 連 原 因						
	発生原因の状況： 潤滑油スロップドラムの本数を勘違いし、予定より多い本数の吸い上げを行った。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	人	本人の意識	思慮	不注意			
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害			28 物的被害				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出によりタンクローリー上部の防護枠内に潤滑油スロップが滞留、一部が取扱所床に流出した。 他施設、事業所外への流出なし。
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							施設等の被害状況： 無
消 防 機 関	6 台	0 隻	0 機	13 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 10 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	3 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
物質の被害状況： 流出量 250L							
30 実施した防災活動の状況							損害額 1万円未満 、1万円以上 (万円)
公設消防機関：番号 (99) 調査活動				自衛防災・消防組織等 番号 (3)			
31 防災活動上の問題点							
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 3 年 1 月 5 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：	
そ の 他	年 月 日	年 月 日	年 月 日				
35 今後の対策 や所見		教育担当乗務員を添乗させ、作業手順の再教育を実施し、積込予定のドラム缶へ各ハッチ分の目印をつけ積込間違い防止を図る。					

1 事故名	一般取扱所において、ドラム缶に潤滑油を充填中に、ドラム缶の位置を誤り潤滑油が取扱所床に流出した				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 5日 9時 40分	推定・ 確定	4 発 見	9月 5日 9時 40分	
5 覚 知	9月 5日 9時 47分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 5日 9時 50分	
7 鎮火・処理完了	9月 5日 15時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北東 風速：2m/s 気温：25.2℃ 湿度：79%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 第1種 、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1821) 造業 潤滑油・グリース製造業 (石油精製業によらないもの) 潤滑油製造業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 112,000L 56倍 第4類第4石油類 潤滑油 288,000L 48倍				
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分				
名 称：ドラム充てん施設 番 号 (1403)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
能 力：届出最大取扱量 第3石油類:112KL、第4石油類:288KL、可燃性液体類:35KL	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第4石油類 名称：潤滑油(100L)				
13 機 器 等 温度 圧 力：30℃、0.5Mpa	18 取扱者の概要 経験年数0年				
名 称：充てん機 番 号 (901)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有				
規 模：200Lドラム充填機	3. 不要				
14 発 生 箇 所	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
名 称：計量口 番 号 (904)	23 事故の概要： ドラム缶へ潤滑油製品を充填する作業中、容器が本来の位置にセットされなかったため正規の重量測定ができず容器の容量を超えた製品(約100L)が容器から流出した。				
材 質：ステンレス	24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止				
15 発 生 時					
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)					
作 業 状 況：充填中 番 号 (12)					

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()							
	関 連 原 因 誤操作											
	発生原因の状況： ドラム製品充填担当がドラム缶への充填開始時、本来充填機に対しドラム缶充填口(大栓)を進行方向上流側になるようにドラム缶を設置する作業ルールを誤り、逆方向に設置した。 充填量を測定する重量秤の正位置からドラムの位置がずれ、正規の値を示さなかったことで満充填になったにもかかわらず充填が継続され、漏えいが発生した。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	人		本人の意識		思慮		取り違い					
	関連原因の詳細											
	人		本人の知識・能力		技能・技術力		経験不足/習熟不足					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害						28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出により取扱所床に流出した。 他施設、事業所外への流出なし。				
区分												
当 事 者	0	0	0	0								
防災活動従事者	0	0	0	0								
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 無				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	7 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	11 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類(潤滑油:ディーゼルエンジン油)100L		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人			
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (3、5)						
調査活動												
31 防災活動上の問題点												
32 施設名					33 定期点検等				消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和4年 1月 6日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無				
措 置	その 他		年 月 日		年 月 日		内容：					
35 今後の対策 や所見 今後の対策として充填機の設定変更を行い、ドラム缶が正確な位置に配置された状態ではないと充填開始できないよう設定をする。また、担当者への再教育を実施する。												

1 事故名	ポリエチレン製造施設のブローダウンラインからのヘキサンガス流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 7日 3時 07分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	11月 7日 3時 07分	
5 覚 知	11月 7日 3時 19分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 7日 7時 28分	
7 鎮火・処理完了	11月 7日 7時 28分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南東 風速：0m/s 気温： 湿度：				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学 番 号 (1731) 工業製品製造業 石油化学系 基礎製品製造業(一貫して生産 される誘導品を含む)				11 発 生 場 所
					区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、 <input checked="" type="checkbox"/> 他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部
12 施 設 装 置	名 称：ポリエチレン製造装置 番 号 (5102) 能 力：63,000t/y				16 発生施設規制区分等
					施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) n-ヘキサン 490,000L 2,450倍 第4類アルコール類 メタノール 72L 0.18倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 300L 0.15倍 第4類第4石油類 潤滑油 1,200L 0.2倍
13 機 器 等	温 度 圧 力：40℃				倍数の合計： 2,450.53倍
	名 称：排気設備 番 号 (917) 規 模：直径:500A				
14 発 生 箇 所	名 称：配管の架台、サポート 番 号 (217) 材 質：鋼鉄				設置の完成：平成 元年 4月 15日 直近の完成：令和 4年 2月 12日
15 発 生 時	運 転 状 況：スタートアップ中 番 号 (2) 作 業 状 況： 番 号 ()				17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：n-ヘキサン(5L)
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 01-第7(1BC一般取扱所)附属の複数施設(一般取扱所(2エリア)、屋外タンク貯蔵所(2エリア))共用の排ガスフレア送り配管のサポート 付近からヘキサンが漏えいしたものの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： ブローダウンラインとサポート部の間での外面腐食による減肉開口。 ・配管を取外し確認した結果、サポート部に設置されたアングルにより配管とサポート間に大量の錆が堆積しており、この堆積した錆に含まれる水分により腐食が進行し開口したものと推定。 ・2008年にこのブローダウンラインはサポート部(45か所)腐食点検を行い、今回漏えいした箇所を含む2か所以外は検査を行い、防食テープによる対策を実施した。2か所についてはジャッキアップが難しいことから、非破壊検査を実施し肉厚に問題ない事を確認し、そのままとなっていた。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		異種金属間腐食					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： なし		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 腐食が進行し開口した		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	6 台	0 隻	0 機	21 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	66 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量:200L 第1石油類 n-ヘキサン 5L程度
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	3 台	0 隻	0 機	6 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 漏えいの対策検討・協議及び鎮火確認					自衛防災・消防組織等 番号 (5) スタートアップ操作を中止し、関係配管の縁切を実施し、ブローダウンライン上流の関連する施設(ポリエチ施設、モノマー施設、PP触媒施設)からN2を送気し、配管内の可燃性ガスをフレアスタックにて焼却。					
31 防災活動上の問題点 消防局指揮隊への情報供給が上手く出来なかった。訓練を繰り返し素早く対応できるように進めたい。事業所内に防災訓練を予定。										
32 行政措置	施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無 内容：		
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策や所見	ブローダウンラインの検査から10年以上経過している箇所もあり、サポート下の再検査のあり方を検討する									

1 事故名	タンクローリー積場において、潤滑油製品を充填中、機器操作誤りにより発生した潤滑油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発生	11月 7日 14時 25分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発生見	11月 7日 14時 25分	
5 覚知	11月 7日 14時 50分		6 鎮圧 応急処置完了	11月 7日 14時 30分	
7 鎮火・処理完了	11月 7日 16時 10分				
8 覚知別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気象状況	天気：曇 風向：南 風速：1m/s 気温：15℃ 湿度：70%				
10 発生事業所	種別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 <input checked="" type="checkbox"/> 第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製番号(1821) 造業 潤滑油・グリース製造業 (石油精製業によらないもの) 潤滑油製造業		11 発生場所	区分：①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区	
12 施設装置	名称：ローリー充てん施設 番号(1402) 能力：届出最大取扱量 第3石油類:40KL、第4石油類:120KL、可燃性液体類:35KL		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 40,000L 20倍 第4類第4石油類 潤滑油 120,000L 20倍	
13 機器等	温度圧力： 名称：運搬車 番号(602) 規模：積載容量:16KL		設置の完成：昭和49年 1月 30日 直近の完成：令和元年 9月 25日 倍数の合計：40倍		
14 発生箇所	名称：その他 番号(999) 材質：アルミニウム		17 物質の区分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第4石油類 名称：潤滑油(30L)	
15 発生時	運転状況：荷積中 番号(12) 作業状況：充填中 番号(12)		18 取扱者の概要	経験年数30年	
19 危険物保安統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 潤滑油製品をローディングアームを使用し、充填を行っていた際、ローディングアーム補助装置のスイッチ切替を誤ったことによりローディングアームが上昇した。 上昇したことによりハッチからズレ、潤滑油製品30Lがタンクローリー上部の防護枠内に流出した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号(1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因 誤操作							
	発生原因の状況： ローディングアーム補助装置の切替スイッチを中立位置に切り替えたと思込み充填を開始したが切替位置が上昇側になっていたためローディングアームが上昇し流出に至った。							
	主要原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	人		本人の意識		思慮		不注意	
	関連原因の詳細							
	人		本人の意識		思慮		思い込み	
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害						28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	
区分								
当 事 者		0	0	0	0			
防災活動従事者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			
						被災影響範囲及び拡大の状況： 流出によりタンクローリー上部の防護枠内に潤滑油製品が滞留した。施設床等への流出はなかった。		
						施設等の被害状況： 無		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関		6 台	0 隻	0 機	13 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 8 人	
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関		1 台	0 隻	0 機	1 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
						物質の被害状況： 第4類第4石油類(潤滑油製品) 30L		
						損害額 [1万円未満]、1万円以上 () 万円)		
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 (5)				
調査活動								
31 防災活動上の問題点								
32 施設名								
政 策 措 置	使用停止	年 月 日		年 月 日		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	令和4年 1月 6日	年 月 日
	停止解除	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日
	関係条項					保安検査	年 月 日	年 月 日
	その他	年 月 日		年 月 日		34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・[無] 内容：	
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭				
35 今後の対策や所見								
取扱者は作業手順を再度確認し、施設監督者は取扱者が作業手順を遵守しているかなど、積込中の監視状況の確認を徹底する。 今後、経年劣化等が見受けられる設備の更新及び安全機能を設けることを検討する。								

1 事故名		汚泥焼却炉のT-102附属のリリーフ弁が設計不良によりT-102ベント先端から副生油が流出した事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		12月 16日 9時 40分	推定・ 確定	4 発 見	12月 16日 9時 40分		
5 覚 知		12月 16日 10時 08分			6 鎮 圧 応急処置完了	12月 16日 10時 55分	
7 鎮火・処理完了		12月 16日 12時 00分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：西南西		風速：0.6m/s 気温：11℃ 湿度：	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 第1種 、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学 番 号 (1731) 工業製品製造業 石油化学系 基礎製品製造業(一貫して生産される誘導品を含む)				区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 副生油 6,720L 33.6倍			
12 施 設 装 置							
名 称：高級アルコール製造装置 番 号 (5906)							
能 力：T-102(容量1m ³)副生油クッションタンク設計圧力:2.0MPa 運転圧力:大気圧設計温度:100℃運転温度:40℃							
13 機 器 等				温度 圧 力：			
名 称：燃焼、焼却炉 番 号 (402)							
規 模：T-102(容量1m ³)副生油クッションタンク口径・材質： φ900×L1,400mm 実容量:1.0m ³				倍数の合計： 33.6倍			
14 発 生 箇 所				設置の完成：平成 4年 6月 28日 直近の完成：令和 4年 12月 2日			
名 称：ベント管、ブロー管、放出管 番 号 (303)				17 物 質 の 区 分			
材 質：鋼鉄				①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：副生油(300L)			
15 発 生 時				18 取扱者の概要			
運転状況：定常運転中 番 号 (1)							
作業状況： 番 号 ()							
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： T-102への副生油供給配管に設置してあるリリーフ弁の設計圧力が誤っていたことにより、リリーフ弁が吹き出しT-102へ流入し、液面が上昇し続けて、ベント先端部から漏えいに至ったもの							
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

25	主 原 因 設計不良	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因									
	発生原因の状況： リリース弁の設計に誤りがあった。 設計背圧は0.67MPaであったが、実際は大気圧=0.0MPaに設計する必要があった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	設計不良	能力	処理能力不足（処理能力の限界を超えたため溢流等）							
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害			28 物的被害							
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 汚泥焼却炉の囲い内			
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 汚泥焼却炉の囲い内			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	5 人	物質の被害状況： 漏えい物質:副生油；第4類第1石油類、推定漏えい量；約300L 油水分離槽内での油処理(回収済:約40L)
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	5 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 現地指揮及び対策本部 災害情報等収集活動、近隣各社への環境影響及び人的被害の状況確認 自衛消防車両出動待機 防液堤内油回収作業				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策 や所見	設計承認者、設計担当者及び仕様書に関わる担当者に対して再教育を実施									

1 事故名	一般取扱所のドライヤー設備に使用されている重油の河川への流出事故						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	4月 5日 0時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	4月 5日 13時 40分			
5 覚 知	4月 5日 17時 14分			6 鎮 圧	4月 5日 20時 37分		
7 鎮火・処理完了	4月 13日 12時 00分			6 応急処置完了			
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況	天気：曇		風向：東		風速：3m/s		気温：15.9℃ 湿度：77%
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1841) 造業 舗装材料製造業 舗装 材料製造業			11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
12 施 設 装 置				16 発生施設規制区分等			
名 称： アスファルト製造装置	番 号 (2118)		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他		貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所		
能 力： 180t/日			類・品名・名称・数量・倍数：		第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 14,400L 7.2倍		
13 機 器 等	温 度 圧 力：				倍数の合計： 7.2倍		
名 称： その他	番 号 (999)		規 模： 2.5m×2.5m		設置の完成： 平成 4年 2月 10日		
14 発 生 箇 所	番 号 (999)				直近の完成： 令和 4年 4月 28日		
名 称： その他	番 号 (999)		材 質： コンクリート		17 物 質 の 区 分		
15 発 生 時	番 号 (5)		運 転 状 況： 停止中		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
作 業 状 況： 点検中	番 号 (5)				5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
					(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧)		
					(低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温)		
					分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(100L)		
					18 取扱者の概要 経験年数5年		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 一般取扱所内の清掃不良等により堆積した重油が、時間の経過とともに油分離槽及び雨水沈殿槽に貯留し、雨水とともに河川に流出したものの。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他							

原因	25 主 原 因 維持管理不十分		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： ドライヤー設備の防油堤が一部破損していたこと、油分離槽の一部破損により機能していなかったこと、一般取扱所及びその周囲に重油が貯留することが常態化し、清掃不良であった。複数の要因により一般取扱所から重油が施設外へ流出し、時間経過とともに油分離槽の許容量を超えたため側溝を経由して雨水沈殿槽に貯留し、雨水とともに河川に流出したものの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	環境		物理的環境		作業スペース		整理・清掃されない			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 重油約100Lが側溝を経由し雨水沈殿槽に貯留し、雨水とともに河川へ流出し、下流約500mまで到達。 施設等の被害状況： なし		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	21 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 重油約100L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	6 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (3) 排水管に土のうを設定し流出量を低減					自衛防災・消防組織等 番号 (3、6、8、5) オイルフェンス、吸着マットにより河川の油の回収、土のう、鉄板を活用し拡散防止措置、付近住民への広報					
31 防災活動上の問題点 通報までに3時間半要している。										
行政措置	32 施設名	一般取扱所		地下タンク貯蔵所		33 定期点検等	消 防 法		そ の 他	
	使用停止	令和 4 年 4 月 5 日		令和 4 年 4 月 5 日		定期・自主点検	令和 4 年 4 月 3 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	令和 4 年 4 月 3 日		年 月 日	
	停止解除	令和 4 年 4 月 13 日		令和 4 年 4 月 13 日		保安検査	年 月 日		年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項		法第12条の3第1項		34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容： 無資格者による立会いなしの取り扱い。危険物取扱者の保安講習未受講。油分離槽の滯油、土砂の堆積。一般取扱所内の清掃不良。重油吹付等の無許可変更。防油堤内の滯油、土砂の堆積。保有空地内の物件存置。ドライヤー設備防油堤の破損。			
その他	年 月 日		年 月 日							
35 今後の対策や所見	事故の発生要因は、人的要因によるものである。適切な維持管理、点検が重要であることを強く継続指導していく必要がある。									

1 事故名	一般取扱所において、送油配管から重油若干が地面に流出したもの		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	7月 19日 13時 00分
5 覚 知	7月 19日 13時 46分	6 鎮 圧 応急処置完了	7月 19日 13時 30分
7 鎮火・処理完了	7月 19日 13時 30分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南西 風速：11.4m/s 気温：27.2℃ 湿度：		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 795L 0.8倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 33,293L 16.65倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称： 発電装置 番 号 (4101)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能 力： 重油1,387L/h	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(0.1L)		
13 機 器 等 温度 圧力：	倍数の合計： 17.45倍		
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	設置の完成： 昭和 34年 12月 15日 直近の完成： 平成 29年 6月 29日		
規 模： 20A	18 取扱者の概要		
14 発 生 箇 所	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)	20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
材 質： 鋼鉄	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
15 発 生 時	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
運 転 状 況： 停止中 番 号 (5)	23 事 故 の 概 要： 一般取扱所において、屋外タンクから重油が送油される配管から、重油若干が床面に流出したもの。		
作 業 状 況： 点検中 番 号 (5)	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止		

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 海水による塩害による腐食と推定される。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		塩分の影響					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設敷地内床面に重油が流出		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管若干		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	2 人	物質の被害状況： 重油若干
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 (5, 4) 漏油箇所の一次側、二次側の弁を閉鎖、重油の除去					
31 防災活動上の問題点 通報の遅れ。										
行政措置	32 施設名	一般取扱所			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			保安検査	年 月 日	
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・無 内容：		
その他	防災安全指導 令和 4 年 7 月 19 日			年 月 日						
35 今後の対策 や所見	日常点検において流出を発見し、被害拡大を未然に防いだ事案である。当該発電所の施設設置から30年から60年経過しているため、他の施設に関しても同様の事故が予想されてことから、引き続き日常点検等の維持管理が重要である。									

1 事故名	一般取扱所において、焼却炉の配管から熱媒油が流出したもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 28日 11時 00分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	7月 28日 11時 00分	
5 覚 知	7月 28日 11時 50分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 28日 11時 35分	
7 鎮火・処理完了	8月 2日 10時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南 風速：2m/s 気温：30.8℃ 湿度：79%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 水 番 号 (3631) 道業 下水道業 下水道処理 施設維持管理業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 第1石油類 1,700L 8.5倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 第3石油類 12,900L 6.45倍 第4類第4石油類 第4石油類 1,215L 0.2倍 倍数の合計： 15.15倍 設置の完成： 令和 3年 9月 21日 直近の完成： 令和 3年 9月 21日	
12 施 設 装 置			13 機 器 等		
名 称： 焼却装置	番 号 (1605)	名 称： 温度 圧力： 100℃、0.09Mpa	名 称： 焼却炉	番 号 (402)	規 模： 熱媒油配管(STPG370)
14 発 生 箇 所	名 称： その他の附属配管等	番 号 (299)	材 質： 鋼鉄	17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 熱媒油(0.1L)
15 発 生 時	運 転 状 況： 停止中	番 号 (5)	作 業 状 況： 点検中	番 号 (5)	18 取 扱 者 の 概 要
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 設備の定期点検において、熱媒油配管から熱媒油が漏れ、地面に垂れていたもの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

25	主 原 因 施工不良	着火原因	番号 ()				
原 因	関 連 原 因						
	発生原因の状況： 溶接作業時、風除け措置を実施せず行ったため、シールド不良によりピンホールが発生、流出したもの。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	施工不良	施工	溶接不良				
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害			28 物的被害				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 熱媒油配管
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 熱媒油配管
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 熱媒油若干
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 6 人	
							損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)
30 実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 (5) 熱媒油の除去			
31 防災活動上の問題点							
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/> 内容：	
そ の 他	年 月 日	年 月 日	年 月 日				
35 今後の対策 や所見		定期点検中に早期発見され、最小限の被害で収まった事案であるが、溶接作業の手順について見直しを図り再発防止に努める必要がある。					

1 事故名	一般取扱所において、送油配管から重油若干が地面流出したものの										
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()										
3 発 生	月	日	時	分	推定・確定	4 発 見	8月	24日	22時	10分	
5 覚 知	8月	25日	9時	30分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月	24日	22時	15分	
7 鎮火・処理完了	8月	25日	22時	15分							
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()										
9 気 象 状 況	天気：		風向：		風速：	気温：		湿度：			
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所					11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 200L 0.2倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 200L 0.2倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 50,266L 25.13倍				
12 施 設 装 置						13 機 器 等					
名 称： 自家発電施設	番 号 (1503)	名 称： 配管(送油、注入管等)	番 号 (606)	規 模： 25A	温度圧力：	設置の完成： 昭和 34年 12月 15日	直近の完成： 昭和 35年 3月 31日	倍数の合計： 25.53倍			
能 力：		名 称： その他の附属配管等	番 号 (299)	材 質： 鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(1L)					
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者				18 取扱者の概要	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 発電機停止後に点検を行ったところ、送油配管から重油が地面に1㎡の範囲に流出したものの。											
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他											

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 長期使用により、溶接部は経年劣化									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 送油配管から重油が地面に1㎡の範囲で流出		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 送油配管		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	1 人	物質の被害状況： 重油若干
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (5 万円)										
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 (5, 4) 重油の除去、バルブの閉鎖				
31 防災活動上の問題点 通報の遅れ。										
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	平成 29 年 12 月 14 日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：		
その他	年	月	日	年	月	日	1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭			
35 今後の対策 や所見	流出発生時に吸着材等による衝動対応は実施できていたが、通報が翌日になされているので、早期の通報を指導する必要がある。									

1 事故名	一般取扱所において、ベント噴出口から灯油流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 17日 3時 30分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 17日 3時 30分	
5 覚 知	3月 17日 3時 35分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 17日 5時 22分	
7 鎮火・処理完了	3月 17日 5時 22分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北東 風速：1.4m/s 気温：10.6℃ 湿度：72%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 業 態：	①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他)		区 分： ①. 事業所内 (<input checked="" type="checkbox"/> 製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)		
	製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		特別防災地区名：京浜臨海地区		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等				
名 称：硫黄回収装置 番 号 (2110) 能 力：152t/日	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他				
	貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所				
13 機 器 等	類・品名・名称・数量・倍数：				
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模：直径1,524mm、高さ4,572mm	第4類第1石油類(非水溶性液体) 添加:DMDS剤 77,000L 385倍				
	第4類第1石油類(非水溶性液体) 添加剤(デマルファ) 1,300L 6.5倍				
14 発 生 箇 所	第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 2,861,000L 14305倍				
名 称：ベント管、ブロー管、放出管 番 号 (303) 材 質：鋼鉄	第4類第2石油類(非水溶性液体) 添加剤(NALC05273) 230L 0.23倍				
	第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 4,134,000L 4,134倍				
15 発 生 時	第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,699,000L 9,699倍				
運 転 状 況：停止中 番 号 (5) 作 業 状 況：点検中 番 号 (5)	第4類第3石油類(非水溶性液体) 添加剤:SZ45 36,000L 18倍				
	第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 42,500L 21.25倍				
19 危険物保安 統括管理者	第4類第3石油類(非水溶性液体) 重質油 1,796,700L 898.35倍				
	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
20 危険物 保安監督者	第4類第3石油類(非水溶性液体) 残渣油 11,559,300L 1,926.55倍				
	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
21 危険物取扱者 の取扱・立会い	第4類第4石油類 潤滑油 2,220L 0.37倍				
	①. 有 2. 無				
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 地震の影響で電力供給が止まり緊急停止した施設で、施設内の灯油タンクの払い出しポンプが停止しているにもかかわらず、装置間の圧力差により灯油がタンクに逆流し、タンクが満液となった。その後、タンクのベント配管にも灯油が流れ込み、ベント配管出口より灯油約350Lが漏えいしたものの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 維持管理不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因 其他の地震等災害							
	発生原因の状況： 装置間にある逆止弁が固着し、灯油が逆流したもの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	設備		監視・保守		点検・整備		点検していない/不足	
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害						28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内に灯油が流出
区分								
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	4 台 0 隻 0 機	16 人	自 衛	3 台 0 隻 0 機	14 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油約350L流出		
消 防 団	0 台 0 隻 0 機	0 人	共 同	7 台 0 隻 0 機	17 人			
海上保安部	0 台 0 隻 0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機	0 人			
その他の機関	0 台 0 隻 0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機	0 人			
						損害額 1万円未満、 <input checked="" type="checkbox"/> 1万円以上(3 万円)		
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 (4、5)				
・情報収集 ・検知活動								
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和3年10月25日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無 内容： 法第10条3項違反			
その他	年 月 日	年 月 日						
		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策や所見								
逆止弁の交換を実施し、適正な点検頻度を定めることとした。								

1 事故名		一般取扱所における、20号タンクドレン弁より廃ヘキサン流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		4月 11日 13時 40分	推定・確定	4 発 見	4月 11日 13時 43分		
5 覚 知		4月 11日 14時 09分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 11日 15時 35分		
7 鎮火・処理完了		4月 11日 15時 35分					
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：南		風速：5.8m/s 気温：22.2℃		湿度：62%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学 番号 (1735) 工業製品製造業 プラスチック製造業				区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第2類引火性固体 アルミニウムエチレート 840kg 0.84倍 第4類第4石油類 潤滑油 11,396L 1.9倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) トランス油 4,890L 2.44倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ノルマルヘキサン 231,673L 1,158.37倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) オルトケイ素エチル 917L 0.92倍			
12 施 設 装 置							
名 称：ポリエチレン製造装置 番号 (5102)							
能 力：							
13 機 器 等				温度圧力：			
名 称：貯槽(タンク) 番号 (107)							
規 模：容量3.5KL							
14 発 生 箇 所				倍数の合計： 1,164.47倍			
名 称：ドレンノズル 番号 (208)				設置の完成：昭和 55年 3月 6日 直近の完成：令和 2年 12月 23日			
材 質：鋼鉄				17 物 質 の 区 分			
15 発 生 時				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：廃ヘキサン(4.3L)			
運 転 状 況：停止中 番号 (5)							
作 業 状 況：定期修理中 番号 (2)							
18 取扱者の概要		経験年数32年					
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	
						①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 装置は定修中であり、配管はパージ洗浄済みであった。事故当時、20号タンクの廃ヘキサン槽(5D-207 容量3.5KL)の開放検査が終了し、ライン復旧のためタンク上流側のフランジを緩めて仕切り板を取り外したところフランジ部から液体が滲み出た。作業員は水だと判断し、即座にフランジを締めなおしたため、当該20号タンクに液体が流れ込み、開放されていたタンク底部ドレンからさらに地下ピット内に漏えいした。 その後地下ピットに設置されていた固定ガス検知器が鳴動したため、調査したところ、パージ洗浄不足により、液体にヘキサンが混じり込んでいたものと判明。(流出量85L(うちヘキサン4.3L))							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送							

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 定修時のページ作業について、配管の形状によって、水押しで洗浄しきれない箇所があったが、完了基準が手順書化されてらず、洗浄不足となった。										
	主要原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	制度		規則・手順		内容・周知		規則・手順がない/文書化されない				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 当該20号タンクの防油堤内に収まった。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 無し			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況： 廃へキサン4.3L流出			
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	20 人	自 衛	1 台	0 隻			0 機	4 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻			0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻			0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5)						
・警戒筒先配備 ・ガス検知活動 ・情報収集											
31 防災活動上の問題点											
32 施設名											
政 策 措 置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	令和 3 年 8 月 26 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	関係条項							保安検査	年 月 日	年 月 日	
その他	年 月 日			年 月 日			34 当該施設に係る 法令違反の有無		<input type="checkbox"/> 有・無 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反		
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭										
35 今後の対策や所見											
確実に洗浄作業ができる手順書を作成することとした。											

1 事故名	一般取扱所内において油圧プレス機が正常に作動しなかったことにより作動油が流出したものの		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	4月 13日 18時 30分 推定・ 確定	4 発 見	4月 13日 18時 30分
5 覚 知	4月 14日 8時 30分	6 鎮 圧 応急処置完了	4月 14日 13時 00分
7 鎮火・処理完了	4月 14日 13時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：雨	風向：東	風速：2m/s 気温：13℃ 湿度：86%
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 その他の製造業 他 番 号 (3299) に分類されない製造業 他に 分類されないその他の製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 2,352L 2.35倍 第4類第3石油類(水溶性液体) 切削油 108L 0.03倍 第4類第4石油類 作動油 19,539L 3.26倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 5.64倍		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	設置の完成： 昭和 50年 2月 27日 直近の完成： 令和 3年 11月 25日		
能 力： 油圧プレス機	17 物 質 の 区 分		
13 機 器 等	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 高温) 分類： 第4類第4石油類 名称： 作動油(500L)		
名 称： その他 番 号 (999)	18 取扱者の概要		
規 模： 縦16,500mm、横4,200mm、高さ3,000mm	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
14 発 生 箇 所	21 危険物取扱者の の取扱・立会い		
名 称： その他の機器等本体 番 号 (199)	①. 有 2. 無		
材 質： その他			
15 発 生 時			
運 転 状 況： スタートアップ中 番 号 (2)			
作 業 状 況： 番 号 ()			
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 作業者が、作業前の準備段階として油圧プレス機の電源を入れた。その段階であれば、サービスタンクからプレス機に危険物が供給されることはない。しかし数分後、プレス機から異様な音がしたため、プレス機を確認したところ危険物の漏えいが発見された。作業者は他の作業者とともに、設備を停止し、吸着マット等で漏えいした危険物の回収を行うとともに、施設外へ流出がないことを確認した。プレス機から漏えいした危険物の量は500L。			
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

25	主 原 因 故障	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 本来であれば、作業前の準備段階として油圧プレス機の電源を入れた後、別のボタンを押下することでサービスタンクから危険物が供給される。しかし本件では、プレス機の電源を入れた段階で危険物が供給されてしまった。部品毎に故障、不具合が認められないため、電氣的な誤作動と推定した。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	故障	機能	機器の異常動作							
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害			28 物的被害							
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 一般取扱所内に作動油が流出		
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 油圧プレス機故障		
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 作動油500L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
									損害額 1万円未満、 1万円以上 (50 万円)	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
35 今後の対策や所見 正常に機器が作動しなかった際の対応を統一的に作業員に周知させる必要があると考える。										

1 事故名	発電設備の密閉油フィルターの上部パッキンから潤滑油流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発生	5月 4日 13時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発見	5月 4日 13時 05分	
5 覚知	5月 4日 13時 22分		6 鎮圧 応急処置完了	5月 4日 13時 05分	
7 鎮火・処理完了	5月 4日 13時 05分				
8 覚知別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気象状況	天気：晴 風向：南 風速：7.1m/s 気温：23.1℃ 湿度：40%				
10 発生事業所	種別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <input checked="" type="checkbox"/> 第2種、その他) 業態：電気・ガス・熱供給・水道業 電話番号(3311) 気業 電気業 発電所		11 発生場所	区分：①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区	
12 施設装置			16 発生施設規制区分等		
名称：発電装置	番号(4101)		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他	貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所	
能力：18KV			種類・品名・名称・数量・倍数：	第4類第4石油類 潤滑油 51,000L 8.5倍	
13 機器等	温度圧力：45℃、0.8Mpa		倍数の合計：8.5倍		
名称：ポンプ	番号(501)		設置の完成：平成19年10月1日		
規模：吐出量486L/min			直近の完成：平成19年10月1日		
14 発生箇所	名称：ストレーナー		17 物質の区分		
材質：鋼鉄	番号(209)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
15 発生時	5. 毒物 6. 劇物 7. その他		①. 選任有 2. 選任無		
運転状況：停止中	番号(5)		3. 不要		
作業状況：定期修理中	番号(2)		21 危険物取扱者の取扱・立会い		
			①. 有 2. 無		
18 取扱者の概要					
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 作業員が現場巡回中、タービン軸冷却用水素密閉ラインのストレーナーのフランジ部から潤滑油が約20L漏えいしているのを発見したものの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号(1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： ガスケット取付け時にフランジを過剰に締め付けたため、ガスケットが圧壊し、約半年間使用した後に漏えいしたものの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	施工不良		施工		ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 潤滑油が装置囲い内へ流入		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： ガスケットが圧壊		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	4 人	物質の被害状況： 潤滑油20L漏えい
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) ・情報収集				自衛防災・消防組織等 番号 (5)						
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和4年5月4日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反					
35	今後の対策 や所見	再発防止策として、フランジの過剰締め付けが発生しないよう、フランジ締め付け管理値を設定する。								

1 事故名	一般取扱所における凝縮器本体の腐食開口部からのケロシン流出事故					
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生	5月 12日 18時 30分	推定・確定	4 発 見	5月 12日 18時 37分		
5 覚 知	5月 12日 19時 06分	6 鎮 圧 応急処置完了		5月 12日 19時 10分		
7 鎮火・処理完了	5月 12日 19時 41分					
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況	天気：雨		風向：南		風速：3.3m/s 気温：19.3℃ 湿度：91%	
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 電気機械器具製造業 番号 (2712) 発電用・送電用・配電用・産業用 電気機械器具製造業 変圧器 類製造業(電子機器用を除く)					11 発 生 場 所
12 施 設 装 置						16 発生施設規制区分等
名 称： その他【分類なし】	番 号 (9999)	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京浜臨海地区				
能 力： ケロシン噴霧流量 4,000L/h	16 発生施設規制区分等					
13 機 器 等	温度 圧力： 40℃		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類アルコール類 フリックス 40L 0.1倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,465L 3.47倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 絶縁油 421,000L 210.5倍 第4類第4石油類 ケビン油 6,281L 1.05倍 第4類第4石油類 潤滑油 1,660L 0.28倍			
名 称： その他	番 号 (999)	倍数の合計： 215.4倍				
規 模： 縦500mm、横500mm、高さ500mm	設置の完成： 昭和 47年 8月 28日 直近の完成： 平成 30年 10月 16日					
14 発 生 箇 所	名 称： その他の機器等本体		番 号 (199)		17 物 質 の 区 分	
材 質： 鋼鉄	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス					
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中		番 号 (1)		5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (80L)	
作 業 状 況： 運転操作中	番 号 (1)		18 取扱者の概要			
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い
①. 有 2. 無						
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無						
23 事故の概要： 乾燥炉の真空ポンプの作動音が大きいことに気づき、真空ポンプの停止と作動を2回実施したところ、保温材施工されている凝縮器から水混じりのケロシン(灯油)が約80L漏えいしているのを発見したものを発見した。凝縮器は、外気へ蒸気を排出するための通気管に設置されており、蒸気を冷却して油分及び水分を回収するための機器である。						
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止						

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 故障									
	発生原因の状況： 銅製の冷却配管が軟鋼製の凝縮器底板に接触していたため、腐食が進行し開口したところに、ケロシントankからオーバーフローしたケロシンが流入し、流出したもの。 なお、ケロシントankのオーバーフローは、ケロシントankの液面計が故障していたため油面を検知できなかったことが原因であるが、ケロシントankに多量のケロシンが流入したのは、上流の油水分離タンクの液面計の下部留め具が外れフロートが脱落したために、上流の油水分離タンクにて液面を検知することができず、油水分離タンクがオーバーフローし、さらに、2回目に真空ポンプを作動させた際に、通常ケロシンの蒸気が通りケロシントankへ至る配管の自動弁に油水分離タンクの液面計から脱落したフロートがバルブに噛みこみ、弁の閉止を妨げため、ケロシントankに多量のケロシンが流入し、ケロシントankをオーバーフローさせたもの。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		異種金属間腐食					
	関連原因の詳細									
	故障		機能		機器の機能の停止					
故障		機能		周囲からの異物の作用による機器の動作不良						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0					
						被災影響範囲及び拡大の状況： 一般取扱所の床面にケロシン(灯油)流出				
						施設等の被害状況： 冷却配管が腐食開口し、ケロシン(灯油)が約80L流出				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	20 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	6 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)ケロシン(灯油)が約80L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text" value=""/> 万円)										
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (99)				
・情報収集 ・検知活動						・検知活動				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	一般取扱所(＃14超大型変圧器組立場)			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	令和 4 年	5 月	13 日	年	月	日	定期・自主点検	令和 4 年 4 月 4 日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	令和 4 年	6 月	1 日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		<input type="checkbox"/> 有・無 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反			
その他	年	月	日	年	月	日				
1. 文書	2. 口頭			1. 文書		2. 口頭				
35 今後の対策 や所見	凝縮器の取替えにあたり、異種金属腐食及び内面腐食が進行しないよう凝縮器の材質を変更するとともに、ケロシントank及び油水分離タンクの液面計の改修及びフロート脱落防止及び計器の点検頻度及び内容の見直し、異常停止後の再稼働手順について教育するよう指導した。									

1 事故名	移動タンク貯蔵所へガソリン等を充填中する一般取扱所内でのガソリン漏えい事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 13日 8時 30分	推定・確定	4 発 見	5月 13日 8時 30分	
5 覚 知	5月 13日 19時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	5月 13日 18時 51分	
7 鎮火・処理完了	5月 13日 18時 51分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：東南東 風速：3.1m/s 気温：20℃ 湿度：50%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属 材料卸売業 石油卸売業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 7,000L 35倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 20,000L 20倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 60,000L 30倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 95倍				
名 称： ローリー充てん施設 番 号 (1402)	設置の完成： 平成 4年 5月 13日				
能 力：	直近の完成： 令和 4年 7月 14日				
13 機 器 等 温度 圧力：	17 物 質 の 区 分				
名 称： ローディングアーム 番 号 (604)	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
規 模： 全長3.4m、口径80mm	5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
14 発 生 箇 所	(固相、液相、気相) (常圧、加圧)				
名 称： 給油(注油)ノズル 番 号 (909)	(低温、常温 [0-40℃]、高温)				
材 質： 鋼鉄	分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(380L)				
15 発 生 時	18 取扱者の概要 経験年数45年				
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無				
作 業 状 況： 充填中 番 号 (12)					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： 顧客からの依頼に基づき、ハイオクガソリン3,000Lを移送するため、移動タンク貯蔵所を常置場所から一般取扱所のローリーヤードに移動し、充填作業を開始した。 作業員が移動タンク貯蔵所の第3室(1,000L)の上部ハッチにドロップパイプを挿入し、ハイオクガソリンの先端ノズルを接続後、充填を開始、レバーを給油状態に固定し、その場を離れた。当日、作業員は第3室の容量を2,000Lだと誤認していた。なお、日々の定常作業による慣れから充填中にその場を離れることが度々あった。 充填場所に戻った作業員は、ガソリンがローリーヤード床面に流出していることを確認したため、ポンプの緊急停止ボタンを押下した。ガソリンの流出は、タンク上部の防護枠のドレーンから継続していたため、ドレーンバルブを閉じたところ床面への漏えいは停止したが、漏えいした一部が一般取扱所の油分離槽へ流入した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他					

原 因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 作業者は定常作業による慣れから、充填作業中、充填作業場所を離れてしまったことや当該充填するタンクの室の容量を確認せずに作業をしてしまったことによる流出事故。										
	主要原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層						
	人		本人の意識		違反(故意)						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク上部防護枠内及びタンク直下ローリーヤードへガソリンが漏えいし、その一部が一般取扱所内の油分離槽へ流出した。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 漏えい範囲が、小規模であったため、建屋への被害はなし。			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	0台	0隻	0機	3人	自 衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： ガソリン(約380L)流出。	
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人		
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人		
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (6 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (5、99) タンク上部の防護枠内に溢れたガソリンを車両下部のドレーンからペール缶に移し回収した。また、油分離槽に流出したガソリンをペール缶や柄杓等でくみ上げ、油吸着マットを各層へ設置した。					
31 防災活動上の問題点 事故発生から通報まで時間を要した。(事故発生：午前8時30分頃 消防機関への通報：午後19時00分頃)											
政 策 措 置	32 施設名	一般取扱所(ローリー充填)				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和3年12月3日	令和3年5月13日		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		平成2年10月14日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
その他	速やかな通報、作業中に離れないことを指導 令和4年5月13日				①. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭				
35 今後の対策や所見		荷下ろし、積み込みマニュアルを作成し、事業所内に張り出し、従業員に対し、周知徹底を図る。 また、年2回の荷下ろし訓練もあるため、その場においても従業員へ周知徹底を図る。									

1 事故名	一般取扱所においてローリー出荷中にガソリンが流出したもの		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	5月 30日 11時 06分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	5月 30日 11時 06分
5 覚 知	5月 30日 13時 08分	6 鎮 圧 応急処置完了	5月 30日 11時 20分
7 鎮火・処理完了	5月 30日 11時 20分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北東 風速：0.4m/s 気温：25℃ 湿度：66%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： ①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、 <input checked="" type="checkbox"/> 荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 根岸臨海地区		
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 90,737,000L 453,685倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 9,879,220L 9,879.22倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 3,324,780L 1,662.39倍 倍数の合計： 465,226.61倍		
12 施 設 装 置	14 発 生 箇 所		
名 称：ローリー充てん施設 番 号 (1402) 能 力：5,570KL/日	名 称：その他 番 号 (999) 材 質：アルミニウム		
13 機 器 等	15 発 生 時		
温 度 圧 力：0.65Mpa 名 称：充てん機 番 号 (901) 規 模：ハイオクガソリン約900KL レギュラーガソリン約4,600KL 灯油約70KL	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)		
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分		
名 称：その他 番 号 (999) 材 質：アルミニウム	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(52L)		
15 発 生 時	18 取扱者の概要		
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)	経 験 年 数 1 年 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
19 危険物保安統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者	21 危険物取扱者の取扱・立会い
22 設備・機器等の概要：	①. 有 2. 無		
オンラインファイル無			
23 事故の概要： 一般取扱所(ローリー出荷設備)において、移動タンク貯蔵所にガソリン2KLを荷卸ししている際、ローディングアームがマンホールから外れて跳ね上がり、ガソリン約52Lが移動タンク貯蔵所の防護枠内に流出したものの。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： ローディングアームを操作する油圧レバーがニュートラルのまま荷卸し作業を行ったため、流速に押されるようにローディングアームが跳ね上がったもの。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		不注意			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所の防護枠内。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 無し。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	12 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	9 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類 ガソリン52L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 [1万円未満]、1万円以上 () 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動				自衛防災・消防組織等 番号 (99) 情報収集						
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保 安 検 査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・[無]			
	その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日		内容：			
35 今後の対策 や所見		出荷作業の手順を作業者が確実に守れるような再発防止策を検討								

1 事故名	受入れ配管の内圧上昇によりガスケットが破損したことによる潤滑油流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 30日 16時 40分	推定・確定	4 発 見	5月 30日 16時 40分	
5 覚 知	5月 30日 17時 04分		6 鎮 圧 応急処置完了	5月 30日 17時 45分	
7 鎮火・処理完了	5月 30日 17時 45分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東北東 風速：5m/s 気温：22.7℃ 湿度：72%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 <u>第1種</u> 、第2種、その他)	区 分：①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他)				
業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1821) 造業 潤滑油・グリース製造業 (石油精製業によらないもの) 潤滑油製造業	特別防災地区名：京浜臨海地区				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第2類硫黄 硫黄 200kg 2倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 5,000L 5倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 脱気設備熱媒体油 350L 0.18倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) エレベーター油圧油 580L 0.29倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 1,171,000L 585.5倍 第4類第4石油類 コンプレッサ潤滑油 140L 0.02倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 592.99倍				
名 称：潤滑油製造装置 番 号 (2114)	設置の完成：昭和52年 11月 18日 直近の完成：令和3年 2月 2日				
能 力：100KL/日	17 物 質 の 区 分				
13 機 器 等	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	(固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温)				
規 模：2B、SGP	分 類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：潤滑油(10L)				
14 発 生 箇 所	18 取扱者の概要				
名 称：管継手(ダクトを含む) 番 号 (201)	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
材 質：鋼鉄	20 危険物 保安監督者				
15 発 生 時	21 危険物取扱者 の取扱・立会い				
運 転 状 況：停止中 番 号 (5)	①. 有 2. 無				
作 業 状 況：定期修理中 番 号 (2)					
19 危険物保安 統括管理者	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	23 事 故 の 概 要： 製品の潤滑油を屋外タンク貯蔵所から受入れ、ペール缶等に充てんする施設の1階で、作業中であった事業所職員が何か割れるような音を聞き、中2階から潤滑油が1階に滴下していることに気付いた。その後、中2階に存する受入れ配管フランジ部から潤滑油が10L程度漏えいしていることを発見した。漏えいした潤滑油はペール缶で回収し、吸着マット及びウエスで処置した。				
20 危険物 保安監督者	24 緊急処置の状況 有 番号 () <u>無</u>				

原 因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()				
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 配管内に長期間(8箇月)滞留した潤滑油が温度変化で膨張したことにより内圧が上昇し、フランジ部のガスケットが破損したと推定。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	破損		定常運転時		異常圧力上昇等						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名				
区分											
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： ・ガスケット破損により配管フランジ部から潤滑油が約10L漏えい。(施設内)				
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： ・フランジ部のガスケット破損				
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： ・第4類第3石油類(非水溶性)潤滑油 約10L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額	1万円未満	、	1万円以上 () 万円)
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
・情報収集											
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名	潤滑油調査充填設備				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	令和 4 年	5 月	31 日	年	月	日	定期・自主点検	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無			
その他	年	月	日	年	月	日	内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反				
35	今後の対策 や所見										
・配管内で滞留(8箇月)した危険物が膨張し、内圧が上がったことで流出したことから、今後は2箇月ごとに滞留している配管を脱圧し、大幅な温度上昇を抑え、内圧上昇を防止する。											

1 事故名	ポンプのフラッシングクーラーから分解ガソリン流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 2日 22時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	6月 2日 22時 05分	
5 覚 知	6月 2日 22時 59分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 2日 23時 57分	
7 鎮火・処理完了	6月 2日 23時 57分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南西 風速：4.9m/s 気温：22.2℃ 湿度：76%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 業 態：	①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他)		区 分： ①. 事業所内 (<input checked="" type="checkbox"/> 製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)		
	製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		特別防災地区名：京浜臨海地区		
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称：エチレン製造装置 番 号 (5101)			施設区分：1 危険物 2 高圧ガス ③ 高圧混在 4 その他		
能 力：160,100,626Nm ³ /h			貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所		
13 機 器 等			類・品名・名称・数量・倍数：		
名 称：熱交換器 番 号 (301)			第4類特殊引火物 C4～C10留分 550,000L 11,000倍		
規 模：直径200mm、高さ470mm、容量14.8L			第4類第1石油類(非水溶性液体) C9留分 185,000L 925倍		
14 発 生 箇 所			第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 7,690,000L 38,450倍		
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)			第4類第1石油類(非水溶性液体) DMDS 6,580L 32.9倍		
材 質：鋼鉄			第4類アルコール類 メタノール 3,000L 7.5倍		
15 発 生 時			第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 750,000L 750倍		
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)			第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 1,800,000L 1,800倍		
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)			第4類第2石油類(非水溶性液体) 汚れ防止剤 4,050L 4.05倍		
			第4類第3石油類(非水溶性液体) 絶縁油 300L 0.15倍		
			第4類第3石油類(非水溶性液体) 腐食防止剤 1,000L 0.5倍		
			第4類第4石油類 潤滑油 3,019L 0.5倍		
			倍数の合計： 52,970.6倍		
			設置の完成：昭和 45年 2月 20日		
			直近の完成：令和 4年 2月 15日		
19 危険物保安 統括管理者			20 危険物 保安監督者		17 物 質 の 区 分
①. 選任有 2. 選任無 3. 不要					①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス
					5. 毒物 6. 劇物 7. その他
					(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧)
					(低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温)
					分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：分解ガソリン(200L)
					18 取扱者の概要
					①. 選任有 2. 選任無 3. 不要
			21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： エチレン製造装置内で作られた分解ガソリンを屋外タンクへ移送するポンプのフラッシングクーラー(熱交換器)において、冷却水が流れるチューブが開孔し、分解ガソリン(第4類第1石油類)が冷却水へ混ざり込んだ。そのため、分解ガソリンが混入した冷却水が工水貯水槽へと流入することとなり、工水貯水槽に油膜が確認されたもの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： フラッシングクーラー内のチューブが腐食により開孔し、分解ガソリンが冷却水側に混入したものを。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		高温多湿環境（温泉の湯気の影響、周囲が高温多湿環境）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 分解ガソリンが工水貯水槽へ流入			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 冷却水が流れるチューブ			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 分解ガソリン200L漏えい
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況								損害額	1万円未満	、1万円以上 () 万円
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)				
・ガス検知活動 ・情報収集										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	一般取扱所(エチレン製造装置)				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	令和 4 年 6 月 3 日	年	月	日	定期・自主点検	令和 3 年 8 月 15 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	令和 4 年 6 月 13 日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反			
その他	年 月 日	年	月	日						
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策 や所見	フラッシングクーラーの材質変更を実施予定。類似条件下で使用しているフラッシングクーラーについても材質変更を実施予定。									

1 事故名	一般取扱所においてA重油の充填作業中にローディングアームが跳ね上がり、防護枠内に流出したもの		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	6月 17日 7時 06分 推定・ 確定	4 発 見	6月 17日 7時 06分
5 覚 知	6月 17日 7時 21分	6 鎮 圧 応急処置完了	6月 17日 7時 46分
7 鎮火・処理完了	6月 17日 7時 46分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：雪 風向：無風状態 風速： 気温：22℃ 湿度：83%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、 荷 、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：根岸臨海地区		
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 90,737,000L 453,685倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 9,879,220L 9,879.22倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 3,324,780L 1,662.39倍 倍数の合計： 465,226.61倍		
12 施 設 装 置	14 発 生 箇 所		
名 称：ローリー充てん施設 番 号 (1402)	名 称：その他 番 号 (999)		
能 力：5,570KL/日	材 質：アルミニウム		
13 機 器 等 温度 圧力：0.65Mpa	15 発 生 時		
名 称：ローディングアーム 番 号 (604)	運 転 状 況：荷積中 番 号 (12)		
規 模：幅:1,530mm、高さ、2,240mm、奥行き、530mm	作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)		
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分		
名 称：その他 番 号 (999)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(96L)		
15 発 生 時	18 取 扱 者 の 概 要		
運 転 状 況：荷積中 番 号 (12)	19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危 険 物 保 安 監 督 者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い ①. 有 2. 無		
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)	22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要： オンラインファイル無		
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止	23 事 故 の 概 要： 一般取扱所(ローリー出荷設備)において、移動タンク貯蔵所にA重油を充填作業中にローディングアームが跳ね上がり、防護枠内に約96L流出したもの。		

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： ローディングアームを操作する油圧レバーがニュートラルのまま充填作業を行ったため、流速に押されるようにローディングアームが跳ね上がったもの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		不注意				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 充填中の移動タンク貯蔵所の防護枠内に重油が流出			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所の防護枠内			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	9 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	46 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性) 重油 96L	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 情報収集活動						自衛防災・消防組織等 番号 (5) ペール缶への回収作業					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日				保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>				
その他	年 月 日				内容：						
35 今後の対策や所見 取扱者に対して教育だけではなく、ハード面の対策も検討するよう指導を行った。また、全国石油協会にも報告し、他社にも共有を行うとの回答を得たため、浅く広く共有するよう依頼した。											

1 事故名	一般取扱所における、分離塔接続配管から灯油流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 4日 4時 20分	推定・確定	4 発 見	8月 4日 4時 20分	
5 覚 知	8月 4日 4時 28分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 4日 4時 35分	
7 鎮火・処理完了	8月 4日 5時 23分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：東北東 風速：3.2m/s 気温：26℃ 湿度：84%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 添加剤 77,000L 385倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 2,861,000L 14,305倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 添加剤 1,300L 6.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 添加剤 230L 0.23倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 4,134,400L 4,134.4倍 第4類第4石油類 残渣油 11,559,300L 1,926.55倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 添加剤 36,000L 18倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 42,500L 21.25倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重質油 1,796,700L 898.35倍 第4類第4石油類 潤滑油 2,220L 0.37倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,699,000L 9,699倍 倍数の合計： 31,394.65倍				
12 施 設 装 置	14 発 生 箇 所				
名 称：水添脱硫装置 番 号 (2108)	名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)				
能 力：	材 質：鋼鉄				
13 機 器 等	15 発 生 時				
温度圧力：215℃、0.15Mpa	運 転 状 況：スタートアップ中 番 号 (2)				
名 称：蒸留、精留塔(スクリュー、ストリッパ) 番 号 (101)	作 業 状 況： 番 号 ()				
規 模：9,699KL/日	17 物 質 の 区 分				
14 発 生 箇 所	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)	5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
材 質：鋼鉄	(固相、液相、気相) (常圧、加圧)				
15 発 生 時	(低温、常温 [0-40℃]、高温)				
運 転 状 況：スタートアップ中 番 号 (2)	分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(0.3L)				
作 業 状 況： 番 号 ()	18 取 扱 者 の 概 要				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 当該施設は5月末から7月中旬まで定修作業をしており、発災時はスタートアップの最終段階である灯油成分の調整運転中であつた。当日の4時20分頃、運転員が定期パトロールをしていたところ、点検ステージ上が1m×1m程度の範囲で濡れており若干の臭気を感じたため確認したところ、T-325(灯油分離塔)とT-326(軽質灯油分離塔)の接続配管の保温材隙間から灯油が滴下(2滴/s)していることを発見した。すぐに119通報するとともに、装置を緊急停止して漏えいを停止させた。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1, 9) 無 装置の緊急停止、緊急排出、緊急移送					

原 因	主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分、維持管理不十分									
	発生原因の状況： 当該配管の休止により配管運転温度が下がったことから、保温材内部が腐食環境となり外面腐食したもの。運転前に耐圧試験を実施していたものの、運転圧力に満たない圧力であったため異常を発見できなかった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		点検内容が不適切			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 塔の点検ステージ上1m×1m程度の範囲に流出		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管に外面腐食によるピンホール1箇所		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	13 人	自 衛	3 台	0 隻	0 機	16 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油 0.3L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) ガス検知活動					自衛防災・消防組織等 番号 (99) 警戒筒先配備					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	脱硫装置				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	令和 4 年 8 月 4 日				年 月 日	定期・自主点検	令和 3 年 8 月 5 日		年 月 日
	改善命令等	年 月 日				年 月 日	気密試験等	年 月 日		年 月 日
	停止解除	年 月 日				年 月 日	保安検査	年 月 日		年 月 日
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無			
その他	年 月 日		年 月 日		内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反					
35 今後の対策 や所見	プロセス変更があった際は、事業所関係部署においてリスク評価を実施し、腐食リスクが上がった箇所は適切に点検リストにピックアップするよう指導した。									

1 事故名	一般取扱所における、遠心分離器からの潤滑油流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	8月 24日 13時 20分 推定・ 確定	4 発 見	8月 24日 13時 20分
5 覚 知	8月 24日 14時 16分	6 鎮 圧 応急処置完了	8月 24日 15時 36分
7 鎮火・処理完了	8月 24日 15時 36分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北東 風速：5.4m/s 気温：30.2℃ 湿度：70%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製)、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区		
	16 発生施設規制区分等		
施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第1類その他のもので政令で定める 亜硝酸ナトリウム 1,500kg 30倍 もの(亜硝酸塩類)(第1種酸性固体) 第4類第1石油類(非水溶性液体) グイマー 1,000L 5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) セカンダリーブターノール 2,500L 2.5倍 第4類第2石油類(水溶性液体) ジメチルフォルムアミド 102,200L 51.1倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) タール油 9,900L 4.95倍 第4類第4石油類 潤滑油 4,500L 0.75倍			
12 施 設 装 置	倍数の合計： 94.3倍		
名 称：ブタジエン製造装置 番 号 (5301)	設置の完成：昭和 45年 12月 12日 直近の完成：平成 30年 9月 10日		
能 力：	17 物 質 の 区 分		
13 機 器 等 温度圧力：	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第4石油類 名称：潤滑油(833L)		
名 称：遠心分離機 番 号 (505)	18 取扱者の概要		
規 模：縦700mm、横700mm、高さ700mm	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
14 発 生 箇 所	21 危険物取扱者の の取扱・立会い		
名 称：ドレンノズル 番 号 (208)	①. 有 2. 無		
材 質：鋼鉄			
15 発 生 時			
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)			
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)			
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 定常運転中の施設において、巡回中の従業員が屋外に設置されている遠心分離器の水分排出口から潤滑油が流出しているのを発見した。潤滑油はブタジエン用コンプレッサーの潤滑に用いられているものである。			
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

原因	25 主 原 因 維持管理不十分		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： コンプレッサーの軸シール部からブタジエンが潤滑油内に流入したことにより、ブタジエンに起因して発生した汚れが遠心分離機内に堆積し、潤滑油と水を分離することができなくなったもの。これまで、巡回点検において、機器の不調(異音、振動、分離悪化など)の有無により、維持管理していたが、今回はこの不調を覚知する前に流出に至っている。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	設備		監視・保守		点検・整備		整備していない			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 遠心分離機の囲い内にある、排水系配管が堆積物等で閉塞していたことにより、流出した潤滑油は囲い容量を超え、囲いの外側へ流出した。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 無し		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	11 人	物質の被害状況： 潤滑油833L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 情報収集活動				自衛防災・消防組織等 番号 (5、99) 警戒筒先配備						
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	第3ブタジエン抽出装置			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	令和4年 8月 24日			年 月 日		定期・自主点検	令和3年 10月 29日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日			年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	令和4年 10月 5日			年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反			
その他	年 月 日			年 月 日						
35	今後の対策や所見 保全方針を見直し、定期的に遠心分離器内を清掃するよう指導した。									

1 事故名	一般取扱所において、天板がロックされていなかったことによりドラム缶から添加物が漏えいしたもの		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	9月 26日 15時 46分 推定・ 確定	4 発 見	9月 26日 15時 46分
5 覚 知	9月 26日 16時 03分	6 鎮 圧 応急処置完了	9月 26日 15時 48分
7 鎮火・処理完了	9月 26日 16時 35分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴	風向：東南東	風速：2.1m/s 気温：28℃ 湿度：54%
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 第1種 、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1821) 造業 潤滑油・グリース製造業 (石油精製業によらないもの) 潤滑油製造業		
11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 26,980L 26.98倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油・添加剤 178,630L 589.32倍 第4類第4石油類 潤滑油 2,520L 0.42倍		
13 機 器 等	温度圧力： 名 称：ドラム等容器 番 号 (201) 規 模：内径:566mm 高さ:890mm		
14 発 生 箇 所	設置の完成：平成18年 3月 30日 直近の完成：令和 4年 8月 16日		
15 発 生 時	17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：添加剤(18.6L)		
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	18 取扱者の概要 経験年数0年 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要：	オンラインファイル無		
23 事故の概要：	協力会社社員は、一般取扱所建屋内で危険物の潤滑油添加剤と金属不活性化剤(以下混合添加剤)を天板開放式ドラムに入れ攪拌作業を開始した。攪拌が終了したので、ドラムに天板を取り付けドラム搬送機を使い投入する調合槽付近へ搬送した。調合槽へ投入するため天板にノズルを装着後、ドラム搬送機でドラムを傾け混合添加剤を調合槽へ投入したところ、ドラム天板と胴板の隙間から混合添加剤が床に漏えいした。協力会社社員はすぐさまドラムの傾きを直し、無線で計器室へ連絡した。計器室にいたグルーブリーダーは現場を確認後、事業所の環境安全グループへ連絡、環境安全グループが119通報を行った。計器室にいた他の協力会社社員はウェストと吸着マットを持ち現場へ越え、混合添加剤の拡散防止措置を行った。現場到着した公設消防は調査活動を行った。混合添加剤は床に18.6L漏えいした。		
24 緊急処置の状況	有 番号 (10) 無 その他		

原因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 天板開放式ドラムの天板を取り付け後、天板固定バンドを装着した際に、バンドレバーのロックをかけたつもりが、かかっていなかった。これによりドラムから調合槽へ添加剤を投入しようとドラムを傾けたとき、天板固定バンドが緩んだ。緩んだことで、天板と胴板の間に隙間ができ、そこから混合添加剤が漏れて床へ漏えいした。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層					
	人		本人の意識		思慮					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 一般取扱所建屋2階 2.5m×1.5mの範囲に漏えいした		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし		
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	20 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類 ネオドール23とベンゾトリアゾールの混合添加剤 18.6L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	1 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (300 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
調査活動										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検			令和4年 8月 5日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等			年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査			年 月 日	年 月 日	
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <u>無</u> 内容：		
その他	年 月 日	年 月 日								
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 や所見		天板固定バンドを装着するときに、バンドレバーのロックをかけるよう手順書に明記する バンドレバーのロックをかけたかどうかの確認を2名で行うように手順書に明記する								

1 事故名	送油ポンプのグランドパッキン及び油配管のフランジ部分のパッキンの劣化により焼入油が漏れたもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	11月 24日 14時 30分		
5 覚 知	11月 24日 14時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 24日 16時 00分	
7 鎮火・処理完了	11月 24日 16時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後開知 7. 一般加入 ⑧. その他 (立入検査時に発見したもの)				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南東 風速：2m/s 気温：20℃ 湿度：63%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 金属製品製造業 そ 番 号 (2591) 他の金属製品製造業 金属 製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)				特別防災地区名：
	16 発生施設規制区分等				
12 施 設 装 置	12 施 設 装 置 名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力：				
13 機 器 等	13 機 器 等 温度 圧 力： 20℃ 名 称： ポンプ 番 号 (501) 規 模： 幅40cm 奥行き100cm 高さ40cm				
14 発 生 箇 所	14 発 生 箇 所 名 称： パッキン 番 号 (213) 材 質： その他				
15 発 生 時	15 発 生 時 運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)				
17 物 質 の 区 分	17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第4石油類 名称： 焼入油(1L)				
18 取 扱 者 の 概 要	18 取 扱 者 の 概 要 経験年数16年				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： 一般取扱所である熱交換器室(建物A)内に設置された熱交換器へ接続された配管のバルブ及び送油ポンプのグランドパッキン部より、焼入油が漏れたもの。 焼入油の流れの行程は、別建屋の工場(建物B)で加熱された焼入油が、建物Aへ接続された配管により建物Aの熱交換器へ流れ、熱交換器により冷却後、建物Bの焼入油槽へ戻る流れとなっており、建物Aに設置された送油ポンプは、月に3回程度、焼入油槽内の油の減少に伴い、別に設置された屋外タンク貯蔵所から、焼入油槽へ補充するためのポンプとなっている。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 熱交換器へ接続された配管のバルブ部については、パッキンの劣化に伴い、フランジが緩んだ状態となったため流出したもの。送油ポンプについては、グランドパッキンの摩耗劣化により流出したもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の摩耗（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の摩耗）					
	関連原因の詳細									
	制度		規則・手順		内容・周知		その他			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内の床面に油が漏れたもの。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： パッキンの劣化及びグランドパッキンの摩耗。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 焼入油(第4石油類)約1L流出。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	令和4年4月26日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
35 今後の対策 や所見	社内規定で定められた日常点検による油漏れの確認を、月に1回から毎日に変更。また、グランドパッキンについては、パッキン部の押しフランジの隙間が5mm以下となったら交換する。									

1 事故名	20号タンク液面計故障による油水分離槽へのVOC回収油流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 27日 22時 30分	推定・確定	4 発 見	11月 27日 22時 30分	
5 覚 知	11月 27日 22時 41分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 27日 23時 41分	
7 鎮火・処理完了	11月 27日 23時 41分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北東 風速：1m/s 気温：14℃ 湿度：62%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学 番号 (1735) 工業製品製造業 プラスチック製造業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第4石油類 潤滑油 11,396L 1.9倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) トランス油 4,890L 2.44倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ノルマルキサン 231,673L 1,158.37倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) オルトケイ酸エチル 917L 0.92倍 第2類引火性固体 アルミニウムエトキシド* 840kg 0.84倍	
名 称：ポリエチレン製造装置 番号 (5102)			設置の完成：昭和 55年 3月 6日 直近の完成：令和 4年 4月 19日		倍数の合計： 1,164.47倍
能 力：618,500t/年					
13 機 器 等	温度圧力：0.03Mpa				
名 称：ドラム等容器 番号 (201)	規 模：胴長:2,562mm 内径:700mm				
14 発 生 箇 所	設置の完成：昭和 55年 3月 6日 直近の完成：令和 4年 4月 19日				
名 称：ドレンノズル 番号 (208)	17 物 質 の 区 分				
材 質：鋼鉄	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：VOC回収油(450L)				
15 発 生 時	18 取扱者の概要				
運 転 状 況：定常運転中 番号 (1)	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無	
作 業 状 況： 番号 ()	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
23 事 故 の 概 要： 従業員が夜間の巡回点検をしていたところ、装置内のオイルトラップにVOC回収油(第4類第2石油類)が漏えいしていることを発見した。流出元を確認したところ、近傍に設置されている20号タンクの油水分離槽(5D-531)の排水ラインから当該トラップに危険物が流出していることが判明した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 故障		着火原因				番号 ()			
	関連原因									
	発生原因の状況： 油水分離槽にパウダー状の副生成物が堆積したことにより液面計が作動不良を起こし、界面管理ができなくなったため、VOC回収油がタンク内部の堰板をオーバーフローし、ドレンノズルから排水系に流出した。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	故障		機能		周囲からの異物の作用による機器の動作不良					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内の3層式油分離槽の第1層にのみ流出		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 液面計が故障		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	15 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	7 人	物質の被害状況： VOC回収油約450L漏えい
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) ガス検知活動を実施						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 吸着マットで油回収				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	ポリエチレン第3製造装置			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	令和 4 年 11 月 28 日			年 月 日			定期・自主点検	令和 4 年 8 月 21 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	令和 4 年 12 月 1 日			年 月 日			保 安 検 査	年 月 日	年 月 日
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・無 内容： 法第10条第3項危険物を流出させたこと		
その他	年 月 日			年 月 日						
35 今後の対策 や所見	当該ドラムを開放し、ポリエチレン由来のパウダーの清掃を実施した。2024年の定修において、当該パウダーにより故障が起きないように設備改善を計画するよう指導した。									

1 事故名	一般取扱所の20号タンクを洗浄中にバルブを閉め忘れて流出させた事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 23日 9時 06分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	1月 23日 9時 10分	
5 覚 知	1月 23日 9時 35分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 23日 10時 50分	
7 鎮火・処理完了	1月 23日 10時 50分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南 風速：0.9m/s 気温：1℃ 湿度：94.7%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 有機化学 番 号 (1732) 工業製品製造業 脂肪族系中 間物製造業(脂肪族系溶剤を含 む)				11 発 生 場 所
					区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：
			16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類アルコール類 <small>メチルアルコール</small> 18,973L 47.43倍	
12 施 設 装 置	名 称： その他のタンク 番 号 (1299) 能 力： 容量 9,360L				
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模： 容量 9,360L 内径 2,100mm 高さ 3,350mm				
14 発 生 箇 所	名 称： その他 番 号 (999) 材 質： ステンレス				
15 発 生 時	運 転 状 況： その他 番 号 (99) 作 業 状 況： 洗浄中 番 号 (11)				
			設置の完成： 平成 17年 4月 5日 直近の完成： 令和 2年 6月 24日 倍数の合計： 47.43倍		
			17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類アルコール類 名称： <small>メチルアルコール</small> (160L)	
			18 取扱者の概要	経験年数18年	
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 一般取扱所の20号タンクを洗浄する為にバルブ2か所を手動で開けて残油を抜き取り、その後に開けたバルブ2か所を手動で閉めたつもりだったが、1か所が開いたままに洗浄作業を開始したために開いたままのバルブから洗浄に用いたメチルアルコール(危険物)が流出した。流出量は約160Lで、施設内の溜枘及び油分離槽内から廃液をドラム缶で回収。人的被害はなし。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他					

原 因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 監視不十分									
	発生原因の状況： 監視がないままバルブの開け閉めを作業員が一人で実施した結果、作業員の思い込みによりバルブが1か所が空いたまま洗浄作業を開始した為、危険物を流出させてしまったもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		思い込み			
	関連原因の詳細									
	管理		監督		監視		その他			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 当該施設内		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： メチルアルコール約160L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額	1万円未満	、1万円以上 () 万円
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
事故調査										
31 防災活動上の問題点										
32 施設名										
政 策 措 置	使用停止	年 月 日		年 月 日		33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和3年10月31日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日	
	関係条項	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日	年 月 日	
その他	年 月 日		年 月 日		34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容：			
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭								
35 今後の対策 や所見		今回の事故は一人の作業員の思い込みによる事故である。発生現場付近には事故を起こさないために様々な注意喚起の看板が設置されていたにもかかわらず事故が起きてしまった。この事故を教訓に危険物を取り扱う際は、複数人で行うとともに適切な位置で監視を行うことを指導した。								

1 事故名	一般取扱所の非常用ディーゼル発電機の24時間定格出力運転中、機関軸受軸封部付近から潤滑油が流出した事故						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	3月 17日 18時 52分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	3月 17日 18時 52分			
5 覚 知	3月 17日 19時 38分			6 鎮 圧 応急処置完了	3月 17日 19時 07分		
7 鎮火・処理完了	3月 17日 19時 13分						
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況	天気：曇		風向：無風状態		風速：0m/s		気温：7℃ 湿度：69%
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所				11 発 生 場 所		
					区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
					16 発生施設規制区分等		
					施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 18,000L 18倍 第4類第4石油類 潤滑油 3,900L 0.65倍		
12 施 設 装 置	名 称：自家発電施設 番 号 (1503) 能 力：発電量:約3,870KW/h 燃料消費量:軽油18,000L/日				設置の完成：平成 7年 6月 1日 直近の完成：令和 4年 2月 17日		
13 機 器 等							
	名 称：その他 番 号 (999)				倍数の合計： 18.65倍		
	規 模：容量3,900L						
14 発 生 箇 所	名 称：軸受 番 号 (903) 材 質：ゴム				17 物 質 の 区 分		
					①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <u>高温</u>) 分類： 第4類第4石油類 名称：潤滑油(360mL)		
15 発 生 時	運 転 状 況：試運転中 番 号 (14) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)				18 取扱者の概要 経験年数4年		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 一般取扱所の非常用ディーゼル発電機設備A系の24時間定格出力運転中、機関軸受軸封部から潤滑油が流出した事故。							
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他							

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 機関軸受軸受部のOリングが破断していることに気付かず運転した。 Oリングが定期点検対象外だった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
疲労・劣化	素材等の劣化	長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）								
関連原因の詳細										
設備	監理・保守	点検・整備	点検していない/不足							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した潤滑油がディーゼル発電機室内に飛散した。			
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： Oリング1個破損			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類 潤滑油360mL流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
						損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text" value="3"/> 万円)				
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (<input type="text" value="99"/>)				自衛防災・消防組織等 番号 ()						
調査活動										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 3 年 6 月 15 日	平成 24 年 4 月 22 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>				
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：						
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策 や所見	Oリング破断の原因究明及び再発防止策の提出を指導。									

1 事故名	一般取扱所の配管フランジ部分のガスケット破損による重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 15日 4時 30分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	4月 15日 5時 35分	
5 覚 知	4月 15日 15時 25分	6 鎮 圧 応急処置完了	4月 15日 16時 30分		
7 鎮火・処理完了	4月 15日 16時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：東北東 風速：3.3m/s 気温：10℃ 湿度：96%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 業 態：	①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <input checked="" type="checkbox"/> 第2種、その他) 製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1899) 造業 その他の石油製品・石炭 製品製造業 他に分類されな い石油製品・石炭製品製造業		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：新潟西港地区石油コンビナート等特別防災区域		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等				
名 称： 能 力：	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 626,000L 313倍				
13 機 器 等	温度圧力：68℃、48Mpa				
名 称： 規 模：	名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規模：返油管(20A)				
14 発 生 箇 所	設置の完成：昭和49年10月22日 直近の完成：令和2年11月20日				
名 称： 材 質：	管継手(ダクトを含む) 番 号 (201) 材質：その他				
15 発 生 時	17 物質の区分				
運 転 状 況： 作 業 状 況：	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、常温[0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(1,150L)				
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 施設の全停電作業に伴い一般取扱所の稼働を止めており、その立上げ作業のため、配管内に重油を循環させていた。その際、一般取扱所と屋外タンク貯蔵所を接続する配管(返油管)の逆止弁と手動バルブ間が液封状態となっていたが、スチームで配管を加温したことで重油体積が膨張して内圧が上昇し、フランジ部分のガスケットが破損し重油(第4類第3石油類)約1,150Lが漏えいした。 なお、漏えいは一般取扱所に接続する屋外タンク貯蔵所の防油堤内で留まり、人的被害は発生していない。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 設計不良		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 破損									
	発生原因の状況： 一般取扱所の再稼働に向けて配管内の重油を循環していたが、漏えい発生箇所である返油管の屋外タンク貯蔵所直近に設置してある手動バルブが閉止状態だったため、手動バルブと逆止弁の間が液封状態となっていた。その状態でスチームで配管を加温したため、重油体積が膨張して内圧が上昇し、フランジ部分のガスケットが内圧に耐えられずに破損し、その部分から重油が漏えいしたものの。 その後の調査で逆止弁のすぐ直近に手動バルブが逆止弁よりも屋外タンク側に配置されており、加温によって容易に内圧が上昇する配管設計であったことが判明した。									
	主原因の詳細									
第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
設計不良		能力		想定を越えた圧力の発生						
因	関連原因の詳細									
	破損		定常運転時		異常圧力上昇等					
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 一般取扱所所属の戻り配管フランジ部分のガスケットが内圧に耐え切れず破損し、そこから流出した重油が屋外タンク貯蔵所の防油堤内に漏えいした。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管フランジ部分のガスケット1枚破損			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	13 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	3 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性液体)重油 約1,150L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
							損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (53 万円)			
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動				自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) ポンプの停止及びバルブの閉止 漏えいした重油の回収 砂利及び砂の回収						
31 防災活動上の問題点 流出事故の応急措置は行ったものの、社内規定で通報は必要ないと判断していた。 消防機関への匿名による加入通報で消防は漏えい事故を覚知した。										
行政措置	32 施設名			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和3年9月10日	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	年 月 日			
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：				
その他	年 月 日	年 月 日								
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 や所見 ・対策が講じられるまでの間、漏えい箇所の使用を禁止 ・漏えい箇所及び同様の形状(逆止弁とバルブで構成されるもの)になっている配管を正しいバルブ設置位置に変更 ・従業員にて安全の再認識 ・長期的な施設の保全計画、点検期間、部品交換のタイミングの見直し ・通報体制の見直し、各種規程の変更 ・当該事業所に対し、従業員への安全教育と通報基準、体制の見直しを指導した。予防規定の見直し等継続指導していく必要がある。										

1 事故名	一般取扱所の製造炉に接続するフレキシブルチューブの根本が金属疲労により破損し重油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 9日 13時 15分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	5月 9日 13時 15分	
5 覚 知	5月 9日 14時 11分		6 鎮 圧 応急処置完了	5月 9日 15時 30分	
7 鎮火・処理完了	5月 9日 15時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北北西 風速：2.3m/s 気温：17℃ 湿度：26%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <input checked="" type="checkbox"/> 第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1899) 造業 その他の石油製品・石炭 製品製造業 他に分類されな い石油製品・石炭製品製造業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：新潟西港地区石油コンビナート等特別防災区域	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称：その他【分類なし】	番 号 (9999)	能 力：重油消費量626KL/日	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 626,000L 313倍	倍数の合計： 313倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力：150℃、2Mpa		設置の完成：昭和 49年 10月 22日 直近の完成：令和 2年 11月 20日		
名 称：その他の炉	番 号 (499)		17 物 質 の 区 分		
規 模：給油管(10A)			①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(10ML)		
14 発 生 箇 所	名 称：ホース(給油、注油及び注入ホースを除く) 番 号 (211)		18 取扱者の概要		
材 質：ステンレス			①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の の取扱・立会い	①. 有 2. 無
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)				
作 業 状 況：	番 号 ()				
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 製品切り替えのため、フレキシブルチューブの先に接続された原料油ホルダーの噴霧チップを交換し、再度、原料油ホルダーを製造炉噴霧位置に取り付け、原料油バルブを開けたところ、フレキシブルチューブ(ベローズ部)の根本が破損し、重油(第4類第3石油類)約10mLが漏えいしたものの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因 破損										
	発生原因の状況： フレキシブルチューブの先に接続された原料油ホルダーの噴霧チップ交換作業は、製品交換の際に定期的に行われている。原料油ホルダーの抜き差しがそのたびに行われており、はまりづらい場合に力を入れて抜き差ししていたため、フレキシブルチューブの根元に繰り返し負荷がかかり、金属疲労により亀裂が生じ、そこから重油が漏えいしたものの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	疲労・劣化		環境		荷重による疲労（車両や周囲の重量物等の影響）						
	関連原因の詳細										
	疲労・劣化		環境		その他						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 一般取扱所の製造炉に付随する原料給油管のフレキシブルチューブが破損し、そこから流出した重油約10mLが周囲に飛散したもの。人的被害なし。施設外への漏えいなし。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 一般取扱所の製造炉に付随するフレキシブルチューブ(ベローズ部)の根本が破損			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	12 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	6 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性液体)重油 約10mL流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 調査活動					自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) 原料油バルブの閉止 漏えいした重油の回収						
31 防災活動上の問題点											
32 行政措置	施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和3年9月10日	年 月 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無				
その他	年	月	日	年	月		日	内容：			
35 今後の対策や所見 ・メンテナンスの徹底 ・従業員にて安全の再認識 ・長期的な施設の清掃頻度、部品交換のタイミングの見直し ・当該事業所に対し、施設の維持管理と、他の部品の更新時期等についても指導していく必要がある。											

1 事故名	一般取扱所の低圧ストレーナー内の加熱用スチームコイルが長期使用による劣化で破損し重油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 10日 16時 20分	推定・確定	4 発 見	5月 10日 17時 20分	
5 覚 知	5月 10日 20時 05分		6 鎮 圧 応急処置完了	5月 10日 21時 30分	
7 鎮火・処理完了	5月 10日 21時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北東 風速：3.2m/s 気温：15℃ 湿度：75%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <u>第2種</u> 、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1899) 造業 その他の石油製品・石炭 製品製造業 他に分類されな い石油製品・石炭製品製造業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：新潟西港地区石油コンビナート等特別防災区域 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 626,000L 313倍 倍数の合計： 313倍 設置の完成：昭和 49年 10月 22日 直近の完成：令和 2年 11月 20日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称：その他【分類なし】 番 号 (9999)			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、常温 [0-40℃]、 <u>高温</u>) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油 (25L)		
能 力：重油消費量626KL/日			18 取扱者の概要		
13 機 器 等	温 度 圧 力：80℃、0.12Mpa				
名 称：その他 番 号 (999)	規 模：高さ1,388mm、直径950mm				
14 発 生 箇 所	名 称：ストレーナー 番 号 (209)				
材 質：鋼鉄	15 発 生 時				
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)	作 業 状 況： 番 号 ()				
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 内部の金網で重油中の異物を除去する低圧ストレーナー内に設置された加熱スチーム配管の溶接箇所が一部破損し、スチーム配管の中に重油が流入し、スチームの排出配管から重油(第4類第3石油類)約25Lが漏えいしたものの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因 破損									
	発生原因の状況： 低圧ストレーナーを長期間(38年間)使用したことにより、スチーム配管内部が摩耗し穴が空き、スチーム配管内部に重油が流入し漏えいが発生した。 また、原因の一つとして、部分的にスチーム配管の曲がり角が90度に施工されていたこと、定期点検や更新計画が定められていなかったことも要因と考えられる。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の摩耗(腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の摩耗)						
因	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 一般取扱所内低圧ストレーナーのスチーム配管が経年劣化により破損し、そこから重油約25Lが流入し、スチームドレンの排出管から施設内の側溝に流出した。なお、施設外及び敷地外への漏えいなし。人的被害なし。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 低圧ストレーナーのスチーム配管の破損		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	2 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性液体)重油 約25L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5)					
調査活動					ドレン排出管を取外し、閉止プラグを取付け漏えいした重油の回収					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 3 年 9 月 10 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無		
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
35 今後の対策や所見										
・メンテナンスの徹底 ・従業員にて安全の再認識 ・長期的な施設の清掃頻度、部品交換のタイミングの見直し ・スチームコイルを低圧ストレーナーの外側に設置する ・当該事業所に対し、施設の維持管理と、他の部品の更新時期等についても指導していく必要がある。										

1 事故名	一般取扱所で危険物のサンプリング後にバルブを閉め忘れて流出させた事故		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	5月 23日 0時 00分 推定・ 確定	4 発 見	5月 23日 2時 20分
5 覚 知	5月 23日 5時 20分	6 鎮 圧 応急処置完了	5月 23日 4時 55分
7 鎮火・処理完了	5月 23日 4時 55分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：雨	風向：東	風速：2m/s 気温：15℃ 湿度：97.4%
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 有機化学 番号 (1732) 工業製品製造業 脂肪族系中 間物製造業(脂肪族系溶剤を含 む)	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 酢酸ビニル 300,513L 1,502.57倍 第4類第1石油類(水溶性液体) KI酢酸 1,000L 2.5倍 第4類アルコール類 メタノール 515,049L 1,287.62倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 添加剤 900L 0.9倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 添加剤 1,000L 0.5倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 2,794.09倍		
名 称： その他の合成樹脂製造装置 番号 (5959)	設置の完成： 昭和 38年 1月 10日 直近の完成： 令和 4年 5月 16日		
能 力： 700L/h	17 物 質 の 区 分		
13 機 器 等	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類アルコール類 名称： ポリ酢酸ビニル・メタノール溶液(600L)		
名 称： その他 番号 (999)	18 取扱者の概要		
規 模： 700L/h	経験年数4年		
14 発 生 箇 所	19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
名 称： その他 番号 (999)	20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
材 質： ステンレス	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
15 発 生 時	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有		
運 転 状 況： 定常運転中 番号 (1)	23 事 故 の 概 要： 一般取扱所で危険物のサンプリングを行うため、手でバルブを開けて抜き取り、その後手で閉めたと思込み現場を離れ、ノズルからポリ酢酸ビニル・メタノール溶液が約600L流出したもの。側溝に流れた危険物は土嚢で堰き止め、施設内で止めた。地面に漏れた危険物はバケツを使用しドラム缶で回収、また水をかけて固着させ拡大を防止した。人的被害なし。 流出した危険物の回収作業中に落雷により事業所内の電圧が低下し普及作業を行った後、消防機関へ流出事故の通報を行った。		
作 業 状 況： サンプリング中 番号 (4)	24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他		

原因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因 操作確認不十分										
	発生原因の状況： 危険物のサンプリングを行うためにバルブを開け、危険物を抜き取ったが作業員はバルブを閉めたと思い込み、そのバルブを開けたままその場を離れたために危険物を流出させたもの。バルブの開閉を作業員一人が行い、実施した行動について指差呼称を行わず、複数での作業確認もしていなかった。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
人		本人の意識		思慮		思い込み					
因	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 当該施設内			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし			
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： ポリ酢酸ビニル・メタノール溶液が約600L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 (5、3、99)						
事故調査					固着させて拡大防止のため水をかける。						
31 防災活動上の問題点											
事故が発見されてから消防機関に通報されるまで約3時間を要している。取扱い時に、従業員が指差呼称を実施していないことから、普段からの教育・指導が行われていない。											
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他				
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和 3 年 10 月 31 日	年 月 日				
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日				
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日				
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>					
その 他	年 月 日	年 月 日		内容：							
35 今後の対策 や所見	危険物の改修作業中に事業所内で別事案が発生し対応したため消防機関への通報が遅れたが、通報及び作業などの担当を事前に決めて速やかな通報を行う。 サンプリング中に、バルブを閉めることを思い込みで忘れたために流出したことから、指差呼称及び複数人によるダブルチェックの徹底を行う。										

1 事故名	一般取扱所において反応炉の部材を交換作業中に、誤って配管を破損させたことによる重油の流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 21日 12時 30分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	6月 21日 12時 30分	
5 覚 知	6月 21日 12時 59分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 21日 13時 50分	
7 鎮火・処理完了	6月 21日 13時 50分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北 風速：3m/s 気温：24℃ 湿度：82%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <input checked="" type="checkbox"/> 第2種、その他)	区 分：①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他)				
業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1899) 造業 その他の石油製品・石炭 製品製造業 他に分類されな い石油製品・石炭製品製造業	特別防災地区名：新潟西港地区石油コンビナート等特別防災区域				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 626,000L 313倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 313倍				
名 称：その他【分類なし】 番 号 (9999)	設置の完成：昭和49年10月22日 直近の完成：令和2年11月20日				
能 力：重油消費量626KL/日	17 物 質 の 区 分				
13 機 器 等	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(40L)				
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	18 取扱者の概要				
規 模：返油管(50A)					
14 発 生 箇 所	19 危険物保安 統括管理者 1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要 20 危険物 保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無				
名 称：本体溶接部 番 号 (106)					
材 質：鋼鉄					
15 発 生 時					
運 転 状 況：停止中 番 号 (5)					
作 業 状 況：定期修理中 番 号 (2)					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 一般取扱所で反応炉の部材を交換作業中、分解した部材を天井から吊り下げて移動させる際、部材を誤って返油管に接触させたことにより、返油管の溶接部が破損し、重油(第4類第3石油類)約40Lが漏えいした。作業員がオイルパンで受け取り、敷地外への漏えいはなし。 なお、当該配管は屋外タンク貯蔵所への戻り配管だが、部材交換作業のため重油の循環は停止していたため、漏えいした重油は配管内に滞留していたものである。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

原	25 主 原 因 破 損		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 操作確認不十分									
	発生原因の状況： 反応炉部材の交換作業中、分解した部材を吊り上げて搬出する際、上部の返油管に接触させたが、接触させたことに気付かないまま部材を移動させたため、返油管の溶接部から折損し、重油(第4類第3石油類)約40Lが漏えいしたもの。 なお、工事中は事業所従業員は立ち会っておらず、外注業者の作業指揮者も現場を離れていた。									
	主原因の詳細									
因	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		工事時		工事資機材による損傷					
関連原因の詳細										
管理		監督		監視		監視が実施されない/不足				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 一般取扱所内の中央一般取扱所所属の返油管溶接部を破損させ、そこから重油約40Lが一般取扱所内地盤面へ漏えいした。事故当時、配管の重油は循環しておらず、配管内の滞油が漏えいした。 施設外への漏えい無し。人的被害なし。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 返油管溶接部破損		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	14 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性液体)重油 約40L流出、 返油管の破損
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (78 万円)				
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動				自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5) オイルパン及び吸着マットを使用し漏えいした重油の回収						
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和3年9月10日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策 や所見		・監視体制の徹底 ・工事業者等も含めた従業員に対し安全の再認識をさせる。 ・当該事業所に対し、工事中の安全対策について指導していく必要がある。								

1 事故名	一般取扱所において受入フレキシブル配管の緊結金具開放時に内圧により酢酸が飛散し作業員が負傷				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 8日 8時 15分	推定・ 確定	4 発 見	7月 8日 8時 15分	
5 覚 知	7月 8日 9時 15分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 8日 8時 55分	
7 鎮火・処理完了	7月 8日 9時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北 風速：3.3m/s 気温：26.4℃ 湿度：89.7%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 有機化学 番号 (1739) 工業製品製造業 その他の有 機化学工業製品製造業				
11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 酢酸ビニル 300,000L 1500倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 4,942L 4.94倍 第4類第2石油類(水溶性液体) 酢酸 200,000L 100倍				
13 機 器 等	温度圧力： 30℃、0.3Mpa 名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模： 40m ³ /h(ポンプの能力)				
14 発 生 箇 所	名 称： 給油(注油)ホース 番 号 (908) 材 質： ステンレス				
15 発 生 時	運 転 状 況： 受入中 番 号 (9) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)				
17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(水溶性液体) 名称： 酢酸(0.1L)				
18 取 扱 者 の 概 要	設置の完成： 昭和 55年 1月 9日 直近の完成： 平成 26年 12月 24日				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要	オンラインファイル無				
23 事 故 の 概 要	酢酸受入作業で受入フレキ配管のカプラーを外す際に、フレキに内圧がかかっていたため、フレキ内に残っていた酢酸0.1Lが飛散し、作業員1名の大腿部にかかり受傷(軽傷)したものの。				
24 緊 急 処 置 の 状 況	有 番号 () 無				

原因	25 主 原 因 設計不良		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 受入側フレキシブルホース内の圧力が気温上昇によって上がっていたが、圧力計や内圧を下げるためのドレン弁等が設置されていなかったため、作業員が内圧がかかっていることを知らずにカプラーを外したためにホース内に残っていた酢酸が噴出し、作業員が受傷したもの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	設計不良		機能		必要とされる機能が備わっていない						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 受入バケツが設置されており、ほぼ回収できた			
区分											
当 事 者		0	0	0	1		運送業				
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	3 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(水溶性)酢酸0.1L噴出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 現場の状況及び情報収集						自衛防災・消防組織等 番号 (5、99) 救護活動					
31 防災活動上の問題点 発災から1時間後に消防は覚知した。											
行政措置	32 施設名	一般取扱所				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検			令和4年 3月 25日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				気密試験等			年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日				保安検査			年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="text" value="無"/>		
その他	直ちに通報するよう指示 令和4年 7月 8日				1. 文書 ②. 口頭			1. 文書 2. 口頭			
35 今後の対策や所見 ・酢酸受入作業では耐酸衣の着用の徹底(着用規定あり、今回未着装) ・受入開始前にドレン抜き弁を開けてフレキ内の圧を抜き取る ・圧力ゲージの設置											

1 事故名	一般取扱所の発電機用内燃機関の破損した部品が飛んで潤滑油配管を破損したことによる潤滑油流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 12日 0時 10分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	7月 12日 0時 14分	
5 覚 知	7月 12日 0時 25分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 12日 3時 35分	
7 鎮火・処理完了	7月 13日 17時 00分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東北東 風速：3m/s 気温：24℃ 湿度：97%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) C重油 133,680L 66.84倍 第4類第4石油類 潤滑油 46,400L 7.73倍				
12 施 設 装 置	14 発 生 箇 所				
名 称： 発電装置 番 号 (4101)	設置の完成： 平成 4年 3月 26日 直近の完成： 平成 22年 7月 3日				
能 力： 発電定格出力 7,500KW、燃料消費量 1,998L/h	17 物 質 の 区 分				
13 機 器 等 温度圧力： 53℃、0.54Mpa	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(水溶性液体) 名称： 潤滑油(20L)				
名 称： 発電機 番 号 (704)	18 取 扱 者 の 概 要				
規 模： 重油 133,680L/日 潤滑油貯蔵量 46,400L	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
14 発 生 箇 所	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い				
名 称： フレキシブル管継手(ダクトを含む) 番 号 (202)	①. 有 2. 無				
材 質： ステンレス	22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要： オンラインファイル無				
15 発 生 時	23 事 故 の 概 要： 関係者が火災信号により現場を確認したところ、建屋内に白煙が充満してオイルが燃えたようなにおいがしたため119番通報をした。現場対応者は白煙の原因調査のため屋内に進入し、発電機停止作業を従業員に依頼し、消防隊到着後に緊急停止をした。内燃機関停止後に潤滑油循環ポンプを停止し、潤滑油供給バルブを閉じた。排煙作業後に消防隊と建屋内部に進入したところ、内燃機関設置フロアに潤滑油が床面に流出していたため吸着マットにて拡散防止を実施した。なお、建屋内に充満した白煙は内燃機関の冷却水配管が破損し高温の内燃機関外側本体に触れたものが水蒸気となり、冷えて白煙に変わったもので火災ではなかった。また、霧状に噴出したものは潤滑油で燃料配管に損傷はなく、流出した潤滑油は建屋内に留まり、他への流出はなかった。				
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)	24 緊 急 処 置 の 状 況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番 号 (1) 無 装置の緊急停止				
作 業 状 況： 番 号 ()					

原因	25 主 原 因 破 損		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因 腐食疲労等劣化							
	発生原因の状況： 発電装置の内燃機関(ディーゼルエンジン)運転中16気筒に設置された圧縮空気によりエンジンを始動する始動用圧力調整バルブ(1気筒に1個設置された始動弁、常時高圧の圧縮空気による圧力下にある。)を固定していた六角穴付きボルト2本が破断し、その1個がエンジン部から外れて高速で飛び、近くに設置されていた潤滑油フレキシブル配管及び冷却水配管等を破損し、潤滑油が噴出したもの。							
	主要原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	破損		定常運転時		物質の落下・ぶつかりによる破損			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害				28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ・内燃機関の部品破損による内燃機関用潤滑油フレキシブル配管破損により潤滑油20Lが施設建屋内に流出 ・事故による施設外油流出なし
区分								
当 事 者		0	0	0	0			
防災活動従事者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 発電機器用の内燃機関を構成する部品の破損による内燃機関用潤滑油フレキシブル配管破損 漏えいした危険物の除去
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	6 台 0 隻 0 機	22 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機	3 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 水溶性液体 指定数量:4,000L 第3石油類 潤滑油20L		
消 防 団	5 台 0 隻 0 機	31 人	共 同	0 台 0 隻 0 機	0 人			
海上保安部	0 台 0 隻 0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機	0 人			
その他の機関	0 台 0 隻 0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (180 万円)		
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 建屋内部は熱気は感じられないが白煙が充満し視界不良のため排煙による視界確保を優先。内部侵入により白煙の原因を特定し破損設備を停止。安全を確保し危険物排除に協力。				自衛防災・消防組織等 番号 (5) 施設の排煙設備を作動させ、建屋内に流出した潤滑油を吸着マットで除去				
31 防災活動上の問題点 自動火災報知設備の作動により災害を覚知したが、建屋内が白煙のため災害場所の特定に時間を要した。								
政 策 措 置	32 施設名	一般取扱所		33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和3年7月19日	年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
	関係条項	設備停止の助言等		34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：		
その他	令和4年7月12日	年 月 日	1. 文書 ②. 口頭		1. 文書 2. 口頭			
35 今後の対策や所見	消防機関との連携及び情報の共有化							

1 事故名		灯油供給配管一般取扱所における地下貯蔵タンクの配管フランジ部の変形による灯油漏えい事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		6月 20日 9時 00分	
5 覚 知		8月 9日 14時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了		6月 22日 23時 00分	
7 鎮火・処理完了		6月 27日 15時 00分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：曇		風向：北北西		風速：2.3m/s 気温：22℃ 湿度：89%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：教育・学習支援業 学校教育 番 号 (7611) 小学校 小学校				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 5,000L 5倍			
12 施 設 装 置							
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)							
能 力： 灯油:5,000L							
13 機 器 等				温 度 圧 力：			
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)							
規 模： 直径35mm							
14 発 生 箇 所				倍数の合計： 5倍			
名 称： 給油管等 番 号 (907)				設置の完成： 昭和 63年 2月 5日 直近の完成： 昭和 63年 8月 1日			
材 質： 鋼鉄				17 物 質 の 区 分			
15 発 生 時				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (20L)			
運 転 状 況： 休止中 番 号 (6)							
作 業 状 況： 番 号 ()							
				18 取 扱 者 の 概 要			
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	
				21 危険物取扱者 の取扱・立会い		1. 有 ②. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有							
23 事 故 の 概 要： 令和4年6月22日液面計の不具合の確認のため、その不具合の現場確認にきた設備業者がマンホール内部に灯油約5Lから20Lが漏えいしていることを発見した。直ちに流出箇所を調査したが特定できず、その後の調査により吸引管フランジパッキン部からの漏えいが判明した。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送							

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()				
原 因	関 連 原 因						
	発生原因の状況： マンホール内の地下貯蔵タンクと吸引管を結合するフランジ部分から漏えいしたもの。当該フランジに土圧等が影響し、フランジ部に曲げ応力がかかったことにより、フランジ結合面に隙が生じ、フランジパッキンから漏えいしたと推定する。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	疲労・劣化	環境	荷重による疲労(地盤沈下、地盤傾斜)				
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害			28 物的被害				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 地下貯蔵タンク周囲に灯油が流出する。漏えい範囲は半径約10mと推定する。
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							施設等の被害状況： マンホール内フランジの破損(不良)
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第2石油類非水溶性液体灯油約5Lから20L流出したもの
30 実施した防災活動の状況							損害額 1万円未満、 1万円以上 (102 万円)
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 ()			
事故状況確認及び情報収集活動							
31 防災活動上の問題点							
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和4年 5月 27日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：		
そ の 他	年 月 日	年 月 日	1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭	
35	今後の対策 や所見 液面指示計による日常点検(在庫管理)を実施し、当該施設の不具合については、速やかな対応を行う。						

1 事故名	一般取扱所の発電機で、定期点検後の復旧作業で配管に通油したところ、接続部から軽油が流出した事故						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	10月 4日 13時 47分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	10月 4日 13時 47分			
5 覚 知	10月 4日 13時 56分			6 鎮 圧 応急処置完了	10月 4日 13時 49分		
7 鎮火・処理完了	10月 4日 17時 00分						
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況	天気：曇		風向：南		風速：2m/s		気温：30℃ 湿度：46%
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所			11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
				16 発生施設規制区分等			
12 施 設 装 置	名 称： 自家発電施設 番 号 (1503) 能 力： 発電量:約22,700KW/h 燃料消費量:14,000L/日						
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 発電機 番 号 (704) 規 模： 定格燃料消費量:14,000L/日						
14 発 生 箇 所	設 置 の 完 成： 昭和 63年 12月 21日 直 近 の 完 成： 年 月 日						
15 発 生 時	名 称： 本体に係るボルト、ナット、リベット 番 号 (107) 材 質： 鋼鉄			17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(100L)		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	18 取扱者の概要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 定期点検からの復旧作業で燃料供給配管に通油したところ、非常用ディーゼル発電機の燃料噴射ポンプ接続部付近から軽油約100Lが流出した事故。							
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他							

原因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()							
	関連原因											
	発生原因の状況： 定期点検の際、燃料噴射ポンプ配管の接続部に取付けられているガスケットを交換する際、要求寸法が厚さ3.0mmであったにもかかわらず、確認不測により厚さ1.5mmのガスケットを取付けてしまったため、燃料噴射ポンプと配管の接続部が締付け不良になり燃料が漏えいしたもの。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	施工不良		施工		施工内容の間違い							
	関連原因の詳細											
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害				28 物的被害								
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 発電機室内に軽油が流出したが、施設外への流出なし。				
区分												
当 事 者	0	0	0	0								
防災活動従事者	0	0	0	0								
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類 軽油約100L流出		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (1 万円)		
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()						
調査活動												
31 防災活動上の問題点												
32 施設名					33 定期点検等				消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和4年5月10日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <u>無</u>				
措 置	その 他		年 月 日		年 月 日		内容：					
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭												
35 今後の対策や所見 点検や部品交換時等の作業手順が遵守されるよう社内教育を徹底し、保安意識を向上させるよう指導する。												

1 事故名	一般取扱所において送油配管のポリエチレン被覆が劣化して鋼管が腐食したことによる灯油の流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 15日 10時 30分	推定・確定	4 発 見	12月 15日 12時 35分	
5 覚 知	12月 15日 13時 50分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 15日 16時 30分	
7 鎮火・処理完了	12月 15日 16時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：南 風速：2.9m/s 気温：1℃ 湿度：95%				
10 発 生 事 業 所			11 発 生 場 所		
種 別	1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他)		区 分	①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)	
業 態	運輸業 鉄道業 鉄道業 普 番 号 (4211) 通鉄道業		特別防災地区名		
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称	その他【分類なし】 番 号 (9999)		施設区分	① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他	
能 力	送油量 25,680L/日		貯蔵・取扱・運搬の別	取扱所 施設別：一般取扱所	
13 機 器 等	温度圧力：		類・品名・名称・数量・倍数	第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 25,680L 25.68倍	
名 称	配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		設置の完成	昭和 55年 12月 13日	
規 模	配管径32A		直近の完成	平成 16年 10月 7日	
14 発 生 箇 所			17 物 質 の 区 分		
名 称	管継手(ダクトを含む) 番 号 (201)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
材 質	鋼鉄		5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
15 発 生 時			(固相、液相、気相) (常圧、加圧)		
運 転 状 況	試運転中 番 号 (14)		(低温、常温 [0-40℃]、高温)		
作 業 状 況			分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (1.5L)		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	18 取扱者の概要		
			①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 試運転として灯油をポンプで送油したところ、腐食した地上配管ピンホール部から灯油約1.5Lが流出したもの。 敷地外の道路脇側溝に流出した灯油の油膜を認めたが、河川への流入はなかった。 この事故による負傷者は発生していない。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 配管外面のポリエチレン被覆に経年劣化によるものと推定される亀裂が認められた。 配管外面被覆が劣化したことで鋼管が露出、雨水などに触れることで腐食しピンホールが形成されたと推定される。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	腐食	防食	防食塗装・被覆剥離(経年による剥離)							
	関連原因の詳細									
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27	人的被害		28 物的被害							
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した灯油約1.5Lは施設外の側溝内に流れ込んだが、流出範囲は敷地境界線から約22mの範囲に収まり、河川への流入はなかった。 施設等の被害状況： 地上配管約1m取替		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0						
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油 約1.5L流出 損害額 1万円未満 、1万円以上 () 万円)		
消防機関	3台	0隻	0機	13人	自 衛	0台	0隻		0機	0人
消防団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻		0機	0人
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻		0機	0人
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻		0機	0人
30	実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動										
31	防災活動上の問題点									
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	令和4年7月5日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無			
	その他	年 月 日		年 月 日			内容：			
	1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭							
35	今後の対策 や所見 関係者に対して同様の地上配管を点検するよう指導した。									

1 事故名	一般取扱所において、地下貯蔵タンクマンホール内引込管逆止弁のパッキンが劣化し、灯油が流出した事故						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	12月 15日 10時 00分	推定・確定	4 発 見	12月 16日 10時 00分			
5 覚 知	12月 16日 12時 00分			6 鎮 圧 応急処置完了	12月 16日 12時 15分		
7 鎮火・処理完了	12月 16日 17時 45分						
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況	天気：雨		風向：南		風速：1.1m/s		気温：2.8℃ 湿度：89.4%
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：教育・学習支援業 学校教育 番 号 (7611) 小学校 小学校				11 発 生 場 所		
					区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍			
12 施 設 装 置							
名 称： 地下タンク	番 号 (1209)						
能 力： 一般取扱所(灯油10,000L)							
13 機 器 等	温 度 圧 力：						
名 称： 貯槽(タンク)	番 号 (107)						
規 模： 直径1,618mm、全長5,878mm、10,000L				倍数の合計： 10倍			
14 発 生 箇 所					設 置 の 完 成： 平成 12年 1月 19日 直 近 の 完 成： 平成 12年 1月 19日		
名 称： 逆止弁	番 号 (206)			17 物 質 の 区 分			
材 質： ゴム	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (50L)						
15 発 生 時					18 取 扱 者 の 概 要		
運 転 状 況： 定常運転中	番 号 (1)						
作 業 状 況：	番 号 ()						
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者		1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有							
23 事 故 の 概 要： 職員が敷地内の側溝にある油膜を発見したため、業者に依頼し調査したところ、地下貯蔵タンクのマンホール内の吸引管に付随する逆止弁のパッキンが劣化したことにより、そこから灯油が約50L漏れ出て側溝に流出したものの、敷地外への流出はなく、当日中に油処理とパッキンの交換を実施した。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他							

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 地下貯蔵タンクの吸引管に付随する逆止弁のパッキンが経年劣化したもの。										
	主要原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名				
区分											
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 地下貯蔵タンクから流出した灯油が敷地内の側溝に流出したもの。敷地外への流出はない。				
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 逆止弁のパッキン(経年劣化)				
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)灯油 約50L流出。 マンホール内の地下水と灯油を抜き取り、側溝に流出した灯油を吸着マットで処理。	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動											
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	年 月 日				
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	令和 4 年 11 月 8 日				
	停止解除	年 月 日				保安検査	年 月 日				
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無				
その他	年 月 日				内容： 法第12条1項 標識、掲示板の維持管理違反 法第12条1項 消火器の維持管理違反 法第13条第2項 危険物保安監督者の選解任届出義務違反 法第14条の3の2 点検記録の作成及び保存の義務違反						
35	今後の対策や所見 法令順守はもちろん、維持管理を徹底するよう指導する。										

1 事故名	一般取扱所のリチウムイオン電池製造工場で、電解液注入装置の供給部及び通気管から電解液が流出した事故						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	12月 17日 22時 17分	推定・ 確定	4 発 見	12月 17日 23時 00分			
5 覚 知	12月 18日 1時 28分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 18日 12時 00分			
7 鎮火・処理完了	12月 18日 15時 00分						
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況	天気：雨		風向：西		風速：7m/s		気温：4℃ 湿度：88%
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 電気機械器具製造業 番号 (2791) その他の電気機械器具製造業 蓄電池製造業				11 発 生 場 所		
					区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
					16 発生施設規制区分等		
					施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 電解液 7,666L 7.67倍		
12 施 設 装 置					倍数の合計： 7.67倍		
	名 称： その他【分類なし】 番号 (9999)				設置の完成： 平成 22年 11月 15日		
	能 力： 電解液注入装置 2,308.58L/日				直近の完成： 令和 2年 10月 2日		
13 機 器 等	温 度 圧 力：				17 物 質 の 区 分		
	名 称： その他 番号 (999)				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
	規 模： 縦1,900mm、横13,100mm、高さ1,600mm				5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
14 発 生 箇 所					(固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧)		
	名 称： 開閉弁 番号 (204)				(低温、 常温 [0-40℃]、高温)		
	材 質： ステンレス				分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 電解液(40L)		
15 発 生 時					18 取扱者の概要		
	運 転 状 況： 定常運転中 番号 (1)				経験年数11年		
	作 業 状 況： 運転操作中 番号 (1)				①. 選任有 2. 選任無		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： リチウムイオン電池の製造で、リチウムイオン電池のセルに電解液を注入する工程において、注液装置の電解液供給部及び大気開放配管から電解液約40Lが漏えいしたものの。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他							

原因	25 主 原 因 故障		着火原因			番号 ()			
	関連原因		維持管理不十分						
	発生原因の状況： 注液装置に電解液を供給する中間タンクのパルプ内で、電解液の内容物である塩(六フッ化リン酸リチウム)及び添加物が析出したことにより弁が開いた状態で固着し、中間タンク内に電解液が過剰供給され飽和状態となり、電解液供給部から過剰流出及び大気開放管を逆流し漏えいしたものの。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	故障		機能		機器の機能の停止				
	関連原因の詳細								
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害						28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名		
区分									
当 事 者		0	0	0	0				
防災活動従事者		0	0	0	0				
第 三 者		0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
						物質の被害状況： 第4類第2石油類(電解液)40L流出			
						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (148 万円)			
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()				
調査活動									
31 防災活動上の問題点									
32 施設名 一般取扱所									
行政措置	使用停止	年 月 日		年 月 日		33 定期点検等			
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	年 月 日		
	停止解除	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日		
	関係条項	法第11条第1項				保安検査	年 月 日		
	警告書					34 当該施設に係る 法令違反の有無			
	その他	平成 24 年 5 月 22 日		年 月 日		有・ <u>無</u> 内容：			
		①. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策や所見 事故発生部分を交換すること、日常点検においてパルプの開閉状況を確認すること及び事故発生時の早期通報を指導する。									

1 事故名	一般取扱所において、ローリーに重油を充てん中に取扱者の不注意により重油が敷地内に流出した事故						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	12月 20日 12時 30分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	12月 20日 12時 30分			
5 覚 知	12月 20日 12時 40分			6 鎮 圧 応急処置完了	12月 20日 13時 00分		
7 鎮火・処理完了	12月 23日 15時 25分						
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況	天気：曇		風向：南南西		風速：2.1m/s		気温：1℃ 湿度：90.2%
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属 材料卸売業 石油卸売業			11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 18,000L 18倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 4,000L 4倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 5,000L 2.5倍 倍数の合計： 24.5倍 設置の完成：平成 6年 9月 30日 直近の完成：令和 2年 12月 25日		
12 施 設 装 置				名称：ローリー充てん施設 番号 (1402) 能 力：			
13 機 器 等	温度圧力：		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(30L)				
名称：ローディングアーム 番号 (604) 規 模：吐出量180L/min							
14 発 生 箇 所	名称：マンホール 番号 (305) 材 質：鋼鉄		18 取扱者の概要 経験年数0年				
15 発 生 時	運転状況：定常運転中 番号 (1) 作業状況：充填中 番号 (12)						
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 充てんの一般取扱所において、ローリー上の除雪を怠ったことにより、足元に積もっていた雪で足を滑らせ体勢を崩し、ノズルの閉止動作が遅れ重油約30L流出させたもの。 流出した重油は排水溝内から油分離槽で留まっており、敷地外への流出はない。							
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

25	主 原 因 維持管理不十分	着火原因	番号 ()				
原 因	関 連 原 因						
	発生原因の状況： 充てん作業中、取扱者がメーターとタンク内を両方見ながら注油していたところ、ローリー上の雪で足を滑らせ体勢を崩し、ノズルの閉止動作が遅れたものである。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	人	本人の意識	思慮	不注意			
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害			28 物的被害				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 排水小溝及び油分離槽内に流出
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第3石油類重油約30Lが流出
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
30 実施した防災活動の状況							損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (万円)
公設消防機関：番号 (99) 危険物の流出原因の調査				自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点							
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 2 年 6 月 1 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/> 内容：	
	そ の 他	年 月 日	年 月 日	年 月 日			
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 や所見	再発防止対策として取扱者及び立会者のマニュアルの改正						

1 事故名	サービスタンクから暖房設備へ供給する配管で、配管の疲労腐食により亀裂が入り、灯油が流出したもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	7月 20日 11時 00分		
5 覚 知	8月 17日 10時 45分	6 鎮 圧 応急処置完了	7月 20日 12時 00分		
7 鎮火・処理完了	7月 20日 12時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：西 風速：1.5m/s 気温：23.4℃ 湿度：95.9%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：教育・学習支援業 学校教育 番 号 (7611) 小学校 小学校		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称：ボイラー施設 番 号 (1505) 能 力：		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 2,000L 2倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：加熱ヒーター 番 号 (914) 規 模：小型ヒーター		倍数の合計： 2倍		
14 発 生 箇 所	名 称：配管の保温材、ヒーター 番 号 (214) 材 質：鋼鉄		設置の完成：昭和 61年 1月 13日 直近の完成： 年 月 日		
15 発 生 時	運 転 状 況：停止中 番 号 (5) 作 業 状 況：その他 番 号 (99)		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(370L)	
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： サービスタンクから暖房設備へ供給する配管の途中で、配管が建物基礎(コンクリート)を貫通しており、地盤沈下や配管の疲労腐食により亀裂が入り、灯油(約370L)が流出したもの。(推定) 覚知時、亀裂配管の周囲から油分は確認されなかったが、最終在庫管理日の残油量と覚知日の残油量の差が最大で漏えいしたと考えられる。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()										
	関 連 原 因 操作未実施														
	発生原因の状況： 本来使用しない場合は地下タンクの元弁を閉鎖しなければいけないが、閉鎖しておらず配管内が通油状態であったこと及び、配管又は建物基礎が長年の地盤沈下及び経年劣化等で亀裂が入り易くなっていたことが原因と考えられる。														
	主原因の詳細														
因	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層								
	疲労・劣化		環境		荷重による疲労(地盤沈下、地盤傾斜)										
関連原因の詳細															
人		本人の知識・能力			知識		知識不足								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から															
27 人的被害						28 物的被害									
被害内容等		死亡		重症		中等症		軽症		死傷原因		職業又は職名		被災影響範囲及び拡大の状況： 腐食配管から最大で約370Lの灯油が漏えいしたと考えられるが、周囲に油分が確認されなかった。	
区分															
当 事 者		0	0	0	0										
防災活動従事者		0	0	0	0										
第 三 者		0	0	0	0										
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況															
消 防 機 関	0台	0隻	0機	0人	自 衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油370L漏えい					
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人						
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人						
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (5万円)					
30 実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 ()										自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点															
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等				消 防 法		そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検		年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等		令和3年11月30日			
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査		年 月 日			
	関係条項									34 当該施設に係る法令違反の有無		<input checked="" type="checkbox"/> ・無			
その他	年 月 日				年 月 日						内容： 消防法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反				
35 今後の対策や所見		亀裂配管の修繕 (R4.11.18修繕完了 亀裂部切断、継手溶接、防錆塗装、防食テープ巻き)													

1 事故名	一般取扱所内で設備点検をしていたところ、ポンプが起動しサービスタンクの通気管からA重油が屋外へ流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 15日 11時 10分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	6月 15日 11時 10分	
5 覚 知	6月 15日 16時 37分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 15日 20時 20分	
7 鎮火・処理完了	7月 15日 9時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：北西 風速：2.4m/s 気温：22℃ 湿度：88%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 52,000L 26倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 発電装置	番 号 (4101)	能 力：	設置の完成： 令和 4年 3月 22日 直近の完成： 令和 4年 3月 22日	倍数の合計： 26倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 常温、常圧		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： A重油 (3,400L)		
名 称： 貯槽(タンク)	番 号 (107)				
規 模：	胴長:2,350.4mm、内径:1,030.0mm、鏡出:199.8mm、 全長:2,768.00mm、容量:2,174.7L、通気管:50A(無弁通気管)				
14 発 生 箇 所	名 称： 通気管		18 取扱者の概要		
材 質： 鋼鉄	番 号 (304)		経験年数0年		
15 発 生 時	運 転 状 況： その他		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		
作 業 状 況： 点検中	番 号 (99)				
	作 業 状 況： 点検中		①. 有 2. 無		
	番 号 (5)				
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 一般取扱所内で設備点検(作業員4名、内危険物取扱者1名)をしていたところ、移送ポンプが起動し、A重油が流れ続けサービスタンクの通気管から屋外に流出した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 監視不十分	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 原因は、作業員がポンプ起動スイッチを自動起動状態(油量が規定数量になると起動及び停止する)から手動起動状態への切り替え確認を怠り、液面感知センサーの計器2台(ポンプ起動用及びポンプ停止用)を同時に点検した。その際に、計器内の油を全て抜き取り表示が0L設定となったため、移送ポンプが起動しサービスタンク内のA重油が移送ポンプを停止する数量になっても停止することなく流れ続けた。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	人	本人の意識	思慮	思い込み						
	管理	監督	監視	監視が実施されない/不足						
	関連原因の詳細									
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27	人的被害		28 物的被害							
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： サービスタンクの通気管から発電所敷地内の排水溝及び海上(発電所管理内)へ流出。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： A重油3,400Lが流出。		
消防機関	0台	0隻	0機	0人	自 衛	0台	0隻		0機	0人
消防団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻		0機	0人
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻		0機	0人
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻		0機	0人
30	実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31	防災活動上の問題点									
32 行 政 措 置	施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：		
その他	年	月	日	年	月	日				
35	今後の対策 や所見		<ul style="list-style-type: none"> ・関係者への安全教育及び訓練の実施 ・当該事業所に対して、安全管理及び災害時は直ちに通報するよう指導したが、他の事業所においても作業時の監視及び通報に遅れがないよう周知する必要がある。 							

1 事故名	乳化重合物を生産中に異常反応が起き、通気ラインを通過して屋上へ危険物が流出した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 8日 1時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	2月 8日 1時 03分	
5 覚 知	2月 8日 13時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 8日 7時 00分	
7 鎮火・処理完了	2月 8日 7時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇	風向：北	風速：1m/s	気温：1.6℃	湿度：96%
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 その他の番号 (1799) 化学工業 他に分類されない 化学工業製品製造業				
11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 酢酸ビニル、メタクリル酸メチル 41,796L 208.98倍 テール、アクリル酸エチルエステル、アクリルニトリル アビタルテヒト 180L 0.45倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) アクリル酸ブチル、ステレン、2メキシ 19,982.8L 19.98倍 エチルアクリレート 第4類第2石油類(水溶性液体) E-127、80%アクリル酸、ホカト 1,188L 0.59倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) ベオハ 10、アクリル酸2エチルヘキ 23,200.9L 11.6倍 シルエステル、フタル酸ジブチル、メタクリル酸シクロヘキシル、DOM メタクリル酸、エチレングリコール、 2,037.3L 0.51倍 プロピレングリコール 第4類第4石油類 モノメチル、アテカリアノブ、PEG 1,195L 0.2倍 第5類有機過酸化物質(第2種自己反応性物質) パーブチル 39kg 0.39倍 第5類アノ化合物(第2種自己反応性物質) V-65 24kg 0.24倍 第4類アルコール類 IPA、エタノール、メタノール 3,335L 8.34倍 倍数の合計： 251.28倍				
13 機 器 等	温度圧力：95℃				
14 発 生 箇 所	設置の完成：昭和45年8月27日 直近の完成：令和2年5月25日				
15 発 生 時	17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：酢酸ビニル 第4類第2石油類(非水溶性液体) アクリル酸ブチル 第4類第3石油類(非水溶性液体) ベオハ 10				
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要	オンラインファイル無				
23 事故の概要	反応釜にて乳化重合物を生産中に異常反応が起き、危険物の成分を含んだ生産途中のモノマー約10Lが通気ラインを通過して屋上へが流出した事故				
24 緊急処置の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1, 10, 9) 無 装置の緊急停止、その他、緊急排出、緊急移送				

原 因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()			
	関連原因							
	発生原因の状況： 生産工程において、モノマーの反応性が悪い場合がある。今回は生産初期から反応が悪かったが生産を継続したため、反応しきれないモノマーが工程終盤で異常反応したもの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足	
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害				28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 反応釜の通気ラインから建屋屋上にモノマーが約10L流出した。
区分								
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	0台 0隻 0機 0人	自 衛	0台 0隻 0機 0人	物質の被害状況：				
消 防 団	0台 0隻 0機 0人	共 同	0台 0隻 0機 0人	モノマー約10L(生産工程で3品目の危険物が混合されているが、それぞれの含有量は不明)				
海上保安部	0台 0隻 0機 0人	応 援	0台 0隻 0機 0人					
その他の機関	0台 0隻 0機 0人	その他	0台 0隻 0機 0人	損害額 [1万円未満]、1万円以上 () 万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点 事故後の通報が遅延している。								
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和3年6月28日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・[無] 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策 や所見	反応工程の見直しを行い、反応時間を延長することで未反応モノマーを減少させること。 工程異常となる条件を明確にして異常があればすぐに対処できる対応マニュアルを作成すること。 温度変化率により、異常時には自動で釜内へ注水し、制御できるシステムを構築すること。 消防への通報が遅延しているため、事故発生時にはすみやかに通報すること。							

1 事故名	ドラム缶で保管していた未反応モノマー溶液が重合反応熱により内圧上昇し、破裂及び噴出した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 20日 19時 22分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	7月 20日 19時 22分	
5 覚 知	7月 20日 19時 32分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 20日 22時 14分	
7 鎮火・処理完了	7月 20日 22時 14分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西 風速：3.1m/s 気温：27.5℃ 湿度：74%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 その他の番号 (1799) 化学工業 他に分類されない 化学工業製品製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混合 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン、メタクリル酸メチル、酢酸 28,024L 140.12倍 エチル、アクリル酸メチル 第4類第1石油類(水溶性液体) アセトン、テトロヒト [®] ロフラン 28,000L 70倍 第4類アルコール類 メタノール、アルコール 2,000L 5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 酢酸 [®] チル、イブ [®] ゾール100、 61,700L 61.7倍 スチレン、N-BMA 第4類第2石油類(水溶性液体) アクリル酸、ライトエステルDM 2,500L 1.25倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) HA、LA、アレンマ-SMA、ローテ [®] イソルブ 7,430L 3.72倍 第4類第3石油類(水溶性液体) メタクリル酸、ACMO、エチルジ [®] クリコル 2,700L 0.68倍 第4類第4石油類 NKエステル、バ [®] ールサ [®] ム200 12,060L 2.01倍 第5類有機過酸化物質(第2種自己反応性物質) パ [®] チル 670kg 6.7倍 第5類 [®] 化合物(第2種自己反応性物質) AIBN 120kg 1.2倍 倍数の合計： 292.38倍				
12 施 設 装 置	設置の完成：平成 6年 7月 18日 直近の完成：令和 3年 12月 13日				
名 称： その他【分類なし】 番号 (9999)	17 物 質 の 区 分				
能 力： 容量200L	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分 類： 第4類第1石油類(水溶性液体) 名称：アセトン(30L) 第4類第2石油類(非水溶性液体) イブ [®] ゾール(90L) 第4類第2石油類(非水溶性液体) スチレン(90L)				
13 機 器 等	18 取扱者の概要 経験年数22年				
温度圧力：150℃、0.1Mpa	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の 名 称：ドラム等容器 番号 (201)				
規 模： 容量200L	3. 不要 ①. 有 2. 無				
14 発 生 箇 所	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
名 称： 容器本体 番号 (108)	23 事 故 の 概 要： 試作樹脂製品の製造作業中に異常反応が起きたため、反応釜に重合禁止剤を投入した。その後、重合反応が終了していると判断した作業員がドラム缶に液を抜き取り、廃棄処分のために同施設内で仮置きしていたところ、缶内では重合反応が継続していたため、重合反応熱による内圧上昇によりドラム缶が破裂した事故				
材 質： 鋼鉄	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他				
15 発 生 時					
運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番号 (7)					
作 業 状 況： 監視中 番号 (10)					
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()							
	関 連 原 因 設計不良											
	発生原因の状況： ・作業員は異常重合反応(モノマー液の白濁)が起きた際、液が固化化したものと誤認し、昇温操作を行っていたこと。 ・異常重合反応が起きていると認識した際に、重合禁止剤を投入してるが、反応が終了していると判断し、ドラム缶に抜き取り作業を実施したこと。 ・試作製品のため、ラボでの実験を数回繰り返しているが、今回の異常反応を想定できていなかったこと。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足					
	関連原因の詳細											
	設計不良		能力		想定を越えた圧力の発生							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害						28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 重合反応した樹脂状物が取扱所の床面に飛散した				
区分												
当 事 者	0	0	0	2	裂創及び嘔気	従業員						
防災活動従事者	0	0	0	0								
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 施設への被害等なし				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	7 台	0 隻	0 機	22 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 樹脂状物約219Lが周囲に飛散した		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人			
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (2, 99)						自衛防災・消防組織等 番号 (2)						
救護及び調査活動												
31 防災活動上の問題点												
32 施設名					33 定期点検等				消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和4年2月22日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・ <input type="checkbox"/> 無		内容：
置 その 他	年 月 日		年 月 日									
35 今後の対策や所見												
滴下釜での重合反応が起きないようにするため、モノマー液と重合開始剤は別々の釜から反応釜へ滴下するよう、工程の見直しを実施する(工程見直しに伴う変更許可申請あり)												

1 事故名	落雷で一般取扱所の機器が故障したため、タービン油が施設内及び一部がダムへ流出したものの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 27日 2時 48分	推定・確定	4 発 見	7月 27日 5時 10分	
5 覚 知	7月 27日 8時 54分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 27日 16時 00分	
7 鎮火・処理完了	7月 29日 15時 08分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (fax)				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：西 風速：1m/s 気温：23℃ 湿度：98%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所				
11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第4石油類 タービン油 146,060L 24.34倍				
13 機 器 等	温度圧力： 名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模： 漏油槽容量 350L				
14 発 生 箇 所	設置の完成： 平成 21年 10月 27日 直近の完成： 平成 22年 3月 16日				
15 発 生 時	17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第4石油類 名称： タービン油 (500L)				
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要：	オンラインファイル無				
23 事故の概要：	落雷の影響により、3・4号機漏油ポンプの電源が故障したため、漏油槽のタービン油を集油槽へ返油しなくなり、漏油槽が満タンとなり、漏油槽及び油圧機器からタービン油が500L漏えいした。漏えいしたタービン油が側溝から排水ポンプが設置されている排水槽へ流れ込み、落差により油が粒子状となったため油検知器が反応せず、排水ポンプにより屋外に流出したものの。(屋外流出は約0.02L)				
24 緊急処置の状況	[有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止				

原	25 主 原 因		その他の地震等災害				着火原因				番号 ()	
	関 連 原 因		故障									
	発生原因の状況：		落雷による									
	主原因の詳細		第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
因	関連原因の詳細		故障		機能		機器の機能の停止					
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害						28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：				
区分								漏油槽と油圧機器からタービン油500Lが施設内に漏えいし、排水溝から施設外に約0.02L流出した。流出したタービン油は敷地境界線から約20mの範囲でダムに浮遊し、オイルフェンスを使用し拡散防止を実施した。漁協関係への被害なし。				
当 事 者	0	0	0	0				施設等の被害状況：				
防災活動従事者	0	0	0	0				なし				
第 三 者	0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況：		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	第4類第4石油類(タービン油)		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (33 万円)		
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (4)						
調査活動						施設内の漏れた油をオイルプロッターで回収。排水槽の油をポンプでくみ上げ回収。排水口付近河川にオイルプロッターを設置。その下流域にオイルフェンスを設置。						
31 防災活動上の問題点												
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他				
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和4年7月4日	年 月 日					
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	令和4年7月4日	年 月 日					
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日					
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ <u>無</u>					
そ の 他	年 月 日	年 月 日				内容：						
35 今後の対策や所見	応急対策として、電源ブレーカー及びフェーズを電力会社保有の落雷に強いものに交換し、排水槽へ漏えいした油が流れ込まないように止水板を設置している。10月末までに恒久的な対策として、落雷に強い漏電検出機能なしの電源ブレーカーに交換、排水溝への流出を防ぐようコンクリートによる閉塞を予定しているとのことで、工事が完了次第、再度現地確認に向う予定である。											

1 事故名	一般取扱所において移動タンク貯蔵所への充填中に第4類第3石油類プロスルホカルブが漏えいした事故						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	4月 4日 10時 10分	推定・確定	4 発 見	4月 4日 10時 15分			
5 覚 知	4月 4日 13時 05分			6 鎮 圧 応急処置完了	4月 4日 10時 45分		
7 鎮火・処理完了	4月 4日 12時 00分						
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況	天気：雨		風向：北西		風速：5.3m/s		気温：8℃ 湿度：97.4%
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 その他の番号 (1792) 化学工業 農薬製造業				11 発 生 場 所		
					区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
					16 発生施設規制区分等		
					施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) プロスルホカルブ 48,000L 24倍		
12 施 設 装 置					倍数の合計： 24倍		
名 称： ローリー充てん施設	番 号 (1402)				設置の完成： 平成 9年 10月 30日		
能 力： 1.5KL/h					直近の完成： 令和 3年 5月 31日		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 0.3Mpa				17 物 質 の 区 分		
名 称： ローディングアーム	番 号 (604)				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
規 模： 60.5mm					5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
14 発 生 箇 所	番 号 (999)				(固相、液相、気相) (常圧、加圧)		
名 称： その他	材 質： 鋼鉄				(低温、常温 [0-40℃]、高温)		
15 発 生 時	番 号 (1)				分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： プロスルホカルブ (950L)		
運 転 状 況： 定常運転中	番 号 (12)				18 取扱者の概要		
作 業 状 況： 充填中					経験年数42年		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 充填の一般取扱所において、第4類第3石油類(非水溶性)プロスルホカルブを移動タンク貯蔵所に充填中にバイパスバルブが開放状態であるのに気付かず充填し続けたため、移動タンク貯蔵所の頂部マンホールから同危険物が漏えいしたものの。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他							

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()	
	関連原因					
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所のマンホールにローディングアームを設置後、吐出バルブ開放する際にバイパス配管のバルブの閉鎖を確認せずに充填を開始した。					
	主要原因の詳細					
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層	
	人		本人の意識		思慮	
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
27 人的被害				28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因
区分						職業又は職名
当 事 者	0	0	0	0		
防災活動従事者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	0	0		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						
消 防 機 関	0 台 0 隻 0 機 0 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機 5 人	物質の被害状況：		
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	第4類第3石油類(非水溶性)プロスルホカルブ		
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	950L漏えい。		
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (30 万円)		
30 実施した防災活動の状況						
公設消防機関：番号 ()			自衛防災・消防組織等 番号 (4、3、5)			
31 防災活動上の問題点 消防機関への通報が遅れたこと。						
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和3年6月29日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u>	
その他	年 月 日	年 月 日	内容：			
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭	35 今後の対策 や所見				
同施設の類似事故の再発防止策策定を指導するとともに、管内事業所に対し指導を行い事故防止に努める必要がある。						

1 事故名		稼働中の蒸気タービンの給油配管溶接部から潤滑油が漏えいした事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		5月 6日 1時 15分	推定・確定	4 発 見		5月 6日 1時 35分	
5 覚 知		5月 6日 1時 53分		6 鎮 圧		5月 6日 2時 29分	
7 鎮火・処理完了		5月 6日 2時 29分		6 応急処置完了			
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：北北西 風速：1.2m/s 気温：16.7℃ 湿度：78.6%					
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、 <u>その他</u>) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所				区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：名古屋港臨海			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 36,100L 18.05倍 第4類第4石油類 潤滑油 266,600L 44.43倍			
12 施 設 装 置							
名 称：発電装置 番 号 (4101)							
能 力：貯蔵量 55,000L							
13 機 器 等				温度圧力：46℃			
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)							
規 模：長さ7,722mm、幅3,112mm、高さ2,509mm、容量59.31m ³				倍数の合計： 62.48倍			
14 発 生 箇 所				設置の完成：平成 28年 12月 20日 直近の完成：令和 3年 10月 4日			
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)				17 物 質 の 区 分			
材 質：鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類：第4類第4石油類 名称：潤滑油(2,285L)			
15 発 生 時				18 取扱者の概要			
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)							
作 業 状 況： 番 号 ()							
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 蒸気タービンを運転中、警報が作動したため従業員が確認に向かい、潤滑油タンクのレベル低下と給油配管溶接部からの潤滑油漏えいを確認した。従業員が中央制御室に連絡し、蒸気タービンへの潤滑油供給を停止させた。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

原 因	25 主 原 因 設計不良		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 蒸気タービンを運転すると振動が発生し、その振動が蒸気タービンの配管溶接部に伝わる。振動によって配管溶接部は繰り返し曲げ応力が発生し、その応力がSUS材の疲労限度を超過したため配管溶接部が疲労破壊し、亀裂が発生した。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	設計不良		能力		想定を越えた応力の発生					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 蒸気タービンの給油配管溶接部から流出した潤滑油が機器軸受部分及び下階の床に約2,285L流出した。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管の破損、流出物による機器軸受部分及び下階の床の汚損		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3台	0隻	0機	8人	自 衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： 第4類第4石油類 潤滑油 約2,285L流出
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人	
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人	
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (300 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 ()						
状況確認										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	一般取扱所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	令和4年	5月	6日	年	月	日			
	改善命令等	年	月	日	年	月	日			
	停止解除	令和4年	5月	10日	年	月	日			
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u>				
その他	年	月	日	年	月	日	内容：			
35 今後の対策 や所見	本事案で破損した配管溶接部以外の配管にSUS材の疲労限度を超過する繰り返し曲げ応力が発生していないか確認を実施した。									

1 事故名	稼働中の蒸気タービンの給油配管溶接部から潤滑油が漏えいした事故		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	7月 25日 1時 27分 推定・ 確定	4 発 見	7月 25日 1時 27分
5 覚 知	7月 25日 1時 36分	6 鎮 圧 応急処置完了	7月 25日 2時 04分
7 鎮火・処理完了	7月 25日 2時 04分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南東 風速：2.6m/s 気温：26.7℃ 湿度：87.7%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、 その他)	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)		
業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所	特別防災地区名：名古屋港臨海		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 36,100L 18.05倍 第4類第4石油類 潤滑油 266,600L 44.43倍		
12 施 設 装 置	設置の完成：平成 28年 12月 20日 直近の完成：令和 3年 10月 4日		
名 称：発電装置 番 号 (4101)	17 物 質 の 区 分		
能 力：貯蔵量55,000L	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第4石油類 名称：潤滑油(2,400L)		
13 機 器 等 温度圧力：46℃	18 取扱者の概要		
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 3. 不要		
規 模：長さ7,722mm 幅3,112mm 高さ2,509mm 容量59.31㎡	20 危険物保安監督者		
14 発 生 箇 所	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有		
材 質：鋼鉄	23 事 故 の 概 要： 蒸気タービンを運転中、警報が作動したため従業員が確認に向かい、潤滑油タンクのレベル低下と給油配管溶接部からの潤滑油漏えいを確認した。従業員が中央制御室に連絡し、蒸気タービンへの潤滑油供給を停止させた。		
15 発 生 時	24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止		
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)			
作 業 状 況： 番 号 ()			

原 因	25 主 原 因 設計不良		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 蒸気タービンを運転すると振動が発生し、その振動が蒸気タービンの配管溶接部に伝わる。振動によって配管溶接部は繰り返し曲げ応力が発生し、その応力がSUS材の疲労限度を超過したため配管溶接部が疲労破壊し、亀裂が発生した。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	設計不良		能力		想定を越えた応力の発生					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 蒸気タービンの給油配管溶接部から漏えいした潤滑油が機器軸受部分及び下階の床に約2,400L流出した。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管の破損、流出物による機器軸受部分及び下階の床の汚損		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	2 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類 潤滑油 約2,400L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	2 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (545 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 状況確認						自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5) 潤滑油が漏えいした配管の帰属先である蒸気タービン設備及び蒸気タービンに関係のあるポンプ設備の停止、漏えいした一部潤滑油の拭き取りを実施				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	一般取扱所				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	令和 4 年 7 月 25 日				年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日		気密試験等	年 月 日	
	停止解除	令和 4 年 7 月 29 日				年 月 日		保 安 検 査	年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：		
そ の 他	年 月 日				年 月 日					
35	今後の対策や所見 緊急使用停止解除後、給油配管溶接部に発生する繰り返し曲げ応力の計測を1週間に1回実施して、結果を消防へ報告することを実施									

1 事故名	加圧油装置の配管接手部パッキングが振動で破損したことによる作動油の漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 16日 8時 04分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	10月 16日 8時 43分	
5 覚 知	10月 16日 8時 46分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 16日 9時 11分	
7 鎮火・処理完了	10月 18日 16時 30分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：無風状態 風速：0.1m/s 気温：22.4℃ 湿度：78%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <input checked="" type="checkbox"/> 第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所				11 発 生 場 所
12 施 設 装 置					区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：衣浦地区
13 機 器 等	16 発生施設規制区分等				
名 称：その他【電力事業】 番 号 (4999)	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 6,300L 6.3倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 888,128L 444.06倍 第4類第4石油類 作動油 110,445L 18.41倍 倍数の合計： 468.77倍				
能 力：出力1,360KW	設置の完成：令和 3年 8月 6日 直近の完成：令和 4年 2月 17日				
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分				
名 称：粉砕機(ミル、ベルペライザー、アトマイザー) 番 号 (509)	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第4石油類 名称：2,6-ジターシャリーフチル P-クレゾール(200L)				
規 模：加圧油装置 MAX:22MPa	18 取扱者の概要				
15 発 生 時	19 危険物保安 統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物 保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無				
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有				
作 業 状 況： 番 号 ()	23 事 故 の 概 要： 一般取扱所(発電所)内において、ボイラーの燃料である石炭を砕く微粉炭機に設置されている加圧油装置の油配管接続部から、第4類 第4石油類(6,000L)加圧油装置の作動油が約200L漏えいしたものの。施設外への流出は無し。 なお、吸着マットを使用し、応急措置を実施した。				
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 設計不良		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 微粉炭機の稼働中、石炭の摩耗係数の低下によりミル部の噛み込みが不安定となり異常振動が生じ、その振動により配管のパッキン グが破損し、作動油が漏えいしたものの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	設計不良		能力		想定を越えた振動等の発生						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 加圧油装置の配管から作動油約200Lが漏えいし た。施設外の流出は無し。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 加圧油装置の配管パッキングを破損			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	2 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類 作動油200L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	1 台	0 隻	0 機	3 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (51 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (4) 吸着マットの設置					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和4年7月29日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日		年 月 日								
35 今後の対策 や所見 石炭の摩耗係数の低下が一定の値になった場合に注水による振動抑制を行う。											

1 事故名	一般取扱所において、移動タンク貯蔵所間の過剰詰替えにより通気口から熱分解油が流出したもの		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	12月 16日 13時 50分 推定・ 確定	4 発 見	12月 16日 13時 50分
5 覚 知	12月 16日 14時 00分	6 鎮 圧 応急処置完了	12月 16日 14時 00分
7 鎮火・処理完了	12月 17日 15時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴	風向：北	風速：8m/s 気温：10℃ 湿度：61%
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 第1種 、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の卸売業 番 号 (5499) 他に分類されない卸売業 他 に分類されないその他の卸売 業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：名古屋港臨海地区		
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 酢酸ビニル 144,600L 723倍 第4類第1石油類(水溶性液体) 純アセトン 160,000L 400倍 第4類アルコール類 エチルアルコール 160,000L 400倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) クマリン 160,000L 160倍 第4類第2石油類(水溶性液体) アクリル酸 160,000L 80倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) アクリル酸2-エチルヘキシル 160,000L 80倍 第4類第3石油類(水溶性液体) 1,4-Butanediol 160,000L 40倍 第4類第4石油類 潤滑油 380,000L 63.33倍 倍数の合計： 1,946.33倍		
12 施 設 装 置	14 発 生 箇 所		
名 称：その他【分類なし】 番 号 (9999)	名 称：その他 番 号 (999)		
能 力：	規 模：建屋規模：間口約20m、奥行約20m、高さ約7m		
13 機 器 等	温度圧力：0.5Mpa		
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分		
名 称：その他 番 号 (999)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
材 質：ステンレス	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：熱分解油(Pyrolysis oil D3)		
15 発 生 時	18 取扱者の概要		
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)	経験年数10年		
作 業 状 況： 番 号 ()	19 危険物保安統括管理者		
	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 有 2. 無
21 危険物取扱者の取扱・立会い			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 一般取扱所において、25KLの移動タンク貯蔵所(国際コンテナ)から11KLの移動タンク貯蔵所(国際コンテナ)へ窒素圧を使用した10KLの熱分解油(第4類第2石油類非水溶性)の詰替え作業を行っていたところ、流量計の誤表示や作業員による国際コンテナ容量の誤認識により熱分解油を過剰に詰め替えたため、11KLの国際コンテナ上部の通気口に接続されていた可燃性蒸気排出用のホースが外れ、熱分解油が数十リットル程度(漏えい量は関係者による目測)施設の屋根や当該国際コンテナ周囲に拡散し、漏えいしたものの。漏えい事故発生時には、国際コンテナの緊急遮断弁等により充填を停止し、一般取扱所に漏えいした熱分解油を発災事業所の関係者が油吸着マットを使用し回収したため、危険物施設内での漏えいに留まった。また、漏えい事故に対する応急措置と並行して所轄消防署に危険物の漏えいが発生した旨の連絡を行った。			
24 緊急処置の状況 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他			

25	主 原 因 故障	着火原因	番号 ()												
原 因	関 連 原 因 操作確認不十分、操作未実施 発生原因の状況： 設置されている流量計は使用する液用に設定する必要がある、一般的な設定では正確な数量が把握できないことから、通常の作業では荷卸しする途中で一度詰替え作業を中止し、適正量が入っているかどうかを重量計などを用いて確認していた。しかし、今回は流量計の故障(故障の原因は調査中)により誤った数値が表示されていたことから、詰替え作業を停止する前に移送先の国際コンテナから漏えいしたもの。 なお、国際コンテナには液面計や検尺棒が設けられていないため、当該コンテナの容量から詰替え量にある程度余裕をもって一度充填作業を停止する必要があったが、近似値まで充填しても問題無いと過信したことから当初の予定量の近似値まで充填を行った。 さらに、重量計算に用いる比重は安全データシートなどから判断するが、事前の情報では危険物は第4類第3石油類(非水溶性)(比重>0.98)との情報があったが、実際に国際コンテナに入っていた危険物は同一名称の第4類第2石油類(非水溶性)(比重>0.96)であり、重量に対し液体量が多くなる傾向があった。それに加えて詰替え先の11KLの国際コンテナに容量が13KLであるという誤表示がされており、予定していた10KLの詰替え作業に対して十分余裕があると判断しやすい状況が発生していた。														
	主要原因の詳細 <table border="1"> <thead> <tr> <th>第I層</th> <th>第II層</th> <th>第III層</th> <th>第IV層</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>故障</td> <td>機能</td> <td>機器の異常動作</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設計不良</td> <td>機能</td> <td>必要とされる機能が備わっていない</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			第I層	第II層	第III層	第IV層	故障	機能	機器の異常動作		設計不良	機能	必要とされる機能が備わっていない	
	第I層	第II層	第III層	第IV層											
	故障	機能	機器の異常動作												
	設計不良	機能	必要とされる機能が備わっていない												
	関連原因の詳細 <table border="1"> <thead> <tr> <th>制度</th> <th>規則・手順</th> <th>内容・周知</th> <th>規則・手順がない/文書化されない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人</td> <td>本人の意識</td> <td>思慮</td> <td>過信</td> </tr> <tr> <td>人</td> <td>本人の意識</td> <td>思慮</td> <td>思い込み</td> </tr> </tbody> </table>			制度	規則・手順	内容・周知	規則・手順がない/文書化されない	人	本人の意識	思慮	過信	人	本人の意識	思慮	思い込み
	制度	規則・手順	内容・周知	規則・手順がない/文書化されない											
	人	本人の意識	思慮	過信											
	人	本人の意識	思慮	思い込み											
	26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27 人的被害		28 物的被害													
被害内容等	死亡	重症	中等症												
区分	軽症	死傷原因	職業又は職名												
当 事 者	0	0	0												
防災活動従事者	0	0	0												
第 三 者	0	0	0												
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況			被災影響範囲及び拡大の状況： 一般取扱所内において、熱分解油:第4類第2石油類(非水溶性)が数十リットル漏えいした。なお、流出範囲は当該施設内に留まっている。												
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 7 人												
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	1 台 0 隻 0 機 2 人												
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人												
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人												
物質の被害状況： 熱分解油の数十リットルの漏えい(正確な漏えい量は不明)			損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (18 万円)												
30 実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 (99)		自衛防災・消防組織等 番号 (5)													
情報収集		油吸着マットを使用した漏えいした危険物の回収作業。													
31 防災活動上の問題点 特になし。															
政 策 措 置	32 施設名		33 定期点検等												
	使用停止	年 月 日	年 月 日												
	改善命令等	年 月 日	年 月 日												
	停止解除	年 月 日	年 月 日												
	関係条項		34 当該施設に係る法令違反の有無												
その他	年 月 日	年 月 日	有・ <u>無</u> 内容：												
35	今後の対策や所見 ・国際コンテナ間での詰替え作業については、作業手順が明確にされていないため作業マニュアルを明確に定める。 ・国際コンテナには液面計及び検尺棒が設置されていないため、一般取扱所側の設備としてオーバーフローセンサー等のハード面での再発防止策を検討する必要があることから、現在事業所と協議中です。														

1 事故名		第2粗蒸留棟の回収1A塔リフラックス配管の外面腐食による三塩化シラン流出						
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生		8月 9日 8時 03分	推定・確定	4 発 見	8月 9日 8時 15分			
5 覚 知		8月 9日 8時 27分			6 鎮 圧	8月 9日 11時 23分		
7 鎮火・処理完了		8月 9日 11時 23分			6 応急処置完了			
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：東北東		風速：0.8m/s 気温：30.2℃ 湿度：81.3%		
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 <u>第1種</u> 、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 無機化学 番号 (1729) 工業製品製造業 その他の無 機化学工業製品製造業				区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：四日市臨海地区				
				16 発生施設規制区分等				
				施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第3類その他のもので政令で定めるもの 三塩化シラン 1,084,600.8kg 21,692.02倍 (塩素化けい素化合物)(第2種自然発火性物質及び禁水性物質)				
12 施 設 装 置								
名 称：精製装置 番号 (2103)								
能 力：1,084,600.80kg/日								
13 機 器 等				温度圧力：45℃、0.78Mpa				
名 称：蒸留、精留塔(スクリュー、スリッパ) 番号 (101)								
規 模：地上高さ39.5m、内径1.7m								
14 発 生 箇 所				設置の完成：平成 9年 2月 4日 直近の完成：令和 4年 7月 28日				
名 称：その他の附属配管等 番号 (299)				17 物 質 の 区 分				
材 質：その他				①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、常温 [0-40℃]、 <u>高温</u>) 分 類：第3類その他のもので政令で定めるもの(塩素化けい素化合物)(第2種自然発火性物質及び禁水性物質) 名称：三塩化シラン(62L)				
15 発 生 時				18 取扱者の概要				
運 転 状 況：定常運転中 番号 (1)				経験年数3年				
作 業 状 況：運転操作中 番号 (1)								
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
				21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無								
23 事 故 の 概 要： 半導体級多結晶シリコン製造プロセスにおいて、蒸留工程のリフラックス配管が、外面腐食し、三塩化シラン約62Lが流出したものの。								
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止								

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 防食テープの施工不良により、配管と防食テープの隙間に雨水等が入り込み、配管の外表面腐食が進行したことにより、開孔に至ったもの。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		防食		防食措置が悪いために腐食発生					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		点検内容が不適切			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 危険物が施設内に流出。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 炭素鋼管(STPG 80A sch40)の破損		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	12 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 三塩化シラン約62L流出。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (4)				
火災警戒活動										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 4 年 6 月 15 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	令和 4 年 6 月 5 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	令和 3 年 9 月 17 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無		
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日			内容：			
35 今後の対策や所見										
垂直配管のサポートUボルト部分への防食テープの施工は行わないこととする。 垂直配管類似箇所の点検を行うとともに、防食テープは順次取り外しを行う。 点検実施者に対し、点検標準を策定し、教育を実施する。										

1 事故名	変速機の液面計が外れ、潤滑油(第4類第4石油類)が約15L漏えいしたもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 16日 5時 40分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	10月 16日 5時 40分	
5 覚 知	10月 16日 6時 14分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 16日 6時 14分	
7 鎮火・処理完了	10月 16日 6時 40分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南 風速：2.6m/s 気温：15℃ 湿度：95%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 衣類・その他の繊維製 番 号 (1215) 品製造業 織物製(不織布製及 びレース製を含む)外衣・シヤ ツ製造業(和式を除く) 事務 用・作業用・衛生用・スポーツ用 衣服製造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第4石油類 熱媒体油(社SK 6,672.LL 1.11倍 社#1400)、潤滑油、作動油 倍数の合計： 1.11倍 設置の完成： 昭和 48年 4月 23日 直近の完成： 令和 4年 7月 6日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： その他プロピレン系製品製造装置 番 号 (5299)			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第4石油類 名称： 潤滑油(15L)		
能 力： ポリプロピレン不織布 2,200t/年			18 取扱者の概要		
13 機 器 等	温 度 圧 力：				
名 称： その他 番 号 (999)	規 模： 潤滑油の油量 58L				
14 発 生 箇 所	名 称： 液面計 番 号 (309)				
材 質： 合成樹脂					
15 発 生 時	運 転 状 況： 停止中 番 号 (5)				
	作 業 状 況： 番 号 ()				
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 押出機3号機の無段変速機の液面計から潤滑油が約15L漏えいしたもの。人的被害はなし。なお、事故発生時は当該機器は稼働しておらず、停止中であった。発生から約30分後に消防へ通報され、緊急措置としては漏えい危険物の拭き取り、液面計の応急的な取付けをされた。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因 維持管理不十分										
	発生原因の状況： 長期使用によって液面計(打込式オイルゲージ)寸法が徐々に変形し、変速機本体と液面計の嵌め合いが甘くなり、周囲の振動等の影響で液面計が脱落したことによるもの。漏えいが発生した時、押出機(3号機)は停止中であった。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	疲労・劣化		環境		常に振動する環境下で疲労(想定内の振動であるが、材料が継続した疲労により損傷等)						
	関連原因の詳細										
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えい危険物の外部への流出はなし。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 液面計の交換を要するのみ。			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類潤滑油 約15L流出(建物内のみ)	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 漏えい物質・箇所・原因等の調査を実施した。						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点 5時40分に漏えいが確認され、119通報が6時14分であった。 従業員に確認したところ、漏えい処理に人手が取られ、情報の収集に時間がかかったため、通報が遅れたとのこと。											
政 策 措 置	32 施設名	一般取扱所			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・無 内容：			
35 今後の対策 や所見	令和 4 年 10 月 16 日 ①. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭 ・当該無段変速機にはもう一つ油面計があり、この直視する形の油面計での点検が定期点検の項目にないことから、その部分を含めて点検を実施することにより同様の事故をなくしていくべきであり、液面計に限らず、古い機器が多数ある施設であるため、細心の注意を払うよう指導した。										

1 事故名	一般取扱所から移動タンク貯蔵所に灯油を注油中の油流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 17日 11時 18分	推定・確定	4 発 見	6月 17日 11時 40分	
5 覚 知	6月 17日 12時 12分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 17日 19時 30分	
7 鎮火・処理完了	6月 21日 17時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北東 風速：3.1m/s 気温：26.3℃ 湿度：72.4%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 4,000L 4倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 4,000L 4倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 4,000L 2倍 倍数の合計： 10倍				
12 施 設 装 置	設置の完成： 昭和 51年 10月 19日 直近の完成： 昭和 51年 10月 19日				
名 称： ローリー充てん施設 番号 (1402)	17 物 質 の 区 分				
能 力：	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (3,300L)				
13 機 器 等 温度 圧力：	18 取扱者の概要 経験年数29年				
名 称： 配管(送油、注入管等) 番号 (606)	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無				
規 模： 圧力不明(流量150L/min)	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有				
14 発 生 箇 所	23 事 故 の 概 要： 6月17日、一般取扱所内において、移動タンク貯蔵所に灯油を注油中、危険物取扱者がその場を離れたため移動タンク貯蔵所から約3,300Lの灯油があふれ、一般取扱所敷地外に流出した。すぐに処理業者を手配し側溝等の灯油を処理した。この時点では水路及び海への流出はなし。6月21日降雨のため、処理しきれいでいなかった一部の灯油側溝を伝い、水路及び海に流出し油膜を認めた。				
名 称： 給油(注油)ノズル 番号 (909)	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止				
材 質： 鋳鉄					
15 発 生 時					
運 転 状 況： その他 番号 (99)					
作 業 状 況： 充填中 番号 (12)					

原因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 一般取扱所内において、移動タンク貯蔵所に灯油を注油中、注油ノズルをロックしたまま危険物取扱者がその場を離れたため移動タンク貯蔵所から約3,300Lの灯油があふれ、一般取扱所敷地外に流出した。										
	主要原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		不注意				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油が事業所外の側溝に流れ込み、処理しきれなかった油が水路を伝い、事業所から約350m先の海上まで油膜が達した。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 施設等の被害なし			
防災活動従事者		0	0	0	0						
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油 3,300L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	5 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (30 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (5) 一般取扱所敷地外の側溝に流出した灯油を油吸着マットでせき止め、油中和剤で中和作業を行った。						自衛防災・消防組織等 番号 (5, 6) 一般取扱所敷地内の排水溝、油分離装置に溜まった灯油の回収、敷地外の側溝に流出した灯油を油吸着マットでせき止め、油中和剤で中和作業を行った。なお、事故当日は水路及び海への流出はなかったが、念のため海への排水口にオイルフェンスを設置した。					
31 防災活動上の問題点 事故発見から消防機関への通報に時間を要した。											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	令和4年6月1日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	令和4年5月27日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日				保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	年 月 日										
35 今後の対策や所見 当該事業所に対し、従業員の再教育の実施を指導した。											

1 事故名	一般取扱所において、従業員が固定注油設備から顧客の携行缶に注油した際、重油を流出させた事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 4日 16時 30分	<input checked="" type="checkbox"/> 推定・確定	4 発 見	11月 4日 16時 50分	
5 覚 知	11月 4日 16時 56分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 4日 20時 41分	
7 鎮火・処理完了	11月 11日 11時 45分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北東 風速：4.2m/s 気温：17.3℃ 湿度：54%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 17,000L 8.5倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称：	番 号 ()		設置の完成： 昭和 62年 2月 6日	倍数の合計： 8.5倍	
能 力：			直近の完成： 昭和 62年 2月 6日		
13 機 器 等	温 度 圧 力：		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： A重油(120L)		
名 称： 固定給油(注油)設備	番 号 (911)				
規 模： 容量30,000L					
14 発 生 箇 所	名 称： 給油(注油)ノズル		18 取扱者の概要		
材 質： アルミニウム	番 号 (909)		経験年数17年		
15 発 生 時	運 転 状 況： その他		1. 選任有 ②. 選任無		
作 業 状 況： 小分け・詰替中	番 号 (99)		21 危険物取扱者の取扱・立会い		
	作 業 状 況： 小分け・詰替中		①. 有		
	番 号 (13)		2. 無		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 危険物一般取扱所において、従業員が固定注油設備から顧客の携行缶に注油した際、重油約3Lを漏えいさせた。敷地内を洗い流すため、大量の水を流したことにより、油分離層の分離能力を超え、敷地外に流出したもの。なお、当日の取扱い数量と販売数量に120Lの誤差がみられた。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

25	主 原 因 監視不十分	着火原因	番号 ()						
原 因	関 連 原 因								
	発生原因の状況： 顧客の携行缶への注油作業を行う際に監視下で行っていなかったため、携行缶から重油が漏れ出たもの。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層					
	人	本人の意識	思慮	不注意					
	関連原因の詳細								
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害			28 物的被害						
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 当該敷地から用水路を経て、約2.7km地点の河川まで流出。 施設等の被害状況： なし。		
当 事 者	0	0	0	0					
防災活動従事者	0	0	0	0					
第 三 者	0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： A重油120Lの河川流出。		
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	14 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (万円)		
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (4、6) 河川での下流への漏えい軽減のため、油吸着マット及びオイルフェンスを設置。					自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点									
政 策 措 置	32 施設名	一般取扱所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項	警告		警告		34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反		
	その他	令和3年11月7日	令和3年11月11日	1. 文書 ②. 口頭				①. 文書 2. 口頭	
35	今後の対策 や所見	従業員の安全教育の実施							

1 事故名	ローリー充てん場におけるローリーハッチからのガソリンオーバーフロー				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 23日 8時 42分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	1月 23日 8時 42分	
5 覚 知	1月 23日 9時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 23日 10時 05分	
7 鎮火・処理完了	1月 23日 10時 57分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東北東 風速：1.7m/s 気温：3.5℃ 湿度：				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<u>レイアウト</u>)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				11 発 生 場 所
					区 分：①. 事業所内 (製、貯、 <u>荷</u> 、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：堺泉北臨海
					16 発生施設規制区分等
					施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 6,185,000L 30,925倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 5,700,000L 5,700倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 5,700,000L 5,700倍 倍数の合計： 42,325倍
12 施 設 装 置	名 称：ローリー充てん施設 番 号 (1402) 能 力：1758.5KL/日				
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：ローディングアーム 番 号 (604) 規 模：アーム長さ4,500mm 口径4インチ				
14 発 生 箇 所	名 称：マンホール 番 号 (305) 材 質：鋼鉄				
15 発 生 時	運 転 状 況：荷積中 番 号 (12) 作 業 状 況：充填中 番 号 (12)				
					17 物 質 の 区 分
	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(100L)				
					18 取扱者の概要
					経験年数4年
19 危険物保安統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要：	オンラインファイル無				
23 事故の概要：	ローリー充てん場(一般取扱所)にて、ローリーにガソリンを荷積中にハッチよりオーバーフローしたもの。				
24 緊急処置の状況	有 番号 () <u>無</u>				

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 操作確認不十分									
	発生原因の状況： 荷積前にローリーとローディングアームを接続する際、ハッチキーの誤認識(5番ハッチを1番ハッチと誤認識)が発生したため、容量2KLのハッチに4KLを充填する信号が送られた。その後の充填中に、誤った送油情報によりタンク容量以上の送油が行われたことでオーバーフローセンサーが作動し、ローディングアームの先端バルブが自動閉止したが、運転手が充填を再開したため、オーバーフローしたもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		不注意			
	関連原因の詳細									
	人		本人の意識		思慮		配慮不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ローリー防護枠内に流出		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	12 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ガソリン 約100L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 情報収集及び警戒活動						自衛防災・消防組織等 番号 (5)				
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名	ローリー充てん施設				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無		
その他	ローリー運転手の危険物取扱者免状減点措置 令和4年 2月14日				1. 文書 2. 口頭		内容：			
35 今後の対策や所見 運送会社への指導、ローリー運転手への危険物取扱者免状減点措置										

1 事故名	廃棄物焼却炉 炉頂下部シール弁作動油漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 9日 14時 44分	推定・確定	4 発 見	3月 9日 15時 15分	
5 覚 知	3月 11日 10時 00分	6 鎮 圧 応急処置完了	3月 10日 17時 00分		
7 鎮火・処理完了	3月 10日 17時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北東 風速：3m/s 気温：13℃ 湿度：36%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：公務(他に分類されないもの) 番 号 (9621) 地方公務 市町村機関 市町 村機関		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称：焼却装置 番 号 (1605) 能 力：150t/日		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,600L 9.6倍 第4類第4石油類 作動油 930L 0.16倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力：14Mpa 名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：口径12.7Φ×1,600mm		倍数の合計： 9.76倍 設置の完成：昭和 55年 1月 12日 直近の完成：令和 4年 2月 24日		
14 発 生 箇 所	名 称：フレキシブル管継手(ダクトを含む) 番 号 (202) 材 質：ステンレス		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第4石油類 名称：作動油(390L)	
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取 扱 者 の 概 要	20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： 一般取扱所内において、第1工場熔融炉(廃棄物焼却炉)運転中に、「装入装置油圧ポンプ故障」、「油圧装置油圧H」の警報が表示。現場を確認したところ炉頂シール装置下部シール弁油圧ホースより作動油(390L)が漏えいしているものを現場作業員が発見したものを。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 施工不良	着火原因	番号 ()				
原 因	関 連 原 因						
	発生原因の状況： 過去にフレキシブルホースを交換した際、常用圧力より耐圧能力の低いものを誤って設置していた。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	施工不良	施工	施工内容の間違い				
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害			28 物的被害				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 第1工場内に390L漏えい
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 油圧ホースの破損
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類(引火性液体)作動油 390L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
							損害額 1万円未満、 1万円以上 (16 万円)
30 実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 (5) 漏えい箇所の前バルブを閉鎖後、吸着マット、柄杓等を使用し回収した。			
31 防災活動上の問題点 事故発生後即時消防機関へ通報せず、措置完了後に報告。 報告の遅延が発生。							
政 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保 安 検 査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：	
そ の 他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日			
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策 や所見	原因を追究し、対策を実施する。						

1 事故名	機械から作動油がオーバーフローし流出した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 20日 4時 10分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	4月 20日 4時 35分	
5 覚 知	4月 21日 15時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 20日 7時 50分	
7 鎮火・処理完了	4月 20日 10時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気:	風向:	風速:	気温:	湿度:
10 発 生 事 業 所	種 別 : 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態 : 製造業 輸送用機械器具製造 番 号 (3013) 業 自動車・同附属品製造業 自動車部分品・附属品製造業				11 発 生 場 所
					区 分 : ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名 :
12 施 設 装 置	名 称 : 分析、試験装置 番 号 (1703) 能 力 :				16 発生施設規制区分等
					施設区分: ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別: 取扱所 施設別: 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数: 第2類その他のもので政令で定める その他 0.1kg 0倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) その他 10L 0.05倍 第4類第1石油類(水溶性液体) その他 0.4L 0倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 552L 0.55倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) その他 2,257L 1.13倍 第4類第3石油類(水溶性液体) その他 400L 0.1倍 第4類第4石油類 作動油 10,226L 1.7倍
13 機 器 等	温度圧力:				
	名 称 : その他 番 号 (999) 規 模 : 100L				
14 発 生 箇 所	名 称 : 電動機 番 号 (401) 材 質 : 鋼鉄				設置の完成: 平成 11年 3月 19日 直近の完成: 令和 4年 1月 11日
15 発 生 時					17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類 : 第4類第4石油類 名称: 作動油(600L)
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要: オンラインファイル無					
23 事故の概要: ねじり試験機(自動車部品のねじれに対する耐久試験を行う機械)へ危険物メインタンク(1,500L)から作動油を圧送していたところ、作動油が過剰に供給されてオーバーフローし、600L漏えいさせたもの。なお危険物にあつては室内のピットにとどまっており、建物外へは流出していない。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

25	主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 故障									
原	発生原因の状況： 通常運転時は、潤滑などに使う油がメインタンクよりねじり試験機へが流れた際、試験機に入った油からドレンタンクへ還り、ドレンタンクがいっぱいになると、センサーでドレンポンプが稼働し、メインタンクへ油を戻す構造となっているが、ドレンポンプ電源スイッチのON-OFFレバーが何らかの要因で緩くなっており、容易に動く構造となっていた状態で、作業者が誤ってスイッチレバー部に触れたことにより、ドレンポンプの電源を切ってしまった。 また、本来であればドレンポンプ電源が切れた場合、ねじり試験機が異常停止する構造であったが、リセットスイッチが破損していたため異常検知できず、ドレンポンプが停止した状態でねじり試験機が作動したため、油を戻すことが出来ず、オーバーフローしたと推測される。									
	主原因の詳細									
因	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層					
	人		本人の意識		思慮					
関連原因の詳細		故障		機能		その他				
26 被害の状況		1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分							被災影響範囲及び拡大の状況： 機械周辺及びピット内汚損			
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 機械周辺及びピット内汚損			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 作動油(第4類第4石油類)600L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額	1万円未満、 <u>1万円以上</u> (34 万円)	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 (5) バキューム装置によりピット内に溜まった作動油を回収及び機器周辺に広がった作動油をふき取り。						
31 防災活動上の問題点 漏えいが発生してから、1日以上経過してから通報していること(通報遅れ)。										
32	施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：		
措 置	再発防止にかかる警告									
そ の 他	令和 4 年 5 月 10 日	年 月 日		年 月 日						
①. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35	今後の対策 や所見 事故を起こした機器と類似の試験機について総点検を実施し必要な改修するとともに、異常検知装置の点検方法について見直すよう指導する。また、危険物漏えい発生時における、消防機関への通報体制の見直しを指導する。									

1 事故名		N03燃料小出し槽ドレンバルブからの重油流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		5月 13日 11時 57分	推定・確定	4 発 見		5月 13日 13時 10分	
5 覚 知		5月 13日 17時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了		5月 13日 14時 00分	
7 鎮火・処理完了		5月 17日 17時 00分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：雨		風向：北東		風速：2.5m/s 気温：21.1℃ 湿度：94%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：公務(他に分類されないもの) 番号 (9611) 地方公務 都道府県機関 都 道府県機関				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 51,504L 25.75倍 第4類第4石油類 潤滑油 5,283.6L 0.88倍			
12 施 設 装 置							
名 称： その他【分類なし】 番号 (9999)							
能 力：							
13 機 器 等				温度圧力：			
名 称： 貯槽(タンク) 番号 (107)							
規 模： 1,980L				倍数の合計： 26.63倍			
14 発 生 箇 所				設置の完成： 昭和 44年 8月 8日 直近の完成： 令和 4年 5月 10日			
名 称： ドレンバルブ 番号 (210)				17 物 質 の 区 分			
材 質： ステンレス				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油 (3,800L)			
15 発 生 時				18 取 扱 者 の 概 要			
運 転 状 況： 試運転中 番号 (14)				経験年数26年			
作 業 状 況： 点検中 番号 (5)							
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： N03燃料小出し槽の液位調整作業において燃料油を小出し槽へ供給した際、ドレン弁を完全に閉鎖できていなかったため、油面減少により自動給油され、防油堤及び施設内へ流出した。発見後、ドレンバルブを閉鎖し、流出油をバキューム及び吸着マット等により回収処理。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無							

原 因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 液位調整作業前のドレンバルブ開閉チェック漏れにより、閉鎖できていなかったことに気づかなかった。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		思い込み				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： N03燃料小出し槽により流出した重油が防油堤、配管ピット等施設建屋内に流出。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 重油3,800L	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (46 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5)					
31 防災活動上の問題点 重油流出事故に係る消防機関への通報の遅延。											
政 策 措 置	32 施設名	雨水ポンプ棟			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	令和4年 4月 25日		
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日		
	停止解除	年 月 日			年 月 日			保安検査	年 月 日		
	関係条項							34 当該施設に係る法令違反の有無			有・ <u>無</u>
その他	作業手順の再確認及び事故発見後は速やかに通報すること 令和4年 5月 16日			年 月 日			内容：				
35 今後の対策や所見	運転前のバルブ閉鎖の確認、運転前後及び運転中の巡視等の徹底。 緊急時の通報・連絡体制の確立を図る。										

1 事故名	ローリー積場において、移動タンク貯蔵所への積み込み時にオーバーフローを起こしたことによるガソリンの流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 3日 6時 00分	推定・確定	4 発 見	9月 3日 6時 00分	
5 覚 知	9月 3日 6時 11分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 3日 6時 25分	
7 鎮火・処理完了	9月 3日 6時 25分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北北東 風速：4.4m/s 気温：28℃ 湿度：72%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 <u>第1種</u> 、第2種、その他) 業 態：運輸業 倉庫業 倉庫業(冷蔵番号(4711) 倉庫業を除く) 倉庫業(冷蔵 倉庫業を除く)		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名：大阪北港地区	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称：ローリー充てん施設 番号(1402)	能力：ローディングアーム流速 80~100KL/h		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 600,000L 3,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 600,000L 600倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 300,000L 300倍 倍数の合計： 3,900倍		
13 機 器 等	温度圧力：常温、常圧		設置の完成：平成12年 5月 8日 直近の完成：令和4年 4月 28日		
名 称：ローディングアーム 番号(604)	規模：ローディングアーム流速 80~100KL/h		17 物質の区分		
14 発 生 箇 所	名 称：その他 番号(999)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
材 質：鋼鉄	15 発 生 時		5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
運 転 状 況：荷積中 番号(12)	作 業 状 況：充填中 番号(12)		(固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(10L)		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者	18 取扱者の概要		経験年数3年
			①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所への積み込み作業中にオーバーフローセンサーが反応して注油が停止したにもかかわらず、タンク内の数量を確認せずオーバーフローセンサーの誤作動だと思い込み、ローディングアームの弁を開放させたことでタンクでオーバーフローが発生。レギュラーガソリンが噴き出し、作業員1名が被り、119番通報にて救急要請。移動タンク貯蔵所の防護枠内にレギュラーガソリンが10L漏えい。隣のレーンで作業をしていたものが直ちに吸着マットにて回収。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号(1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 操作確認不十分	着火原因	番号 ()
原 因	関 連 原 因 誤操作		
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所の2KLの室に対して4KLで送油を設定。オーバーフローセンサーが反応し送油が停止したが、運転手が誤作動だと思いきみ、ローディングアームの弁を開放。タンクでオーバーフローが発生したものの。		
	主原因の詳細		
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層
	人	本人の意識	思慮
	関連原因の詳細		
	人	本人の意識	思慮
			不注意
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から			
27 人的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症
当 事 者		0	0
防 災 活 動 従 事 者		0	0
第 三 者		0	0
28 物的被害			
被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所の防護枠内にガソリン10L流出			
施設等の被害状況： 特になし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況			
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 3 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
物質の被害状況： ガソリン10L流出			損害額 1万円未満 、1万円以上 () 万円
30 実施した防災活動の状況			
公設消防機関：番号 (99)		自衛防災・消防組織等 番号 ()	
負傷者への救急対応を実施。 流出したガソリンは事業所にて回収対応済みのため防災活動無し			
31 防災活動上の問題点			
32 施設名			
使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日
改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日
停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日
関係条項			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭	
33 定期点検等			
定期・自主点検	消 防 法		そ の 他
	令和4年6月17日		年 月 日
気密試験等	年 月 日		年 月 日
保安検査	年 月 日		年 月 日
34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ 無 内容：	
35 今後の対策 や所見			
<ul style="list-style-type: none"> ・移動タンク貯蔵所の運転手への注意喚起 ・関連会社への情報提供及び注意喚起 ・定期的に移動タンク貯蔵所の運転手へ指導 			

1 事故名	一般取扱所内No.2給油装置のオイルクーラー胴部穿孔による潤滑油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	1月 12日 9時 07分		
5 覚 知	1月 12日 10時 14分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 12日 11時 39分	
7 鎮火・処理完了	1月 12日 11時 39分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南西 風速：1.2m/s 気温：5℃ 湿度：61%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 鉄鋼業 製鉄業 高 番 号 (2311) 炉による製鉄業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、 <u>事</u> 、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：東播磨地区	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第4石油類 潤滑油 53,600L 8.93倍	
13 機 器 等	温度圧力：65℃、1Mpa		倍数の合計： 8.93倍		
14 発 生 箇 所	名 称：その他【鉄鋼・非金属工業】 番 号 (6199) 能 力：No.2給油タンク 45,000Lポンプ吐出量 800L/min×2台		設置の完成：昭和47年 10月 17日 直近の完成：平成30年 3月 27日		
15 発 生 時	名 称：熱交換器 番 号 (301) 規 模：堅型多管式熱交換器、伝熱面積80㎡		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <u>高温</u>) 分類：第4類第4石油類 名称：潤滑油(7,500L)	
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 第二分塊工場の一般取扱所(No.1オイルセラー)において、No.2給油装置のオイルクーラー胴部に穿孔が生じ、潤滑油約7,500Lが流出した。また、流出した潤滑油の一部は、オイルセラー内の排水ポンプを介して第二分塊工場の水処理施設に排出され、水処理施設で留まったもの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 地上部から成品表面洗浄に用いる水が地下室構造のオイルセラー内に侵入し、オイルクーラー胴部の腐食が促進され、母材が減肉し、約3mmの穿孔が2箇所生じ、穿孔部から潤滑油が流出したものの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した潤滑油は、オイルセラー内に滞留し、潤滑油の一部は、オイルセラー内の排水ポンプを介して第二分塊工場の水処理施設に排出され、水処理施設で留まったもの。		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： オイルクーラー1基破損		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	10 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類、潤滑油約7,500L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 流出の拡大状況及び施設の破損状況を確認した。					自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5) オイルクーラー入側及び出側のバルブ閉鎖及び流出した潤滑油の回収を実施。					
31 防災活動上の問題点 発見から通報まで約1時間を要している。										
政 策 措 置	32 施設名	第二分塊工場 No.2オイルセラー				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	令和3年6月1日	令和4年1月11日		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：			
その他	基準に適合させること。 令和4年1月13日		年 月 日							
35 今後の対策 や所見 オイルクーラーを設置している44施設について、全オイルクーラー197台の点検の実施。 当該事業所に対し、従業員への教育及び異常の早期発見の徹底を指導したところであるが、今後も継続して指導を行い、同種事故防止に努める必要がある。										

1 事故名	一般取扱所で反応器の洗浄作業中、移送配管のフランジ部分のガスケットが破損し危険物である洗浄液が流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	5月 8日 4時 12分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	5月 8日 4時 12分
5 覚 知	5月 8日 4時 39分	6 鎮 圧 応急処置完了	5月 8日 6時 04分
7 鎮火・処理完了	5月 8日 6時 15分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北 風速：5.8m/s 気温：15℃ 湿度：58%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 業 態：	区 分： 特別防災地区名：		
①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <input checked="" type="checkbox"/> 第2種、その他) 製造業 プラスチック製品製 番 号 (1931) 造業(別掲を除く) 工業用プ ラスチック製品製造業 工業 用プラスチック製品製造業(加 工業を除く)	①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 姫路臨海地区		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等		
名 称： 能 力：	施設区分： 貯蔵・取扱・運搬の別： 類・品名・名称・数量・倍数：		
その他の合成樹脂製造装置 番 号 (5959) 3.5~5.0m ³ /h	① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 一般取扱所 アクリロニトリル 56,391.9L 281.96倍 ジメチルアミン 166.5L 0.83倍 スチレン 63,348.6L 63.35倍 エチルベンゼン 30,332.7L 30.33倍 トルピレン 6,470L 6.47倍 N,N-ジメチルアセトアミド 420L 0.21倍 タール 115L 0.06倍 トリエチルフェニル 442L 0.22倍 ジベンジルトルエン 118L 0.02倍 潤滑油 1,546L 0.26倍 ジメチルペーオキサイト 800kg 8倍 Nメチル-N-エトアミン 860kg 8.6倍 倍数の合計： 400.31倍		
13 機 器 等	17 物質の区分		
温度圧力： 名 称： 規 模：	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分類： 第4類第2石油類(水溶性液体) 名称： N,N-ジメチルアセトアミド (60L)		
150℃、0.14Mpa その他 番 号 (999) 外径:2,300mm、内径:2,150mm、高さ:4,226mm	18 取扱者の概要		
14 発 生 箇 所	19 危険物保安 統括管理者		
名 称： 材 質：	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物 保安監督者		
パッキング 番 号 (213) その他	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者 の取扱・立会い		
15 発 生 時	①. 有 2. 無		
運 転 状 況： 作 業 状 況：	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
停止中 番 号 (5) 洗浄中 番 号 (11)	23 事故の概要： SAN製造設備は計画停止中で、反応器の洗浄作業を実施しており、第二反応器(10m ³)のR-522から第三反応器のR-533への移送配管の温度計フランジ部分から、洗浄液である第4類第2石油類(水溶性)物質のN,N-ジメチルアセトアミドが1階床面の防油堤内に約60L漏えいした。なお、油吸着材を使用し応急措置を実施。死傷者なし。		
24 緊急処置の状況	24 緊急処置の状況		
<input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

原因	25 主 原 因 維持管理不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 今回の漏えい箇所である移送配管の温度計フランジ部分に、本来のスペックと異なるガスケット(耐熱性が劣るガスケット)が使用されており、ガスケットが熱劣化により破損し、危険物が漏えいした。原因としては、定期点検の際に施工者が誤ったガスケットを設置してしまった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	設備		監視・保守		点検・整備		整備内容が不適切			
	関連原因の詳細									
	設備		監視・保守		点検・整備		確認不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						被災影響範囲及び拡大の状況： N,N-ジメチルアセトアミド約60Lが防油堤内に流出。				
消 防 機 関	14 台	0 隻	0 機	46 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(水溶性)N,N-ジメチルアセトアミド約60L流出。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 漏えい停止を確認後、施設職員によるタンク内の残液(約10,000L)抜き取り作業の間、警戒筒先を配備した。						自衛防災・消防組織等 番号 () 反応器内を減圧し漏えい防止を図るとともに、おが屑を使用し回収した。				
31 防災活動上の問題点 特になし。										
政 策 措 置	32 施設名	一般取扱所			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	令和 4 年	5 月	8 日	年	月	日	定期・自主点検	令和 3 年 10 月 15 日	令和 4 年 5 月 1 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	令和 4 年	5 月	30 日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：		
その他	年 月 日	年 月 日		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭				
35 今後の対策や所見 今回の危険物流出事故の原因としては、本来設置すべきではない耐熱性の劣るガスケットを設置してしまったため、劣化が進行し破損したことである。今回の事案を受け、事業所から再発防止対策を実施すると報告を受けた。例年、同様の施工不良や誤設置等での流出事故が多く見受けられるため、立入検査時等の機会に、注意すべきポイントとして指導する必要がある。										

1 事故名	一般取扱所において、エタノールを移動タンク貯蔵所に払出中、監視不十分による敷地内での流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 23日 8時 50分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	5月 23日 8時 50分	
5 覚 知	5月 23日 9時 14分		6 鎮 圧 応急処置完了	5月 23日 9時 00分	
7 鎮火・処理完了	5月 23日 9時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気:	風向:	風速:	気温:	湿度:
10 発 生 事 業 所	種 別 : 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態 : 製造業 飲料・たばこ・飼料製 番 号 (1023) 造業 酒類製造業 清酒製造 業				11 発 生 場 所
					区 分 : ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名 : 16 発生施設規制区分等 施設区分: ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別: 取扱所 施設別: 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数: 第4類アルコール類 95%エタノール 337L 0.84倍
12 施 設 装 置	名 称 : ローリー充てん施設 番 号 (1402) 能 力 : ローリー充填設備 30KL/h				設置の完成 : 昭和 46年 7月 12日 直近の完成 : 令和 4年 3月 28日
13 機 器 等	温度圧力 : 名 称 : ローディングアーム 番 号 (604) 規 模 : 直径 50A				
14 発 生 箇 所	名 称 : その他の機器等本体 番 号 (199) 材 質 : ステンレス				17 物 質 の 区 分
15 発 生 時	運 転 状 況 : 払出中 番 号 (10) 作 業 状 況 : 運転操作中 番 号 (1)				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類 : 第4類アルコール類 名称 : 95%エタノール(337L)
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要 : オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要 : タンクローリー14KL(前槽4+4KL、後槽2+4KL)の2槽にローディングアームを差込み、95%エタノール13KLを自動充填していた。充填が停止する2KL手前の11KL計量時に後槽のローディングアームのバルブを運転手が閉止することになっていたが忘れたためマンホールから防護枠内にあふれた。さらにシェルターバルブを開けていたため防護枠内から充填場前の排水溝へ流出した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

25	主 原 因 操作未実施	着火原因	番号 ()					
原 因	関 連 原 因 操作確認不十分							
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所に払出作業中、液面監視を怠った。さらに、移動タンク貯蔵所の防護枠のシェルターバルブを閉止していないことを確認しなかったため、流出した。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	人	本人の意識	思慮	不注意				
	関連原因の詳細							
	人	本人の意識	違反(故意)	怠慢				
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害			28 物的被害					
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出により、95%エタノール337Lを亡失した。	
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 施設の被害なし。	
第 三 者	0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況：	
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	流出により、95%エタノール337Lを亡失した。	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人		
30 実施した防災活動の状況							損害額 1万円未満、 1万円以上 (4 万円)	
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点								
32 政 措 置	施設名	一般取扱所			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 2 年 10 月 2 日	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	年 月 日
	関係条項	危政令第24条8項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ 無 内容：	
	その他	取扱い及び管理体制を指導 令和 4 年 5 月 23 日 年 月 日 ①. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 や所見		<ul style="list-style-type: none"> ・危険物充填中の液面監視の徹底 ・移動タンク貯蔵所の防護枠のシェルターバルブの閉止の徹底と充填前のチェックの徹底 ・移動タンク貯蔵所の運転手への教育の実施 ・充填中にローディングアームのバルブ操作が必要な移動タンク貯蔵所は使用しないか、もしくは充填量を減らす。 						

1 事故名	一般取扱所において、蒸気タービン給油装置の潤滑油パッキン取替後、潤滑油が飛散し漏えいしたもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 29日 14時 26分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	6月 29日 14時 26分	
5 覚 知	6月 29日 14時 55分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 29日 15時 15分	
7 鎮火・処理完了	6月 29日 15時 15分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南 風速：5.2m/s 気温：31.4℃ 湿度：67.2%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <input checked="" type="checkbox"/> 第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所				11 発 生 場 所
12 施 設 装 置					区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：東播磨地区特別防災区域
13 機 器 等	温度圧力：70℃、3Mpa				16 発生施設規制区分等
名 称：その他【電力事業】	番 号 (4999)				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第4石油類 潤滑油 31,800L 5.3倍
能 力：					倍数の合計： 5.3倍
14 発 生 箇 所	名 称：固定給油(注油)設備 番 号 (911)				設置の完成：昭和43年 5月 25日 直近の完成：平成26年 6月 25日
規 模：不明					17 物質の区分
15 発 生 時	名 称：フィルター 番 号 (910)				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分類：第4類第4石油類 名称：タービン油32番(400L)
材 質：ゴム					18 取扱者の概要
15 発 生 時	運 転 状 況：停止中 番 号 (5)				経験年数5年
作 業 状 況：定期修理中	作 業 状 況：定期修理中 番 号 (2)				21 危険物取扱者の の取扱・立会い
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 再熱蒸気タービン給油装置より主タービンへ送油する潤滑油の清浄化クノーフィルター部フランジパッキン取替後、漏えい確認のため補助油ポンプを起動したところ、クノーフィルター部フランジ付近から潤滑油が飛散し防油堤内に約400L流出したもの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 維持管理不十分	着火原因	番号 ()				
原 因	関 連 原 因						
	発生原因の状況： 既設シートパッキン耐圧3.0Mpaに対しゴムパッキン耐圧1Mpaのものを使用して補助油圧ポンプにてリークチェックを行ったため、パッキンが破損し潤滑油が流出したものの。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	人	本人の知識・能力	知識	知識不足			
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害			28 物的被害				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内でおさまっている。
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 潤滑油パッキンの破損
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況：
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	第4類第4石油類(非水溶性)タービン油32番 400L 流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
30 実施した防災活動の状況							損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (万円)
公設消防機関：番号 (99) 現場の安全確認				自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点							
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保 安 検 査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/> 内容：	
そ の 他	年 月 日	年 月 日	年 月 日				
35 今後の対策 や所見		チックシート等を利用し、ヒューマンエラーの防止に努める。					

1 事故名	一般取扱所において、配管洗浄に伴うバルブ閉鎖の未実施により純水タンクにトルエンが逆流しベントから流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 29日 13時 08分	推定・確定	4 発 見	8月 29日 13時 10分	
5 覚 知	8月 29日 14時 03分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 29日 16時 39分	
7 鎮火・処理完了	8月 29日 16時 39分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南東 風速：2m/s 気温：33℃ 湿度：39%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学 番号 (1732) 工業製品製造業 脂肪族系中 間物製造業(脂肪族系溶剤を含 む)	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 姫路臨海地区				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン 212,020L 1,060.1倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) メチルエチルケトン 20,000L 100倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) メタクリル酸メチル 44,240L 221.2倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ルベ ロックス570T20 4,910L 24.55倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 第4類第1石油類(非水溶性液体) 第4類第1石油類(非水溶性液体) 廃油 25,150L 125.75倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) スチレン 2,490L 2.49倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) N-ド`テ`シルメルカプ`タン 40L 0.02倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) リン酸ア`チル 60L 0.03倍 第4類第3石油類(水溶性液体) メチル2-ド`ロキシメチル 5,660L 1.42倍 第4類第4石油類 第4類第4石油類 第4類第4石油類 パ`ロムサ`ム 12,300L 2.05倍 倍数の合計： 1,537.61倍				
12 施 設 装 置	14 発 生 箇 所				
名 称：その他【分類なし】 番号 (9999)	名称：ベント管、ブロー管、放出管 番号 (303)				
能 力：36,000kg/日	材 質：ステンレス				
13 機 器 等	15 発 生 時				
温度圧力：常温、常圧	運転状況：停止中 番号 (5)				
名 称：貯槽(タンク) 番号 (107)	作業状況：洗浄中 番号 (11)				
規 模：内径850mm、高さ1,000mm、容量500L	17 物 質 の 区 分				
14 発 生 箇 所	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：トルエン(200L)				
名 称：ベント管、ブロー管、放出管 番号 (303)	18 取 扱 者 の 概 要				
材 質：ステンレス	経験年数3年				
15 発 生 時	19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者				
運転状況：停止中 番号 (5)	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危 険 物 保 安 監 督 者		①. 有 2. 無
作業状況：洗浄中 番号 (11)					
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要：	オンラインファイル無				
23 事 故 の 概 要：	一般取扱所の生産停止作業の一環として溶媒であるトルエンによる配管洗浄を行うために屋外タンク貯蔵所からトルエンを送液したところ、本来閉鎖しなければならない純水タンク行き配管途上のバルブが開いていたことにより、純水タンクにトルエンが逆流した。純水タンクからオーバーフローしたトルエンは施設2階フロア及び1階の溜枡や排水溝内に漏えい拡散した。総漏えい量は約200Lで漏えいは施設内でとどまった。当該事故による負傷者はなし。応急措置としては屋外タンク貯蔵所の送液ポンプを緊急停止するとともに、純水タンク行きの配管途上のバルブを閉鎖、フロア等に漏えいしたトルエンについては保護具着用の上、ウェス等で回収及び拡散防止措置を講じた。また、純水タンク内に残留したトルエンについてはドレンノズルによって抜き取り、回収を実施した。				
24 緊 急 処 置 の 状 況	有 番号 (1, 9) 無 装置の緊急停止、緊急排出、緊急移送				

原因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 本来閉鎖されるべき純水タンク行き配管途上のバルブが開いていたことで、配管洗浄に使用していたトルエンが純水タンクに逆流した。その後、純水タンクからオーバーフローしたトルエンはタンク上部のペントから流出し、施設2階フロア及び1階の溜枒や排水溝内に漏えい拡散したものの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	管理		リスクアセスメント		危険意識		危険性評価がない/不適切			
	制度		規則・手順		内容・周知		周知不足			
	制度		教育・訓練		内容・周知		教育・訓練がない/不足			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出したトルエンが当該一般取扱所の2階フロアに拡がり、2階フロアの溜枒内の導管を通じて1階溜枒や排水溝内に流入した。なお、当該施設外への流出はなし。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	11 台	0 隻	0 機	36 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	226 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)トルエン約200L流出
消 防 団	2 台	0 隻	0 機	7 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	5 台	0 隻	0 機	9 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (5 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5, 9)				自衛防災・消防組織等 番号 (5, 3)						
災害実態及び三大危険情報を聴取した後、現場の安全管理のためにガス検知器による環境測定を行い警戒筒先を1線配備するとともに、送排風機を設定し、環境改善を行った。また、負傷者発生に備えて現地指揮本部にて救護体制を整えて待機した。				保護具を着用の後、ウエス等でふき取り回収作業及び拡散防止措置を行った。また、大型化学高所放水車から1線延長し、施設屋外に警戒筒先を配備した。公設消防到着後は、前記の警戒筒先を施設2階出入口近傍に配備し直し、純水タンク内に残留していたトルエンをタンクドレンノズルから抜き出して回収した。						
31 防災活動上の問題点										
発見から消防機関への通報まで53分要しており、通報遅延が認められた(異常現象の通報義務違反として石油コンビナート等災害防止法第23条に基づく警告書を手交)。出火時に備えて、大型化学高所放水車で消防車用屋外給水施設から1線延長し、施設屋外に配備していたものの、当該施設は外壁で囲われた建築物であり、有効注水は見込めないものであった。公設消防隊到着前に、トルエンの回収作業を実施していたが、作業場所近くに警戒筒先を延ばしていなかった。大型化学高所放水車で消防車用屋外給水施設から1線延長することは出来ていたが、どこに配備することが有効であるか考える訓練が不足しているように思慮する。 異常現象の通報訓練について、令和4年5月に異常現象があった際に従業員に対して再教育を実施したが今回早期の通報が出来ていなかった。従業員からの聞き取りによると異常現象である認識はあったが、通報については誰かがするだろうという心理が働き、遅れたことであつたため、再度誰が通報しなければならないかということと通報が遅れるとどうなってしまうのかのノウハウ教育が不足していると思慮する。										
政 策 措 置	32 施設名	一般取扱所		33 定期点検等		消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和4年4月6日	令和4年8月31日				
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日				
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日				
	関係条項	法第14条の2第4項 予防規程遵守義務違反		34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無				
その他	令和4年9月5日	年 月 日	①. 文書 2. 口頭		内容： 法第14条の2第4項 予防規程遵守義務違反					
35 今後の対策や所見	当該事業所に対し、定型外作業のリスクアセスメントの徹底及び異常現象の通報に関する再教育について指導したところであるが、今後、管内の他の事業所に対しても指導を行い、同種事故防止に努める必要がある。									

1 事故名	一般取扱所において、オイル給油タンクのドレン弁の誤開放による防錆油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 3日 14時 00分	推定・確定	4 発 見	10月 4日 9時 30分	
5 覚 知	10月 4日 9時 56分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 4日 11時 11分	
7 鎮火・処理完了	10月 4日 11時 11分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南 風速：3.9m/s 気温：27℃ 湿度：72%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 鉄鋼業 製鉄業 高 番 号 (2311) 炉による製鉄業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、 <u>事</u> 、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：東播磨地区				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 防錆油 900L 0.45倍 第4類第4石油類 油圧作動油 31,255L 5.21倍				
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分				
名 称：その他【鉄鋼・非金属工業】 番 号 (6199)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
能 力：防錆油塗布量 300L/日	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：防錆油(3,500L)				
13 機 器 等	18 取扱者の概要				
温度圧力：	経験年数15年				
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)	19 危険物保安統括管理者				
規 模：角型、縦750mm、横1,500mm、高さ900mm、容量900L	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要				
	20 危険物保安監督者				
14 発 生 箇 所	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
名 称：ドレンバルブ 番 号 (210)	21 危険物取扱者の取扱・立会い				
材 質：鋳鉄	1. 有 ②. 無				
15 発 生 時	22 設備・機器等の概要：				
運 転 状 況：停止中 番 号 (5)	オンラインファイル無				
作 業 状 況：不定期修理中 番 号 (3)	23 事 故 の 概 要：				
	3酸洗工場の一般取扱所において、オイル給油タンク上部の温調弁取替作業のため、取り外した手摺支柱が、オイル給油タンク下部のドレン弁操作レバーに接触し、ドレン弁がわずかに開いたが作業員は気づかず、ドレン弁が長時間開放状態となり、防錆油約3,500Lが流出したものの。				
24 緊急処置の状況	24 緊急処置の状況				
<input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無	その他				

原 因	25 主 原 因 維持管理不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 作業員が取り外した手摺支柱がオイル給油タンクのドレン弁操作レバーに誤って接触したため、開放状態となり、更にドレン弁が開放していることに気づかず、防錆油約3,500Lが施設内に流出した。施設外への流出はなし。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	設備		設計		工程・システム設計		安全設計が不適切				
	設備		監理・保守		点検・整備		異常事態の放置				
	人		本人の意識		違反(故意)		怠慢				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した防錆油は、一般取扱所内の地下ピットに滞留した。施設外への流出はなし。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 施設等の被害なし。			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	10 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性液体)防錆油約3,500L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 流出の拡大状況及び措置状況を確認した。						自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5) ドレン弁の閉止及び流出した防錆油の回収を実施。					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日	定期・自主点検	年 月 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日	気密試験等	年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				年 月 日	保安検査	年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無			
その 他	年 月 日				年 月 日		内容：				
35 今後の対策 や所見											
<ul style="list-style-type: none"> ・ドレン弁に閉止プラグを取付け、二重閉止措置を実施。 ・ドレン弁操作レバーを外し、接触による弁開放を防止。 ・当該事業所に対し、危険物施設における流出事故原因を水平展開し、重点的な点検を定期的に行い、必要な措置を実施する体制の確立を求めており、今後、管内の他の事業所に対しても指導を行い、同種事故防止に努める必要がある。 											

1 事故名	一般取扱所内の潤滑油装置の配管の亀裂により潤滑油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 8日 5時 48分	推定・確定	4 発 見	10月 8日 7時 36分	
5 覚 知	10月 8日 7時 52分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 8日 9時 21分	
7 鎮火・処理完了	10月 8日 9時 21分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北北西 風速：2.9m/s 気温：18℃ 湿度：70%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 鉄鋼業 製鉄業 高 番 号 (2311) 炉による製鉄業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、 <u>事</u> 、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：東播磨地区	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称：その他【鉄鋼・非金属工業】 番 号 (6199)	能 力：システムH給油タンク 27,000L ポンプ吐出量 1,400L/min		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第4石油類 潤滑油 158,950L 26.49倍		
13 機 器 等	温 度 圧 力：0.6Mpa		倍数の合計： 26.49倍		
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	規 模：配管直径 125A		設置の完成：昭和48年 1月 22日 直近の完成：令和元年 6月 13日		
14 発 生 箇 所	名 称：管継手(ダクトを含む) 番 号 (201)		17 物 質 の 区 分		
材 質：その他			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類：第4類第4石油類 名称：潤滑油(1,300L)		
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)		18 取 扱 者 の 概 要		
作 業 状 況：	番 号 ()		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い ①. 有 2. 無		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 第8線材工場の一般取扱所(No.3オイルセラー)において、システムHポンプの出側配管溶接部に亀裂が生じ、潤滑油約1,300Lが流出したものの。オイルセラー内の排水ポンプを介して同工場水処理施設に排出された。流出した潤滑油は水処理施設で留まったもの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他					

原因	25 主 原 因 設計不良		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 長さ3mm不足した配管を設置していたため、降伏点を超える応力が発生し、溶接部に亀裂が生じ、亀裂部から潤滑油が流出したものの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	設計不良		能力		想定を越えた応力の発生					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した潤滑油は、オイルセラー内に滞留し、潤滑油の一部は、オイルセラー内の排水ポンプを介して同工場の水処理施設に排出され、水処理施設で留まったもの。		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管の破損		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	15 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類、潤滑油約1,300L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 流出の拡大状況及び施設の破損状況を確認した。					自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5) システムH給油ポンプの停止、当該配管の前後のバルブ閉止及び流出した潤滑油の回収を実施。					
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名	一般取扱所			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	令和4年 6月 2日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日			年 月 日			保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無			有・無		
その他	基準に適合させること。 令和4年 10月 11日			年 月 日			内容： 法第12条第1項 製造所等の維持、管理違反			
35 今後の対策や所見	保全員に周知し、防災繰り返し教育計画に織り込み毎年教育を実施。 今回の流出事故については、配管設置時の構造の誤認が原因であるため、確認作業を徹底させ、同種事故防止に努める必要がある。									

1 事故名	地下タンクから送油ポンプへの埋没配管の腐食による灯油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月	日	時	分	推定・確定
4 発 見	10月	19日	5時	00分	
5 覚 知	10月	19日	5時	00分	
6 鎮 火・処理完了	12月	9日	10時	30分	
7 鎮火・処理完了	12月	9日	10時	30分	6 鎮 火 応 急 処 置 完 了
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (自己覚知)				
9 気 象 状 況	天気:	風向:	風速:	気温:	湿度:
10 発 生 事 業 所	種 別 : 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態 : 教育・学習支援業 学校教育 番 号 (7621) 中学校 中学校				
11 発 生 場 所	区 分 : ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名:				
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等 施設区分: ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別: 取扱所 施設別: 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数: 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 5,000L 5倍				
13 機 器 等	温度圧力: 名 称 : 貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模 : 内径1,300mm、胴部3,840mm、鏡出252mm、タンク容量5,000L 倍数の合計: 5倍				
14 発 生 箇 所	設置の完成: 平成 5年 11月 10日 直近の完成: 平成 22年 12月 24日				
15 発 生 時	17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類: 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称: 灯油(43L)				
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要:	オンラインファイル無				
23 事故の概要:	市立中学校において、自動火災報知設備が発報しているとの警備会社からの通報により消防隊1隊が検索出動。消防隊が当該施設を検索中、屋外にて灯油臭があることに気付く。 その後、危険物担当職員2名で現地確認を実施。 当該中学校の教頭(保安監督者)他1名の立会の下、地下貯蔵タンク、ポンプ室、ポンプ室に至る配管等を確認したところ、地下貯蔵タンクマンホール内と露出配管に灯油の漏えい(一部乳化)を確認したもの。				
24 緊急処置の状況	有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他				

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 地下埋設配管が経年劣化により穿孔したものの。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 埋設配管から灯油約43L(推定)が漏えいし、地下貯蔵タンクのマンホール内及び施設内の側溝に流出。		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 地下埋設配管が経年劣化により穿孔。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油 43L漏えい(推定)
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
灯油臭を確認し、地下タンクのポンプを停止する。地下貯蔵タンクマンホール内と露出配管に灯油の漏えい(一部乳化)を確認。漏えい箇所が特定できるまで施設の使用停止を指示。										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	一般取扱所			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和3年12月3日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	令和3年12月3日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無			有・ <input type="checkbox"/> 無		
その他	令和4年10月19日			年 月 日			内容：			
35	今後の対策や所見			異常(異臭)を早期発見できるよう、日常的に点検を行っていくように指導し、同種事故防止に努める必要がある。						

1 事故名		3酸洗工場の配管フランジ合わせ面から油圧作動油の流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		11月 3日 3時 45分	推定・ 確定	4 発 見	11月 3日 3時 55分		
5 覚 知		11月 3日 4時 16分			6 鎮 圧 応急処置完了	11月 3日 5時 30分	
7 鎮火・処理完了		11月 3日 5時 30分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：北		風速：1.4m/s 気温：11℃		湿度：95%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 鉄鋼業 製鉄業 高 番 号 (2311) 炉による製鉄業				区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、 事 、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：東播磨地区			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 防錆油 900L 0.45倍 第4類第4石油類 油圧作動油 31,255L 5.21倍			
12 施 設 装 置							
名 称：その他【鉄鋼・非金属工業】 番 号 (6199)							
能 力：回転数 83rpm							
13 機 器 等				温度圧力：60℃、21Mpa			
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)							
規 模：32A							
14 発 生 箇 所				設置の完成：平成 2年 3月 26日 直近の完成：令和 2年 2月 25日			
名 称：管継手(ダクトを含む) 番 号 (201)				17 物 質 の 区 分			
材 質：鋼鉄				①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 高温) 分 類：第4類第4石油類 名称：油圧作動油(600L)			
15 発 生 時							
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)							
作 業 状 況： 番 号 ()							
				18 取扱者の概要			
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 3酸洗工場の一般取扱所において、製造ラインを稼働中に、作業員が操作室外で油臭に気付き調査したところ、デフレクター用配管のフランジ部から油圧作動油が流出していたため、製造ライン及び油圧ポンプを停止した。流出量：油圧作動油約600L。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他							

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： デフレクタロール作動時の振動により、フランジ締結ボルトが緩み折損、フランジ合わせ面が開いたことにより、内側のOリングが破損し油圧作動油が流出したものの。									
	主要原因の詳細									
	第I層		第II層		第III層		第IV層			
	疲労・劣化		環境		常に振動する環境下で疲労（想定内の振動であるが、材料が継続した疲労により損傷等）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油圧作動油は、一般取扱所内の地下ピットに滞留した。施設外への流出はなし。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： フランジ締結ボルトが緩み折損、内側のOリングが破損。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類、油圧作動油約600L流出。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	10 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 流出の拡大状況及び措置状況を確認した。						自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5) ポンプ停止及び流出した油圧作動油の回収を実施。				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>		
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
35 今後の対策 や所見 ・当該フランジボルトに緩み止めワッシャー取付け実施。 ・フランジボルトの総点検実施。 ・当該事業所に対し、配管フランジ部の点検方法見直しを指導したところであるが、今後、管内の他の事業所に対しても指導を行い、同種事故防止に努める必要がある。										

1 事故名	一般取扱所において、配管内を窒素置換後にアセトンを送液したところ、ドレンバルブ閉止未実施により流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 18日 14時 44分	推定・確定	4 発 見	11月 18日 14時 45分	
5 覚 知	11月 18日 15時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 18日 16時 20分	
7 鎮火・処理完了	11月 18日 16時 24分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南 風速：3.8m/s 気温：17℃ 湿度：46%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 業 態：	①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 製造業 化学工業 有機化学 番号 (1732) 工業製品製造業 脂肪族系中 間物製造業(脂肪族系溶剤を含 む)		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 姫路臨海地区		
			16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(水溶性液体) アセトン 349,125L 872.81倍 第4類第1石油類(水溶性液体) ドープアセトン 475,844L 1,189.61倍 第4類第4石油類 潤滑油 14,975L 2.5倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分				
名 称：精製装置	番 号 (2103)		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能 力：アセトン 約3,000KL/日	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(水溶性液体) 名称：アセトン(60L)				
13 機 器 等	温 度 圧 力：常温、常圧		倍数の合計： 2,064.92倍		
名 称：配管(送油、注入管等)	番 号 (606)		設置の完成：平成 2年 8月 6日 直近の完成：令和 3年 12月 7日		
規 模：材質:SGP バルブサイズ:1/2B	18 取扱者の概要				
14 発 生 箇 所	番 号 (204)		経験年数29年		
材 質：ステンレス	19 危険物保安 統括管理者		20 危険物 保安監督者		21 危険物取扱者 の取扱・立会い
15 発 生 時	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		①. 有 2. 無
運 転 状 況：スタートアップ中	番 号 (2)				
作 業 状 況：運転操作中	番 号 (1)				
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 一般取扱所の中2階部分において、配管取替工事後、気密試験の為に配管内の窒素置換を実施。その後、充液作業の為にアセトンを送液したところ窒素パージ用の配管を繋いでいた手動ドレンバルブを閉止し忘れていたためアセトンが中2階フロア、1階の溜枳及び排水溝内に漏えい拡散した。漏えい量は約60Lで施設内に留まった。当事故による負傷者はなし。応急措置として開状態の手動ドレンバルブを閉止し、中2階フロアに拡散したアセトンを吸着マットで回収するとともに、1階の溜枳及び排水溝内のアセトンを汲み取りドラム缶に回収した。					
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()									
	関 連 原 因 操作確認不十分													
	発生原因の状況： 窒素置換及び気密テスト用にドレンバルブへ接続した器具を取り外した後、当バルブの閉止操作がなされず、かつ、送液前に開閉状況の確認も出来ていなかったため、アセトンが漏えいし中2階フロア、1階溜枳及び排水溝に漏えい拡散したもの。													
	主要原因の詳細													
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層							
	人		本人の意識		思慮		不注意							
	関連原因の詳細													
	人		本人の意識		違反(故意)		怠慢							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27 人的被害						28 物的被害								
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名							
区分														
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内にアセトン約60L漏えいしたもの、当施設外への流出なし。							
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 被害なし。							
第 三 者	0	0	0	0										
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
消 防 機 関	11 台	0 隻	0 機	43 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	30 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(水溶性)アセトン約60L漏えい				
消 防 団	4 台	0 隻	0 機	6 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人					
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人					
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	6 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人					
30 実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 (99) 現地指揮本部にて情報収集実施後、施設内の状況確認、ガス濃度測定及び警戒筒先の配備を実施した。						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 中2階床に拡がったアセトンを吸着マットにより回収、密閉容器に移すとともに、1階溜枳及び排水溝内に留まったアセトンについては、当施設内から出た大量のドレン水で希釈されており、ドラム缶約10本使用し回収した。								
31 防災活動上の問題点 問題なし。														
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他							
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和4年8月24日	年	月	日		
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日	年	月	日
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：					
35 今後の対策 や所見	当事業所に対し、配管への送液前はフローシートを用いて、配管上の全バルブの開閉状態を確認し、既設、改造箇所を問わず全数チェックするよう指導するとともに、本事故原因を他の従業員にも共有し、事業所全体で再発防止に努めるよう指導した。													

1 事故名	一般取扱所から移動タンク貯蔵所へ積み込み作業中、投入用パイプが外れ、メタバラクレゾールが漏えいしたもの		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	7月 25日 13時 20分 推定・ 確定	4 発 見	7月 25日 13時 20分
5 覚 知	7月 25日 14時 03分	6 鎮 圧 応急処置完了	7月 25日 13時 25分
7 鎮火・処理完了	7月 25日 13時 25分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西南西 風速：3.1m/s 気温：30.2℃ 湿度：74.7%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 業 態：	区 分： 特別防災地区名：		
①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 第1種 、第2種、その他) 運輸業 倉庫業 倉庫業(冷蔵番号(4711) 倉庫業を除く) 倉庫業(冷蔵 倉庫業を除く)	①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 和歌山北部臨海北部地区		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等		
名 称：ローリー充てん施設 番号(1402)	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) メチルエチルケトン 210,000L 1,050倍 第4類アルコール類 エチルアルコール 20,000L 50倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 250,000L 250倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) メタバラクレゾール 160,000L 80倍		
能 力：	倍数の合計： 1,430倍		
13 機 器 等	温度圧力：		
名 称：その他 番号(999)	設置の完成：昭和39年 1月 18日 直近の完成：令和3年 9月 13日		
規 模：一般取扱所 1階 建築面積192㎡	17 物質の区分		
14 発 生 箇 所	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：メタバラクレゾール(2L)		
名 称：その他 番号(999)	18 取扱者の概要		
材 質：ステンレス	経験年数0年		
15 発 生 時	19 危険物保安統括管理者		
運 転 状 況：定常運転中 番号(1)	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
作 業 状 況：充填中 番号(12)	20 危険物保安監督者		
	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
	21 危険物取扱者の取扱・立会い		
	①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要：	オンラインファイル有		
23 事 故 の 概 要：	一般取扱所(ローリー充填所)から移動タンク貯蔵所へ積み込み作業中、運転者が液面監視を行うため、しゃがんで立ち上がる際に、投入用パイプと接触したため、パイプが脱落しその隙間からメタバラクレゾールが飛散し、運転者に被液し、約2L程度流出した。この流出により、運転者1名が薬傷した。なお、充填作業はバルブを閉止、ポンプ停止を行った。その後、被液者に対し洗浄を実施した。		
24 緊急処置の状況	有 番号(10) 無 その他		

25	主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()							
原 因	関 連 原 因											
	発生原因の状況： ローリー充填中、投入用パイプをフック式で積み込み口先端と取り付けていたが、運転者の不注意(しゃがんで立ち上がる際にパイプと接触)により、投入用パイプを脱落させたため、メタパラクレゾールが流出した。											
	主要原因の詳細											
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	人		本人の意識		思慮		不注意					
	関連原因の詳細											
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27	人的被害				28 物的被害							
	被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 約2L程度流出したのみである。				
	当 事 者	0	0	1	0	化学熱傷	会社員					
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 被害等はなし。				
	第 三 者	0	0	0	0							
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
	消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)メタパラクレゾール約2L流出	
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)	
30	実施した防災活動の状況											
	公設消防機関：番号 (99) 情報収集及び再発防止策等の指導・指示					自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31	防災活動上の問題点 通報まで時間を要した。											
32	施 設 名					33 定期点検等		消 防 法	そ の 他			
行 政 措 置	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/> 内容：				
	そ の 他	年 月 日		年 月 日								
35	今後の対策 や所見 今後は、消防機関への通報を迅速化するとともに、投入用パイプが容易に落下しないよう、二次的な措置(チェーン等で固定)を講じるよう指示した。											

1 事故名	自動充填設備附属配管フランジ面のひずみによる隙間からの潤滑油漏えい事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 16日 15時 05分	推定・ 確定	4 発 見	8月 16日 15時 05分	
5 覚 知	8月 16日 15時 23分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 16日 17時 07分	
7 鎮火・処理完了	8月 16日 19時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南西 風速：3.3m/s 気温：33℃ 湿度：67%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、 荷 、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 和歌山北部臨海中部地区	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 800,000L 400倍 第4類第4石油類 潤滑油 840,000L 140倍	
13 機 器 等	温度圧力：		設置の完成：平成 元年 4月 27日 直近の完成：令和 3年 7月 14日		
14 発 生 箇 所	名 称：ドラム充てん施設 番 号 (1403) 能 力：建築面積:887㎡延べ面積:1,721㎡		17 物 質 の 区 分		
15 発 生 時	名 称：ピグ装置 番 号 (605) 規 模：建築面積:887㎡延べ面積:1,721㎡		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第4石油類 名称：潤滑油(ENEOSモーターオイル SL10W-30) (50L)		
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 潤滑油充填配管内の油を空にするためピグパーージ作業(配管内のゴム球をエアで押す)を実施したところ、ゴム球の最終到達点であるランチャーキャッチャーフランジより油が漏えい					
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 設計不良		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： ランチャーキャッチャーフランジ面に約1mmのひずみが確認され、このひずみによりフランジ間に隙間が生じた。 ビッグバージ作業(配管内のゴム球をエアで押す)実施時に加わる圧力により、パッキンが押し出され、さらに広がった隙間からパッキンが押し出され漏えいに至った。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	設計不良		機能		必要とされる機能が備わっていない					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 自動充填設備ポンプヤード内、及び近傍の側溝へ漏えい。 施設等の被害状況： パッキン破損		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	3 台	0 隻	0 機	123 人	物質の被害状況： 危険物第4類第4石油類である潤滑油(ENEOSモーターオイルSL10W-30)約50L漏えい
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	5 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 化学車1台、軽積載車1台、広報車2台で出動し現場を確認及び警戒配備を行った。 指揮支援隊にあつては現場状況を聴取し情報収集活動を実施した。					自衛防災・消防組織等 番号 (5, 3) 非常事態対策組織を設置し、防災体制を確立した。 また、現地では漏油回収作業及び拡散防止対策等を行った。					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：				
35 今後の対策 や所見	当該ランチャーキャッチャーのフランジを「1点締め付けタイプ」から「フランジタイプ」に変更し、パッキンも「角ゴム」から「シートパッキン」に変更する。 これにより、フランジ間の隙間が発生せず、パッキンが押し出されなくなる。 また、同タイプの2カ所についても同様の対策を行う。									

1 事故名	一般取扱所において機関車の燃料抜き取り作業中に油回収装置のポンプに不具合が生じたことによる軽油の流出						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	8月 7日 10時 20分	推定・ 確定	4 発 見	8月 7日 10時 20分			
5 覚 知	8月 8日 9時 00分			6 鎮 圧 応急処置完了	8月 8日 18時 30分		
7 鎮火・処理完了	8月 8日 18時 30分						
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況	天気：晴		風向：南南東		風速：3m/s		気温：31.7℃ 湿度：65%
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 鉄道業 鉄道業 普 番 号 (4211) 通鉄道業			11 発 生 場 所			
				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 6,000L 6倍			
12 施 設 装 置				設置の完成：平成 3年 8月 23日 直近の完成：平成 3年 8月 23日			
名 称： その他のタンク	番 号 (1299)						
能 力：				倍数の合計： 6倍			
13 機 器 等	温 度 圧 力：						
名 称： 貯槽(タンク)	番 号 (107)						
規 模：	幅1,000mm、横350mm、高さ600mm、容量190L						
14 発 生 箇 所							
名 称： 通気管	番 号 (304)		17 物 質 の 区 分				
材 質： 鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(500L)			
15 発 生 時				18 取 扱 者 の 概 要			
運 転 状 況： 定常運転中	番 号 (1)						
作 業 状 況： 運転操作中	番 号 (1)						
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有							
23 事 故 の 概 要： 一般取扱所においてディーゼル機関車の燃料抜き取り作業を行うため、油回収装置の起動ランプ及びポンプ動作音を確認し燃料の回収作業に着手した。 作業者はその場を離れ約20分後に現地に戻ったところ、一次タンクの通気管より軽油があふれているのを確認し、油回収装置の電源を切とした。 一次タンクを経由した先の油回収装置のフィルター(ろ過器)が汚損していたため、油回収用ポンプまでの配管内の流量が低下したことにより、油回収用ポンプがエアがみし、一次タンクにある燃料が送油されず、容量限界を超えて通気管から軽油が流出したものの。 なお、流出範囲は当該危険物施設のピット内であり、外部への流出はない。直ちにドラム缶への汲み取り及び中和剤の散布を行った。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

25	主 原 因 故障	着火原因	番号 ()
原 因	関 連 原 因 監視不十分、維持管理不十分		
	発生原因の状況： 一次タンクを経由した先の油回収装置のフィルター(ろ過器)が汚損していたため、油回収用ポンプまでの配管内の流量が低下したことにより、油回収用ポンプがエアがみし、一次タンクにある燃料が送油されず、容量限界を超えたもの。		
	主原因の詳細		
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層
	故障	機能	周囲からの異物の作用による機器の動作不良
	関連原因の詳細		
管理	監督	監視	監視がない
設備	監理・保守	点検・整備	整備していない
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から		
27	人的被害		28 物的被害
	被害内容等	死亡	重症
区分		中等症	軽症
当 事 者	0	0	0
防災活動従事者	0	0	0
第 三 者	0	0	0
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況		
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 3 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 6 人
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
			物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油 500L流出
30	実施した防災活動の状況		
	公設消防機関：番号 (99) 調査活動	自衛防災・消防組織等 番号 (5) 軽油をドラム缶に回収、汚泥の回収、中和剤の散布	
31	防災活動上の問題点 休日において勤務者が不在となる消防局予防課に連絡したため連絡がつかず、週明けの事後通報となった。 マニュアル上、事故発生時には消防局予防課へ連絡するようになっていた。		
32	施設名		33 定期点検等
政 策	使用停止	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日
	関係条項		
措 置	その他	年 月 日	年 月 日
		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭
33	定期点検等	消 防 法	そ の 他
	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	保安検査	年 月 日	年 月 日
34	当該施設に係る 法令違反の有無		<input checked="" type="checkbox"/> ・無 内容： 法第10条第3項製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反
35	今後の対策 や所見 従業員の安全教育の実施、作業手順の見直し、点検項目の追加 消防への通報先についてマニュアルの変更		

1 事故名	一般取扱所内のサービスタンクからボイラーへの危険物配管の腐食による重油の流出事故		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	10月 3日 8時 00分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見
5 覚 知	10月 3日 9時 18分		6 鎮 圧 応急処置完了
7 鎮火・処理完了	10月 11日 10時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南南西 風速：0.5m/s 気温：22.4℃ 湿度：68%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 業 態：	区 分：		
1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他)	①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他)		
製造業 食料品製造業 その番号 (999)	2. 事業所外 (陸上、海上、その他)		
他の食料品製造業 他に分類 されない食料品製造業	特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他		
	貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所		
	類・品名・名称・数量・倍数：		
	第4類第3石油類(非水溶性液体)	重油	5,306L 2.65倍
	第4類動植物油類	動植物油類	8,000L 0.8倍
		倍数の合計：	3.45倍
12 施 設 装 置	設置の完成：平成 2年 10月 24日		
名 称：ボイラー施設	直近の完成：平成 27年 11月 13日		
番 号 (1505)			
能 力：			
13 機 器 等	17 物 質 の 区 分		
温 度 圧 力：	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
名 称：配管(送油、注入管等)	5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
番 号 (606)	(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧)		
規 模：SGP配管32A	(低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温)		
	分 類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(100L)		
14 発 生 箇 所	18 取扱者の概要		
名 称：その他の附属配管等	経験年数11年		
番 号 (299)			
材 質：鋼鉄			
15 発 生 時	19 危険物保安		
運 転 状 況：定常運転中	統括管理者		
番 号 (1)	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
作 業 状 況：	20 危険物		
番 号 ()	保安監督者		
	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
	21 危険物取扱者		
	の取扱・立会い		
	①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要：	オンラインファイル無		
23 事 故 の 概 要：	経年により配管の塗装が剥離した部分が腐食し、その箇所から重油が流出したもの。 前日17時にボイラーを停止した時には異常は認められなかった。事故当日は7時にボイラーを始動したがおよそ1時間後に重油の臭気により異変を覚知、漏えいを発見する。 流出した重油が破損していた溜枘からあふれ出し、事業所側溝から敷地外の用水路に流れ込んだ。1km先の湖の沿岸におよそ200m×2mに渡り流出		
24 緊急処置の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止		

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因 維持管理不十分										
	発生原因の状況： 経年により配管の塗装が剥離した部分が腐食し、その箇所から重油が流出したもの										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		高温多湿環境（温泉の湯気の影響、周囲が高温多湿環境）						
	関連原因の詳細										
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足				
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名				
区分											
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した重油が破損していた溜槽からあふれ出し、事業所側溝から用水路に流れ込んだ。1km先の湖の沿岸におよそ200m×2mに渡り流出				
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： サービスタンクからボイラーへの送油配管				
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	10 人	物質の被害状況： 第4石油類第3石油類(非水溶性)重油100L(推定)流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	3 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	3 人	その他	0 台	0 隻	0 機	5 人		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (6)						自衛防災・消防組織等 番号 (4、5、6)					
情報収集											
31 防災活動上の問題点 通報までに時間を要した。											
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日				保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無				
その他	年 月 日				内容：						
35 今後の対策 や所見 設備及び機器類の点検の実施											

1 事故名	一般取扱所において、貯蔵タンクの貯蔵容量を超えて使用したため通気管からメタノールが、施設外に流出						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	1月 17日 23時 36分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	1月 17日 23時 36分			
5 覚 知	1月 18日 8時 43分			6 鎮 圧 応急処置完了	1月 18日 1時 15分		
7 鎮火・処理完了	1月 18日 1時 15分						
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況	天気：晴		風向：		風速：		気温：5℃ 湿度：57%
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 医薬品製 番号 (1761) 造業 医薬品原薬製造業			11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
				16 発生施設規制区分等			
12 施 設 装 置	名 称： その他のタンク 番 号 (1299)			倍数の合計： 58.75倍			
	能 力： 危険物20号タンクタンク容量:23,500Lメタノール、エタノール						
13 機 器 等	温 度 圧 力：			設置の完成：平成 27年 2月 16日 直近の完成：令和 2年 3月 12日			
	名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)						
	規 模： 直径:2,400mm、高さ:5,300mm、容量:23,500L						
14 発 生 箇 所	名 称： 通気管 番 号 (304)			17 物 質 の 区 分			
	材 質： ステンレス			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類アルコール類 名称： <i>メタノール</i> (170L)			
15 発 生 時	運 転 状 況： 受入中 番 号 (9)			18 取 扱 者 の 概 要 経験年数37年			
	作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)						
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： アミノ酸結晶洗浄工程にて、洗浄に使用した廃メタノールを一時貯蔵する危険物20号タンクの液面水位が89%で水位警告アラート(1段階目:容量の85%以上)が鳴動中にも関わらず、追加の受入は問題ないと判断し、洗浄工程を行い、残りの容量以上の廃メタノールを受け入れたため、通気管部から屋外に170L流出。 消防機関の覚知の経緯については、夜間に事故が発生したが、その時点では通報されず、通報については、通報者が翌朝の出勤時に事故内容を聴取し、その後、119番通報したもの。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送							

原因	25 主 原 因 維持管理不十分		着火原因		番号 ()												
	関 連 原 因 操作確認不十分																
	発生原因の状況： アミノ酸結晶洗浄工程にて、洗浄に使用した廃メタノールを一時貯蔵する危険物20号タンクの液面水位が89%で水位警告アラート(1段階目:容量の85%以上)が鳴動中にも関わらず、追加の受入は問題ないと判断し、洗浄工程を行い、残りの容量以上の廃メタノールを受け入れたため、通気管部から屋外に170L流出。 また、当該タンクの差圧式液面計については、液面換算を行う比重の設定が、廃メタノール(0.86)ではなく、水の比重(1.0)で設定していたため、貯蔵していた本タンクの液面計表示が、実際の液面より低い数値が表示されており、89%の時点でタンクの満液相当であった。さらに、追加受入したため漏油、第2段階目の最終警告アラートは設定してあったが、90%から鳴動のため、警告と同時に通気管から流出したものの。																
	主要原因の詳細																
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層										
	人		本人の意識		違反(故意)		問題意識の不足										
	人		本人の意識		思慮		過信										
	人		本人の意識		思慮		思い込み										
	関連原因の詳細																
	設備		監理・保守		点検・整備		その他										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																	
27 人的被害						28 物的被害											
被害内容等		死亡		重症		中等症		軽症		死傷原因		職業又は職名		被災影響範囲及び拡大の状況： 流出場所付近の水路に流れる水の汚染。 当水路先の樋門1箇所(総合排水槽)封鎖による場外への流出は確認されず。			
区分																	
当 事 者		0		0		0		0						施設等の被害状況： 施設等への被害はなし			
防災活動従事者		0		0		0		0									
第 三 者		0		0		0		0									
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																	
消 防 機 関		0 台 0 隻 0 機 0 人		自 衛		0 台 0 隻 0 機 0 人		消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人		共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人		物質の被害状況： 廃メタノール170L	
消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人		共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人		海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人		応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人			
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人		応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人		その他の機関		0 台 0 隻 0 機 0 人		その他		0 台 0 隻 0 機 0 人		損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)	
その他の機関		0 台 0 隻 0 機 0 人		その他		0 台 0 隻 0 機 0 人											
30 実施した防災活動の状況																	
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) ・場内の樋門1箇所封鎖 ・漏油エリアの清掃											
31 防災活動上の問題点																	
32 施設名						33 定期点検等		消 防 法		そ の 他							
使用停止		年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日		年 月 日							
改善命令等		年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日							
停止解除		年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日							
関係条項						34 当該施設に係る 法令違反の有無		<input type="checkbox"/> 有・無		内 容： ・法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反(申請容量以上の取扱) ・危規則第48条第2項 危険物保安監督者の業務(消防機関への通報なし)							
その他		年 月 日		年 月 日													
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭													
35 今後の対策 や所見		<ul style="list-style-type: none"> ・警報設定の基準を下げ、第1段階目の警告がなった際には、受入作業を中止させる ・液面管理の徹底し、消防申請容量を越えないように申請容量を計器に表示させる ・再教育を行う 															

1 事故名		棧橋の危険物配管(一般取扱所)から重油が海上流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		4月 28日 9時 35分 推定・ 確定			4 発 見		4月 28日 9時 35分				
5 覚 知		4月 28日 10時 03分			6 鎮 圧 応急処置完了		4月 28日 10時 29分				
7 鎮火・処理完了		4月 28日 14時 00分									
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：東南東		風速：3.3m/s		気温： 湿度：81%			
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所							
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				区 分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、 海上 、その他) 特別防災地区名：宇部・小野田							
				16 発生施設規制区分等							
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 16,000,000L 80,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 12,800,000L 12,800倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 16,000,000L 8,000倍							
12 施 設 装 置				設置の完成：昭和51年 1月 27日 直近の完成：平成28年 8月 10日							
名 称：海上入出荷施設 番 号 (1401) 能 力：											
13 機 器 等				倍数の合計： 100,800倍							
名 称：その他 番 号 (999) 規 模：ベント管											
14 発 生 箇 所				17 物 質 の 区 分							
名 称：ベント管、ブロー管、放出管 番 号 (303) 材 質：鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(0.5L)							
15 発 生 時				18 取扱者の概要							
運 転 状 況：停止中 番 号 (5) 作 業 状 況：定期修理中 番 号 (2)				①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危 険 物 保 安 監 督 者		21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		①. 有 2. 無	
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有											
23 事 故 の 概 要： 危険物配管の窒素ページ中に、配管開放部からC重油約0.5Lがそのまま海上へ漏えいしたもの											
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無											

25	主 原 因 操作確認不十分	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 窒素パージする配管の途中のバルブが閉のまま窒素元バルブを開放、バルブを開け忘れたことに気づき急いでバルブを開放したため、配管内を約0.5Mpaまで上昇していた窒素が一気に吹き抜け、配管開放部から配管内部に残っていた少量のC重油が飛散したものの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	人	本人の意識	思慮	思い込み						
	関連原因の詳細									
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害		28 物的被害								
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 海上の栈橋まで敷設している重油配管の敷地境界線から海上側約1mの箇所から海上に重油が落下(漏えい)し、落下地点から半径5mの範囲内で拡散した。 施設等の被害状況： 被害なし。			
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	1 隻	0 機	20 人	物質の被害状況： 重油約0.5Lが漏えいした。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	1 台	0 隻	0 機	4 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動					自衛防災・消防組織等 番号 (6) 油回収作業					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無				
そ の 他	年	月	日	年	月	日	内容：			
35	今後の対策 や所見 今回の原因はヒューマンエラーであるが、決められた作業要領を実施していなかったことで被害が拡大しているため、職員への再教育・周知が必要である。									

1 事故名	一般取扱所の硝酸配管を補修中に脱圧操作をしたところ、配管の一部より濃硝酸が漏えいし作業員が被液				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 1日 10時 30分	推定・確定	4 発 見	6月 1日 10時 30分	
5 覚 知	6月 1日 11時 25分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 1日 10時 30分	
7 鎮火・処理完了	6月 1日 10時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南 風速：1m/s 気温：23℃ 湿度：48%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <u>第2種</u> 、その他) 業 態：製造業 鉄鋼業 製鋼・製鋼圧 番 号 (2321) 延業 製鋼・製鋼圧延業(転 炉、電気炉を含む)		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：周南地区	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称：洗浄装置	番 号 (6105)	能 力：ステンレス鋼の酸洗 約700t/日	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第6類硝酸 濃硝酸 1,200kg 4倍	倍数の合計： 4倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力：0.1Mpa	名 称：配管(送油、注入管等)	番 号 (606)	規 模：50A	設置の完成：昭和 55年 3月 11日 直近の完成：平成 23年 12月 22日
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等	番 号 (299)	材 質：合成樹脂	17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類：第6類硝酸 名称：濃硝酸(1L)
15 発 生 時	運 転 状 況：停止中	番 号 (5)	作 業 状 況：不定期修理中	番 号 (3)	18 取扱者の概要
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 硝酸投入配管の補修時に配管内の残液を抜くためバルブを開けたところ、配管の一部から濃硝酸が約20mL程度噴出し、当該作業員が被液したものの。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () <u>無</u>					

原因	25 主 原 因 設計不良		着火原因		番号 ()									
	関連原因													
	発生原因の状況： 配管は耐熱性硬質塩化ビニル(PCV-C)製であり、濃硝酸に対し耐薬品性が劣る材質であったことに加え、施設停止期間が長期に及んだため滞留した残液により劣化が進行し、亀裂が生じていた。その状態で液抜きを実施したため、配管破損部より濃硝酸が噴出し被液したもの。													
	主原因の詳細													
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層									
	設計不良		材料		使用材料の耐薬品性不足									
	関連原因の詳細													
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27 人的被害				28 物的被害										
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 配管の一部から濃硝酸が約20mL流出したが、漏えいは施設内で留まったもの						
区分														
当 事 者		0	0	1	0	被液による化学熱傷								
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 硝酸投入配管(1箇所)破損						
第 三 者		0	0	0	0									
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 濃硝酸が約20mL流出				
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人					
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人					
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	7 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (5 万円)				
30 実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()								
負傷者の救急搬送、調査活動														
31 防災活動上の問題点 事故発生から通報まで約1時間を要していること。														
行政措置	32 施設名	一般取扱所(3AP濃硝酸計量槽)				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他					
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年	月	日	令和2年2月18日		
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日	年	月	日
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：						
その他	漏えいの原因究明、再発防止等の指示 令和4年6月8日				年		月		日					
35 今後の対策や所見 ・適切な配管材質の選定(ステンレス製に変更予定) ・類似箇所の点検を強化し、同様の対応を水平展開する。														

1 事故名	一般取扱所における、開閉弁の固定ボルト破断によるコールドール流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 18日 18時 43分	推定・確定	4 発 見	7月 18日 18時 53分	
5 覚 知	7月 18日 19時 13分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 18日 19時 38分	
7 鎮火・処理完了	7月 18日 21時 33分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：東北東 風速：4.9m/s 気温：25.3℃ 湿度：99%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 有機化学 番 号 (1739) 工業製品製造業 その他の有 機化学工業製品製造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) コールドール 300,000L 150倍 倍数の合計： 150倍 設置の完成： 昭和 55年 5月 27日 直近の完成： 令和 2年 6月 25日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【有機化学工業】 番 号 (5999) 能 力： 原料送油量4,800kg/h			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： コールドール(240L)		
13 機 器 等 温度圧力： 290℃、3.6Mpa 名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模： 配管径40A			18 取扱者の概要		
14 発 生 箇 所	名 称： 開閉弁 番 号 (204) 材 質： ステンレス	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要				
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 事務所棟モニター室の監視モニターに圧力異状の警報と表示が出たためA系リアクターを確認すると、オイル加熱器で290℃まで温めたコールドール(第4類第3石油類)が流れる配管の開閉弁フランジ用ボルト4本が破断したため漏油が発生し、敷地内に高温のコールドール約240Lが流出していた。送油用ポンプを停止後、リアクター緊急自動停止後の必要操作を実施するとともに、吸着マット等で一般取扱所外への流出防止を図ったもの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 送油配管の開閉弁フランジ用ボルト4本が、引張り応力が発生する環境と腐食環境の相互作用により応力腐食割れが発生したことで破断し、フランジ部から漏油したものの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
疲労・劣化		環境		想定内の応力下で疲労(応力腐食割れ)						
関連原因の詳細										
設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 流出は施設内に収まっている。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 送油配管の開閉弁フランジ用ボルト4本破断。			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性) コールタール約240L流出。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5, 99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
調査活動										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和 3 年 12 月 9 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無			
その他	年 月 日	年 月 日		内容：						
35 今後の対策 や所見 今回破断したボルトは、取り付け後6年1ヶ月を経過し応力腐食割れが原因で破断している。よって当該ライン上の同等の圧力がかかる部分に対して、ボルト及びバルブの交換を3年に短縮するとともに、年1回の定期補修時にボルトの非破壊検査(浸透探傷試験)を抜き取りにて実施する。また、保温材の被覆方法を変更し、雨水等の侵入を防ぎ腐食を防止する。さらに、長期的な計画でボルトをより腐食に強い物品に変更予定。 通報要領についても予防規程ののっとり、早期に通報を実施するための教育訓練を徹底する。 当該事業所に事故発生後の連絡体制の見直し及び教育訓練の徹底、破断原因及び対策の共有を図るよう指導したが、管内の他事業所においても予防規程の再徹底を指導する等、同種事故防止に努めるばかりでなく、早期発見早期通報による被害の拡大を防ぐ必要がある。										

1 事故名	一般取扱所重油ポンプのシール材劣化に伴う重油漏えい事故					
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生	8月 3日 6時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	8月 3日 6時 00分		
5 覚 知	8月 3日 6時 48分			6 鎮 圧 応急処置完了	8月 3日 6時 03分	
7 鎮火・処理完了	8月 3日 8時 40分					
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況	天気：晴		風向：東		風速：2.1m/s 気温：27℃ 湿度：98%	
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <input checked="" type="checkbox"/> 第2種、その他) 業 態：製造業 窯業・土石製品製造業 番 号 (2259) 耐火物製造業 その他の耐火物製造業			11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 宇部・小野田地区	
				16 発生施設規制区分等		
12 施 設 装 置	名 称：その他【無機化学工業】 番 号 (7199) 能 力：生産能力:42t/日			設置の完成：平成 元年 9月 7日 直近の完成：令和 4年 2月 18日		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：ポンプ 番 号 (501) 規 模：吐出量:21.6L/min					
14 発 生 箇 所	名 称：管継手(ダクトを含む) 番 号 (201) 材 質：ゴム			17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(520L)	
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)			18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無						
23 事 故 の 概 要： 燃焼炉送液ラインのオイルシールが経年劣化により破損し内部流体の重油が520L漏えいした。重油流出は事業所敷地内で治まった。						
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止						

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因 維持管理不十分		発生原因の状況： 燃焼炉送液ラインのオイルシールが経年劣化により破損し内部流体の重油520Lが漏えいした。重油流出は事業所敷地内で治まった。							
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		整備内容が不適切			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 危険物ポンプから重油が漏えいし施設外へ流出した。敷地外への流出はない。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 危険物ポンプのオイルシールが破損した。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	9 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油520L流出した。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動					自衛防災・消防組織等 番号 () 排水溝からの重油流出防止として排水溝に土のうを設置					
31 防災活動上の問題点 発見から通報まで30分以上経過している。										
32 施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和4年 6月 7日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：		
35 今後の対策 や所見	対策について、ポンプ囲い内に漏えい検知装置を設置される。また、オイルシールの交換をメーカー推奨に則り実施する。所見として、事故発生から消防機関への通報に30分以上時間が経過しているため、事故発見時には直ちに通報できる連絡体制を確立させるとともに、他事業所においても同様の周知をすることで類似案件の抑制に努める。									

1 事故名	一般取扱所において微粉炭機減速機からの潤滑油流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 26日 15時 40分	推定・ 確定	4 発 見	9月 26日 15時 40分	
5 覚 知	9月 26日 15時 58分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 26日 16時 55分	
7 鎮火・処理完了	9月 26日 16時 55分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：風向不明 風速： 気温： 湿度：				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： その他【電力事業】 番 号 (4999) 能 力： 1号B微粉炭機減速機		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 3,286,490L 1,643.25倍 第4類第4石油類 潤滑油 86,883L 14.48倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 43℃、0.25Mpa 名 称： 粉砕機(ミル、ベルベライザー、アトマイザー) 番 号 (509) 規 模： 縦1.83m、横3.04m、高さ1.397m		倍数の合計： 1,657.73倍		
14 発 生 箇 所	名 称： 管継手(ダクトを含む) 番 号 (201) 材 質： 鋼鉄		設置の完成： 昭和 58年 6月 10日 直近の完成： 令和 4年 5月 2日		
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第4石油類 名称： 潤滑油(1L)	
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 正常運転における構内パトロールにより、当該機器の床面及び潤滑油配管に漏えいを発見した。直ちに所内関係部署に連絡をとり、拡大防止のため漏えい箇所の養生を実施する。その後、操業の継続のため代替機の起動操作を開始し、消防署へ通報を行う。消防署の到着後、現場確認を行い当該機器の油ポンプの停止を行った。					
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 消耗品となる微粉炭機ローラーの摩耗により、微粉炭機本体に振動が発生し、その振動が当該配管に伝わり、疲労破壊した。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の摩耗（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の摩耗）						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 1号B微粉炭機減速機周囲縦1m、横1m、厚さ1mm及び潤滑油供給配管に漏えい。 施設等の被害状況： 被害なし			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0						
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 潤滑油1L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 調査活動を実施					自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日	定期・自主点検	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				年 月 日	気密試験等	年 月 日			
	停止解除	年 月 日				年 月 日	保安検査	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：			
その他	年 月 日				年 月 日						
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭										
35 今後の対策 や所見	危険物配管に対する点検回数を見直す必要があり、危険物対象機器の外部要因に対する検証及び対策が必要である。										

1 事故名	一般取扱所において、バルブコックの誤操作により、ポリオール及び真空オイルの混合液が流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	10月 21日 16時 13分 推定・ 確定	4 発 見	10月 21日 16時 14分
5 覚 知	10月 21日 16時 52分	6 鎮 圧 応急処置完了	10月 21日 17時 51分
7 鎮火・処理完了	10月 21日 18時 03分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南西 風速：3.4m/s 気温：22℃ 湿度：60%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 化学繊維 番 号 (1742) 製造業 合成繊維製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) グリセリン 他 13,510L 6.76倍 第4類第3石油類(水溶性液体) 流動パラフィン 49,492L 12.37倍 第4類第4石油類 シェルボームオイルB 他 4,923L 0.82倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 19.95倍		
名 称： その他の合成樹脂製造装置 番 号 (5959)	設置の完成： 昭和 57年 5月 31日		
能 力： 22万km/日(糸の生産)	直近の完成： 令和 4年 9月 1日		
13 機 器 等 温度圧力：	17 物 質 の 区 分		
名 称： その他 番 号 (999)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
規 模： 寸法:3.66m ³ 、容量:SUS製30Lタンク4基付帯、吐出能力:最大21.89g/s、最小6.57g/s	5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
14 発 生 箇 所	(固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧)		
名 称： その他 番 号 (999)	(低温、 常温 [0-40℃]、高温)		
材 質： 鋼鉄	分 類： 第4類第4石油類 名称： ポリオール及び真空オイルの混合液(3.3L)		
15 発 生 時	18 取扱者の概要 経験年数0年		
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有		
23 事 故 の 概 要： 一般取扱所において、バルブコックの誤操作により、真空ポンプにポリオールが流入し、真空ポンプのオイルミストトラップからポリオール及び真空オイルの混合液が床面に流出したものである。			
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

原 因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 危険物取扱者立会いの下、危険物の取り扱い作業に従事中であったが、当該取扱作業に習熟しておらず、誤ったコックを開放し、当該系統が真空ポンプによる排気中であったため、ポリオールが真空ポンプに流入し床面に流出したものである。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の知識・能力		技能・技術力		経験不足/習熟不足			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出は施設内に留まり、施設外への影響なし。		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 施設の被害なし。		
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	63 人	物質の被害状況： ポリオール及び真空オイルの混合液が約3.3L流出。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 警戒、調査						自衛防災・消防組織等 番号 (5)				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	一般取扱所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	令和4年6月8日	令和4年10月21日		
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日				保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	再発防止策を含む事故報告書、改善計画書の提出を指導 令和4年10月24日				内容：					
35 今後の対策 や所見		ソフト面の対策として、装置の詳細教育の実施、作業者評価基準の見直しを行うとともに、複数のバルブが存在するため、バルブに操作上の通し番号を明記し、操作は責任者立会いの下チェックリストを用いて、ダブルチェックをしながら実施することとした。また、ハード面の対策として、逆止弁の設置及び配管改造を行うこととした。								

1 事故名	一般取扱所において、工事開始前に作業員(協力会社)が独断で配管接手を緩めたことによりNMPが流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	12月 1日 8時 05分 推定・ 確定	4 発 見	12月 1日 8時 05分
5 覚 知	12月 1日 8時 34分	6 鎮 圧 応急処置完了	12月 1日 9時 17分
7 鎮火・処理完了	12月 1日 9時 47分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：西北西 風速：2.9m/s 気温：6℃ 湿度：72%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 化学繊維 番号 (1742) 製造業 合成繊維製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 流動パラフィン 12,862L 6.43倍 第4類第3石油類(水溶性液体) N-メチル-2-ピロリドン 49,141L 12.29倍 第4類第4石油類 シェルボ-ミヤオイルB 4,923L 0.82倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 19.54倍		
名 称： その他の合成樹脂製造装置 番号 (5959)	設置の完成： 昭和 57年 5月 31日		
能 力： 22万km/日(糸の生産)	直近の完成： 令和 4年 10月 27日		
13 機 器 等	17 物 質 の 区 分		
名 称： 配管(送油、注入管等) 番号 (606)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
規 模： 配管径:外径21.7mm、厚さ2.8mm、材質:SUS304	5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
14 発 生 箇 所	(固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧)		
名 称： 管継手(ダクトを含む) 番号 (201)	(低温、常温 [0-40℃]、 高温)		
材 質： 鋼鉄	分 類： 第4類第3石油類(水溶性液体) 名称： N-メチル-2-ピロリドン(20L)		
15 発 生 時	18 取扱者の概要		
運 転 状 況： 停止中 番号 (5)	①. 選任有 2. 選任無		
作 業 状 況： 洗浄中 番号 (11)	21 危険物取扱者の の取扱・立会い		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有			
23 事 故 の 概 要： 一般取扱所において、作業員(協力会社)の独断で工事開始前に配管の詰まりを点検しようと接手を緩めた際、N-メチル-2-ピロリドンが約20L流出したものである。また、作業員は漏えいを停止させるため接手を締め直そうとした際、洗浄のため140℃に昇温されたN-メチル-2-ピロリドンが両手に被液し、火傷を負ったものである。			
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他			

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 前日の作業打ち合わせ及び当日の作業前ミーティングを実施していたにもかかわらず、工事開始までに時間があつたため、作業者(協力会社)は、施設担当課や設備改善グループへの連絡を行わず独断で作業を行ったため漏えい、負傷に至つたものである。										
	主要原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		違反(故意)		問題意識の不足				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出は施設内に留まり、施設外への影響なし。			
区分											
当 事 者		0	0	0	1						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 施設の被害なし。			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	12 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	90 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(水溶性)N-メチル-2ピロリドン約20L流出。	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 [1万円未満]、1万円以上 () 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
警戒、調査											
31 防災活動上の問題点											
32 施設名 一般取扱所											
政 策 措 置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	令和4年 6月 8日	令和4年 12月 1日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	関係条項							保安検査	年 月 日	年 月 日	
その他	再発防止策を含む事故報告書、改善計画書の提出を指導 令和4年 12月 2日			年 月 日			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・[無] 内容：		
①. 文書 ②. 口頭	1. 文書 2. 口頭										
35 今後の対策や所見 当施設の装置停止中は、課員以外立ち入り禁止とし、当該課内の作業手順書に追加し教育することとした。また、課員以外が立入禁止区域内に入る際は、当該課員に事前連絡、確認を行うことを設備改善グループの作業手順書に追加し教育を実施することとした。											

1 事故名	一般取扱所において移動タンク貯蔵所への注入作業中、監視を怠ったことによる重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 10日 16時 30分	推定・確定	4 発 見	6月 10日 16時 40分	
5 覚 知	6月 10日 16時 48分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 10日 21時 30分	
7 鎮火・処理完了	6月 13日 11時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南南西 風速：4.8m/s 気温：28℃ 湿度：58%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 30,000L 15倍 倍数の合計： 15倍 設置の完成： 昭和 41年 9月 16日 直近の完成： 令和 3年 3月 1日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： ローリー充てん施設 番号 (1402) 能 力： 125L/min			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油 (1,200L)		
13 機 器 等 温度圧力： 0.2Mpa 名 称： ポンプ 番号 (501) 規 模： 幅800mm、高さ450mm、奥行450mm、揚程20m			18 取扱者の概要 経験年数5年		
14 発 生 箇 所	名 称： タンクの注入口 番号 (905) 材 質： アルミニウム	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無	
15 発 生 時	運 転 状 況： 払出中 番号 (10) 作 業 状 況： 充填中 番号 (12)	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 一般取扱所において、移動タンク貯蔵所に重油を注油中、監視を怠ったため注入口よりオーバーフローしたことにより、排水溝に流れ込み用悪水路に流出した。 応急処置としてオイルフェンスを設置し、その後依頼した処理業者によりバキューム、洗浄処理を実施し流出した重油を回収した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因 監視不十分										
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所に重油を注入中、監視行為を怠ったため、注入口よりオーバーフローし、流出させたもの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		過信				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した重油が側溝から用悪水路に流れ込み、約60m程度にわたり拡散した。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 一般取扱所施設内及び給油取扱所施設内へ重油が漏えいした。			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油1, 200L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	10 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (12 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (4, 6) 吸着マットを使用し拡散防止措置を実施 用悪水路へのオイルフェンスの設置						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和 4 年 6 月 2 日	年 月 日				
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	令和 元 年 8 月 16 日	年 月 日				
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保 安 検 査	年 月 日	年 月 日				
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
そ の 他	年 月 日	年 月 日									
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭										
35 今後の対策 や所見	今後の対策 ・従業員への安全教育の実施 ・取扱い中の監視の徹底 所見 ・類似事故の再発防止のため、同種事業所への指導に努める必要がある。										

1 事故名	一般取扱所のごみ焼却施設で、ディーゼル発電機の油こし器からA重油400Lが機械室内に流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	9月 26日 18時 20分		
5 覚 知	9月 26日 19時 20分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 26日 23時 53分	
7 鎮火・処理完了	9月 26日 23時 53分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：北西 風速：0.8m/s 気温：23.9℃ 湿度：91%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： サービス業(他に分類されない番号(8516)もの) 廃棄物処理業 一般廃棄物処理業 ごみ処分業	区 分： ①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 11,712L 5.86倍				
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分				
名 称： 発電装置 番 号 (4101)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
能 力： 燃料消費量488L/h	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： A重油(400L)				
13 機 器 等 温度圧力：	18 取扱者の概要				
名 称： ろ過機 番 号 (912)	1. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有				
規 模： 直径約100mm、高さ約250mmの円筒	③. 不要				
14 発 生 箇 所	設置の完成：平成14年 3月 13日 直近の完成：平成16年 12月 21日				
名 称： パッキング 番 号 (213)	倍数の合計： 5.86倍				
材 質： その他	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要				
15 発 生 時	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)	23 事故の概要： 一般取扱所のごみ焼却施設内のディーゼル発電機室内をパトロールした際、油こし器取付部よりA重油約400Lの漏えいを確認したものの。消防隊現場到着には、事務所職員によりポンプ及び吸着マットにて回収作業実施中であつた。機械室外の漏れはなし。				
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他				

原 因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 漏えい側油こし器のOリングの一部に片あたりが確認されたことから、前回取替えの令和3年12月からの運転使用に伴い、当該部分のシール効果が減少し、今回漏えいに至ったものと推察される。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	施工不良		施工		取り付け不良					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 一般取扱所である機械室内に重油400Lが流出したが、流出範囲は機械室内に留まったもの。		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 漏えい側油こし器のOリングの一部に片あたりが確認されたもの。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	10 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)A重油400L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5) 事業所職員と協力し、A重油の回収作業を行った。					自衛防災・消防組織等 番号 (5) 消防機関と協力し、A重油の回収作業を行った。					
31 防災活動上の問題点 覚知から1時間後に通報を行っている。										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	令和4年9月20日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：				
その他	年 月 日	年 月 日								
35 今後の対策や所見 本事故については、機器の施工不良により発生した事故となるが、同様の事故が発生しないよう、設備及び機器の維持管理を徹底し、再発防止に努めていただきたい。また、消防機関への通報については、覚知から1時間経過して行っているため、管理体制の見直しを行い、自主保安体制の構築に努めていただきたい。										

1 事故名	一般取扱所からミニローリーに注油中、監視不十分による重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 8日 11時 25分	推定・確定	4 発 見	6月 8日 11時 25分	
5 覚 知	6月 8日 11時 55分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 8日 13時 00分	
7 鎮火・処理完了	6月 8日 13時 45分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：快晴		風向：		風速：
			気温：		湿度：
10 発 生 事 業 所			11 発 生 場 所		
種 別：	1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他)		区 分：	①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)	
業 態：	卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		特別防災地区名：		
			16 発生施設規制区分等		
			施設区分：	① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他	
			貯蔵・取扱・運搬の別：	取扱所 施設別：一般取扱所	
			類・品名・名称・数量・倍数：	第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 14,000L 7倍	
12 施 設 装 置					
名 称：	ローリー充てん施設 番号 (1402)				
能 力：	14,000KL/日				
13 機 器 等	温度圧力：				
名 称：	充てん機 番号 (901)				
規 模：	14,000KL/日			倍数の合計： 7倍	
14 発 生 箇 所			設置の完成：	昭和 59年 12月 6日	
名 称：	タンクの注入口 番号 (905)		直近の完成：	平成 11年 7月 1日	
材 質：	ステンレス		17 物 質 の 区 分		
15 発 生 時			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
運 転 状 況：	給油中 番号 (8)		5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
作 業 状 況：	充填中 番号 (12)		(固相、液相、気相) (常圧、加圧)		
			(低温、常温 [0-40℃]、高温)		
			分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油 (200L)		
			18 取扱者の概要	経験年数22年	
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要：	オンラインファイル無				
23 事故の概要：	一般取扱所からミニローリーのタンク内に重油を注油中、行為者がその場から離れたため、タンクからオーバーフローし、約200Lの重油が流出したもの。また、保有空地内で処理できなかった重油が側溝や歩道まで流出した。本件事故において海上への流出はなく、死傷者も出ていない。				
24 緊急処置の状況	有 番号 () 無				

原 因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 一般取扱所からミニローリーに注油中、その場から離れ、別の作業をしていた。約5分後に戻ってみると、タンクからオーバーフローし、重油が流出していた。										
	主要原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		不注意				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 行為者がミニローリーの荷台に溜まった重油を排油するため、車両を保有空地外に出したことにより、事業所の敷地境界線から約20mまで歩道や側溝まで流出した。海への流出はなし。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 流出した重油は油吸着マットを約100枚使用し、除去済。			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	9 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油約200L流出。	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	5 台	0 隻	0 機	13 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (4, 5) 当消防本部で保有している油吸着マットを約50枚使用し、歩道や側溝内に流出した重油の回収、除去を行った。また、事業所の行為者に調査等を実施。						自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5) 自衛防災活動として、事業所で保有している油吸着マット約50枚を使用し、歩道や荷台に溜まった重油の回収、除去を行っていた。					
31 防災活動上の問題点 携帯電話にて消防に通報している。警察及び保健所へ情報提供。油吸着マット約100枚にて重油をすべて処理済。											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日				保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： ・法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反				
その他	年 月 日										
35 今後の対策や所見 今回、行為者の監視不十分により発生した流出事故であったので事業所における安全教育の再度徹底を行うように指導した。											

1 事故名		槽付塗装装置内ボルト破断後の異常運転継続による漏えい事故						
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生		8月 11日 1時 00分	推定・確定	4 発 見	8月 11日 2時 00分			
5 覚 知		8月 11日 9時 00分			6 鎮 圧	8月 11日 2時 20分		
7 鎮火・処理完了		8月 11日 11時 00分			6 応急処置完了			
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況		天気：曇		風向：東南東		風速：0.9m/s 気温：28℃ 湿度：94.8%		
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所						
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他)		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)						
業 態： 製造業 ゴム製品製造業 ゴム番号 (2033) ムベルト・ゴムホース・工業用 ゴム製品製造業 工業用ゴム 製品製造業		特別防災地区名：						
		16 発生施設規制区分等						
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他						
		貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所						
		類・品名・名称・数量・倍数：						
		第4類第1石油類(非水溶性液体) マロック 1,149L 5.75倍						
		第4類第1石油類(非水溶性液体) MIBK 244L 1.22倍						
		第4類第2石油類(非水溶性液体) ケムロック 1,167L 1.17倍						
		第4類第2石油類(非水溶性液体) キレン 3,838L 3.84倍						
		第4類第4石油類 作動油 488L 0.08倍						
12 施 設 装 置		倍数の合計： 12.06倍						
名 称： その他のタンク 番号 (1299)		設置の完成： 平成 3年 5月 21日						
能 力： 槽付塗装装置 容量230L		直近の完成： 令和 4年 7月 22日						
13 機 器 等		17 物 質 の 区 分						
温度圧力：		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス						
名 称： 貯槽(タンク) 番号 (107)		5. 毒物 6. 劇物 7. その他						
規 模： 縦1,300mm、横350mm、高さ680mm		(固相、液相、気相) (常圧、加圧)						
		(低温、常温 [0-40℃]、高温)						
		分類： 第4類第1石油類(非水溶 名称： マロックとMIBKの混合物 性液体) (28.7L)						
14 発 生 箇 所		18 取扱者の概要						
名 称： タンク底板 番号 (102)		①. 選任有 2. 選任無						
材 質： 鋼鉄		21 危険物取扱者の の取扱・立会い						
15 発 生 時		①. 有						
運 転 状 況： 定常運転中 番号 (1)		2. 無						
作 業 状 況： 監視中 番号 (10)								
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者				
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無								
23 事故の概要： 槽内にて溶剤を揺動作業中にモーターから揺動装置に動力を伝えるチェーンの張り具合を調節するテンショナーを固定しているボルト4本のうち1本が破断してテンショナーが固定不十分な状態となってチェーンが緩み、チェーンが槽の底部に接触しながら回転したため、槽底部に穴が開いて危険物が流出したもの。								
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1,9) 無 装置の緊急停止、緊急排出、緊急移送								

原因	25 主 原 因 設計不良		着火原因		番号 ()				
	関 連 原 因 腐食疲労等劣化								
	発生原因の状況： テンショナーを固定しているボルトの1本が破断してテンショナーが固定不十分な状態となってチェーンが緩み、チェーンが槽の底部に接触しながら回転したため、槽底部に穴が開いた。なお、ボルト破断の主原因は、ボルトの径が細く強度不足であったと考えられるが、長期使用による振動も原因のひとつと考えられる。								
	主原因の詳細								
第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
設計不良		材料		使用材料の強度不足					
因	関連原因の詳細								
	疲労・劣化		環境		常に振動する環境下で疲労（想定内の振動であるが、材料が継続した疲労により損傷等）				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害				28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名		
区分									
当 事 者		0	0	0	0				
防災活動従事者		0	0	0	0				
第 三 者		0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	1 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
物質の被害状況： メタロックとMIBKの混合物が28.7L漏えいしたもの。									
損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (37 万円)									
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99) 連絡を受けて調査目的で出動しました。現場確認後、槽内の残油を抜き取ったうえで、槽の取り外し及び床面に流出して固着した危険物の除去を指導した。また、同型機種点検を指導した。				自衛防災・消防組織等 番号 (5) 危険物の漏えい事故発見直後、工場内で作業していた従業員4名が駆けつけて、危険物の抜き取りや拭き取りなどの応急処置を行ったもの。					
31 防災活動上の問題点 事故発見から7時間後に消防機関へ通報があっており、迅速な通報ができていない。									
行政措置	32 施設名	一般取扱所		33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和3年8月15日	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無			
その他	漏えいした装置の停止及び漏えい危険物の除去 令和4年8月11日		1. 文書 ②. 口頭		内容： 危険物を取り扱う槽に穴が開いたため、改善するまでその槽の使用停止を口頭で指導しました。				
35 今後の対策や所見 自主点検項目にテンショナーの固定状況の確認の追加及び揺動装置モーター駆動部の位置を変更し、構造上チェーンが槽に接触しない構造に随時変更していく予定です。									

1 事故名		第6棧橋着棧船舶上でのC重油漏えいについて					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		3月 17日 7時 50分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定			4 発 見		3月 17日 7時 50分
5 覚 知		3月 17日 8時 29分			6 鎮 圧 応急処置完了		3月 17日 7時 50分
7 鎮火・処理完了		3月 17日 9時 53分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：無風状態 風速：0m/s 気温：13.6℃ 湿度：74%					
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				区 分：①. 事業所内 (製、貯、 <input checked="" type="checkbox"/> 荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：大分地区石油コンビナート等特別防災区域			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 14,400,000L 7,200倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 14,400,000L 14,400倍			
12 施 設 装 置							
名 称：海上入出荷施設 番 号 (1401)							
能 力：第4類第2石油類14,400KL/D							
13 機 器 等				温度圧力：53℃			
名 称：その他の移送機器 番 号 (699)							
規 模：船舶総トン数199t				倍数の合計： 21,600倍			
14 発 生 箇 所				設置の完成：昭和44年 8月 29日 直近の完成：平成19年 12月 14日			
名 称：マンホール 番 号 (305)				17 物 質 の 区 分			
材 質：鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(60L)			
15 発 生 時				18 取扱者の概要 経験年数10年			
運 転 状 況：受入中 番 号 (9)							
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)							
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： ローディングアームにてC重油を船に積込みをしていたが、船上作業員が油面監視を怠っていた為、規定液面レベル以上になり、慌ててタンク流入バルブを閉めたが間に合わず、マンホールからC重油60Lが漏えいしたものの。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

原 因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 船上作業員(船員)が油面監視を怠ったり、バルブ操作が遅れた為、マンホール(ハッチ)からの漏えいに至った。										
	主要原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		不注意				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 縦1m×横20m×厚さ3mmの範囲にC重油が漏油した。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 特になし。			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	10 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)C重油 約60Lが漏えい	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	1 台	0 隻	0 機	4 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 [1万円未満]、1万円以上 () 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 漏油した範囲のC重油を拭き取ることにより回収した。					
31 防災活動上の問題点 速やかに通報すること。船上での漏油であることから海上保安庁への通報を速やかに行うこと。											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和3年4月23日	年 月 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・[無] 内容：				
その他	年	月	日	年	月	日					
35 今後の対策 や所見	当該事故発生船舶に関しては、船員への再教育を行い、油面監視の重要性を理解し、1つのハッチに対して1人の監視や荷役中の声掛けの徹底など、事故を再発させない体制が構築されるまで入港を禁じる。関係船舶に対しても本事故の共有を行い、教育の再徹底を本社を通じて依頼する。十分な監視体制が維持できるよう、継続的に注意喚起を行い、水平展開を図ること。										

1 事故名		アフレスス工場溶剤準備室内溶剤ドラム缶接続配管からの漏えい	
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()	
3 発 生	4月 2日 10時 30分	推定・確定	4 発 見
5 覚 知	4月 2日 10時 59分		6 鎮 圧
7 鎮火・処理完了	4月 2日 11時 54分		応急処置完了
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()	
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：北北西 風速：3.1m/s 気温：10.4℃ 湿度：50.5%	
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所	
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 繊維工業(衣服, その番号 (1196) の繊維製品を除く) その他 の繊維工業 繊維製衛生材料 製造業		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置		16 発生施設規制区分等	
名 称： その他【分類なし】 番号 (9999)		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所	
能 力：		類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) クロロメチルオキシラン 400L 0.4倍 第4類第3石油類(水溶性液体) ジメチルスルホキシド 400L 0.1倍 第4類第2石油類(水溶性液体) 活性化廃液 250L 0.13倍 第4類アルコール類 メタノール 400L 1倍 第4類アルコール類 エタノール 455L 1.14倍	
13 機 器 等		温度圧力： 0.1Mpa	
名 称： 配管(送油、注入管等) 番号 (606)		倍数の合計： 2.77倍	
規 模： 10A		設置の完成： 平成 22年 2月 15日 直近の完成： 年 月 日	
14 発 生 箇 所		17 物 質 の 区 分	
名 称： フレキシブル管継手(ダクトを含む) 番号 (202)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス	
材 質： ステンレス		5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温)	
15 発 生 時		分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： クロロメチルオキシラン(20L) 第4類第3石油類(水溶性液体) ジメチルスルホキシド (1L)	
運 転 状 況： 停止中 番号 (5)		18 取扱者の概要	
作 業 状 況： その他 番号 (99)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	21 危険物取扱者の取扱・立会い
22 設備・機器等の概要：		①. 有 2. 無	
オンラインファイル無			
23 事故の概要：			
ECHドラム缶カプラ部から約20LのECHが漏えい。溶剤準備室内の溜枘へ流出したが室外への漏えい無し。翌日、DMSOドラム缶カプラ部から約1LのDMSOが漏えい。溶剤準備室外への漏えいは無し。			
24 緊急処置の状況		有 番号 (10) 無 その他	

25	主 原 因 故障		着火原因				番号 ()								
	関 連 原 因 操作確認不十分														
	発生原因の状況：		各ドラム缶の窒素シール用元圧を制御する減圧弁の故障により設定圧以上となっており更に圧力計を確認することが手順化されていなかった。加えて4月2日の別作業にてシールボットの窒素ラインバルブを閉にした事により、窒素供給元からECHドラム、及びDMSOドラムまでの窒素ライン配管はクローズ系となり、系内の圧が減圧弁の故障の影響で上昇し、耐圧性が低い部分(カプラー及びカプラーネジ部)から漏えい。												
	主原因の詳細														
原	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層								
	故障		機能		機器の機能の停止										
因	関連原因の詳細														
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足								
26 被害の状況		1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害		28 物的被害													
被害内容等		死亡		重症		中等症		軽症		死傷原因		職業又は職名		被災影響範囲及び拡大の状況：	
区分														漏えいは室内溜槽で留まった。漏えい量：ECH(クロロメチルオキシラン)約20L、DMSO(ジメチルスルホキシド)約1L	
当 事 者		0		0		0		0							
防災活動従事者		0		0		0		0						施設等の被害状況：	
第 三 者		0		0		0		0						減圧弁の故障	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況															
消 防 機 関		2 台 0 隻 0 機 7 人		自 衛		0 台 0 隻 0 機 0 人		0 台 0 隻 0 機 0 人		0 台 0 隻 0 機 0 人		物質の被害状況：			
消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人		共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人		0 台 0 隻 0 機 0 人		0 台 0 隻 0 機 0 人		第4類第2石油類(非水溶性)クロロメチルオキシラン 20L流出			
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人		応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人		0 台 0 隻 0 機 0 人		0 台 0 隻 0 機 0 人		第4類第3石油類(水溶性) ジメチルスルホキシド 1L流出			
その他の機関		0 台 0 隻 0 機 0 人		そ の 他		0 台 0 隻 0 機 0 人		0 台 0 隻 0 機 0 人		0 台 0 隻 0 機 0 人		損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)			
30 実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 ()											
調査活動															
31 防災活動上の問題点		漏れが発生した当初はカプラーの劣化と思い込み原因(窒素圧以上)特定が遅れた。													
32	施 設 名						33 定期点検等		消 防 法		そ の 他				
	使用停止		年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日		令和4年4月2日				
	改善命令等		年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日				
	停止解除		年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日				
政 措 置	関係条項						34 当該施設に係る		有・ <input type="text" value="無"/>		内 容：				
	そ の 他		年 月 日		年 月 日		法令違反の有無								
35		今後の対策や所見													
		対策:減圧弁後の圧力計の確認を毎日実施する。配管接続部0リングの定期交換(年1回)を実施する。シールボットの給水バルブA,Bを止める場合、窒素バルブC,Dは開とする手順に変更し、教育する。 所見:操作手順及び点検項目の見直しを行い、危険物取扱作業時には危険物取扱者が立ち会う事を従業員に周知し、事故防止に努める事を指導													

1 事故名	一般取扱所において、灯油をポリ容器に詰め替え中、ノズル口が容器から外れ施設外に流出した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 16日 18時 00分	推定・確定	4 発 見	12月 16日 18時 00分	
5 覚 知	12月 19日 12時 45分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 16日 18時 40分	
7 鎮火・処理完了	12月 16日 18時 40分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北北東 風速：1m/s 気温：11.1℃ 湿度：62%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)	
			特別防災地区名：	16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 29,800L 29.8倍
12 施 設 装 置	名 称： ドラム充てん施設 番 号 (1403)		設置の完成： 平成 12年 8月 30日 直近の完成： 令和 4年 7月 12日		
	能 力：				
13 機 器 等	温 度 圧 力：		17 物 質 の 区 分		
	名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)				
	規 模： 外形:650mm×520mm×1,640mmH 質量:150kg		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油(0.5L)		
14 発 生 箇 所	名 称： 給油(注油)ノズル 番 号 (909)				
	材 質： ステンレス		18 取扱者の概要 経験年数0年		
15 発 生 時	運 転 状 況： 払出中 番 号 (10)				
	作 業 状 況： 小分け・詰替中 番 号 (13)		21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ②. 無		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 灯油を販売するため、ポリ容器に詰め替え中、ノズル口が容器から外れ灯油が噴き出して施設外に流出したもの。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： ノズルを開放した状態で容器の口に挿しスタンションによる固定を行っていた。その状態で計量器を動かし、払い出した圧力でノズルが外れたもの。										
	主要原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の知識・能力		技能・技術力		経験不足/習熟不足				
	管理		監督		監視		監視がない				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： なし。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし。			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)の灯油が約0.5L流出。	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 () 活動なし。						自衛防災・消防組織等 番号 () 活動なし。					
31 防災活動上の問題点 発見時に通報。消防隊は不要と判断したため、公設消防隊の出場はなし。後日、予防課へ事業所から連絡。流出後にオイル吸着マットで処置。											
行政措置	32 施設名	一般取扱所詰替え				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和4年12月5日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		令和2年7月20日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項	法第13条				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無			
その他	査察結果通知書を交付 令和3年12月27日		年 月 日				内容： 作業している者は危険物取扱者の免状を取得しておらず、また危険物取扱者の立会もなかった。				
35 今後の対策 や所見	立入検査を実施し、違反について指摘、改善の指示を行い、査察結果通知書を後日送付した。その後、危険物取扱者の取扱者を増員の旨についての改善計画書が提出された。										

1 事故名	タンカー排出ガス処理設備の燃料ポンプ吐出側圧力計用導圧配管から燃料油が約50L流出した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	9月 21日 10時 16分		
5 覚 知	9月 21日 10時 50分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 21日 10時 16分	
7 鎮火・処理完了	9月 21日 14時 45分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東 風速：3.1m/s 気温： 湿度：65.4%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： ①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<u>レイアウト</u>)、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属 材料卸売業 石油卸売業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、 <u>荷</u> 、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：喜入				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 86,400,000L 43,200倍				
12 施 設 装 置	設置の完成：平成18年 9月 1日 直近の完成：平成30年 8月 3日				
名 称：その他【分類なし】 番 号 (9999)	17 物 質 の 区 分				
能 力：タンカー排出ガス処理設備	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：A重油(50L)				
13 機 器 等	18 取扱者の概要				
温度圧力：3Mpa	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
名 称：計測装置 番 号 (703)	20 危険物 保安監督者				
規 模：8,640KL	21 危険物取扱者 の取扱・立会い				
14 発 生 箇 所	①. 有 2. 無				
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有				
材 質：ステンレス	23 事 故 の 概 要： タンカー排出ガス処理設備にあるグランドフレアA号機の燃料ポンプ吐出側圧力計用導圧配管から燃料油(A重油)が約50L流出したものの。				
15 発 生 時	24 緊急処置の状況 有 番号 () <u>無</u>				
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)					
作 業 状 況： 番 号 ()					

原	25 主 原 因 破損		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： ポンプ運転の振動によって圧力計導圧配管の接続部に金属疲労が生じ、損傷に至ったと推定される。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
疲労・劣化		環境		常に振動する環境下で疲労（想定内の振動であるが、材料が継続した疲労により損傷等）						
因	関連原因の詳細									
26 被害の状況 ①. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出したA重油の大部分は油受け内に収まっており油分離槽で回収。噴出した少量のA重油が付近のアスファルト上に流出していた。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 圧力計用導圧配管接続部の破損		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	15 人	物質の被害状況： A重油約50L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
							損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (5 万円)			
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 情報収集及び調査				自衛防災・消防組織等 番号 (5, 3)						
31 防災活動上の問題点 通報は、流出事故等の緊急性がある場合、加入電話ではなく119番通報をするよう指導。										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策 や所見		当該事業所に対し、従業員への教育及び施設の管理を徹底するよう指導したところであるが、今後、再発防止に向けての取り組み状況等を注視し、同種の事故防止に努める。								

1 事故名		一般取扱所(重軽油ポンプ場内)重油漏えい事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		6月 21日 9時 38分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定			4 発 見		6月 21日 9時 38分				
5 覚 知		6月 21日 11時 50分			6 鎮 圧 応急処置完了		6月 21日 9時 40分				
7 鎮火・処理完了		6月 21日 14時 00分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：南南西		風速：4m/s		気温：29℃ 湿度：82%			
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所							
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：							
				16 発生施設規制区分等							
				施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 664,800L 332.4倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 586,800L 586.8倍							
12 施 設 装 置				設置の完成： 昭和 61年 2月 14日 直近の完成： 平成 21年 11月 11日							
名 称： その他【電力事業】 番 号 (4999) 能 力： 重油噴燃ポンプ664.8KL/日											
13 機 器 等				温度圧力：							
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模： 回収タンク容量1,900L				倍数の合計： 919.2倍							
14 発 生 箇 所				17 物 質 の 区 分							
名 称： 塔槽類本体 番 号 (105) 材 質： 鋼鉄				①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(269L)							
15 発 生 時				18 取扱者の概要							
運 転 状 況： 試運転中 番 号 (14) 作 業 状 況： 点検中 番 号 (5)				経験年数2年							
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： 2号重油噴燃ポンプの補修完了後、試運転準備のためポンプへの重油充填操作後、しばらくして重油回収タンクレベル高警報が発信し、現場確認中に重油回収タンク上部より重油の漏れ(約269L)が発生した。すぐに当該ポンプ入口ドレン弁が「開」状態のままであることを気づき、当該弁を「閉」とし、漏れの停止を確認した。直ちにオイルキャッチャー、ウエス、パーツクリーナーを使用しヤード内の重油の除去を開始した。											
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他											

原	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 操作確認不十分、監視不十分									
	発生原因の状況： 操作者Aは、操作後に管理表(弁の開閉リスト)とバルブに取り付けられた操作禁止札の照合を行っていなかった。 担当者Bは操作立合いによるダブルチェックを行うこととなっていたが、操作状況のみを視認し、管理表通り弁開閉操作は実施した ものと思ひ込み、管理表と弁状態実態との整合性を確認していなかったこと									
	主原因の詳細									
因	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		思ひ込み			
関連原因の詳細										
人		本人の意識		違反(故意)		怠慢				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 重軽油ポンプ場ピット内、重油回収タンクを中心に約5m四方に重油が漏えいした。ピット外への流出はなし。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 特になし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類 重油(漏えい量約269L)
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (2 万円)				
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)				
現場確認										
31 防災活動上の問題点 消防機関への通報に時間を要した。										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		令和4年 3月 25日	令和4年 6月 21日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査		年 月 日	年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
そ の 他	年 月 日	年 月 日								
35 今後の対策 や所見		作業員に対する定期的な安全教育の実施、運転操作マニュアルの再周知及び徹底を指導する。 危険物事故についての認識を再確認させ、危険物漏えい等についても、即座に通報することを徹底させる。								

1 事故名		一般取扱所配管から重油の漏えい					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		7月 25日 0時 00分	推定・確定	4 発 見		7月 25日 14時 00分	
5 覚 知		8月 15日 15時 10分		6 鎮 圧		8月 15日 16時 00分	
7 鎮火・処理完了		8月 15日 16時 10分		6 応急処置完了			
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：北北西		風速：4m/s 気温：32℃ 湿度：77%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： サービス業(他に分類されない番号(8443)もの) 娯楽業 スポーツ施設 提供業 ゴルフ場				区 分： ①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 3,283L 1.64倍			
12 施 設 装 置							
名 称： 自家発電施設 番 号 (1503)							
能 力： 160KW							
13 機 器 等				温 度 圧 力：			
名 称： 発電機 番 号 (704)							
規 模： 112㎡							
14 発 生 箇 所				設置の完成：平成16年12月2日 直近の完成：平成17年2月28日			
名 称： 管継手(ダクトを含む) 番 号 (201)				17 物 質 の 区 分			
材 質： 鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油			
15 発 生 時				18 取 扱 者 の 概 要			
運 転 状 況： 停止中 番 号 (5)							
作 業 状 況： 点検中 番 号 (5)							
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 一般取扱所(発電機)の接続配管(フランジ)から重油が流出							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()							
	関 連 原 因 維持管理不十分											
	発生原因の状況： 配管部分の経年劣化によるものと推定											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）							
	関連原因の詳細											
	設備		監理・保守		点検・整備		確認不足					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害						28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいした重油は空地内に留まる				
区分												
当 事 者	0	0	0	0								
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管部分の経年劣化によるもの				
第 三 者	0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	1 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油流出		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円		
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (4)						自衛防災・消防組織等 番号 ()						
テーピング												
31 防災活動上の問題点 事後聞知。危険物に対する認識の甘さ。												
32 施設名					33 定期点検等				消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容： 法16条の3第2項 通報義務違反				
32 置	その他	年 月 日		年 月 日								
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭								
35 今後の対策 や所見 定期点検を含む保守・管理の徹底												

1 事故名		火力発電所重油噴燃ポンプのメカニカルシール劣化摩耗によるポンプシール部からの重油流出事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		11月 10日 6時 30分	推定・確定	4 発 見		11月 10日 9時 40分	
5 覚 知		11月 10日 10時 45分	6 鎮 圧 応急処置完了		11月 10日 10時 40分		
7 鎮火・処理完了		11月 10日 10時 40分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：曇		風向：東南東		風速：4.1m/s 気温：21.8℃ 湿度：97%	
10 発 生 事 業 所			11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所			区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
			16 発生施設規制区分等				
			施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 911,000L 455.5倍				
12 施 設 装 置							
名 称： その他【電力事業】 番 号 (4999)							
能 力： 最大数量911KL							
13 機 器 等			温度圧力： 3.19Mpa				
名 称： ポンプ 番 号 (501)							
規 模： 3.19MPa							
14 発 生 箇 所			倍数の合計： 455.5倍				
名 称： 管継手(ダクトを含む) 番 号 (201)			設置の完成： 昭和 56年 5月 29日 直近の完成： 平成 30年 3月 2日				
材 質： 鋼鉄			17 物 質 の 区 分				
15 発 生 時			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： A重油(25L)				
運 転 状 況： 停止中 番 号 (5)							
作 業 状 況： 監視中 番 号 (10)							
			18 取 扱 者 の 概 要				
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	
					①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： A重油噴燃ポンプ起動時(6時29分)には漏れはなかった。9時40分、ポンプ直近のフランジ付近からの漏れを発見する。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()									
原 因	関 連 原 因											
	発生原因の状況： A重油噴燃ポンプのカニカルシールの交換の際、既設シールの劣化摩耗がありポンプシール部からのA重油漏れが確認された。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層								
	疲労・劣化	素材等の劣化	長期使用による素材等の摩耗（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の摩耗）									
	関連原因の詳細											
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害			28 物的被害									
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 噴燃ポンプ付近の漏れ					
当 事 者	0	0	0	0								
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況：					
第 三 者	0	0	0	0			既設シール(重油噴燃ポンプのカニカルシール)の劣化摩耗					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	0台	0隻	0機	0人	自 衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)A重油25L流出		
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人			
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人			
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人			
							損害額	1万円未満、1万円以上 () 万円				
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点												
32 政 措 置	施 設 名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年	月	日	令和4年11月30日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・無				
	そ の 他	年	月	日	年	月	日	内容：				
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭												
35 今 後 の 対 策 や 所 見	定期的な設備点検、見回りの強化。											

9 無 許 可 施 設

1 事故名	マンション塗装工事中の無許可貯蔵取扱における流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 6日 10時 30分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	4月 6日 10時 30分	
5 覚 知	4月 6日 11時 02分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 6日 10時 30分	
7 鎮火・処理完了	4月 6日 10時 30分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南南東 風速：2.1m/s 気温：21.8℃ 湿度：73%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： サービス業(他に分類されない番号(8059)もの) 専門サービス業(他に分類されないもの) 土木建築 サービス業 その他の土木建築サービス業		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (<u>陸上</u> 、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： 1 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 無許可施設 施設別： 無許可施設 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) その他の第1石油: 219L 1.1倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) その他の第2石油: 67L 0.07倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) その他の第3石油: 3,060L 1.53倍 倍数の合計： 2.7倍 設置の完成： 年 月 日 直近の完成： 年 月 日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【分類なし】 番号 (9999)			①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (<u>固相</u> 、液相、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： エハ ^o -コート(10L)		
能 力： ロータリーポンプ			18 取扱者の概要		
13 機 器 等	温度圧力： 3Mpa				
名 称： ポンプ 番号 (501)	規 模： 内径38mmホース				
14 発 生 箇 所	名 称： その他の附属配管等 番号 (299)				
材 質： 合成樹脂					
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番号 (1)				
	作 業 状 況： 運転操作中 番号 (1)				
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	1. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 地下駐車場で、車両内に設置した塗料を上階に送る圧送機の接続金具付近のホースが外れ塗料が噴き出し、近くにいた運送会社配達員の顔面にかかり受傷、周囲に塗料が流出したものの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 維持管理不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 塗料圧送時にホース内の内圧が急激に上昇したため、接続金具が離脱し、塗料が流出した。使用前の点検において、ホースのつまりがないことを確認することを失念していた。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		違反(故意)		問題意識の不足				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 駐車場内に塗料が飛散			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし			
第 三 者		0	0	0	1	塗料の暴露	運送業				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	18 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	1 人	物質の被害状況： 塗料10Lが駐車場内に流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (1 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (9) 受傷者の救護						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 装置の停止、塗料の除去					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名	無許可貯蔵				33 定期点検等	消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	令和 4 年 4 月 7 日				気密試験等	年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日				保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項	法第16条の6第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 無許可貯蔵				
	その他	立入検査実施 令和 4 年 4 月 7 日									
35 今後の対策や所見 本件は、無許可貯蔵・無許可施設での流出事故であり、火災には至らなかったが、万が一火災が発生した場合は、被害が広範に及んでいた可能性も十分に考えられる。指定数量以上の危険物を貯蔵する場合は、正規の手続きをするか微量危険物の範囲内で作業を行うよう、事業者側に指導していく必要がある。											

1 事故名	屋外タンク(無許可施設)からボイラーに繋がる配管が経年劣化により腐食し、A重油が漏れた事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 2日 8時 00分	推定・確定	4 発 見	11月 2日 8時 00分	
5 覚 知	11月 2日 15時 45分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 2日 17時 30分	
7 鎮火・処理完了	11月 7日 9時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他(市役所からの内線)				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西北西 風速：2.1m/s 気温：22.2℃ 湿度：47%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 農業 農業 園芸サービス業 番 号 (141) 園芸サービス業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： 1 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 無許可施設 施設別： 無許可施設 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 1,800L 0.9倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 1,800L 0.9倍 倍数の合計： 1.8倍 設置の完成： 令和 4年 11月 22日 直近の完成： 年 月 日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： その他のタンク 番 号 (1299)	能 力： 1,800L		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： A重油(710L)		
13 機 器 等	温 度 圧 力：				
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)	規 模： 1,800Lタンク、2本				
14 発 生 箇 所	名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)		18 取扱者の概要		
材 質： 鋼鉄	15 発 生 時		1. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
運 転 状 況： 受入中 番 号 (9)	作 業 状 況： 番 号 ()		20 危険物保安監督者		
			21 危険物取扱者の取扱・立会い		
19 危険物保安統括管理者			1. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 屋外タンク(無許可施設)からボイラーに繋がる埋設配管が経年劣化により腐食しA重油約710Lが漏れたもの。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因 維持管理不十分										
	発生原因の状況： 危険物取扱者免状を未取得でA重油のタンクからボイラーに燃料を送ったところ地中の配管に穴が開き油が漏れたもの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		防食		防食無し(耐腐食性の材料を使用せず)						
	関連原因の詳細										
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足				
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出範囲は敷地境界線より約90m			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 埋設配管からの流出により土壌が汚染したもの			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類710L	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	11 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (3、5)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名	無許可施設				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	令和4年11月2日				年 月 日		定期・自主点検	年 月 日		
	改善命令等	令和4年11月8日				年 月 日		気密試験等	年 月 日		
	停止解除	令和4年11月22日				年 月 日		保安検査	年 月 日		
	関係条項	法第10条第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無			
	その他	緊急措置命令 令和4年11月2日				年 月 日		内容： 消防法第10条第1項			
35	今後の対策 や所見 据え付けていたタンク及び危険物を撤去し、新たに少量危険物として指定数量未満の屋外タンクを2つ設置する。										

10 危 險 物 運 搬 中

1 事故名	450Lタンクを積載した1tトラックが大型トレーラーと衝突し軽油が約2L流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 28日 13時 46分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	9月 28日 13時 46分	
5 覚 知	9月 28日 13時 47分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 28日 16時 00分	
7 鎮火・処理完了	9月 28日 16時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン ④. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南南東 風速：1m/s 気温：22℃ 湿度：17%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 農業 農業 耕種農業 米作 番号 (111) 農業		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： 1 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 運搬 施設別： 運搬 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 450L 0.45倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： その他のタンク 番号 (1299)	能 力： 450Lタンクを積載した1tトラックが大型トレーラーと衝突し軽油が約2L流出		設置の完成： 年 月 日	直近の完成： 年 月 日	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 常温、常圧		17 物質の区分		
名 称： 運搬車 番号 (602)	規 模： 最大積載量		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油 (2L)		
14 発 生 箇 所	名 称： 容器本体 番号 (108)		18 取扱者の概要		
材 質： 鋼鉄	15 発 生 時		経験年数0年		
運 転 状 況： 運搬中 番号 (11)	作 業 状 況： 番号 ()		1. 選任有 2. 選任無	21 危険物取扱者の取扱・立会い	1. 有 2. 無
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 注油ノズル付き450Lタンクを荷台に積載した1tトラックが、交差点へ進入する際に大型トレーラーと衝突し、その衝撃により当該タンクが転倒して軽油約2Lを流出したものの。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () <input checked="" type="checkbox"/> 無					

原 因	25 主 原 因 交通事故		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 操作確認不十分									
	発生原因の状況： 1tトラックの運転手が交差点に進入する際に左右の確認を怠ったため、著更新中の大型トレーラーと衝突したものの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	交通事故		その他		交差点内における接触、衝突					
	関連原因の詳細									
	人		本人の意識		思慮		不注意			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 交通事故の衝撃により、トラックの荷台上の450Lタンクが転倒して道路上に約2L流出したものの。		
区分										
当 事 者		0	0	0	1	交通事故の衝撃によるもの	アルバイト			
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 運搬車両のキャビン及び荷台後方の横あおりを破損。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性) 軽油 約2L流出。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	4 台	0 隻	0 機	10 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4, 5)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
横転したタンクを元に戻し、流出した軽油を油吸着マットで回収した。										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検			年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等			年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査			年 月 日	年 月 日	
	関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無			有・無		
その他	年 月 日	年 月 日					内容： 消防法第16条違反(危険物の運搬基準違反) 危政令第28条第2号 運搬容器の構造及び最大容積の不適 危政令第29条第2号 危険物の品名、数量等の未表示			
35 今後の対策や所見	当該タンクを管理する事業所に対して、違反再発防止の「警告書」及び「違反再発防止対策書」を徴収する。									

1 事故名	運搬車両の荷台に積載していたホームタンクが落下したことにより、路上に灯油が流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	11月 2日 19時 36分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	11月 2日 19時 36分
5 覚 知	11月 2日 19時 37分	6 鎮 圧 応急処置完了	11月 2日 21時 05分
7 鎮火・処理完了	11月 2日 21時 23分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南西 風速：1.7m/s 気温：9℃ 湿度：58%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 業 態：	区 分：		
1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他)	1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他)		
建設業 総合工事業 一般土 番号 (611) 木建築工事業 一般土木建築 工事業	②. 事業所外 (<u>陸上</u> 、海上、その他)		
	特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： 1 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 ④ その他		
	貯蔵・取扱・運搬の別： 運搬 施設別： 運搬		
	類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 490L 0.49倍		
12 施 設 装 置	設置の完成： 年 月 日		
名 称： その他のタンク 番号 (1299)	直近の完成： 年 月 日		
能 力： 容量490L	17 物 質 の 区 分		
13 機 器 等	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
温 度 圧 力： 常温、常圧	5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
名 称： 運搬車 番号 (602)	(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧)		
規 模： いすゞ 4tユニック付きトラック	(低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温)		
14 発 生 箇 所	分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (200L)		
名 称： 液面計 番号 (309)	18 取扱者の概要		
材 質： 合成樹脂	1. 選任有 2. 選任無		
15 発 生 時	20 危険物 保安監督者		
運 転 状 況： 運搬中 番号 (11)	21 危険物取扱者 の取扱・立会い		
作 業 状 況： 運転操作中 番号 (1)	1. 有 2. 無		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
22 設備・機器等の概要：	オンラインファイル無		
23 事 故 の 概 要：	約390Lほど灯油が残存したままのホームタンクを4tトラックの荷台に積載して運搬していたところ、固定方法が不十分であったことから、右折の際にホームタンクを固定していたラチェットベルトが外れ、路上に転落し、折損した油量計及び通気管から灯油が約200L流出したもの。		
24 緊急処置の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他		

原因	25 主 原 因 維持管理不十分		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 危険物の運搬に不適切な容器を使用し、転倒防止措置が不十分なまま積載及び運搬したため。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	制度		規則・手順		内容・周知		規則・手順がない/文書化されない			
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 落下したホームタンクから灯油が幅2.4m、長さ9.5mに渡り漏えいした。河川及び雨水樹等への流出はなし。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 490Lホームタンクの油量計及び通気管を破損		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	12 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油約200L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	4 台	0 隻	0 機	6 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4, 99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動										
31 防災活動上の問題点										
32 施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	年 月 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無		
その他	年 月 日		年 月 日				内容： ・消防法第16条 危険物の運搬基準違反			
1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策 や所見	<p>今回の事故は、「危険物を車両等によって運搬するには、指定数量未満の危険物を運ぶ場合にも消防法が適用されること」や「ホームタンクは貯蔵容器であり運搬容器ではないこと」など、危険物の運搬基準に対しての認識が欠落していたため発生したものと考えられる。</p> <p>ホームタンクから灯油を抜き取ること、抜き取った灯油は運搬基準を遵守し運搬すること、灯油とホームタンクは別々に固定することなど、適切な対応を実施していれば、仮にホームタンクが転倒しても危険物事故にはならなかった状況である。</p> <p>これらのことから、危険物施設に限らず、危険物を運搬する可能性のある事業所において消防法令順守の徹底を周知することが今後の事故防止につながると考えられる。</p>									

1 事故名	道路においてトラックの荷台に置かれたポリタンクが転倒し軽油が漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 1日 11時 00分	推定・ 確定	4 発 見	6月 1日 11時 02分	
5 覚 知	6月 1日 11時 02分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 1日 12時 30分	
7 鎮火・処理完了	6月 1日 12時 30分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北 風速：3.8m/s 気温：25.4℃ 湿度：22%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 建設業 総合工事業 舗装工 番 号 (631) 事業 舗装工事業		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： その他のタンク 番 号 (1299) 能 力：		16 発生施設規制区分等	施設区分： 1 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 運搬 施設別： 運搬 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 40L 0.04倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： ドラム等容器 番 号 (201) 規 模： 20L		倍数の合計： 0.04倍		
14 発 生 箇 所	名 称： その他 番 号 (999) 材 質： 合成樹脂		設置の完成： 年 月 日 直近の完成： 年 月 日		
15 発 生 時	運 転 状 況： 運搬中 番 号 (11) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(10L)	
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	1. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 運転手は、管轄外でポリタンク2つに20Lずつ軽油を購入、荷台に固定し会社まで戻っているところ、密閉していないポリタンクが倒れていることに気が付かず走行したため、道路上約600mに渡り軽油約10Lを漏えいさせたもの。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

25	主 原 因 維持管理不十分	着火原因	番号 ()								
原 因	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 運転者が荷台に密閉していないポリタンクを積載し固定したが、固定するロープが緩みポリタンクが転倒したもの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層							
	人	本人の意識	思慮	思い込み							
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害			28 物的被害								
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 密閉していないポリタンクから道路上に軽油が約600m漏えいしたもの。 施設等の被害状況： 施設等なし。				
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油10L漏えい 損害額 1万円未満 、1万円以上 () 万円)				
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	15 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人					
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (4) 油吸着マット等を用いて、危険物の漏えい処理を実施した。				自衛防災・消防組織等 番号 ()							
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名						33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止		年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日		年 月 日
	改善命令等		年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日
	停止解除		年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日
	関係条項						34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無	内容：		
	その他		年 月 日		年 月 日						
1. 文書 2. 口頭											
1. 文書 2. 口頭											
35 今後の対策 や所見	ポリタンクは、転倒した際にも漏えいしないよう密閉をした状態で運搬すること。										

1 事故名		車両の荷台に載せたペール缶が走行中に落下し、タービン油流出							
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()							
3 発 生		6月 20日 13時 25分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定			4 発 見		6月 20日 13時 28分		
5 覚 知		6月 20日 13時 47分			6 鎮 圧 応急処置完了		6月 20日 14時 06分		
7 鎮火・処理完了		6月 20日 14時 06分							
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()							
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：南南東		風速：4.4m/s		気温：28.2℃ 湿度：70%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所					
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 無機化学 番号 (1729) 工業製品製造業 その他の無 機化学工業製品製造業				区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、 <input checked="" type="checkbox"/> 他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区					
12 施 設 装 置				16 発生施設規制区分等					
名 称：その他【分類なし】 番号 (9999) 能 力：20L				施設区分：1 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別：運搬 施設別：運搬 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) タービン油 20L 0.01倍					
13 機 器 等				17 物 質 の 区 分					
名 称：ドラム等容器 番号 (201) 規 模：20L				①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：タービン油(20L)					
14 発 生 箇 所				18 取扱者の概要					
名 称：その他 番号 (999) 材 質：鋼鉄				1. 選任有 2. 選任無 3. 不要					
15 発 生 時				21 危険物取扱者の の取扱・立会い					
運 転 状 況：運搬中 番号 (11) 作 業 状 況：運転操作中 番号 (1)				1. 有 2. 無					
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い	
22 設備・機器等の概要：		オンラインファイル無							
23 事故の概要：		ペール缶に入ったタービン油を車両の荷台に載せて運搬していたところ、車両が道路の角を曲がる際にペール缶が構内道路に投げられ、当該ペール缶からタービン油が約20Lが漏えいし、うち約1Lが構内の排水溝に流入したもの。海上への流出はなし。							
24 緊急処置の状況		<input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他							

原 因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 荷台に載せたペール缶を固定していなかった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	環境		社会的環境		雰囲気		安全に対する意識が低い			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 車道にタービン油が流出し、排水溝に流入		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	21 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)タービン油約20L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 (5)						
・情報収集 ・警戒筒先配備										
31 防災活動上の問題点										
32 施設名										
政 策 措 置	使用停止	年 月 日		年 月 日		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					保安検査	年 月 日	年 月 日		
その他	年 月 日		年 月 日		34 当該施設に係る 法令違反の有無	<input type="checkbox"/> 有・無 内容： ・法第16条 危険物の運搬の技術上の基準違反 ・危険物政令第29条第3号 危険物の積載方法の技術上の基準違反				
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策や所見										
車両等による危険物運搬時の事業所ルールを見直すとともに、事業所内で再教育する。										

1 事故名	危険物を運搬中、交通事故による危険物流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 18日 10時 09分	推定・ 確定	4 発 見	1月 18日 10時 09分	
5 覚 知	1月 18日 10時 09分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 18日 11時 28分	
7 鎮火・処理完了	1月 18日 15時 30分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北西 風速：5.4m/s 気温：2℃ 湿度：88%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製 業		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力：		16 発生施設規制区分等	施設区分： 1 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 運搬 施設別： 運搬 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第4石油類 エンジンオイル 2,440L 0.41倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力：		設置の完成： 年 月 日 直近の完成： 年 月 日 倍数の合計： 0.41倍		
名 称： ドラム等容器 番 号 (201)	規 模： ドラム缶5本、ペール缶72本 計2,440L				
14 発 生 箇 所	名 称： 容器本体 番 号 (108)		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類： 第4類第4石油類 名称： エンジンオイル(640L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 運搬中 番 号 (11)		18 取扱者の概要		
作 業 状 況：	番 号 ()				
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	1. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 危険物運搬中のトラックと軽乗用車との交差点内での交通事故。危険物運搬車両は横転し、そのはずみで、荷台に積載していた運搬容器が散乱し、一部の容器から危険物が流出したもの。河川等に危険物の流出はなし。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

25	主 原 因 交通事故	着火原因	番号 ()				
原 因	関 連 原 因						
	発生原因の状況： ドラム缶5本とペール缶70本が路上に散乱し、うちペール缶32本が破損し路上に流出したもの。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	交通事故	運転操作	前方(後方)不注意				
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害			28 物的被害				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 道路上に流出した危険物が幅4m、長さ20mの範囲に わたって拡散。河川等への流出は無い
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 危険物640L流出
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
30 実施した防災活動の状況							損害額 1万円未満、 1万円以上 (80 万円)
公設消防機関：番号 (4) 乾燥砂を用い、付近への漏えい防止を図った。				自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点							
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：	
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日				
35 今後の対策や所見 荷台に覆い等を被せることにより、積み荷の飛散を最小限に抑えることが可能と考えられる。							

1 事故名	危険物をトラックで運搬中、車両の荷台からペール缶1個が落下・破損し内容物が路上に漏えいしたもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 25日 11時 40分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	1月 25日 11時 40分	
5 覚 知	1月 25日 11時 46分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 25日 11時 51分	
7 鎮火・処理完了	1月 25日 12時 17分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北西 風速：2m/s 気温：11℃ 湿度：				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1821) 造業 潤滑油・グリース製造業 (石油精製業によらないもの) 潤滑油製造業		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (<u>陸上</u> 、海上、その他)	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	特別防災地区名：	
名 称：	番 号 ()		施設区分： 1 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 ④ その他		
能 力：			貯蔵・取扱・運搬の別： 運搬 施設別： 運搬		
13 機 器 等	温 度 圧 力：		類・品名・名称・数量・倍数：		
名 称： 運搬車	番 号 (602)		第4類第2石油類(非水溶性液体) 切削油 400L 0.4倍		
規 模： 4tトラック			第4類第3石油類(非水溶性液体) 切削油 400L 0.2倍		
14 発 生 箇 所			第4類第4石油類 潤滑油 700L 0.12倍		
名 称： 容器本体	番 号 (108)		設置の完成： 年 月 日		
材 質： アルミニウム			直近の完成： 年 月 日		
15 発 生 時			17 物 質 の 区 分		
運 転 状 況： 運搬中	番 号 (11)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
作 業 状 況： 運転操作中	番 号 (1)		5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
			(固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧)		
			(低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温)		
			分 類： 第4類第4石油類 名称： 潤滑油(20L)		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	1. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： トラックの荷台に危険物の容器を固定せずに積載し、かつ、左側アオリのハンドルロックを閉め忘れたまま走行したため、右カーブの際、荷台から第4類第4石油類の潤滑油が入ったペール缶1個を路上に落下させ、落下の衝撃によりペール缶が破損し、潤滑油が20L漏えいしたもの。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () <u>無</u>					

原 因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 操作確認不十分									
	発生原因の状況： 危険物運搬車両に危険物を積載させる際、転倒防止等の措置をしなかったこと及び側アオリのハンドルロックを閉め忘れたことによるもの。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		不注意			
	人		本人の意識		思慮		思い込み			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 落下したペール缶から潤滑油が道路上に幅1m、長さ10mにわたり約20L漏えいしたもの。		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 施設被害なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	9 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類 潤滑油 20L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5) 漏えいした潤滑油に対し、ACライトを使用し処理を実施。					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点 運転手は荷台からペール缶が落下したことに気が付かず、通行人による119番通報であった。										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 危険物の規制に関する政令第29条1項3号に規定する落下防止措置等の未実施。				
35 今後の対策 や所見	今後、危険物を積載する際は、危険物容器等を固定等の落下・転倒防止措置を実施する。									

1 事故名		危険物運搬中路上へ流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		8月 14日 7時 30分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見		8月 14日 7時 30分					
5 覚 知		8月 14日 9時 09分	6 鎮 圧 応急処置完了		8月 14日 9時 45分						
7 鎮火・処理完了		8月 14日 9時 45分									
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：快晴		風向：北西		風速：1.1m/s	気温：27.6℃	湿度：81.9%			
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所							
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 建設業 総合工事業 舗装工 番 号 (631) 事業 舗装工事業				区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：							
				16 発生施設規制区分等							
				施設区分： 1 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 運搬 施設別： 運搬 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 5L 0.01倍							
12 施 設 装 置											
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)											
能 力： 手製注油											
13 機 器 等				温度圧力：							
名 称： 運搬車 番 号 (602)											
規 模： 80缶											
14 発 生 箇 所				設置の完成： 年 月 日 直近の完成： 年 月 日							
名 称： 給油(注油)ノズル 番 号 (909)				17 物 質 の 区 分							
材 質： 鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(5L)							
15 発 生 時				18 取扱者の概要							
運 転 状 況： 運搬中 番 号 (11)											
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)											
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		1. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： 工事用車両を運転中、車両に積載されていた軽油タンク(80L缶)に接続されていた注油ノズル先端から、約5Lの軽油が道路上約200mに渡り流出したものの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 () <input type="checkbox"/> 無											

原 因	25 主 原 因 維持管理不十分		着火原因		番号 ()			
	関連原因							
	発生原因の状況： タンクに接続されていた注油ノズルが道路上へ落下し、先端より漏油したものを。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	人		本人の意識		思慮		不注意	
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害				28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 道路上約200mに渡り流出したものを。
区分								
当 事 者		0	0	0	0			
防災活動従事者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	0台 0隻 0機 0人	自 衛	0台 0隻 0機 0人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油5L流出				
消 防 団	0台 0隻 0機 0人	共 同	0台 0隻 0機 0人					
海上保安部	0台 0隻 0機 0人	応 援	0台 0隻 0機 0人					
その他の機関	0台 0隻 0機 0人	その他	0台 0隻 0機 0人	損害額 [1万円未満]、1万円以上 () 万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・[無] 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日						
35	今後の対策 や所見	・注油ホースの脱落防止の徹底 ・注油ホース内の残油の油切りの徹底						

1 事故名	トラックにて塗料を一斗缶で運搬中、荷台に積載していた一斗缶が落下し内容物が流出したもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 10日 11時 15分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	5月 10日 11時 15分	
5 覚 知	5月 10日 11時 18分	6 鎮 圧 応急処置完了	5月 10日 11時 30分		
7 鎮火・処理完了	5月 10日 11時 30分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北東 風速：2m/s 気温：21℃ 湿度：51%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 貨 番 号 (4431) 物軽自動車運送業 貨物軽自動車運送業		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： 1 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 運搬 施設別： 運搬 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 合成樹脂エマル塗料 180L 0.18倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【分類なし】	番 号 (9999)	能 力： 2tトラック	設置の完成： 年 月 日	直近の完成： 年 月 日	倍数の合計： 0.18倍
13 機 器 等	温 度 圧 力： 常温、常圧		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 合成樹脂エマル塗料(3L)		
名 称： ドラム等容器	番 号 (201)	規 模： 高さ349mm 容量18L			
14 発 生 箇 所	名 称： 容器本体 番 号 (108)		18 取扱者の概要		
材 質： ステンレス	15 発 生 時				
運 転 状 況： 運搬中	番 号 (11)	作 業 状 況： 運転操作中	1. 選任有 2. 選任無	21 危険物取扱者の取扱・立会い	1. 有 2. 無
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者	3. 不要		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 上記発生場所を走行中のトラックが交差点を右折しようとしたところ、荷台に積載した危険物一斗缶が落下、容器の一部が破損し3L程度の内容物が漏えいした。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () <input checked="" type="checkbox"/> 無					

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 荷台に積載した一斗缶固定方法の不備										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		過信				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：			
区分								無し			
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況：			
第 三 者		0	0	0	0			無し			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	13 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況：	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	第4類第2石油類(非水溶性) 塗料 3L漏えい	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (5)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
パーライトにより流出した危険物の吸着及び除去作業実施。											
31 防災活動上の問題点											
32 施設名											
政 策 措 置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検		年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等		年 月 日	年 月 日
	関係条項							保安検査		年 月 日	年 月 日
その他	年 月 日			年 月 日			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>		
		1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭			内容：			
35 今後の対策や所見											
積載物をロープで堅固に固定し、運搬基準を遵守する。											

1 事故名	トラックにて運搬していたエンジンオイルのペール缶が横転し、内容物が流出したものの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 28日 15時 45分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	9月 28日 15時 45分	
5 覚 知	9月 28日 15時 50分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 28日 16時 26分	
7 鎮火・処理完了	9月 28日 16時 26分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン ④. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北北東 風速：2.4m/s 気温：23℃ 湿度：77%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 一 番 号 (4411) 一般貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く)		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： 1 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 運搬 施設別： 運搬 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第4石油類 エンジンオイル 12,184L 2.03倍 倍数の合計： 2.03倍 設置の完成： 年 月 日 直近の完成： 年 月 日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能 力： 積載量:エンジンオイル(第4類第4石油類)12,184L			5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類： 第4類第4石油類 名称： エンジンオイル(40L)		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 常温、常圧		18 取 扱 者 の 概 要		
名 称： 運搬車 番 号 (602)			1. 選任有 2. 選任無	21 危険物取扱者の取扱・立会い	1. 有
規 模： 20tトラック			3. 不要		2. 無
14 発 生 箇 所	名 称： 容器本体 番 号 (108)				
材 質： ステンレス					
15 発 生 時	運 転 状 況： 運搬中 番 号 (11)				
	作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)				
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	1. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： トラックが交差点を右折した際、トラックコンテナ内でペール缶を載せていたパレットが横倒しになり、結果、ペール缶2缶のフタが開いてエンジンオイル40Lがコンテナ内及び路上に流出したものの。 運転手は路肩に停車後110番通報し、警察より消防に入電があったもの。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () <input checked="" type="checkbox"/> 無					

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 複数のペール缶をパレットに2段積みでラップ巻き付け固定しコンテナに積載していたが、交差点を右折した際にペール缶が動き、パレットごと横倒しになったもの。 トラックの運転操作若しくはペール缶の固定に不備があったと思われる。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		過信			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： トラックコンテナ内及び路上(20m程度)にエンジンオイル40L流出		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 特になし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	13 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： エンジンオイル40L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 [1万円未満]、1万円以上 () 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5) 流出したエンジンオイルをパーライトにより吸着処理				自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・[無]			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
35 今後の対策 や所見		出荷元危険物事業所側 積荷の固定方法の見直し、積載方法の見直しの検討 運送会社側 運転操作の検討								

1 事故名	容器入りの危険物をトラックで運搬中、荷台から容器が落下し、道路上に危険物が流出					
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生	6月 7日 15時 39分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	6月 7日 15時 39分		
5 覚 知	6月 7日 15時 47分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 7日 17時 13分		
7 鎮火・処理完了	6月 7日 17時 13分					
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北西 風速：2.7m/s 気温：23℃ 湿度：50%					
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5219) 金属材料等卸売業 建築材料 卸売業 その他の建築材料卸 売業		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： 1 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 運搬 施設別： 運搬 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) ニュートラル潤滑油用基油 1,800L 0.9倍		
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分			
名 称：	番 号 ()		設置の完成：	年	月	日
能 力：			直近の完成：	年	月	日
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 0.9倍			
名 称： 運搬車	番 号 (602)		18 取扱者の概要			
規 模： 2tトラック			経験年数1年			
14 発 生 箇 所	名 称： 容器本体		番 号 (108)		21 危険物取扱者の の取扱・立会い	
材 質： 鋼鉄					1. 有 2. 無	
15 発 生 時	運 転 状 況： 運搬中		番 号 (11)			
	作 業 状 況： その他		番 号 (99)			
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無						
23 事故の概要： コンクリート型枠等の剥離剤(第4類第3石油類・非水溶性)が入った一斗缶100缶を2tトラックで運搬中に、事故現場のカーブで荷台から14缶落下し、その内12缶から危険物が漏れいした。それに起因して後続車両が2台が交通事故を起こした。なおこの災害による負傷者はなし。						
24 緊急処置の状況 有 番号 () <input checked="" type="checkbox"/> 無						

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()	
	関連原因					
	発生原因の状況： トラックの荷台に一斗缶を3段積みで積載しており、ロープ等による固定は行わず、落下防止措置をしていなかったため、走行中に荷崩れが起こり、道路上に一斗缶が落下して、衝撃で蓋が外れて危険物が流出した。					
	主要原因の詳細					
		第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層	
	人		本人の意識	思慮	過信	
	環境		社会的環境	雰囲気	安全に対する意識が低い	
	関連原因の詳細					
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
27 人的被害				28 物的被害		
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因
区分						職業又は職名
当 事 者		0	0	0	0	
防災活動従事者		0	0	0	0	
第 三 者		0	0	0	0	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	12 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	5 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
物質の被害状況： 第4類 第3石油類(非水溶性)の一斗缶計14缶が落下し、12缶から危険物が一部流出した。 ※流出量不明						
損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (10 万円)						
30 実施した防災活動の状況						
公設消防機関：番号 (4)				自衛防災・消防組織等 番号 ()		
落下した一斗缶の回収、二次災害の防止及び情報収集。						
31 防災活動上の問題点						
事故車両の運転手が、通報時に一斗缶の内容物が危険物であることを認識しておらず、報告しなかったため、消防隊が現場到着するまで危険物の流出事故との認識がなかった。						
行政措置	32 施設名	運搬車両		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無	
その他	警告 令和4年6月9日 ①. 文書 2. 口頭	警告 令和4年6月9日 ①. 文書 2. 口頭	内容： 消防法第16条 危険物の運搬基準違反			
35 今後の対策や所見						
<ul style="list-style-type: none"> ・運搬の基準等の危険物法令の従業員への周知徹底 ・積載している物品が危険物か非危険物であることを認識するため、SDSで逐一確認を実施し、積載する危険物の性質を把握して、それに合った積載・運搬を徹底 ・事業所内で危険物の資格保持者がいないため、計画的に危険物取扱者を増やす。 						

1 事故名	フォークリフトの爪が200Lドラム缶に接触しエチルベンゼンが漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 14日 14時 15分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	2月 14日 14時 15分	
5 覚 知	2月 14日 15時 08分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 14日 15時 50分	
7 鎮火・処理完了	2月 14日 15時 50分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南西 風速：3.4m/s 気温：9℃ 湿度：68%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学 番 号 (1734) 工業製品製造業 環式中間物・ 合成染料・有機顔料製造業				11 発 生 場 所
					区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、 <input checked="" type="checkbox"/> 他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 宇部・小野田
			16 発生施設規制区分等	施設区分： 1 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 運搬 施設別： 運搬 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) エチルベンゼン 30L 0.03倍	
12 施 設 装 置	名 称：その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力：				
13 機 器 等	温 度 圧 力：				
	名 称：ドラム等容器 番 号 (201) 規 模：容量:200L 材質:鉄				
14 発 生 箇 所	設置の完成： 年 月 日 直近の完成： 年 月 日				
	名 称：その他 番 号 (999) 材 質：鋼鉄				
15 発 生 時	17 物 質 の 区 分				
	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： エチルベンゼン(30L)				
	18 取扱者の概要				
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	1. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： 廃液のエチルベンゼンが入ったドラム缶を廃棄するため、トラックにフォークリフトで積載しようとしたところ、誤ってフォークリフト爪(ドラムキャッチャー)がドラム缶に接触し、貫通穴(1㎤)が発生、その部分から内容物のエチルベンゼンが30L漏えいしたものの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 破 損		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因 操作確認不十分										
	発生原因の状況： 廃液のエチルベンゼンが入ったドラム缶を廃棄するため、トラックにフォークリフトで積載しようとしたところ、誤ってフォークリフト爪(ドラムキャッチャー)がドラム缶に接触し、貫通穴(1cm)が発生、その部分から内容物のエチルベンゼンが30L漏えいしたものの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
破損		工事時		重機等の衝突							
関連原因の詳細											
人		本人の意識		思慮		過信					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名				
区分											
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： フォークリフトに接触したドラム缶1個が破損した。				
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 屋外の地盤面15㎡の範囲でエチルベンゼンが漏えいした。				
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	9 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)エチルベンゼン 30L漏えい	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
調査活動											
31 防災活動上の問題点 事故発生から通報まで53分経過している。											
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="checkbox"/> 無			
その他	年	月	日	年	月	日	内容：				
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭										
35 今後の対策や所見 本件は、危険物の規制に関する政令第24条第1項第12号の不履行であり、危険物施設外であっても、運搬に関する規制がかかることを、事業所内で再教育するよう指導した。また、通報に際し53分経過しているため、事故発生後は直ちに通報するよう併せて指導するとともに、他事業所に対しても同様の指導を行うことで、類似案件の発生防止に繋げていく。											

